『第三の聖書』

『第三の聖書』

12巻からなる啓示書『真の生命の書』からの
神の啓示の要約

サイト情報

著作権 ドイツ著作権法（UrhG）第2条に基づき：

発行年：2026

ISBN：

表紙デザイン：
Bookmundo 表紙ジェネレーター

出版ポータル：
Bookmundo
Delftsestraat 33
NL – 3013AE ロッテルダム
オランダ
infor@bookmundo.com

ドイツでの印刷：
CPI Books GmbH

ドイツ国立図書館は、本出版物をドイツ国立書誌に登録しています （2部の寄贈本がドイツ国立図書館（DNB）に送付されます）

本書およびそのすべての部分は、ドイツ著作権法第2条に基づき著作権により保護されています。著者の同意なしに、いかなる利用も禁じられています。

全12巻からなる『真の生命の書』（Libro de la Vida Verdadera）は、
全人類への遺産であり

であり、メキシコシティの

メキシコシティの「教育省著作権総局」に

番号26002、20111、83848として登録されています。

スペイン語版原著に関する詳細情報：Asociación de Estudios Espirituales Vida Verdadera Apartado Postal 888, México, D.F., C.P. 06000

翻訳および編集：
トラウゴット・ゲルテンボート、ヴァルター・マイヤー；

2016年10月現在

編集（新正書法およびレイアウト）：
Buchdienst zum Leben
マンフレッド・ベーゼ
キルヒヴェーク5
D-88521 エルティンゲン
電話：+49 (0) 7371 929 66 42
Eメール：manfredbaese@gmx.de

『第三の聖書』 は、イエス・キリストの委嘱により、このドイツ語版を基に、翻訳プログラムDeepL（ビジネス版） - DeepL - ダウンロードリンク：www.DeepL.com/Translator を用いて、現在約35言語に翻訳されていま

これらは、ゴットホルト・ゲルテンボートによって翻訳され、ライヒル出版社から刊行されたオリジナルのドイツ語文書である。これらは本来の純粋な形で保存されなければならず、内容に変更を加えてはならない。それは罪であり、神の裁きを招くことになる。

編集および翻訳の責任者は、アンナ・マリア・ホスタ（霊名）であり、これらの著作物の所有者である主イエス・キリスト、すなわち私たちの神の委任を受けています。

本名：アンナ・エリザベス・ホス
居住地：フライブルク・イム・ブライスガウ
Eメール： hoanna64@yahoo.com
ウェブサイト： https://www.anna-maria-hosta.de
主がアンナ・マリア・ホスタに語られた言葉：
ホスタの意味について、キリストは次のように述べられています：
ホス – 姓 - t - 聖体 - A - アンナ – 2017年にキリストから授かった
2017年3月25日
イエスはアンナにこう言われます：「封印の時代」…そしてこう続けられます：
「これを活用しなさい。今日、私はあなたを選び、私の教えを受け取り、それを人々に伝えるようにしたのだ。」
「あなたは、全世界に私を広めることをまだ学ばなければならない。」
「これらの本には著作権を設けてはならない。それらはすべての人々のためのものであるからだ。」

メキシコシティの「Dirección General del Derecho de Autor de la Secretaría de Educación Pública」への登録番号26002、 20111、83848 の番号で行われた登録は、スペイン語原著の著者であるアンナ・マリア・フォン・イエス氏が1949年に亡くなったことを受け失効したため、これらの著作物は現在、アンナ・マリア・ホスタ氏によってドイツ国立図書館に登録されている。

イエス・キリストの言葉

…「私は、私があなた方に与えたこの言葉によって、私の預言が成就するよう、書物を編纂し、後にその抜粋と解釈を作成し、それをあなた方の同胞に知らせることを望む。」（6, 52 *）

** 小数点前の数字は教えの番号を指し、小数点後の数字は『真の命の書』全12巻における節番号を指す。*

…「人類がやがて『第三の聖書』として認めることになるこの書物をもって、あなたがたは私の大義を擁護しなければならない。人類は『最初の時代』の律法と、第一および第二の聖書に記されていることしか知らない。しかし、第三の聖書は今、人々が備えと理解の欠如から変えてしまったものを統合し、正すことになる。」（348, 26）

…「あなた方を呼びかけるこの声は、神聖なる師の声である。この言葉は、万物を創造された方によるものである。この著作の真髄は、将来、あらゆる秩序が築かれる礎となるだろう。万事をなす力を持つ方は、あなた方の石のような心を、愛と高揚の聖域へと変え、かつて闇しかなかった場所に光を灯すであろう。」(50, 2)

読者への注記：

人間は肉体以上の存在である。人間は、地上の肉体の中に宿る霊的な存在である。この霊的な存在は、霊と魂から成っている。霊は魂を通じて肉体を導く。

口語では、「精神」と「魂」はしばしば同義語として用いられる。これは特に、カトリック教会の定説によるものである。

翻訳の基礎となったスペイン語の文献では、両概念が共に言及され、その相互関係が明らかにされている箇所を除き、両概念とも「espiritu」と表記されている。

そのような場合、区別を明確にするために、「精神」はスペイン語で「良心」や「意識」を意味する「conciencia」を用いて表現されている。

ドイツ語訳において「espiritu」を単一の用語で統一して翻訳すると不明確さをもたらすため、翻訳者たちは最善の知識と良心に基づき、上記の説明に従って「espiritu」をそれぞれ「Geist（霊）」、あるいは「Seele（魂）」、あるいは「Geistseele（霊魂）」と翻訳するよう努めました。

読者の皆様には、疑わしい点がある場合は、啓示のテキストをその文脈に沿って理解していただくようお願いいたします。

序文

本書は、1956年から1962年にかけてメキシコで『Libro de la Vida Verdadera』というタイトルで刊行された、神の啓示を収録した12巻の叢書から、要約・抜粋した文章を収録したものです。 これらの啓示や教えの中で、神は創造主、審判者、そして父として、またキリストは神の「御言葉」として、そして聖霊との一致の中で神から遣わされた神聖な知恵の師として、自らを明らかにされました。

膨大な量の教えのテキストの中から、テーマ別に整理された抜粋版にとって、内容的にも言語的にも最も適しており、かつ各テーマを可能な限り包括的に提示する上で不可欠な箇所を見つけ出し、選定することは容易な作業ではありませんでした。 また、原典の特定の節にある特定の主張を伝えるために、その趣旨に関連する複数の節をドイツ語の要約版に含める必要が生じることもありました。他の箇所では、より長い原典の節のうち、異なる主題を含む部分のみを採録する必要が生じました。

『クンド』のスペイン語原典をドイツ語に翻訳するにあたっては、その意味内容を正確に再現することを最優先の原則とした。なぜなら、それが神の言葉の本質を表しているからである。可能な限り、スペイン語の文言も可能な限り忠実に再現したため、これらのテキストには時折、少々独特で馴染みのない単語、概念、表現が登場することがある。 そのため、より詳しい説明のために脚注が必要となる場合もありました。しかし、基本的には、読みやすく理解しやすいドイツ語の表現を重視しました。したがって、直訳が言語的に不自然であり、かつ当該箇所の意味内容が損なわれることなく、適切なドイツ語で表現できる場合には、直訳を控えることがしばしばありました。

啓示の伝達者たちは恍惚状態にあるため、啓示の定型化に意識的に関与したわけではなく、単に、神の啓示のための道具として、各自の多かれ少なかれ発達した言語能力や概念形成能力を提供したに過ぎず、また、啓示の言葉の力強さは彼らの通常の表現能力をはるかに超えていたにもかかわらず、 啓示の言語的明瞭さと表現力は、各伝達者の精神的・霊的な準備や語彙力にも依存していたのである。

「霊」と「魂」という概念に関して、意味的に正しい翻訳を行うことは特別な問題となった。なぜなら、スペイン語版では「魂」を表す「alma」

や「anima」という語が全く見当たらず、その代わりに「霊」を表す「espiritu」という語が用いられているからである。 したがって、場合によっては、「エスピリトゥ」を本来の意味である「霊」として翻訳すべきか、あるいは「魂」として翻訳すべきかという判断が非常に難しく、最善の知識と良心に基づいて決定せざるを得なかった。 こうした言葉の混同が生じた理由は、神の啓示そのものにあるのではなく、言葉を伝えた人々の言語習慣、および後にメキシコで行われた『真の命の書』の編集と初版出版における誤った判断によるものでした。

本書は、テーマ別に構成された要約集であり、関心のある読者や、知恵と真理を求めるすべての人々が、1950年末以前、 すなわち1884年から1950年にかけて、人類への新たなメッセージと教えとして啓示されたものを包括的に概観する一助となることを目的としています。とりわけ、この書は、御霊の教え、すなわち新しい神の言葉に対する徹底的な研究と理解を深めることを容易にし、促進することを使命としています。

テーマが明快に構成されているため、目次を参照することで、読者が現在関心を持っているテーマや箇所、あるいは異論を持つ人々との議論や、霊の兄弟姉妹との話し合いに必要な箇所を素早く見つけることができます。

この形式とこのタイトルで本要覧を作成するという使命と正当性は、キリストご自身がその新しい御言葉の中で与えられたものです。 各章はそれぞれ一つのテーマを扱っており（第61章から第63章を除く）、前の章の内容を知らなくても、そのテーマに特に興味のある方であれば理解できます。とはいえ、霊の教えを完全に把握するためには、本書を最初から最後まで体系的に学ぶことが推奨され、また必要不可欠です。

日々の霊的励ましや指針としては、特に第9〜11章、第16〜18章、第20〜22章、第32〜36章、第43〜45章、第59〜61章、第63章、および第65章が適しています。なお、ドイツ語訳版『真のいのちの書』 『Libro de la Vida Verdadera』のドイツ語訳版に収録された完全な教えにも特に注目すべきです。これらは から書店を通じて入手可能です。関心のある読者や信者は、これらを通じて神の啓示が全体としてどのように行われたかについての印象を得ることができ、それらを読むことで、この『第三の聖書』と同様に、精神と心に深い喜びと啓発を体験することができるでしょう。善意あるすべての人々に、これがもたらされることを願います。

編集者

序文

どの宗派や信仰団体に属していようとも、ほとんどのキリスト教徒は、本書のタイトル『第三の聖書』を傲慢なものと受け止めるでしょう。なぜなら、この新たな啓示の著作は、彼らにとって既知の聖書の旧約聖書および新約聖書と同列に置かれることになるからです。聖書は聖典であり、彼らの信仰の基礎として完結しており、それ以上の続編や拡張を必要としないものと見なされているからです。

しかし、真の聖書通であれば、この伝統的な見解が、新約聖書の福音書に伝えられているイエスの決定的な教えには根拠がないことを知っているはずだ。 それどころか！イエスは、別れの説教の中で、再臨について繰り返し語られ、それに関連して、「真理の御霊」、「慰めの御霊」、「聖霊」について言及し、その御霊がやがて「すべての真理に導いてくださる」と述べられました。

使徒パウロは、時の満ちる時に訪れる神の偉大な啓示に対する確信を、次のように表現しています。「今は、鏡に映るように、ぼんやりとしか見ることができませんが、その時には、私が知られているのと同じように、私も知るようになるのです。」（コリントの信徒への手紙一 13章12節）

この序文は、信仰を持つクリスチャン、ひいては本書に関心を持つすべての読者に、本書の成立に関する真実の知識を伝え、また、イエスの再臨に関する約束がどのような方法と外的状況の下で成就したかを明らかにすることを目的としています。なぜなら、啓示そのものに含まれる記述にもかかわらず、いくつかの疑問が残り、疑念や誤った認識を生む恐れがあるからです。 また、この序文は、神の御霊が、人類への「第三の聖書」として新たな啓示の中で残されたものを理解しやすくするものでもある。

この新しい神の御言葉を自ら読む読者の誰もが確認できるように、そこには最高の権威、知恵、そして愛が輝いている。これは、イエスが「雲に乗って」（ルカ21:27）再臨するという約束の成就であり、御霊の言葉で象徴的に表現すれば、それは「霊的な方法」による再臨を意味する。 したがって、メキシコにおける神の啓示を主題別に体系化したこの神の第三の聖書は、「霊において」のキリストの再臨に関する真実の証であり、人類に向けた、現代に即したメッセージと教えを凝縮した形である。

この言葉は、現代の人々にとって霊的な指針となり、神、自分自身、地上での存在の意味、そして個人の人生で起こる出来事、さらには「聖霊の時代」の到来に必然的に伴う出来事や変化について、より良く、より深く理解する助けとなるものである。 中世の修道院長ヨアキム・ディ・フィオーレや、彼に続く多くの者たちが、すでにこの時代について語っていた。それは、預言者の時代以来、人類に約束されてきた、地上に到来するキリストの平和の王国である。

言葉によるキリストの霊的な再臨をもって、この霊の時代、すなわち人間の霊化の時代はすでに到来しており、キリストはその新しい愛の言葉をもって、そこへの道を指し示されたのである。

キリストの再臨における中心的な出来事は、キリスト教世界のあらゆる予想に反して、未来のことではなく、すでに歴史となっている。それは1866年から1950年にかけて、世間の「大いなる世界」やキリスト教世界からは気づかれず、無視されたまま、ひっそりと進行したのである！ 西洋キリスト教の中心地であるローマでも、正教の信仰の中心地であるアトス山でも、あるいは多くの人が予想したように、ユダヤ・キリスト教の古都エルサレムでも、あるいはプロテスタント神学や宗教哲学の周辺でもなく、いわゆる第三世界の国、メキシコにおいてであった！ しかも、そこでも権力と華やかさを誇る支配的なカトリック教会の中ではなく、メキシコシティの郊外や周辺地域に住む、素朴で教育を受けていない人々の間という、貧困と無名さの中にあり、そこから国中に広がっていったのです。誰がそんなことを予想したでしょうか？

キリストの再臨は、新たに設立されたカリスマ的なキリスト教スピリチュアリズムの教会や兄弟団において、キリストに選ばれた人々が恍惚状態の中で霊的に受けた啓示という形で現実のものとなった。

これらの啓示の大部分は、1950年以前の数年間、速記によって記録され、書き起こされ、後に『Libro de la Vida Verdadera』（ドイツ語訳：『真の生命の書』）と題された12巻の叢書として出版された。 ここ数年、過去の教えのすべてが、より拡充され、深められた形で繰り返されてきました。本書は、この著作に収録されているあらゆるテーマについて、その中から厳選された文章を収録したものです。

キリストによるこれらの教えの集大成、およびテーマ別に整理された抜粋は、当初から主によって、人類、とりわけキリスト教徒のための

「第三の聖書」として意図されていたものである。この重大な声明の真実性は、本序文を通じて読者に明らかにされるであろう。

主の御言葉によれば、キリストの再臨の地としてメキシコが選ばれた理由は、現在の住民の先住民であるインディアンたちが、主の名においてスペインの征服者たちによって拷問を受け、強制的に「キリスト教化」されたことにある。 また、何世紀にもわたる抑圧と隷属を通じて、これらの民族とその現代の子孫は、地球上の他の民族、とりわけヨーロッパの民族よりも、兄弟愛の精神、人間愛、心の謙虚さ、そして寛容さを育んできた。 それゆえ、かつて選ばれた「イスラエルの民」の中から、多くの成熟した魂が現代においてメキシコの人々の中に生まれ、そして「霊的なイスラエル」に与えられた約束の成就を目撃したのである。

また、イエスの誕生、すなわちキリストのこの世への最初の到来は、ローマやギリシャといった権力と文明の中心地でも、ユダヤ文化の中心地であるエルサレムでさえもではなく、人里離れた貧しい環境の中で起こった。そして、イエスの故郷であり、その活動の主な舞台となったのは、エルサレムのユダヤ人たちから軽蔑されていたガリラヤであった。 これに対し、かつての律法学者たちは、優越感に浸りながらこう言った。「ナザレから、いったい何が良いものが出てくるというのか？」。今日の神学者たちは、同じ過ちや誤りを犯してはならない。知的な優越感から、密かにこう考えてはならないのだ。「メキシコから、いったい何が良きもの、偉大なものが生まれるというのか？」と。

そこでの霊的な啓示が、本当に神聖な起源を持つものであると示す根拠は何だろうか。何よりもまず、その啓示そのものが、紛れもなくキリストの精神と心、そして天の父の愛と慈悲に満ちていることである。これに触れて心を動かされない人間の心があろうか。 また、その思想、啓示、戒め、教えの知恵と深遠さは、その発端者について雄弁な証しを立てている。どのような欺瞞の霊が、悪意を持ってこれらすべてを偽装し得るというのか？これらの教えは人類の改善、発展、高揚にのみ役立つものである以上、その悪意とは一体何に存するというのか？

これらの啓示が神の新しい御言葉として本物であることを示すさらなる根拠として、これらがこれほど長い期間にわたり、これほど多くの異なる伝達者や啓示の場所を通じて行われてきたにもかかわらず、その精神と性格において統一された特徴を持ち、明らかに単一の啓示源を指し示しているという事実が挙げられる。 一体どのような闇の力が、神を嘲笑するかのように、国全体において何十年にもわたり、このようなこ

とを魅惑的な幻術として仕組むことができるというのでしょうか？それは単に不可能なことであり、人類の子らを愛する父であり、地上の運命を司る最高指導者である神が、決して許すことのないことです。

これらの啓示が、御言葉におけるキリストの霊的な再臨の証しとして真実であることを示す、さらなる重大な根拠は、キリストの再臨とその「しるし」に関するイエスの約束と、二つの世界大戦という世界を揺るがし変革をもたらした出来事が起こった期間中のメキシコでの出来事との一致にある。 これについては、『真のいのちの書』第1巻の序文「聖書の約束に映るキリストの再臨」およびエルネスト・エンケルリンによる研究『神の御霊の働き』（いずれもライヒル出版社刊）を参照されたい。

19世紀、いわゆる「神の書記」ヤコブ・ローバーによって、キリスト教界に対し、この世界地域、ひいてはメキシコがキリストの霊的再臨の地であるという重要な証言がなされた。 イエスは、その偉大な新啓示の著作の一節において、ご自身の霊的な再臨が、大洋、すなわち大西洋の向こう側の国で起こるであろうと語っています（『ヨハネによる福音書』94章14-15節）。 ロルバーによる啓示を信じる者たちや、霊的に目覚めたすべてのキリスト教徒にとって、これは、この預言がすでに成就したのではないか、と自問し、アメリカ大陸のどの国で、この主張を掲げ、かつそれにふさわしい出来事が起こったのかを探求するきっかけとなるべきではないだろうか。 しかし、その判断基準は、啓示された創造に関する知識の大きさだけではなく、何よりもそこに表れている神の愛と知恵であるべきです。

そのような出来事は実際に起こっており、19世紀の60年代初頭、メキシコで始まった。当時、1861年6月23日、ロケ・ロハスという名の庶民の男が、大天使ガブリエルによる最初の召命体験と、主の地上における先駆者としての使命が告げられる幻視を受けたのである。* その後、さらなる大きな幻視によって神からの召命の真実性を確信した彼は、恍惚状態の中で授かったメッセージや 幻視について人々に語り始め、その説得力と信頼性によって、次第に信者たちの共同体を形成していきました。 その後、霊的癒しの賜物が現れるにつれ、彼は広く知られるようになり、助けや助言を求めるすべての人々から高く評価されるようになりました。 彼は最初の集会所を設立し、1866年9月1日、そこで初めてエリアスが彼を通して語りかけ、7人の男女が新たに設立される教会の指導者として按手された。彼らは、救いの歴史における各時代を象徴する「七つの封印」を表していた。

＊ これに関するより詳細な情報は、『第三の時代』（ライヒル出版社）の序文を参照のこと。

1869年の聖週間に行われた集会の参加者たちが、ロケ・ロハスが期待していたような畏敬の念や敬虔さを示さなかったため、彼は聖なる怒りに駆られ、それまでエリアスを通じて受け取っていた神の啓示を破棄した。彼はその集会所を閉鎖すると宣言し、それによって自身の祝福に満ちた働きに早すぎる終止符を打った。 しかし、彼が蒔いた良き種は他の場所で発芽し、花開いた。そして数年後の1884年、七つの封印の教会のひとつにおいて、その教会の宣教に忠実であり続けたある女性を通じて、初めてキリストご自身が語られた。それ以来、神の啓示は世代を超えて途切れることなく続き、1950年の終わりまで続いた。

この期間、教会と信徒の数はますます増え続け、キリストが「御自身の霊の働き」と呼んだこのキリスト教スピリチュアリズム運動は、最終的には全国に数百の教会と数千人の信徒を擁するに至った。

信者たちは毎週日曜日の午前中、質素な教会の集会室や個人の家などに集まり、一人または複数の伝達者がいる場所ではどこでも、聴衆の必要や理解力に応じて、神の御霊が同時に現れていました。

週に一度、癒しの礼拝が行われ、そこでは神の霊界が、教え、助言し、癒すという形で霊的に現れました。肉体と魂に対する多くの霊的癒やしがありましたが、残念ながら、それらは文書に記録されず、後世に伝えられることはありませんでした。人々はそれらを、特に驚くべきことでも、後世に伝える価値のあることでもないと見なしていたようです。

主がはるか以前から予告し、1950年の年末に と定められた神の啓示および神の霊界からの啓示の終了に伴い、霊の働きの中に深い断絶が生じました。それは、キリストのこの命令に従い、それ以上の霊的啓示を控えた教会と、 一方、この命令に従わず、その代弁者たちをトランス状態に陥らせ、それによって低次の霊界や欺瞞の霊たちに門戸を開き、偽りのキリストや霊の啓示を受け入れるようになった教会や教会指導者たちとの間に生じた分裂である。

残念ながら、これらの不従順な教会は、忠実であり続けた教会よりも一般大衆にとってはるかに大きな魅力を持っていました。忠実な教会の信徒の多くは、小さなグループに分かれて散り散りになったり、ある

いは反対陣営へと移ったりしました。なぜなら、教義の一節を読み上げ、その後それについて意見交換を行うという静かな礼拝よりも、そちらの方が人間の娯楽や刺激を求める欲求に対してより多くの「提供」があったからです。

こうした不利な状況にもかかわらず、1950年以降、主に元伝道者たちからなる男女のグループが、全国各地に散らばった啓示を集め、それらを書籍として出版し、人類に広める作業を開始した。 その際、彼らは主にタイプライターで打たれた原稿の写しに依拠せざるを得なかった。それらは、当時の集会の速記記録に基づき、書記たち自身によって作成され、その後、要望に応じて写しとして配布されていたものである。 こうして、多種多様な啓示の原稿が多数集められ、そのうち最終的に366点が『Libro de la Vida Verdadera』（日本語訳：『真の生命の書』）の叢書に収録されるために選ばれました。

これらは、とりわけ1950年以前の最後の数年間のものを中心に、すべての啓示の一部に過ぎないとはいえ（これは、元伝達者の遺品から最近「発見」された、未発表と思われる啓示原稿の大量の束によっても証明されている）、この膨大な数の啓示に鑑みれば、それらを全体として見れば、 神の霊が人類に伝え、より光に満ちた未来への道を見出せるよう啓発しようとしたすべての主題と教義が含まれていると見なすことができる。

1962年、ドイツにおいて、この全集の最初のドイツ語選集が『第三の時代（Die Dritte Zeit）』というタイトルで出版され、これにより、ドイツ語圏の限られた人々にも、主の啓示の言葉が初めて知られることとなりました。1979年以降、ライヒル出版社（Reichl Verlag）は『真の命の書（BUCH DES WAHREN LEBENS）』のドイツ語版を刊行しており、 にて、書店を通じて入手可能です。

その後、1970年代にメキシコシティで「精神研究協会」が設立され、啓示原稿の管理と保存、および全集の新版や関連文献の出版をその任務としました。 同協会は今日においても、これを自らの本来の使命と捉えていますが、良心の光のもとでの個人の自己責任を基礎とする宗教運動の中央指導を行うことには、その使命を見出していません。

本書のどのページを開いても、私たちは、キリストがご自身の準備された人間の器――その中には世俗的な学校教育をほとんど受けておらず、口から出る言葉そのものを十分に理解できていなかった人々もいた

――を通じて語られた、説得力に満ち、賢明で、愛に満ちた言葉と啓示を、霊的に読み、体験するのです。ましてや、その内容や知恵、そしてそこに表れている神聖な権威など、彼らには到底理解し得なかったことでしょう。

この新しい神の言葉は、一方で、旧約時代のイスラエルの民における出来事や啓示、そしてイエスの地上での生涯と働きに関する確認と解説を含んでいる一方で、他方では、従来のキリスト教的世界観に対して、部分的には抜本的な修正をもたらすような、新たな霊的知見の豊かさをもたらしている。 これは、神の像、イエスとマリアの神性、内に神の火花を宿し魂が永遠に発展する人間の本質、天国と地獄、最後の審判、贖罪の教えと罪の赦し、死からの復活、そして永遠の命に関する概念に関わるものである。 また、キリスト教信仰の実践や礼拝の形式に関しても、新たな基準や目標が設定され、慣れ親しんだものが疑問視されたり、あるいは廃棄されたりしており、これはとりわけ礼拝の儀式や聖堂建築に顕著に見られる。

その中心的なメッセージは、イエスが伝えたものと同じです。すなわち、外見的な宗教的実践や見せかけの敬虔さではなく、内面的な祈りの生活と、自らの良心に従った個人の行動。 利己的な動機による計算高い慈善行為の代わりに――神、人、そして神の創造物である自然への愛に基づく、自発的で無私の行動。ここで「愛」は、配慮、思いやり、敬意、同情、愛情、慰め、助け、支援など、多くの表現形態を持ち得る。安易で盲目的な信仰の代わりに――認識と霊的な知恵に基づく、生き生きとした、見通しの利く信仰。

主はその啓示において、まず、そこにいた信者たちに向けて言葉を述べられた。主は彼らをしばしば「（わたしの）民」、「弟子たち」、あるいは「働き人」と呼び、時には「（愛する）イスラエル」とも呼びかけられた。 しかし、より広い意味において、例外はあるものの、主の言葉は、全世界の霊的なイスラエル全体、全世界の神の民全体、そしてあらゆる民族、人種、宗教の人々に向けられている。しかし、彼らはこの新しい神の言葉を喜んで受け入れ、認めるだろうか？

これは、新たな宗教共同体、教会、あるいは宗派を設立する口実となってはならず、またそうあってはならない。これは、人間、そして人間のあらゆる社会的・宗教的制度の刷新と霊化に向けた神の呼びかけである。人類のためのこの『第三の聖書』を拒む者は、神ご自身と、そこに現れている聖霊をも拒むことになる。 神の新しい愛のメッセージその

ものに含まれるこの警告の言葉を、誰もがよく熟考し心に留めるべきである。同様に、イエスの「賢い乙女と愚かな乙女」（マタイ25:1-13）や「王の婚礼」（マタイ22:2-14）のたとえ話に含まれる警告もまた、心に留めるべきである。 なぜなら、この言葉は、消えかかっている御霊の灯火のための聖なる油であり、主の食卓のパンとぶどう酒であり、魂の永遠の糧であり、慰めだからである。

目次

目次

序文 10

序文 13

目次 21

『第三の聖書』 38

I. キリストの再臨 — 第三の啓示の時代 38

第1章 *– キリストの再臨を待ち望んで* 38

救いの出来事に関する序論的概観（ ） 38

希望と期待 39

聖書の約束 42

成就した前兆 44

第2章 *– 第三の時代の夜明け* 45

最初の啓示 46

世界中のメッセージと示唆 47

主の先駆者としてのエリヤの働き 49

第3章 *– キリストの再臨という霊的な太陽* 53

主の到来 53

すべての目がわたしを見るだろう 55

第4章 *– 神の啓示による教え* 58

啓示の源 58

啓示の場所と啓示の受け手 59

神の啓示の伝達 63

啓示の形式 68

啓示の時間的制限 69

第5章 *– 新たな神の啓示の理由* 70

神の救いの意志 70

誤りや形式化された礼拝の排除 72
真の命についての啓示 75
人間の進化、霊化、そして救済 78
第6章 *- 第三の聖書と生命の大いなる書* 79
神の愛、真理、そして知恵の書 79
第7章 *- 霊の教えの影響と意義* 86
啓示の効果 86
新しい御言葉からの気づきと希望 88
第8章 *- キリストの新しい教会、弟子たち、使徒たち、そして神の使者たち* 95
啓示の教会における光と影 95
真の弟子、新たな使徒たち 100
世界中の、そしてあらゆる時代の神の使徒たち 102
II. 第一および第二の啓示の時代の回顧 106
第9章 - イスラエルの民の物語と人物たち 106
原罪の物語 106
自由意志と原罪 107
大洪水 108
アブラハムの犠牲の精神 109
ヤコブの天の梯子の夢のイメージ 110
ヨセフとその兄弟たち 111
モーセに導かれたイスラエルの民の荒野の旅 111
真の神のためのエリヤの戦い 112
イスラエルの十二部族 113
イスラエルの預言者たちと最初の王たち 114
第10章——時が満ちて 114
預言的な予言 115
ユダヤ民族におけるメシアの期待 115

イエスの生みの母マリア 116
幼子イエスへの礼拝 117
イエスとマリアの愛の絆 117
イエスの知識と知恵 117
ナザレにおける人間社会の無理解 119
第11章 - 地上のイエスの働き 119
ヨルダン川での洗礼；荒野での準備期間 119
イエスと神との一体性 120
待望のメシアとしてのイエスの不承認 121
庶民の中に現れた救い主イエス 122
たゆまぬ説教者イエス 122
イエスの子供たちと自然への愛 123
イエスの教え 124
イエスの「奇跡」 125
姦通の女 127
マグダラのマリア 128
ニコデモと輪廻転生の問題 129
イエスの変容 129
信仰を告白する勇気の欠如 130
イエスに対する敵意 130
別れの予告 131
エルサレムへの入城 132
最後の晩餐 133
第12章 - 受難、死、そして復活 135
イエスの生涯にわたる苦難と苦しみ 135
ユダの裏切り 136
イエスの受難 136

来世におけるイエスの贖いの業 142
復活後のイエスの出現 144
第13章 – イエスとその使徒たちの使命と意義 146
古い神像とその伝統の是正 146
イエスの模範 147
イエスの教えの意義 148
イエスの弟子たちの召命、修業期間、そして試練 148
使徒ヨハネ 149
使徒ペトロとパウロ 151
使徒たちの模範性 152
キリスト教の広がり 153
III. 教会キリスト教の時代 154
第14章 - キリスト教、教会、そして礼拝 154
キリスト教の発展 154
礼拝の儀式 155
聖職者たち 156
聖餐とミサ 158
洗礼 159
死者の追悼 161
物質的な象徴、十字架、聖遺物 162
聖人崇拝 163
教会の祝祭日 164
誤った礼拝形態にもかかわらず、神は常に共におられる 166
第15章——偽りのキリスト者、教会の誤った教えと不正 167
名ばかりのキリスト教徒 167
不信仰者と信仰の狂信者 169
イエスの教えの歪曲とその結果 170

キリスト教における誤った発展と弊害 173
IV. 律法——神への愛と隣人への愛 175
第16章 – 神の律法 175
神の法の力 175
『霊の業における神の愛の法』 176
神の律法への背きとその結果 178
至高の律法の成就 179
第17章 – 神を崇拝する新しい方法 181
礼拝の形態の発展 181
献身と信仰を伴わない見せかけの祈り 182
真の祈り 184
完全な祈りの四つの側面 186
言葉のない自発的な心の祈り 188
日々の祈り 190
休息の日、すなわち自己省察の日 191
求めよ、そうすれば与えられる 192
執り成しの祝福 194
祈りの必要性 195
祈りの生活がもたらす恵み 196
祈りの力 197
神と隣人への愛、すなわち神への崇拝 199
神と人間との対話 201
第18章 – 慈悲の業と愛の中心的な重要性 204
善行がもたらす後世の祝福 204
真の慈善と偽りの慈善 206
霊的および物質的な愛の活動 207
愛の包括的な意味 209

愛の崇高な力 211
V. 神の啓示の形態と働き 212
第19章 - 神の三位一体 212
神とキリスト、そして聖霊との一体性 212
神の三つの啓示の仕方 214
創造主の霊であり父である神 217
キリスト、愛、そして神の言葉 218
聖霊――神の真理と知恵 220
第20章 - 神の母なる愛、マリア 220
謙遜に生きるマリアの地上での生涯 220
マリアとイエス 221
マリアの処女性 222
女性のためのマリアの模範 223
人々の執り成し手、慰め手、そして共同の救い主としてのマリア 224
マリアの神性 226
マリアの普遍的な輝き 227
第21章 - 神の全能、遍在、そして正義 228
神の力 228
すべての被造物における神の臨在 230
運命の試練 232
神の正義 234
第22章 - 神の愛、慈しみ、そして恵み 237
天の父の愛 237
神の慈しみと助け 239
至高者の謙虚さ 242
神の憐れみと共にある苦しみ 242
神の赦し、恵み、そして憐れみ 243

第23章 - 神の霊感と啓示 245
神の霊感 245
神の啓示を人間の理解に合わせる 247
神の啓示の様々な形態 248
神の啓示の必要性 250
神の啓示の無限性 251
人間における神の臨在の顕現 253
VI. 創造 254
第24章 - 霊的創造と物質的創造 254
霊的存在の創造 254
創造の業における偉大な霊たちの働き 255
神の摂理の思惟 255
霊的存在のための物質世界の創造 255
人間の創造 256
楽園の記憶 257
人間の性質 258
創造主と被造物との一体性 258
第25章 - 自然 259
自然の法則 259
自然における神の臨在 259
自然、神の創造物、そして霊的なもののたとえ 260
神の子らが自然に対して持つ力 261
人間と自然 261
第26章 - 他の世界 264
キリストの普遍的な光 264
世界間の霊的つながり 265
他の世界や生命体との出会い 266

星々の運命 267
第27章 － あの世 268
霊的生活に関する必要な知識 268
「天国」と「地獄」 268
天国の音楽 272
わが父の家には多くの「住まい」がある 273
VII 完全性への成長の道 274
第28章 － 死、死後、そしてあの世での目覚め 274
精神の不死 274
この世を去るための準備 275
あの世への移行 276
「死の眠り」 278
来世での再会 279
自らの良心による霊への裁き 279
取り戻された霊的意識 283
第29章 － 来世における魂の浄化と昇華 285
良心の呵責、悔恨、そして自責 285
均衡の正義 286
神の御国への魂の昇華 288
第30章 － 転生を通じた魂の進化 291
発展の法則 291
「肉の復活」――正しく理解されること 292
魂の異なる発達段階 294
過去の地上での生と自身の進化の段階に関する知識 294
霊的・精神的成長のための必要条件としての愛 295
転生の様々な理由 296
完全性への道 297

生命の普遍的な学校 298
輪廻転生説の説得力 301
魂の転生の道 301
第31章 – 救い、贖い、そして永遠の救い 304
贖いに関する誤った考えの是正 304
「天国」は勝ち取られるべきものである 309
救いへの最も強力な力 311
すべての魂のための救いと贖い 313
神の子らの輝かしい未来 316
VIII. 人間 318
第32章 – 人間の転生、本質、そして使命 318
地上における転生 318
肉体の正しい評価と、霊によるその導き 320
人間における魂、精神、良心の意味と役割 321
人間の中にある神の神殿 325
第33章 – 夫と妻、親と子、結婚と家族 327
男女の関係 327
男性の性質と役割 329
女性、妻、そして母 331
子供と青少年の教育 332
子供たちと乙女たちへの言葉 334
結婚と家族 335
第34章 – 自由意志と良心 338
良心と自由意志の意義 338
自由意志の乱用 341
良心の衝動に従うことの必要性 343
自由意志と良心の葛藤 343

新しい神の言葉による良心の研ぎ澄まし 345
第35章 – 思考、感情、意志の力 346
思考の送受信とその影響 346
感情、願望、あるいは恐怖の力 349
自己克服の欠如 350
IX 神の知恵の教え 350
第36章 – 信仰、真理、そして認識 350
すべてを克服する信仰 350
神の真理の認識 352
霊的かつ神聖なものへの認識 354
霊的認識のための前提条件 355
人間に必要な意識の拡大 355
第37章 – 聖書のテキストの正しい理解 358
聖書の言葉と約束の解釈 358
使徒ヨハネによるイエスの啓示 362
第38章 – 三つの啓示の時代と七つの封印の時代 363
神の啓示の発展的依存性 363
神の三つの遺言 365
第三の時代 368
救いの歴史における七つの時代 369
第39章 – 地上のイスラエルと霊的なイスラエル 373
イスラエルの歴史的使命、その失敗 373
ユダヤ民族の、世俗的な者たちと霊的な者たちへの分裂 374
霊的なイスラエルの民 376
選ばれ、印を刻まれた14万4千人 379
第40章 – 善と悪の力 382
善と悪の起源 382

高慢と謙虚さ 385
善、善意の人 387
悪、悪に堕ちた人間 388
善と悪の戦い 389
誘惑と惑わし 390
道徳的罪悪 391
悪の無力さと儚さ 392
許しの力 393
第41章 – 現世と来世のつながり 393
霊界からの霊感と助け 393
混乱し、悪意に満ちた霊たち 397
人間をめぐる霊たちの戦い 399
神の霊界とのつながり 401
第42章 – 罪と贖罪、試練と苦しみ 404
悔い改めと贖罪の必要性 404
贖罪の法則 405
試練と苦しみの原因 406
試練における信仰、服従、そして謙遜 409
苦しみと痛みの意味 410
第43章 – 病気、癒やし、そして再生 412
病気の起源と意味 412
自らの力で癒やすこと 413
人間の再生 414
第44章 – 神的な意味での生活 415
必要な均衡 415
善き喜びと堕落をもたらす喜び 416
祝福と不幸をもたらす富 417

与えるという法則 419
義務と任務の遂行 420
第45章 － 人生における宿命、意味、そして成就 421
人間の運命における神の摂理と定命 421
人生の学校 424
人間の人生の意味と価値 425
X 物質主義と精神主義 428
第46章 － 誤った道に迷った物質主義的な人間 428
人間の精神の鈍さ、無知、そして傲慢 428
犠牲、努力、責任に対する意欲の欠如 431
人間の魂の苦しみ 433
誤った地上的行動とその結果 435
第47章 － 唯物論と精神論 437
支配的な唯物論の影響 437
スピリチュアリズムの本質 438
誰が正当にスピリチュアリストと名乗ることができるのか？ 439
宗教と宗派におけるスピリチュアリズム 440
第48章 － 霊的賜物と霊化 442
人間の霊的能力 442
真の霊性の前提と特徴 446
霊性の恵み深い影響 447
XI 人類 448
第49章 － 宗教と司法 448
唯一の真の宗教や宗派など存在しない 448
宗教の発展に対する敵意 450
宗教と科学の関係 451
地上の司法の厳しさと不公正 453

人間の冷酷な独善性 454
必要悪としての地上の司法 454
第50章 – 教育と科学 455
虚栄と知識への驕り 455
物質主義的な思考の帰結 456
神と霊界による新たな科学的知見への啓示 461
人類の福祉のために働く科学者たちへの称賛 463
第51章 - 権力者、権力の乱用、そして戦争 464
この世の権力と偉大さという儚い幻想 464
人々や民族に対する横暴な権力の行使 465
第二次世界大戦に関する考察 467
戦争の非道さと無意味さ 469
第52章 – 不正と人類の衰退 471
強者による弱者の隷属と搾取 471
人類の堕落 474
未熟な人類の歪んだ世界 476
第12章 人類の裁きと浄化 478
第53章 – 裁きの時が来た 478
人間の蒔いた種の実り 478
審判における人類の浄化 479
裁きにおける神の愛 481
第54章 – 世界観、宗教、教会の戦い 483
地上のキリストの平和の王国到来前の霊的な戦い 483
地上の精神的覇権をめぐる争い 484
霊の教えへの攻撃 485
霊的啓示や霊的治癒の無視や妨害 488
第55章 – 審判における地球と人類の浄化 488

清めの裁きに先立つ、神と自然からの警告の声 488
悪の力と支配は打ち砕かれる 491
終末的な戦争、疫病、災厄、そして破壊 493
自然と自然災害 494
神の愛の正義と憐れみ 497
審判の影響 497
XIII 世界と創造の変容と完成 499
第56章 – キリストの霊的業の勝利と承認 499
神の使徒たちによる霊の教えの普及 499
新しい御言葉の承認をめぐる戦い 499
聖霊の教えの力 500
全世界におけるキリストの再臨の認識 502
第57章 – あらゆる分野における回心と変革 503
新たかつより深い認識 503
神から遣わされた人々による啓蒙 506
人間の変容 507
あらゆる生活領域における変化と激変 510
第58章 – キリストの平和の王国と創造の完成 512
キリストの平和の王国における支配力 512
新しい人間 513
約束の地であり、天国の反映である地球 515
創造の完成 517
回復された創造の調和の賛歌 518
XIV 宣教の使命 520
第59章 – 新しい神の言葉の普及に関する使命 520
書籍の製本、抜粋版、および翻訳に関する指示 520
新しい神の御言葉を知る権利 521

霊の教えの普及に関する指示 522
第60章 – キリストの御霊による働き 524
新しい弟子たちに必要な資質、美徳、能力 524
御言葉を伝える際の正しい在り方 529
正しい宣教の方法 531
肉体的・精神的に苦しむ者たちを慰め、癒やす使命 536
世界的な使命への出発の時 538
XV. 戒め、警告、教え 538
第61章 – 主の戒めと警告 539
戒めと使命 539
信仰、希望、愛、謙遜、確信 541
祈り、研鑽、警戒、刷新、そして霊化 543
啓示を受けた教会への警告 545
1950年以降の啓示の継続と偽りの「キリストの啓示」に対する警告 546
悪徳、偽善、堕落 548
誤った悔い改めと誤った期待 550
地上の諸国民と権力者たちへの警告 551
第62章 – メキシコにいる聴衆への言葉 552
メキシコにいる聴衆への言葉 552
第63章 – 教会およびすべてのキリストの弟子たちへの教え 573
キリストの霊の働き 573
霊的なイスラエルとユダヤ民族 584
弟子としての生き方と霊性 587
発展 600
浄化と完成 605
この世とあの世 609
神の啓示 613

人間とその使命 617
悪徳、過ち、迷い 623
人類の浄化と霊化 627
XVI. 預言とたとえ、慰めと約束 629
第64章 - 預言 629
新旧の預言の成就 629
1945年1月10日、第二次世界大戦終結間近における大いなる諸国民への預言 630
戦争と自然災害 – 天のしるし 632
メキシコの教会分裂に関する預言 633
第65章 - たとえ話、慰め、そして約束 634
悪い家政係のたとえ 634
砂漠の横断から大都市へのたとえ 635
王の寛大さを描いた寓話 639
八福と祝福 640
向上への励まし 642
神の呼びかけ 643
現代の人々への呼びかけ： 643
知識人への呼びかけ： 644
労苦し、重荷を負う者たちへの呼びかけ： 644
霊的イスラエルへの呼びかけ： 644
メキシコにおける神の教え 1866-1950 646

『第三の聖書』

I. キリストの再臨 — 第三の啓示の時代

第1章 - キリストの再臨を待ち望んで

救いの出来事に関する序論的概観（ ）

1. 太古の昔、この世には愛が欠けていた。最初の人類は、すべての被造物の源である霊の本質、すなわちその神聖な力を感じ、理解することからは程遠い存在であった。

2. 彼らは神を信じていたが、神に帰していたのは力と正義だけだった。 人々は、自然の要素を通じて神の言葉を理解できると信じていた。それゆえ、自然が穏やかで平和であるのを見ると、主は人間の行いに同意しておられると考えた。しかし、自然の力が解き放たれると、彼らはそこに、その形で現れた神の怒りを見出したのだ。

3. 人々の心の中には、怒りと復讐の感情を抱く恐ろしい神というイメージが形成されていた。それゆえ、神を怒らせたと信じたとき、彼らは神をなだめることを願って、全焼のいけにえや供物を捧げた。

4. 私はあなたがたに告げる。それらの供え物は、神への愛から生まれたものではなかった。初期の人々が主への貢ぎ物を捧げるように駆り立てたのは、神の正義への恐れ、すなわち罰への恐怖であった。 5. 彼らは神聖な霊を単に「神」と呼んだが、「父」や「師」とは決して呼ばなかった。

6. 神は確かに正義である――しかし、完全なる正義であるということ、何よりも神は父であり、父としてすべての被造物を愛しておられるということを、人々に理解させ始めたのは、先祖たちや初期の預言者たちであった。

7. 人類は一歩一歩、霊的発展への道をゆっくりと歩み、巡礼の旅を続け、時代から時代へと移り変わり、神がいつの時代もその子らに与えてきた啓示を通じて、神の神秘について少しずつ知っていった。

8. それにもかかわらず、人間は神の愛を完全に理解することはできなかった。なぜなら、人間は神を真に父として愛していなかったし、主が常に自分に向けてお示しになった愛を、心の中で感じ取ることもできなかったからである。

9. 完全なる愛が人間となり、「御言葉」が受肉し、人々が触れ、目に見える肉体をとることが必要であった。そうして初めて、人々は神がどれほど、そしてどのような方法で彼らを愛しておられるかを、ついに知ることができたのである。

10. すべての人がイエスの中に父の臨在を認めたわけではない。イエスは、自分を侮辱する者たちに対しても謙虚で、思いやりがあり、愛に満ちておられたのだから、どうして彼らがイエスを認識できようか。彼らは、神を敵に対しては強くて誇り高く、自分を侮辱する者たちに対しては裁きを下し、恐ろしい存在だと考えていたのだ。

11. しかし、その言葉を拒んだ者が多くいたのと同様に、多くの者もまた、心の奥底にまで響き渡るその言葉を信じた。苦しみや不治の病を、ただ一つの愛撫、無限の憐れみの眼差し、希望の言葉だけで癒やすそのあり方、 新しい世界、光と正義に満ちた生活の約束であったその教えは、あの神聖な人が父の真理であり、人々が知らず、ゆえに愛することもできなかった御方の神聖な愛であることを理解した多くの人の心から、もはや消し去ることはできなかった。

12. その至高の真理の種は、人類の心に永遠に蒔かれた。キリストは種を蒔く者であり、今もなおその種を育てている。やがて彼はその実を刈り取り、永遠にそれを喜びとするだろう。その時、彼はもはや「私は飢えている」とか「私は渇いている」とは口にしないだろう。なぜなら、ついに彼の子供たちは、彼が初めから彼らを愛してきたように、彼を愛するようになるからだ。

13. 弟子たちよ、キリストについて語るのは誰か。キリストご自身である。

14. 人類よ、今再びあなたに語りかけるのは、まさに「言葉」である私だ。私を認識せよ。私が現れる姿が地味であるからといって、私の存在を疑ってはならない。私の中に傲慢などあり得ないのだ。

15. かつてこの世で歩んだ私の生涯によって、私を認識しなさい。私が生まれた時や生きた時と同じように、謙虚に死んだことを思い出してください。（296, 4-16）

希望と期待

16. 「第二の時代」における私の去り後、私への信仰を守り続けた者たちの間では、世代から世代へと私の再臨が待ち望まれてきた。親から子へと神の約束は受け継がれ、私の言葉は、私の帰還を目撃したいという切なる願いを生き生きと保ち続けた。

17. どの世代も、自分たちの時代に主の言葉が成就すると期待し、自分たちがその恵みを受ける世代であると信じていた。

18. こうして時は流れ、世代も移り変わり、人々の心からは私の約束がますます押しやられ、人々は目を覚まし、祈ることを忘れてしまった。（356, 4-5）

19. 世界は試練にさらされており、諸国民は、彼らに降りかかる私の正義の重荷を痛感している。そして、あなた方を呼びかける私の光、私の声が、全人類の中に感じられるようになっている。

20. 人々は私の臨在を感じ、降り注ぎ、彼らの上に留まる私の普遍的な光線を感じ取っている。彼らは、この書物*を知らず、私の言葉を聞いたこともないのに、私を予感し、私に向かって魂を掲げ、こう問いかける。「主よ、私たちはどのような時代に生きているのでしょうか。人々を襲ったこれらの試練と苦しみ――それらは何を意味するのでしょうか、父よ。 あなたは、この世の嘆きを聞き取っておられないのですか？あなたは再び来るとおっしゃらなかったのですか？いつおいでになるのですか、おお主よ？」そして、あらゆる信仰団体や宗教共同体において、わが子らの霊は高まり、彼らはわたしを求め、わたしに願い、わたしに問いかけ、わたしを待ち望んでいる。（222, 29）

＊ 1866年にメキシコで先駆者エリアスを通じて始まった、キリストの再臨における言葉による、霊的な形の啓示。

21. 人々は私に問いかけ、こう言う。「主よ、もしあなたが存在されるのなら、かつては私たちの世界にまで降りてこられたのに、なぜ今、私たちの間には現れないのですか？ なぜ今日、来られないのですか？私たちの不信心は、今やあなたが助けに来るのを妨げるほど大きくなっているのでしょうか？あなたは常に、失われた者、「盲人」、「ハンセン病患者」を探してこられました――今、世界は彼らで溢れています。私たちはもはや、あなたの憐れみを呼び起こさないのでしょうか？

22. あなたは使徒たちに、人々のところに戻るとおっしゃいましたし、来臨のしるしを与えると約束されました。私たちは今、そのしるしを見ていると信じています。なぜ、私たちに御顔をお見せにならないのですか？」

23. 見よ、人々は、私が彼らの間にいることを感じることなく、私を待ち望んでいる。私は彼らの目の前にいるが、彼らは私を見ない。私は彼らに語りかけるが、彼らは私の声を聞かない。そして、ついに一瞬私を見ても、彼らは私を否定する。しかし、私は引き続き自分自身を証しし、私を望む者たちを、これからも待ち続けるであろう。

24. しかし、まことに、この時代のわたしの顕現のしるしは大きかった。人々の血が川のように流され、大地を濡らしたこと

でさえ、聖霊としてあなたがたの間におるわたしの時の到来を示していたのである。（62, 27-29）

25. 誰も私の臨在に驚いてはならない。私はすでにイエスを通して、真理の霊としての私の顕現を告げる出来事を、あなたがたに示していた。また、私の到来は霊によってなされるものであると、あなたがたに告げた。それは、決して起こることのない物質的な顕現を、誰も期待しないようにするためである。

26. ユダヤの民を見よ。彼らは今なおメシアを待ち望んでいるが、彼らが期待する形ではメシアは来ない。なぜなら、真のメシアはすでに彼らの間にいたのに、彼らは彼を認識しなかったからである。

27. 人類よ、あなたは私の新しい啓示を認めようとせず、私が約束したことに従うのではなく、あなたの信仰の概念に従って私を待ち続けようとするのか。（99, 2）

28. 世界は新たなメシアを待ち望んではならない。私が再び来ると約束したように、私の到来は霊的なものであることも、私はあなた方に知らせてきた。しかし、人々は私を迎えるための準備を、決して理解できなかった。

29. 当時、人々は、イエスの中に神が隠されているとは信じようとしなかった。彼らはイエスを、他の誰とも変わらない、ただの一人の人間であり、誰よりも貧しい者だと考えていたからである。 それにもかかわらず、人々は後に、キリストの力強い御業を目の当たりにして、この世に生まれ、成長し、そして死んだあの人の中に、神の「御言葉」があったのだと確信するに至った。しかし、現代においては、多くの人が、私が第二の時代のように人間として来られるのでなければ、私の到来を認めようとはしないだろう。

30. 私が霊として来られ、そのようにして人類に御自身を現されるという証拠は、証言があるにもかかわらず、すべての人によって認められるわけではない。なぜなら、唯物論は、多くの人々の目の前を覆う暗い覆いとなるからである。

31. どれほど多くの人々が、キリストが再びこの世で苦しみ、奇跡を行われるのを見て、その臨在や存在を信じたいと願っていることか。しかし、まことに、あなたがたに告げる。この地上には、私が人間として生まれるのを見る飼い葉桶も、私が死ぬのを見るもう一つのゴルゴタも、もはや存在しない。 今や、真の命へと復活する者は皆、心の中で私が生まれるのを感じるだろう。同様に、頑なに罪の中に留まり続ける者もまた、心の中で私が死ぬのを感じるだろう。（88, 27-29）

32. 見よ、この時代、どれほど多くの人々が、過ぎ去った時代

の聖書を研究し、預言者たちについて思索し、キリストが再臨についてなされた約束を理解しようと努めていることか。

33. 彼らがこう言うのを聞きなさい。「師は近くにおられる」――「主はすでにおられる」、あるいは「主はまもなく来られる」と。そしてこう付け加える。「主の再臨のしるしは、はっきりと明白である」と。

34. ある者は私を求め、私を呼び求め、ある者は私の臨在を感じ、またある者は霊において私の到来を予感している。

35. ああ、もしすべての人の中に、すでにその知識への渇きがあったなら、もしすべての人の中に、至高の真理を知りたいというその渇望があったなら！(239, 68-71)

36. あらゆる宗派や分派の人々が、私の到来を告げるしるしを発見しようと、時代や人生、出来事を探り回っている様子を見よ。彼らは無知な者たちであり、私がすでに長い間自らを明らかにしており、まもなくこの種の啓示が終わりを迎えることを知らないのだ。

37. しかし、私はこうも言っておく。私をこれほど切望して待ち望んでいる人々の多くでさえ、私が自らを現す方法（ ）を目の当たりにすれば、私を認識することはなく、むしろきっぱりと拒絶するだろう。

38. 彼らには証言だけが届くであろう。そしてそれによって、彼らは、私が自分の子供たちの間にいたことを、それでもなお信じるようになるだろう。

39. あなた方もまた、心の中で焦燥感を持って私を待ち望んでいた。しかし、私は、あなた方が私を認識し、この時代の私の働き手の一員となることを知っていた。(255, 2-4)

聖書の約束

40. イエスを通した私の啓示において、私は聖霊の到来を告げた。 しかし、人々は、聖霊とは、彼らには知られざる神の中に存在する神格であると考えていた。私が聖霊について語ったとき、私が語っていたのは、人間の理解力を超えて人々に自らを現す時を準備していた、唯一の神についてであったことを、彼らは理解できなかったのだ。(8, 4)

41. なぜ、私の新たな啓示に誰かが驚かなければならないのか。まことに、私はあなたがたに言う。古の時代の先祖たちはすでにこの時代の到来を知っており、他の時代の予言者たちはそれを見通し、預言者たちはそれを告げていた。それは、私がイエスとしてこの世に生まれるずっと以前に、人々に与えられていた神の約束であった。

42. 私が弟子たちに再臨を告げ、人々にどのように現れるかを伝えた時、その約束があなた方に与えられてから、すでに長い時が過ぎていた。

43. 今、あなたがたはあの時代の経過を目の当たりにしている。ここで、あの預言が成就しているのだ。誰がこれに驚くだろうか。ただ、闇*の中で眠っていた者たち、あるいは私の約束を自らの内から消し去ってしまった者たちだけである。（12, 97-99）

＊ ここや他の箇所における「闇」という言葉は、「無知」、「無明」を意味し、対照的に「光」は「認識」、「悟り」の象徴として用いられている。

44. あなたがたがわたしの教えに深く入り込むことはほとんどないだろうと知っていたし、また、わたしの啓示を解釈する際にあなたがたが陥るであろう誤りを予見していたので、わたしはあなたがたに、真理の霊を送り、多くの秘密を解き明かし、あなたがたが理解できなかったことを説明してもらうと告げ、わたしの再臨を予告した。

45. なぜなら、わたしの預言の言葉の核心において、わたしはあなたがたにこう告げたのである。すなわち、この時代において、わたしはシナイ山で雷鳴と稲妻を伴って現れるようなことはせず、また「第二の時代」のように人間となり、わたしの愛と言葉を 人間的なものにすることもない、 むしろ、私は知恵の光線に乗ってあなたがたの霊に近づき、霊感の光であなたがたの理性を驚かせ、あなたがたの心が理解できる声で、あなたがたの心の扉を叩くのだと告げたのである。それらの予言と約束は、まさに今、成就しつつある。

46. あなたがたが私の光を見、私の霊の臨在を感じるために必要なのは、ほんの少しの準備をすることだけである。その霊こそ、教え、真理を明らかにするために来ることをあなたがたに告げていた者である。（108, 22-23）

47. 恐れや勤勉さの欠如から成長せず、メシアの到来を認めずにモーセの律法に従うだけの者たちが多くいる。また、イエスを信じながらも、約束された慰め主の霊を待ち望んでいなかった者たちもいる。今、私は三度目に降りてきたが、彼らは私を待ち望んでいなかった。

48. 天使たちはこれらの啓示を告げ、その呼び声は空間を満たした。あなたがたはそれを認識したか。私の臨在を証しするために、霊界があなたがたのところに来たのだ。 書かれていることはすべて成就する。引き起こされた破壊は、人間の傲慢と虚栄を打ち砕き、人間は謙虚になり、わたしを求め、わたしを父と呼ぶようになる。（179, 38-39）

49. かつて、私はあなた方にこう語った。「私があなた方に語ったことは、私が教えなければならないことのすべてではない。あなたがたがすべてを知るた

めには、まず私が去り、真理の霊をあなた方に送らなければならない。そうして、私が語ったこと、行ったことすべてを、その霊が説明してくれるのだ。試練の時、私はあなた方に慰め主を約束する。」 しかし、その慰め主、その説明者とは、あなたがたを啓発し、過去の教えと、今私があなたがたにもたらすこの新しい教えを理解できるよう助けるために戻ってくる、私その人である。（339, 26）

50. 知恵の中には、あなたがたの心が切望する癒しの香油と慰めがある。それゆえ、私はかつて、慰めの御霊として真理の御霊をあなたがたに約束した。しかし、試練に直面しても立ち止まったり恐れを感じたりしないためには、信仰を持つことが不可欠である。（263, 10-11）

成就した前兆

51. 新しい時代が到来し、私が今、霊的に人類に現れているという兆しを認識している人は、ごくわずかである。大多数の人々は、その人生と努力を物質的な進歩に捧げ、 そして、その目標を達成するための無慈悲で、時に血なまぐさい闘争の中で、彼らは盲人のように生き、方向を見失い、何を求めているのか分からなくなり、新しい夜明けの明るい輝きを見ることができず、前兆に気づかず、私の啓示の知識を身につけることからは程遠い。

52. この人類は、私が時代を超えて与えてきた啓示よりも、人間の教えや言葉をより信じてきた。父が、その正義をもって、あなたがたが至る所で目にするものよりもさらに大きなしるしを送り、これが「真理の霊」としての私の顕現のために予言された時であることを感じ、信じるようになるのを、まさか待っているというのか。 ああ、信仰の薄い人々よ！弟子たちよ、今こそ、あなたがたは、なぜ私が時折、「私の声が荒野で叫んでいるが、それを聞き、真に耳を傾ける者は誰もいない」と言うのかを理解するだろう。（93, 27-28）

53. 地上のすべての人々がこのメッセージの真理を信じることができるよう、私は、私の再臨を告げる預言、すなわち古くから預言されていたしるしが、全世界で感じられるようにした。

54. それゆえ、この良き知らせが諸国民に届くとき、人々は、この時代に彼らに語られたすべてのことを探求し、吟味するであろう。そして、驚きと喜びをもって、私の再臨に関して予告され、約束されたすべてのことが、ただ一つの意志、一つの言葉、一つの律法のみを持つ御方にふさわしく、忠実に成就したことを発見するであろう。（251, 49）

55. 「第二の時代」*において、私は使徒たちに私の新しい啓示を告げた。そして彼らが、そ

の時代を告げるしるしは何かと尋ねたとき、私はそれらを一つひとつ告げ、また彼らに与える証拠についても告げた。

＊ 救いの歴史は、キリストによって3つの大きな区分、すなわち時代、あるいは「時」に分けられており、「第二の時代」とは、イエスによる神の啓示の時代およびその後の時代を指す（詳細は第38章を参照）。

56. 前兆は最後の一つに至るまで現れ、これこそがイエスが予言した時であることを告げていた。さて、私はあなた方に問う。もし私があなた方に分かち合っているこの霊的な啓示が真実でなかったなら――なぜ、しるしが現れたにもかかわらず、キリストは（信者たちが期待していた姿で）現れなかったのだろうか？ それとも、誘惑者が、あなた方を欺くために、全被造物や自然の力までも支配しているとお考えなのか。

57. かつて私は、あなたがたが偽預言者、偽キリスト、偽の救い主たちの誘惑に陥らないよう警告した。しかし今日、私はこう告げる。受肉した魂は、その発展、認識、経験によってすでに目覚め、たとえどれほど多くの欺瞞が用意されていようとも、闇を光として提示することは容易ではないほどになっているのだ。

58. それゆえ、私はあなたがたにこう言ったのだ。「盲信してこの道に身を委ねる前に、いくらでも確かめよ！」と。この言葉はすべての人々― ―に与えられたものであり、私がその一部を特定の人々のためにだけ留保したことは決してないことを悟れ。この著作の中に、私があなたがたから何か教えを隠そうとしているような書物は一つもないことを見よ。

59. しかし、あの「第二の時代」において、私は使徒ヨハネの口を通して、こうも言った。「もし誰かが私の声を聞いて戸を開くなら、私はその人のところに入り、彼と共に食事を分かち合い、彼も私と共に食事をするであろう。」同様に、私はあなたがたに十人の乙女のたとえを教えた。それは、あなたがたがこの時代にそれを心に留めるためである。（63, 79-80）

60. 前兆や試練がすでに訪れ、私が会堂にも、いかなる教会にも現れなかったのだから――私が自分の言葉に背くことはできないのだから、今まさにどこかの場所で現れなければならないことを、世の人々は察しないのか。（81, 41）

第2章 - 第三の時代の夜明け

最初の啓示

1. 今日は記念すべき日である。今日のような日に、私は最初の伝達者たちを任命し、彼らを通して私の新たな教えと啓示を告げ知らせた。エリヤの霊がロケ・ロハス*を照らし、神の律法である道をあなたがたに思い起こさせた。

＊ この最初の伝達者の名は「ロケ・ロハス」と発音される。

2. その瞬間は厳粛であり、出席者たちの魂は畏怖と歓喜に震えた。それは、シナイ山で律法が宣告された時にイスラエルの民の心が震えたのと同様であり、タボル山でイエスの変容を目撃した弟子たちが、モーセとエリヤが霊的に師の右と左に現れた時に震えたのと同様であった。

3. 1866年9月1日、それは新しい時代の誕生であり、新しい日の夜明けであった。人類のために幕を開けた「第三の時代」である。

4. その時から、神が数千年にわたり人々に与えてきた多くの預言と約束が、絶え間なく成就し続けている。 今この時代にこの世に生きる、あなた方、男女の皆さん、それらはあなた方の前で成就したのです。あの預言が語られ、あの約束がなされた時、あなた方のうち、いったい誰が地上にいたというのでしょうか？それを知っているのは私だけですが、重要なのは、私があなた方に約束したこと、そして今、それを成就させているということを、あなた方が知っているということです。

5. 私が最後に弟子たちに現れた時、彼らが私を昇天するのを見たあの「雲」について、あなたがたは知っているか。なぜなら、私が「雲の上」から戻ってくると書かれているのは真実であり、私はそれを に成就させたからである。 1866年9月1日、私の霊は象徴的な雲に乗って、あなたがたが新しい教えを受け入れる準備を整えるためにやって来た。その後、1884年に、私はあなたがたに教えを与え始めた。

6. 私は人間としてではなく、光の束に封じ込められた霊的な姿で来た。それは、人間の知性の上にその光を留まらせるためである。これが、この時代にあなた方に語りかけるために私の意志によって選ばれた手段であり、私は、この言葉に対するあなた方の信仰を、あなた方の功績として認めるであろう。

7. なぜなら、荒野を通って約束の地へとあなた方を導くのはモーセではなく、また、救いと自由への道として命の言葉を聞かせるのは、人間としてのキリストでもないからだ。 今、あなたがたの耳に届くのは、これらの被造物の人間としての声であり、私がそこに臨在する神聖な本質を見出すためには、霊的な境地に入ることが求められる。それゆえ、私はあなたがたに告

げる。この言葉は不完全な存在たちを通して与えられているのだから、あなたがたがこれを信じることは称賛に値するのだ。（236, 46-50）

8. 1866年、この業の弟子たちである最初のスピリチュアリストの共同体が誕生した。私の霊の光の下で、またエリヤの教えを受け、それらの最初の弟子たちは、今やあなたがたが、その完結を目前にして豊かに受け取っているメッセージの光線を受け取り始めたのである。（255, 10）

世界中のメッセージと示唆

9. 主の道を整えるために最初に現れねばならなかったエリヤは、1866年に初めて人間の知性を通じてその存在を明らかにした。その啓示の時期と一致して、あらゆる分野で起こった兆候や出来事を調査するために、少し時間を割いてみてはどうか。再び、星を研究する学者たち、すなわち古代において魔術師と呼ばれた者たちが、天が神の呼びかけであるしるしを与えたことを証言するであろう。（63, 81）

10. この言葉を聞くこの地の地点が、私がわが子たちの前に現れる唯一の場所だなどと考えてはならない。まことに、私はあなたがたに告げる。私の啓示は様々な形で世界中に及んでいるのだ。

11. 人間の知性を通じて私の啓示の先駆者としてあなたがたの中に現れたエリヤは、あなたがたが住むこの国だけにやってきたのではない。彼は地球上の場所から場所へと巡り、新しい時代の到来を告げ、天の国の到来を宣べ伝えた。

12. あらゆる方面から、私の到来を告げる叫び声が上がった。揺さぶられた自然は大地を動かし、科学は新たな啓示に驚嘆し、霊界*は人々に迫った。それにもかかわらず、人類は、新時代の先駆者たるそれらの叫びに対して、耳を貸そうとしなかった。

＊ この表現は、より高い来世の次元に住む者たち、すなわち神の霊界の光の霊たちを指す。

13. 人々を闇から救い出すために、神の光の洪水が降り注いだ。 しかし、人間たちは――利己的で物質主義的*であり、魂の完成や、地上の生活における道徳的向上を追求することからは程遠い存在であった――その光を、ただ自らのための王座や栄光、肉体の安楽や快楽、そして必要とあれば、同胞の命を奪うための武器を作り出すためにのみ用いた。 彼らの目は、わが光の輝きに眩まされ、その虚栄心が彼らを破滅へと導いた。しかし、私はあなたがたに告げる。まさにこの光によって、彼らは真理を見出し、道を発見し、救われるのである。

＊これは「霊的」の対義語であり、つまり、物質的・肉体的なもののみに関わる人間の生活や思考を指す。

14. この光をその知性の中に受け入れることができ、それを神からのメッセージとして受け入れた者たちは、良心に自らの歩みを導かせ、その良心を自らの行いの指針とした。なぜなら、彼らは主が再び来られ、人々の間にいらっしゃるという予感を持っていたからである。

15. 様々な宗派や教派の代表者たちは、わたしを受け入れようとはしなかった。彼らの心、尊厳、そして偽りの高慢さが、霊的にわたしを受け入れることを妨げたのである。それゆえ、新時代の到来を感じ取り、祈り、主の霊感を受けるために孤独を求める者たちのグループ、兄弟団、そして団体が、全世界に形成されたのである。（37, 76-81）

16. 私の再臨に備えようと努めている宗教団体があるが、彼らは私がすでに去ろうとしていることを知らない。

17. 私はすべての人を呼びかけた。そして実のところ、私の呼びかけと、私が今まさに人々に現れているという噂は、私を証しする証言や証拠――改心した罪人、回心した不信仰者、よみがえる「死者」、癒される不治の病者、そして悪霊から解放される憑依者たち――と共に、地球の隅々まで届いた。

18. しかし、私は多くの者が耳を貸さないのを見出した。また、この世の地位に驕る者もいれば、私の啓示を「真理の霊」として広めるにはあまりにも臆病な者もいた。私は、私のもとに来て、私の愛を信頼したすべての人を受け入れ、教えを授けた。（239, 17-19）

19. 他の国々から、この民のもとへ大勢の人々がやって来るだろう。彼らは、あなたがたがこの時期に で立ち会った霊的な出来事について、また、私があなたがたに与えた啓示や預言について、熱心に尋ねてくるであろう。

20. なぜなら、世界の多くの地域で、私の神聖な光線が西のある一地点に降りてきて、この時代の人類に語りかけるという私のメッセージが受け取られているからである。

21. 時が来れば、あなたがたは、他の民族や国々から人々が訪ねて来るのを目にするだろう。その時、主要な宗派の人々は、私が向かった相手が自分たちではなかったことに衝撃を受けるだろう。（276, 45）

22. 世の人々は、私の新たな顕現にどれほど無関心なことか！目を覚まして私を待ち望む者はいかに少なく、眠り込んでいる者はいかに多いことか！

23. 私を待ち望んで生きる者たちについて言えば、この時代に

私の臨在がどのような形をとるか、その実態をすべての人々が予感しているわけではない、とあなたに告げよう。 なぜなら、古い信仰観の影響下にある者たちは、私が人間としてこの世に戻ると考えている一方で、他の者たちは、私が人間の目に見える何らかの姿で現れなければならないと信じているからだ。そして、真実を察し、私の到来が霊的なものであると予感している者は、ごくわずかである。

24. ある者たちが、私がどのような姿をとるか、いつ、どの日に地上に現れるか、またどの場所に現れるかを問う一方で、特定の姿や時期を考えずに、「師はすでに私たちの間におられ、その霊である光が私たちを包み込んでいる」と言う者たちもいる。

25. このメッセージがすべての人の心に届いたとき、ある人々にとっては歓喜の瞬間となるだろう。なぜなら、彼らはこのメッセージの中に、自らの予感と信仰のすべてが裏付けられているのを見出すからである。 一方、他の人々は、このメッセージが、自分たちが起こると思っていたことや、それが現れる方法と一致しないため、その真実性を否定するだろう。（279, 41-44）

主の先駆者としてのエリヤの働き

26. わたしは「第三の時代」*にエリヤを帰還させた。そして、主として、わたしはあの「第二の時代」に彼を予告し、こう言った。「まことに、エリヤはあなたがたの中にいたが、あなたがたは彼を認識しなかった。わたしは世に戻るが、まことに、あなたがたに言う。わたしの前にエリヤが現れるであろう。」

＊ 第38章を参照。

27. 師の御言葉はすべて成就するものであるから、エリヤは「第三の時代」において、私の前に来て、魂たちを目覚めさせ、聖霊の時が扉を開いたことを彼らに予感させ、すべての魂に、目を開き、第二の時代から第三の時代へと閾を越える準備をするよう告げたのである。 この「第三の時代」において、エリヤの啓示 がより理解しやすいものとなるよう、私は彼を、ある義人、すなわちロケ・ロハスを通じて現れさせた。

28. エリヤはあの世から霊的にこの男を啓発し、彼に霊感を与え、彼を強め、初めから終わりまで、彼の歩むすべての道を導いた。

29. しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。彼が人間の中からロケ・ロハスを選んだのではない。 私が彼を選び、私の

慈悲によって整えられたその魂を遣わしたのである。私は彼に、同じく私によって整えられた肉体を授けた。そして、あなたがたも知っている通り、彼は謙虚であり、その謙虚さと徳によって、父は偉大な業を成し遂げた。彼は預言者であり、代弁者であり、予言者であり、導き手であった。これらすべてにおいて、彼は民に輝かしい模範を残した。

30. 彼は、モーセが荒野でそうであったように、自らの民から嘲笑され、侮られた。預言者エリヤのように迫害され、民のために祈り、彼らを擁護するために、山々の頂上に身を隠さなければならなかった。

31. 彼は師と同様に、祭司や律法学者たちから嘲笑され、非難された。師と同様に、彼を信じ、従い、彼を取り囲んだのはごくわずかな人々だけだった。彼の手からは癒しの力が溢れ出し、奇跡を起こしたが、それはある者には信仰を呼び起こし、またある者には混乱をもたらした。 ある人々にとっては、彼の口から発せられた預言の言葉は、文字通りその通りに成就した。彼の口は、病んだ心に満ちた慰めの助言を与えた。 32. 彼の精神は偉大な霊感を受け入れることができ、義人、使徒、預言者たちのように恍惚状態に陥ることができた。 彼の霊は、この世と肉体から解き放たれ、霊界へと入り、主の秘宝庫の扉へと謙虚に近づくことができた。この昇華によって、主の光が降り注ぐ前に、エリヤの霊は最初の証人たちにその姿を現した。（345, 57-58）

33. ロケ・ロハスは、信仰と善意に満ちた男女のグループを集めた。そして、その最初の集会の場において、エリヤは使者の知性を通して自らを顕現し、こう語った。「私は預言者エリヤである。タボル山で変容した者である。」 彼は最初の弟子たちに最初の教えを与え、同時に霊化の時代を告げ、
、まもなく神の師の光が降りてきて、その民に語りかけると預言した。

34. ある日、ロケ・ロハスの質素な集会所が、この男の言葉を信じる信者たちで満ち溢れていた時、エリヤは使者の精神を啓発するために降りてきて、私から霊感を受けて、七つの封印を体現し、あるいは象徴することとなる七人の信者に油を注いだ。

35. その後、私の啓示が約束された時が来たとき、私は、その七人の選ばれた者たちのうち、ただ一人だけが、清き花婿の到来を待ち望んで見張っていたことを知った。その心は、処女ダミアナ・オビエドのものであり、彼女の精神は、その粘り強さと準備への報いとして、神の光の輝きを最初に受け取ることを許されたのである。

36. ダミアナ・オビエドは第六の封印*を体現していた。これは、第六の封印の光こそが、この時代を照らすものであるというさらなる証拠であった。（1, 6-9）

＊ ヨハネの黙示録に由来するこの用語は、「七つの封印」のうちの最後から二つ目を指し、これらは救いの歴史における3つの時代の中にある7つの時代を象徴するものとして理解される（詳細は第38章を参照）。

37. 神の使者の臨在を真に感じることができた者は、ごくわずかであった。 彼は再び、荒野で叫ぶ声となり、人々の心を、間もなく訪れる主の到来に向けて整えた。こうして第六の封印が解かれ、その中身が明らかにされ、正義と光の川となって人類の上に注がれた。このようにして、多くの約束と預言が成就したのである。

38. エリヤは、イエスやモーセと同様に、あなたがたが父を見るようにと、あなたがたの霊の目を照らした。 モーセはあなたがたに「隣人を自分自身のように愛せよ」と教えた。イエスはあなたがたに「互いに愛し合いなさい」と言われた。エリヤはあなたがたに、隣人に対してますます深い憐れみを持つよう命じ、すぐにこう付け加えた。「そうすれば、あなたがたは、そのすべての栄光のうちに、わたしの父を見るであろう。」（81, 36-37）

39. 人類を包む闇が消え去り、魂の中に光が差すとき、人々は新しい時代の到来を感じるだろう。それは、エリヤが人々の元に戻ってきたからである。

40. しかし、人々は彼を見ることはできなかったので、彼の霊が人間の理解力を通じて現れ、預言者エリヤのあの象徴、すなわち雲の上の炎の戦車に乗って、預言者たちのもとに姿を現す必要があった。

41. エリヤはこの時代、私の到来に備える先駆者としてやって来た。彼は預言者として、その闘いや試練、そして啓示の知恵を伴った新しい時代を、あなた方に告げるために来たのである。 彼はその光の乗り物に乗ってやって来て、あなたがたをその乗り物に乗るよう招き、雲の上へと運び上げ、平和が支配する霊的な故郷へと連れて行くのだ。 善き羊飼いである彼を信頼し、「最初の時代」に民がモーセに従ったように、霊的に彼に従いなさい。あなたがたが使命を果たす際に彼が助けてくれるよう祈りなさい。そして、もし彼に倣いたいと思うなら、そうしなさい。（31, 58-59）

42. 人類には認識されなかった大いなる力を持つ霊、エリヤは、常に私の先駆者であった。今日、彼は再びやって来て、私の代弁者として仕えてきた「印さ

れた者たち」*、そしてすべての人々を準備させている。

＊「印された者たち」（スペイン語：marcados）あるいは「封印された者たち」（ヨハネの黙示録第14章1-5節）とは、キリストに選ばれ、その額に神の三位一体の印を受けた者たちである。（詳細については第39章の最後の節を参照のこと）

43. もしあなたがたが準備を整え、私の意志を知るために私の教えを学べば、エリヤが助けに来て、あなたがたの支えとなり、友となるだろう。

44. エリヤは、すべての存在を照らし、導き、わたしのもとへと導く神聖な光線である。彼を愛し、あなたがたの先駆者であり、執り成し手として崇めよ。（53、42-44）

45. 「第三の時代」の先駆者であり、その前触れである預言者エリヤは、その群れのために執り成し、祈ることを知らない者たちのために祈り、罪人の汚点をその外套で覆い隠し、その再生を願っている。 エリヤは、無知、罪、狂信、そして人類の物質主義によって生じた闇と戦うために、その群れ、その軍勢を整えている。（67, 60）

46. 今や、すでに備えられ、目覚めたすべての者の任務は、世界の解放を告げ知らせることである。この時代に約束されたエリヤが、かつてモーセがエジプトでイスラエルの部族たちに対して行ったように、物質主義に奴隷とされた地上の諸国をファラオの支配から救い出すために、現在すべてを準備していることを思い起こせ。

47. 同胞たちに、エリヤはすでに人間の知性を通じて現れ、その存在は霊的なものであり、すべての民族が進むことができるよう、今後も彼らの道を照らし続けると伝えなさい。

48. あなたがたの羊飼いの使命は、すべての被造物を、それが霊的、道徳的、あるいは物質的な領域に属するものであれ、その真の道へと立ち返らせることである。 それゆえ、私はあなたがたに告げる。エリヤを通して主の呼びかけを受ける国々は祝福されるであろう。なぜなら、彼らは正義と愛の法によって結ばれ続け、その理解と兄弟愛の果実として平和をもたらされるからである。このように結ばれた彼らは、戦場へと導かれ、そこで堕落、物質主義、そして虚偽と戦うことになる。

49. この戦いにおいて、現代の人々は新たな奇跡を目の当たりにし、不死と平和を語る、人生の霊的な意味を悟ることになる。 彼らは互いに殺し合うことをやめるだろう。なぜなら、彼らが滅ぼさなければならないのは、彼らの無知、利己心、そして物質的にも精神的にも彼らの没落と苦難を生み出した破滅的な情熱であることに気づくからである。（160, 34-36）

50. エリヤは神の光線であり、その光をもって彼はあなた方の闇を追い払い、罪の時代であるこの時代の束縛からあなた方を解放し、あなた方の魂を、神の懐にある「約束の地」に到達するまで、荒野を導いていくであろう。（236, 68）

第3章 - キリストの再臨という霊的な太陽

主の到来

1. 私は、新たな発見が人々の生活を一変させたこの時代に、人類の中に臨在している。そして、かつてあなたがたが私に対して抱いていたのと同じ謙虚さをもって、あなたがたの間での私の臨在を感じさせている。

2. 神の「御言葉」が再び人となったわけではなく、キリストが再び馬小屋の貧しさの中で生まれたわけでもない――いいえ、もはや、神の力を証しするために肉体が必要ではないからだ。もし人々が、この肉体がこの世に降臨した神であると考えているなら、それは誤りである。神の臨在は霊的であり、普遍的であり、無限である。

3. もし、この時代に人々が成し遂げたすべてが、正義と許容と善の範囲内にあるのであれば、私が再び下って来て、あなた方に語りかける必要はなかっただろう。 しかし、この人類が私に捧げるすべての行いが善であるわけではない。多くの過ち、多くの不正、多くの逸脱、そして多くの悪行がある。それゆえ、人間が自らの行いに最も深く没頭している時に、私の慈愛が人間を目覚めさせ、彼がどのような義務を忘れていたか、そして今あるもの、そしてこれからあるべきものすべてを誰に負っているのかを思い出させる必要があったのだ。

4. 霊から霊へと私を聞き取ることができなかった、物質化してしまった人類に、私の声を届けるためには、私は彼らの霊的な賜物と能力を用い、人間の知性を通じて自らを明らかにしなければならなかった。

5. 私が「降りてきて」あなた方に語りかける理由の説明は、次の通りである。あなた方は、主と霊から霊へと対話するために自ら高みへ昇ることができなかったため、私は一段階下へ降りなければならなかった。すなわち、あなた方がまだ到達できない霊的な領域、神聖な領域からである。 そこで私は、人間の脳内に位置する知性という器官を用い、私の神聖な霊感（インスピレーション）を人間の言葉や物質的な音へと変換せざるを得なかった。

6. 人間にはより広範な知識が必要であり、神こそが人間のも

とに来て、知恵を託すのである。もし、選ばれた が、これらの代弁者の理性の器官を通じて行われる私の短い啓示の手段として、あなた方にふさわしくないと思われるならば、私は真実を告げよう。彼らを通じて与えられるメッセージは、実に偉大なものである。 あなたがたは、私の啓示が、人々に印象を与えるような華やかで儀式的な形で行われることを望んだかもしれない。しかし、実際には、霊的な観点から見れば、それらは真の光を含んでいないため、虚しいものだっただろう。

7. 私は、自分の力をはっきりと示すために、稲妻や嵐を伴って現れることもできた。しかし、そうなれば、人々が「主の御臨在が訪れた」と認めるのは、どれほど容易なことだっただろうか！しかし、その場合、恐怖が再びあなた方の心に立ちこめ、理解を超えた何かという概念も戻ってきたのではないだろうか？ 父への愛の感情はすべて、ただその正義への恐れへと変わってしまっていたのではないだろうか？しかし、あなたがたは知っておくべきだ。神は全能の力であるにもかかわらず、その力によってあなたがたを打ち負かすことはなく、それによって支配しようとはしない。むしろ、別の力、すなわち愛の力によってそうするのだ。

8. 今日、宇宙に語りかけているのは神聖な御霊である。かつてあなたがたがはっきりと認識できなかったすべての事柄に光をもたらすのは、まさに御霊である。御霊はすべての人々にとって新たな日の夜明けである。なぜなら、御霊はあなたがたを誤った恐れから解放し、疑念を取り除き、あなたがたの魂と精神を自由にするからである。

9. 私はあなたに告げる。私の教えの本質と、私の法の正義を知った後、あなたは、自らの観念が課してきた限界、そしてそれが、真実に対するわずかな認識を超えることを妨げてきたことを、認識するようになるだろう。

10. もはや、探求し、発見することを妨げるのは、罰への恐れや恐怖ではない。あなたがたが、自分にとって理解不能なものを真に知りたがるときのみ、良心がその道を禁じるだろう。なぜなら、人間には全真理が与えられるわけではなく、自分にふさわしい部分のみを把握すべきであることを、あなたがたは知るべきだからである。

11. 人々よ。もし私の到来が、戦争や解き放たれた自然の猛威、疫病、そして混沌の只中にあると予告されていたとしても、それは私がこれらすべてをもたらしたからではない。それは、まさにその危機の瞬間に、私

の存在が人類にとって助けとなるからである。

12. さて、ここに、私の再臨について語られてきたすべてのことが成就する。 世界が死と格闘し、地球が死のうめき声とともに震え、身悶えしながら、新しい人類への道を切り開こうとしているまさにその時、私は人々のもとへやって来る。それゆえ、「第三の時代」における神の呼びかけは、正義、兄弟愛、そして平和をその内に宿し、それらを鼓舞する愛の呼びかけなのである。

13. かつてキリストの言葉は弟子たちの内に芽生え、彼らに従う民の中でその種は成長した。その教えは広まり、その真意は全世界に及んだ。同様に、今日のこの教えもまた広まり、それを感じ取り、理解する能力を持つすべての人々によって受け入れられるであろう。 (296, 17-27, 35)

すべての目がわたしを見るだろう

14. イエスは弟子たちにこう言われた。「わたしは、あなたがたからほんの少しの間離れるだけだ――また戻ってくる。」その後、彼らの師が天使たちに囲まれ、「雲の上」からやって来て、光線を地上に降り注ぐことが彼らに啓示された。

15. 今、私はここに「雲の上」にいます。私を取り囲む天使たちは、あなたがたの間で、私の神性の使者として、またあなたがたの良き助言者として現れた霊的な存在たちです。その光の輝きは、あなたがたに新たな啓示をもたらし、あらゆる知性を知恵で満たす、私の言葉なのです。

16. 見ることなく信じた者たちは幸いである。彼らは、私の臨在を感じる者たちだからである。 (142, 50-52)

17. 人はその霊によって真理を発見し、すべての人が私の臨在を感じるであろう。なぜなら、その時が来れば、すべての目が私を見るようになる、と私はかつてすでにあなた方に告げていたからである。

18. さて、あなたがたが生きているこの時代は、まさに、私の言葉と過去の時代の預言者たちによって予告された、すべての人々がその霊の感覚と能力によって私を見るようになる時代である。

19. 彼らが私を見たと言えるために、私を人間の姿という限定された形で見る必要はない。むしろ、彼らの霊が私を感じ、彼らの理性が私を理解すれば、彼らが私を見たのだと、完全に真実をもって言えるようになるのである。

20. 愛と信仰、そして知性は、あなたがたの目ができるよりもはるかに遠くまで見通すことができる。それゆえ、あなたがたに告げる。あなたがたにわたしを見させるために、わたしが自分の存在を人間の姿に限定したり、あるいは何らかの象徴的な姿に したりする必要はないのだ。

21. あの「第二の時代」に私を見たり、私と共に歩んだりした人々のうち、どれほど多くの者が、私が誰であるかさえ知らなかったことか。それに対して、私が人間として生まれたことさえ知らなかった人々のうち、どれほど多くの者が、霊の中で私を仰ぎ、私の光によって私を認識し、その信仰ゆえに私の臨在を喜びとしたことか。

22. あなたがたは皆、目を開き、信仰によって、あなたがたが光の子であることを証明しなさい。あなたがたは皆、わたしを見ることができるが、そのためには、善意と信仰を持つことが不可欠である。（340, 45-51）

23. わたしはあなたがたに言う。もしこの人類が、愛の欠如、正義と善からの背きによって、さらにわたしに敵対するならば、わたしはサウロの前に現れたように、彼らの道に栄光に満ちて現れ、彼らにわたしの声を聞かせるであろう。

24. そうすれば、あなたがたは、知らず知らずのうちにわたしを迫害していた者たちの多くが、変容し、啓発されて、善と愛と正義の道を歩むわたしの後を追うようになるのを目にするだろう。

25. 私は彼らにこう言うだろう。「立ち止まれ、旅人たちよ。この水晶のように澄んだ水の泉から飲みなさい。私があなたたちに課した過酷な人生の旅路から、休息をとれ。あなたの悩みを私に委ね、私の視線があなたの魂の奥深くまで入り込むことを許しなさい。私はあなたたちを恵みで満たし、慰めたいのだから。」（82, 46）

26. わたしの愛は、あなたがたの心の最も繊細な琴線に震えを走らせるだろう。しかし、あなたがたにこの神聖な協奏曲を聴かせるのは、あなたがたの良心との調和によるものであり、あなたがたの多くは、イエスの霊的な姿の中にわたしを見るだろう。

27. イエスの姿こそが、あなたがたが私を見る最も完全な形ではないことを、私は指摘しておかなければならない。 かつて私が「すべての目が私を見る」と語ったとき、私はあなたがた全員が真理を悟ることを示唆していた。とはいえ、私は各人の魂の成長段階に応じて、自らを制限せざるを得ないことを伝

えなければならない。しかし、あなたがたが完全性への階段を登っていくにつれ、確かに私のすべての栄光の中にある私を見るようになるだろう。

28. 今、いかなる形でも私を想像しようと試みてはならない。考えてみよ。あなたがたの霊は、たとえ限られているとはいえ、本質であり、光である。それならば、始まりも終わりもない（ ）あなたがたの主の普遍的な霊は、いったいどのような姿をしているというのか。その測り知れない神秘は、私の『神の知恵の書』の中に留めておきなさい。（314, 69-70）

29. 私の「第二の時代」の御言葉において、私は再びあなたがたのところへ来ること、私の霊的な軍勢が私と共に降りてくることを知らせた。しかし、人類は私の御言葉の意味を正しく理解せず、解釈も誤った。

30. それゆえ、あらゆる宗教団体が自分たちの真ん中で私を待ち望み、この世の目で見ることを期待している。しかし、今このように私を待ち望んでいる者たちは、かつてイエスがメシアであることを否定し、彼を夢想家だと見なした者たちと同じである。

31. 今日、私はあなたがた、私の弟子たちに告げる。あなたがたが私の全き栄光の中にある私を見る時が来る。その時、地球とその住人は清められ、魂の美徳と美しさが回復される。苦しみは消え去り、すべてが至福となり、あなた方にとって終わりのない、無限の「日」となるだろう。あなた方は、この奇跡を見たいと思わないのか。あなた方の子供たちが、私の霊と対話し、罪から解放されて平和な世界を築けるようになることを望まないのか。（181, 74, 81）

32. もし人類が「第一の時代」と「第二の時代」の預言を深く理解していたならば、それらの預言が実現したとしても、混乱することはなかっただろう。「第二の時代」にメシアが人々の間に生まれた時にも同じことが起こったが、今、私が霊として来られた時にも、まさに同じことが起きている。

33. 私の教えの真意は、どちらの時代においても同じである。それは、あなたがたがこの世を、たとえ儚いものであっても、愛に満ちた住まいとするよう備えさせるためのものであり、そこでは人々が互いを兄弟姉妹と見なし、そう接し、真の兄弟愛の温もりを互いに分かち合うのである。

34. また、この人生の後、主が御子らのために用意しておられるあの世界、あるいは住処へと入るために、魂を準備しなさい。 私の願いは、あなたがた

がそこにたどり着いたとき、見知らぬ場所だと感じるのではなく、霊性化と内なる知恵によって、出会うすべてのものを、あたかも以前にもそこにいたかのように見ることができるようになることです。もしあなたがたが、すでにここで祈りを通じて霊的なものとつながっているならば、そこには多くの真実があるでしょう。（82, 9-10）

35. 私は、あなたがたの心の扉を叩く旅人である。私は叩くが、あなたがたはそれが誰なのか分からない。あなたがたは扉を開けるが、私を認識しない。私は、村にやって来て、自分を誰一人として知らない旅人のようであり、異国の地に入り、その言葉では理解されない（ ）外国人のようだ。私は、あなたがたの中でそのように感じている。いつになったら、あなたがたは私の存在を感じるだろうか。おお、人々よ、いつになったら、かつてエジプトでヨセフが兄弟たちに認められたように、あなたがたは私を認めるだろうか。（90, 1）

第4章 - 神の啓示による教え

啓示の源

1. 常に神の中にあり、キリストの中にあり、今日あなたがたが聖霊によって知っている「言葉」が、あなたがたに語りかけている。なぜなら、「言葉」とは、言葉であり、律法であり、メッセージであり、啓示であり、知恵だからである。 もしあなたがたがキリストの言葉を通して「言葉」を聞き、今や聖霊の霊感によってそれを受け取っているならば――まことに、わたしはあなたがたに言う、あなたがたが聞いたのは神の声である。なぜなら、神はただひとり、言葉はただ一つ、聖霊はただひとりだからである。（13, 19）

2. 声の担い手の唇を通して語られる言葉の中に宿る、その光の源が何であるか、あなたがたは知っているか。その源は、善、神の愛、神から発せられる普遍の光にある。 それは、あなた方に命を与えるあの全光の一筋の光、あるいは一粒の火花であり、万物を動かし、万物を振動させ、脈動させ、絶え間なくその軌道を描かせる無限の力の一部である。 それは、あなたがたが「神聖な輝き」と呼ぶものであり、魂を照らし、生かす神聖な霊の光である。（329, 42）

3. 今この瞬間、常にあなた方の救いのために来られた方が、あなた方に語りかけている。キリスト、すなわち神の約束であり、「第二の時代」にイエスとして人となった、神の言葉が人

の言葉となったもの。 愛と光と知恵の霊であり、一筋の光線の中に封じ込められ、その光線は人間の精神、魂、そして理性を包み込み、私の考えを伝えるよう彼を導くのである。（90, 33）

4. 私は、この世において迫害され、冒涜され、被告とされたキリストである。「第二の時代」において、あなたがたがイエスを通して私にしたすべてのことを経て、私はあなたがたの元へやって来る。それは、私があなたがたを赦し、愛していることを、もう一度証明するためである。

5. あなたがたは私を裸のまま十字架につけたが、私もまた同じようにあなたがたのところに戻ってくる。なぜなら、私は偽善や嘘という衣の背後で、私の霊と真理をあなたがたの目から隠したりはしないからだ。しかし、あなたがたが私を認識できるようにするためには、まずあなたがたは自分の心を清めなければならない。（29, 27-28）

6. 今日、私はあなたがたに言う。ここに師がいる――人々がガリラヤのラビと呼んだその人だ。私は、永遠に通用する教え、すなわち愛の教えをあなたがたに与える。今日私があなたがたを招く祝宴は霊的なものであり、パンも ワインもまた同様である。しかし、今日、かつてのように、そしていつの時代も変わらず、私は道であり、真理であり、命である。（68, 33）

啓示の場所と啓示の受け手

7. 私が父の「言葉」であることを、また、あなたがたがこの言葉の中で受け取る神聖な本質は、この創造主の霊からの光であることを、そして、私があなたがた一人ひとりの内に私の霊の一部を残したことを、覚えておきなさい。

8. しかし、今まさに私の言葉に耳を傾けている群衆を取り巻く貧しさや、あなたがたが集まっているこの場所の質素さを見ると、あなたがたは心の中で私にこう問いかける。 「師よ、なぜこの時代に、あなたにふさわしい豪華な祭壇や厳粛な儀式が捧げられるような、あの大きな神殿や大聖堂を、あなたの啓示の場として選ばなかったのですか？」

9. 師についてこのように考えている人々の心に、私はこう答える。私をこの貧しさへと導いたのは、人間たちではない。私自身が、私の教えを広めるために、あなたがたの町の貧しい郊外にある質素な住まいを選んだのだ。それは、私があなたがたに求めているのは物質的な貢ぎ物や外見的な捧げ物ではなく、それとは正反対であることを、あなたがたに理解してもらうためである。 私はまさに、あなたがたが謙遜の中に霊性を見出せるよう、改めて謙遜を説くため

に戻ってきたのだ。（36，24-25）

10. ある人々は、集会の場所の貧しさや質素さ、そして私が自らを現す声の持ち主たちの目立たなさを理由に、私の存在を信じようとしない。しかし、そのような疑いを持つ人々がキリストの生涯を研究すれば、彼が決して見せびらかしや称賛、あるいは富を求めたことはなかったと気づくはずである。

11. これらの場所は、かつて私が生まれた馬小屋や藁の上のように、貧しく、ささやかなものであってもよい。（226、38-39）

12. 私がこの国を、新たな啓示のために最後の瞬間に選んだなどと思ってはならない。すべては永遠の昔から定められていたのだ。この地、この民族、そしてあなた方の魂は、私が準備してきたものであり、私の臨在の時もまた、私の意志によってあらかじめ定められていたのである。

13. 私は、最も卑しい者たち、すなわち、その知性と魂を清く保ってきた者たちの間で、私の啓示を始めると決めた。その後、私はすべての者が私のもとに来ることを許した。なぜなら、私の食卓には、差別も優遇もないからである。 この民に下された私の言葉は、その形式において単純で謙虚であり、あなた方にとって理解しやすいものであったが、その意味内容は極めて明快であり、あなた方の精神にとっては深遠なものであった。なぜなら、私はあらゆる知識の宝庫であるにもかかわらず、常に単純かつ明快に表現し、啓示するからである。私は誰にとっても 謎ではない。その謎や神秘は、あなた方の無知が生み出したものに過ぎない。（87，11-12）

14. 最初に私の言葉に耳を傾けた者たちは、私の業をまるで一本の木のように扱い、最初の枝を切り取って、それを様々な地域に移植した。ある者は私の教えを正しく解釈したが、ある者は道を誤った。

15. 貧しい集会所の陰に集まったグループは、小さなものでした。 しかし、その数が増え、人々の群れが拡大するにつれ、私は彼らに団結を呼びかけた。それは、すべての者が一人の師の弟子であることを自覚し、同じ方法で教えを実践するためであり、また、種が「働き人」*の気まぐれによってではなく、神の御心に従って蒔かれるようにするためであった。

＊ イエスの「ぶどう畑の労働者」のたとえ話への言及。

16. 新約の霊的な契約の箱の前で、人々の群れは服従、従順、そして善意を誓った。しかし、暴風や竜巻が猛威を振るい、木の枝を激しく打ちつけるようになると、弱気になった者もいれば、揺るぎなく堅固に立ち続け

、新しい「働き人」たちに「畑」を耕すよう教えた者もいた。
17. この啓示の偉大さを悟った者の中には、他者より優位に立つための知識と力を手に入れるべく、私の意志を超えて私の奥義に深く入り込もうとした者もいた。しかし、彼らはすぐに私の正義に直面することとなった。
18. また、この業の偉大さを、その純粋さ、その簡素さの中に発見することができなかった者たちは、私の啓示に厳粛さを与えることができると考え、宗派や教会の儀式、象徴、儀礼を取り入れた。（234, 27-30）
19. この啓示が明らかにされ始めて以来、たとえ不信仰者たちが現れたとしても――知性を鍛えた者たちの中にも、また教養のない者や無知な者たちの中にも――、あなた方の精神は私の教えによって照らされてきた。
20. この啓示を否定しようとする議論はどれほど多かったことか！この言葉を滅ぼそうとする試みはどれほど多かったことか！しかし、何ものも私のメッセージの歩みを止めることはできなかった。それどころか、この働きに反対すればするほど、人々の信仰は燃え上がり、時が経てば経つほど、私が私の言葉を伝える者たちの数は増えていった。
21. ここから何を学ぶべきか。それは、人間の力では、神の力がその御旨を遂行することを決して阻止できないということである。
22. 人々がこれらの集会の場の中で集まったとき、彼らは常に世を恐れることなく、常に私のな臨在と保護を信頼してそうしてきた。そして私は、彼らの信仰が真実に基づいていることを彼らに証明した。（329, 28-30, 37）
23. この共同体の中に、私に従うために愛と信仰に満ちた、素朴で謙虚な心を持つ者たちからなる、新たな使徒の群れが生まれた。 もちろん、彼らの間には、私の存在を信じるために目で見なければならない新しいトマスも、私を信じていながらも人々の恐れから私を否認してしまう新しいペトロも、そして金と諂い（お世辞）のために私の言葉と真理を売り渡し、私を裏切る新しいイスカリオテのユダも、欠けてはいなかった。
24. この民を構成する群衆は絶えず増え続け、都市、地方、村々に広がっていった。そして、この民の中から、真理と正義の使徒たち、主の教えに熱意を燃やす献身的な働き手たち、そして真実を語る清らかな心を持つ預言者たちが現れた。（213, 72-73）
25. わが新たな啓示において、私はすべてを変えた。すなわち、啓示の場所と手段を変えたのである。それは、わが以前の啓示に対してなされた無知、誤り、そして誤った解釈を排除する

ためである。 太陽が東から昇り、正午には天頂に達し、その後西に沈むのを見るように、私の霊の光も時を経て東から西へと移り行った。それは、あなたがたが私の栄光と力を特定の場所や人々、あるいは人種に限定しないためである。（110, 9）

26. 私にとって、ごく少数の者たちが私を聞き取るだけで十分である。なぜなら、彼らは明日、その証しを同胞たちに伝えるからである。もし私がすべての人々を呼び集めたとしても、その大半は、世の務めに追われて来なかっただろうと私は知っている。彼らは私を否定し、善意を持つ人々が私を聞くためにやって来るのを妨げただろう。

27. 私が自らを現す、この取るに足らない場所の静寂の中で、私は私の種を芽吹かせる。 私は、素朴な心を持つ者たちを共同体として結びつけ、彼らが物質主義的な生活の喧騒から離れたとき、愛、永遠、霊、そして真の人間的・霊的価値について語りかける。それによって、彼らが感覚ではなく、霊を通して人生を見つめるように導くのである。

28. 私はこれらの子供のような心を弟子と呼ぶ。彼らはかつて何も所有したことがなく、隣人から注目されたこともなかったが、私によって召されたという満足感に満たされ、新しい命へとよみがえった。 主が彼らの中に啓示を授け、愛の道を示してくださったゆえに、彼らは隣人の役に立てるという確信と高揚感をもって立ち上がったのである。

29. 彼らがイエスの弟子と名乗るゆえに、彼らを否定し、嘲笑する者もいるかもしれない。しかし、まことに、あなたがたに告げる。たとえ彼らからこの恵みが奪われたとしても、彼らは依然として私の弟子であり続けるのだ。（191, 33-36）

30. 世界は、私の声が彼らを呼ぶのを待っている。人々の心は、たとえ信仰において死んでいるとしても、キリストの声が近づき、「起き上がり、歩め」と告げるのを待ち望んでいる。

31. 「死者」たち、「盲人」たち、病者たち、そして社会から疎外された者たちは、非常に大きな民を成している。わたしは彼らのもとへ行く。なぜなら、霊的にも肉体的にも苦しんでいる者たちは、わたしの臨在を最も受け入れる準備ができているからである。 世の権力者たち――権力、富、そして世俗的な栄華を持つ者たちは、私を必要としていないと思い込み、私を待ち望んでいない。彼らはすでにすべてを持っていると言うのだから、キリストが彼らに何を与えられようか？ もしかすると、いくつかの霊的な恵みや、永遠における居場所だろうか？ そんなことは彼らには興味がないのだ！

32. それゆえ、私は、肉体的にも精神的にも貧しく病むこの大群衆を求め、彼らに私の教えを説いたのだ。彼らは私を切望し、私を探し求めていたからである。したがって、私が再び人類の前に現れる時が来たとき、彼らが私の臨在を感じ取ったのは、ごく自然なことであった。（291, 32-34）

神の啓示の伝達

33. 人間の知性によるこの啓示を疑う者は、他の被造物に対する自らの優位性を否定するかのように振る舞っている。それは、あたかも自らの精神を否定し、無限の試練、苦難、闘争を経て到達した精神的・知的な水準を自覚しようとしないかのようだ。

34. 私があなたがたの知性や精神を通じて自らを現すことを否定することは、自分自身を否定し、下等な被造物の立場に身を置くことを意味する。

35. 人間が神の子であることを知らない者がいるだろうか。人間が自らの内に魂を宿していることを知らない者がいるだろうか。ならば、父と子との間に、互いに意思疎通を図るための手段が一つあるいは複数存在しなければならないと、なぜ信じないのか。

36. 私は知性であるゆえに、あなたがたの知性を通じて語りかける。私は霊であるゆえに、あなたがたの霊に語りかける。しかし、私の啓示を否定する者たちが、私を霊として見ようとも、認識しようともしないならば、どうしてこの真理を理解し、受け入れることができようか。彼らは心の中に多くの誤った観念を抱いており、例えば、私が人間の姿をした神聖な存在であり、私とつながるためには象徴や像を通じて私を象徴化しなければならない、といった考えを抱いている。

37. 何世紀にもわたって、このようにわたしを求め続けた人々は、自分たちが祈りを捧げ、儀式を行う像や彫刻の無言さに慣れてしまい、やがて心の中に、「神を見ることも、聞くことも、感じることも、誰にも値しない」という考えが芽生えてしまった。 「私は人間に近づくにはあまりにも高遠すぎる」と言うことで、人々は私に敬意を表していると思い込んでいる。しかし、彼らは間違っている。なぜなら、私が人間のような小さな被造物と関わるにはあまりにも偉大すぎると主張する者は、私の霊があなた方に明らかにした最も美しいもの、すなわち謙遜を否定する無知な者だからである。

38. もしあなたがたがキリストを信じ、キリスト教徒であると主張するならば、主があなたがたに近づかれるに値しないなどという、そのような無意味な考えを抱いてはならない。神の「

御言葉」が人間となられたという、神の愛の証こそが、まさにあなたがたのキリスト教の信仰の基盤であることを、忘れてしまったのか。 魂が曇り、知性が弱い、罪深く肉欲的な人々の理解力に、私が神の声を人間の言葉として聞かせたこと以上に、これほど具体的で人間的な接近があっただろうか。

39. これこそが、人間に対する愛、謙遜、そして憐れみの最大の証であり、私はそれを血をもって確証した。それは、私にとって不適格な者は誰一人としていないことを、あなたがたが常に心に留めておくためである。なぜなら、私は、泥沼や闇、そして悪徳の中に最も深く迷い込んでいた者たちのためにこそ、私の言葉を人間として現し、私の血という命の雫を流したのである。

40. それなのに、これらすべてを信じている者たちが、なぜ今、私の臨在と啓示を否定するのだろうか。 なぜ彼らは、神は無限であり、人間はあまりにも低俗で、あまりにも取るに足らず、不適格であるから、これは不可能だと主張しようとするのか。まことに、わたしはあなたがたに言う。この時代にわたしの啓示を否定する者は、あの「第二の時代」におけるこの世でのわたしの臨在をも否定し、わたしの愛と謙遜をも否定しているのだ。

41. 罪人であるあなたがたにとって、自分の罪ゆえに私から遠く離れていると感じることは、ごく自然なことだ。しかし、私にとっては、あなたがたが過ちを犯し、魂を汚せば汚すほど、私があなたがたに寄り添い、光を与え、手を差し伸べ、あなたがたを癒やし、救うことが、ますます必要であると感じている。

42. 私が再び子供たちに現れたとき、多くの者が私を否定するだろうと知っていた。それゆえ、私は当時すでに再臨を予告していた。しかし同時に、その時の私の臨在は霊的なものであることも明らかにしておいた。もしあなたがたがこれを疑うならば、福音書に私の言葉を記したあの四人の弟子たちの証言によって確かめてほしい。

43. 今、私は霊としてここにあり、輝く「雲」からあなた方に私の言葉を送り、これらの伝達者たちを通してそれを人間的な言葉として伝えている。これは、あなた方全員が到達すべきあの啓示、すなわち霊から霊への対話への準備としての教えである。（331, 1-10, 13）

44. 神の御心は、恍惚状態にある私の代弁者たちによって言葉へと移され、それらが文として結ばれることで、啓示と完全な教えに満ちた霊的な教義を形成し、確立した。

45. これこそが約束された慰め主であり、すべてを教え導くで

あろうと予告された真理の霊である。その準備はすでに始まっており、あなたがたは、その霊に力を持つゆえに、心の気高さと謙虚さ、知恵と慈悲をもってあなたがたを導く者を必要とする時が来る。（54, 51-52）

46. わたしの教えは、あなたがたの知性に光をもたらすために、あなたがたのもとに来る。しかし、この時代にわたしがあなたがたのもとに来たその方法について、驚いてはならない。それによって混乱してはならないが、それを日常的なものにしてはならない。

47. 私の神聖な光が、私の代弁者として仕えるその人の知性へと至るとき、それは振動へと凝縮され、知恵と愛の言葉へと変容する。 私の霊が、この形であなた方の元へ至るために、天の梯子の何段もの階段を降りなければならないことか！また、私の教えについて詳細な説明をあなた方に与えるために、私は私の「霊界」をもあなた方に遣わさなければならなかった。（168, 48）

48. 私が人間の知性という器官を通して自らを現すのは、脳こそが、創造主によって完全に造られた「装置」であり、その中に、魂の光である知性が現れるためである。

49. この「装置」は、あなたがたがどれほど科学を駆使しても決して再現することのできないモデルである。あなたがたはその形と構造を、自らの創造物の手本として用いるだろう。しかし、あなたがたの父の御業が持つ完全さには、決して到達することはできない。それならば、なぜ私が、私が創造したものを用いることができると疑うのか。（262, 40-41）

50. いつの時代においても、師としての私の愛は、人々に必要な教えに細心の注意を払ってきた。そして私は常に、彼らの霊的な成熟度と知的な発達に合わせて語りかけるために、彼らのもとを訪れてきた。

51. 私があなた方のところに来たのは、あなた方が作り出した人間の言葉や教えが、あなた方の魂の燃えるような渇き――光への渇き、真理への渇き、永遠と愛への渇き――を満たしていないと見たからである。 それゆえ、私はあなたがたの間に身を置き、謙虚で、無知で、教養のない人々を用い、彼らを な知性と魂の恍惚状態に陥らせ、その口から「第三の時代」のメッセージが溢れ出るようにしている。

52. 私の神聖な思念を受け取り、伝えるにふさわしい者となるために、彼らは物質化や世の誘惑と戦わなければならなかった。 このようにして自らの個性を抑え、虚栄心を戒めることで、彼らは短い期間のうちに自らの存在を完全に捧げるに至り、その知性の器官を神の霊感に捧げ、こうして彼らの唇から、知恵

と優しさ、正義、癒し、そして平和に満ちた言葉が語られることを可能にしたのである。

53. 私の霊がそれらの脳に降りてくることなく、ただ私の光の一筋が彼らを照らすだけで、なぜ声の担い手たちがこれほど多くの知識を言葉で表現し、これほど多くの生命のエッセンスを聞き衆の精神に注ぎ込むことができるのか、理解できない者たちは常に存在するだろう。 それに対し、私はこう言おう。あなたがたが太陽と呼ぶ「王の星」でさえ、地球を照らすために地上に降り立つ必要はない。なぜなら、その星が遠くからあなたがたの惑星へと送る光は、地球を光と暖かさと生命に満たすのに十分だからである。

54. 同様に、父なる神の御霊は、無限の輝きを持つ太陽のように、霊的なもの、物質的なものを問わず、すべての被造物に注がれる光によって、万物を照らし、生気を与えている。

55. それゆえ、私の光があるところには、私の霊もまた臨在していることを理解せよ。（91, 12-16）

56. 私の霊の光の火花、すなわち神の言葉の反映こそが、私があなた方に私のメッセージを聞き取れるようにするために用いる、声の媒体の霊の上に降り注ぐものである。どの人間という声の媒体が、「言葉」の全力を受け取ることができるだろうか？ 誰もいない。そしてまことに、私はあなた方に言う、あなた方はまだ「言葉」とは何かを知らないのだ。

57. 「言葉」とは、命であり、愛であり、神の言葉である。しかし、そのすべての中から、声の媒体が受け取れるのは、ほんの一粒に過ぎない。だが、ここ、その光線の中、その本質の中に、あなたがたは無限なるもの、絶対なるもの、永遠なるものを発見することができるだろう。

58. わたしについて語るにあたり、わたしは偉大な業によっても、また小さく限られた現れによっても、それをなすことができる。わたしは万物の中にあり、万物がわたしを語っている。大きなものも小さなものも、等しく完全である。人間はただ、観察し、思索し、研究することを理解すればよいのである。（284, 2-3）

59. 私の「言葉」は、再び人間となったわけではない。私は今、あの世を象徴する「雲の上」にあり、そこから私の光線が放たれ、その声の持ち主の知性を照らしている。

60. 私は、人間を通して自らを伝えることを喜んだ。そして、私の決意は完全である。私は人間を知っている。なぜなら、私が彼を創造したからである。 私は彼をふさわしい者と見なす。彼は私の子であり、私から生まれたからだ。私は彼を用いることができる。それこそが私が彼

を創造した目的であり、また、私は 、彼を媒介として私の栄光を現すことができる。なぜなら、私は彼の中に私を栄光に輝かせるために彼を創造したからである。

61. 人間よ！彼は知性であり、生命であり、意識であり、意志であるゆえに、また私のすべての性質の一部を備え、その霊が永遠に属しているゆえに、彼は私の姿そのものである。

62. しばしば、あなたがたは自らが信じていたよりも取るに足らない存在であり、またある時には、想像しうる以上に偉大な存在である。（217, 15-18）

63. 少し考え、聖典を研究すれば、すべての預言者たちが、一つの霊的な内容を表現し、その言葉を人々に伝えたことがわかるだろう。 彼らは、当時の人々が実践していた物質主義的な礼拝の誤りなしに、人々に戒め、啓示、そしてメッセージを与えた。彼らは、神の律法と言葉に従うよう教え、人々が天の父とつながるのを助けた。

64. 人よ、あの預言者たちと、今、私があなた方に語りかけているこれらの「声の伝達者」たちとの間に、大きな類似点があると思わないか。私は、これら後者の口にもまた、私の律法の本質を授けている。彼らの言葉を通して、私の霊感があなた方に届く。そして、聴衆に対し、最も純粋な方法で主を求めるよう促す教えが、彼らから輝かしく溢れ出ているのだ。 彼らは、多くの聴衆の中に偵察者や狂信者が混じっていることを恐れず、語っている。彼らは父に仕えるという使命を献身的に果たし、父が彼らを通して人類に語りかけ、人々に新たな光の道を開く教えを与えられるようにしているのだ。

65. 人々よ、あの預言者たちとこれらの声の担い手たちとの間には、単に大きな類似点があるだけでなく、完全な関係も存在する。彼らはこれらを予告しており、かつて彼らが予言したことは、今やこれらの僕たちが体験しているのだ。（162, 9-11）

66. 私のすべての声の伝達者が、私に奉仕する準備をする能力と意志を持っていたわけではない。そしてしばしば、私は、無益なこと、あるいは罪深いことさえに没頭していた、不純な知性の器に、私の光を降ろさなければならなかった。 彼らはその過ちによって、私の正義を呼び起こした。なぜなら、彼らの知性はあらゆる霊感から奪われ、彼らの唇は神のメッセージを表現するための雄弁さを失っていたからである。

67. こうした場合、聴衆はそれらの貧弱な言葉に対して耳を閉ざしたが、その代わりに魂を開き、その中に私の存在を感じ、私の本質を受け入れるようにした。 人々は、その瞬間に私の慈悲が彼らに送った本質によって養われた。しかし、その声の担

い手は、自身の唇から発せられないメッセージを妨げ、それによって、まだその形で私の霊感を受け入れる準備ができていなかったにもかかわらず、出席者たちに、霊から霊へと師と対話することを強いた。（294, 49）

啓示の形式

68. 師の教えは、常に同じ愛を含んでいるため、いつも同じ方法で始まる。それは愛から始まり、慈悲で終わる――この二つの言葉の中に、私の教えのすべてが含まれている。これらの崇高な感情こそが、魂に力を与え、光と真理の領域に到達させるのである。（159, 26）

69. あなたがたは、「第二の時代」に私が用いた言葉の形式と、今私が用いている形式とは異なると言うかもしれない。そして、その点については、ある程度正しい。 なぜなら、イエスは当時、自分が暮らしていた人々の表現や言い回しを用いてあなた方に語りかけたのと同様に、私も今日、私の言葉を聞く人々の精神性を考慮してそうしているからだ。しかし、当時も今も語られているその言葉が伝える霊的な内容は同じであり、唯一無二であり、不変である。 それにもかかわらず、このことは、心が硬く、理解力が閉ざされている多くの人々によって見過ごされてきた。（247, 56）

70. ああ、不信仰者たちよ！来て、しばしば私の言葉に耳を傾けなさい。私の言葉は、あなた方の疑いを打ち消すであろう。もし、私の言葉の表現が、かつて私が用いたものとは異なると感じるならば、私はあなた方に告げる。形式や外見にとらわれるのではなく、その意味の内容を求めなさい。その内容は同じである。

71. その本質、すなわち真意は常にただ一つである。なぜなら、神性は永遠かつ不変だからである。しかし、啓示があなた方に届く形式、あるいは私がそれを通じてあなた方に真理のさらなる部分を知らせる形式は、常にあなた方が到達した受容能力や発展段階に合わせて現れるのである。（262, 45）

キリストの教えにおける来世の存在たちの臨在

72. まことに、私はあなた方に告げる。私の言葉が人間の知性を照らし出すその瞬間、ここには何千、何万もの脱体の存在たちが私の啓示に立ち会い、私の言葉に耳を傾けている。その数は、物質界に身を置く者たちの数よりも常に多い。 あなたがたと同じように、彼らもまた、光の領域へと入るために、闇の中からゆっくりと上昇してきているのである。（213, 16）

73. この私の言葉は、地上のあなたがたには人間の知性を通じて聞こえるが、あなたがたよりも高い生命段階にいる者たち、すなわち他の魂たちもまた、同

様にそれを聞き取っている。また、さらに高い生命段階に居を構える霊的存在たちも、同様にそれを聞いているのである。 なぜなら、父が「第三の時代」において光の霊たちと共に繰り広げるこの「協奏」は、普遍的なものだからである。

74. 私は言った。私の光線は普遍的であり、私の言葉と（そこに含まれる）霊の本質も同様に普遍的であり、霊たちが到達した最も高い段階においてさえ、彼らは私を聞き取っている。あなたがたは現在、この啓示において、人間によるという最も不完全な方法で私を聞いている。

75. それゆえ、私は今、あなた方をより高次の啓示に向けて準備している。そうすれば、あなたがたが霊界に入り、この地球を完全に去ったとき、新たな生命の段階と合一し、父があなた方の霊と共に奏でる「協奏曲」を聴くことができるようになるためである。

76. 今日、あなたがたはまだ物質界に身を置いている。この言葉によって、あなたがたの心と霊を慰めよ。そして、地上においてあなたがたに属していた者たち、あなたがたが今もなお父、夫、妻、兄弟、子、親族、あるいは友と呼ぶ者たちは、別の生命段階にあり、同じ言葉を聞いている。 しかし、彼らにとってその言葉の意味、その本質は異なるものである。たとえ彼らが同じ喜び、同じ慰め、同じ励まし、そして同じ糧を享受しているとしても。（345, 81-82）

77. 私はあらゆる世界へと、私の光の一筋を送っている。あなた方に対しては、この光を人間の言葉という形で届けたが、他の住処に対しては、霊感という形で届いている。

78. その神聖な光線の光の中で、すべての霊は一つに結ばれるだろう。彼らはそこから天への梯子を作り、それが皆を同じ地点、すなわち、私の神性の霊的な一粒であるあなたがたすべてに約束されている霊界へと導くのである。（303, 13-14）

啓示の時間的制限

79. わが王国は苦しむ人類の上に降りてくる。そして、わが言葉はこの時代の選ばれた者たちを通して響き渡る。それは、わたしを聞く者たちが、同胞たちの慰めとなるためである。

80. いつの時代にも、私は人間と私の神性との間に仲介者を置いてきた。それは、心から柔和で謙虚な者たちであり、私は彼らを用いてきた。今、私は教えの新たな使徒たちを準備している。この福音が、人間の間で霊的な生活への目覚めとなるためである。

81. 高貴な霊的使命を果たす能力を持つ者たちのうち、どれほど多くの者が、今なお世界中に散らばって眠り続けていることか！彼らは目覚め、その感情の

寛大さによって隣人にとって有益な存在となる時、自らの霊的進歩を証明するであろう。彼らは謙虚であり、決して優越感を誇示することはない。（230, 61-63）

82. 人類が、救いの十字架を抱きしめることによって、わが律法を成就するために立ち上がるよう、わが業は、歪められることなく人類に伝えられなければならない。

83. 私は人々、すなわち全人類にこれを約束した。そして、私の言葉は王の言葉であるゆえに、私はこれを成就させる。私は弟子たちを通して、私の言葉という黄金の麦を彼らに送る。そして、それは人々が準備を整え、やがて霊と霊との対話に喜びを見出せるようにするためのものとなる。 なぜなら、1950年以降、私はここでも、また他のいかなる場所でも、声の媒体の知性を通じて再び自らを現すことはしないからである。（291、43-44）

第5章 - 新たな神の啓示の理由

神の救いの意志

1. もしこの世に無知がなく、血が流されることがなく、痛みや悲惨さが存在しなければ、私の霊が、あなたがたの感覚に知覚される形で顕現する理由は存在しないだろう。しかし、あなたがたは私を必要としている。私は、この時代において、私の愛だけがあなたがたを救うことができることを知っている。それゆえ、私は来たのである。

2. もし私があなた方を愛していなかったら――あなた方が自らを滅ぼすことなど、何の意味があるだろうか。あなた方の苦しみなど、何の意味があるだろうか。 しかし、私はあなたがたの父である――すべての子供は自分の小さな一部であるから、子供の痛みを自らの内に感じる父である。それゆえ、私は私の言葉の一つひとつ、そして霊感の一つひとつの中に、霊にとって命である真理の光をあなたがたに与えているのだ。（178, 79-80）

3. 私は今、あなたがたの中にいて、あなたがたの心に呼びかけている。私が、あなたがたが絶え間ない敵対関係に巻き込まれているのを見て、私の平安が完全であると思うだろうか。それゆえ、私は偉大なる戦士として、闇と悪と戦うために来たのだ。そして私と共に、私の業を成し遂げるために、善の霊たち、すなわち霊界もまた来たのである。 この戦いはいつまで続くのか。私の子供たちが皆救われるまでだ。しかし、私は苦痛をもたらしたわけではない。ただ愛によってあなた方を変容させたいだけなのだ。（268, 31）

4. かつてのように、私の言葉は人々にとって再び不快なものとなるだろうが、私は彼らに真実を告げる。誰かを晒し者にすることなく、私は偽善者を偽善者と呼び、姦通者を姦通者と呼び、悪人を悪人と呼んだ。 真理は歪められていたが、今のように真理が隠されている今、再び輝きを取り戻す必要があった。それゆえ、真理は再び人々の目の前で明るみに出なければならない。（142, 31）

5. 私は、ただ一度だけでなく、何度も、また様々な方法で、弟子たちに私の再臨を告げ、約束した。 私は、私の到来を告げるしるし――自然界の兆し、人類における出来事、世界的な戦争、そして頂点に達した罪――をあなたがたに予告した。世界が誤りに陥り、私を再び人間として待ち望むことのないよう、私はキリストが「雲に乗って」、すなわち霊において来ると知らせた。

6. その約束は成就した。ここに、霊において世界に向かって語りかける師がおられる。ここに、平和と光の王国の主がおられ、ノアが人類の種を救うために箱舟を造った「最初の時代」のように、人々が避難し、救われることのできる計り知れないほど大きな箱舟を造っておられる。（122, 52-53）

7. 私がこの時代に自らを現した方法は、「第二の時代」とは異なるが、私の意図は同じである。すなわち、人類を救い、その道中で遭遇し、逃れることができなかったあの旋風から彼らを救い出すことである。

8. 誘惑はその全力をもって解き放たれ、人間は幼子のように堕ち、大きな苦しみを受けた。彼は苦難の杯を飲み干して、深い混乱の中で私を呼び求め、父は彼と共にいた。

9. 杯にはまだ苦い残滓が残っているが、わたしはあなたがたが、不従順の結果として生じるその苦しみに耐えられるよう助けてやる。わたしに耳を傾けるあなたがたは幸いである。あなたがたは強くなるからだ！しかし、あの大きな苦難が襲ったとき、他の人々はどうなるのか。信仰の欠如によって、彼らの魂は打ち砕かれてしまうのだろうか。 イスラエルの祈り*が、彼らを支えなければならない。（337, 38）

＊ この名称は、「霊的なイスラエル」と呼ばれる新しい神の民を指すものであり、イスラエル国家の住民やユダヤ民族全体を指すものではない（詳細は第39章を参照）

10. わたしは無限の愛をもって、あなた方を求めている。わたしはあなた方の魂にこれほど多くの恵みと賜物を注ぎ込んだので、わたしの子供たちの一人でも失うつもりはない。あなた方はわたしの霊の一部であり、わたしの本質の一部なのだ――これほど熱心に、これほど愛をも

ってあなた方を求める者が、どうして悪しき者であり得ようか？

11. 私があなたがたに私の言葉を授けるために降りてくるたびに、群衆の中に「最後の人々」を見出す。彼らは、心の中で最も私に問い求めている者たちである。しかし、私は彼らを喜ばせるために、常に彼らの問いに答えている。

12. 今日、最後にやってきた者たちが、私の再臨の目的は何かと問う。それに対し、私は、その意味は、人間が自らの力で本来の清らかさへと回帰できるようにすることにある、と答える。（287, 19-20）

誤りや形式化された礼拝の排除

13. 「第三の時代」は、人類にとって完全に到来した。私があなた方に私の言葉を与えてから約2000年が経過したが、過ぎ去った時間にもかかわらず、その教えは全人類にまだ認識されていない。それは、私がすべての子供たちから愛されていないからである。それにもかかわらず、皆が私に崇敬の念を抱き、皆がただ一つの神聖な霊、すなわち私自身の霊を求めている。 しかし、私は人々の間に一致を見出せない。彼らの中に、同じ信仰、同じ高揚、同じ認識を見出せない。それゆえ、私は聖霊として来たり、彼らを私の中に一つにまとめ、私の真理の教え、不変の言葉、愛と正義の律法によって彼らを完成させるために来るのである。（316, 4）

14. 知性の曇り、信仰の欠如、真理への無知は、魂にとって闇であり、それゆえ、今日の人類は迷いの道に迷い込んでいる。自分がどこへ向かっているのかを知らず、また知りたくもないままに生きる人々が、いかに増え続けたことか！

15. 私は、人類にとって、痛み、混乱、不安、不信に満ちたこのような時が来ることを知っていた。 私は、この闇からあなた方を救い出すと約束した。そして今、私はここにいる。私は真理の霊である。なぜ、再び私を人間として求めているのか。私が人間として死に、私の王国であなた方を待っていると告げたことを、覚えていないのか。それによって、私は魂が永遠であり、不死であることをあなた方に理解させたのだ。（99, 7-8）

16. この時代の私の言葉は、過去を思い起こさせ、秘密を明らかにし、来るべきことを告げ知らせる。 それは、人々が歪め、無効にしてしまったすべてのものを正すであろう。なぜなら、真理の守護者である私は、私の熱意と正義の剣を携えてやって来て、すべての偽りを打ち倒し、偽善と嘘を粉砕し、再び真理の神殿から商人たちを追い出すからである。

17. あなたがたが魂の救いを得るために、本や人々の助言、あるいは戒律の中に真理を求める必要はないことを理解せよ。

18. あなたがたは皆、救われる必要がある。すでに堅固な地に立っている者は、ひとりも見当たらない。あなたがたは嵐の夜に漂流する難破者であり、自らの命が危険にさらされているため、隣人のことは顧みず、ただ自分の命の安否に必死になっているのだ。

19. しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしは、あなたがた唯一の救い主である。あなたがたは、律法という航路から外れて迷い出た者たちを、再び探し求めてやって来る。 私はあなたがたが陸地、すなわち、その懐に霊のための無限の宝を秘めているゆえに、あなたがたを待ち受けているあの祝福された地へとたどり着けるよう、あなたがたの道を照らす。（252, 37-40）

20. かつて神の教えが誤って解釈されたように、この時代においても私の教えは歪められてしまった。それゆえ、 、師が再び訪れ、あなたがたが過ちから解放されるよう助ける必要が生じたのである。なぜなら、自らの力だけで迷いから抜け出せる者は、ごくわずかだからである。

21. 確かに、私は当時、再び来ると約束した。しかし、私がそうしたのは、人類が私の教えの道を歩んでいるという確信を持ちながらも、実際にはその教えから大きくかけ離れた時代が来ることを知っていたからである。そして、今こそが、私が再臨を予告したその時である。(264, 35-36)

22. 「第二の時代」において、キリスト――今この瞬間、あなた方に語りかけているこの方――は人間となり、地上に宿った。 しかし今、キリストは霊としてあなたがたと共にあり、人類に与えた約束、すなわち、新たな時代において再び来臨し、あなたがたに最高の慰めと真理の光をもたらし、それによって人々に啓示されたすべてのことを照らし、解き明かすという約束を果たしている。（91, 33）

23. 人類は方向を見失っているが、私は聖霊の光によって彼らを導き、彼らが私の言葉の真意を悟れるようにするために来たのである。

24. 時が経つにつれ、私の弟子たちが残した書物は人々によって改変されてきたため、宗派間の不和が生じている。しかし、私は人類を唯一の光と唯一の意志の下に結集させるため、私の教えのすべてを解き明かすであろう。（361, 28-29）

25. 今日、世界にとって新たな段階が幕を開けようとしている。そこでは、人間は思考においてより大きな自由を求め、その精神が背負ってきた隷属の鎖を打ち破るために闘うことになる。 今こそ、諸民族が霊的な糧と

真の光を渇望し、狂信の障壁を越えていくのを、あなたがたは目にする時である。そして、私はあなたがたに告げる。たとえ一瞬でも、自由に考え、探求し、行動できるという幸福を味わった者は、二度と自らの意思でその牢獄に戻ることはないだろう。 なぜなら、今やその目は光を見、その精神は神の啓示に魅了されたからである。（287, 51）

26. 私は、人々が私の教えを世代から世代へとますます神秘化し、私の律法を改変し、真理を歪曲していくことを知っていた。私は、人々が私の再臨の約束を忘れ、もはや互いを兄弟とは見なさず、最も残酷で、卑劣で、非人道的な武器を用いて互いに殺し合うようになることを知っていた。

27. しかし今、その時が訪れ、約束された日が到来し、私はここにいます。私が自らをあなた方に明らかにするために選んだ方法を非難してはなりません。なぜなら、私を裁くのは世界ではなく、今や人類の裁きの時であるゆえに、人類を裁くのは私自身だからです。

28. 私は人々の心の中に王国を築く――多くの者が期待するような地上の王国ではなく、霊的な王国である。その力は、この世の権力からではなく、愛と正義から湧き出るものである。

29. 私がこのように語るのを聞いて、驚く者もいると私は見ている。しかし、私はあなた方に問う。なぜ、あなたはいつも私を絹や金、宝石に身を包んだ姿として想像しようとするのか。なぜ、私がその反対を明らかにしたにもかかわらず、あなたは常に私の王国がこの世のものであると望むのか。（279, 61-64）

30. 私はすでに、戦いが激しいものになると予言した。なぜなら、誰もが自分の宗教を完全であり、その実践の仕方を非の打ち所がないものだと考えているからだ。しかし、もしそうであったなら、私がこの時代にやって来て、あなたたちに語りかける理由などなかっただろうと、私は告げる。

31. 私は霊感を通じて、深く霊的な教えをあなた方に与える。なぜなら、あなた方の礼拝の形式には異教が支配しており、狂信という悪しき種が、無知と憎悪の感情であなた方を毒しているのを見ているからだ。

32. 私の右の手には光の剣がある。私は、あらゆる反抗、あらゆる既存の悪、あらゆる偽りを打ち砕く戦士であり、王である。私の戦いが終わり、人々の心が祈りと生活のために一つになることを学んだとき、あなた方の霊の視線は、無限の光と永遠の平安の中にいる私を発見するだろう。 「これが私の王国だ」と私はあなた方に告げるだろう。「そして私はあなた方の王である。なぜなら、私はそのため

にここに存在し、あなた方を創造したのだ。すなわち、統治するために。」（279, 72-74）

真の命についての啓示

33. すべての人間は、私がすべての被造物の父であり、存在たちの運命が私の中にあることを知っている。それにもかかわらず、私は彼らから、その注意も敬意も受け取っていない。彼らもまた創造し、支配者であり、隣人の運命に対して力を持っていると信じている――それならば、なぜ私の前にひざまずく必要があるのか？

34. このようにして、人間は私の忍耐を試み、私の正義に挑んできた。私は彼に真理を見出すための時間を与えたが、彼は私から何も受け入れようとしなかった。私は父として来たが愛されず、その後、師として来たが理解されなかった。しかし、人類を救うことが必要であるため、今、私は裁き人として来る。私は、人間が私の正義に反抗することを知っている。なぜなら、彼は私を裁き主としても理解せず、神が復讐したと主張するだろうからである。

35. 私は、神の愛は完全であるゆえに、神が復讐の感情を抱くことはあり得ないということを、すべての人に理解してほしかった。同様に、神が苦痛を送ることもない。それを引き寄せているのは、あなたたち自身の罪なのだ。私の神聖な正義は、あなたたちの苦しみ、さらには死さえも超越している。 痛み、障害、失敗は、人間が絶えず自らに課す試練であり（ ）、その種蒔きの果実こそが、彼が徐々に刈り取ることになるものである。私にとっては、こうした人生の危機のたびに、あなたがたの霊に私の光を届けて、その霊が救いを得られるようにすることだけで十分である。（90, 5-7）

36. 真理の御霊が降りてきて、奥義を解き明かし、あなたがたが真の命を享受するために必要な知識を啓示してくださるのです。 その御霊は、神の裁きが罰でも復讐でもなく、あなた方を光と平和と至福へと導く愛の裁きであることを証しするために、あなた方の苦しみの上に注がれる神の慰めである。（107, 24）

37. 昇華する者たちにのみ許された事柄を理解し、認識する者は、自分に啓示されたその光から、もはやその精神を引き離すことはできないことを知れ。 未知の世界に足を踏み入れようとも、あるいは幾度となく地上に戻ろうとも、かつて神聖な光の火花として受け取ったものは、その存在の最も純粋な部分から、予感として、あるいは神聖なインスピレーションとして、繰り返し湧き上がってくるだろう。 時として、それは甘い目覚めのように、あるいは天上の歌のように蘇り、心を歓喜で満たすだろう。それは、霊的な故郷へ

の帰還への憧れのように。これこそが、この生に帰還する魂たちにとって、私の教えが意味するものである。一見、霊は自らの過去を忘れているように見えるが、実のところ、私の教えの知識を失っているわけではない。

38. 今この瞬間、この形で彼らに語りかけているのが神の言葉であることを疑う者たちに対して、私はこう告げる。もし彼らが私にその名を授けたくないのであれば、もしこの言葉を神の師に帰属させたくないのなら、彼らはこの教えの真意を心に留め、その一つひとつの考えを深く掘り下げるべきである。 そして、聞いたことを熟考した結果、そこに人類のための光と真理が含まれているという結論に達したならば、それを地上の歩みの指針として用い、それによって自らの生を改めるべきである。

39. 私は、あなたがたに真の知恵を授けていることを知っている。人々が何を信じようとも、私の真理には何ら変わりはない。 しかし、人間は、自分が信じ、知り、愛するものを確信している必要がある。ただそのために、私は時折、啓示において人類のレベルに身を置き、そうして彼らが私を認識できるようにしているのだ。（143, 54-56）

40. 人々が私に対して抱くイメージは非常に限られており、霊的なものに対する彼らの認識は極めて乏しく、信仰も非常に小さい。

41. 宗教は、何世紀にもわたる夢の中で眠り続け、一歩も前進していない。そして目覚めたとしても、その活動は内部の に留まり、自らの伝統によって築き上げた枠を打ち破る勇気はない。

42. 光と、清らかな霊的な環境と、真理と進歩を渇望して、その輪を抜け出すのは、軽んじられた者たち、貧しい者たち、素朴な者たち、無知な者たちであろう。彼らが、霊性化の時代における私の新たな啓示の時が来たことを感じ取ったとき、鐘を鳴らし、目覚めの呼びかけを響かせるのは、まさに彼らである。

43. 人々は、霊的生活の神秘――彼らが不可避的に歩み入らなければならないその存在――を発見したいと願っている。それゆえに、彼らはそれを知ることに興味を抱いているのだ。

44. 人々は、準備の必要性を感じているため、慈悲による光を求め、懇願し、請い求める。しかし、そのすべてに対する答えとして、霊的生活は神秘であり、それを覆うベールを持ち上げようとする願望は、傲慢であり冒涜であると告げられる。

45. まことに、わたしはあなたがたに告げる。真理と光を渇望する者たちは、その渇きを癒やす泉を、この世では見出せないであろう。 魂が渇望するその知

恵の水を天から降らせるのは、私である。私は、あらゆる霊と知性の上に、私の真理の泉を注ぎ出し、「秘密」を無に帰させる。なぜなら、私はもう一度言うが、人々のために秘密に身を包んでいるのは私ではなく、それを作り出しているのはあなた方自身だからである。

46. 確かに、神は無限であり、あなたがたはただの一粒の微粒に過ぎないことを考えれば、あなたがたの父の中には、あなたがたが決して知り得ない何かが常に存在するだろう。 しかし、あなたがたが永遠において何者であるかを知ってはならないこと、あなたがた自身が自分にとって解き明かせない謎であり続けなければならないこと、そして霊的な生活に入ってからでなければそれを知ることはできないと待つ必要があること――これらは、私が定めたことではない。

47. 確かに、かつてはこのような形であなたがたに語られることはなく、霊的知見の光へと踏み込むよう広く呼びかけられることもなかった。しかし、それは単に、過去の人類が今日感じているような知るべき切迫した必要性を感じていなかったからであり、また、霊的にも知性的にも理解する能力を備えていなかったからに過ぎない。 たとえ人々が常に探求し、あちこちと手探りしていたとしても、それは光への真の渇望というよりは、むしろ好奇心から行われていたに過ぎない。

48. 人々がその光へと導く道を見出し、命と知恵の泉の水を浴びることができるようにするためには、まずあらゆる外的な儀式を捨て、心からあらゆる狂信を排除しなければならない。 そうして、彼らが心の中で、生ける全能の神の臨在を感じ始めるとき、彼らは自らの存在の最も奥底から、感覚と誠実さに満ち、高揚と温かさに満ちた、未知の新たな敬虔さ が湧き上がってくるのを感じるだろう。それが、霊によって啓示される真の祈りとなるのである。

49. これが、光への上昇の始まりであり、霊化への道の第一歩となる。もし御霊が人間に真の祈りを啓示し得るならば、御霊はまた、御霊が持つすべての能力、そしてそれらを開花させ、愛の道へと導く方法をも、人間に啓示し得るであろう。（315, 66 75）

50. あなたがたは、私の啓示の中に「第二の時代」と同じ教えを見出すことができるだろう。しかし、この時代において、私は聖霊の光を通して、あなたがたに測り知れないことを啓示した。そして、霊から霊への対話の中で、私はこれからも、新しく、そして非常に偉大な教えをあなたがたに啓示し続けるであろう。 第六の封印の全内容を、私はこの啓示の時代にあなた方に知らせる。それは、私が第七

の封印を解く時へとあなた方を備えさせるものである。 そうして、あなたがたは「測り知れないもの」をますます認識するようになるだろう。そうして、霊界こそがすべての魂の故郷であり、高きあの世であなたがたを待ち受ける、無限で素晴らしい父の家であることを発見するだろう。そこでは、あなたがたが隣人に対して愛と慈悲をもって行った行いの報いを受けることになるのだ。（316, 16）

人間の進化、霊化、そして救済

51. 私があなた方に与える教えは、単にあなた方の物質的な本性を抑制するための道徳的な手綱というだけのものではない。むしろ、それによって、あなた方は魂の完成というより高い境地へと登りつめることができるのだ。

52. 私はあなたがたの間で新しい宗教を設立するのではない。この教えは、私の真理に基づいている限り、既存の宗教を否定するものではない。これはすべての人への神の愛のメッセージであり、あらゆる社会制度への呼びかけである。神の意図を理解し、私の戒めを果たす者は、自らの魂の進歩と高みへの発展へと導かれるのを感じるだろう。

53. 人間が、自らの生涯において必要とされる霊化を理解しない限り、平和が世の中で現実のものとなる日は、まだ遥か先のことである。それに対し、私の愛の法則を全うする者は、死をも、またその魂を待ち受ける裁きをも恐れることはない。（23, 12-13）

54. 私はこれらの啓示によって、単に世界に平和をもたらし、肉体的苦痛を和らげるだけではない。この啓示を通じて、私はあなたがたの魂の進化について語る偉大な教えを授けるのである。 もし私が単に世の富をもたらすことだけを望んでいたのなら――まことに、私は言っておくが、それならば、私が直感によって啓発し、自然の秘密を明らかにした科学者たちに、自然から癒しの薬を取り出し、あなたがたの肉体の苦しみから癒やすよう命じるだけで十分だっただろう。

55. 私の業は、あなたがたの惑星の彼方、あなたがたを取り巻く無数の世界へと続く、さらなる地平線を示そうとするものである。それは果てしなく続く地平線であり、あなたがたに属する永遠への道を指し示すものである。（311, 13-14）

56. 私の霊的な教えには、いくつかの目的や使命がある。一つは、追放された魂を慰め、彼女を創造した神が、平和の御国で永遠に彼女を待っておられることを理解させることである。もう一つは、彼女が救いと昇華、あるいは完成を達成するために

、どれほどの賜物と能力を手にすることができるかを、彼女に知らせることである。
57. この言葉は、霊化のメッセージを伝えるものであり、人々の目を開き、彼らが現実を直視できるようにする。彼らは、目に見えるもの、触れるもの、 あるいは人間の科学によって証明できるものの中にしか見出せないと信じている現実を、直視できるようにする。彼らは、その過程で、はかないものを「現実」と呼び、真の現実が存在する永遠のものを誤解し、否定していることに気づいていないのだ。
58. このメッセージを国から国へ、家から家へと広め、光と慰めと平和の種を蒔き、 そうして人々が少しの間立ち止まり、精神に休息を与えることができるように。その休息は、精神が省察し、思い出すために不可欠なものであり、いつの瞬間も霊界への帰還の時となり得ること、そしてこの世での行いと蒔いた種によって、霊的な生活へと至った際に収穫する実が決まることを。 (322, 44-46)。

第6章 - 第三の聖書と生命の大いなる書

神の愛、真理、そして知恵の書

1. わが言葉の書は、神聖かつ真の愛の書である。その中に、あなたがたは不変の真理を見出すであろう。それを手に取れば、あなたがたは、自らを成長させ、永遠の平安を得る助けとなる知恵を見出すであろう。 その真意を歪めたり変更したりする者は滅びるであろう。また、私の完全な教えと調和しない言葉を一つでも省いたり、付け加えたりする者は、私の律法を重大に犯すことになる。
2. この言葉を、その本来の純粋な姿のまま守りなさい。それは、私が人類に残す最も美しい遺産だからである。私の教えを書き留め、それを人々に広めなさい。そして、この遺産に対する責任を負っているのだから、それを忠実に守りなさい。
3. 明日、人々はそこに、私の啓示の本質を見出すだろう。その教えの光は、人々を真理の道へと導くであろう。
4. これらの書物は、親から子へと、生ける水の泉として受け継がれていくであろう。その流れは尽きることなく湧き出し、心から心へと流れていく。生命の大いなる書、すなわち霊化の書に学びなさい。それは、あなたがたが時代を超えて受け継いできた神の啓示を解き明かすであろう。

5. あらゆる知識がその本来の真理へと回復されることを、私はあなた方に約束しなかったか。なぜなら、今こそ、あなた方に告げられた時だからである。

6. まことに、私はあなたに告げる。私の書の教えについて思索し、自らの認識を高めたいという真の渇望をもってそれを深く探求する者は、その魂のために光を得、私をより身近に感じるようになるであろう。

7. 昔も今も、神話は崩れ去るだろう。凡庸なものや偽りのものはすべて倒れるだろう。なぜなら、もはや不完全なものによって養われることができない時が来るからであり、その時、魂は真理を求めて旅立ち、それを唯一の糧とするようになるからだ。

8. これらの教えの中で、人類は、今日に至るまで霊性の欠如ゆえに理解できていなかった、わが啓示の本質を見出すであろう。古の時代から、わたしは使徒たち、使者たち、そして「通訳者」たちを通じて、それをあなた方に託してきたが、あなた方はそれを、神話や伝統を作り出すためだけに利用してきたに過ぎない。 もし何世紀にもわたる混乱と苦しみから逃れたいと願うなら、畏敬と愛をもってこの教えを熟考し、研究しなさい。 しかし、単にこの書物を所有しているだけで満足しては、あなたがたの使命を果たしたことにはならない。いや、もしあなたがたが真に私の弟子でありたいと願うならば、この書物はあなたがたを目覚めさせ、教え導くものである。私があなたがたに示した模範、愛、そして助け合う心をもって教えなさい。（20, 1-8）

9. 私の教えの書は、この時代に私が人間の知性を通じてあなた方に口述した教えから成っている。人類がやがて「第三の聖書」として認めることになるこの書をもって、あなた方は私の神聖な大義を守り抜かなければならない。

10. 人類は「最初の時代」の律法と、第一および第二の聖書に記されていることしか知らない。しかし、第三の聖書は今、人々が備えと理解の欠如によって歪めてしまったものを統合し、正すであろう。 人類は、私のメッセージを研究し、その言葉の一つひとつの中核に深く入り込み、一つの理想、一つの真理、そして霊性へと導く唯一の光を見出さなければならない。（348, 26）

11. 私は、科学者が知らないために教えることのできないことを、あなた方に啓示する。彼はこの世の偉大さの中で眠りにつき、私の知恵を渇望して私のもとへ立ち上がろうとはしなかった。

12. 様々な宗派や宗教団体において、霊にとっての偉大さと豊かさである霊的知識を教えるべ

きであった聖職者たちの心は、閉ざされてしまった。

13. わたしは、かつて人類に授けた律法と教えが隠され、儀式や外見的な礼拝、伝統に取って代わられているのを見てきた。

14. しかし、あなたがたは、この言葉の本質が、シナイ山でイスラエルが受けたもの、そして「第二の時代」にイエスの口から聞いたものと同じであることを深く理解しているあなたがたは、神への崇拝と行いを通じて、魂に益とならない愚かな伝統に従うために、神の律法を忘れてはならないことを教えるべきである。（93, 10-13）

15. わたしは、あなたがたがメッセージ、戒め、預言、そして教えを受け取った、わたしの使者の名々を思い出させた。

16. このようにして、私は過去のすべての教えの内容を、一つの教えに統合したのである。

17. スピリチュアリズムとは、三つの聖書が一つの霊的な書物に統合された遺産である。（265, 62-64）

18. 霊的なものを明らかにするゆえに「霊的」と呼ばれるこの教えは、人間が創造主を知り、彼に仕え、彼を愛するようになるために、人間のために定められた道である。それは、人々に、自分の隣人の中に父を愛することを教える書である。スピリチュアリズムは、善、純潔、完全を命じる法である。

19. この法則に従う義務はすべての人に課せられている。しかし、それは誰にもその履行を強制するものではない。なぜなら、すべての霊は自由意志を享受しており、そうすることで、裁きを受ける際、その闘いおよびすべての行いが、自らの功績として認められるようになるからである。

20. したがって、この教えこそが、私の子供たちの最初の一人から最後の一人までをすべて照らし、彼らに温もりを与えてきた、神の愛の炎であることを認識せよ。（236、20-22）

霊の教えとイエスの教えとの関係

21. 霊の教えは単なる理論ではなく、人間生活と魂の生活の双方に対する実践的な教えである。これほど包括的で完全な教えは他にない。それはあなたがたが地上に来る前から付き添い、この世での日々の営みの全期間を通じて付き従い、魂が以前の住処へと帰るときには、魂と融合するのだ。

22. あなたがたの礼拝から典礼や伝統を取り除くのは、私ではない――それは、自らの発展の道を照らすより大きな光が必要であることに直面し、古い観念を自ずと乗り越えていく人間の精神である。 まもなく、人間は、神に捧げることができる唯一のものは愛の実践であることを理解するだろう。なぜなら、愛

とは善、慈悲、知恵、そして正義を意味するからである。

23. スピリチュアリズムは、キリストがかつて説いた言葉のどれ一つとして消し去ることはない。もしそうでなければ、それは真理に背くことになるため、その名を名乗ることは許されないだろう。同じ師が語っているのだから、どうしてこの言葉があの言葉に反することがあろうか。 もしあなたがたが、この教えの真意を真に深く理解するならば、今日の私の言葉こそが、かつて私が語ったすべての事柄の説明であり、解説であることに気づくでしょう。それゆえ、今日の人類、そして未来の人類は、過去の世代よりも多くを理解することができ、それゆえに、より純粋で、より高次で、より真実な方法で律法を履行することができるのです。

24. もしあなたがたが、人々が宗教を実践する様子を注意深く観察すれば、かつて彼らが崇拝の対象としていたものを、今や内なる共感を持たずに眺めていることがわかるだろう。 その理由は、魂が自発的に目覚め、真に自分を養うことができるものを求めているからである。それゆえ、私はあなた方に告げる。この人類の表層的な礼拝の行いは、やがて消え去る運命にあるのだ。（283, 27-30）

25. この謙虚で質素でありながら、神聖な光に満ちた書物の中で、人々はあらゆる疑念の解明を見出し、かつては部分的にしか啓示されなかった教えの補完を発見し、古のテキストに象徴として隠されているすべてのものを解釈する、明快かつ単純な方法を見出すであろう。

26. この霊的なメッセージを受け取った後、その内容の真実性を確信し、 感覚的な刺激への渇望、偶像崇拝、そして狂信と闘い、その知性と心をあらゆる不純物から清めようとする者は、自らの魂を解放し、それに喜びと平安をもたらすであろう。なぜなら、その魂は今や、待ち受ける永遠を勝ち取るために戦うことができるようになるからである。 しかし、外見上の礼拝を続け、この世のものへの愛に固執し、魂の開花や発展を信じない者たち――まことに、私はあなたに告げる。彼らは取り残され、自らの遅れと無知に気づいたとき、涙を流すことになるだろう。（305, 4-5）

新しい言葉をめぐる論争

27. もし私の教えが、あなたがたにとってあまりにも異質に思え、私を知っているにもかかわらず、そのような言葉を聞いたことがないと思うのであれば、私はあなたがたに告げる。その驚きは、私がかつてあなたがたに啓示したものの核心を探求することを怠った結果である。 それゆえ、この教えはあなた方にとって異質なもの、あるいは新しいものに思えるかもしれない

が、実のところ、この光は常にあなた方の人生の中に存在していたのである。（336, 36）

28. 「第二の時代」と同様に、この時代の私の教えは人類を震撼させるだろう。偽善者たちは、真実と向き合わなければならない。偽りはその仮面を脱ぎ捨て、真理が輝きを放つだろう。真理は、この世界を覆っている嘘を打ち破るだろう。

29. 人間は、理性と真理を含むすべてのものを理解し、認識することができるようになるだろう。しかし、たとえ理解できなくても信じさせられたものはすべて、自ら拒絶するようになる。それゆえ、私の教えは、人々が必要とする光を放つゆえに、広まっていくのである。 あなたがたには、この業の大きな役割が与えられている。すなわち、その始まりと目的を、同胞たちに明らかにすることである。（237、28-29）

30. 人類は、わたしの言葉、わたしの真理を渇望している。人々は、自らの知性のために光を求め、切望し、正義を叫び、慰めを期待している。今こそ決定的な時である。まことに、あなたがたに告げる。何世紀にもわたって真理とされてきた多くの観念、理論、さらには教義さえもが、崩れ落ち、誤りとして捨て去られるであろう。 狂信と偶像崇拝は、それらに最も囚われ、縛られていた者たちによって、打ち破られ、排除されるであろう。神の教えは理解され、その光、その内容、その本質が把握され、実感されるようになる。

31. 試練の時を経て、科学者たちが甚大な混乱を経験した後、彼らの精神に光が差し、自らの精神の声を聞き取るとき、彼らは夢にも思わなかったことを発見するだろう。

32. 改めて言っておく。目を覚ましていなさい。信仰告白と教義、宗教と科学が対立するこの時代において、多くの人々は、自分たちが本から得た知識こそが、私の新しい弟子たちを打ち負かすための武器になると考えるだろう。彼らは、あなたがたが本を携えていないことをよく知っているからだ。（150, 1113）

33. 弟子たちよ、私はあなたがたに、大きな教会や小さな宗派と対峙することになると告げた。しかし、どちらに対しても恐れることはない。 私があなた方に託した真理は明白であり、私が教えた言葉は、外見上は明快で単純だが、 その意味合いは無限の深みを持っており、それらはあなた方が戦い、勝利するための強力な武器となる。

34. しかし、わたしはあなたがたに告げる。地上には、物質主義と不信仰に満ちた一つの民が立ち上がり、あなたがたがイスラエルと名乗る権利を否定し、メシアの再臨を目撃したというあなたがたの証言を否定しよう

とするだろう。その民とは、ユダヤ人のことである。 あなたがたは、そのことを考えていなかったのか。その民は、その中にあって、彼らに正義をもたらし、再び地上のすべての民の上に彼らを置く、彼らのメシア、彼らの救い主の到来を待ち望んでいる。 その民は、私が常に彼らのもとに来られたことを知っており、この「第三の時代」において、こう言うだろう。「なぜ神は他の民のもとに来られるのか？」――しかし見よ、ここに私の教えがある！（332, 10）

35. ここにあるこの霊的共同体は、知られずに生きている。世界はあなたがたの存在を知らず、権力者たちはあなたがたに目も向けない。しかし、霊性主義者と「キリスト教徒」の間、霊性主義者とユダヤ人の間の戦いが近づいている。その戦いは、全人類に私の教えを広めるために必要である。そうして初めて、旧約聖書は新約聖書および第三の書と一つに統合され、一つの本質となるだろう。

36. あなた方の多くには、これは不可能に思えるかもしれない。しかし、私にとっては、これほど自然で、正しく、完全なことはない。（235, 63-64）

『真の生命の大いなる書』

37. わが言葉は永遠に書き残されるであろう。そこから、あなたがたは第三の時代の書、第三の聖書、父の最後のメッセージを編纂することになる。なぜなら、三つの時代すべてにおいて、神は人類にその知恵を遺すために、その「金のペン先」*を持っておられたからである。 * この用語は、神の啓示に参加し、主の言葉を速記で書き留める任務を負った者たちを指す。

38. モーセは、父が「第一の時代」の出来事を消えることのない文字で巻物に書き記すために用いた最初の「金のペン」であった。モーセはエホバの「金のペン」であった。

39. 「第二の時代」における私の使徒たち、すなわち後継者たちの中で、イエスには四人の「筆」がおり、それはマタイ、マルコ、ルカ、そしてヨハネであった。これらは神の師の「金の筆」であった。しかし、愛と認識と霊的進歩の絆によって、旧約聖書が新約聖書と一つに統合される時が来ると、それらは一つの書物となった。

40. 今、「第三の時代」において、あなたがたは再び私の言葉を受け取っているが、私は同様に、それが書物として保存されるよう、「金のペン」を任命した。

41. 時が来れば、あなたがたは一冊の書物を編纂することになる。そしてこの「第三の時代」の書物は、その時期が来れば、同様に第二の時代と第一の時代の書物と統合されることになる。 そしてその時、「三つの時代」の啓示、預言、そして言葉か

ら、すべての魂の啓発となる『大いなる生命の書』*が生まれるのである。

＊『真の生命の書』第85の教え、第24節からの解説文：「この（現在編纂中の）遺言書、あるいは書物が、以前の書物と統合されるよう、あなたがたが努力する必要はない。なぜなら、この書物において『三つの時代』の啓示と教えを統合したのは、私であるからだ。私はそれらから本質を抽出し、一つのメッセージを作り上げたのである。」

42. そうすれば、あなたがたは、最初の一語から最後の一語に至るまで、すべての言葉が真実と霊において成就したことを、また、すべての預言が、人類の父が啓示された、あらかじめ見通された歴史の経過であったことを悟るであろう。なぜなら、これから起こる出来事を書き記させることのできるのは、神のみだからである。預言者たちが語ったとき、語ったのは彼ら自身ではなく、神が彼らを通して語られたのである。

43. わたしは、わたしの新しい選ばれた者たちに、モーセや「第二の時代」の四人の弟子が受けたのと同じだけの十分な準備を与えた。それは、わたしの言葉が完全な誠実さ、完全な明瞭さ、そして真実をもって書き記されるためである。なぜなら、それは明日の世代のためのものであるからだ。 しかし、もし誰かがその書物に何かを加えたり、削除したりしようとするならば、私はあなた方を問いただすことになる。

44. さて、わが愛する子らよ。あなたがたが編纂し始めたこの書物に、今、誰が重要性を認めているだろうか。実のところ、誰もいない！しかし、やがて人類が、渇望と好奇心に満ちて、あなたがたの書物を求めてくる時が来る。その時、彼らは目覚め、わが言葉を研究し、それについて議論するようになる。 その思想の争いの中で、科学者、神学者、哲学者といった各陣営が現れるだろう。諸国には、あなたがたの言葉の証しと知恵の書が届けられ、誰もが私の教えについて語るようになる。 これが、言葉と思想とイデオロギーをめぐる新たな戦い、すなわち戦争の始まりとなるだろう。しかし、最終的に、すべての人々が真理と霊において、『命の大いなる書』が主によって書かれたことを悟ったとき、彼らは兄弟のように抱き合い、私の意志通りに互いを愛し合うようになるだろう。

45. なぜ「最初の時代」において、世界を一つにするのにエホバの言葉だけでは不十分だったのか。また、第二の時代においても、イエスの教えはそれを成し遂げることができなかったのか。なぜこの時代において、諸国が互いに愛し合い、平和に暮らすために、私が1866年以来、

私の言葉を授けてきただけでは不十分だったのか。 この言葉が全世界を照らすためには、三つの書が一つとなることが必要である。そうすれば、人類はその光に従い、バベルの呪いは解かれるであろう。なぜなら、すべての人々が『真の命の大いなる書』（ ）を読み、皆が同じ教えに従い、霊と真理において神の子として互いに愛し合うようになるからである。（358, 58-66）。

第7章 - 霊の教えの影響と意義

啓示の効果

1. ここに、この御言葉を前にして、その存在の内面と外面、すなわち霊と肉において震えない者は一人もいない。ここで私に耳を傾ける間、人は生と死、神の正義、永遠、霊的な生、善と悪について考える。

2. 私の声を聞きながら、彼は自分の中に魂の存在を感じ、自分がどこから来たのかを思い出す。

3. 私に耳を傾けているその短い間、彼はすべての隣人と一つになったと感じ、その存在の最も深いところで、彼らを真の兄弟姉妹、霊的な永遠における兄弟姉妹として認識する。肉体の兄弟姉妹は地上に一時的にしか存在しないが、彼らはそれよりもさらに彼に近い存在なのである。

4. 私を聞くとき、私に見られていると感じない男も女もいない。それゆえ、誰も私に対して自分の汚点を隠したり、美化したりしようとはしない。そして私はそれらを明らかにするが、誰一人として公に晒すことはない。なぜなら、私は決して誰をも晒すことのない裁き主だからである。

5. わたしは、あなたがたの中に、姦淫者、幼児殺し、盗人、悪徳、そして欠点を見出していると告げる。それらは、罪を犯した者たちの魂に、まるでハンセン病のようにまとわりついている。しかし、わたしは、あなたがたの心の過ちを暴くことができることを示すことによってのみ、わたしの言葉の真実を証明するのではない。 また、悪や誘惑に打ち勝つための武器をあなた方に与え、いかにして刷新を達成するかを教え、あなた方の内面に善、高潔、そして清らかさへの渇望を呼び覚まし、あらゆる卑しいもの、あらゆる偽り、そして魂にとって有害なあらゆるものに対する絶対的な嫌悪感を抱かせることによって、私の教えの力を証明したいのだ。（145, 93 65-68）

6. 今日、あなたがたは依然として、光に先立つ薄暗い日々の中に生きている。しかし、その光は、霧に包まれたあなたがた

の空のわずかな晴れ間を利用し、儚い光線となってその中を突き抜け、地球上のいくつかの地点に届き、人々の心を動かし、魂を震わせ、目覚めさせている。

7. この光に驚かされた者たちは皆、その歩みを止め、「あなたは誰ですか？」と尋ねた。そして、私は彼らに答えた。「私、 は、世の光であり、永遠の光であり、真理であり、愛である。 私は、あなたがたに語りかけるために戻ってくると約束した者であり、神の『言葉』であると語られた者である。」

8. ダマスコへの道中のサウロのように、彼らはすべての誇りを謙虚にし、高慢を打ち砕き、謙虚に顔を伏せて、心から私にこう言った。「父よ、主よ、お赦しください。今、私は知らず知らずのうちにあなたを迫害していたことを悟りました！」

9. その瞬間から、これらの心は小さな弟子たちとなった。なぜなら、この「第三の時代」において、今日に至るまで、私の新しい弟子たちの中に、かつて私の弟子たちをこれほど激しく迫害し、その後これほど熱烈に私を愛した者ほどの献身を持つ使徒は現れていないからである。（279, 21-24）

10. 教会は、何世紀にもわたる慣例と停滞の眠りに沈み、その間、真理は隠されたままであった。しかし、エホバの戒めと神の師の御言葉を知る者たちは、今、あなた方に語りかけているこの声の中に、この時代のために約束された真理の御霊の声を見出さなければならない。（92, 71）

11. この言葉を耳にすれば、多くの人が憤慨するだろうことは承知している。 しかし、それは、精神の混乱の中で、人間には人間性以外に霊的な本質も存在することを認めようとしない人々、あるいは、人間の魂を信じつつも、伝統や信仰の慣習に縛られて、魂には無限に長い発展の道があることを否定する人々である。（305, 65）

12. 私はこれらの言葉を書き残す。それらは未来の私の弟子たちの元へ届くであろう。そして彼らがそれを研究するとき、彼らはその言葉を新鮮で生き生きとしたものとして受け止め、その瞬間、師が彼らに語りかけているのを感じ、喜びに震えるであろう。

13. 私があなた方に語ったすべてのことは、ただ私の話を聞いた者たちのためだけにあるとでも思うのか？ いいえ、愛する民よ、私の言葉は、ここにいる者にも、いない者にも、今日のためにも、明日のためにも、そして永遠のためにも語られているのだ。死んでいく者のためにも、生きている者のためにも、そしてこれから生まれてくる者のためにも。（97, 45-46）

新しい御言葉からの気づきと希望

14. わたしは、苦しむ者――動揺している者、泣いている者、罪人、そしてわたしを求め続けた者――に慰めをもたらす愛の言葉である。わたしの言葉は、彼らの心の中で命の川となり、そこで彼らは渇きを癒やし、汚れを洗い流す。それはまた、安らぎと平和の永遠の故郷へと続く道でもある。

15. どうして、人生の闘い――その犠牲、逆境、試練――が、永遠における正当な報いを見出すことなく、死をもって終わるなどという考えに至ることができるのか。それゆえ、啓示と約束に満ちた私の律法と教えは、あなたがたの心において、日々の営みにおける励ましであり、愛撫であり、癒しの薬である。あなたがたが私の教えから背を向けたときのみ、飢えと弱さを感じるのだ。（229, 3-4）

16. 人間という被造物に対する私の神聖な愛において、私は彼らに私の業を探求し、すべての被造物を利用することを許している。それは、神が御子らに御自身の知恵を隠しているからといって、神が不公正であると主張する理由を、彼らに決して与えないためである。

17. 私はあなた方を創造し、自由意志という賜物を授けた。そして、人間がその自由を乱用し、それによって私を傷つけ、私の律法を冒涜したにもかかわらず、私はその自由を尊重してきた。

18. しかし今日、私は人間に私の赦しの愛撫を感じさせ、私の知恵の光でその魂を照らし、私の子供たちが一人また一人と、真理の道へと立ち返るようにしている。

19. 私の光である真理の霊は、あなたがたの霊の中に輝いている。なぜなら、あなたがたは、あらゆる秘密が明らかにされ、これまで正しく解釈されてこなかったことを理解できるようになる、と予告された時代に生きているからである。（104, 9-10）

20. 私はこの地上で御自身を現し、すべての人々への贈り物として私の言葉を遺す。この賜物は、人類の霊的な貧困を取り除くであろう。（95, 58）

21. わたしは、神を崇める真の方法をすべての人に授け、また、神の律法に従って生きる正しい道も授ける。その律法の履行こそが、主があなたがた一人ひとりに認める唯一の事柄である。

22. やがて、あなたがた人間よ、私の言葉の内容、すなわちその真意を悟ることになるだろう。その時、あなたがたは、私の教えが単に人々に語りかける神の声であるだけでなく、すべての霊の表現でもあることを発見するだろう。

23. わが言葉は、勇気づける声であり、自由を求める叫びであり、救いの錨である。（281, 13-15）

神の言葉の力

24. 私の教えは、人間のあらゆる本質的側面を発展させる。それは心を感化し、高潔にし、＊知性を目覚めさせ、深め、そして魂を完成させ、高揚させる。

＊ キリストの啓示において、「心」と「魂」という用語は異なる意味を持つ： 「心」（スペイン語で「corazón」）は、心理学が扱う、地上的・ な、また肉体にも依存する人間の魂の生活を象徴しているのに対し、「魂」（ここでは「espíritu」）は、その内に宿る神の火花、すなわち霊によって、その「声」である良心を通じて導かれる、より高次で永遠な魂の側面を指す。

25. 私の教えを徹底的に研究し、私の教えを実践する正しい方法を理解できるようにしなさい。そうすれば、あなた方の成長は調和のとれたものとなるでしょう。そうすれば、あなた方は、刺激すべき魂の理想に目を向けずに、単に知性だけを発達させるようなことにはならないでしょう。

26. あなた方の存在のあらゆる資質は、私の言葉の中に、それらが成長し、無限に至るまで完成されることのできる、光に満ちた道を見出すことができる。（176, 25-27）

27. 私の教えは、その本質において霊的なものであり、光であり、力である。それは降り注ぎ、あなたの魂に浸透し、悪との戦いにおいて魂が勝利を収めるように導く。私の言葉は単に耳に心地よいだけのものではなく、魂の光である。

28. 魂をもって私を受け入れ、魂を養い、この教えの真意を活かしたいと願うか。ならば、心を清め、精神を澄ませ、良心に導かれるがままにせよ。 そうすれば、あなた方の内面に、魂だけでなく、道徳的にも、また肉体的にも、変容が働き始めると実感するだろう。認識を通じて魂が徐々に獲得する高揚、そして魂が徐々に到達する清らかさは、心の感情と身体の健康に反映されるだろう。

29. 情熱はますます弱まり、悪徳は徐々に消え去り、狂信と無知は、ますます真の信仰と、わが律法における深い悟りに道を譲っていくであろう。（284, 21-23）

30. ごく少数の人々にしか知られておらず、人類によって顧みられていないこの教えは、まもなく、すべての苦しむ者たちへの癒しの香油として届き、慰めを与え、信仰に火をつけ、闇を追い払い、希望を吹き込むであろう。それは、あなた方を罪、悲惨、苦痛、そして死から引き上げてくれる。

31. そうであるほかはない。なぜなら、これをあなた方に啓示したのは、私、すなわち神の医者であり、約束された慰め主であるからだ。（295, 30-31）

32. あなたがたが一度霊的に高められた後、この世で追い求めるものを手に入れられず、苦しみ、絶望している人々に遭遇したとき、あなたがたの物質主義が、私の弟子たちの高潔さとは対照的であることを実感するだろう。彼らの努力と願いは高貴であり、この世のすべては儚いという確固たる信念に基づいているため、彼らの満足は大きなものとなるからだ。

33. わたしの弟子たちは、霊性の模範を通して、すなわち、魂をこの世の偽りの宝に縛り付けるのではなく、神性に近づけるよう努める生き方を通して、世に語りかけるであろう。

34. 私は、来るべき時代に、唯物論者たちがこの教えを知ったとき、憤慨することを知っている。しかし、彼らの良心は、私の言葉だけが真実を語っているのだと告げるだろう。（275, 5-7）

35. あなたがたを待ち受ける偉大な日々の業において、私はあなたがたの助けとなる。私の教えは、世界に大きな変革をもたらすだろう。風俗や観念に大きな変化が生じ、自然界においても変容が起こるだろう。 これらすべてが、人類にとっての新しい時代の始まりを告げるものであり、私がまもなく地上に遣わす魂たちは、この世界の回復と向上に貢献するために、これらすべての預言について語るだろう。彼らは私の言葉を解き明かし、出来事を解釈する。（216, 27）

36. この「第三の時代」は、復活の時代である。魂たちは死者のようであり、その肉体は墓穴のようであった。しかし、命の言葉をもって彼らに「出てきて、光と自由へと立ち上がれ！」と告げる師が、彼らのところに来られたのである。

37. 彼らの中で、真理への目を開き、そして自らの生活、行い、そして感情を、隣人への愛へと高めることができる者は、もはやこの世界を追放の地、あるいは涙と贖罪の谷とは見なさなくなるだろう。なぜなら、その者は、魂の平安がもたらす真の平和の歓びを、ますます深く感じるようになるからである。

38. この人生におけるその高揚感は、魂がより良い世界において享受する完全な平和と光の反映となるであろう。そこでは、私自身が魂を迎え入れ、その功績にふさわしい住まいを与えるのである。（286, 13）

神学者や唯物論者たちの反応

39. もし、この時代にあなたがたに語りかけた者が誘惑者であり、彼自身も奇跡を行い、それによって選ばれた者たちを動揺させ、混乱させるだろうと予言

されている、と言われても、驚いてはならない。 まことに、あなたがたに告げる。私の啓示をそのように判断する者の多くは、たとえ口先では常に真理を広めていると主張しようとも、実際には悪と闇に仕える者たちの一員となるであろう。

40. 木はその実によって知られることを忘れるな。そして、私はあなたがたに言う。その実とは、この言葉であり、それは、単純な心を持つ男女である、この声の担い手たちの理解力を超えて聞こえるようになったものである。その実と、それを味わった者たちの霊的進歩によって、人類は、私がその木であることを知るであろう。

41. 三位一体・マリアの霊的事業は広がり始め、それによって、かつて父から授かった教えを研究し理解したと確信し、自らの哲学や科学の知識に驕り、人類が到達した霊的発展に気づかずにいる多くの人々の間に、真の警鐘を鳴らすことになるだろう。

42. 彼らは、精神的な鈍さから目覚めたとき、今日の人々の精神がどのように考え、感じているかに気づき、彼らが「新しい思想」と呼ぶものに対して呪いの言葉を浴びせ、この運動は反キリストによって引き起こされたものだと広めるだろう。

43. そうして彼らは、聖書や預言、そして私が「第二の時代」にあなたがたに与えた私の言葉に逃げ込み、私の新たな啓示、新たな教え、そして私が約束し、今日成就させているすべてのものを打ち砕こうとするだろう。

44. わたしの言葉は、わたしの弟子たちの口を通じて、また聖書を通じて、物質的なものを超えたものや、かつて彼らが受け入れた知識や概念の外にあるものを一切認めない者たちにも届くであろう。そして彼らは、わたしがあなたがたにこの言葉をもたらしたために、わたしを偽りの神と呼ぶであろう。

45. しかし、あなたがたがこれを聞いても、たとえ心が傷ついたとしても、信仰が揺らぐことはない。なぜなら、あなたがたは心の奥底で、師がすでにこれを予告し、その言葉をもって、これらの試練に耐えるよう励ましていたことを思い出すからである。

46. しかし、私はあなたがたに言う。あなたがたは歩む道において、欺瞞、偽善、迷信、宗教的狂信、そして偶像崇拝に遭遇するだろうが、誰の過ちについても、決してその人を裁いてはならない。 私の言葉をもって彼らを教え、そのことは私に委ねなさい。私こそが、あなた方を裁くことのできる唯一の存在であり、偽りの神、偽りのキリスト、邪悪な使徒、偽善的なパリサイ人が誰であるかを知っている者だからである。（27, 32-35）

47. 思想、信条、宗教、教義、哲学、理論、そして科学をめぐる戦いが訪れるだろう。そして、私の名と教えは、すべての人の口に上るようになる。 わたしの再臨は議論され、否定されるだろう。そしてその後、偉大な信者たちが立ち上がり、キリストが再び人々の間に現れたと宣言するだろう。その時、わたしは無限の彼方から彼らの心を励まし、彼らの信仰を強めるために、彼らの道において奇跡を行う。（146, 8）

霊の教えの影響

48. 私の光が全世界に広がったことで、あらゆる教えの中に私の真理が求められるようになった。これが、人々がそれぞれの信仰において示す行動の理由である。

49. これは、かつて預言されたことの成就である。彼らの中で、誰が真理を体現しているのか。誰が羊の皮を被った飢えた狼を隠しているのか。誰が清らかな衣をまとい、自らの内面の絶対的な清らかさを保証しているのか。

50. あなたがたは、私の真理を発見するためにスピリチュアリズムを実践しなければならない。なぜなら、人類は、人間の思考の発展に応じて、数多くの信仰告白や世界観に分裂してしまったからである。

51. その結果、ますます多くの宗派や教派が形成され、それらの一つ一つに含まれる真実性を判断することは、あなた方にとって非常に困難となるだろう。

52. 私の教えは人々の思考と観念を照らし出し、次第に誰もが、自らの行いを完成させ、より完全で高次の道へと導くための基礎を理解するようになる。

53. やがて、あらゆる宗派や教会が、わが業に属するものを探し求めて、自らを省みる時が来るだろう。しかし、その宝を見つけるためには、彼らが魂を高め、霊の声に耳を傾けることが必要となる。（363, 4-8, 29）

54. この地上には多くの宗教団体があるが、そのどれ一つとして、人々を結びつけたり、互いに愛し合うようにさせたりすることはできない。この業を成し遂げるのは、私の霊の教えである。世界がこの光の進撃に抵抗しても、それは無駄である。

55. 私の弟子たちへの迫害が最も激しい時、自然の力は解き放たれるであろう。しかし、私の働き手たちの祈りによって、それらは鎮められる。そうして、世界は私が彼らに与えた権威の証を目の当たりにするのである。（243, 30）

56. 私の言葉が諸国で聞かれる時、世界は動揺するだろう。なぜなら、この啓示に備えられている人々の魂は、喜びと同時に恐れに動かされるからである。その時、真理を知ろうとする者は、物質主義的な観念の束縛から自らを解き放ち、その視界に

広がる光に満ちた地平線で心を癒やすべきである。 しかし、魂の闇の中に留まり、この光に抗い続ける者には、そうする自由が依然としてある。

57. 霊性への心境の変化は、諸国民の間に友情と兄弟愛をもたらすであろう。しかし、争いは激しくなるため、あなたがたは備えを固める必要がある。人々が戦争で互いに立ち向かい合うとき、それは私の意志によるのではなく、彼らが神の律法を理解していないからである。（249, 47-48）

58. すべてを包み込む裁きの時が来た。あらゆる行いとあらゆる宗教団体は、私によって裁かれる。誤ったものはすべて暴かれるため、人の魂からは嘆きの叫びが漏れるだろう。ただ真理のみが輝きを放つ。 人類の中に目覚めが起こり、その時、人々は私にこう言うだろう。「父よ、私たちにあなたの助けを与えてください。私たちを導く真の光を与えてください。」そして、その光と助けとは、聖霊の教えであり、私があなたがたに与えた教えであり、私がすべての者の父であるゆえに、彼らすべてにも属する教えである。（347, 27）

新しい啓示の言葉の意味

59. 一見、この啓示には大したことは含まれていないように見えるが、将来、あなたがたは、それが人類にとってどのような意味を持つことになるかを目の当たりにするだろう。

60. この民の中には、あらゆる種類の弟子がいる。ある者はこの業の偉大さを予感し、その世への出現が引き起こす衝撃をすでに感じ取っている。またある者は、これが良い道であると信じるだけで満足している。さらに、この教えの偉大さに気づくことができず、その勝利や人々の心への浸透を疑う者たちもいる。 言っておくが、これは私があなた方に託した宝石である。しかし、あなた方は私の教えを深く探求しなかったため、その神聖な光の輝きを見ようとしなかったのだ。 私は、光はまさに闇の中で最も明るく輝く、とあなた方に告げた。同様に、この物質主義と罪の時代において、私があなた方に持ち込んだ真理が、その全き輝きを放つのを目にするだろう。

61. キリストの時代にも、その言葉に疑いが持たれたことを忘れてはならない。人々はイエスの出自や服装で彼を判断し、彼がナザレの大工と貧しい女性の息子であることを知ったとき——後に貧しいガリラヤの漁師たちを伴い、彼らには奇妙に思える教えを説くために旅立つことになる人物であることを——そのため、村から村へと巡り、粗末な服を身にまとったあの巡回説教者が、主がイスラエルの民に約束された王であるとは

、彼らは信じることができなかった。

62. 私がこれらの示唆を与えるのは、人々が、霊によってのみ見られ、感じられるべきものの偉大さを信じられるようにと、感覚を眩ませる外見的な輝きを求めているからである。

63. 私は、人々の目が開かれるために、自らの血を流し、命を捧げ、復活しなければならなかった。あなたがたが私を信じるために、今、私の霊はどのような杯を飲まなければならないのか。人類よ、私があなたを救われるのを見るために、私がしないことなどあるだろうか。（89、68-69；71、73）

64. 私の教えが人類の物質的進歩にとって脅威であると主張する者は、重大な過ちを犯している。すべての師の師である私は、人類に、その向上と真の進歩への道を示している。 私の言葉は、霊に語りかけるだけでなく、知性、理性、さらには感覚にも語りかける。私の教えは、霊的な生活を啓発し教えるだけでなく、あらゆる科学とあらゆる道に光をもたらす。 なぜなら、私の教えは、すべての魂をこの現世を超えた故郷への道へと導くことに留まらず、人間の心にも届き、この惑星上で快適で、人間らしく、有益な人生を送るよう人々を鼓舞するからである。（173, 44）

65. あなたがたが今生きている「第三の時代」は、偉大な秘密が明らかにされる時代である。学者や神学者たちは、私が今あなたがたに啓示している真理に照らして、自らの知識を修正せざるを得なくなるだろう。

66. 今こそ、人々が私の知恵の光に目を開くべき時である。それは、私が教えへと変えた光であり、それを通してあなたがたが霊的に真の命へとよみがえるためのものである。（290、51-52）

67. 人々は私の啓示の真実性を否定しようと試みるだろう。しかし、事実、証拠、そして出来事こそが、この真実を語り、証しするであろう。それは「第三の時代」の偉大なメッセージとして、私の民の口から語られることになる。また、書物を通じても、私の教えは世界に広まっていく。なぜなら、これは私が太古の昔から使徒たちに授けてきた、許された手段だからである。 ただ、あなたがたには、私の真理を見守り、それを最も純粋かつ簡素な方法で人々の心に伝えてほしいと願う。（258, 6）

68. あの「第二の時代」において、私が人間として来られることは、ごく少数の心によってのみ信じられていた。それにもかかわらず、人類は後に、救い主の誕生を新しい時代の始まりと定めた。 同様に、この時代において、あなた方への私の啓示、すなわち聖霊としての私の到来の始まりは、明日、さらなる時

代の始まりとして定められるであろう。69. 神の愛の体現者であるキリストがあなた方に語る言葉に耳を傾けなさい。「善意の人々に平安あれ。真理を愛し、愛の種を蒔く者たちに平安あれ。」（258, 41-43）。

第8章 - キリストの新しい教会、弟子たち、使徒たち、そして神の使者たち

啓示の教会における光と影

1. もし私がすべての国々に御言葉を授けていたならば、大多数の人々はそれを拒絶したであろう。なぜなら、人々の虚栄心、物質主義、そして誤った自尊心は、霊性、謙遜、そして兄弟愛を説く教えを受け入れなかったからである。世界はまだ愛を理解する準備ができていないため、誰もがこの形での私の臨在を受け入れることはできなかったであろう。

2. かつてキリストが人間として生まれるために岩窟を選ばれたように、今日、わたしもまた、わたしに耳を傾ける準備ができており、あの祝福された夜に神の子を迎え入れた洞窟や飼い葉桶に似た、この地の片隅を見出したのである。（124、13-14）

3. ここにいる、指導する聖職者なしに自らの道を歩み、儀式や象徴なしに私に崇敬を捧げるこの素朴な民の模範は、何世紀にもわたる闇の中でまだ眠り続けている者たちを目覚めさせる呼びかけとなり、また、私の多くの子供たちにとって、刷新と浄化への励みとなるであろう。（94, 39）

4. わたしの教えの陰の下には、そこから栄光に包まれた人々が同胞の魂を支配できるような玉座は築かれない。 主の座を占めようとする者に対して、誰も戴冠させられたり、紫のマントをまとわされたりすることはない。また、裁き、赦し、断罪し、あるいは人々の行いに対して判決を下すような告解司祭が現れることもない。公正かつ完全な裁きの座から魂を裁くことができるのは、私だけである。

5. 私は、人を正し、教え、導く者を遣わすことはできるが、裁き、罰するために誰かを遣わすことはしない。私は、人々の牧者となる者を遣わしてきたが、主人や父となる者ではない。霊において唯一の父は、私である。（243, 13-14）

6. 私はこの時代に、私の律法を真に従い、真理と実践的な隣人愛を愛する民を育て上げる。この民は、他の人々が自分たちが犯した過ちを映し出すことができる鏡のようになるだろう。その民は誰の裁判官でもあってはならないが、その美徳、行い、そして霊的な義務の遂行は、その道に交差するすべての者の

魂に響き、私の律法に背くすべての過ちを彼らに示さなければならない。
7. この民が一度、強大かつ数多くなれば、その隣人たちの注目を集めることになる。なぜなら、その行いの清らかさと、神への崇拝における な誠実さは、人々を驚嘆させるからである。その時、人々はこう問うだろう。「神殿を持たないのに、どうしてあのような祈り方を知っているのか？ 誰が、この大群衆に、礼拝のために祭壇を築く必要を感じることなく、祈りをもって神を崇めることを教えたのか？鳥のように、種を蒔かず、刈り取らず、紡がず、それでもなお生き続ける、これらの巡回説教者や宣教師たちは、どこから来たのか？」
8. その時、私は彼らにこう告げるだろう。「この貧しく謙虚でありながら、私の律法に従うことに熱心で、世の情欲に対して強いこの民は、いかなる人間によっても育てられたのではない。 善を行うことに喜びを見出し、霊感に照らされ、人々の心に平和のメッセージと癒しの香油の一滴をもたらすこの大群衆は、地上のいかなる宗教共同体の教師や聖職者からも教えを受けたわけではない。 まことに、わたしはあなたがたに告げる。この時代、あなたがたの世界には、真の霊性をもって神への崇拝を教えることのできる人間は、ただ一人もいないのだ。 真理の根源は、儀式や儀礼の華やかさにも、富や地上の権力にもない。真理は謙虚であるゆえに、清く、高潔で、誠実で、真理を愛する心をその神殿として求めている。そのような心はどこにあるのか。（154, 12-14）
9. 私は多くの子供たちを呼び寄せ、この働きの中で様々な使命、様々な任務を彼らに与えた。そして、あなたがたの進歩と才能に応じて、彼らをあなたがたに与えた。私は彼ら全員を合わせて、私の民、私の新しい使徒の群れを形成した。
10. 私は、ある者たちに指導者の職務を託した。そして、彼らの任務が重荷となり、苦労とならないよう、民を会衆に分けた。
11. また、他の人々には、私の霊感（それが人間の言葉となったもの）を、この奇跡を受け取るために集まる群衆に伝えるための「声の担い手」としての賜物を託した。
12. ある者たちには、彼らを預言者とし、彼らの仲介を通じて来るべきことを告げ知らせるために、透視の特権を与えた。
13. 「柱」としての任務は、民の巡礼の旅を支え、聴衆の群れと共に十字架の重荷を担う教会指導者たちの助けとなる者たちに与えられた。
14. 他の人々には仲介の賜物が授けられており、彼らは霊界の道具として訓練され、そのメッセージ、すなわち私の業の解説

を伝えるとともに、病人のための慰めである癒しの香油の持ち主としても、その癒やしの霊的放射を通じて、共に苦しむ者たちに慈悲を授けるようになっている。

15. 私があなたがたに残す書物に、この時代の私の啓示、教え、そして預言を記す者を、私は「黄金の筆」と呼んだ。

16. 私は、民の間において堅固さ、安定、そして強さの模範となるべき者たちに、「礎石」という職務を授けた。民の間における彼らの言葉、助言、そして模範は、岩のように不変でなければならない。

17. しかし今、私の啓示のこの時期が終わりに近づいているので、私はすべての職務を正し、これほど大きな任務を授かるために選ばれたすべての人々に、自らを深く省み、その行いの結果を見極めるよう呼びかける。この省察の時、私はすべての人々に寄り添う。（335、27-28）

18. いつの時代もそうであったように、召された者は多くても選ばれた者は少なかった。なぜなら、私は、その任務を果たす準備が時宜にかなって整っている者だけを選び出すからである。そして残りの者たちには、彼らもまた選ばれる時が来るのを待つことを理解できるよう、光を与える。

19. まだ任務に選ばれる時機が到来していないにもかかわらず、単に召されただけで、私の弟子や働き人の列に加わった者たちがどれほど多いことか。彼らの魂には、この十字架の重荷を担うために不可欠な成長がまだなく、また彼らの知性には、私の霊感を受け入れるために必要な光も備わっていなかったのだ！ 選ばれた者たちの列に加わった後、彼らの多くは何をしていたか。神聖さを冒涜し、雰囲気を毒し、その悪しき性向で他者を汚染し、嘘をつき、不和をまき散らし、私の名と、私が弟子たちに授けた霊の賜物を利用して、私利私欲をむさぼっていたのだ。

20. 彼らが誰であるかを探ろうとする者はいないように。なぜなら、あなた方には見分けることができないからだ。 ただ、私の鋭い審判者の眼差しだけが彼らを見失うことはなく、私は彼らの良心に私の言葉を届ける。それは彼らにこう告げるのだ。「目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、時宜を得て自分の過ちを悔い改めることができる。もしそうするなら、私は約束する。霊的に速やかにあなたたちを私の食卓に着かせ、和解と赦しの祝宴を祝うだろう。」（306, 53-55）

21. これが真実である。私の業に属している者であっても、皆が互いに愛し合っているわけではないし、また、皆がそれを理解しているわけでもない。それゆえ、私はあなたがたにこう言えるのだ。ある者は私の業に属

し、またある者は彼ら自身の業を行っているのだ。
22. 愛をもってわたしに従う者たちは、わたしの言葉を愛している。なぜなら、その言葉が彼らを傷つけることなく正し、彼らを恥じさせることなく過ちを指摘してくれることを知っているからだ。それゆえ、彼らは自らの行いを完成させることに粘り強く取り組むのである。
23. しかし、この完成を追求する代わりに、称賛や優越感、お世辞、あるいは生計を立てることだけを求め、魂の完成を志さない者たちは、自分の過ちを突きつけられると、私の言葉を耐えられない。 そうなれば、彼らは、自らの意志を自由に遂行できる、私のものとは異なる な業を成し遂げなければならない。彼らはまだ、私の啓示の期間中、聴衆がなすべき唯一のことは、後に私のメッセージを解釈できるよう、最も崇高な心持ちで私に耳を傾けることであるということを理解していない。（140, 72 74）
24. 私は、混乱と不従順の時代が到来し、その「働き手」が立ち上がり、人間の知力によって私の啓示は完結しない、と主張するだろう、と述べた。しかし、たとえ人間が私の意志に逆らおうとも、私の言葉が成就する時が必ず来る。
25. 私が使命と恵みを託した者たちの多くが、その道においてどれほどの過ちを犯してきたことか。1950年以降、私の子供たちの間にどれほどの無理解が広がっているか、私は見ている。
26. 理解の欠如と愚かさによって、人間は私の助けとなる愛と権威と恵みを拒み、律法と調和と真理の真の道から外れて立っている。
27. イスラエルは再び部族ごとに分裂し、再び分裂して、私がその手に委ねた清く純粋な律法を踏みにじろうとするだろう。イスラエルは再びかつての道を求め、偶像崇拝と狂信に陥るだろう。 イスラエルは諸宗派に目を向け、混乱と闇に陥り、人間が差し出す耳障りの良い偽りの言葉に悦びを見出すだろう。
28. 教会や宗派の人々は、イスラエルが分裂し、互いに否定し合い、弱体化しているのを見ると、その計り知れない価値を持つ宝石を奪い取り、新しい契約の箱を手中に収め、明日には自分たちが人類における真の神の使者であり、私の神性の代表者であると宣言する口実を探し求めるだろう。（363, 47-49, 51, 57）

霊的働きに関する聴衆への警告の言葉

29. わたしの啓示が終わった後、あなたがたがこの教えが何であるかを明確に理解し、正しく従うことができるようにしたい。なぜなら、今日に至るまで、わたしの言葉を聞いた大勢の人々の間には、真のスピリチュア

リストはまだ現れていないからだ。 これまであなたがたが実践してきたのはスピリチュアリズムではなく、単に私の業に対するあなたがたの想像に過ぎず、それは真のスピリチュアリティからは程遠いものである。

30. あなたがたは、自分たちが道を誤っていたことを認める強さを持たなければならない。習慣を改めるために気力を奮い起こし、この教えの真実と純粋さがあなたがたの間で輝きを放つよう、熱心に努力しなければならない。

31. 私の教えの本質を歪めるのでない限り、礼拝の形式や儀式の外見的な部分を改めることを恐れてはならない。（252, 28-30）

32. 残された時間を活用して、私の教えに耳を傾けなさい。そうすれば、その教えが光と恵みであなた方を満たし、霊性へと確かな一歩を踏み出すことができるだろう。物質主義と誤りに満ちた儀式を続けているために、あなた方はその一歩を踏み出せずにいたのだ。

33. 今日に至るまで、あなた方には、像や儀式、象徴を廃し、無限の中に霊的な私を求める信仰が欠けていた。あなた方には、霊性主義者となる勇気が欠けており、物質主義的な心構えや過ちを隠すための、一種の偽りの霊性を編み出してきた。

34. 私は、あなたがたに偽善ではなく、誠実で真実を愛する者であってほしいと願っている。それゆえ、私はあなたがたに極めて明確に語りかける。あなたがたが自らの生活を徹底的に清め、この業の真実を世界に示すためである。あなたがたは自らをスピリチュアリストと呼ぶのか？ ならば、真にそうありなさい。 あなたがたが私の教えとは正反対のことをしている限り、私の教えについて語るな。そうすれば、あなたがたの行いによって人々を混乱させるだけだからだ。

35. 何よりもまず、私の業とは何か、私の律法が何を意味するのか、あなたがたの使命とは何か、そしてそれをどのように遂行すべきかを悟りなさい。そうすれば、もしあなたがたの道に、その歩みを導くにふさわしい導き手がいないとしても、良心と、私の教えから得た悟りによって自らを導くことができるようになる。 そうすれば、いかなる過ちや誤りについても、誰かのせいにすることはできなくなるだろう。（271、27-30）

36. 私が人間の知性を通じて啓示を伝え始めた当初から、私の意志は、あなたがたが霊的な賜物を実践的に用い、霊的な使命に着手することにある。そうすれば、私が去る日が来たとき、あなたがたはすでに道のりの一部を歩み終えており、そのような困難な任務の遂行に着手するのに、自分たちが弱すぎると感じることはないだろう。

37. 神の御心を解き明かし、それを実現しようと努めた者たちもいる。しかし、この業の真意を誤解してしまった者たちもおり、彼らは大多数を占めている。

38. これらは、私がこの民に対して非難する誤りである。なぜなら、長い間教えを受けてきた者たちを、人類が嘲笑するようなことになってはならないと願うからである。（267, 65-67）

39. ある者たちは私の言葉の真意にのみ関心を持ち、常に自らの魂の進歩と発展を渇望していた一方で、他の者たちは外見的な儀式にばかり喜びを見出していた。同様に、前者が霊性に関する教えを受けることを喜んでいたのに対し、後者たちは自らの過ちが指摘されることに不快感を抱いていた。

40. 私の代弁者たちを通じて明らかにされるべきであったにもかかわらず、隠されてしまったすべての事柄について、誰が私の前で責任を問われることになるか、私だけが知っている。（270, 8-9）

41. よく考えてみれば、あなたがたに必要な調和とは霊的なものであり、自分の情熱や独断を乗り越えたときにこそ、それを達成できることがわかるだろう。

42. 誰もが自分の主張だけを唯一の真実として説き、同時に他者の主張を誤りとして攻撃している状況で、どうして平和を築くことができるだろうか。

43. 狂信とは闇であり、盲目であり、無知であり、その実が光に満ちたものであることは決してない。（289, 8-10）

44. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、わたしの意志に従って団結しないならば、人類はあなたがたを散らし、あなたがたの人生が説くものから逸脱しているのを見れば、その中からあなたがたを追い出すであろう。

45. もし人々が、どの教会においても礼拝の形式が異なり、私の教えの実践の仕方もそれぞれ違うと気づいたなら、どうなるだろうか。

46. わたしは、この民の統一のためにあなたがたが働くよう、わたしの啓示の最後の三年間をあなたがたに託す。それは、霊的な面も外的な面も包含する結束であり、調和と一致に満ちたあなたがたの働きこそが、様々な集会所や国の各地にいるあなたがたすべてが、ただ一人の師、すなわち神によって教えられたという最大の証拠となるためである。（252, 69-71）

真の弟子、新たな使徒たち

47. この普遍的かつ無限なる業を制限しようとしたり、また、あなた方の霊的発展に制限を設けようとしたりしてはならない。なぜなら、善行と研鑽の道に

深く没頭すればするほど、より大きな啓示を受けることになるからである。 あなたがたは、最も目立たないものの中から神の業が湧き上がってくるのを見、すべての被造物の中にそれが現れているのを見、そして自分の内なる存在の中でそれが鼓動しているのを感じるだろう。

48. これこそが、私がスピリチュアルな弟子に教える謙虚さであり、彼もまた師のように謙虚であるようにするためである。弟子は、神秘的な力や並外れた能力で誰かを感銘させようとするのではなく、言葉の真実と行いの力によって、人々を説得し、改心させなければならない。

49. 真の弟子は、その簡素さによって偉大となる。彼は師を理解し、同時に、周囲の人々にも自分を理解させることができるだろう。（297, 15-17）

50. イエスの弟子とは、言葉によって人を打ち勝ち、説得し、慰め、高め、目覚めさせ、打ち負かされた者を、自らを克服し、逆境に打ち勝つ者へと変える者である。

51. キリストの使徒は、自分の苦しみや心配事ばかりを考えて、心に利己主義を抱くことはできない。彼は自分のことを気にかけるのではなく、他者のことを思う。なぜなら、霊的な助けを必要とする主の子に献身するために自分のことを後回しにした者には、父が直ちに立ち会ってくださるという絶対的な信頼があるからだ。 そして、隣人に希望の微笑み、悲しみの慰め、痛みのための一滴の香油をもたらすために、自らを忘れてしまった者は、帰還した際、祝福、喜び、そして平和である光に照らされた我が家を見つけるのである。（293, 32-33）

52. この時代、わたしの食卓には、男性も女性も等しく使徒として座することになる。わたしは、あなたがたの霊魂をその食卓に招く。

53. この時代、霊性主義の旗を高く掲げてきたのは女性たちであり、彼女たちは、主の律法を熱心に守る使徒の足跡をその道に残してきた。

54. わたしの新しい使徒の群れにおいて、女性は男性の隣に立つであろう。そして、わたしに仕えるために特定の年齢などない。大人も、子供も、老人も、若い娘も、母も、皆そうするであろう。なぜなら、わたしはもう一度言うが、わたしが求めているのはあなたがたの霊魂であり、それはとっくに幼年期を過ぎ去っているからである。（69, 16-17）

55. 「第二の時代」において、わたしの王国はこの世のものではないとあなたがたに告げたが、今日、あなたがたの王国もここにはない、と告げる。なぜなら、あなたがたもすでに知っているように、この世は人間にとって単なる通過点に過ぎないからだ。

56. 私は、決して物質主義に基づいたことのない、真の生をあなた方に教える。それゆえ、地上の権力者たちは再び私の教えに反旗を翻すだろう。私は、愛と知恵と正義から成る、永遠に有効な教えを携えてあなた方の元へ来る。しかし、それはすぐには理解されないだろう。人類は再び私を非難し、もう一度私を十字架につけるだろう。 しかし、私は、私の教えが認められ、愛されるためには、これらすべてを経なければならないことを知っている。私は、かつて私を最も激しく迫害した者たちが、その後、私の最も忠実で、自己犠牲を厭わない種蒔き人となることを知っている。なぜなら、私は彼らに、私の真実の極めて大きな証拠を与えるからである。

57. 「第二の時代」のニコデモ、すなわち祭司たちの長であり、賢明で深遠な教えについて語り合うためにイエスを訪ねたその人物が、この時代に再び現れ、私の業を熱心に探究し、それに回心するであろう。

58. かつて私を激しい怒りで迫害したものの、後に私の最も偉大な使徒の一人となった、パウロと呼ばれるあのサウロが、再び私の道に現れるであろう。そして至る所で、私の新しい弟子たちが姿を現すだろう——ある者は熱心に、またある者は自己を否定して。 今この時は重大な意味を持つ。私があなた方に語っているその時は、ますます近づいている。（173, 45-48）

59. 人々は、試練の中で揺るぎない姿勢を保つことができる者、この世と霊の大きな闘いに精通している者を必要としている。彼らこそが人類に方向を示し、導くことができる者である。なぜなら、彼らの心には、誰かを抑圧したり支配したりしたいという欲望はないからだ。 彼らは、高揚の瞬間に、彼らを愛で満たし、その慈悲を兄弟たちに伝えるよう導いてくださる主の慈悲を体得しているため、利己主義を心に宿すことはできない。（54, 53）

世界中の、そしてあらゆる時代の神の使徒たち

60. 地上の諸民族は、霊的な光に欠けたことは一度もない。まことに、わたしはあなたがたに告げる。ここにいるこの民だけが預言者や使徒を持っていたのではなく、わたしはすべての人々に、彼らを目覚めさせるために使者を遣わしたのである。

61. 彼らの教えの光と真理、そして私があなた方に啓示したものと類似している点に基づいて、あなた方は彼らの言葉を判断することができる。

62. ある者はメシアの到来以前に生きたが、他の者は私が人間として存在した後に活動した。しかし、彼らは皆、人々に霊的なメッセージをもたらした。

63. それらの教えは、私の教えと同様に、歪曲されてきた。なぜなら、その真意が変えられていなくても、それらは切り刻まれたか、あるいは真理を渇望する人々から隠されてきたからである。

64. 使徒、預言者、そして僕たちを通じて人々に啓示されたのは、ただ一つの真理とただ一つの道徳である。それなのに、なぜ人々は真理、道徳、そして人生について異なる考えを持っているのだろうか。

65. あらゆる時代において人類によって歪められてきたこの真理は、再び回復されるであろう。そしてその光は、たとえそれが、私の神性の子供たちの発展の道を常に照らしてきたのと同じ光であるにもかかわらず、人々にはあたかも新しいものであるかのように思えるほどの力を持って輝き出すであろう。

66. 真実を語ったために命を落とした者は多く、また、自分の中で語りかける声を沈黙させようとしなかったために拷問を受けた者もまた多い。

67. 天は、精神や愛、道徳について語った者たちだけを遣わしたのだと思わないでほしい。いや、天は、 科学の良き実、すなわち人々の生活に光をもたらし、その重荷を軽くし、苦難を和らげる知識をもたらした者たちをも遣わしたのである。彼らすべてが、私の使徒であったのだ。

68. また、霊的な道徳の教えや科学的な発見をもたらすわけではないが、創造の美しさを感じ、賞賛することを教えるメッセージを携えてくる者たちもいる。彼らは、悲しみに暮れる人々の心に喜びと癒やしをもたらすという使命を帯びた、私の使者たちである。

69. 彼らは皆、真理に目をつぶった世界、美と善に無感覚な人類の無理解を目の当たりにしたとき、苦い杯を飲み干した。 それでもなお――私が、この時代にはすべてが回復されると言ったならば――すべてが正しい軌道に戻り、私の教えのすべてに本来の意義が取り戻されると予告したならば、 それゆえ、この世界にとって霊的な輝きの時が近づいていると信じることはできる。ただし、それが訪れる前に、すべてが裁かれ、清められることを忘れてはならない。（121, 9-16）

70. 神の啓示が人々を啓発しようとするたびに、私は彼らに先駆者や預言者を送り、その光が彼らによって認識されるよう準備させてきた。しかし、霊へのメッセージをもたらす者だけが私の使者であるとは考えてはならない。 いいえ、弟子たちよ、人間の中で、いかなる形であれ善を蒔く者は皆、私の使者である。

71. これらの使者は、あなたがたの人生のあらゆる道で出会うことができる。宗教団体におい

ても、科学の分野においても——統治する者たちの間でも、あるいは良き教えを説く者たちの間でも。

72. 私の良き僕とは、歩まなければならない道から決して逸れることのない者である。彼は、引き返すよりは、その道中で死ぬことを選ぶ。彼の生き様は、隣人の人生における光の種であり、その行いは他者にとっての模範となる。 ああ、人類が、私が彼らを通して送るメッセージを理解できればよいのだが！しかし、そうではない。世の中には重要な使命を帯びている人々が多くいるにもかかわらず、彼らはそれらの偉大な模範から目をそらし、自分たちが好む道へと踏み出してしまうからだ。（105, 13-15）

73. しかし、人類よ、私があなたに送ったあの人々を、あなたはどのように扱ったのか。彼らは、私の道、すなわち知恵と愛と平和の道である信仰の道を、あなたに思い出させるために送られたのだ。

74. あなた方は彼らの使命を全く受け入れようとはせず、あなた方の理論や宗派に基づく偽善的な信仰をもって彼らと戦った。（263,18-19）

75. 私はもう一度言わなければならない。私の啓示の周りに集まるこの民は、父が愛をもって地上の他の諸民族よりも高く置いている民ではない。 主が彼らに目を向けたのは、新しい神の啓示が下るたびに、常にこの世に存在してきた魂たちによって彼らを形成されたからに他ならない。彼らは、預言者、使徒、先見者、そして族長たちの民であるイスラエルの民の霊的な子孫である。

76. この時代において、彼ら以上に、私を受け入れ、私の啓示の新しい形を理解し、私の約束の成就を証しできる者が、いったい誰がいようか。（159, 51-52）

77. 私は、その大多数がこの国に居住するイスラエルの民の懐に降りてきた。 残りの者たちは、私によって遣わされ、あらゆる国々に散らされているが、私は彼らに霊的に自らを現した。これらは、私に忠実であり続けた私の選ばれた者たちである。彼らの心は汚染されておらず、彼らの霊は私の霊感を受け入れることができる。彼らの仲介を通じて、私は今、世界に偉大な知恵の宝を与えている。（269, 2）

78. 愛する子供たちよ、あなたがたは少数ながらここに集まったが、まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの鋭い視線は、今こそわたしの臨在の時であると心で感じている選ばれた者たちを、至る所で見出している。彼らはあなたがたのようにわたしの言葉を耳で聞いたわけではないが、 しかし、彼らの霊の中では、私が再び人類の中にいること、霊的に「雲の上

」から来たことを告げる声を聞いている。ある者には、霊の目をもって私を見ることを許し、ある者には予感の力によって、残りの者には私の愛を強く感じさせ、私の霊の臨在を悟らせる。（346, 13）

79. まもなく、直感力のある者、霊感を受けた者、霊的に感受性の豊かな者たちが立ち上がり、諸国において、彼らが霊によって見ていること、感じていること、聞き取っていること、受け取っていることを証しするであろう。 改めて言っておくが、わたしの民は、これらの代弁者たちを通してわたしを聞いた者たちだけに限られるのではない。わたしは、後に種を蒔く者たちが来なければならない道を整え、畑を耕すために、わたしの僕たちを地球のさまざまな場所に遣わしたのである。

80. わたしは彼らを力づけ、祝福する。彼らの日々の働きは苦難に満ち、その道は茨に覆われているからだ。嘲笑、侮蔑、中傷、そして卑劣な行いが、どこへ行っても彼らに付きまとう。しかし、彼ら――直感に導かれ、霊感に満ちて――は、自分たちが私によって遣わされたことを知っており、その使命を果たすために道の果てまで進む意志を持っている。（284, 50-51）

81. わたしは、あなたがたをわたしの王国へ招く。わたしは、いかなる差別もなく、地上のすべての民を呼びかける。しかし、すべての者がわたしに耳を傾けるわけではないことを、わたしは知っている。

82. 人類はその灯を消し、暗闇の中を歩んでいる。しかし、誤りが顕著になる場所には、私によって照らされた者が現れるだろう。 その者は周囲に光を広げる――見張り、私の合図を待ち、人々を目覚めさせ、震撼させる警鐘を鳴らす、霊的な見張り人である。

83. それらの使者の愛を、あなたがたの心の中で実を結ぶ種とせよ。彼らが外見上の貧しさを帯びてあなたがたの前に現れても、拒んではならない。 彼らの言葉に耳を傾けなさい。彼らは私の名において、あなたがたが現在知らない能力を授けるためにやって来るのだ。彼らは完全な祈りを教え、あなたがたを束縛している物質主義の鎖から解き放ち、私のもとへと引き上げる霊的な自由を得る手助けをしてくれるだろう。（281, 33）

84. もし誰かが現れて、自分が再び人間となったキリストであると主張したとしても、彼を信じてはならない。なぜなら、私が再び来ると告げたとき、それは霊においてのことであると、私はあなた方に知らせたからである。 もし誰かが「私は神の使者だ」と言ったとしても、その者を疑いなさい。真の使者は自慢したり、自分に託された使命を大々的に宣伝したりはしないからだ。彼らはただ、その行い

によって自らを証明するだけである。その者が主の使者であるかどうかは、人々が判断することである。木はその実によって知られる、と私が言ったことを覚えているか。
85. 私はあなたがたに「木の果実」を味わうことを禁じるわけではないが、良い果実と悪い果実を見分けられるよう、備えをしておかなければならない。
86. 真理を愛する者たちを、私は燭台として立て、彼らが同胞たちの道を照らすようにする。（131, 5-7）
87. あなたがたが、この世において霊的な導き手を必要とした時代は終わった。これからは、この道を歩む者は、わたしの律法以外の道も、自らの良心以外の導き手も持たないことになる。
88. とはいえ、その模範と霊感によって人々の群れを支える、大きな光と強い魂を持つ男女は、常に存在し続けるであろう。89. もしそうでなければ、私はすでにモーセやエリヤのような霊を地上に遣わし、彼らが道を示し、常に律法を思い出させていたはずである。 彼らもまた、あなた方を支え、守り、付き添っているが、もはや人間の姿ではなく、霊的な次元からである。90. 誰が彼らを見るのか？誰もいない。しかし、あなたがたが心構えをすれば、常に人類とつながり、人類の中で偉大な使命を果たしてきた偉大な霊たちの存在を、あなた方の上に感じるだろう。（255, 40-41）

II. 第一および第二の啓示の時代の回顧

第9章 - イスラエルの民の物語と人物たち

原罪の物語

1. 地球に最初に住んだ人間たちに関する歴史的伝承は、世代から世代へと受け継がれ、やがて『太古の時代』という書物に記されるに至った。それは、地球に生きた最初の人類を生き生きと描いた寓話である。彼らの純粋さと無垢さによって、彼らは母なる自然の愛撫を感じることができた。 すべての存在の間には友好的な関係があり、すべての生き物の間には、制限のない兄弟愛が結ばれていた。（105, 42）
2. 神聖な寓話の中で、私は最初の人類に、彼らの使命についての最初の知識を得られるよう啓示を与えたが、私の啓示の真意は誤って解釈されてしまった。
3. 人間が食べた「善悪の知識」の生命の木について語られたとき、それはただ、人間が善悪を区別する十分な認識を持ち、それによって自らの行いに責任

を負うようになったときから、その行いの実を刈り取り始めたということを、あなたがたに理解させるためであった。（150, 42）

4. あなたがたは、神が人々に「増えよ、そして地を満たせ」と言われたことを知っている。これこそが、あなたがたに与えられた最初の掟であった、おお、民よ。 その後、父は人々に、単に増え、人類の種族を繁栄させるだけでなく、その感情がますます寛大になり、魂が妨げられることなく開花し、発展していくよう求められた。 しかし、もし最初の律法が人類の繁栄を目的としていたのなら――どうして、あなたがたが神の戒めに従い、それを果たしたからといって、その同じ父があなたがたを罰するだろうと想像できるだろうか？ 民よ、あなたがたの神の中に、そのような矛盾が存在しうるだろうか？

5. 見よ、人々は、ただ人間の魂の目覚めについて語られただけのたとえ話に、いかに物質的な解釈を与えたことか。それゆえ、私の教えを深く探求し、もはや、最初の地球の住人たちが父への不従順によって負った罪の代償を、あなたがたが支払っているなどと言ってはならない。 神の正義について、より高次の観念を持て。（150, 45-46）

6. 今こそ、あなたがたは私の言葉「増えよ、満ちよ」を理解できる時である。すなわち、これは霊的にもなされねばならず、あなたがたは善行と光に満ちた思考をもって宇宙を満たすべきなのだ。 私に近づこうとするすべての人々――完全性を求めるすべての人々を、私は歓迎する。（150, 48-49）

自由意志と原罪

7. あなたがたは、自由意志のゆえに過ちや誤りに陥ったと私に言う。それに対し、私はこう答える。この賜物によって、あなたがたは、自身の発展の始まりに立っていた地点から、無限に遥か彼方へと高みへ昇ることができるのだ。

8. 自由意志に加え、私はすべての魂の精神の中に私の光を授けた。それは、誰も迷い出さないようにするためであった。しかし、私の声を聞こうとしなかった者、あるいは霊的な光を渇望しながらも内面に向き合おうとしなかった者は、すぐに人間生活の数え切れないほどの美しさに惑わされ、魂を支える私の律法を失い、つまずき、倒れることとなった。

9. たった一つの過ちが多くの痛ましい結果をもたらしたのは、不完全さが神の愛と調和しないからである。

10. 悔い改め、謙虚な心で直ちに父のもとへ戻り、今まさに犯した過ちから清め、赦してくださるよう柔和に願い求めた者たちを、主は限りない愛と憐れみをもって迎え入れ、彼らの霊を

慰め、過ちを償うために彼らを遣わし、その使命を確かなものとした。

11. 最初の不従順の後、誰もが柔和に、悔い改めて戻ってきたと信じてはならない。 いや、多くの者は傲慢と恨みに満ちて戻ってきた。また、罪を自覚し恥じ入りながらも、自分の過ちを私の前で正当化しようとした者もいた。そして、悔い改めと改善によって自らを清めること——それこそが謙遜の証である——とは程遠く、彼らは、私の愛が定める律法の外で、自分なりの生き方を築くことを選んだ。

12. そこで、私の正義が発動した——しかし、彼らを罰するためではなく、彼らを正すためであり、彼らを滅ぼすためではなく、彼らに自己を完成させるための広範な機会を与えることによって、彼らを永遠に保つためであった。

13. あの最初の罪人たちのうち、どれほど多くの者が、今なお自らの汚れから解き放たれることに成功していないことか。彼らは転落から転落へと、深淵へとますます深く落ちていったからである。彼らをそこから救い出すことができるのは、ただ私の律法の実践のみである。（20, 40-46）

大洪水

14. 人類の初期の時代には、人々の間に無垢さと純朴さが支配していた。しかし、その数が増えるにつれて、彼らの発達と自由意志により、 、彼らの罪もまた増え、ますます急速に広がっていった——彼らの美徳ではなく、私の律法に対する違反がそうであった。

15. そこで、私はノアを準備させた。私は彼に霊から霊へと自らを現した。なぜなら、私は人類の始まりから、このように人々と対話をしてきたからである。

16. 私はノアに言った。「私は人々の魂を、あらゆる罪から清める。そのために、私は大洪水を送る。箱舟を造り、あなたの子供たち、その妻たち、あなたの孫たち、そしてあらゆる種類の動物を一対ずつ、その中に入れなさい。」

17. ノアは私の命令に従った。そして、私の言葉通り、大災害が訪れた。悪しき種は根こそぎ引き抜かれ、善き種は私の穀倉に保管された。そこから私は、私の正義の光を内に宿し、私の律法を遵守し、良き道徳に従って生きることを知る、新しい人類を創造した。

18. あなたがたは、あのように悲惨な死を遂げた人々が、肉体も魂も滅びてしまったと思うのか。 まことに、わたしはあなたがたに言う。いいえ、わが子らよ。彼らの魂はわたしによって守られ、審判者である彼ら自身の良心の前に目覚め、再び命の道へと戻る準備が整えられ、そ

の道において霊的な進歩を遂げるようになったのである。（302, 14-16）

アブラハムの犠牲の精神

19. あなたがたが苦難の杯を底まで飲み干す必要が、常に生じるわけではない。なぜなら、あなたがたの信仰、従順、決意、そして私の命令に従おうとする意志を見るだけで、私には十分であり、それゆえ、私はあなたがたを、試練の最も厳しい瞬間から免じてあげるのだ。

20. アブラハムが、深く愛していた息子イサクを犠牲に捧げるよう求められたことを思い出せ。この族長は、痛みと息子への愛を乗り越え、あなたがたにはまだ理解できないような、従順、信仰、愛、そして謙遜の試練の中で、息子を捧げようとしていたのだ。 しかし、彼は息子への犠牲を遂行することを許されなかった。なぜなら、彼は心の奥底で既に神の御心への従順を証明しており、それだけで十分だったからである。 アブラハムの手が、より高い力によって止められ、イサクの犠牲を阻止されたとき、彼の心の中の歓喜はどれほど大きかったことか！彼は主の御名をどれほど賛美し、その英知をどれほど称賛したことか！（308, 11）

21. 私がアブラハムに、その愛を試すために、彼の息子であり、深く愛するイサクを犠牲に捧げるよう求めたとき、アブラハムとその息子イサクを通して、私はあなたがたに、救い主の犠牲の死が何を意味するかを示すたとえを与えたのである。

22. 正しく考察すれば、その行為の中に、後に「独り子」の犠牲が
＊ が世界の救いのために捧げられたこととの類似点を見出すだろう。＊ この聖書の表現は、「この世に生まれ出た（あるいは受肉した）神の御子」を意味する。

23. ここでアブラハムは神の体現であり、イサクはイエスの姿であった。 その瞬間、族長は、主が自分の息子の人生を要求されたのは、無垢な者の血が民の罪を洗い流すためだと考えた。そして、彼は自分の肉から生まれた者を深く愛していたにもかかわらず、神に対する従順、そして民への憐れみと愛が、愛する息子の命よりも彼にとって重かったのだ。

24. 従順なアブラハムは、息子に致命的な一撃を加えようとしていた。彼が悲しみに打ちひしがれ、息子を犠牲にするために腕を上げたその瞬間、私の力が彼を制止し、愛と従順の証としてその象徴が残るよう、息子の代わりに子羊を犠牲にするよう命じた。（119, 18-19）

ヤコブの天の梯子の夢のイメージ

25. ヤコブが夢の中で見たあの梯子がどのような意味を持つか、ご存知でしょうか。あの梯子は、魂の生涯と発展を象徴しているのです。

26. 啓示が下った時、ヤコブの肉体は眠っていたが、その魂は目覚めていた。その魂は父への祈りによって高みへと昇り、光の領域に至ったとき、天からのメッセージを受け取った。それは、全人類である彼の民のために、霊的な啓示と真理の遺言として残されるべきものであった。なぜなら、「イスラエル」とは地上の名ではなく、霊的な名だからである。

27. ヤコブは、その梯子が地上に立っており、その頂点が天に触れているのを見た。これは、魂の向上への道を指し示している。それは地上で肉体に始まり、魂が物質的な影響から遠く離れて、その光と本質を父のものと一つにする時に終わるものである。

28. 族長は、その梯子の上を天使たちが昇り降りしているのを見た。これは、光を求める魂、あるいは贖罪と浄化という使命を帯びて、霊界へ帰還する際に少しでも高い次元へ昇るために、絶え間なく生まれ、死に、絶えず行き来する魂の姿を象徴していた。 それは、完全性へと至る魂の発達の道である。

29. それゆえ、ヤコブは梯子の頂点に、象徴的なエホバの姿を見た。それは、神こそが、あなたがたの完成と努力の目標であり、また、果てしない至福という最高の報いであることを示していた。それは、過酷な戦い（）、長い苦しみ、そして父の懐にたどり着こうとする粘り強さに対する報酬として与えられるものである。

30. 魂は、運命の打撃や試練の中に、常に昇華するための功徳を積む機会を見出してきた。その際、あらゆる試練において、常にヤコブの梯子が象徴され、それはあなたがたに、さらなる段を登るよう促していたのである。

31. これは大きな啓示であった、おお弟子たちよ。なぜなら、魂が神聖なるもの、高きもの、清きもの、善きもの、真実なるものを崇拝する目覚めが、まだ始まったばかりの時代に、霊的な生活について語られたからである。

32. そのメッセージは、ある一つの家族のためだけのものでも、ましてや一つの民族のためだけでもなかった。その本質は霊的なものであり、それゆえ普遍的な意味を持っていた。まさにそれゆえに、父の御声はヤコブにこう語られた。「わたしは、アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今いるこの地を、わたしはあなたとあなたの子孫に与える。そして、その

子孫は地の塵のように数多くなる。 あなたがたは西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福されるであろう。」（315, 45-50）

ヨセフとその兄弟たち

33. ヤコブの息子ヨセフは、エジプトへ向かう途中の商人たちに、実の兄弟たちによって売られてしまった。ヨセフはまだ幼かったが、すでに預言という偉大な賜物の兆しを見せていた。嫉妬に駆られた兄弟たちは、二度と彼に会うことはないだろうと考え、彼を追い出した。しかし、そのしもべを見守っていた主は、彼を守り、エジプトのファラオのもとで彼を偉大な者となさった。

34. それから何年も後、世界が干ばつと飢饉に見舞われたとき、エジプトはヨセフの助言と霊感に導かれて、その災難に耐えうるだけの十分な備蓄を蓄えていた。

35. そこで、ヤコブの息子たちは食糧を求めてエジプトへとやって来た。 彼らの兄弟ヨセフがファラオの大臣兼顧問となっていることを知ったとき、彼らの驚きは大きかった。彼を見たとき、彼らは自分の過ちを悔い改め、彼の足元にひざまずき、兄弟の預言が成就したことを悟った。彼らが死んだと思っていたその人物が、力と徳と知恵に満ちて、彼らの目の前に立っていたのだ。 彼らが売った預言者は、主が幼い頃にすでに彼の口に授けていた預言の真実を彼らに証明した。彼らが苦しめ、売ったその兄弟は、彼らを赦した。民よ、理解できるか？今、あなたがたは、なぜ私がこの日にこう言ったのかを知ったはずだ。「いつ、あなたがたは、ヨセフが兄弟たちに認められたように、私を認めるようになるのか？」（90, 2）

モーセに導かれたイスラエルの民の荒野の旅

36. 「初期」において、モーセはイスラエルの先頭に立ち、40年間にわたり彼らを導いて荒野を通り、カナンの地へと向かった。しかし、不従順、不信仰、そして物質主義ゆえに、ある者は冒涜し、ある者は背き、またある者は反抗した。 しかし、モーセはこの状況において、彼らが至高者の御心を傷つけることなく、彼らの不従順を見過ごして天からマナを降らせ、岩から水を湧き出させたその父に対して、謙虚かつ従順であるよう、知恵と忍耐をもって彼らに語りかけた。（343, 53）

37. モーセは、真の神が彼と共におられるという十分な証拠を提示していた。しかし、民はさらに多くの証しを求めた。そこで、使者が群衆をシナイ山の麓まで導くと、彼はエホバの御力

を呼び求め、主は彼を尊び、大きな証拠と奇跡を授けられた。
38. 民は、モーセが信仰によって聞き、見ていたその方を、自らも聞き、見たいと望んだ。そこで、わたしは雲の中に現れ、民に数時間にわたりわたしの声を聞かせた。しかし、その声はあまりにも轟き渡るもので、人々は恐怖のあまり死ぬかと思った。彼らの体は震え、その正義の声を聞いて魂は戦慄した。 そこで民はモーセに懇願し、もはや主の声を聞くことができないから、主が民に語りかけないよう主にお願いしてほしいと訴えた。彼らは、永遠なる方と直接交わるには、自分たちがまだあまりにも未熟であることを悟ったのである。（29、32、34）
39. 人生の大きな戦いのなかで、あのイスラエルの民が荒野で強くなったように、あなたがたの魂を強めなさい。果てしなく続くかのように見え、容赦ない太陽と灼熱の砂に覆われた荒野が、どれほど広大か、あなたがたは知っているか。敵が待ち伏せているために、孤独と静寂、そして夜通し見張らなければならないという必要性が、どのようなものか、あなたがたは知っているか。 まことに、あなたがたに告げる。あの民が、神を信じるという偉大さを悟り、神を愛することを学んだのは、まさにあの砂漠の中であった。 あの民は、砂漠に何を期待できたというのか？それにもかかわらず、彼らにはすべてがあった。パン、水、休息のための住まい、オアシス、そして父であり創造主である神への感謝をもって魂を高揚させるための聖域。（107, 28）

真の神のためのエリヤの戦い

40. 「最初の時代」に、エリヤは地上に降り立ち、人々の心に近づいたが、彼らは異教と偶像崇拝に堕していた。 世界は王や祭司たちによって統治されていたが、彼らは皆、神の律法の遵守から背を向け、民を迷いと虚偽の道へと導いていた。彼らは様々な神々のために祭壇を築き、それらを崇拝していた。
41. エリヤはその時代に現れ、正義に満ちた言葉で彼らにこう語った。「目を開き、あなたがたが主の律法を冒涜したことを悟りなさい。 あなたがたは、主の使徒たちの模範を忘れ、生ける力ある神にふさわしくない偶像崇拝に堕ちてしまった。あなたがたは目を覚まし、主を見上げ、主を認める必要がある。偶像崇拝を捨て、あなたがたが主を表現するために用いたあらゆる像から目を背けよ。」
42. エリヤは、私の声を聞いた。私は彼に言った。「この邪悪な民から離れよ。あなたが私の名において命じるまで、長い間雨は降らないと彼らに告げよ。」
43. そこでエリヤは言った。「わが主がその時を告げ、わが声

が命じるまで、雨は降らないであろう。」そう言い終えると、彼は立ち去った。

44. その日から大地は乾ききり、雨の降るべき季節が過ぎ去っても、雨は降らなかった。空には雨の兆しは全く見られず、野原は干ばつに苛まれ、家畜は次第に衰弱していった。人々は喉の渇きを癒そうと地面を掘り返したが、水は見つからなかった。 川は干上がり、草は灼熱の太陽の光に耐えきれず枯れ果て、人々は神々に祈りを捧げ、自分たちを養うための種を蒔き、収穫するために、その水という要素が戻ってくるよう懇願した。

45. エリヤは神の命じるところに従って身を隠し、祈りつつ主の御心を待っていた。男も女も、水が尽きることのない新しい土地を求めて、故郷を離れ始めた。至る所でキャラバンが見られ、あらゆる場所の地は干からびていた。

46. 年月が過ぎ、ある日、エリヤが心を父に向け祈っていると、父の声が聞こえてきた。「王のもとへ行きなさい。私が合図をすれば、この地に再び雨が降るだろう。」

47. 謙虚で従順なエリヤは、その民の王のもとへ行き、偽りの神を崇める者たちの前で、自らの力を示した。その後、彼は父とその力について語り、するとしるしが現れた。空には稲妻、雷、火が見られ、続いて命を与える雨が滝のように降り注いだ。 野原は再び緑に覆われ、木々は実り豊かになり、豊かさがもたらされた。

48. 人々は、この証拠を目の当たりにして目覚め、エリヤを通して彼らを呼びかけ、戒めた父を思い出した。当時、人類を目覚めさせるために、エリヤが行った奇跡は数え切れないほど多く、また非常に大きなものであった。（53, 34-40）

イスラエルの十二部族

49. 預言者や先駆者、光の精霊たちが、イスラエルの民の中にのみ存在したとは考えないでほしい。わたしは彼らの一部を他の民族の中にも遣わしたが、人々は彼らを使者ではなく神々として捉え、その教えを基に宗教や崇拝を築き上げた。

50. イスラエルの民は、他の民族に対して果たすべき使命を理解せず、祝福と安楽に満ちた安住の地で眠り続けていた。

51. 父は、ある部族が民を守り平和を維持する役割を担い、別の部族が土地を耕し、さらに別の部族が漁師や船乗りから成る、完全な家族としてそれを形作った。 また別の部族には神への霊的な崇拝が委ねられており、こうして民を構成する十二の部族はそれぞれ異なる役割を果たし、それらが一体となって調和の模範を示していた。しかし、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたがかつて持っていた霊的な能力は、今もなおあな

たがたの中に残っているのだ。（135, 15-16）

イスラエルの預言者たちと最初の王たち

52. 預言者たちは大いなる真実をもって語り、ほとんど常に、混乱と迷いの時代に地上に遣わされた。彼らは民に警告し、悔い改めと回心を求め、もし彼らが善に向かわなければ、正義による大いなる懲罰が下ると告げた。 また、神の律法に従い、それに従順であることへの祝福を予言したこともあった。

53. しかし、それらの預言者たちが語ったのは、善と正義、そして相互の尊重を実践するよう促す戒めであった。彼らは、魂の生命、その運命、そしてその発展について明らかにしたわけではない。私が自分の代理とするために選び、その仲介を通じて永遠の律法を授けたモーセでさえ、霊的な生命についてあなた方に語ったことはなかった。

54. 父の律法には、知恵と正義が含まれている。それは人々に、平和に生き、互いに愛し合い、尊重し合い、私の目において人間としてふさわしい者となるよう教えるものである。 しかし、モーセは、肉体の死の境界の向こう側に何があるか、また、不従順な魂の償いがどのようなものであるか、あるいは、人生の使命において賢明で勤勉な者への報いがどのようなものであるかを、人類に示すことはなかった。

55. その後、霊的な賜物と霊感に満ちたダビデが統治し、高揚の瞬間や恍惚のさなかに、彼は賛美歌や霊的な歌を聞き取り、それらをもとに詩篇を創作した。それらは、イスラエルの民を招き、祈り、主に対して心の最良の捧げ物を捧げるよう促すためのものであった。 しかし、ダビデは、その愛と霊感のすべてをもってしても、民に魂の驚くべき存在、その発展、そしてその目的を明らかにすることはできなかった。

56. そして、彼の後を継いで統治し、同様に、彼に授けられた知恵と力の偉大な賜物を示し、そのために愛され、称賛され、その助言、裁き、格言が今日でも語り継がれているソロモン——もし彼の民が彼に立ち向かい、こう尋ねたとしたら： 「主よ、霊的な生命とはどのようなものですか？死の向こうには何がありますか？魂とは何ですか？」と尋ねてきたとしても、ソロモンは、そのすべての知恵をもってしても、それに答えることはできなかっただろう。（339, 12-15）

第10章——時が満ちて

預言的な予言

1. あなたがたの父は、神の「御言葉」が人々の間に宿り、その愛の崇高な模範によって、彼らに贖いの道を示すことができるよう、すべてを準備された。

2. まず、神は預言者たちに霊感を与え、メシアがどのような姿でこの世に現れるか、人間としてのその働き、苦難、そして死がどのようなものになるかを告げさせた。それは、キリストが地上に現れたとき、預言を知っている者が即座に彼を認識できるようにするためであった。

3. 私がイエスとして現れる何世紀も前に、預言者イザヤはこう言った。「それゆえ、主はあなたがたにこのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもって、男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」（これは「神は我々と共におられる」という意味である）。彼は、この預言をはじめとする数々の預言によって、私の到来を告げたのである。

4. 私が到来する何世紀も前に、ダビデは、痛みと預言的な意味に満ちた詩篇の中で、十字架上のメシアの苦難を歌った。それらの詩篇の中で、彼は十字架上の私の七つの言葉の一つについて語り、群衆が私を十字架へと導く際の軽蔑、私が「父が私の中にいる」と言うのを聞いて人々が口にする嘲笑の言葉、 人間の恩知らずさによって私の肉体が感じるであろう見捨てられ感、私が受けることになるあらゆる拷問、さらには彼らが私の衣をめぐってくじを引く様子までもが記されている。

5. 私の預言者たちは皆、私の到来を告げ、道を整え、その日が来た時に誰も迷うことがないように、正確な特徴を明らかにした。（40, 1-5）

ユダヤ民族におけるメシアの期待

6. 当時の世界は、イスラエルの民があの「第二の時代」に私を待ち望んだような形で、私を待ち受ける準備ができていなかった。私の偉大な預言者たちは、メシア、すなわち救い主、神の子を予告していた。その方は、抑圧された者たちを解放し、「言葉」の光によって世界を照らすために来られるはずだった。 その民が苦しめば苦しむほど、約束された方の到来を切望し、屈辱と抑圧の杯を飲み干せば飲み干すほど、メシアの臨在を渇望し、至る所で、救い主の到来が近いことを告げる兆しやしるしを探し求めた。

7. 世代から世代へ、親から子へと、神の約束は受け継がれ、それは長い間、主の選民を目覚めさせ、祈りへと駆り立てた。

8. ついに私は民のもとへ来たが、皆が私を待ち望んでいたにもかかわらず、私を認識できた者は皆ではなかった。ある者は霊的な方法で、またある者は物

質的な解釈によって私を受け入れたのである。

9. しかし、私の臨在を感じ、私の言葉の光の中で天の御国を仰ぎ見、私の啓示を信じた者たちの誠実さと愛は、私にとって十分であった。私に忠実に従い、私を霊的な救い主と見なした者たちだけで、私には十分であった。なぜなら、私がこの世を去った後、私の真理を証ししたのは、彼らであったからである。

10. 私のメッセージは地上のすべての民に向けられていたが、私の呼びかけは、後に私の言葉の代弁者となるよう、選ばれた民の心に届いた。とはいえ、私の臨在を感じたのはその民だけではない。他の国々においても、人々は私の到来のしるしを見出し、私が地上に臨在する時を予感していたのである。（315, 17-19）

11. あらゆる時代、あらゆる神の啓示において、エリヤは人々の前に現れる。

12. メシアはまだ地上に来てはいなかったが、もう間もなく、彼は人間として生まれようとしていた。そして、すでに預言者の魂はヨハネの中に転生しており、彼は後に「洗礼者」と呼ばれ、人々の間に「御言葉」の臨在となる天の御国の到来を告げるために遣わされたのである。（31, 61-62）

イエスの生みの母マリア

13. 「最初の時代」においてすでに、族長や預言者たちはメシアの到来について語り始めていた。しかし、メシアは霊としてだけ来たのではない――彼は、女性から生まれ、人間となり、女性から肉体を得るために来たのである。

14. 神の母なる霊もまた、人間となり、女性となり、清らかさの花とならなければならなかった。そうしてこそ、その花冠から、イエスそのものであった神の「御言葉」の香りが漂い出るのだ。（360, 26）

15. ナザレには、清らかさと優しさの花、マリアという名の婚約した処女が住んでいた。彼女はまさに預言者イザヤによって予告された者であった。なぜなら、彼女の胎内から真の命の実が生まれるはずだったからである。

16. 主の霊的な使者が彼女のもとに来て、彼女が地上に持ち込んだ使命を告げ知らせるために、こう言った。「おめでとう、恵まれた方よ。主はあなたと共におられます。あなたは女のうちで祝福されています。」

17. 神の神秘が明らかにされる時が到来し、メシア、救い主、贖い主の到来について語られてきたすべてのことが、今まさに成就しようとしていた。しかし、私の存在を感じ取れた心はどれほど少なかったことか。私の真理の光の中で天の御国を認識

する準備ができていた魂は、どれほど少なかったことか。（40, 6-7）

幼子イエスへの礼拝

18. 今日、人類は、東方の賢者たちがベツレヘムの飼い葉桶を訪れ、神の御子を礼拝したあの日を記念している。今日、ある心たちが私に問う。「主よ、あの力強く賢明な方々が、あなたの御前にひれ伏し、あなたの神性を認めたというのは本当でしょうか？」
19. そう、わが子らよ、私の御前にひざまずいたのは、まさに学識、権力、そして富であったのだ。
20. また、そこには羊飼いたちとその妻や子供たちもいた。彼らは、世界の救い主を迎え、祝福するために、質素で素朴ながらも心温まる贈り物を携えていた。そして、天の慈愛そのものを体現するマリアもそこにいた。彼らは謙虚さ、無垢さ、そして素朴さを体現していた。 しかし、羊皮紙の巻物にメシアについて語られた預言や約束を記していた者たちは、誰がこの世に生まれてきたのかさえ気づくことなく、深く眠り込んでいた。（146, 9-11）

イエスとマリアの愛の絆

21. イエスは幼少期と青年期をマリアの傍らで過ごし、彼女の膝の上やそばで母なる愛を享受した。女性となった神の優しさは、救い主がこの世での最初の数年間を甘美なものにした。なぜなら、その時が来ると、彼はあまりにも大きな苦杯を飲まなければならなかったからである。
22. イエスの御体が形作られ、主が共に暮らされたマリアの懐において、霊的な高み、清らかさ、そして聖性に欠けるなどということは、どうしてあり得ようか。
23. わたしを愛する者は、まずわたしのすべて、すなわち、わたしが愛するすべてのものを愛さなければならない。（39, 52-54）

イエスの知識と知恵

24. 人々は書物の中で、イエスが知識を得るためにエッセネ派のところにいたと主張している。しかし、世界が創造される前からすべてを知り、生きておられた御方は、人間から学ぶべきことは何一つなかった。 神聖なるものは、人間的なものから何も学ぶことはできなかった。私がどこにいようとも、それは教えるためであった。この地上に、神よりも賢い者がいるだろうか？キリストは、人々に神聖な知恵をもたらすために、父のもとから来たのである。あなたがたの師が、12歳の時に当時の神学者、哲学者、律法学者たちを深く驚嘆させたとき、その証拠

を示してくれなかっただろうか？

25. ある者たちは、イエスにすべての人間が持つ弱さを帰し、神聖で過ちのないその人に、自分たちの心の中に抱いている汚れを投げつけることを楽しんでいる。彼らは私を知らないのだ。

26. あなたがたが目にしている自然のあらゆる奇跡が、神の思念の物質的な具現に他ならないとすれば――キリストの肉体こそが、あなたがたの父なる神の崇高な愛の思念の具現であったとは、思わないのか。それゆえ、キリストは肉体をもってではなく、霊をもってのみ、あなたがたを愛したのだ。 私の真理は、絶対的な光と無制限の力をその内に秘めているため、決して歪められることはない。（146, 35-36）

27. 私は「第二の時代」において、あなたがたをこの地上に導いた使命を果たすために、いかにして適切な時を待つべきかという手本を示した。

28. 私は、私の肉体――人々の目の前にあったあのイエス――が、神の使命である、あなた方に愛を教えるという任務を彼を通して果たすのに最適な年齢に達するまで待った。

29. その肉体――すなわち心と知性――が完全に開花したとき、私の霊はその唇を通して語り、私の知恵はその知性を満たし、私の愛はその心に宿った。そして、その肉体と、それを照らす神聖な光との調和は、あまりにも完全であったため、私はしばしば人々の群れに向かってこう語った。 「御子を知る者は、父を知っている。」

30. キリストは、人々を教えるために、神にある真理を用いた。彼はそれをこの世から得たのではない。ギリシア人、カルデア人、エッセネ派、フェニキア人、あるいは他の誰からも、彼はその光を得なかった。彼らはまだ天の国への道を知らなかったが、私は地上ではまだ知られていなかったことを教えたのである。

31. イエスは、天の御国、すなわち愛と正義の律法、光と命の教えを宣べ伝える時が来るまで、幼少期と青年期を、実践的な隣人愛と祈りに捧げていた。

32. あの時代に私が宣べ伝えた言葉の真意を探り、それがいかなる人間の教えや、当時知られていたいかなる学問に由来し得たものか、私に告げなさい。

33. 言っておくが、もし私が本当に当時の人々の学識に頼っていたならば、私は彼らの中から弟子を探したはずであり、私が使徒の集団を形成した、教育を受けておらず無知な人々の中から探すことはなかっただろう。（169, 62-68）

ナザレにおける人間社会の無理解

34. 私が訪れた民は、私に保護の宿を提供することができなかったため、私はエジプトのような民の懐を求めなければならなかった。しかし、私の心が耐えなければならなかった苦しみは、それだけではない。

35. 私がエジプトから戻り、ナザレで暮らしていたとき、絶えず嘲笑され、不信仰や嫉妬に満ちた言葉によって傷つけられた。

36. 私はそこで奇跡を行い、隣人愛と私の力を示した――それにもかかわらず、誤解された。私の生涯と業を間近で知っていた者たちのうち、私を信じた者は一人もいなかった。

37. それゆえ、宣教の時が来たとき、私はナザレを去るにあたり、こう言わざるを得なかった。「まことに、あなたがたに告げる。預言者は、自分の故郷では信じられないものである。その言葉が受け入れられるためには、故郷を離れなければならない。」（299, 70-72）

第11章 - 地上のイエスの働き

ヨルダン川での洗礼；荒野での準備期間

1. 神の言葉が自らの口から発せられる時を待ち望んでいた、愛に満ちた謙虚なナザレ人イエスは、洗礼の水を受けるためにヨルダン川のほとりでヨハネを訪ねた。イエスは清めを求めるためにそこへ行ったのか。いいえ、わが民よ。彼は儀式を行うためにそこへ行ったのか。それも違う。 イエスは、ご自身が「自分」であることをやめ、人間が消え去り、御霊に語らせる時が来たことを知っておられ、人々の記憶に深く刻まれるような行いによって、その時を際立たせようとなさったのです。

2. その象徴的な水は、いかなる汚れも洗い流すものではなかったが、人類の模範として、その肉体をこの世へのあらゆる束縛から解き放ち、御心によって御霊と一つになることを可能にしたのである。 このとき、そこにいた者たちは、人間の言葉で語る神の声を聞いた。「これは、わたしが愛し、喜んでいるわが子である。彼に聞き従え。」

3. その瞬間から、神の言葉はイエスの口において永遠のいのちの言葉となった。なぜなら、キリストが彼を通してその全き姿を現されたからである。人々は彼をラビ、師、使徒、メシア、そして神の子と呼んだ。（308, 25-27）

4. その後、私は瞑想し、あなたがたに創造主との対話に入ることを教え、また砂漠の静寂の中で私を待ち受ける業を熟考し、私があなたがたに託した業を成し遂げる前に、まず自らを清

めなければならないことを教えるために、砂漠へと退いた。 それゆえ、あなたがたの心の静寂の中で、父との直接の対話を求めなさい。そして、そのように準備を整え――清められ、力づけられ、決意を固めて――揺るぎなく、あなたがたの困難な使命の成就に取り掛かりなさい。（113, 9）

イエスと神との一体性

5. 3年間、私はイエスの口を通して世に語りかけたが、私の言葉や考えが、その知性によって歪められることはなく、その行いが私の意志と一致しないこともなかった。その理由は、イエスとキリスト、すなわち人間と御霊が一つであったからであり、それはキリストが父と一つであるのと同じである。（308, 28）

6. わたしの中に父を見出せ。まことに、わたしはあなたがたに言う。キリストは、世界が存在する前から、永遠に父と一つであったのだ。

7. 「第二の時代」において、神と一つであるこのキリストは、地上でイエスの祝福された肉体をもって人間となり、それによって神の子となったが、それはただその人間性においてのみのことである。なぜなら、私はもう一度言うが、存在する神はただひとりだけだからである。（9, 48）

8. 私がイエスとして人間となったのは、神が人間の姿をしていることをあなたがたに理解させるためではなく、神聖なすべてに対して目も耳も塞いでいた者たちのために、私を目に見えるもの、耳に聞こえるものとするためであった。

9. まことに、あなたがたに告げる。もしイエスの体がエホバの姿であったなら、彼は血を流すことも、死ぬこともなかっただろう。それは完全な体であったが、人間的であり、感覚を持つものであった。それは、人々が彼を見、彼を通して天の父の声を聞くことができるようにするためであった。（3, 82）

10. イエスには二つの性質があった。一つは物質的かつ人間的なもので、私の意志によってマリアの処女の胎内に創造されたものであり、私はこれを「人の子」と呼んだ。もう一つは神聖なものであり、それは「神の御子」と呼ばれた霊であった。この神聖な性質の中にこそ、イエスを通して語られた父なる神の「神の言葉」があった。もう一方の性質は、単に物質的かつ目に見えるものに過ぎなかった。(21, 29)

11. キリスト、すなわち神の「御言葉」こそが、清く純粋な人間であるイエスの口を通して語られたのである。

12. 人間イエスは生まれ、生き、そして死んだ。しかし、キリストに関しては、彼は生まれも

せず、この世で育ちもせず、死んだのでもない。なぜなら、彼は愛の声であり、愛の霊であり、神の言葉であり、創造主の知恵の現れであり、常に父の中にいたからである。(91, 28-29)

待望のメシアとしてのイエスの不承認

13. 「第二の時代」において、私がすべての人から認められたわけではない。 預言者たちによって与えられた前兆が成就したのを見て、すでに私を待ち望んでいたユダヤ人の民の懐に私が現れたとき、私の存在は多くの人々を混乱させた。彼らは預言者たちの言葉を正しく解釈することができず、自分たちのメシアを、敵を打ち倒し、王たちや抑圧者たちを屈服させ、彼を待ち望んでいた者たちに 財産や地上の富を授けてくれると期待していた。

14. その民は、イエスが貧しく、下着も着ておらず、体は粗末な衣一枚で覆われ、馬小屋で生まれ、後に単なる職人として働いているのを見て、彼が父から遣わされた者、すなわち約束された方であるとは信じることができなかった。 彼らがイエスを信じ、その神聖なメッセージを理解するためには、師は目に見える奇跡や偉業を成し遂げなければならないだろう。（227, 12-13）

15. 常に、私の存在を見出すのは謙虚な者たちと貧しい者たちであった。なぜなら、彼らの知性は、その明晰な判断力を曇らせるような人間の理論に囚われていないからである。

16. 「第二の時代」においても、メシアの到来は予告されていたにもかかわらず、彼が来たとき、素朴な心と謙虚な精神、そして偏見のない知性を持つ人々だけが、直感的に彼を認識したのである。

17. 神学者たちは預言者の書を手にし、メシアの到来の兆し、時期、そしてその様相を告げる言葉を日々繰り返していた。それにもかかわらず、彼らは私を見ていながら私を認めず、私の言葉に耳を傾けながら、私が約束された救い主であることを否定した。 彼らは私の業を見たが、それに対して憤慨することしかできなかった。実のところ、それらはすべて預言されていたものだったにもかかわらず。（150, 21-23）

18. 今日、人々はもはやイエスを疑ってはいないが、多くの者が私の神性を論じ、さらには否定さえしている。ある者は私に大きな霊的高みがあることを認めるが、他の者は、私も父のもとへ至るために魂の発達過程を経ていると主張する。しかし、もしそうであるならば、私はあなたがたに「私は道であり、真理であり、命である」とは言わなかっただろう。（170, 7）

庶民の中に現れた救い主イエス

19. あなたがたの使命は、この地上での道のりにおいて、あなたがたの神聖なる師の模範に従って生きることである。思い出してほしい。私が家庭を訪れるたびに、私はすべての人に平和のメッセージを残し、病人を癒やし、愛が持つ神聖な権威をもって悲しむ人々を慰めたのである。

20. そこで私を信じないからといって、家に入ることを決してためらったことはない。私は、その場所を去る時、住人たちの心があふれんばかりの喜びで満たされていることを知っていた。なぜなら、彼らは知らず知らずのうちに、私の教えを通して天の国を垣間見ていたからである。

21. 時には私が人々の心を訪ね、時には彼らが私を訪ねた。しかし、いずれの場合も、私の愛こそが、私の言葉の真意を通じて彼らに与えた永遠の命の糧であった。（28, 3-5）

たゆまぬ説教者イエス

22. 私がどかの谷の孤独な場所に身を隠したいくつかの機会には、ほんのわずかな間だけ一人きりになることができた。なぜなら、私の言葉を聞きたがって、その無限の慈愛に満ちた眼差しを渇望して、群衆が師のもとへと近づいてきたからである。私は彼らを迎え入れ、その男たち、女たち、子供たちに、私の限りない慈悲の温もりを注ぎました。なぜなら、あらゆる被造物の中に、私がこの世に生を受けた理由である魂が存在することを知っていたからです。 それから、私は彼らに、霊の真の故郷である天の国について語った。それは、彼らが私の言葉によって内なる不安を鎮め、永遠の命を得るという希望に力を得るためであった。

23. 群衆の中に、私の真理を大声で否定し、私が偽預言者であると断言しようとする者が一人、ひっそりと潜んでいたことがあった。しかし、彼が口を開く間もなく、私の言葉が彼に先んじた。 また別の機会には、群衆の前で、主が侮辱を受けても不機嫌にならないことを証明するために、ある冒涜者が私を罵ることを許した。それによって、私は彼らに謙遜と愛の模範を示したのである。

24. 私の柔和さに恥じ入り、すぐに立ち去り、その行いによって真理を宣べ伝えている方を、自らの疑いによって傷つけてしまったことを悔いた者たちもいた。 機会が訪れるや否や、彼らは私のところへやって来て、道中私についてきた――私の言葉に心を動かされ、涙を流しながら、かつて私を傷つけた侮辱について許しを請うことさえ敢えてせず、ただ黙ってついてきた

。私は彼らを呼び寄せ、言葉で慰め、何らかの恵みを与えた。(28, 6-7)

25. 聞け。私が地上であなたがたと共にいた時、人々は群れをなして私のところへやって来た――高位の者たち、虚栄心に満ちた者たち、支配者たちで、彼らは私を聞くために密かに私を訪ねてきた（ ）。ある者は私を称賛したが、恐れからそれを公には認めなかった。またある者は私を拒絶した。

26. 男女や子供たちから成る大勢の人々が私のところに来て、朝も、昼も、夜も私の話に耳を傾けた。そして彼らは、いつでも主が喜んで彼らに神の言葉を授けてくださるのを見た。彼らは、主がご自身を忘れておられるのを見て、主の体が弱ったり、声が衰えたりしないように、いつ食事をとっておられるのか、理解できなかった。 その理由は、彼らが、イエスがご自身の霊から力を得て、ご自身の中に糧を見出しておられたことを知らなかったからである。（241, 23）

イエスの子供たちと自然への愛

27. 時折、私がひとりでいると、子供たちに発見され、彼らは私のところへやって来て、小さな花を差し出し、何か小さな悩みを打ち明け、私にキスをした。

28. 母親たちは、自分の小さな子供たちが私の腕の中にいて、私の言葉に耳を傾けているのを見つけると、不安そうに心配した。 弟子たちは、これが師に対する不敬にあたると考え、子供たちを私のそばから追い払おうとした。そこで私は彼らにこう言わなければならなかった。「子供たちを私のところに来させておきなさい。天の国に入るためには、子供のような清らかさ、素朴さ、そして純真さを持たなければならないのだから。」

29. 私は、ちょうど今まさに開こうとしている花のつぼみを見て喜ぶ人のように、その無垢さと気取らない様子に喜びを感じた。（262, 62-64）

30. イエスが、この地の様々な被造物と語り合っているところを、弟子たちに目撃されることは、どれほど多かったことか。師が鳥たちや野原、海と語り合っているところを、どれほど頻繁に目撃されたことか！しかし、弟子たちは、師が現実から遊離しているわけではないことを知っていた。彼らは、師の中に、すべての被造物に言葉を授け、すべての「子供たち」を理解し、御自身によって創造されたすべてのものから賛美と愛を受け取っている、父なる神の創造の霊が宿っていることを知っていたのだ。

31. 弟子たちや人々は、イエスが鳥や花を愛撫し、すべてを祝福する姿を何度目にしたことか

。そして、イエスの瞳の中に、すべての被造物に対する限りない愛の眼差しを見出したのである！ 弟子たちは、主がご自身の知恵から生まれたこれほど多くの栄光、これほど多くの驚異に囲まれているのをご覧になる時の、主の神聖な喜びを察知していた。また、そのような栄光に直面しても人々が無関心であること、これほど多くの素晴らしさに対して人間という被造物が鈍感で盲目であることをご覧になる時、師の目に涙が浮かんでいるのを何度も目にした。 彼らは、ハンセン病のために涙を流すハンセン病患者 を見たり、完全なる愛に満ちた領域に囲まれているにもかかわらず、自らの運命を嘆く男女を見たりするたびに、師がしばしば泣くのを見ました！（332, 25-26）

イエスの教え

32. イエスは、汝らに慈悲、柔和、愛を教えた。汝らに心から敵を赦すよう教え、偽りを捨てて真理を愛すべきだと告げた。また、汝らが受けた善と同様に、悪に対しても常に善をもって報いるべきであると説いた。 イエスは、隣人一人ひとりへの敬意を教え、肉体と魂の健康を見出す方法を明らかにされた。また、自分の人生をもって両親の名誉を守り、それによって子供たちからも尊敬されるようになるよう、示された。

33. これらは、真にキリスト教徒でありたいと願う者が従わなければならない戒めの一部である。（151, 35-36）

34. 律法学者やパリサイ人たちは、イエスの行いを観察し、それが自分たちの慣習とは異なっていることに気づくと、イエスが説く教えはモーセの律法に背くものであると主張した。 その理由は、彼らが律法を伝統と混同していたからである。しかし、私は彼らに、父がモーセに啓示された律法に背いたのではなく、言葉と行いによってそれを成就したことを証明した。

35. 確かに、私はその民の多くの伝統を無視した。なぜなら、それらが消え去り、より高次の教えを持つ新しい時代が始まるべき時がすでに来ていたからである。（149, 42-43）

36. 私がモーセを通して人類に与えた律法の第一の戒めにおいて、「天にあるものの像や模造品を作ってはならない。それに向かってひざまずき、それを拝んではならない」と述べたことを思い出せ。それ以来、人間のための道、そして魂のための道は、はっきりと示されている。

37. モーセは、十戒を人々に伝えるだけに留まらず、人間の生活のための二次的な律法を制定し、霊的な神への礼拝の中に伝統、儀式、象徴を導入した。これらはすべて、当時の人間の精神が歩んでいた発展の段階に応じたものであった。

38. しかし、約束されたメシアが来て、伝統、儀式、象徴、そして犠牲を廃し、律法のみを残した。それゆえ、パリサイ人たちが民に、イエスはモーセの律法に反対していると告げたとき、私は彼らに、自分は律法に反対しているのではなく、むしろそれを成就するために来たのだと答えた。 もし私の教えが伝統を取り除くことになるとしても、それは民が伝統を遵守するために、律法に従うことを忘れてしまったからに他ならない。（254, 17-18）

39. 現在の私の言葉は、「第二の時代」に私があなたがたに与えた言葉を消し去ることはない。時代も、世紀も、時代も過ぎ去るだろうが、イエスの言葉は過ぎ去ることはない。今日、私は、当時私があなたがたに語ったが、あなたがたが理解できなかったことの意味を、あなたがたに説明し、明らかにする。（114, 47）

イエスの「奇跡」

40. その教えが人々の心の中で信仰の火を灯すように、また人々に愛されるように、私は同時に奇跡を行なった。そして、これらの「奇跡」ができるだけ実感できるものとなるよう、私は病人の身体を用いて奇跡を行ない、盲人、聾者、唖者、足の不自由な者、悪霊に取りつかれた者、ハンセン病患者を癒やし、さらには死者をも生き返らせた。

41. キリストは人々の間で、どれほど多くの愛の奇跡を行われたことか！その奇跡の名称は、後世の世代への手本として歴史に留められている。（151, 37-38）

42. 神の業に仕える光の存在たちと、反抗的で無知な者たちが至る所で目立つようになり、その人類の中に、科学では解放できず、民衆から追放された悪霊に取りつかれた者たちが現れた。律法の教師たちも、科学者たちも、その病人に健康を取り戻させることはできなかった。

43. しかし、これらすべては、あなた方を教え、愛の証しを与えるために、わたしが予定していたことである。わたしは、多くの人々を驚かせるべく、イエスを通して、その被造物たちの癒やしをあなた方に与えた。

44. イエスの力について語り聞かされ、その奇跡を知っていた不信仰者たちは、イエスを一瞬でも動揺させ、彼が決して間違いを犯さないわけではないことを証明するために、最も困難な証拠を求めました。 しかし、憑かれた者たちを解放し、私が彼らに触れたり、見つめたり、あるいは命令の言葉を投げかけるだけで、彼らを普通の人間としての状態に戻し、その霊たちが彼らの精神から去り、両者がその重い重荷から解放されるという事実が、彼らを困惑させた。

45. この力に直面して、パリサイ人、学者、律法学者、そして徴税人たちは、それぞれ異なる反応を示した。ある者はイエスの権威を認めたが、ある者はその力を未知の影響によるものと見なし、またある者は何も言うことができなかった。しかし、癒やされた病人は、イエスの御名を賛美した。

46. ある者はたった一つの霊に取りつかれていたが、マグダラのマリアのように七つの霊に取りつかれた者もいれば、自ら「一軍団」であると言うほど多くの霊に取りつかれた者もいた。

47. 師の生涯を通じて、霊的な顕現が次々と起こった。あるものは十二使徒たちの目の前で、またあるものは 民衆の目の前で―野外でも家の中でも―起こった。それは奇跡、すなわち「不思議」の時代であった。（339, 20-22）

48. あなたがたが理解しているような「奇跡」など存在しない。神聖なものと物質的なものとの間に矛盾などないのだ。

49. イエスは多くの奇跡を行ったとされているが、まことに、私はあなたに告げる。彼の行いは、愛、すなわち神聖な力の自然な現れであった。その力は、すべての魂の中に未活用のまま存在しているにもかかわらず、あなた方はまだその使い方を理解していない。なぜなら、あなた方は愛の力を知りたがらなかったからだ。

50. イエスが成し遂げたすべての奇跡において、愛以外に何が作用していたというのか。

51. 聞け、弟子たちよ。神の愛が人類に現れるためには、その器としての謙遜さが必要であった。そして、イエスは常に謙遜であった。また、そのことを人々に示すため、ある時、彼は天の父の御心なしには何事も成し得ないと、あなた方に語ったのである。 この言葉の謙遜さを深く理解しない者は、イエスが他の人と同じような人間だったと思うだろう。しかし、真実は、イエスがあなた方に謙遜の教えを与えようとしていたということである。

52. イエスは、この謙遜、すなわち父との一体性が、人類に対してご自身を全能のものにすることを知っておられた。

53. 愛と謙遜と知恵を授ける、なんと偉大で美しい変容であろうか！

54. 今や、あなたがたは、イエスが「父の御心に従わなければ、何事もできない」と語ったにもかかわらず、実際にはすべてを成し遂げることができた理由を知っている。なぜなら、彼は従順であり、謙虚であり、律法と人々の僕となり、愛することを知っていたからである。

55. ですから、あなたがた自身、霊的な愛の能力のいくつかを知っているとはいえ、それを実感してはいないことを悟りなさい。それゆえ、あなたがたは、

神の愛がもたらす働きである、あなたがたが奇跡や神秘と呼ぶすべてのものの原因を理解することができないのです。

56. イエスがあなた方に与えた教えのうち、愛に由来しないものは一つでもあっただろうか。彼が、力と知恵の模範を示すために用いた科学、修行、あるいは神秘的な知識とは、いったい何だったのか。それは、すべてを成し遂げうる、至福の愛に他ならない。

57. 父の律法には矛盾など何一つない。それらは、賢明であるゆえに単純であり、愛に満ちているゆえに賢明なのである。

58. 師を理解しなさい。師こそが、あなた方の教科書である。（17, 11-21）

59. イエスを生かしていた霊は、私自身の霊、すなわち、あなたがたの神であった。神は、必要であったゆえに、あなたがたの中に住み、自らを現すために人となった。私は人間として、あらゆる人間の苦しみを味わった。自然の本質を研究してきた学者たちが私のところに来て、彼らは私の教えについて何も知らなかったことに気づいた。 大いなる者も小さな者も、徳ある者も罪深い者も、無垢な者も有罪な者も、私の言葉の真髄 を受け入れ、私は皆を私の御前に迎えた。しかし、多くの者が招かれたにもかかわらず、選ばれた者はわずかであり、私の周りにいた者はさらに少なかった。（44, 10）

姦通の女

60. 私は罪人たちを擁護した。姦通の女のことを覚えていないか？彼女が群衆に追われ、非難されながら私のところに連れて来られたとき、パリサイ人たちがやって来て私に尋ねた。「彼女をどうすべきか？」――祭司たちは、私が「正義を行いなさい」と言うのを期待し、そうすればこう言い返すつもりだったのだ。 『なぜ、あなたは愛を説きながら、この罪人が罰せられるのを許すのか？』と反論するつもりだったのだ。もし私が『彼女を解放せよ』と言っていたら、彼らはこう答えただろう。『あなたが――ご自身の言葉通り――支持しているモーセの律法には、姦通の現場で捕らえられた女は石打ちの刑に処すべきだという規定がある』と。」

61. 私は彼らの意図を見抜いたので、その言葉には答えず、身をかがめて、彼女たちを裁いた者たちの罪を地の塵に書き記した。彼らは再び、その女をどうすべきか私に尋ねたので、私は彼らに答えた。「罪のない者から、まず石を投げなさい。」 そこで彼らは自らの過ちに気づき、顔を覆いながら立ち去った。清い者は一人もおらず、心の奥底まで見透かされたと感じた彼らは、もはやその女性を告発することはなかった。なぜなら、

彼らも皆、罪を犯していたからである。しかし、その女性と、彼女と同様に姦淫を犯した他の者たちは、悔い改め、二度と罪を犯さなかった。 言っておくが、愛をもって罪人を改心させることは、厳しさをもって改心させることよりも容易である。（44, 11）

マグダラのマリア

62. マリア・マグダレナ――世が「罪人」と呼んだその女――は、私の温情と赦しに値する者であった。

63. 彼女はすぐに救いを得たが、信仰が弱く、ただ罪の赦しを請うだけの他の人々には、そうはならない。彼女が求めていたものをすぐに見つけた一方で、他の人々はそれを得られないのだ。

64. マグダラのマリアは、自分の悔い改めを誇示することなく、赦された。彼女は罪を犯したが、それはあなたがたが罪を犯すのと同じことである。しかし、彼女は深く愛していたのだ。

65. 愛する者は、人間としての振る舞いに過ちを犯すことがあるかもしれない。しかし、愛とは、心からあふれ出る温かさである。もしあなたがたが、自分たちと同じように赦されたいと願うなら、愛と信頼に満ちた眼差しをわたしに向けなさい。そうすれば、あらゆる過ちから解放されるだろう。

66. その女は二度と罪を犯さなかった。彼女の心から溢れ出た愛は、師の教えに捧げられたのである。

67. 彼女は過ちを犯したにもかかわらず、赦された。しかし、彼女の心には、人を清める炎が燃えていた。そして、その罪人が受けた赦しゆえに、彼女は一瞬たりともイエスから離れようとはしなかった。それに対し、私の弟子たちは、最も血なまぐさい時においてさえ、私を一人にしてしまった。 しかし、あの軽んじられていたマリアは、私から離れず、私を否認せず、恐れもせず、恥じることもなかった。

68. それゆえ、彼女は私の十字架の足元で、また私の墓の上で涙を流すことを許された。彼女は深く愛していたゆえに、その魂はすぐに救いを見出した。

69. 彼女の心の中にも、使徒の精神が宿っていた。彼女の回心は、真理の光のように輝いている。彼女は私の足元にひれ伏し、こう告げたのだ。「主よ、もしお望みなら、私は罪から解放されます。」

70. それに対して、あなたたちは――長い祈りで自分の過ちを覆い隠し、どれほど頻繁に、私に自分の無実を納得させようとするのか。

71. いいえ、弟子たちよ、彼女から学びなさい。すべての隣人の中に、真に主を愛しなさい。多くを愛しなさい。そうすれば

、あなたの罪は赦されるでしょう。あなたがたは、この真理を心の中で花開かせるとき、偉大となるのです。（212, 68-75）

ニコデモと輪廻転生の問題

72. その頃、私は、善意をもって私を訪ね、私と話そうとしたニコデモにこう言った。「肉から生まれたものは肉であり、霊から生まれたものは霊である。あなたがたに、再び生まれなければならないと言うとしても、驚いてはならない。」その言葉を理解できた者はいたか。

73. 私はその言葉をもって、たった一つの私の教えを理解するだけでも、一つの人生では不十分であり、この人生が内包する教訓を理解するためには、多くの地上での生が必要であることを、あなた方に伝えたかったのだ。それゆえ、肉体の役割は、魂が地上を歩む際の支えとなることだけにある。（151, 59）

イエスの変容

74. 「第二の時代」に、イエスはある時、数人の弟子たちを従えて山歩きをした。彼らはある山に登り、師が言葉によってその男たちを感嘆させている最中、突然、主の体が変容し、空間に浮かび上がり、その右にはモーセの霊、左にはエリヤの霊が立っているのを見た。

75. その超自然的な光景を目の当たりにし、弟子たちは神聖な光に目がくらみ、地面にひれ伏した。 しかし、彼らはすぐに落ち着きを取り戻し、師の肩に王たちの紫の外套を掛け、モーセとエリヤにも同様に掛けるよう提案した。すると、彼らは無限の彼方（ ）から降りてくる声を聞いた。その声はこう言った。「これは、わたしが喜ぶ、わたしの愛する子である。彼に聞き従え。」

76. 弟子たちはその声を聞いて大いに恐れおののいた。そして顔を上げると、そこには師だけが立っておられ、こう言われた。「恐れるな。また、わたしが死者の中からよみがえるまでは、この幻を誰にも話すな。」そこで彼らは主にお尋ねした。「なぜ律法学者たちは、エリヤが先に来なければならないと言うのですか。」 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、エリヤは先に来て、すべてのことを整えるであろう。しかし、あなたがたに言っておく。エリヤはすでに来たが、彼らは彼を認めず、むしろ彼に好き勝手に振る舞ったのだ。」そこで弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを話しておられるのだと悟った。

77. 今の時代、私は、あなたがたに、私が人間としての姿、すなわち人類がイエスとして知っていた姿で私を見ることを許すために、私が自己を現すこの肉体を、あなたがたの目の前で何度見えなくしてきたことか。そ

れにもかかわらず、あなたがたは、この新たな変容*を前にして、ひれ伏すことはなかった。（29, 15-18）

＊ この現象は、超心理学において「トランスフィグレーション（変容）」としても知られており、顕現しつつある霊的存在が次第に目に見える形となっていく現象を指す。

顕現しつつある霊的存在が次第に可視化されていく現象として知られている。

信仰を告白する勇気の欠如

78. かつて私が人間となってあなたがたの間で暮らしていた頃、夜、皆が休んでいる間に、見つかることを恐れて密かに私を訪ねてくる人々がしばしばいた。彼らは、私が群衆に語りかけている最中に私に向かって怒鳴り、私に対して憤りを抱かせてしまったため、良心の呵責を感じ、私を訪ねてきたのである。しかし、私の言葉が彼らの心に平和と光の贈り物を残し、私が彼らの体に癒しの香油を注いでいたことに気づくと、彼らの悔恨の念はさらに深まった。

79. 彼らはうつむいて私の前に現れ、こう言った。「師よ、私たちをお赦しください。あなたの言葉には真理が含まれていると悟りました。」 私は彼らに答えた。「もし私が真実だけを語っていることに気づいたのなら、なぜ隠れているのか。太陽が現れた時、その光を受けるために外に出るではないか。それなのに、いつそれを恥じたことがあるのか。真実を愛する者は、決してそれを隠したり、否定したり、そのために恥じたりはしない。」

80. 私がこう言うのは、多くの者がこっそりと私の話に耳を傾け、どこへ行ったかを否定し、聞いたことを隠し、時には私のところにいたことさえ否定しているのを見ているからだ。それなら、一体誰のことを恥じているのか。（133, 23-26）

イエスに対する敵意

81. 私が「第二の時代」に人々の群衆に語りかけたとき、私の言葉は――その意味も形式も完全なまま――すべての人に聞き届けられた。人々の心に深く入り込む私の視線は、一人ひとりが内に秘めているすべてを見抜いた。ある者には疑いがあり、ある者には信仰があり、またある者からは、恐怖に満ちた声が私に語りかけた。 それは、その痛みゆえに私から奇跡を期待していた病人たちであった。また、私が父のもとから来て人々に天の国をもたらすと言うのを聞くと、嘲笑を隠そうとする者たちもいた。さらに、私に対する憎しみと、私を黙らせたり排除したりしようとする意図を、私がその心の中に発見した者たちもいた。

82. 私の真理に心を刺されたのは、高慢な者たち、すなわちパ

リサイ人たちであった。 なぜなら、私の言葉はそれほど明確で、愛に満ち、慰めに満ちていたにもかかわらず――そして常に力強い御業によって裏付けられていたにもかかわらず――多くの人々は、私を人間イエスとして裁き、私の生涯を探り、私の着る服の質素さや物質的な富の絶対的な欠如に注目することで、私の存在の真実を見出そうとし続けたからである。

83. しかし、私を非難するだけでは満足せず、彼らは私の弟子たちをも非難し、彼らが話すとき、道で私に従うとき、あるいは食卓に着くときなど、あらゆる場面で彼らを厳しく監視した。 ある時、私の弟子たちが食卓に着く前に手を洗っていなかったのを見て、パリサイ人たちはどれほど憤慨したことか！ 身体の清浄さを魂の清らかさと混同した、哀れな者たちよ！彼らは、神殿で聖なるパンに触れるとき、手は清くとも、その心は腐敗に満ちていることに気づいていなかったのだ。（356, 37-38）

84. 彼らは私の行く先々で、私を詮索した。私のすべての行いと言葉は悪意を持って裁かれた。たいていの場合、彼らは私の業と証拠を前にして困惑していた。なぜなら、彼らの知性は、霊のみが理解しうることを理解する能力を持っていなかったからだ。

85. 私が祈ると、彼らは言った。「彼は力と知恵に満ちていると自ら言っているのに、なぜ祈るのか？ 彼に何が必要で、何を願うというのか？」そして、私が祈らないと、彼らは私が彼らの宗教的規定を守っていないと言った。

86. 弟子たちが食事をしているのに、私が何も口にしないのを見ると、彼らは私が神が定めた律法の外にいると判断した。そして、私が食事をしているのを見ると、彼らはこう自問した。「自分は命そのものであると主張しているのに、なぜ生きるために食べなければならないのか？」 彼らは、私がこの世に生を受けたのは、長い浄化の時期を経て人類がいかに生きるべきかを人々に啓示し、それによって、人間の苦しみ、肉体の必要、そして肉体的感覚の情欲を超越した、霊化された世代が生まれるようにするためであることを理解していなかった。（40, 11-13）

別れの予告

87. イエスは三年間、弟子たちと共に暮らした。イエスは、心からイエスを愛する大勢の人々に取り囲まれていた。弟子たちにとって、師が神聖な教えを説くのを聞くこと以外に何もない日々であった。イエスの足跡に従う中で、彼らは飢えも渇きも感じず、 つまずきも障害も一切なく、その集団を取り巻く空気

は平和と幸福に満ちていた。それにもかかわらず――彼らが愛するイエスを仰ぎ見て特に心を奪われていたある時、イエスは彼らにこう言われた。「今、別の時が来る。私はあなたがたのもとを去り、あなたがたは狼の中に放たれた羊のようになるだろう。 その時は近づいている。私は来たところへ戻らなければならない。あなたがたはしばらくの間、独りになるだろう。そして、愛と正義を渇望し、飢えている人々に、あなたがたが見聞きしたことの証しを伝えなさい。私の名において働きなさい。そうすれば、その後、私はあなたがたを私のところ、永遠の故郷へと迎え入れる。」

88. その言葉は弟子たちを悲しませた。その時が近づくにつれ、イエスは別れを告げるたびに、その予告をより力強く繰り返された。 しかし同時に、イエスは、御自身の霊は去ることなく、これからも世を見守り続けると告げることで、御言葉を聞く者たちの心を慰められた。彼らが当時の人々に、慰めと希望のメッセージとして御言葉を伝える準備をするならば、イエスは彼らの口を通して語り、奇跡を行われるだろう。（354, 26-27）

エルサレムへの入城

89. 私がエルサレムの街に入ったとき、群衆は歓声を上げて私を迎えた。村々や路地から、男、女、子供たちが大挙して押し寄せ、主が街に入られるのを目撃しようとした。 彼らは、神の子の奇跡と力の証しを受けた者たちであった。――かつて目が見えなかったが今は見えるようになった盲人、かつて声が出なかったが今は「ホサナ」と歌えるようになった口がきけない者、寝床を離れて、過越の祭りの際に主を見るために急いで駆けつけた足の不自由な者たちであった。

90. 私は、この勝利が一時的なものであることを知っていた。その後何が起こるかについては、すでに弟子たちに予言していたのだ。 これは、私の戦いの始まりに過ぎなかった。そして今日、あの出来事から遠く離れた時を経て、私はあなたがたに告げる。私の真理の光は、無知と罪と欺瞞の闇に対して戦い続けている。それゆえ、私の最終的な勝利はまだ訪れていないと付け加えなければならない。

91. エルサレムへの入城が、私の大義の勝利を意味していたと、どうして信じることができるだろうか。改心したのはほんの一握りに過ぎず、私が誰であるかを認識しなかった者たちが大勢いたのだから。

92. たとえ当時の人々が皆、私の言葉に改心したとしても、その後もなお、多くの世代が続くはずではなかったか？

93. あの歓喜の瞬間、あの束の間の勝利の入城は、光、善、真

理、愛、そして正義の勝利の象徴に過ぎなかった――それは必ず訪れるべき日であり、あなたがた全員が招かれている日である。

94. もしその時、私の子供たちのうちたった一人でも新しいエルサレムの外にいたならば、祝祭は行われなかったであろうことを知れ。なぜなら、神の力がその最後の子供さえも救うことができなかったならば、神は勝利を語ることなどできず、勝利を祝うことなどできなかったからである。(268, 17-21)

95. あなたがたは、イエスがエルサレムに入城された「第二の時代」にホサナを歌った者たちと同じである。今日、私が霊においてあなたがたに現れるとき、あなたがたはもはや私の道に外套を敷くことはない。あなたがたが主の住まいとして捧げるのは、あなたがたの心そのものである。 今日、あなたがたの「ホサナ」はもはや声を張り上げて歌われるものではない。この「ホサナ」は、謙遜と愛、そして父なる神への認識の賛歌として、また「第三の時代」において主があなたがたにもたらされたこの啓示への信仰の賛歌として、あなたがたの魂から湧き上がるものである。

96. かつても今も、あなたがたは、私がエルサレムに入城した際に私に従った者たちと同じである。 大勢の人々が、私の愛の言葉に心を奪われ、私を取り囲んだ。男女、老若、子供たちが歓呼の声を上げ、街を揺るがした。民衆が反乱を起こすのではないかと恐れた祭司やパリサイ人たちでさえ、私にこう言った。「師よ、あなたが平和を説くならば、なぜ弟子たちがこれほどの騒ぎを起こすのを許されるのですか？」 しかし、私は彼らにこう答えました。「まことに、あなたがたに言います。もし彼らが黙ったとしても、石が語り出すでしょう。」 なぜなら、それは歓喜の瞬間であり、正義を渇望し、渇き求めていた人々――長い間、預言の成就として主の到来を待ち望んでいた魂たち――の間における、メシアの頂点であり、栄光の瞬間だったからです。

97. わが民は、その歓喜と喜びをもって、エジプトからの解放をも祝った。私は、その過越の記念を、わが民にとって忘れがたいものにしたかったのだ。 しかし、まことに、あなたがたに告げる。私が小羊を犠牲にしたのは、単に伝統に従ったからではない。いや、私は、犠牲の小羊であるイエスにおいて、すべてのわが子らが救いを見出す道として、私自身を捧げたのである。（318, 57-59）

最後の晩餐

98. イエスが弟子たちと共に、その民の伝統に従ってあの過越の食事を祝われたとき、彼らにこう言われた。「今、私はあな

たがたに新しいことを明らかにする。このぶどう酒を飲み、このパンを食べなさい。これらは私の血と私の体を表している。そして、私の記念としてこれを行いなさい。」

99. 師が逝去された後、弟子たちは、人類への愛からすべてを捧げられた御方を象徴するぶどう酒を飲み、パンを食べることで、主の犠牲を偲んだ。

100. 何世紀にもわたり、宗派に分かれた人々は、私の言葉に様々な解釈を与えてきた。

101. 今日、私は、あの時、あの最後の晩餐において私が何を感じていたかを、あなた方に伝えたい。そこでは、イエスの一言一句、一挙手一投足が、深遠な知恵と限りない愛に満ちた一冊の本の教訓そのものであった。 私がパンとぶどう酒を用いたのは、それらが魂の糧であり命である愛に等しいことを、あなたがたに理解させるためであった。そして私が「私の記念としてこれを行いなさい」と言ったとき、師は、あなたがたがイエスの愛に似た愛をもって隣人を愛し、人々に対して真の糧として自らを捧げるべきであることを伝えたかったのだ。

102. これらの教えに基づいて行ういかなる儀式も、あなたがたが私自身の教えと模範を生活の中で実践しなければ、実を結ばないだろう。まさにそこがあなたがたにとって難しい点であるが、そこにこそ功徳があるのだ。（151, 29-32; 34）

103. 今、あなたがたが私の周りにいるように、あの「第二の時代」の最後の晩もそうであった。 イエスがその部屋で弟子たちと最後に語り合った時、ちょうど太陽が沈もうとしていた。それは、死を目前にした父が、愛する子供たちに向けて語った言葉であった。イエスにも、そして弟子たちにも悲しみが漂っていた。彼らは、数時間後に、彼らを教え、これほどまでに愛してくれたあの方を何が待ち受けているのか、まだ知らなかったのだ。 彼らの主は去ろうとしていたが、彼らはまだその方法を知らなかった。ペテロは泣きながら、胸に抱いた聖杯をぎゅっと握りしめ、ヨハネは涙で師の胸を濡らし、マタイとバルトロマイは私の言葉に心を乱されていた。フィリポとトマスは、食事をしながら心の痛みを隠していた。 ヤコブ（小）とヤコブ（大）、タダイ、アンデレ、シモンは、悲しみのあまり言葉を失っていた。それでも、彼らが心の中で私に語りかけたことは、数え切れないほど多かった。イスカリオテのユダもまた、心に痛みを抱えていたが、そこには恐怖と良心の呵責もあった。しかし、闇が彼を支配してしまっていたため、もはや後戻りはできなかった。

104. イエスが最後の言葉と戒めを語り終えたとき、弟子たち

は涙に暮れていた。しかし、そのうちのひとりはもうそこにいなかった。彼の魂は、それほど多くの愛を受け入れることも、それほど多くの光を見ることもできず、その言葉が彼の心を焼き尽くしたため、彼は立ち去ったのである。（94, 56-58）
105. イエスの神聖な願いは、弟子たちが彼の救いの教えの種蒔き人となることだった。
106. 弟子たちへの最後の説教、すなわち父と子供たちとの最後の対話のクライマックスにおいて、彼は愛に満ちた口調で彼らにこう言った。「今、私はあなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。」
107. 彼は、その至高の戒めの光をもって、人類にとって最大の希望を灯した。（254, 59）

第12章 - 受難、死、そして復活

イエスの生涯にわたる苦難と苦しみ
1. 私は人々の間に生き、自分の人生を模範とし、教訓とした。私はあらゆる苦しみ、誘惑と闘い、貧困、労働、そして迫害を知った。私は身内からの拒絶、恩知らず、裏切り、長時間の労働、飢えと渇き、嘲笑、孤独、そして死を経験した。 私は、人間の罪の重荷のすべてを、自らに負うことを許した。私は、人々が私の言葉と、私の貫かれた体――そこでは私の最後の肋骨さえ見ることができた――を通して、私の霊を探り求めることを許した。神であるにもかかわらず、私は嘲笑の王となり、裸にされ、さらに恥辱の十字架を背負わされ、強盗たちが死んだ丘へと登らなければならなかった。 そこで、私の人間としての生涯は、私が言葉の神であるだけでなく、行いの神でもあるという証しとして、その幕を閉じた。（217, 11）
2. 時が近づき、最後の晩餐が終わると、イエスは弟子たちに最後の指示を与えた。そして、いつも祈りを捧げていたオリーブ園へと向かい、父にこう言った。「主よ、もし可能ならば、この杯を私から取り除いてください。しかし、私の思いではなく、あなたの御心が行われますように。」 すると、私を引き渡すことになっていた弟子の一人が、私を捕らえるために集まった一団を伴って近づいてきた。彼らが「ナザレのイエスとは誰か」と尋ねると、ユダは師のもとへ近づき、彼に口づけをした。 イエスの穏やかな落ち着きを見た者たちの心には恐れと動揺がよぎ、彼らは再び「イエスとは誰か」と尋ねた。そこで私は彼らに歩み寄り、こう言った。「ここにいる。私だ。」こうして、私の受難が始まった。

3. 彼らはわたしを祭司、裁判官、権力者たちの前に引き出した。彼らはわたしを取り調べ、裁きを下し、モーセの律法に背き、皇帝の王国を滅ぼすような王国を築こうとしているとして、わたしを告発した。（152, 6-7）

ユダの裏切り

4. あなたがたは、私がどれほど多くの機会に、私を信じた者たちだけでなく、私を裏切った者や、私を迫害し裁いた者たちに対しても、私の愛を明らかにしたかを覚えていないのか。 今、あなたがたは、なぜ私がそのような嘲笑をすべて許したのか、その理由を私に問うかもしれない。そして私はこう答える。私が彼らに思考と行動の完全な自由を与えたのは、私を明らかにするふさわしい機会を作り出し、私が世に教えた慈悲と愛をすべての人々が体験できるようにするためだったのだ。

5. 私はユダに私を裏切るよう心を動かしたわけではない。彼の心が闇に満たされていた時、彼は邪悪な考えの道具に過ぎなかったのだ。しかし、その弟子の不誠実さに対して、私は彼に私の赦しを示した。

6. あなたがたにその謙遜の模範を示すために、私の弟子の一人が私を裏切る必要などなかった。師は、人々が与えてくれたどんな機会でも、それを示すことができたはずである。その弟子には、師が世界にその神聖な謙遜を示すための道具となる役割が与えられたのである。 たとえあなたがたが、イエスの死をもたらしたのはその人の弱さであったと考えたとしても、私はあなたがたに言う。それは誤りである。なぜなら、私はあなたがたにすべてを捧げるために来たのだから。もしそれがこの形ではなかったとしても、他の形でそうなったことは間違いない。 それゆえ、あなたがたには、その兄弟を呪ったり裁いたりする権利はない。彼は、一瞬の暗闇の中で、師に捧げるべき愛と忠誠を欠いてしまったのだ。もしあなたがたが、私の死の責任を彼に負わせるのであれば――私の血がすべての人々の救いのために流されたことを知っているのだから、なぜ彼を祝福しないのか。 あなたがたのうち、だれも誘惑に陥らないよう、祈り、願い求めるほうがよい。なぜなら、律法学者やパリサイ人たちの偽善は、今もなおこの世に存在しているからだ。（90, 37-39）

イエスの受難

7. 私が大祭司カイアファに尋問され、彼が私に言ったとき、「私はあなたに誓って尋ねる。あなたはキリスト、すなわちメシア、神の子なのか」。そこで私は彼に答えた。「あなたが言ったとおりだ。」（21, 30）

8. ほんの数日前まで私の業を称賛し、祝福していた多くの心が、それを忘れ、恩知らずな態度を示し、私を侮辱する者たちに加わった。しかし、その犠牲が極めて大きなものであったからこそ、人々の記憶から決して消え去ることのないものとなったのである。

9. 世界、そしてその一部であるあなたがたは、人間としてあり得ないほど、わたしを冒涜し、嘲り、辱めた。しかし、わたしはあなたがたが飲ませようとした杯を、忍耐強く飲み干した。一歩一歩、わたしは人間の中で、愛による定め（ ）を全うし、わが子らに自分自身を完全に捧げた。

10. 血にまみれ、息も絶え絶えの御姿を見ながらも、神を信じた者たちは幸いである。

11. しかし、私を待ち受けていたのは、さらに過酷な試練であった。すなわち、二人の強盗の間に挟まれて、木に釘付けにされ、死ぬことである。だが、それは書かれていることであり、それゆえ、私が真のメシアであると認められるために、それは成就されなければならなかった。（152, 8-11）

12. 私が今、あなたがたに与えているこの教えについて、私はすでに「第二の時代」において、一つの例を示しておいた。 イエスは十字架にかけられ、救い主は、彼がこれほどまでに愛した人々の群衆を前にして、死と格闘していた。すべての心は、彼が叩いた扉であった。見物人の群れの中には、大衆を支配する者、教会の指導者、徴税人、パリサイ人、富める者、貧しい者、堕落した者、そして素朴な心を持つ者がいた。 しかし、ある者たちは、その時の死者が誰であるかを知っていた。彼らはイエスの御業を目撃し、その恵みを受けていたからだ。一方で、無実の血を渇望し、復讐に飢えた他の者たちは、あの人を嘲るように「ユダヤ人の王」と呼んだ者の死を、無邪気な血への渇望と復讐への貪欲に駆られて早めた。彼らは、彼がただ一つの民族の王であるだけでなく、地上のすべての民族、そして宇宙のすべての世界の王であることを知らなかったのだ。イエスは、その群衆に最後の視線を向けながら、憐れみと慈愛に満ちて父に祈りを捧げ、こう言われた。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかを知らないのです。」

13. その視線は、彼の周りで泣いている者たちだけでなく、彼の苦しみを見て喜んでいる者たちをも包み込んでいた。なぜなら、父の愛そのものであった師の愛は、すべての人に等しく向けられていたからである。（103, 26 27）

14. イエスの存在を脅威と感じた者たちに煽られた群衆が、イエスを傷つけ、鞭打ち、その打撃によってイエスが普通の死す

べき人間のように血を流し、やがて他の人間と同じように死と格闘し、死んでいくのを見たその日、パリサイ人、民の指導者たち、そして祭司たちは満足げに叫んだ。 「見よ、自分を神の子と呼び、王であると自認し、メシアであると偽った者だ！」

15. イエスは、とりわけ彼らに対して、他の誰よりも強く、御父に彼らを赦してくださるよう祈られた。彼らは、聖書を知っていながら、今やイエスを否み、群衆の前で彼を詐欺師として晒した者たちであった。 彼らは、律法の教師であると自称しながらも、イエスを裁く際、実際には自分が何をしているのか理解していなかった。一方、群衆の中には、目の前で繰り広げられる不正を目の当たりにして心が引き裂かれる人々や、義人の犠牲的な死を前にして涙に暮れる顔があった。 この世の人々の間に誰がおられたのかを知り、師が去られることで人々が何を失うのかを理解していたのは、素朴な心と謙虚な 、そして寛大な精神を持つ男女たちであった。（150, 24-25）

16. 十字架の上で死と格闘し、処刑人の手下たちに虐待され、拷問を受けながらも、その目を無限の彼方へと向け、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分たちが何をしているのかを知らないのですから」と語った、その方が、今、あなた方に語りかけているのだ。

17. 私は、その神聖な赦しの中に、あらゆる時代のすべての人々を含めた。なぜなら、私は人類の過去、現在、そして未来を見通すことができたからである。私は、真実と霊において、あなたがたにこう告げることができる。すなわち、私が、この時代に私の新しい御言葉を聞いているあなたがたをも、あの祝福された時に見据えていたのだ。（268, 38-39）

18. 私が十字架の高みから、群衆に最後の視線を向けたとき、マリアを見出し、ヨハネを指して彼女に言った。「女よ、この人はあなたの息子です」。そしてヨハネに言った。「息子よ、この人はあなたの母です」。

19. その時、次の言葉の意味を理解できたのはヨハネただ一人であった。群衆はあまりにも盲目であったため、私が「渇く」と言ったとき、彼らはそれが肉体的な渇きだと考え、胆汁と酢を私に差し出した。しかし、私の霊が感じていたのは、愛への渇きであったのだ。

20. 私の両脇には、二人の罪人も死と格闘していた。しかし、一人は冒涜し、滅びへと身を投じた一方で、もう一人は信仰の光に照らされた。彼は、自分の神が恥辱にまみれた十字架の梁に釘付けにされ、死を目前にしているのを見ていながらも、その神性を信じ、こう言った。 「もしあなたが天の御国におられるなら、私を思い出してくださ

い」と。すると、私はその深い信仰に心を動かされ、こう答えた。「まことに、あなたに告げる。今日、あなたは私と共に楽園にいるであろう。」

21. その時、イエスの心の中でどのような嵐が吹き荒れていたか、誰も知る由はない。 解き放たれた自然の力は、あの人の孤独の中で起こっていたことの、ほんの微かな反映に過ぎなかった。そして、神の御霊の痛みは、あまりにも大きく、あまりにも現実的であったため、一瞬、弱さを感じた肉体は、「わが神、わが神、なぜわたしを見捨てたのですか」と叫んだのである。

22. 私が人々に生きることを教えたのと同じように、死ぬことも教えた。そして、父に「彼らを赦してください。彼らは、自分が何をしているのか分かっていないのですから」と語りかけたとき、私を侮辱し、拷問した者たちをも自ら赦し、祝福した。

23. そして、御霊がこの世を去る時、こう言われた。「父よ、私の霊を御手に委ねます。」完全なる模範は成し遂げられた。私は神として、また人として語ったのである。（152, 12 161 17）

24. ディマスにとって、救いを見出すには一瞬で十分であり、それは彼の人生の最後の瞬間であった。彼は十字架の上から私に語りかけた。神の子と呼ばれるイエスが死の苦しみの中にいるのを見たにもかかわらず、彼はイエスがメシアであり、救い主であることを感じ取った。そして、心の底からの悔い改めと魂の謙虚さをすべて捧げて、イエスに身を委ねた。 それゆえ、私はその日のうちに彼に楽園を約束した。

25. 言っておくが、無自覚に罪を犯した者であっても、人生の終わりに謙遜と信仰に満ちた心で私に語りかける者には、私の憐れみ深い愛の優しさを感じさせよう。その愛は、彼を地上の苦難から引き上げ、高貴で崇高な人生の至福を知らせるのだ。（94, 71-72）

26. そう、愛するディマスよ、あなたは私と共に、光と霊的な平安の楽園にいた。そこは、あなたの信仰への報いとして、私があなたの魂を運んだ場所である。 イエス――死の苦しみの中で血を流していたその姿――の中に神が宿っていることを疑った者たちに、誰が、イエスの右側に死の苦しみの中で横たわっていた強盗の中に、光の霊が隠されていたと告げることができただろうか。 27. 時が過ぎ、魂の安らぎが再び訪れたとき、私を拒絶し嘲笑していた者たちの多くが、私の真理の光の中へと入り込んだ。それゆえ、彼らの悔恨は深く、私に従う彼らの愛は揺るぎないものとなった。（320, 67）

28. 第二の時代に私の器として役立った肉体が死の苦しみに入り、私が十字架の上から最後の言葉を語ったとき、私の最後の言葉の中には、その瞬間も、その後長い間も理解されなかったものが一つあった。「わが神、わが神、なぜ私を見捨てられたのですか？」

29. その言葉ゆえに、多くの者が疑いを抱いた。また、ある者たちは、それが臆病や動揺、あるいは一瞬の弱さだと考え、混乱した。 しかし、彼らは、それが最後の言葉ではなく、その後に、完全な力と明快さを示す他の言葉を私が語ったことを考慮していなかった。「父よ、私の霊を御手に委ねます」と。「すべては成し遂げられた」と。

30. 今、私はあなたがたの誤りに光を当て、あなたがたが「秘密」と呼んできたものを明らかにするために戻ってきた。だから、こう言おう。私が十字架にかけられていた時、死の苦しみは長く、血まみれのものだった。そして、他のすべての人間よりもはるかに感受性の強いイエスの肉体は、長く続く苦痛に耐え続けたが、死は訪れなかった。 イエスはこの世での使命を全うし、すでに最後の言葉を語り、最後の教えを授けていた。そこで、その拷問を受けた肉体、引き裂かれた肉体は、霊との分離を感じると、痛みに満ちて主にこう問いかけた。「父よ、父よ、なぜ私を見捨てたのですか？」――それは、傷ついた小羊が羊飼いを求めて発した、優しくも苦悩に満ちた嘆きの叫びであった。 それは、キリスト、すなわち「御言葉」が、イエスにおいて真に人となり、その苦しみもまた真実であったことの証しであった。

31. あなたがたは、父と永遠に一つであるキリストに、この言葉を帰することができるだろうか？――今や、あなたがたは、それが人々の盲目さによって冒涜されたイエスの肉体のうめきであったことを知っている。 しかし、主の愛撫がその拷問を受けた肉体に降り注ぐと、イエスは語り続け、その言葉はこうであった。「父よ、私の霊を御手に委ねます。」――「すべては成し遂げられた。」（34, 27-30）

32. イエスが十字架にかけられた時、その死の瞬間に、愛と正義の声を聞いて心を揺さぶられない霊など一人もいなかった。イエスは、御言葉によって伝えられた真理そのもののように、裸のまま死んでいったのだ。 イエスの生涯を研究した人々は、彼の前にも後にも、彼のような業を成し遂げた者は誰もいなかったことを悟った。それは、その模範によって人類を救う神聖な業であったからである。

33. 私は柔和な心で犠牲へと向かった。なぜなら、私の血があなた方を変容させ、救うべきものであると知っていたからであ

る。最期の瞬間まで、私は愛をもって語り、あなた方を赦した。私は、あなた方に崇高な教えをもたらし、完全な模範をもって永遠への道を指し示すために来たのだから。

34. 人類は、肉体の弱さを突くことで、私をその計画から引き離そうとした。しかし、私はそれを断固として貫いた。 人々は私を冒涜へと誘おうとしたが、私は冒涜しなかった。群衆が私を侮辱すればするほど、私は彼らに対してより深い憐れみと愛を抱き、彼らが私の肉体を傷つければ傷つけるほど、信仰のために死んだ者たちに命を与えるために、そこからより多くの血が流れ出た。

35. その血は、私が人間の霊のために道を示した愛の象徴である。私は、正義を渇望する者たちに信仰と希望の言葉を、霊的に貧しい者たちに啓示の宝を残した。

36. この時を経て初めて、人類は、この世に誰がいたのかに気づいたのである。それにより、イエスの業は完全かつ神聖なものとして、超人的なものとして認識されるようになった――なんと多くの悔恨の涙が！ 魂の中に、なんと多くの良心の呵責が！（29, 37-41）

37. 「道であり、真理であり、命」であったイエスが、あの七つの言葉の祈りをもってその使命を終え、最後に御父にこう語られたとき、 「父よ、私の霊を御手に委ねます」と語られたとき、その師の弟子であるあなたがたは、従順と謙遜の捧げ物として父にこの生涯を捧げることなく、この世を去ることができるだろうか。また、主の保護を求めずにこの世に目を閉じることができるだろうか。なぜなら、あなたがたは他の領域で再び目を開くことになるのだから。

38. イエスの生涯そのものが、父への愛の捧げ物であった。十字架上の死の苦しみが続いた時間は、愛と執り成しと赦しの祈りであった。

39. これこそが、私が人類に示した道である。師に従って生きよ。そうすれば、私は、すべての至福の源である私の懐へと、あなた方を導くことを約束する。（94, 78, 80）

40. わたし、キリストは、人イエスを通して、父の栄光、その知恵、そしてその力を現した。その力は、霊において信仰を、知性において光と、心において平安を必要としていた人々のために、奇跡を行うために用いられた。 愛そのものの力であるその力は、苦しむ者たちの上に注がれ、彼らに完全に身を捧げるためのものであった。それは、死の瞬間に私の肉体も同様に必要としていたにもかかわらず、私は自分の肉体のためにその力を使わなかったほどであった。

41. 私は、自分の肉体に突き刺さるような痛みを避けるために、その力を行使しようとはしな

かった。なぜなら、私が人間となったのは、あなたがたのために苦しみ、未熟な者たち、苦しむ者たち、罪人たちに対する私の限りない愛と憐れみの、神聖かつ人間的な、手に取るような証拠をあなたがたに与えるという意図によるものだったからである。

42. 私が他者に示したすべての力――それは、ハンセン病患者を癒やし、盲人の視力を回復させ、足の不自由な者に歩行能力を与えたことであれ、罪人を改心させ、死者をよみがえらせたことであれ ――私が群衆の前で示したすべての権能、すなわち自然界に対する私の支配力と生と死に対する私の力を証明することで、彼らに私の真実の証拠を与えるために示したすべての権能を、私は自分自身のために用いることを望まなかった。それゆえ、私は自分の肉体があの受難を経験し、あの苦痛に耐えることを許したのである。

43. 確かに、私の力によって私の肉体からあらゆる苦痛を取り除くことはできたが、それでは、あなたがたの目には、私にどのような功績があっただろうか。 もし私がその力を用いて痛みを免れたとしたら、人間にとって理解しうる模範を、私は残せたでしょうか。あの瞬間、私は自らの力を捨て、神の力を拒み、肉の痛み、恩知らずに対する悲しみ、孤独、死の苦しみ、そして死を感じ、体験する必要があったのです。

44. それゆえ、イエスの苦しみは真実であったため、死の刻にイエスの唇は助けを求めたのである。 しかし、熱にうなされ、疲れ果てたイエスの体を圧倒したのは、肉体的な苦痛だけではありませんでした。それはまた、その体を通して、自らの血を流したにもかかわらず、盲目であり、恩知らずで、高慢な子供たちによって、打ちのめされ、嘲笑された神としての精神的な苦しみでもあったのです。

45. イエスは、彼を宿した霊、すなわち神聖な霊によって強められており、痛みに対して無感覚であり、迫害者たちの攻撃に対して無敵であることもできたはずである。 しかし、 、彼が涙を流し、群衆の目の前で何度も地面に倒れ込み、肉体の力が尽き果て、その体が最後の血の一滴まで失った後に死ぬことを感じる必要があったのである。

46. こうして、私の地上の使命は果たされた。こうして、エルサレムに入城したわずか数日前に、民衆によって王と称えられたあの者の、この世での生涯は幕を閉じた。（320, 56-61）

来世におけるイエスの贖いの業

47. 人類の初期の時代、その霊的発達は極めて低かったため、肉体の死後の魂の生活に関する

内的な認識の欠如と、その最終的な運命に関する知識の欠如により、魂は肉体の殻を離れる際、深い眠りに落ち、そこからゆっくりとしか目覚めることができなかった。 しかし、キリストがすべての魂に教えを授けるためにイエスとして人間となったとき、彼は人間における使命を全うするやいなや、世界の始まりから彼の到来を待ち望んでいた大勢の存在たちへとその光を送り、彼らが混乱から解放され、創造主へと昇華できるよう導いた。

48. キリストのみがその闇を照らすことができ、キリストの声のみが、眠っていた魂たちをその成長のために目覚めさせることができた。キリストが人間として死んだとき、神聖な霊は霊界に、そして死の眠りについていた魂たちがその肉体から出てきた墓の中さえも、光をもたらした。 その夜、これらの存在たちは世界中を巡り、救い主がすべての存在にとって命そのものであり、魂は不死であることを証しとして、人々の目に現れた。（41, 5-6）

49. 男女は、あの世からのしるしと呼びかけを受けた。老人や子供たちもまた、これらの現象の証人であり、救い主が十字架上で亡くなる前の数日間、天の光は人々の心に差し込んだ。 霊界の存在たちは人々の心に呼びかけた。そして、師が人間としての最後の息を引き取り、その光が、物質的・霊的な住処であるあらゆる洞窟や隅々にまで浸透したその日、長い間彼を待ち望んでいた存在たち――道を踏み外し、 良心の呵責という鎖に縛られ、不正の重荷を背負い、また、死んだと思い込み、肉体に縛られていた他の魂たち――その時、彼らは皆、深い眠りから目覚め、命へと立ち上がった。

50. しかし、彼らがこの地を去る前に、かつての親族であった者たちに、自らの復活と存在の証しを与えた。これらすべてを通じて、世界はその悲しみと苦痛に満ちた夜に、これらの顕現を目の当たりにした。

51. 人々の心は震え、子供たちは、長い間死んでいた者たちが、この日、ほんのひとときだけ戻ってきて、愛の種を蒔くために地上に降りてきたあの師の証しを立てるのを見て、涙を流した。 同時に、彼もまたその子供たちである無数の魂が住む霊的な野を耕し、彼らを癒やし、無知から解放した。（339, 22）

52. 私が肉体を離れた時、私の霊は霊界に入り、真理の言葉をもって彼らに語りかけた。あなたがたに対してそうであったように、私は彼らに神の愛について語った。なぜなら、それこそが生命の真の認識だからである。

53. まことに、私はあなた方に告げる。イエスの霊は、墓の中に一瞬たりとも留まらなかった

。彼は他の生命の世界において、多くの善行を成し遂げなければならなかったのだ。私の無限の霊は、かつてあなた方にそうであったように、彼らに対しても多くの啓示を伝えなければならなかった。

54. 霊的存在たちが愛することを理解していない世界もある。彼らは闇の中に生き、光を切望している。今日、人々は、無愛と利己主義が支配するところには闇が支配し、戦争と情欲こそが、神の国へと続く道の門を閉ざす鍵であることを知っている。

55. それに対して、愛こそが、真理である光の王国を開く鍵である。

56. ここ地上では、私は物質的な手段を通じて自らを現したが、あの世では、私の霊感に直接触れることができない者たちを教え導くために、高次の霊的存在たちに直接語りかけた。それらの高貴で輝かしい存在たちは、ここでのあなた方にとってそうであるように、私の声を伝える者たちである。(213, 6 11)

復活後のイエスの出現

57. 私が十字架にかけられてから数日後、弟子たちがマリアの周りに集まっていた時、私は鳩の姿に象徴された霊的な幻影を通して、彼らに私の存在を感じさせた。その祝福された時、誰も動くことも、一言も口を開くこともできなかった。 その霊的な姿を仰ぎ見る中、真の恍惚感が支配し、彼らの心は力と確信に満ちて鼓動していた。なぜなら、彼らは、目に見える形では去った師が、霊において常に彼らのそばに存在し続けることを知っていたからである。(8, 15)

58. なぜ、あなたがたは、私が霊として来ることには何の意味もないと考えるのか。私が人間としての死の後も、弟子たちに語りかけ続け、霊的存在として彼らに現れたことを思い出せ。

59. もし私が彼らに与えた、彼らの信仰を強め、彼らの使命の任務に向けて新たな勇気を吹き込んだあの顕現がなかったら、彼らはどうなっていただろうか。

60. 私が去った後の彼らの姿は悲痛なものだった。涙が絶え間なく頬を伝い、刻一刻と胸からすすり泣きが漏れ、彼らは熱心に祈り、恐怖と良心の呵責に苛まれていた。彼らは知っていたのだ。ある者は私を売り渡し、ある者は私を否み、そしてほとんど全員が私の最期の時に私を見捨てたことを。

61. 彼らは、いかにして、あらゆる完全さの師であるその方の証人となることができたのだろうか。いかにして、これほど多様な信仰観や、考え方や生き方を持つ人々に立ち向かう勇気と力を持ち得たのだろうか。

62. まさにその時、私の霊が彼らの間に現れ、彼らの痛みを和らげ、信仰に火をつけ、私の教

えの理想で彼らの心を燃え上がらせた。

63. 私は、弟子たちの前で私の霊を目に見える形とし、感じられるものとするために、それに人間の姿を与えた。しかし、私の臨在は依然として霊的なものであった。そして、その現れが私の使徒たちの間にどのような影響と意義をもたらしたか、ご覧なさい。（279, 47-52）

64. 私の犠牲は成し遂げられた。しかし、彼らの心の中に疑念、苦しみ、混乱、そして恐れという嵐が巻き起こり、かつてないほど私を必要としていることを知っていたため、私は直ちに彼らに近づき、私の限りない慈悲のさらなる証しを与えた。 私の言葉の子供たちに対する愛と憐れみをもって、私はこの世で持っていたあの体の姿、すなわちその姿をとり、人間として現れ、彼らに姿を見せ、声を聞かせ、そして私の言葉によって、その打ちひしがれた魂の中に信仰の灯を再びともした。 それは新たな教訓であり、地上で私と共に歩んだ者たちと交わるための新たな方法であった。そして彼らは、信仰と私の真理への認識によって、力づけられ、鼓舞され、変容したと感じた。

65. 彼ら全員が目の当たりにしたそれらの証拠にもかかわらず、私が弟子たちに霊的に与えた啓示や証拠を頑なに否定する者が一人いた。そのため、彼が信じることができるよう、私の霊的な臨在を彼の肉体の感覚でさえも触れて確かめることを許さなければならなかった。

66. しかし、その疑念は、私に近かった弟子たちの間だけに生じたのではない。いや、地方や町、村々の信徒たちの間、すなわち、私の力の証拠を受け、その御業ゆえに私に従った人々の間にも、混乱と、不安に満ちた問いかけ、そして動揺が生じた。 なぜすべてがこのような結末を迎えたのか、理解できなかったのだ。

67. 私はすべての人々に憐れみを抱き、それゆえ、たとえもはや人間として地上で彼らに寄り添うことはなかったとしても、私が彼らから離れてはいないという証拠を、最も身近な弟子たちと同様に彼らにも与えた。あらゆる家庭、あらゆる家族、そしてあらゆる民族において、私は私を信じる人々の心に、様々な形で私の霊的な臨在を感じさせることによって、自らを現した。 そこで、地上の師を失わなければならなかったキリスト教徒たちの戦いが始まった。彼らは立ち上がり、師が彼らに啓示した真理を宣べ伝えるためであった。あなたがたは皆、彼らの偉大な業を知っている。（333, 38-41）

68. 「第二の時代」に、私が雲の間から弟子たちに最後に姿を現したとき、私が彼らの視界から消え去ると、彼らは悲しみに包まれた。その瞬間、彼らは見

捨てられたと感じたからである。しかしその後、彼らは主の天使の使者の声を聞いた。その天使は彼らにこう言った。「ガリラヤの人たちよ、何を見つめているのか。 今日、天に昇って行くのを見たこのイエスを、あなたがたは同じように降りてくるのを見るだろう。」

69. そこで彼らは、主が人々のもとに戻られる時は、霊的な形で戻られるのだと理解した。（8, 13-14）

第13章 - イエスとその使徒たちの使命と意義

古い神像とその伝統の是正

1. キリストであるイエスは、父の愛と知恵がいかに偉大であるかを示すために、私がこの世であなた方に与えた最も明確な教訓の模範であった。イエスは、あなた方を創造した方の崇高な特質を認識させるために、創造主が地上に送った生きたメッセージであった。 人々はエホバを、怒りに満ちた容赦のない神、恐ろしく復讐心に燃える裁き主と見なしていた。しかし、イエスを通して、神はあなた方をその誤りから解放された。

2. 師の中に、人となった神の愛を見なさい。師は、謙遜と犠牲と慈悲に満ちた生涯を通じて、あなたがたのすべての行いを裁かれた。しかし、死をもってあなたがたを罰する代わりに、師は自らの血を捧げ、愛という真の命を示してくださった。 その神聖なメッセージは人類の生活を照らし、神聖なる師が人々に授けた言葉は、教会や宗派の源となり、それを通じて人々は私を求め、今もなお求めている。しかし、まことに、私はあなたがたに言う。彼らはまだそのメッセージの内容を理解していないのだ。

3. 人類は、神が人々への愛ゆえにイエスにおいて死なれたことから、神の子供たちへの愛は限りないものだと信じている。彼らは、裁判官や処刑人の前でイエスが受けた苦しみに対して、 （深く心を動かされ）、次第に御子の中に御父をも認識するようになっている。しかし、処女から始まりベタニヤの「雲」で終わったあの啓示を通して、主が人々に伝えようとしたすべての事柄の意味、その深遠な意義は、今日に至るまで正しく解釈されていない。

4. 私は、その「言葉」が父のもとへ昇ったのと同じ「雲」に乗って再び戻って来なければならなかった。それは、その説明をあなた方に与え、イエスの誕生、生涯、御業、そして死を通してあなた方に啓示されたすべてのものの意味を明らかにするためである。

5. 当時キリストによって約束された真理の霊とは、闇を照らし、人間の知性や心では理解し得なかった神秘を解き明かすために来た、この神聖な啓示のことである。（81, 46-49）

6. 私は「第二の時代」において、人間として自らの模範を通して、私の真理を説いた。私は、完全なる愛の教えのために自らを犠牲とすることで、無実で無自覚な存在たちに対する無益な犠牲を廃止した。あなたがたは私を「神の子羊」と呼んだ。それは、あの民が伝統的な祭日に私を犠牲にしたからである。

7. 実際、私の血は、人々に救いへの道を示すために流されたのである。私の神聖な愛は、十字架の上から、当時の人類、そしてあらゆる時代の人類へと注がれた。それは、人類がその模範、その言葉、その完全な生涯に触発され、救い、罪の清め、そして魂の高揚を見出すためであった。（276, 15）

イエスの模範

8. イエスが、あなたがたが従うべきであり、かつあなたがたが遠ざかってしまっていた原則を、あなたがたに示す必要があった。

9. 私は、あなたがたの心を動かし、知性を目覚めさせるために、私のすべての柔和さ、愛、知恵、そして慈悲をあなたがたに示し、あなたがたと共に苦難の杯を飲み干した。 心は善へと生まれ変わる必要があった。そして、愛ゆえに私が十字架にかけられるのを見る痛みは、父のもとへ至るためには、愛のために皆が苦しむ必要があることを思い出させるための、まるで棘のようなものだった。 自分の十字架を背負い、私に従いたいと願うすべての人への私の約束は、永遠の平安、すなわち、霊において終わりのない至高の至福であった。（240, 23 24）

10. キリストは、あなたがたの模範であり、またそうあるべきである。そのために、私はかつて人間となったのだ。イエスが人類にもたらした啓示とは何だったのか。それは、彼の限りない愛、神聖な知恵、限りない慈悲、そして力であった。

11. わたしはあなたがたに言った。「わたしを模範としなさい。そうすれば、あなたがたもわたしが行うのと同じ業を行うようになる。」わたしが師として来たのだから、あなたがたは、それが、あなたがたに達成不可能な教えや、人間の理解の及ばないような教えを与えるためではなかったことを理解すべきである。

12. ですから、イエスがあなたがたに教えられたのと同じような行いをするならば、私が先ほどあなたがたに語った「いのちの豊かさ」に到達することになるのだと、よく理解しなさい。（156, 25-27）

イエスの教えの意義

13. 人類が研究するために指針として、開かれた書物として与えられたイエスの教えは、地球上のいかなる民族、いかなる世代、いかなる人種においても、他の何ものとも比較できないものである。 なぜなら、正義の戒めや隣人愛の教えを伝えようと旅立った者たちは、先駆者として、使者として、しかし神格としてではなく、私によって地上に遣わされたからである。神格としてあなたがたのところに来たのは、キリストただ一人である。彼は、人間の心が受け取った中で最も明快かつ偉大な教えをあなたがたにもたらした。（219, 33）

イエスの弟子たちの召命、修業期間、そして試練

14. あなたがたは、この数年間、私の説教活動、すなわち、私が弟子たちを準備し、彼らと共に暮らしたあの三年間を思い起こした。彼らは私のすべての業を目の当たりにし、その準備期間において、私の心に深く入り込み、師の中にあった清らかさ、その全き威厳、そして知恵を垣間見ることができたのである。

15. 当時の私の行いは、人目を引くためのものではなかった。この地での私の歩みは質素であった。しかし、備えの整った者は、私の臨在の偉大さと、自分が生きている時代の偉大さを予感していた。

16. こうして私は弟子たちを選んだ。そのうちの何人かは川のほとりで出会った者たちであり、私は「私に従いなさい」と言って彼らを召した。彼らが私を見つめたとき、彼らに語りかけているのが誰であるかを理解したので、私は一人また一人と選んでいった。（342, 21）

17. 私がこの世で説教していた間、弟子たちがすでに師であるとか、彼らに耳を傾けるべきだとは決して言わなかった。彼らはまだ、私の言葉の光に魅了されて喜んで私に従う生徒に過ぎず、なお過ちを犯すこともあった。なぜなら、彼らが変容し、その後、人々の模範として働くようになるまでには、ある程度の時間が必要だったからである。 彼らは、後に彼ら自身も石をダイヤモンドへと変えることができるように、神の愛の彫刻刀によってまだ磨かれている最中の岩塊であった。（356, 39）

18. 私はいつの時代も、弟子たちを試してきた。ペトロを何度試練にさらしたことか。彼はそのうちのたった一度だけ、揺らいだ。しかし、その行為をもって彼を悪く判断してはならない。なぜなら、彼の信仰が燃え上がった時、 、彼が説教し、真理を証しするとき、彼は人々の間で松明のようであったからだ。

19. トマスを非難してはならない。あなたがたは、私の業をこ

の手で触れるほど近くに感じることができたにもかかわらず、それでもなお疑ったことが何度あったかを思い起こせ。ユダ・イスカリオテを軽蔑して見るな。あの愛された弟子は、師を三十枚の銀貨で売り渡したが、彼ほど深い悔恨を抱いた者はかつていなかったのだ。

20. わたしは彼ら一人一人を用いて、あなたがたに教訓を残した。それはあなたがたにとって模範となり、人類の記憶に永遠に刻まれるものである。彼らは自らの臆病さを悔い改め、改心し、使命の遂行に全身全霊を捧げた。彼らは真の使徒であり、すべての世代のために模範を残したのである。（9, 22-23）

使徒ヨハネ

21. 思い起こせ。わが肉体が十字架から降ろされ、その後葬られた時、動揺し、何が起きたのか理解できなかった弟子たちは、師の死をもってすべてが終わったと信じていた。彼らの信仰に火が灯り、わが言葉に対する彼らの認識が強まるためには、彼らの目が再びわたしを見、彼らの耳が再びわたしの声を聞く必要があったのだ。

22. さて、私はあなたがたに告げよう。あの弟子たちの中に、決して私を疑わず、試練に直面しても決して揺らぐことなく、一瞬たりとも私から離れなかった者が一人いた。それは、忠実で、勇敢で、情熱的であり、最も愛に満ちた弟子、ヨハネであった。

23. この愛ゆえに、私は、彼らが十字架の足元に立っていた時、マリアを彼に託した。そうすることで、彼が今後もその汚れなき心の中に愛を見出し、彼女の傍らで、彼を待ち受ける戦いのためにさらに力を得ることができるようにするためである。

24. 彼の兄弟たち、すなわち他の弟子たちが、一人また一人と処刑人の死の一撃の下に倒れ、その血と命をもって、彼らが説いた全真理と師の名を確証していった一方で、ヨハネは死に打ち勝ち、殉教を免れた。

25. 彼が荒野へと追放されたとき、彼を迫害した者たちは、彼を追い払ったあの島で、その人に、時代を超えた天からの大いなる啓示が降り注ぐことなど、思いもよらなかった。それは、彼らが次々と経験してきたもの――すなわち、これから起こり、成就するすべての事柄について人々に語りかける預言である。

26. ヨハネは兄弟たちに多くの愛を注ぎ、師の名において彼らに仕えるという使命に生涯を捧げた後、彼らから離れて、独りで生きなければならなかった。しかし、彼は常に人類のために祈り、イエスがその血を流して救おうとした人々のことを常に心に留めていた。

27. 祈り、沈黙、内省、その存在の純粋さ、そして思考の善さ

が、あのひとりの人間、あの魂を、他の魂が達成するのに数千年を要するであろうことを、短期間で成長させるという奇跡を成し遂げたのである。（309, 41-45）

28. 私がこの世の住人たちを見渡すと、すべての民族が私の名を知り、何百万人もの人々が私の言葉を口にしているのがわかる。しかし、まことに、私はあなたがたに言う。それにもかかわらず、私は人々の間に愛を見いだせないのだ！

29. 私がこの時代にあなたがたに教えていること、そしてこの世で起きていることすべては、私が使徒ヨハネを通じて人類に与えた啓示の説明であり、その成就である。当時、パトモス島に住んでいた彼を、 霊によって天の高み、神聖な次元、計り知れない広大さへと運び、象徴を通して起源と目的、アルファとオメガを示した時の、人類への啓示の説明であり、成就である。そして彼は、すでに起こった出来事、まさに今進行中の出来事、そしてこれから起こるであろう出来事を見た。

30. その時、彼はその意味を何も理解していなかったが、私の声が彼に言った。「あなたが見聞きするものを書き記せ。」そこで彼は書き記した。

31. ヨハネには弟子たちがおり、彼らは船で海を渡り、彼の隠れ家へと訪ねてきた。その男たちは、かつてイエスの弟子であった彼に、師がどのような方であったか、その言葉や奇跡について熱心に尋ねた。そして、愛と知恵において師に倣ったヨハネは、その言葉で彼らを驚嘆させた。 老いが近づき、すでに時が彼の体を衰えさせていたときでさえ、彼はまだ十分な力を持ち、師について証しし、弟子たちに「互いに愛し合いなさい」と告げることができた。

32. 彼を訪ねてきた人々は、ヨハネの死の日が近づいているのを見て、その使徒が蓄積したすべての知恵を手にしたいと願い、師から学んだことをすべて明かしてほしいと懇願した。しかし、どんな答えも返ってこない代わりに、彼らが耳にしたのはいつもただ一言、「互いに愛し合いなさい」という言葉だけだった。

33. あれほど熱心に、そして興味深く尋ねた者たちは、裏切られたと感じ、老いがキリストの言葉を彼の記憶から消し去ってしまったのだと考えた。

34. 私はあなた方に告げる。ヨハネは私の言葉を一つも忘れてはいなかった。むしろ、私の教えのすべてから一つの真髄を抽出し、律法全体を要約するその教え、すなわち互いに愛し合うこと、を語ったのである。

35. あれほど愛された弟子が、これほどまでに愛した師の教えを、どうして記憶から失うことができようか。（167, 32-37）

36. 私の去った後の「第二の時代」において、天の母は引き続き私の弟子たちを力づけ、彼らに寄り添われた。 苦しみと試練の後、彼らはマリアの慈愛に満ちた心に安らぎを見出し、彼女の言葉が日々彼らを養った。神聖な 師に代わって教えを授け続けたマリアに励まされ、彼らは歩みを続けた。彼女が去った時、彼らの闘いが始まり、一人ひとりが示された道を歩んだ。（183, 15）

使徒ペトロとパウロ

37. 私の弟子ペトロが、サウロによって死に至るまで迫害された時のことを忘れるな。私はその忠実な使徒に、彼が試練の中で独りではないこと、そして私の力を信頼すれば、私が彼を迫害者たちから守ってやると示したのだ。

38. サウロは、ペトロを捕らえようと捜し求めていた時、私の神聖な光に驚かされた。 私の光はサウロの心の奥底にまで届いた。彼は――私の御前にひれ伏し、私の愛に打ち負かされ、私の弟子に対して企てていた任務を遂行できなくなった。そして、心の奥底で自らの全存在が変容しているのを感じ、今やキリストへの信仰に回心した彼は、急いでペトロを探し求めた。 もはや彼を殺すためではなく、主の御言葉によって彼に教えを請い、その働きに加わらせてほしいと願うためであった。

39. それ以来、サウロはパウロとなった。この名前の変更は、その人の魂の完全な変容、すなわち彼の完全な回心を示していた。（308, 46-47）

40. パウロは十二使徒の一人ではなく、私の食卓を共にすることもなく、また私の教えを聞くために私の後を追い歩いたこともなかった。それどころか、彼は私を信じず、私に従う者たちを慈しみの眼差しで見ることもなかった。 彼の心の中には、私が弟子たちに託し、まさに広がり始めたばかりの種を、滅ぼそうという考えがあった。 しかし、パウロは自分が私の者の一人であることを知らなかった。彼はメシアが来なければならないことを知っており、それを信じていた。しかし、謙虚なイエスが約束された救い主であるとは想像できなかった。彼の心は世の傲慢に満ちており、それゆえ、彼は主の臨在を感じ取ることができなかった。

41. サウロは、彼の救い主に対して立ち向かった。彼は、使徒たちの口から私のメッセージを聞くために彼らのもとに集まった人々、すなわち私の弟子たちを迫害した。そして、私が彼を驚かせたのは、彼が私の者たちを迫害しようとしていたまさにその時であった。 私は彼の心の最も敏感な部分に触れ、彼の霊が私を待ち望んでいたため、彼は即座に私を認めた。それゆえ

、彼は私の声を聞いたのである。

42. あの広く知られた男がこのように回心することは、私の意志であった。それは、世界が、信仰と理解への励みとなるべき驚くべき御業を、彼の歩むあらゆる道において目撃できるようにするためであった。

43. それ以来、師への愛と神聖な教えに触発され、隣人への愛に生涯を捧げたこの男の生涯を、これ以上詳細に振り返る必要があるだろうか。

44. パウロは、わが言葉の最も偉大な使徒の一人であり、その証しは常に愛、誠実さ、真実、そして光に満ちていた。 彼の以前の物質主義は極めて高い霊性へと変わり、その厳しさは限りない優しさへと変わった。こうして、私の使徒たちを迫害していた者は、私の言葉の最も熱心な種まき人となり、彼が生き、その生涯を捧げた主の神聖なメッセージを、様々な国々、州、村々に届ける、疲れを知らない巡回説教者となったのである。

45. 愛する民よ、ここに、回心の美しい模範があり、たとえまだ私の声を聞いていなくとも、人々が私の偉大な使徒となり得るという証拠がある。（157, 42-47）

使徒たちの模範性

46. あの「第二の時代」、弟子たちが師を失って世界を巡っていた時、私以外に誰が彼らを励ましただろうか。一人ひとりの働きが、あなた方にとって称賛に値するものと思われないか。しかし、私はあなたがたに言う。彼らにも、他の人間と同じように弱さがあったのだ。後に彼らは愛と信仰に満たされ、世の中で羊が狼の中にいるような状況にあっても、人々の迫害や嘲笑にさらされながらも歩み続けることに、決して気落ちすることはなかった。

47. 彼らには奇跡を行う力があり、その恵みを用いて人々の心を真理へと回心させることを知っていた。

48. 私の使徒たちの口からイエスの御言葉を聞いたすべての人々は幸いである。なぜなら、彼らを通して、私の教えは変容することなく、その純粋さと真実のすべてをもって伝えられたからである。それゆえ、人々は彼らの話に耳を傾ける時、魂の中に主の臨在を感じ、その存在の中に、力と知恵と威厳という未知の感覚を覚えたのである。

49. あなたがたは、ガリラヤのあの貧しく謙虚な漁師たちに、ふさわしい模範を見出すことができる。愛によって霊的な漁師へと変えられた彼らは、イエスから学んだ言葉によって諸民族や王国を震撼させ、その粘り強さと献身によって、諸民族の回心と霊的な平和の実現を準備したのである。 王から物乞いまで、彼らは皆、あの真のキリスト

教の時代に、私の平和を体験した。
50. 人々の間にあったあの霊性の時代は長くは続かなかった。しかし、すべてを知っている私は、あなたがたが再び私を必要とすることを知っていたため、私の再臨を告げ、約束していたのである。（279, 56-60）

キリスト教の広がり

51. 私の教えは、弟子たちの口と行いを通して、無知、偶像崇拝、そして唯物主義と戦う愛と光の剣であった。 自らの神話や伝統の崩壊が目前に迫っているのを見た者たちからは憤りの叫びが上がったが、一方で、真理を渇望し、罪に苛まれている者たちの希望と信仰のために開かれた、光に満ちた道に直面して、他の者たちの心からは歓喜の賛歌が湧き上がった。
52. 霊的な生活を否定していた者たちは、天の御国に関する啓示を耳にして激怒したが、その存在を予感し、そこから正義と救いを期待していた者たちは、父が御独り子をお遣わしくださったことに感謝した。
53. 心の中に、神に誠実に仕え、神を愛したいという祝福された渇望を秘めていた人々は、私の言葉に深く入り込むにつれて、自分の道が明るくなり、心が澄み渡るのを感じ、霊と心に活力を覚えた。 真の霊的なパンとしてのキリストの教えは、彼らの内にあった計り知れない空虚を埋め、その完全さと深遠な意味によって、彼らの霊のあらゆる渇望を豊かに満たした。
54. 新しい時代が幕を開け、永遠へと続く、より光に満ちた道が開かれた。
55. 信仰に照らされ、わが言葉を受け入れるために集った者たちの内に、なんと美しい、魂の高揚と愛と優しさの感情がそこでは目覚めたことか！ 一瞬たりとも絶望することなく、あらゆる苦難に耐え、それを乗り越えることを知っていた、あの心には、なんと大きな勇気と不屈の精神が宿っていたことか！
56. それは、師の血がまだ生々しかったからだろうか？ いや、民よ。神の愛の物質的な具現であったその血の霊的な本質は、乾くこともなければ、決して消え去ることもない。それは今日、当時と同様に、現存し、生き生きとして、生きた温もりを帯びている。
57. その理由は、彼らの心にもまた、真理への愛が存在していたからである。彼らはその真理に生涯を捧げ、師の教えを学んだことを証明するために、自らの血さえも捧げたのである。
58. その気高く捧げられた血は、あらゆる障害と試練を乗り越えた。
59. わが言葉の弟子たちの霊性とは、いかに対照的であったことか。それは、古い伝統に固執する狂信者たちや、ただ肉体の快楽に身を委ねて生きる異教徒

たちの、偶像崇拝、物質主義、利己主義、そして無知とは、なんと対照的であったことか！（316, 34-42）

60. 人生の道を、模範となる善行で彩りなさい。わたしの教えを歪めてはならない。その点において、「第二の時代」の使徒たち、すなわち「 」を模範としなさい。彼らは、わたしの教えを説き、解説するために、決して目に見えるような儀式に溺れることはなかった。 その後、人類が陥った偶像崇拝の責任を彼らに負わせることはできない。彼らの手は決して祭壇を築くことも、霊的な神への礼拝のための宮殿を建てることもなかった。しかし、彼らは人類にキリストの教えをもたらし、病人に健康を与え、貧しい者や悲しむ者に希望と慰めをもたらし、そして彼らの師のように、迷える者たちに救いへの道を示したのだ。

61. あなたがたが今日知っているキリスト教は、私の使徒たちが実践し、教えた教えの、ほんのわずかな反映にすぎないのだ！

62. もう一度言おう。あの弟子たちの中にこそ、謙遜、愛、慈悲、そして高潔さの完全な模範を見出すことができるのだ。彼らは、自らの口から語られた真理を、自らの血をもって確証したのである。

63. 人類は、もはやあなたがたの証言を信じるために、あなたがたに血を要求することはないだろう。しかし、彼らはあなたがたに真実さを求めるだろう。（256, 30-33）

III. 教会キリスト教の時代

第14章 - キリスト教、教会、そして礼拝

キリスト教の発展

1. 私が「第二の時代」に去った後、私の使徒たちは私の業を続け、使徒たちに続く者たちは彼らの働きを引き継いだ。 彼らは新たな働き手であり、主によって整えられ、主の血と涙と御言葉によって肥沃にされ、十二人の使徒たち、そして彼らに続く者たちの働きによって耕されたその畑の耕作者たちであった。しかし、時が経ち、世代から世代へと、人々は私の業と教えをますます神秘化したり、歪曲したりしていった。

2. 誰が人間に、私を像として造ってもよいと言ったのか。誰が、十字架に架けられた私を描き出せと言ったのか。誰が、マリアの像や天使の姿、あるいは父の御顔を造ってもよいと言ったのか。ああ、信仰の薄い人々よ、私の存在を感じるために、霊的なものを物質的に可視化し

なければならなかったあなた方よ！

3. 父の像はイエスであり、師の像は弟子たちであった。「第二の時代」において、私はこう言った。「子を知れば、父を知る」。これは、イエスを通して語られたキリストこそが、父そのものであることを意味する。父のみが、自らの像を創造することができたのである。

4. 私が人間としての死を迎えた後、私は使徒たちに「生ける者」として現れた。それは、私が命であり永遠そのものであり、肉体にあろうとなかろうと、あなたがたの中に常に存在していることを彼らに悟らせるためであった。しかし、すべての人々がこれを理解したわけではなく、それゆえ彼らは偶像崇拝や狂信に陥ってしまったのである。（113, 13-17）

5. わたしはサマリアの女にこう言った。「わたしが与えるこの水を飲む者は、二度と渇くことがない。」そして今日、わたしはあなたがたに言う。もし人類があの生ける水を飲んでいたなら、これほど大きな悲惨はなかっただろう。

6. 人々は私の教えを揺るぎなく守ろうとはせず、自分たちの解釈や都合に合わせて、私の名を利用して教会を設立することを選んだ。 私は伝統を退け、愛の教えを説いた。しかし今日、あなたがたは、魂に何の益ももたらさない、中身のない儀式や儀礼を私に捧げるために、私のところに来る。あなたがたの行いに霊性がなければ、そこに真理はあり得ない。そして、真理をその中に持たないものは、あなたがたの父のもとには届かない。

7. あのサマリアの女は、私の眼差しが彼女の心の奥底まで届いているのを感じると、私にこう言った。「主よ、あなた方ユダヤ人は、エルサレムこそが私たちの神を礼拝すべき場所だと言っています。」 そこで私は彼女にこう言った。「女よ、まことに、あなたに告げる。今あなたがたがしているように、この山でもエルサレムでも父を礼拝することはなくなる時が来る。父を『霊と真理』をもって礼拝する時が近づいている。神は霊だからである。」

8. これが、私が常に説いてきた教えである。見よ、真理はあなたがたの目の前にあったのに、あなたがたはそれを見ようとしなかった。それを知らぬまま、どうしてそれを実践できるというのか。（151, 2-5）

礼拝の儀式

9. もしあなたがたが愛するならば、目に見える礼拝行為や儀式など必要としないだろう。なぜなら、あなたがたは内なる神殿を照らす光を持つことになるからだ。その光は、あなたがたを打ちのめそうとするあらゆる

嵐の波を砕き、人類を覆う暗い霧を晴らすものである。

10. もはや神聖なものを冒涜してはならない。まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたが先祖から受け継ぎ、熱狂的になっているこれらの外的な礼拝行為を行うとき、あなたがたは神の前で大きな不感謝を示しているのだ。（21, 13-14）

11. 道に迷った人類を見よ――道に迷っているのは、キリスト教を名乗る大教会が、私の教えそのものよりも、儀式や外見的なものに重きを置いているからだ。私が愛の行いと十字架上の血によって封印した、あの「いのちの言葉」は、もはや人々の心の中に生きてはいない。それは古びて埃まみれの書物の中に閉じ込められ、沈黙しているのだ。 こうして、キリストに従うとはどういうことか、理解も知識もない「キリスト教」を名乗る人類が存在するのだ。

12. それゆえ、この時代、わたしには弟子はわずかしかいない――苦しむ兄弟を愛し、その痛みを和らげる者たち、徳をもって生き、自らの模範によってそれを説く者たち、それこそがキリストの弟子である。

13. わたしの教えを知りながらそれを隠したり、口先だけで心では信じず、それを公言する者は、わたしの弟子ではない。

14. 私はこの時代に、石造りの神殿を訪ね、そこで自らを現すために来たのではない。私が求めているのは魂であり、心であり、物質的な華やかさではない。（72, 47-50）

15. 宗教団体が深い眠りの中に沈んだままであり、その慣習的な道から外れない限り、霊的な目覚めも、霊的な理想への認識も生じない。それゆえ、人々の間に平和は訪れず、実践的な隣人愛のための余地も生まれないだろう。深刻な人間同士の対立を解消する光は、輝きを放つことができない。（100, 38）

聖職者たち

16. あなたがたは真の平和とは何かを知らないため、それを切望することに満足し、あらゆる手段とありとあらゆる方法で、わずかな心の平安や安らぎ、満足を得ようとはするが、決して、真に魂の平和であるものを得ることはない。 私はあなたに告げる。主の御心に対する子供の従順によってのみ、それが得られるのだ。

17. この世には、わたしの言葉を正しく説く者、わたしの教えを正しく解釈する者が欠けている。それゆえ、キリスト教徒を名乗る人々でさえ、霊的に後進的な生活を送っている。なぜなら、わたしの真の教えをもって彼らを揺さぶる者がおらず、わたしが人々を教えたのと同じ愛をもって心を育む者がいないからである。

18. 日々――集会所や教会、大聖堂において――私の名が唱え

られ、私の言葉が繰り返されているが、内面が動かされる者はおらず、その光に心を震わせる者もいない。それは、人々がその真意を誤解しているからである。 大多数の人は、キリストの言葉の力は、それを機械的に繰り返し唱えることにあると信じている。しかし、それを暗唱する必要はなく、研究し、熟考し、実践し、生きることが必要であるということを理解していないのだ。

19. もし人々がキリストの言葉の中にその真意を求めようとしたなら、それは彼らにとって常に新しく、新鮮で、生き生きとして、現実味のあるものとなるだろう。しかし、彼らはそれを表面的にしか知らず、それゆえ、そこから養分を得ることはできず、このようでは、今後いつになっても得ることはできないだろう。

20. 哀れな人類よ――光がすぐそばにあるにもかかわらず暗闇の中をさまよい、平和が手の届くところにあるにもかかわらず、恐る恐る嘆き悲しんでいる！しかし、人々はあの神聖な光を見ることができない。なぜなら、彼らに容赦なく目隠しをした者たちがいたからである。 真にあなた方を愛する私は、あなた方を闇から解放し、かつて私が語ったすべての言葉が永遠に有効であり、その神聖な言葉を過去の時代の古い教えとして捉えてはならないことを証明することで、あなた方を助けに来る。なぜなら、私の教え全体の本質であった愛は永遠であり、その中にこそ、この迷いの時代、計り知れない苦しみと奔放な情熱の時代にあって、あなたがたを救う秘訣があるからだ。（307, 4-8）

21. 私は、盲目的な信仰、すなわち認識を伴わない信仰、恐怖や迷信によって得られた信仰を説く者たちを非難する。

22. 人類を苦しめるあらゆる悪、あらゆる災い、飢饉、疫病を、神の罰や怒りであると称して神のせいにする者たちの言葉に耳を傾けてはならない。彼らは偽預言者である。

23. 彼らから背を向けよ。彼らはわたしを知らないのに、神がどのようなお方であるかを人々に教えようとしているのだから。

24. これは、過去の時代の聖典に対してなされた誤った解釈の結実である。それらの聖典の神聖な言葉は、啓示や預言が記された人間の言葉の核心において、まだ発見されていないのだ。多くの人々が、真理についてほんの少しの知識も持たずに、世界の終わりや最後の審判、死や地獄について語っている。（290, 16-19）

25. あなたがたはすでに「第三の時代」に生きているが、人類は依然として霊的に遅れている。彼らの牧師、神学者、そして霊的指導者たちは、永遠の命に

ついてほとんど、時には全く何も明らかにしていない。 彼らに対しても、私は私の知恵の書の秘密を明らかにしている。それゆえ、私はあなた方に問う。なぜ彼らは沈黙しているのか。なぜ彼らは、人々の眠っている魂を目覚めさせることを恐れているのか。（245, 5）

26. わたしの教えは、父への完全で、霊的かつ清らかな崇拝をあなた方に説くものである。なぜなら、人間の魂は――自覚することなく――主の神殿の入り口にたどり着いており、そこへ入り、わたしの臨在を感じ、その霊を通してわたしの声を聞き、その知性に降り注ぐ光の中でわたしを見るからである。

27. この時代、人々がそれぞれの宗教共同体の中で感じている空虚感は、魂が霊化への飢えと渇きを抱いていることに起因する。儀式や伝統はもはや魂を満たさず、魂は私の真理を知りたいと切望している。（138, 43-44）

聖餐とミサ

28. 私は決して、謎に包まれて人々のところへ来たことはない。もし私が、神聖なものを啓示したり、永遠なるものを何らかの物質的な形で表現したりするために、比喩的な意味であなた方に語ったとすれば、それはあなた方が私を理解できるようにするためであった。 しかし、人々が、それらの教えの真意を探求する代わりに、形や物、あるいは象徴を崇拝することに固執するならば、彼らが何世紀にもわたって停滞し、あらゆるものに神秘を見出すようになるのは当然のことである。

29. イスラエルがエジプトに滞在していた時代、すなわち私の血が子羊の血によって象徴されていた時代以来、伝承や儀式だけに依存し、その犠牲が、あなたがたに霊的な命を与えるためにキリストが流すべき血の予表であったことを理解しない人々が存在してきた。 また、私の体から養われていると信じている者たちは、物質的なパンを食べているが、私が最後の晩餐で弟子たちにパンを与えたのは、私の言葉の意味を糧として受け入れる者が、私から養われていることを彼らに理解させるためであったということを、理解しようともしない。

30. 真に私の神聖な教えを理解できる者はいかに少ないことか。そして、そのわずかな者たちこそが、霊によってそれを解釈する者たちである。しかし、私が神聖な啓示を一度にあなた方に授けたのではなく、私の教えのたびに、少しずつ説明していることを心に留めておきなさい。（36, 7-9）

31. 聴衆たちの心には喜びが満ちている。なぜなら、彼らの霊の前には、師が彼らを待ち受け、真の命のパンとぶどう酒を食し、飲ませてくださる天の祝宴

があることを知っているからだ。

32. かつてイエスが使徒たちと共に集まった食卓は、天の国の象徴であった。そこでは父が子供たちに囲まれ、命と愛を象徴する食事が供され、神聖な声が響き渡り、その本質は世界を包み込む調和であり、そこに満ちていた平和は、神の国に存在する平和そのものであった。

33. あなたがたは、この朝の時間に、師が御言葉によって新しい契約をもたらしてくださるだろうと考え、自らを清めようとした。その通りである。今日、わたしはあなたがたに、わたしの体と血を表したパンとぶどう酒を記念することを許す。 しかし、同時に、この新しい時代において、あなたがたはその糧を、わたしの言葉の神聖な意味においてのみ見出すことになる、と告げる。もしあなたがたがわたしの体と血を求めるなら、創造の神聖な中にそれを求めなければならない。なぜなら、わたしはただ霊であるからだ。そのパンを食べ、そのぶどう酒を飲め。しかし、わたしの杯も満たしてくれ。わたしはあなたがたと共に飲みたいのだ。わたしはあなたがたの愛に渇いている。

34. このメッセージを兄弟たちに伝え、血は命であるがゆえに、真の愛である永遠の命の単なる象徴に過ぎないことを学びなさい。あなた方を通して、私は人類を私の新しい啓示で照らし始めるのである。（48, 22-25）

35. わたしは、あなたがたに平和と新しい教えをもたらす。もし「第二の時代」におけるわたしの犠牲が、あなたがたがエホバの祭壇に捧げていた無垢な動物の犠牲を廃止したのであれば、今日、わたしの神聖な言葉という糧によって、あなたがたはもはや、この世のパンとワインによってわたしの体と血を象徴することはなくなったのである。

36. 生きたいと願うすべての魂は、神の霊によって養われなければならない。わたしの言葉を聞き、それを心で感じる者は、真に養われたのである。その者は、ただわたしの体を食べ、わたしの血を飲んだだけでなく、養われるためにわたしの霊を摂取したのである。

37. この天の糧を味わった後、誰が再び、人の手によって作られた像や形の中に私を求めようとするだろうか。

38. 時折、私は来て、伝統や儀式、慣習を取り除き、あなたがたの精神の中に、ただ律法と、私の教えの霊的な核心だけを残すのである。（68, 27）

洗礼

39. 人々よ、その頃、洗礼者とも呼ばれるヨハネは、彼の預言を信じた者たちに水で洗礼を授けた。この行為は、原罪からの清めの象徴であった。 彼は、先

駆者の言葉を聞くためにヨルダン川に集まった群衆にこう言った。「見よ、私はあなたがたに水で洗礼を授けるが、聖霊の火をもってあなたがたに洗礼を授ける方が、すでに道を進んでおられる。」

40. すべての霊はこの神聖な火から生まれ、そこから清く純粋な姿で現れた。しかし、もし彼らがその道の途中で、不従順がもたらした罪によって汚れてしまったならば、私の霊の火が再び彼らの上に注がれ、彼らの罪を消し去り、汚れを洗い流し、彼らに本来の清らかさを取り戻させるのである。

41. もしあなたがたが、この霊的な洗礼を、人が創造主に対する誠実な悔い改めの行為によって得る清めとして理解するのではなく、単なる儀式に変えてしまい、行為の象徴的な意味に満足するならば――まことに、わたしはあなたがたに言う、そのとき、あなたがたの魂は何も得られないであろう。

42. このように振る舞う者は、なおも洗礼者ヨハネの時代に生きているのであり、それはあたかも、霊的な洗礼について、また神が御子らを清め、光の中で不死とする神聖な火について語った、その預言と御言葉を信じていなかったかのようだ。

43. ヨハネは、清めの象徴としてのその水を注ぐために、大人としての人々を自分のもとへ招いた。彼らは、すでに自らの行いを自覚しており、善と正しさと正義の道を歩み続けるという確固たる意志を持てるようになってから、彼のところへ来たのである。 見よ、人類がいかにして、神への愛から生まれる悔い改めと改善への固い決意による真の刷新ではなく、水による象徴的な清めの儀式を行うことを選んだかを。儀式的な行為には努力を要しない。それに対し、心を清め、清らかであり続けるために奮闘することは、人間にとってまさに努力であり、自己犠牲であり、さらには自己犠牲そのものである。 それゆえ、人々は、良心が伴わない限り、自らの道徳的あるいは精神的な状態を少しも改善しない儀式や特定の行為、儀礼の遵守に満足することで、外見上、自分の罪を覆い隠すことを選んできたのである。

44. 弟子たちよ、これこそが、私があなたがたの間で儀礼的な行為が行われることを望まない理由である。その実行によって、魂に実際に作用するものを忘れてしまわないようにするためである。（99, 56-61）

45. 発展の法則に従って魂を転生へと送り出すのは私である。まことに、私はあなたがたに告げる。この世の影響は、私の神聖な計画を変えることはない。なぜなら、あらゆる野心的な権力争いを超えて、私の意志は成し遂げられるからである。

46. すべての人間は、地球に使命を携えてやって来る。その運命は父によってあらかじめ定められており、その魂は私の父なる愛によって聖別されている。人々が儀式を行い、幼子たちに祝福を与えるのは無駄なことだ。 まことに、あなたがたに告げる。いかなる物質的な生涯においても、水は、わが律法に対する違反から魂を清めることはない。そして、もし私があらゆる罪から清められた魂を遣わすならば、各宗派の聖職者たちは、洗礼によってその魂をどのような汚れから清めるというのか。

47. あなたがたは、人間の起源が罪ではなく、その誕生が自然法則の成就の結果であることを理解すべき時が来た。それは、人間だけでなく、自然を構成するすべての被造物が成就する法則である。私が「人間」と言ったのであって、「その魂」とは言わなかったことに留意せよ。人間には、自分と似た存在を創造する私の権限がある。しかし、魂は私からしか生まれ出ない。

48. 成長し、増殖することは普遍的な法則である。星々が他の、より大きな星々から生まれたのと同様に、種もまた増殖した。そして、私は決して、それによって彼らが罪を犯した、あるいは創造主を傷つけたなどとは言っていない。ならば、なぜあなたがたは、この神聖な戒めを果たすことによって、罪人であると見なされなければならないのか。法の履行が、決して人間を汚すことはないということを理解せよ。

49. 人間を汚し、魂を発展の道から遠ざけるのは、低俗な情欲、すなわち放縦、悪徳、淫行である。これらすべては法に反するからである。

50. 真理を見出すまで、学び、探求しなさい。そうすれば、あなたはもはや、生命の創造主の戒めを罪とは呼ばなくなり、善行という模範によって、あなたの子らの存在を聖なるものとするだろう。（37, 18-23）

死者の追悼

51. 人々は自らの伝統や慣習に固執している。彼らが、その肉体を墓に下ろした人々への消えることのない記憶を抱き、その遺骨を埋葬した場所に惹かれるのは理解できることである。 しかし、もし彼らが物質的な生活の真の意味を深く理解すれば、その肉体は、原子一つ一つが分解されるにつれて、それが形成された自然界へと還り、生命はさらに展開していくことを悟るだろう。

52. しかし、人間は、霊的な事柄を学んでこなかった結果、いつの時代も、肉体を崇拝する一連の狂信的な儀式を作り出してきた。人間は物質的な生命を不滅にしようと試み、真に永遠の生命を持つものである魂を忘れてしまっている。彼らが霊的な

生命を理解することから、いまだどれほど遠く離れていることか！

53. 今や、あなたがたは、「死」を表す墓石が、「消滅と生命」を表すべき場所へ供物を捧げる必要がないことを理解するだろう。なぜなら、そこでは自然が満開であり、そこには、生き物や生命体のより豊かで尽きることのない胎である土壌があるからだ。

54. これらの教えが理解されれば、人類は物質的なものにその価値を、神聖なものにその価値を与えることを理解するようになるだろう。そうすれば、先立った者たちへの偶像崇拝は消え去るだろう。

55. 人は、精神から精神へと、その創造主を認識し、愛すべきである。

56. 祭壇は喪服であり、墓碑は無知と偶像崇拝の証である。私はあなたがたのすべての過ちを赦すが、本当にあなたがたを目覚めさせなければならない。私の教えは理解されるだろう。そして、人々が物質的な供え物を高尚な思想に置き換える時が来るだろう。（245, 16-21）

物質的な象徴、十字架、聖遺物

57. 「最初の時代」において、あなたがたは象徴を知っていた。それは、十戒の石板が収められていた契約の箱を護る、幕屋、すなわち聖所である。 それらの象徴がその役割を果たし終えると、私の意志はそれらを地上から取り除き、世界が偶像崇拝に陥らないよう、人々の目から隠した。しかし、それらの教訓的な象徴が持つ意味や本質については、私の僕たちの精神の中に書き残しておいた。

58. キリストの犠牲が成し遂げられた後の「第二の時代」において、私はキリスト教の最高の象徴である十字架を、いばらの冠や聖杯、そして人類によって熱狂的な崇拝の対象となり得たあらゆるものと共に、この世から消え去らせた。（138, 36）

59. 人類はイエスが苦しむのを見てきた。そして、その教えと証しを、あなたがたは信じている。それなのに、なぜなおも彫像の中で彼を十字架につけ続けるのか。あなたがたが、自らの邪悪さの犠牲として彼を晒しものにしてきた何世紀もの歳月で、まだ足りないというのか。

60. イエスの苦しみや死の苦闘を、私の代わりに記念するのではなく――なぜ、光と栄光に満ちた私の復活を記念しないのか？

61. 十字架上のイエスの姿で私を描いたあなたの像を見て、私が弱々しく、臆病で、恐れる人間であったと信じ込んでしまう者たちが時折いる。彼らは、私が霊であり、あなたがたが「犠牲」と呼ぶもの、私が「愛の義務」と呼ぶものを、全人類の模

範として耐え抜いたことを考えもせずにいるのだ。

62. 私が父と一つであったことを考えるとき、私を屈服させ得た武器も、力も、拷問も存在しなかったことを思い起こせ。しかし、私が人間として苦しみ、血を流し、死んだのは、あなたがたに、謙遜という私の崇高な模範を示すためであったのだ。

63. 人々は、その教訓の偉大さを理解しておらず、至る所に十字架にかけられた者の像を建てた。それは、愛すべきと主張する御方への愛も敬意も持たず、絶えず彼を十字架にかけ、日々傷つけ、主が命を捧げられた同胞たちの心を傷つけているこの人類にとって、恥辱である。(21, 192 15-19)

64. もしあなたがたが、キリスト教の信仰を象徴する最後の十字架をこの地上から消し去り、その代わりに互いへの真の愛をもってその象徴を置き換えるならば、私はあなたがたを非難することはないだろう。なぜなら、そうすれば、あなたがたの信仰と外的な神への崇拝は、精神による崇拝と信仰へと変わるからであり、それは私があなたがたに期待していることに合致するからだ。

65. もし、あなたがたの礼拝や象徴が、せめて戦争を防ぎ、あなたがたを悪徳に沈ませず、平和を保つだけの力を持っていたなら。しかし、あなたがたが、自分たちの言葉によれば聖なるものであるとされているあらゆるものを、いかに軽んじているかを見てみよ。あなたがたが神聖であると考えていたものを、いかに踏みにじっているかを見てみよ。

66. もう一度言おう。もしあなたがたが、地球上のどこにも教会一つ、祭壇一つ、象徴や像一つも持たず、代わりに霊をもって祈り、父を愛し、代理者を必要とせずに父を信じることができ、そして私が教えの中で示したように互いに愛し合うことができたなら、それはあなたがたにとってより良いことだろう。そうすれば、 、あなたがたは救われ、私の血の跡によって示された道を歩むことになるだろう——その跡こそ、私が教えの真実を確証するために残したものである。（280, 69-70）

聖人崇拝

67. 私がこの教えを授けるのは、あなたがたが多くの義人の魂を聖人と宣言し、あたかも神であるかのように彼らに祈り、崇拝しているからである。なんと無知なことか、人類よ！ どうして人間は、その人間の行いだけに基づいて、ある魂の聖性と完全性を判断できるというのか？

68. あなたがたは、兄弟たちがその行い、その生涯、その徳によって示した良き模範を、手本とすべきであると、私が真っ先に告げている。また、あなたがたが彼らを想うとき、彼らの霊

的な助けと影響を期待してもよいと、私は告げている。 しかし、なぜあなたがたは、それらの魂の謙虚さを傷つけることしかできない祭壇を、彼らのために築くのか？なぜ、あたかも彼らが神であるかのように、彼らの記憶を崇拝の対象とし、自らの兄弟たちへの敬意を忘れてしまうほどに、父の代わりに彼らを据えるのか？あなたがたがここで彼らに与えた名声は、彼らにとってどれほど痛ましいものであったことか！

69. 人々は、彼らが聖人と呼ぶ者たちに対する私の裁きについて、何を知っているというのか。彼らは、それらの存在たちの霊的な生活について、あるいは、主のもとで各々が勝ち得た地位について、何を知っているというのか。

70. これらの啓示によって、私が人間の中で私の僕たちが成し遂げた功績を消し去ろうとしていると、誰も思ってはならない。それどころか、 私は、彼らが私のもとで見出した恵みがどれほど大きいか、そして私が彼らの祈りを通してあなた方に多くのものを与えていることを、あなた方に知ってほしいのだ。しかし、宗教的狂信、偶像崇拝、そして迷信の源となるあなた方の無知を取り除くことが必要である。

71. もしあなたがたが、それらの存在たちの霊があなたがたの生活の世界を支配していると感じたら、霊界の一部である彼らを信頼しなさい。そうすれば、あなたがたと彼らが主の道において一つとなり、霊的兄弟愛の業を成し遂げることができるだろう――それは、私がすべての教えの結果として期待している業である。（115, 52-56）

教会の祝祭日

72. 今日、人々が大きな歓声を上げて教会へと駆け寄り、天が開いて私を迎え入れたその瞬間を祝うこの日に、私はあなたがたに告げる。これらすべては、人々の心を感動させるための単なる伝統に過ぎない。それらは、今日、私の神聖な受難を具現化する儀式にすぎない。

73. 祭壇や象徴物を設けることによって、この傾向に従ってはならない。聖なる出来事を表現したり、目立つために特別な衣を身にまとうな。これらすべては偶像崇拝に他ならない。

74. 心からわたしを呼び求め、わたしの教えを心に留め、わたしの模範に従いなさい。あなたがたの改心の証をわたしに捧げなさい。そうすれば、天の門があなたたちを受け入れるために開かれるのを感じるだろう。

75. 私や私の受難についてなされる、誤った俗悪な描写を避けなさい。なぜなら、誰も私を体現することはできないからだ。私の模範と教えに従って生きなさい。そうする者は、地上でそ

の師を体現したことになる。（131, 11-13, 16）

76. 人類よ。あなたがたがイエスの誕生を記念するこの数日間、心に平安を受け入れ、一つに結ばれた幸せな家族のように振る舞いなさい。

77. あの時代に私がこの世に生を受けたことを記念する際、すべての心が心からの喜びを感じているわけではないことを、私は知っている。内省と静寂の時間を持ち、その喜びを内なるものとし、記念の祝祭が精神の中で行われるようにする者は、ごくわずかである。

78. 今日においても、かつてと同様に、人々は記念日を俗悪で空虚な祭りへと変えてしまい、精神の喜びとはかけ離れた、感覚的な快楽を追い求めている。

79. もし人々がこの日を、神の愛について思索にふけることで、霊に捧げるために用いたなら――私があなた方と共に生きるために人間となったという事実こそが、その揺るぎない証である――まことに、私はあなた方に告げる。あなた方の信仰は、あなた方の存在の至高の領域で輝き、私へと続く道を照らす星となるであろう。 あなた方の魂は慈愛に満ち溢れ、人生の道において、困窮している人々に善行と慰めと温もりを惜しみなく注ぐようになるでしょう。あなた方は兄弟姉妹以上の絆を感じ、自分を傷つけた人々をも心から許すようになるでしょう。親もなく、住む家もなく、愛もない、社会から疎外された子供たちを見る時、あなた方は慈愛に満たされるでしょう。 戦争によって、人間生活のあらゆる善きもの、高貴なもの、聖なるものが破壊された、平和のない民々のことを思うだろう。そうすれば、あなたの祈りは純粋なまま私のもとへ届き、こう告げるだろう。「主よ、これほど多くの兄弟姉妹が恐ろしい苦しみにあえいでいるのに、私たちに平和を求める権利などあるのでしょうか？」

80. それに対する私の答えはこうだ。あなたがたは同胞の痛みを感じ、祈り、憐れみを持ったのだから、家の中に集まり、食卓を囲み、その祝福されたひとときを喜びなさい。なぜなら、私はそこに臨在するからだ。 その瞬間に苦しんでいる人々がたくさんいることを知りながらも、喜んでいても構わない。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたの喜びが誠実なものであれば、そこから平和と希望の息吹が に溢れ出し、それは苦しむ人々を、愛のうねりのように包み込むだろう。

81. 誰も、あなたがたが一年の中でイエスの誕生を記念して祝う、最も清らかな祝祭を、私があなたがたの心から消し去ろうとしているなどと思ってはならない。 私はただ、世には世にふさわしいものを、魂には魂にふさわしいものを与えるよう、あ

なた方に教えたいだけである。なぜなら、もしあなたがたがこれほど多くの祝祭を、人間の出来事を祝うために執り行うのなら――なぜこの祝祭を魂に委ねないのか。そうすれば、魂は幼子となって私のもとへやって来て、愛の贈り物を捧げ、羊飼いたちの素朴さを得て私を礼拝し、 真の知恵の主の前で、その首を垂れ、その知識を捧げるための賢者たちの謙虚さを得られるように？

82. 私は、この数日間、人々の生活を包んでいる喜びを損なうつもりはない。 それは単なる伝統の力というだけではない――それは、私の慈悲があなた方に触れ、私の光があなた方を照らし、私の愛があなた方をマントのように包み込んでいるからである。そうして、あなた方は希望と喜びと優しさに満ちた心を感じ、何かを贈り、体験し、愛したいという欲求に満たされるのだ。 ただ、あなたがたは、そうした感情や霊感の、真の寛大さと純粋さを、常に表現しているわけではない。なぜなら、あなたがたは、その喜びを世の快楽に浪費し、救い主がこの世に来られたその魂のために、その瞬間を生き抜き、その光の中に入り、清められ、救われることを許していないからだ。 なぜなら、人となったその神聖な愛は、すべての人の人生の道に永遠に存在し、人がその愛の中で命を見出せるようにしているからである。（299, 43-48）

誤った礼拝形態にもかかわらず、神は常に共におられる

83. 人間は物質に縛られているため、感覚的な礼拝を通じてわたしを求めざるを得ず、また、その霊の目が開かれていないため、わたしを見るためにわたしの像を作り出さなければならない。 魂を感性豊かにしていないため、人は常に物質的な奇跡や証拠を求め、それによってのみ私の存在を信じようとする。そして、私に仕え、私に従い、私を愛し、私が与えるものに対して何かを返すという条件を私に突きつけるのである。 こうして、私は、地球上の人々が作り出したすべての教会、すべての宗教団体、すべての宗派を見ている。それらは、物質主義、狂信と偶像崇拝、秘密主義、欺瞞、そして冒涜に満ちている。

84. 私がそこから受け入れるものは何か。ただその意図だけである。これらすべての中から、何が私に届くのか。それは、私の子供たちの魂や肉体の必要、彼らのわずかな愛、光への渇望である。これこそが私に届くものであり、私はすべての者のそばにいる。私は教会や形式、儀式などには目を向けない。私はすべての子供たちの元へ、等しく訪れる。 私は祈りの中で彼らの魂を受け入れる。私は彼らを

胸に引き寄せ、抱きしめる。そうして私の温もりを感じさせ、その温もりが、試練と な試練の道のりにおける励ましと刺激となるように。しかし、私が人類の善意を受け入れるからといって、彼らが偶像崇拝と狂信に包まれ、永遠に暗闇の中に留まることを許すわけではない。

85. 私は、人間が目を覚まし、魂が私に向かって高揚し、その高揚の中で父の真の栄光を見出し、典礼や儀式の偽りの輝きを忘れることを望む。 私は、彼らが真の昇華に達したとき、自らを刷新し、人間の苦難から解放され、感覚への執着、情欲、悪徳を克服し、真の自分を見出すことを望む。そうして、決して父に対して「自分は地上の虫に過ぎない」などと言わないように。父が彼らを御自身の像と似姿として創造されたことを、彼らが知るためである。（360, 14-16）

86. 地上には多くの宗教団体があり、その大部分はキリストへの信仰に基づいている。それにもかかわらず、彼らは互いに愛し合っておらず、また互いを神の師の弟子として認め合ってもいない。

87. もし彼らが皆、私の教えを理解していたなら、各宗派を和解と平和へと導くことで、その教えを実践していたはずではないかと、あなた方は思わないか。しかし、そうではなかった。彼らは皆、互いに距離を置き、それによって人々を精神的に分断し、対立させ、その結果、人々は互いを敵や見知らぬ者だと見なすようになった。 誰もが、自分が真理の所有者であり、他者は誤っていることを証明するために、手段や論拠を探している。しかし、すべての者の団結のために戦う力と勇気を持つ者は誰もおらず、また、あらゆる信仰の信念や神への崇拝の中に、ある種の真理が含まれていることを発見しようとする善意を持つ者もいない。（326、19-20）

第15章——偽りのキリスト者、教会の誤った教えと不正

名ばかりのキリスト教徒

1. 人類の大部分は自らをキリスト教徒と呼んでいる。しかし、師はこう告げられる。「もし彼らが真にキリスト教徒であるならば、その愛と謙虚さと平和をもって、すでに他の人々を打ち勝っているはずである。」 しかし、私が「第二の時代」にすでに遺言として残した教えは、人類の心にはなく、人々の行いの中で生き、花開くこともない。それは埃をかぶった本の中に保管されているが、私は本について人々に語るために来たのではない。

2. 書物の代わりに、私は自分の生涯、言葉、行い、そして人

間としての苦しみと死を、あなたがたに与えた。キリスト教徒を名乗る人類の大部分が、キリストの平和も恵みも持たない理由は、人々がキリストを模範とせず、その教えに従って生きていないからである。(316, 5)

3. 弟子たちよ、私に従いなさい。そうすれば、あなたがたの心から古い信仰観念を根絶することができる。キリスト教界は、互いに愛し合わず、誤った判断によって兄弟たちを辱め、軽蔑し、脅かす信仰の派閥に分裂してしまった。私はあなたがたに言う。彼らは愛のないキリスト教徒であり、それゆえ彼らはキリスト教徒ではない。なぜなら、キリストは愛そのものだからである。

4. ある者たちは、エホバを、人間の過ちをすべて備えた老人として、復讐心に満ち、残酷で、地上の最も悪質な裁判官よりも恐ろしい存在として描いている。

5. 私がこれを言うのは、あなたがたに誰かを嘲笑させるためではなく、神の愛に対するあなたがたの認識を清めるためである。あなたがたは今、過去にどのような形で私を崇拝していたのかを知らない。（22, 33-35）

6. キリスト教徒を名乗る民が、戦争によって互いに滅ぼし合い、さらには兄弟を殺しに行く前に祈り、敵に対する勝利を私に与えてくれるよう懇願するなど、どうしてあり得るだろうか。愛の代わりに憎しみが、赦しの代わりに復讐が支配する場所に、私の種が存在し得るだろうか。（67, 28）

7. 様々な信条や宗教を持つすべての人々に、私はこう告げる。彼らは物質的な富をそのあるべき場所に追いやることを理解せず、その結果、霊的なものを本来あるべき場所に置くことができなかったのだ。もし人々が私の律法を遵守していたなら、彼らはすでにこの地から約束の地の輝きを目にし、その住民たちの声を耳にしていたであろう。

8. あなたがたは、私の存在を信じ、私の神性を信じていると主張する。また、私の御心がなされますようにとも言う。しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。あなたがたの信仰はなんと乏しく、私の定めたことへの服従はなんと弱いことか！しかし、私があなたがたのために切り開いた道において、あなたがたが強くなれるよう、私はあなたがたの中に真の信仰を呼び覚ます。（70, 12-13）

9. 今日、私はあなたがたに、命を捧げるよう、血を流すことを求めてはいない。私があなたがたに求めるのは、愛、誠実さ、真実さ、無私無欲である。

10. こうして私はあなたがたに教え、そのことを通じてあなたがたを導き、この第三の時代において私の神性の弟子たちを育てている。なぜなら、私はあな

たがたが世の成り行きを無関心に見ているのを見るからである。それは、あなたがたが、これほど多くの悲惨と苦痛がある人々の心に身を置くことを知らないからである。

11. 大きな不平等が蔓延している。なぜなら、王と名乗るには王冠さえあればよいような支配者たちを見、また、真の奴隷である被支配者たちを見るからだ。そこから争いが勃発している。この世で富を得た支配者たちの間には、自らをキリスト教徒と呼ぶ者が多くいるが、私はあなたがたに告げる。彼らは私の名をほとんど知らないのだ。

12. 隣人を隣人として見ず、富を蓄え、他人の所有物を奪い取る者たちは、憐れみを知らないゆえに、キリスト教徒ではない。

13. 霊的なものと物質的なものとの戦いが到来し、人類はこの争いに巻き込まれるだろう。しかし、正義の勝利が訪れるまでに、人類はどれほどの苦しみを耐え忍ばなければならないことか！（222, 43-45）

不信仰者と信仰の狂信者

14. 私はあなたに告げる。真実だと信じている誤った確信や嘘に満ちているよりは、不確実さや否定に満ちているほうが、あなたにとって良いのだ。 疑いや無知から生じる誠実な否定は、偽りに対して不誠実に同意することよりも、あなたたちへの害が少ない。理解を渇望する誠実な疑いは、いかなる神話への確固たる信仰よりも優れている。光を切実に求める絶望的な不確実性は、狂信的あるいは偶像崇拝的な確信よりも優れている。

15. 今日、至る所で、不信者、失望した者、そして憤慨した者たちが優勢である。彼らは反逆者であり、儀礼的な振る舞いを単なる形式としか感じない他の人々よりも、しばしば物事をより明瞭に見ている。 人々を精神的に導く者たちから聞いた保証の言葉も、彼らを納得させることはない。なぜなら、それらの複雑な理論はすべて、恐怖を和らげる清らかな水を渇望する彼らの心を満たすものではないからだ。

16. あなたがたが反逆的だと見なす者たちは、その問いかけにおいて、自分たちは博識で偉大であると自負してそれに答える者たちよりも、しばしばより多くの洞察の光を示している。彼らは、神の教えの達人であると自称する多くの人々よりも、はっきりと感じ、見、察し、聞き、理解しているのだ。（248, 12）

17. 真理とはなんと明快で、なんと素朴なことか！霊性とはなんと明瞭で、なんと単純なことか！ それにもかかわらず――狂信と伝統という闇の中に頑なに留まり続ける者にとって、それを理解することはいかに困難なことか。その者の理性は、自分

が理解しているもの以上の何かが存在することを理解できない。その者の心は、自分にとっての神であり法であったもの――すなわち伝統と儀式――を捨て去ることに抵抗する。

18. あなたがたは、私が、私の真理をどうしても認めようとしない者たちを憎んでいると思うのか？　いいえ、わが子らよ、私の慈悲は限りなく大きい。そして、まさにそのような者たちこそ、私が助けの手を差し伸べ、彼らの牢獄から抜け出し、光の観想に喜びを見出せるように導こうとする相手なのだ。彼らには、信仰への目覚めのために必要な試練が与えられている。それは彼らの力を超える試練ではなく、あらゆる魂、あらゆる人生、あらゆる人間に賢明に適合された教訓となるだろう。

19. そこから、あの暗く閉ざされた頭脳の下から、宗教的狂信と無知によって病んだ心の下から、あなたがたは、偉大で情熱的な真理の戦士たちが現れるのを見るだろう。 なぜなら、彼らがその鎖と闇から解放され、光を見たその日、彼らは歓喜を抑えきれず、私が世界を救うために戻ってきたこと、すなわち、霊化の階段を登らせて真の王国へと引き上げるために戻ってきたことを、声を張り上げて叫ぶことになるからだ。（318, 48-50）

イエスの教えの歪曲とその結果

20. わたしは、「第二の時代」にあなたがたに語ったのと同じ霊的な内容をもって、わたしの言葉をあなたがたに与える。そして、あなたがたが忘れていた、あるいは先祖たちの誤った解釈のために背を向けてしまった、わたしの教えの多くを思い出させた。

21. あなたがたは私の教えにこれほどまでに背いたため、私はこう言わざるを得ない。あなたがたは、私の道とは全く異なる道を築き上げながら、それに同じ名前を付けたのだ。私以外の誰も、命と愛と真理の言葉をもって、あなたがたをその誤りから解き放つことはできなかった。

22. それゆえ、今、あなたがたが私に耳を傾けているこの時に、私の言葉を深く探求し、理解しなさい。そうすれば、あなたがたの中に光が宿るだろう。今こそ、私はあなたがたに、魂の輪廻転生が事実であり、それが人類の始まり以来、神の正義と愛の光として存在していることを、はっきりと告げる時である。それなしには、魂の完成という長い道のりを進むことはできないのだ。（66, 63-65）

23. 教会が人々に魂について明らかにしてきたことは、実にわずかである。しかし今、教会は昏睡状態から目覚めようとして

いる。そして、懸念や恐れを乗り越え、これまで隠してきた真実を人類に明らかにする者たちは、祝福されるであろう。私は、私の赦しと恵みと知恵の光をもって、彼らを照らすであろう。

24. そうして人類が、教会は単に地上の人々が道徳的に生きるための存在であるだけでなく、魂をその永遠の故郷へと導く使命を負っていることを認識したとき、人類は魂の成長の道において一歩前進することになるだろう。（109, 15 16）

25. 私がイエスとして人々の間にいた後、私は常に「兵士」あるいは使徒として来る者たちを遣わし、彼らの行いによって私の教えを確証させ、人類が私の教えを歪めることを防がせた。しかし、私の言葉を不完全な形で解釈した多くの「耳の聞こえない者」や「目の見えない者」は、意見が分かれ、それによって様々な宗派を生み出した。しかし、人々が精神的に分断されて いるならば、どうして私の律法の最高戒めに従って互いに愛し合うことができるだろうか。

26. それゆえ、私はあなたがたに告げる。この文明は、人々自身がそれを破壊しているため、単なる虚像に過ぎないのだ。人類が、私の正義と愛の律法という土台の上に世界を築き上げるまでは、平和と霊の光を持つことはできない。その徳の上にこそ、彼らは真の向上する世界を創造し、形成するだろう――霊的な面においても、科学においても、道徳においても。（192, 17）

27. 刷新と完全化という理想のみが、あなた方を真理の道へと立ち返らせるであろう。

28. 神の律法の解釈者であると自認する者たちは、あなたがたの堕落と反抗心のために地獄の苦しみがお待ちかねであり、悔い改めを表明し、肉体を懲らしめ傷つけ、神に物質的な供物を捧げる時のみ、神はあなたがたを赦し、御国へと導いてくださる、と説く。まことに、わたしはあなたがたに告げる。彼らは誤っている。

29. 人よ、あなたがたが聖なる啓示の偉大な師として崇め、私が迷い人であると見なす者たちに導かれて、いったいどこへたどり着くというのか。それゆえ、私は、あなたがたを私の愛の道へと前進させるこの教えの光をもって、あなたがたを救うために来るのだ。（24, 46-47）

30. 人々は、私の教えの真の意味を隠蔽し、その代わりに、あなたがたに命を与えるために死んだ方の影でさえもないキリストを、あなたがたに見せようとしている。

31. 今日、あなたがたは、教えを授けてくださった師から背を向けた結果に直面している。あなたがたは苦痛に囲まれ、自らの貧しさに押しつぶされ、無知に苛まれている。しかし、人間

の中に眠っていた能力と賜物が目覚め、新しい時代の到来を告げる使者のように宣言する時が来た。

32. 人々の教会、科学、そして司法は、彼らにとって異質で有害な影響であるものの浸透を阻止しようと試みるだろう。しかし、精神の目覚めと進歩を止めることのできる力など存在しない。解放の日は近い。（114, 5-8）

33. 地上において、私を知っていると主張する者たちは、私を不名誉な形で表してきた。それゆえ、多くの人々が私に背を向けてしまったのである。

34. 無神論者と自称する者たちについては、彼らが私を心から追い出したからといって、私は彼らを問いただすことはない。むしろ、真実を歪曲し、多くの人々が受け入れられないような神を人々に示した者たちを問いただすのである。

35. 正義であり、健全であり、善であるものすべてには、私がいつの時代にも説いてきた真理が含まれている。

36. あなたがたが再び真理を愛すべき時、すなわち、正義と善を再び認識する時が来た。あなたがたは私から生まれたのだから、高きもの、永遠なるもの、清らかなものを求めるに至らなければならない。（125, 22-25）

37. そう、イスラエルよ、人の心は常に物質的なものを崇拝しようと求めてきた。耳は心地よい言葉に癒されてきた。それゆえ、人は私が「第二の時代」にキリスト教の教えとしてもたらしたものを、「宗教」へと変容させたとき、それを変えてしまったのである。

38. 人間の心には常に利己心、強欲、虚栄心が目覚め、それらは自らを王や主と称し、民に自分たちにひれ伏させ、民を家臣や奴隷とし、罪に縛り付け、暗闇、方向感覚の喪失、そして混乱へと導いてきた。（363, 36）

39. この時代の神学者たちは、わたしの言葉と新しい書物を研究し、こう問うだろう。「このように語ったお前は、いったい何者なのか？」 かつての律法学者やパリサイ人たちが反発し、私に「あなたは誰だ。なぜモーセの律法を無視し、置き換えるのか」と言ったのと同じように。その時、私は彼らに、三つの啓示こそが、私が常に教え、従ってきた唯一の律法であることを理解させるだろう。

40. この時代に私を非難する者の多くは、「第二の時代」に疑いを抱いた者たちである。しかし、私は彼らを守り、再び地上に遣わした。それは、彼らが私の律法の勝利を目の当たりにし、その目を光に向けて開くためである。（234, 46-47）

キリスト教における誤った発展と弊害

41. 人類の大部分は、言葉「キリスト」の意味も、その教えも全く知らずに、自らを「キリスト教徒」と呼んでいる。

42. かつて私が与えた私の言葉、私の模範、私の教えを、あなたたちはどうしたのか。

43. あなた方は、果たしてあの時代の者たちよりも進化した人間なのか。なぜ、あなた方の精神の行いによってそれを証明しないのか。もしかして、この人生が永遠であると思っているのか、あるいは、人間の科学によってのみ進化すべきだと考えているのか。

44. 私は、あなたがたがこの世を、真の神が崇められる大いなる神殿へと変えるため、また、人間の生が父への絶え間ない愛の捧げ物となり、隣人一人ひとりの中に父を愛し、それによって創造主であり師である父に敬意を払うようになるため、律法の真の成就を教えたのである。

45. しかし今日、私が人々のところに戻ってきたとき、そこには何があるだろうか。嘘と利己心が、真理と隣人愛に取って代わっている。高慢と虚栄が、柔和さと謙遜に取って代わっている。偶像崇拝、狂信、そして な無知が、光、高揚、そして霊性に取って代わっている。 義務感と正義感こそが存在すべき場所に、利欲と冒涜がはびこっている。兄弟姉妹間の憎しみと解き放たれた争いが、兄弟愛、平和、そして愛に取って代わってしまった。

46. しかし、わたしは「第二の時代」にエルサレムの神殿で行ったように、わたしの神殿に来て、そこから商人たちを追い出し、彼らに再びこう告げるであろう。「祈りの家を商売の場にしてはならない。」 わたしは人々を教え、誰もが真の祭壇の前で仕えるようにし、もはや誤りに囚われることなく、また、わたしの律法に対する誤った解釈ゆえに無知から迷い出ることのないようにする。（154, 15-20）

47. わたしと使徒たちの模範は、わたしに従おうとしたすべての人々によって手本とされたわけではない。多くの者は、しもべであるべきところを主人のような振る舞いを取り、その心を優越感と高慢で満たし、富と華やかさと名誉ばかりを追い求めた。 その過程で彼らは貧しい人々の苦難を忘れ、他者の悲惨さや苦しみに対して無関心で無感覚になってしまった。それゆえ、人々は真理を求めてある宗派から別の宗派へと移り歩き、私を自由に探求するために新たな宗派を創設したいという精神的欲求を抱くのである。

48. かつて聖人や半神と見なされていた者たちは、今日、失望した人類によって拒絶されている。

49. 人々はもはや、自分の過ちを赦してもらうために告解司祭を訪ねようとはしない。彼らはそれを不名誉なことだと感じるからだ。そして、永遠の地獄の炎という脅しは、もはや罪人の心を動かし、恐怖させることもない。

50. この霊的な方向感覚の喪失を利用し、狼は生垣の陰に潜んでいる。

51. わが神性のすべての僕と代表者は、人々の間に平和をもたらすという使命を負っているが、それは彼らがこの時代にしていることの正反対である。誰もが自分こそ第一だと考え、誰もが最強でありたいと願うが、唯一の強い者、すなわち「私」がすべての人の中にいることを忘れてしまっている。

52. 今や、あなたがたは、なぜ私が「第二の時代」に再び来ると約束したのかを理解できるだろう。今や、なぜ私が再びあなたがたに教えを説くのかが、あなたがたには理解できるはずだ。なぜなら、私の言葉だけが霊の闇の覆いを取り除くことができ、私の愛だけがあなたがたを罪から救い出すことができるからである。（230, 23-28）

53. わたしの律法に対して犯された重大な罪と過ちに対して、わたしの裁きが下るであろう。完全なる師によって正されない過ちは、一つとしてない。惑わされてはならない。自分の過ちを正し、裁いてはならない。わたしが決してあなた方を罰することはない――あなた方自身が自分自身を罰しているのだ、と理解せよ。

54. 私は、無知から罪を犯した者に光を照らし、故意に罪を犯した者を悔い改めへと導く。そうして両者が、私の赦しを完全に信頼して、犯した過ちを償うようにするのだ。これこそが、私のもとへ至る唯一の道である。

55. 様々な宗派の道を人々に導く聖職者たちよ、これらすべてを心に留めよ。祈り、そして信徒たちを霊性へと導け。今こそ、あなたがたは自らの迷いを悔い改め、魂にとって死と闇である人間の物質主義との戦いを始める時である。そのために、あなたがたは私の真理を用い、私の言葉を武器として取り、私の教えの中で生きなければならない。

56. 私は、どの宗派に対しても特別な好意を抱いてはいない。私があなた方の側に立つのではなく、あなた方が私の側に立たなければならない。なぜなら、そうすることで、あなた方は皆、霊的に一つに結ばれることになるからである。（162, 27-30）

57. 霊性に満ちた私の教えは、この民の心に芽生え、将来、真理と命の実を結ぶであろう。私の言葉は地上に広まり、清め、啓発し、裁かない場所を一つも残さないであろう。

58. そうして、諸国民は、真の、永遠の霊的な生へと目覚め始め、それぞれの様々な信仰形態における表面的で物質主義的な部分を排除し、ただ私の律法の本質に向き合うことに専念するようになる。
59. 人類は、霊性が与える力を認識し、何世紀にもわたって自らの足を引っ張ってきたあらゆるものから目を背けるようになる。
60. 人々が善意を持たず、互いに愛し合っていないならば、キリスト教の象徴、すなわち十字架が地上に何百万と存在したところで、何の益があるだろうか。
61. 外見的なものはもはや人々に対して何の力も持たず、敬意も、善意も、傷つけたことへの後悔も存在しない。それゆえ、私はあなたがたに告げる。象徴や礼拝の形式は消え去るだろう。その時代は終わったからであり、内なる礼拝こそが、人を光へと運び上げ、高め、私のもとへと導くものとなるのだ。
(280, 63-67)

IV. 律法——神への愛と隣人への愛

第16章 - 神の律法

神の法の力

1. 私の教えを時代遅れだと考える人は多いが、その理由は、彼らの物質主義的な考え方が、私の教えの永遠の真意を見出すことを妨げているからである。
2. 私の法は不変である。文化や文明、そして法律を持つ人間こそが儚い存在であり、それらすべての中で生き残るのは、精神が愛と慈悲の業によって築き上げたものだけである。 日々の労苦や試練の後に、神の知恵の泉に問いかけるとき、霊こそが、私の法の揺るぎない岩と、霊の教えを記した常に開かれた書物を見出すのである。（104, 31-32）
3. わたしはすべての人類をわたしの光で照らし、それによって唯一存在する真理を彼らに啓示した。しかし、あなたがたも見ての通り、一人ひとりの人間や民族が、それぞれ異なる方法で感じ、考え、信じ、解釈している。
4. 人々のこうした多様な考え方が分裂を招いた。なぜなら、あらゆる民族や人種が異なる道を歩み、異なる理想を掲げているからである。
5. 大多数の人々は、神の律法の成就が超人的な犠牲、放棄、そして努力を意味すると考え、光に満ちた真の道から遠ざかり、自分たちにとって律法の遵守や礼拝の儀式がより容易に実践できる宗教団体や宗派を自ら設立することを選んだ。 このよう

にして、人々は自らの魂の中に感じる光と高揚への渇望を、鎮めることができると信じている。

6. 何世紀もの歳月が過ぎ、幾つもの時代が移り変わっても、人々は、私の律法を履行することが人間の犠牲ではないこと、それどころか、私の戒めを無視するときこそ、彼らはまさに世界の肉体と魂を犠牲にしていることに気づかなかった。 彼らは、私の言葉に従って生きる者が、物質主義に染まった人々が全く異なる形で想像しているような、真の幸福、平和、知恵、そして栄光を見出すことになるということを、理解しようともせず、理解しようともしなかった。

7. あなた方を囲む道徳的・科学的な世界は、物質主義的な理想を持つ人々、すなわち人類の物質的な向上のみを追求してきた人々による業である。そして私は、彼らがその業を行い、それを限界まで遂行し、その結果を知り、その実を収穫することを許した。それは、彼らがそこから経験の光を引き出せるようにするためである。 その光の中で、私の正義が明らかにされ、その正義の中に、愛である私の律法が存在するであろう。（313, 60-64）

8. もし私が、あなたがたが私の教えを、私の意志ではなく、あなたがたの意志に従って人生に適用することを許したならば――まことに、私はあなたがたに言う、あなたがた は、決して霊的な停滞から抜け出すことはなく、また、あなたがたの魂にその発展、開花、そして完成を許すことも決してないだろう。

9. そこには、宗教の中で怠惰になった人々が見られる。彼らは、神の律法が命じることに従うのではなく、神話や誤った教えで律法を埋め尽くすことによって、律法を自らの意志に従わせようとしたため、もはや光へと一歩も踏み出そうとはしない。

10. この時代の多くの人々が、あらゆる宗教から自らを解き放ち、霊によってわたしを求め、自らの存在の最も奥底で感じているあらゆる資質、賜物、能力を開花させることができるようになることは、必要であった。（205, 6-8）

『霊の業における神の愛の法』

11. あなたがたに語りかけているのは、あなたがたの神である。わたしの声こそが律法である。今日、あなたがたはそれを新たに聞いている。それを石に刻む必要も、あなたがたの間で受肉したわたしの御言葉を送る必要もない。 あなたがたの霊に語りかけ、そこに一つの時代の始まりを啓示するのは、私の神聖な声である。その時代において、人は義となり、その創造主と

和解し、聖書に記されている通り、自らを清めることになる。（15, 8）

12. 私はイエスを通して、あなた方に完全な教えを与えた。誕生から死に至るまでの人間としての私の生涯を熟考すれば、愛が生き生きと、そして完全な形であなた方に開かれるであろう。

13. 私は、あなたがたにイエスのようになることを求めているわけではない。なぜなら、イエスの中には、あなたがたには到達し得ないもの、すなわち、人間として完全であることがあったからである。イエスの中にいた方は、限定された形をとった神ご自身であったからだ。しかし、それでもなお、私はあなたがたに、イエスに倣うべきだと言う。

14. 私の永遠の律法は、常にこの愛について語ってきた。私は太古の昔、あなた方にこう言った。「心を尽くし、魂を尽くして神を愛せよ」と、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」と。

15. その後、私はあなたがたに、次のような心を奮い立たせる言葉を授けた。「父があなたがたを愛されたように、兄弟姉妹を愛しなさい」、「互いに愛し合いなさい」。

16. この時代、私はあなたがたに、すべての被造物よりも神を愛すべきこと、存在するすべてのものの中に神を愛し、存在するすべてのものを神の中に愛すべきこと、そして、あなたがたが父のすべての栄光を見るために、隣人に対して憐れみ、さらに憐れみを実践すべきであることを啓示した。なぜなら、憐れみとは愛だからである。（167, 15-19）

17. 私は、この霊の教えが世界宗教になるとは、決して言わない。なぜなら、私は宗教を伝えたことは一度もなく、ただ律法を伝えただけだからである。 私が言っておきたいのは、地上において勝利を収め、人々の存在を照らすために永続的な効力を持ち続けるその律法とは、私が教えの中で説明し、あなたがたが完全に理解できるようにした「愛の律法」である、ということだけである。

18. 人類は、愛することを学び、真の愛の行いを実践するようになるまで、まだ多くの偽りの愛や慈善の行いを行うことになるだろう。また、多くの人々は、その精神がより高い認識へと高まり、ついに、唯一の法、すなわち普遍的かつ永遠の霊の教えとは、すべての人々が到達する愛の教えであることを理解するに至るまで、まだ多くの宗派を転々とすることを余儀なくされるだろう。

19. すべての宗教は消え去り、残るのは、人の内と外に輝きを放つ神の神殿の光のみとなる。その神殿において、あなたがたは皆、従順、愛、信仰、そして

善意という唯一の礼拝を捧げるようになるのである。（12, 63-65）

神の律法への背きとその結果

20. この厳粛な記念の朝、わたしはあなたがたに問う。わたしがモーセを通して人類に送った律法を、あなたがたはどのように扱ってきたのか。これらの戒めは、果たして当時の人々のためだけに与えられたものだったのか。

21. 真実を言おう。あの祝福された種は、人々の心にはない。なぜなら、彼らはわたしを愛さず、互いに愛し合ってもいないからだ。彼らは両親を敬わず、他人の所有物も尊重しない。それどころか、互いに命を奪い合い、結婚を破り、自らに恥をもたらしている。

22. すべての人の口から偽りが語られているのを聞かないのか。ある民が別の民から平和を奪っていることに気づいていないのか。それにもかかわらず、人類は私の律法を知っていると言う。もし人々が私の戒めを完全に忘れてしまったら、人類はどうなってしまうだろうか。（15, 1-3）

23. 「第二の時代」、イエスがエルサレムに入城されたとき、祈りと神への礼拝に捧げられた場所である神殿が市場と化しているのを見出し、師は熱意に満ちて、そのように神殿を冒涜する者たちを追い出し、彼らにこう言われた。「わたしの父の家は、市場ではない。」 これらの人々は、神の律法を履行するよう人々の心を導くことを任されていた者たちほど罪は重くなかった。祭司たちは神殿を、名声と虚栄心が支配する場所へと変えてしまっていたが、その支配は打ち砕かれた。

24. 今日、私は、私の律法を冒涜した者たちを罰するために鞭を用いることはしなかった。しかし、私は、人々が自らの過ちの結果を肌で感じ、その意味を解釈し、私の律法が不屈で不変であることを理解できるよう、それを許した。 私は人々に道、すなわち真っ直ぐな道を示した。もし彼らがそこから逸れるならば、彼らは正義の律法の厳しさに身をさらすことになる。なぜなら、その中にこそ私の愛が表れているからである。（41, 55-56）

25. わたしはわたしの神殿を再び建て直す――壁も塔もない神殿である。なぜなら、それは人々の心の中にあるからだ。

26. バベルの塔は今なお人類を分断しているが、その土台は人々の心の中で破壊されるであろう。

27. 偶像崇拝と宗教的狂信もまた、その高い塔を築き上げたが、それらは脆く、やがて崩れ落ちるに違いない。

28. まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの律法――神の律法も人間の律法も

――は聖なるものであり、それらが自ら世界を裁くであろう。

29. 人類は自分たちを偶像崇拝者だとは考えていないが、まことに、あなたがたに告げる。彼らは今なお、黄金の子牛を崇拝しているのだ！（122, 57）

30. 混沌が再び訪れたのは、美徳が存在しないからであり、美徳のないところには真理はあり得ない。その理由は、父がモーセに授けた律法に力がないからでも、イエスの教えが過去の時代にのみ適用されるからでもない。両者とも、その精神的な内容において永遠の律法である。しかし、それらはまるで泉のようなものであり、その水を飲むことを誰にも強制されるわけではない。むしろ、この愛の泉に近づく者は皆、自らの意志でそうしているのだ、と悟りなさい。（144, 56）

31. わたしの教えを正しく解釈しなさい。わたしの霊が、あなたがたの地上の苦しみを見て喜びを得るとか、あるいは、あなたがたを喜ばせるものをすべて奪い取り、それを楽しんでやるとか、そう考えてはならない。私が来るのは、あなたがたが私の律法を認め、尊重するためである。なぜなら、それらはあなたがたの敬意と配慮に値するものであり、あなたがたがそれに従うならば、至福をもたらしてくれるからである。

32. わたしは、神のものは神に、そして「皇帝」のものは「皇帝」に捧げるよう、あなたがたに教えた。しかし、今日の人々にとっては「皇帝」しか存在せず、彼らは主に対して捧げるものが何もない。もしあなたがたが、せめて世に必要なものだけを分け与えていたなら、あなたがたの苦しみは少なかっただろう。 しかし、あなたがたが自らの行いを委ねている「皇帝」は、理不尽な法律を押し付け、あなたがたを奴隷とし、見返りもなく命を奪っている。

33. 私の律法がいかに異なるか、よく考えてみよ。それは、肉体も魂も束縛しない。ただ愛をもって説得し、慈愛に満ちてあなた方を導くだけである。すべてを私利私欲なく与え、やがて時が経つにつれて、すべてを報い、報償するのだ。（155, 14-16）

至高の律法の成就

34. もし主があなたに、「心を尽くし、魂を尽くして神を愛し、隣人を自分のように愛しなさい」と言われたなら、 また、師が愛の教えを説いたならば、同じ源から発するこの霊的な声は、愛の律法に固くすがりつくべきだと告げている。なぜなら、それにはこの世のいかなる大軍も持ち得ない力があり、その征服は確実かつ永続的なものとなるからだ。愛の土台の上に築かれたものはすべて、永遠の命を持つからである。（293, 21467）

35. 私は、あなたがたが不当な脅威の下で生きることを避け、また、私の言葉を正しく解釈することを知らなかった者たちが語った罰への恐れからだけで私の律法を守るようなことがないように、魂の真の生き方を示す。

36. わたしの律法を理解しなさい。それは複雑でも、理解するのが難しいものでもない。それを知り、それに従う者は、恥をかくこともなければ、偽りの言葉や予言、誤った考えや悪い解釈に惑わされることもない。

37. わたしの律法は単純であり、常にあなたがたが歩むべき道を示している。わたしを信頼しなさい。わたしは、あなたがたを白く輝く都へと導く道であり、あなたがたの到来を待ちわびて門を開き続けている約束の地へと至る道である。（32, 9）

38. いつになったら、あなたがたは、わたしの律法を全うすることによってのみ、健康と幸福と命を見出すことができるのだと、ようやく確信するのだろうか。

39. あなたがたは、物質的な生活において、生き残るために順応しなければならない原則があることを認めている。しかし、人間が神性の中に存在する永遠の命の源にあずかることができるように、霊的な世界にも尊重されなければならない原則があることを、あなたがたは忘れてしまっている。（188, 62）

40. わたしだけがあなたがたの救いであることを忘れるな。過去においても、現在においても、そして未来においても、わたしの律法はあなたがたの魂の道であり、導き手であったし、今もあり、これからもそうあり続けるのだ。

41. わたしの律法に依り頼む者たちは祝福される。彼らは分かれ道で決して迷うことはないからだ。彼らは約束の地に至り、勝利の歌を歌い上げるであろう。（225, 31-32）

42. 私は知っている。あなたがたの認識が深まるほど、私への愛も深まるのだ。

43. 私が「私を愛しなさい」と言うとき、私が何を伝えようとしているか、あなたがたは知っているか。真理を愛し、善を愛し、光を愛し、互いに愛し合い、真の命を愛しなさい。（297, 57-58）

44. 私は、あなたがたが、私があなたがたを愛するように互いに愛し合い、また自分自身をも愛することを望む。なぜなら、私はあなたがたに、特定の人々の指導と導きを託しただけでなく、あなたがたが私に対して負う第一の義務は、自分自身を大切にすることだからである。あなたがたは、自分たちが創造主の生きた姿であることを認識し、互いに愛し合うべきである。（133, 72）

45. 私が地上の民に託した使命は、偉大であり、また極めて繊

細なものである。それゆえ、私はあらゆる時代において彼らを訪れ、私の言葉によって彼らを鼓舞し、律法の内容をさらに少しばかり啓示してきたのである。

46. 愛と善と正義の律法こそが、私がいつの時代にも彼らに授けてきた霊的な遺産である。教訓から教訓へと、 、私は人類を導き、律法はただ一つの戒め、すなわち愛の戒めに集約できることを理解させた。 命の創造主である父を愛し、父の一部である隣人を愛し、主が創造し、定められたすべてのものを愛しなさい。

47. 愛は、知恵、偉大さ、力、高揚、そして生命の根源であり、源であり、種である。これこそが、創造主が魂のために示した真の道であり、それによって魂は段階から段階へ、住まいから住まいへと、私へのますます深まる親近感を感じることができるのである。

48. もし人類が、太古の昔から、偶像崇拝の儀式や宗教的狂信に陥る代わりに、霊的な愛を神への奉仕としていたならば、今日、人々の恐怖と悲惨によって涙の谷と化してしまったこの世界は、 魂が、この世の後の、魂が上昇の道において到達すべき霊的な住処へと至るために、功徳を積むことのできる平和の谷となっていたであろう。（184, 35-38）

第17章 - 神を崇拝する新しい方法

礼拝の形態の発展

1. 人類は、いかにゆっくりと神への崇拝の完成へと向かっていることか！

2. 私が新たな教訓を持ってあなた方の元を訪れるたびに、それはあなた方の発展段階から見てあまりにも先を行き過ぎているように思えるだろう。しかし、私があなた方に一つの時代を与えているのは、その時代が続く限り、あなた方がそれを理解し、あなた方の生活に取り入れることができるようにするためであることを理解してほしい。（99, 30-31）

3. あなたがたがエホバの祭壇に捧げた動物の生け贄は、主によって受け入れられた。しかし、それはあなたがたの霊を主のもとへ高めるための最善の方法ではなかった。そこで、私はイエスとしてあなたがたのところへ来て、「互いに愛し合いなさい」と教える神の戒めを授けたのである。

4. 今、私はあなたがたに告げる。私が「第二の時代」にイエスの御業を通して示した教えは、ある時は改変され、またある時は誤って解釈されてきた。それゆえ、私はあなたがたに予告した通り、私の真理を明らかにするために来たのである。当時

の私の犠牲は多くの動物の生け贄を不要とし、私はあなたがたに、より完全な神への礼拝を教えた。

5. この時代における私の新たな啓示は、象徴的な礼拝の形式は、それらが単に私の教えの象徴的な表現に過ぎないため、その意味を解き明かすことなく用いてはならないことを、人類に理解させることになるだろう。（74, 28）

6. 祈りは、私が人間に、私の神性との対話を行うために授けた霊的な手段である。それゆえ、祈りは初めから、あなた方の中で、渇望として、魂の必要として、試練の時における避難所として現れてきたのである。

7. 真の祈りを知らない者は、それがもたらす至福を知らず、その中に含まれる健康と恩恵の源を知らない。 その人は確かに、私に近づき、私と語り合い、自分の願いを私に捧げたいという衝動を感じる。しかし、霊性が欠けているため、ただ自分の思いを天に向けるという捧げ物はあまりにも貧弱に思え、すぐに何か物質的なものを探し求め、それを私に捧げようとする。なぜなら、そうすることで私への敬意をよりよく表せると考えているからだ。

8. このようにして、人々は偶像崇拝、狂信、儀式、そして外面的礼拝に堕し、それによって自らの魂を窒息させ、父に直接祈るというその祝福された自由を奪ってしまったのである。 痛みが極めて激しく、苦しみがついに人間の力の限界に達したときのみ、魂は解き放たれ、形式的なことを忘れ、その偶像を打ち倒して身を引き締め、心の底から叫ぶのだ。「わが父よ、わが神よ！」

9. ご覧なさい、この物質主義の時代に、人々は互いに戦争を繰り広げることに忙殺されているではないか。しかし、私はあなたに告げる。あそこ、あの戦火の只中にあって、多くの人々が祈りの神秘を発見したのである――それは心から湧き上がり、切実な助けを求める叫びとして、嘆きとして、懇願として、私のもとへ届く祈りである。

10. そして、彼らがその道中で願い求めた奇跡を体験したとき、彼らは、魂の言葉以外には、神と語り合う方法はないことを知ったのである。（261, 22-24, 27）

献身と信仰を伴わない見せかけの祈り

11. あらゆる信仰を持つわが子らよ、魂の最も高貴な感情を殺してはならない。また、それを外的な慣習や儀式で妥協させようともしてはならない。

12. 見よ。もし母親が、愛する幼い子供に物質的なものを何も与えることができないとしても、彼女は子供を胸に抱きしめ、全愛をもって祝福し、口づけを

浴びせ、慈愛に満ちた眼差しを向け、涙でその子を包むだろう。しかし、決して空虚な愛情表現で子供を欺こうとはしない。

13. どうして、私、神聖なる師が、あなたがたが、いかなる精神的価値も、いかなる真理も愛も欠いた儀式行為に満足することを是認しているなどと思うのか。あなたがたは、それによって自分の魂を欺こうとしているのだ。魂に、自分が養われたと信じ込ませようとしているが、実際には、真理に関してますます無知になっていくだけではないか。（21, 20-21）

14. 祈りは、神が人間に与えた恵みである。それは、人間が（霊的に）高みへと昇るための導き手として、身を守るための武器として、自らを教えるための書物として、そしてあらゆる病から癒やされ、回復するための薬として役立つものである。

15. 真の祈りは地上から消え去ってしまった。人々はもはや祈らない。そして、祈ろうとする時でさえ、魂をもってわたしに語りかけるのではなく、口先だけで、空虚な言葉や儀式、偽りの技を用いている。イエスが教えなかった形式や慣習を用いているのに、どうして人々は奇跡を目にするというのか。

16. 真の祈りが人々の間に戻る必要がある。そして、それを再び教えるのは、私である。（39, 12-14）

17. 祈りを教えよ。そして、人々に、創造主と対話すべきなのは彼らの精神であることを理解させよ。そうして、彼らの祈りがほとんど常に、肉体の叫びであり、恐怖の表れであり、信仰の欠如、反抗、あるいは私に対する不信の証であることに気づかせよ。

18. あなたがたの同胞に、私の霊を動かし、私の憐れみや慈悲を呼び起こすために、肉体を懲らしめたり、傷つけたりする必要はないことを理解させなさい。 肉体的苦しみや苦行を自らに課す者たちは、私にとって最も喜ばれる捧げ物が何であるかについて、ほんの少しの知識も持たず、また、私の愛や、あなたがたの父である私の慈悲について、何の想像も持っていないがゆえに、そうしているのだ。

19. あなたがたは、私があなたがたを憐れむために、あなたがたの目に涙があり、心に痛みが必要だとでも思っているのか。それは、私に冷酷さ、無情、無関心、利己心を帰するに等しい。あなたがたが愛する神に、そのような欠点があるなど想像できるだろうか。

20. あなたがたは、私を知るためにどれほど努力してこなかったことか！その理由は、あなたがたが、御霊と調和して考えるように、自分の知性を鍛えてこなかったからである。（278、17-20）

21. 今日、ひとときだけこの世を忘れ、霊において私のもとに来なさい。

22. 何世紀にもわたり、人々は正しい祈りの方法を誤ってきた。それゆえ、彼らは感覚によって祈り、霊によって祈らなかったため、力づけられることもなく、また、私の愛によって人生の道を照らされることもなかった。

23. 人間がこれほどまでに傾きやすい偶像崇拝は、まるで毒のようであり、内なる祈りの霊的な喜びを味わうことを妨げてきた。

24. 人々は、ただ祈り方を知らなかったというだけで、どれほどの苦難を背負ってきたことか！そして、これは当然のことである、弟子たちよ。なぜなら、（神の御心）として私の霊の中に存在する命の源に近づく手段を持たない人間に、人生の誘惑に打ち勝つための霊的な強さが、一体どれほどあるというのか。 人間は、深淵や闇の中で私を探し求めるが、立ち上がって、山頂や光の中で私を見出すこともできたはずである。

25. ああ、もしこの時代の人々が祈りの力を理解していたなら——彼らはどれほど多くの超人的な業を成し遂げただろうか！しかし、彼らは物質主義の時代を生きており、神聖なものでさえも、触れて見ることができるようにと、物質化しようとしているのだ。（282, 61-64）

真の祈り

26. 私は祈る者たちを祝福する。彼らの祈りが霊的であればあるほど、私が彼らに感じさせる平安はより大きなものとなる。

27. これは容易に理解できることである。なぜなら、祈るために、神聖な存在の臨在を感じるために、像や物体の前にひざまずくことに頼らなければならない者は、心の中で父の臨在という霊的な感覚を体験することはできないからである。

28. 「見ずして信じる者は幸いである」と、私はかつて言ったが、今、再びそう言う。なぜなら、この世の事柄に対して目を閉じる者は、霊的なものに対して目を開くからであり、私の霊的な臨在を信じる者は、それを感じ、それを喜びとしなければならないからである。

29. いつになったら、地上の者たちは、直接の祈り、あるいは——それは同じことだが——霊から霊への祈りによって、心の中でわたしを感じるという喜びを自らの霊から奪うことをやめるのだろうか。それは、わたしの光が人々の生活を照らし、彼らが真理を知り、自らの過ちを理解した時である。

30. 今こそ、祈り、瞑想するにふさわしい時である。しかし、それは狂信や偶像崇拝を排した祈りであり、私の神聖な御言葉について静かで深い思索を伴うものでなければならない。

31. あらゆる時とあらゆる場所が、祈りと瞑想に適している。私が教えの中で、それのために特別に定められた場所や瞬間があるなどと言ったことは一度もない。あなたがたが住むこの世界よりも、あなたがたの精神の方がはるかに偉大であるのに、一体何のために、祈るために特定の場所を探し求めるのか。私が無限であるのに、なぜ私を肖像画やそのような限られた場所に閉じ込めるのか。

32. 人々の魂の貧しさと、この世での不運の最も重大な原因は、彼らの不完全な祈りの在り方にある。それゆえ、私は、この認識が全人類に届くようにならなければならないと、あなた方に告げるのである。（279, 2-7）

33. あなたがたは常に同じ内面の集中をもって祈っているわけではない。それゆえ、常に同じ平安や同じ霊感を得ているわけではないのだ。

34. 霊感に満たされ、思考が高揚する時がある一方で、全く無関心なままでいる時もある。 そのような中で、どうして私のメッセージを常に同じように受け取れるというのか。祈りの瞬間に、精神と協力できるよう、心、そして肉体さえも鍛えなければならない。

35. 霊は常に私と結びつく用意がある。しかし、その瞬間に高揚し、地上の生活で霊を取り巻くあらゆるものから解放されるためには、肉体が良好な状態にあることが必要である。

36. 真の祈りに至るよう努めなさい。なぜなら、祈ることを知る者は、平和、健康、希望、霊的な力、そして永遠の命への鍵をその内に秘めているからである。

37. わたしの律法という目に見えない盾が、彼を迫害や危険から守ってくれるだろう。彼は口の中に目に見えない剣を携え、その道に立ちはだかるあらゆる敵を打ち倒すだろう。 灯台が、嵐の只中でその進路を照らし出すだろう。彼自身のためであれ、隣人のためであれ、必要な時にはいつでも、奇跡が絶えず彼の手の届くところにあるだろう。

38. 祈りなさい。この霊の高き賜物を行いなさい。なぜなら、この力が、未来の人々の、すなわち、すでに肉体にあって彼らの霊と私の霊との結びつきに達するであろう人々の、人生を動かすことになるからである。

39. 家長は、祈りを通じて、子供たちを導くための啓示を授かるだろう。

40. 病人は祈りによって健康を授かる。統治者たちは祈りの中で光を求めることによって、彼らの大きな問題を解決し、科学者もまた、祈りの賜物によって啓示を受けるであろう。（40, 40-47）

41. 弟子たちよ。「第二の時代」において、私の使徒たちは私

に、どのように祈るべきかを尋ねた。そこで私は、あなたがたが「主の祈り」と呼ぶ完全な祈りを彼らに教えた。

42. 今、私はあなたがたに言う。この祈り、その意味、その謙虚さ、そしてその信仰にインスピレーションを得て、あなたがたの霊が私の霊と対話するようにしなさい。そうすれば、もはや肉体の唇がそれらの祝福された言葉を語るのではなく、霊が、それ自身の言葉を用いて私に語りかけるようになるからである。（136, 64）

43. 単に唇だけで私を「父」と呼ぶことのないよう注意せよ。なぜなら、あなた方の多くは、これを機械的に行っているからだ。 あなたがたが「天にまします我らの父よ、御名が聖とされますように」と祈る時、その祈りが心の底から湧き上がり、一節一節を深く噛みしめるようにしなさい。そうしてこそ、あなたがたは霊感を受け、私と完全な交わりの中にいることができるのだ。

44. 私は、子供を真に父に近づける、力強く完全な祈りをあなた方に教えた。 もしあなたがたが、「父」という言葉を、熱意と畏敬の念を込めて、高揚と愛を込めて、信仰と希望を込めて口にすれば、距離は縮まり、空間は消え去る。なぜなら、この霊と霊との対話の一瞬において、神はあなたがたから遠く離れておられるわけでもなく、あなたがたが神から遠く離れているわけでもないからだ。 そのように祈りなさい。そうすれば、あなたがたは心の中で、私の愛の恵みを両手いっぱいに受け取ることになるでしょう。（166, 52-53）

完全な祈りの四つの側面

45. 魂の完全性を獲得するために、奮闘し、奮闘しなさい。私は、この目標を達成するための道をあなた方に示した。私は、人生の道において陰険な攻撃からあなた方を守るために、あらゆる物質的な武器よりも優れた「武器」として、祈りをあなた方に託した。しかし、あなたがたが私の律法を遵守するとき、最高の武器を手にすることになる。

46. 祈りとは何から成るのか。祈りとは、願い、執り成し、礼拝、そして霊的な黙想である。そのすべての要素は必要不可欠であり、一つは他から生じるものである。まことに、わたしはあなたがたに告げる。願いとは、人がわたしに、自分の望みを叶え、渇望を満たしてほしいと求めること、すなわち、その人が自分の人生において最も重要かつ有益であると考えるものを求めることである。 そしてまことに、わが子らよ、父は願いを聞き入れ、それがその者の益となる限り、各人に最も必要なものを与える。しかし、あなたがたの魂の救いに反するものを願

うことには、くれぐれも気をつけなさい。なぜなら、物質的な富や肉体的快楽、はかない権力だけを願う者は、自らの魂を鎖で縛ることを願っているからである。

47. 肉体の快楽は、ただ苦しみをもたらすだけである――この世においてのみならず、霊界へと移行した後も同様である。なぜなら、その肉体的欲望の影響は、そこへさえも及ぶからである。そして、魂はそれらから自らを解き放つことができないため、引き続きそれらの渇望に苛まれ、転生して物質的な生活を続けるために、何度も何度も地上に戻りたがるようになるのである。 それゆえ、わが子らよ、あなたがたの魂の益となるために真に必要なものだけを願いなさい。

48. 祈りの第二の形態である執り成しは、隣人への愛、すなわち、私がこの世に来た時に師としてあなたがたに教えたその愛から生じるものである。近しい兄弟姉妹のため、遠く離れた兄弟姉妹のため、また、様々な国々で戦争の被害に遭い、この世の儚い支配者たちの暴政に耐えている人々のために祈りなさい。

49. わが子らよ、備えよ。同胞のために祈れ。しかし、この執り成しにおいても、祈ることを理解しなければならない。なぜなら、重要なのは魂だからである。兄弟や両親、あるいは子供たちが病気であるならば、彼らのために祈れ。しかし、それが魂にとって必要なことではないならば、彼らがこの世にとどまることを強要してはならない。むしろ、その魂が解放され、苦しみの中で清められ、その痛みが魂の向上を促すよう祈りなさい。それゆえ、師はすでに「第二の時代」において、あなた方にこう教えるよう導かれたのである。「父よ、御心が行われますように」。なぜなら、父は、どの子供よりも、その魂が何を必要としているかをよく知っているからである。

50. 祈りの第三の形態、すなわち神聖な霊への崇拝とは、あらゆる完全なものへの崇拝を意味する。なぜなら、この種の祈りを通じて、あなたがたは、全宇宙を包み込む完全性、すなわち愛と一つになることができるからである。 礼拝において、あなたがたは皆が到達すべき完全性の境地を見出すことができ、その礼拝はさらに霊的黙想へと導く。この霊的黙想は、礼拝と相まって、永遠の命の源である神聖な御霊との合一へとあなたを導く。その源こそが、父の御国に至るための力を、日々あなたに与えてくれるのである。

51. このように祈るべきである。願いの祈りから始まり、霊的黙想に至るまで。これこそが、あなた方に力を与えるであろう。

52. そして、十分に準備が整ったら、自分自身の為だけに戦うのではなく、隣人がこの道を歩むのを助ける為にも戦わなければならない。なぜなら、あなたがたは自分一人だけで魂の救いを得ることはできず、全人類の救いを得るために奮闘しなければならないからである。(358, 10-17)

言葉のない自発的な心の祈り

53. 人々よ、ここに聖霊の声がある。それは、あなたがたの知性を通じて神が示す霊的な啓示であり、新たな律法や教えを明らかにするものではなく、父と交わり、父を受け入れ、父を崇めるための、より進歩的で、より霊的かつ完全な新たな方法を示すものである。（293, 66）

54. 私の言葉を聞き、その偉大な解釈者となった者はどれほど多いことか。それにもかかわらず、彼らは私の教えの最も優れた実践的な弟子ではなく、「互いに愛し合いなさい」と告げる神の戒めを果たしていない。

55. それに対して、私の教えのほんのわずかでも実践する者が、いかに容易に変容するかをよく見てみよ。その例を挙げようか。

56. ある人がいた。彼は生涯を通じて、言葉による祈りによって、私を愛していると私に告げていた。それは他人が作り上げた祈りであり、彼はその言葉の意味さえ知らなかったため、理解すらできていなかった。 しかし、やがて彼は、真の祈り方とはどのようなものかを悟った。そして、古い習慣を脇に置き、魂の最も奥底に意識を集中させ、思いを神へと向けると、初めて神の臨在を感じたのである。

57. 彼は主に対して何を言えばよいのか分からず、胸が震え始め、目から涙がこぼれ落ちた。彼の心にはただ一つの言葉だけが浮かんだ。「父よ、私はあなたと話す方法さえ知らないのに、あなたに何と言えばよいのでしょうか？」

58. しかし、その涙、そのすすり泣き、その内なる歓喜、そして彼の戸惑いさえもが、父に向かって、あなたがたが人間の言葉や書物の中で決して見つけることのできないほど美しい言葉で語りかけていた。

59. 主に向かって霊的に祈り始める人間のそのたどたどしい言葉は、幼い子供たちの最初の言葉に似ている。それは、生き生きと立ち上がり始めた存在の最初の表現を耳にする親たちにとって、喜びと歓喜の源となるものである。（281, 22-24）

60. より高度に発達した魂は、人間の言葉が霊的な思考の表現を貧しくし、矮小化することを知っている。それゆえ、その魂は物質的な唇を沈黙させ、高みへと舞い上がり、神のみが知る言葉で、自らの存在の最も奥底に秘めてきた神秘を語り出すのである。（11, 69）

61. あなたがたが父を求めるために思いを天へと向けるのを見る時、私の霊はどれほど喜びを感じるか。私はあなたがたに私の臨在を感じさせ、平安で満たしてあげる。

62. わたしを求め、わたしに語りかけなさい。自分の願いを表現するには、自分の思いがあまりにも不器用だとしても、気にすることはない。わたしはそれを理解するだろう。父に話すような信頼をもって、わたしに語りかけなさい。親友にするように、あなたの嘆きをわたしに打ち明けなさい。 あなたがたが知らないこと、未知のことは何でも私に尋ねなさい。そうすれば、私は師の言葉をもってあなたがたに語りかける。しかし、あなたがたの霊が私に向かって高まるその祝福された瞬間に、父が与える光、力、祝福、そして平安を受け取れるよう、祈りなさい。（36, 15）

63. 静寂の中で、あなたの苦しみを私に語り、あなたの切なる願いを私に打ち明けてください。私はすべてを知っていますが、あなたが自分の祈りを徐々に形作れるようになることを望んでいます。そうして、あなたの霊が父と完全に対話できるようになるまでです。（110, 31）

64. 祈りは、必要に応じて長くも短くもなる。もし望むなら、体が疲れることなく、また他の義務が注意を必要としない限り、その霊的な至福の中に何時間も過ごすことができる。また、突然襲ってきた試練に直面している時には、たった一秒に留まるほど短いものにもなり得る。

65. あなたがたの知性が祈りを形づけようとする言葉が、わたしのもとへ届くのではありません。あなたがたがわたしの前に示す愛、信仰、あるいは切実な願いこそが、わたしのもとへ届くのです。それゆえ、あなたがたに告げます。あなたがたが慣れているように、思考や文章、あるいは考えを組み立てる時間がないため、祈りがたった一秒しか続かないような場合もあるでしょう。

66. どこであれ、私を呼び求めることができる。私にとって場所は重要ではない。私が求めているのは、あなた方の精神だからである。（40, 36-38）

67. 「第二の時代」に、ある女性がイエスに、エルサレムこそが神を礼拝すべき場所であるかと尋ねたとき、師は彼女にこう答えられた。「エルサレムも、他のいかなる場所も、神を礼拝するのにふさわしい場所ではなくなる時が来る。なぜなら、神は霊と真理によって、すなわち霊から霊へと礼拝されるからである。」

68. 私の弟子たちが、祈りを教えてほしいと願ったとき、私は彼らに、あなたがたが「主の祈り」と呼ぶ祈りを手本として示した。それによって、真の完全な祈りとは、イエスの祈りのよ

うに、心から自発的に湧き上がり、父のもとへと届くものであることを彼らに理解させたのである。 そこには、従順、謙遜、罪の告白、感謝、信仰、希望、そして崇敬が含まれているべきである。（162, 23-24）

日々の祈り

69. 愛する弟子たちよ。毎日、霊的な祈りを実践し、自分を完成させようとする善意をそのすべてに注ぎなさい。

70. よく考えてみなさい。あなたがたが師と親密な交わりを持ち、その瞬間に限りない平安を体験できることに加え、それはあなたがたにとって、私の神聖な霊感を受け取る最良の機会である。その霊感の中に、あなたがたが理解できなかったことや誤解していたことすべてに対する説明を見出すだろう。 あらゆる危険を未然に防ぎ、問題を解決し、不明点を解消する方法を見出すだろう。その祝福された霊的な対話の時間において、あなた方のすべての感覚は明晰になり、善を行うことへの準備と意欲が湧いてくるだろう。（308, 1）

71. たとえ5分もかからないほど短いものであっても、祈りを怠ってはならない。しかし、その際には良心の光をもって自らを厳しく吟味し、自らの行いを常に注視し、どこを改善すべきかを知るようにせよ。

72. 祈りの中で高揚し、時間の概念を失うことがあれば、それは霊性化のしるしである。なぜなら、たとえほんの一瞬であっても、あなたがたは時間から抜け出すことができたからである。その時間は、物質主義の奴隷たちが、ただ快楽や金銭の増大のためにのみ渇望する時間なのだ。

73. 日々自らを省みる者は、その思考、生活、言葉、そして感情の在り方を改善するだろう。（12, 30-32）

74. 私は、祈りによって知恵が得られることを教えた。しかし、だからといって、祈りを長くすべきだと言っているのではない。 私はあなた方に5分間の祈りを求めたが、それは、その瞬間に真に父に身を委ねられるよう、短く祈るべきだという意味である。しかし、残りの時間は、隣人に対する精神的・物質的な義務に捧げるべきである。（78, 52）

75. 今、私はあなたがたに、日々の行いのすべてが高潔な感情に導かれ、試練や困難によって妨げられたり、後退したりすることがないようにするための、ある種の準備の仕方を教える。新しい一日の光に目を覚ますとき、祈り、思いによってわたしに近づき、わたしの光に導かれてその日の計画を立て、そして人生の闘いに立ち向かいなさい。その際、強くあり、一瞬たり

とも従順と信仰に背かないことを心に決めなさい。
76. まことに、わたしはあなたがたに告げる。まもなく、あなたがたの不屈の精神と、その行いの成果に、あなたがた自身も驚嘆することになるだろう。（262, 7-8）

休息の日、すなわち自己省察の日

77. すでに「最初の時代」において、わたしはあなたがたに、第七の日をわたしに捧げるよう教えた。人間は六日間、世俗的な義務の遂行に専念していたのだから、少なくとも一日を主への奉仕に捧げることは、当然のことであった。 私は、人間に最初の日を私に捧げるよう求めたのではなく、最後の日を捧げるよう求めた。それは、その日において労苦から休息し、霊的な黙想に専念し、魂が父に近づき、祈りを通して父と語り合う機会を与えるためである。
78. 安息日が設けられたのは、人間が、たとえ短時間であっても、この世の厳しい生存競争を忘れ、良心が自分に語りかけ、律法を思い出させ、自らを省み、過ちを悔い改め、心の中で悔い改めの高潔な決意を固める機会を与えるためであった。
79. 安息日は、かつて休息と祈り、そして律法の研究に捧げられていた日であった。しかし、人々は伝統に従うあまり、同胞に対する兄弟愛や、隣人に対して負うべき霊的な義務を忘れてしまった。
80. 時は流れ、人類は霊的に発展し、キリストは、安息の日であっても、積極的な隣人愛を実践し、あらゆる善行を行うべきであることを、あなたがたに教えるために来られた。
81. イエスは、一日を内省と肉体の休息に捧げることはあっても、霊の使命を果たすために、特定の日や時刻が予め定められているわけではないことを、あなたがたに理解してほしいと伝えたかったのだ。
82. 師は極めて明瞭に語られたにもかかわらず、人々はそれから逸れ、各自が自分にとって最も都合の良い日を選んだ。それゆえ、ある者たちは安息日として安息に捧げられた日を維持し続けた一方で、他の者たちは礼拝を行うために日曜日を選んだ。
83. 今日、私は再びあなた方に語りかけ、私の教えはあなた方に新たな気づきをもたらす。あなた方は多くの経験を経て、 に成長してきた。今日、地上の労苦からの休息にどの日を捧げるかは重要ではない。重要なのは、あなた方が、私が示した道を毎日歩むべきであることを知っているということである。 祈りのために定められた時刻などないことを理解しなさい。なぜなら、一日のどの時間帯も、祈り、そして同胞の幸福のために私

の教えを実践するのにふさわしいからである。(166, 31-35)

求めよ、そうすれば与えられる

84. あなたがたは皆、心に傷を負っている。 私のように、誰があなた方の内面に深く入り込むことができようか。私は、あなた方の苦しみを、悲しみを、そして、この世に蔓延する大きな不正と恩知らずさに対する落胆を知っている。私は、長い間この地上で生き、苦労し、その存在が重荷となっている人々の疲れを知っている。 この人生で孤独に置かれた人々の心の空虚さも、私は知っている。私はあなたがたすべてにこう言う。「求めよ、そうすれば与えられる」。なぜなら、私はあなたがたが必要とするもの――それが伴侶であれ、心の平安であれ、癒やしであれ、使命であれ、光であれ――をあなたがたに与えるために来たのだから。(262, 72)

85. 苦難を恐れるな。それは一時的なものに過ぎない。その中においても祈り、ヨブの忍耐を模範とせよ。豊かさは再び戻ってくる。その時、あなたがたは私に感謝する言葉が見つからないほどになるだろう。

86. もし病に苛まれることがあっても、おお、祝福された病める者たちよ、絶望してはならない。あなたの霊は病んでいないのだ。祈りをもってわたしのもとへ立ち上がれ。そうすれば、あなたの信仰と霊性によって、身体の健康は取り戻されるだろう。わたしが教えた通り、霊的に祈りなさい。(81, 43-44)

87. 試練の瞬間に、短くとも純粋で誠実な祈りを捧げなさい。そうすれば、慰めを感じるだろう。そして、あなたがたが主と調和するに至ったとき、私はあなたがたにこう言えるだろう。「私の意志はあなたがたの意志であり、あなたがたの意志は私の意志である」と。(35, 7)

88. 祈りなさい。しかし、その祈りは日々の計画や行いに基づいていなければならない。それこそが、あなた方にとって最良の祈りとなる。 しかし、もし私に向けて願いを込めた思いを捧げたいと望むなら、ただこう言ってくれ。「父よ、あなたの御心が私の上に成りますように。」そうすれば、あなたがたが理解し、期待しうる以上のものを求めることになるだろう。そして、この単純な言葉、この思いこそが、かつてあなたがたが私に求めた「主の祈り」を、さらに簡潔なものにするだろう。

89. これで、あなたがたは、あらゆるものを願い求め、あなたがたのために最もよく語ってくれる祈りを得たことになる。しかし、それを口にするのではなく、心で感じなさい。口にすることは感じることでないからであり、もしあなたがたがそれを感じているなら、私にそれを言

う必要はないのだ。 私は御霊の声を聞き分け、その言葉を理解している。このことを知る以上に、あなた方にとって大きな喜びがあるだろうか。それとも、、私が何をすべきかをあなた方に言ってもらうことに頼っていると思っているのか。（247, 52-54）

90. わたしはあなたがたに、他者のために祈り、願い求めるよう教えてきた。しかし、あなたがたが自分のために願うとき、わたしもそれを聞いてはいる。わたしはその祈りを受け入れる。だが、あなたがたがまだ未熟であったために、あなたがたの願い通りに与えていた時代は終わった、と告げておく。 今や、あなたがたが弟子として振る舞い、祈りの際に自分の精神と心を私に捧げつつ、私がその中を読み取り、私の御心を行うことを許すこと、それが私の御心である。（296, 69）

91. もしあなたがたが私に問いかけたり、願い事をしたりするときは、自分の問題を私に明確に説明しようと無理に努力したり、頭の中で最も適切な言葉を探そうとしたりしないでください。 その瞬間に、あなたがたの精神が世から離れ、心と魂が清らかであり、それによって私の霊感を受け取れるようになれば、それで私には十分である。もしあなたがたが、自分の内なる私の存在を感じることができないのなら、私に素晴らしい言葉を並べたところで、何の益があるだろうか。私はすべてを知っている。私があなたがたを理解するために、あなたがたが私に何かを説明する必要はないのだ。（286, 9-10）

92. もしあなたがたが私の教えを理解することができれば、それはあなたがたに多くの満足を与え、向上するための多くの機会をもたらすでしょう。何か決断を下す前に祈ることを学びなさい。なぜなら、祈りとは、人生の闘いに打ち勝つための光と力を父に求める、最も完全な方法だからです。

93. 祈る時、あなたの知性にはまもなく啓示がもたらされ、それによって善と悪、すべきこととすべきでないことをはっきりと区別できるようになる。そして、これこそが、あなたが内面において、御霊の声を聞く準備ができたという最も明白な証拠となる。

94. 忍耐をもって苦難に耐えなさい。もし試練の意味を理解できないならば、祈りなさい。そうすれば、あなたがたが心の中でそれを受け入れることができるよう、私はその意味を明らかにしてあげる。（333、61、62、75）

95. あなたがたの唇や思いが、私に「主よ、私を憐れんでください。私の苦しみに同情してください。主よ、あなたの赦しを私から奪わないでください」と言うたびに、あなたがたは無知

であり、混乱しており、私をほとんど知らないことを証明しているのだ。

96. 私に、あなたがたの痛みに同情せよと言うのか？私に、私の子供たちに憐れみを持てと求めるのか？私に、あなたがたの罪を赦せと懇願するのか――愛であり、恵みであり、慈悲であり、赦しであり、憐れみそのものである私に？

97. あなたがたが、地上で心を硬くしている者たちを動かそうとし、隣人への思いやりの欠片もない者たちに、涙と懇願をもって憐れみを呼び起こそうとするのは良いことだ。 しかし、愛によってあなたがたを創造し、永遠に愛してくださる方を動かすために、そのような言葉や考えを用いてはならない。（336, 41-43）

98. 地上における人間の生活に関わるあらゆる事柄に関して、父があなた方に与えてくださった大きな恵みに満足しなさい。あなた方の魂と肉体を破滅に導きかねないものを求めないでください。私は、あなたがたが私に求めることのできる以上のものを与えることができます。 しかし、あなたがたの人生の道において、本当に何が欠けているかを知っているのは、私である。私はあなたがたに言った。「もしあなたがたが私の律法を全うすることを理解すれば、私のすべての栄光の中にある私を見るだろう。」（337, 21）

執り成しの祝福

99. 言葉だけで祈ることに慣れてはならない。霊をもって祈れ。また、私はあなたに告げる。祈りをもって祝福し、光の思いを隣人に送りなさい。自分のために何も求めないでほしい。覚えておきなさい。私のことに心を向ける者は、常に私を守護者として持つことになるのだ。

100. あなたがたが愛をもって蒔く種は、何倍にもなって返ってくるであろう。（21, 3-4）

101. 辛い試練に直面している時だけでなく、平穏な時にも祈りなさい。そうすれば、あなたの心と思いは他の人々のために尽くすことができるようになるからだ。 また、あなたに善を行ってくれた者や、あなたに害を与えなかった者のためだけに祈ってはならない。それは確かに称賛に値することではあるが、何らかの形であなたに害を与えた者たちのために執り成しをすることほど、大きな功徳にはならないからである。（35, 8）

102. 今、私はあなた方に何を教えているのか。 心と精神をもって、あらゆるもの、あらゆる人を祝福することである。なぜなら、そのように祝福する者は、御父がすべての者にその温もりを注がれるように、御父に似ているからである。それゆえ、私はあなたがたに言う。精神をもって、思いをもって、心をもって祝福することを学べ。そう

すれば、あなたがたがそれを送る相手には、たとえその相手がどれほど遠く離れていようとも、あなたがたの平安、力、そして心の温もりが届くであろう。

103. もしすべての人々が、互いに面識もなく、一度も会ったことがなくても、互いに祝福し合うとしたら、何が起こるだろうか。地上には完全な平和が支配し、戦争など想像もできないこととなるだろう！

104. この奇跡を現実のものとするために、あなたがたは徳を堅持することで、自らの魂を高めなければならない。これを不可能だとでも思うのか？（142, 31）

105. 求めよ、そうすれば与えられる。あなたがたが同胞の幸福のために切望するすべてのもの――それを私に求めなさい。求めよ、その願いを苦しむ者の願いと結びつけなさい。そうすれば、私はあなたがたが求めるものを与えよう。（137, 54）

祈りの必要性

106. 「目を覚まし、祈りなさい」と、私は繰り返し言っている。しかし、私はあなたがたに、この慈愛に満ちた助言に慣れることを望んでいるのではなく、それについて深く考え、それに従って行動することを望んでいる。

107. 私があなたがたに祈るよう命じるのは、祈らない者は、不必要な、物質的な、そして時には無意味な思考にふけり、それによって、自覚することなく、兄弟殺しの戦争を助長し、養ってしまうからである。 しかし、あなたがたが祈るとき、その思考はあたかも光の剣であるかのように、今日多くの存在を囚えている闇のベールや誘惑の罠を切り裂く。それは周囲を霊的な力で満たし、悪の勢力に立ち向かうのである。（9, 25-26）

108. 人々は常に地上の栄華に過度に心を奪われてきたため、祈りや、この生を超えた世界に対する霊的な思索が持つ意義について考える余裕がなく、その結果、自らの本質を見出すことができなかった。 祈る者は父と語り合い、問い求めれば即座に答えを得る。人々が霊的な事柄について無知であるのは、祈りの欠如によるものである。（106, 33）

109. あなたがたは、魂にふさわしいものを正しく与え、世界にふさわしいものを与えることを知る時代へと向かっている。それは真の祈りの時代であり、狂信を排した神への崇拝の時代となる。そこでは、あらゆる行いの前に祈り、託されたものを守ることを知るようになる。

110. もし人が、自分の意志を通す代わりに、まず祈りの中で父に尋ねたなら、どうして過ちを犯すことができようか。祈る者は神とつながりを持って生き、父から受ける恵みの価値を知り、同時に、自ら経験する試練

の意味や目的を理解するのだ。（174, 2 3）

祈りの生活がもたらす恵み

111. 私はいつの時代も、あなた方に「祈りなさい」と語ってきた。今日、私はあなた方に、祈りによって知恵を得ることができると告げる。もしすべての人々が祈るならば、彼らは私が示した光の道から決して迷い出ることなどないだろう。祈りによって病人は癒され、不信仰者はいなくなり、魂には平和が戻ってくるだろう。

112. 人がわたしの恵みを拒んだとして、どうして幸せになれるというのか。愛や慈悲、柔和さは、人間生活の本質ではないとでも思っているのか。（69, 7-8）

113. 愛を宿さない言葉には、命も力も宿らないことを知れ。あなたがたは、いかにして愛し始めればよいか、また、心の中にこの感情を呼び覚ますために何をすべきか、と私に問う。それに対し、私はこう告げる。 、あなたがたがまず始めなければならないのは、正しく祈ることである。それはあなたがたを師に近づけるだろう。そして、その師とは、私である。

114. 祈りの中で、あなたは慰め、霊感、そして力を見出すでしょう。それは、証人も仲介者もなしに、神と親しく語り合うことができるという、この上ない満足をあなたに与えるでしょう。神とあなたの霊は、この親密さ、霊的な対話、そして祝福に満ちた甘い瞬間に一つとなるのです。（166, 43-44）

115. 親しい人、慈愛に満ちた友を必要とする時はいつでも、私のもとに来なさい。そして、あなたがたの心に抱えているかもしれない苦しみを私に委ねなさい。そうすれば、私は最善の道、すなわちあなたがたが求めている解決策を助言してあげる。

116. もしあなたの魂が重荷に押しつぶされているなら、それはあなたが罪を犯したからである。私はあなたを受け入れ、私の裁きにおいて寛大であり、あなたの改心の決意を強め、失われた力を取り戻してあげる。

117. わたしの教えに従うことだけが、あなた方を恵みの中に保ち、魂と身体の健康を維持する。あなた方が得る経験は、魂の中に少しずつ蓄積される光となるだろう。（262, 20-21）

118. 警戒して生きることを心得ている魂は、主が彼女のために定めた道から決して逸れることはなく、より高い発展に達するまで、その遺産と賜物を活用することができる。

119. この存在は、目覚めて生き、決して物質に支配されることがないため、試練の中で前進しなければならない。目覚め、祈る者は、人生の危機から常に勝利者として抜け出し、確かな

足取りで人生の道を歩んでいく。

120. 祈りと覚醒を忘れる者の振る舞いは、これとはいかに異なることか！彼は、私が人間の中に置いた最良の武器、すなわち信仰、愛、そして知識の光によって自らを守ることを、自ら進んで放棄している。彼は、直感、良心、そして夢を通して語りかける内なる声を聞き取ることができない者である。 しかし、その人の心と理性はその言葉を理解せず、自らの精神からのメッセージを信じようとしない。（278, 2-3）

121. 祈りとは、あなたがたの疑問や悩み、そして光を求める願いを携えて、わたしのもとへ至るために、あなたがたの霊に啓示された手段である。この対話を通じて、あなたがたは疑いを晴らし、いかなる神秘をも隠しているベールを引き裂くことができる。

122. 祈りは、霊から霊への対話の始まりであり、それは来るべき時代に花開き、この人類の中で実を結ぶであろう。

123. 今日、私は、私に耳を傾けるこの民に、これらすべてを啓示した。それは、彼らが霊性化の時代の先駆者となるためである。（276、18-19）

祈りの力

124. あなたがたのうちの誰かが祈るとき、その人は自分の思考によって霊的な世界で何を成し遂げているのか自覚していない。それゆえ、あなたがたは、隣人のために――戦争の中で互いに滅ぼし合っている諸民族のために――祈るとき、その瞬間、あなたがたの霊はそれ自体、悪に対する思考の戦いを繰り広げており、平和、 理性、正義、そして彼らのための善への渇望であるその剣が、憎しみ、復讐、傲慢という武器に立ち向かっているのだ。

125. 今、人々が祈りの力を自覚する時が来た。祈りが真に力と光を持つためには、あなたがたが愛をもってそれをわたしへと捧げることが必要である。（139, 7-8）

126. 思考力と精神が祈りの中で一つになる時、人間の中に、あらゆる人間の力を凌駕する力が生まれる。

127. 祈りによって、弱き者は強められ、臆病な者は勇気に満たされ、無知な者は啓発され、内気な者は気兼ねなく振る舞えるようになる。

128. 精神が理性と調和して働き、真の祈りに至ることができれば、それは目に見えない戦士となり、一時的に自らの本質から距離を置き、別の場所へと移り、肉体の影響から解放され、善を行うこと、 悪や危険を退け、困窮する者たちに一筋の光、一滴の香油、あるいは一息の安らぎをもたらすことに専心する。

129. 私が語るこれらすべてに基づき、この人類を覆っている混沌の中で、あなたがたが精神と理性をもってどれほど多くのことを成し遂げ得るかを理解しなさい。 あなたがたは、相反する思考や思想が渦巻き、情熱が荒れ狂い、憎しみの感情が衝突し、思考が物質主義によって混乱し、魂が闇に包まれている世界にいるのだ。

130. 祈りによって、思考と精神をもって光の領域、すなわち平和の領域へと昇ることを学んだ者だけが、あらゆる人間の情熱が映し出される闘争の世界に、打ち負かされることなく足を踏み入れることができ、それどころか、霊の光を必要とする者たちのために有益なものを残すことができるのである。（288, 18-22）

131. 祈ることを学べ。祈りによって、多くの善を行うことができるだけでなく、陰険な攻撃から身を守ることもできるからだ。 祈りは盾であり武器である。敵がいるならば、祈りによって身を守れ。しかし、この武器は誰をも傷つけたり害したりしてはならないことを知れ。なぜなら、その唯一の役割は、闇に光をもたらすことにあるからである。（280, 56）

132. 自然の力は、人間に対して解き放たれている。 恐れることはない。なぜなら、あなたがたには悪を打ち破り、同胞を守るための権威を私が与えたことを知っているからだ。あなたがたは、あの破壊の な要素たちに立ち止まるよう命じることができる。そしてそれらは従うだろう。祈り続け、目を覚まし続けていれば、あなたがたは奇跡を起こし、世界を驚嘆させることができるだろう。

133. 心から祈り、わたしの霊と交わりなさい。そのために特定の場所を探す必要はない。木の下でも、道中でも、山の頂上でも、あるいは寝床の隅でも祈りなさい。そうすれば、わたしは降りてきて、あなたがたに語りかけ、啓示を与え、力を与えるであろう。（250, 24-25）

134. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたがすでに、霊において、思考において、意志において一つとなっていたなら、あなたがたの祈りだけで、互いに襲い掛かろうとする時を待ち構えている諸国を食い止めるのに十分であろう。 あなたがたは敵意を取り除き、同胞たちのあらゆる邪悪な計画に対する障壁となり、権力者を打ち負かす目に見えない剣のようになり、弱者を守る強固な盾となるだろう。

135. 人類は、この高次の力の明白な証拠を前にして、一瞬立ち止まり、自省するだろう。そして、その自省によって、そうでなければ自然とその要素から受けるであろう多くの激しい打撃や災難を免れることになるだろう。（288, 27）

136. もしあなたがたが、祈りの力について大きな信仰と、それ以上の知識を持っていたなら——その思考力によって、どれほどの慈悲の行いを成し遂げることになるだろうか。しかし、あなたがたは祈りに、それが本来持つすべての力を認めてこなかった。それゆえ、一瞬の真摯で真実な祈りによって、あなたがたが何を回避しているのか、しばしば気づかないのである。

137. あなた方の世界において、最も非人道的な戦争が勃発するのを、何かより高き力が阻止していることに気づかないのか。 この奇跡には、精神をもって闇の勢力と戦い、戦争の企てに抗う、数百万の男女や子供たちの祈りが影響を与えていることを、理解できないのか。祈り続け、見張り続けよ。しかし、その活動には、あなたがたが持ちうる限りの信仰をすべて注ぎ込め。

138. 人々よ、祈りなさい。そして、戦争、苦痛、そして悲惨の上に、あなたがたの思考による平和の外套を広げなさい。それによってあなたがたは盾を形成し、その保護の下で、あなたがたの同胞は啓示と避難所を見出すでしょう。（323, 24-26）

神と隣人への愛、すなわち神への崇拝

139. わが新しい弟子たちよ、あなたがたの主への崇拝と献身は、あなたがたの父のあなたがたへの愛が絶えることなく続くように、特定の時や日を待って捧げるのではなく、絶え間ないものでなければならないことを知れ。 しかし、もしあなたがたが、過激主義に陥ることなく、日々、わたしの愛の業をどのように思い起こすべきかを知りたいと望むなら、わたしはこう告げよう。互いに愛し合うことによって、あなたがたの人生そのものが、万物を創造された方への絶え間ない賛美となるべきである。

140. そのように行動しなさい。そうすれば、あなたがたが謙虚に私に願うこと、すなわち、あなたがたの過ちが赦されることを、私は与えてあげよう。私はあなたがたを慰め、安らぎを与える。しかし、こう言っておく。 もしあなたがたが自分の過ちに気づき、良心がそれを責めるならば、祈り、過ちを正し、再び同じ罪を犯さないよう、また私に赦しを請うことを繰り返さなくて済むよう、力を蓄えなさい。私の言葉は、あなたがたが上昇し、光と霊性への道を開くために教えるものである。（49, 32-33）

141. 「私は渇いている」と、私は、私の言葉を理解せず、私の死の苦しみを見て喜んでいたあの群衆に言った。今日、私の痛みを自覚することなく、単なる群衆ではなく、全世界が私の

霊を傷つけているのを見て、私は一体何と言えようか。

142. 私の渇きは限りなく、計り知れないほど大きく、ただあなたがたの愛だけがそれを満たすことができる。なぜあなたがたは、愛の代わりに、表面的な礼拝を私に捧げるのか。私が水を求めているのに、あなたがたは私に胆汁と酢を差し出していることを知らないのか。（94, 74-75）

143. まことに、あなたがたに告げる。多くの苦しみを味わい、しばしば私を傷つけた者たちこそ、私を最も熱烈に愛するようになる。彼らの心からは、私の神性への捧げ物が絶えず流れ出るだろう。 それは物質的な贈り物でも、詩篇でも、地上の祭壇でもない。彼らは、兄弟たちに対して行う愛の行いこそが、私にとって最も喜ばれる捧げ物であり、崇拝であることを知っている。（82, 5）

144. 日々、あなたがたの霊的な祈りは、あなたがたの地上の性質には理解できない言葉で、私のもとへ届いている。それは、あなたがたの唇から発せられた言葉でも、あなたがたの知性によって形成された概念でもないからだ。霊の祈りは、人間の能力や感覚を超えたほどに深遠である。

145. その祈りの中で、霊は高次の霊たちが住む光と平和の領域へと至り、そこでその本質を十分に享受し、その後、その儚い肉体へと戻って、そこに力を注ぎ込むのである。（256, 63-64）

146. 人々よ。あなたがたが祈ることを理解すべき時が、あなたがたに訪れた。今日、私はあなたがたに、地にひれ伏せとは言わない。唇で祈ることを教えたり、美しい祈りの言葉で私を呼び求めたりすることも教えない。 今日、私はあなたがたにこう言う。心の中で私に向き合い、魂を高めなさい。そうすれば、私は常に降りてきて、私の存在をあなたがたに感じさせてあげよう。もしあなたがたが神と語り合う術を知らなくても、あなたがたの悔い改め、思い、痛み、そして愛があれば、それで私には十分である。

147. これこそが、私が聞き取り、理解する言葉、すなわち言葉なき真実と誠実さの言葉である。これこそが、私がこの第三の時代にあなたがたに教えた祈りである。

148. あなたがたが善行をなすたびに、父がその時、あなたがたに非常に近くおられるゆえに、あなたがたは私の平安、安らぎ、そして希望を感じたはずである。（358, 53-55）

149. 私は、人間の虚栄や見せびらかしといったあらゆるものを拒絶する。なぜなら、私の霊に届くのは、霊的なもの、高貴で寛大なもの、清く永遠なものだけだからである。 私がサマリアの女に言ったことを思い出し

てください。「神は霊であり、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」無限なるもの、清らかなものの中に私を求めなさい。そうすれば、そこで私を見つけるでしょう。

150. なぜ、私があなたたちのために創造したものを、私に捧げるのか。なぜ、あなたたちが作ったものではない花を、私に贈るのか。 それに対して、もしあなたがたが、愛、慈悲、赦し、正義、隣人への助けといった行いを私に捧げるならば、その捧げ物は確かに霊的なものとなり、子供たちが地から主へと送る愛撫や口づけのように、父のもとへと昇っていくであろう。（36, 26, 29）

151. また、あなたがたの神への崇拝を物質的な集会所に限定することも望まない。そうすれば、あなたがたは自らの霊を閉じ込め、永遠を勝ち取るためにその翼を広げさせることができなくなるからだ。

152. 私があなたがたに委ね、私が期待する礼拝を捧げるための祭壇とは、あらゆる制限を超え、あらゆる宗教、あらゆる教会、あらゆる宗派を超越した、生命そのものである。なぜなら、それは霊的なもの、永遠なるもの、神聖なるものに根ざしているからである。（194, 27-28）

神と人間との対話

153. 今日、私は、一度理解されれば、たとえ世の人々には実現不可能に見えるとしても、最も容易に実践できる教えを携えて、あなたがたのところに来る。 私は、あなた方の生活、行い、そして特定の場所で口に出して唱えるものでもなく、霊感を受けるために儀式的な行為や像を必要としない、霊的な祈りを通じて、神への愛の礼拝を教える。（72, 21）

154. 人々が私の中に、遠く離れた、近づきがたい神を見出そうとしていた一方で、私は、私が彼らの目のまつげよりも彼らに近いことを彼らに証明しようと決心した。

155. 彼らは機械的に祈り、切実に求めたことがすぐにすべて実現しないのを見ると、落胆して「神は私たちに耳を傾けてくださらなかった」と叫ぶ。

156. もし彼らが祈ることを理解し、心と理性を魂と結びつけるならば、彼らは精神の中で主の神聖な御声（ ）を聞き、主の御臨在が彼らに非常に近いことを感じ取ることができるだろう。しかし、彼らが外的な儀式を通じて私に祈っているのに、どうして私の御臨在を感じ取れるというのか。 自分たちの手で作った像を通して主を礼拝しているのに、どうして彼らの魂が感受性豊かになるだろうか。

157. 私は、私があなた方に非常に近くにいること、あなた方

が容易に私と結びつき、私を感じ、私の霊感を受け取ることができることを、あなた方に理解してほしい。（162, 17-20）

158. 霊が神を見出す助けとなる静寂を、実践しなさい。この静寂は知識の泉のようなものであり、そこに入る者は皆、私の知恵の明晰さに満たされる。 静寂とは、破壊不可能な壁に囲まれた場所のようで、そこに立ち入ることができるのは霊だけである。人は、神とつながることができるその秘密の場所についての知識を、常にその内面に携えている。

159. あなたがたがどこにいようとも、その場所は重要ではない。山の頂上にいようとも、谷の底にいようとも、都会の喧騒の中にいようとも、家庭の安らぎの中にいようとも、あるいは戦いの真っ只中にいようとも、どこでも主とつながることができるのだ。 もしあなたがたが、高揚感に満ちた深い静寂の中で、心の聖域の奥深くにわたしを求めるならば、宇宙的な、目に見えない神殿の門は瞬時に開かれ、あらゆる霊の中に存在する、あなたがたの父の家に、あなたがたが真に身を置いていると感じられるようになるでしょう。

160. 試練の痛みがあなたを押しつぶし、人生の苦しみがあなたの感情を打ち砕くとき、少しでも平安を得たいと切に願うなら、寝室に引きこもるか、野原の静寂と孤独を求めなさい。そこで、御霊に導かれて魂を天に向け、深く沈み込みなさい。 静寂は霊の領域であり、肉眼には見えない領域である。

161. 霊的な恍惚状態に入る瞬間、高次の感覚が覚醒し、直感が働き、霊感の光が輝き、未来が予感され、霊的な生は遠くにあるものをはっきりと認識し、かつては手の届かないと思われたことを可能にする。

162. もしあなたがたがこの聖域、この宝庫の静寂に入ろうとするならば、自ら道を整えなければならない。なぜなら、真の清らかさをもってのみ、そこに入り込むことができるからである。（22, 36-40）

163. 人類を戒めるために、私の預言者たちが再び立ち上がる必要がある。なぜなら、野心と暴力に目がくらんで自らを滅ぼす民族がいる一方で、私の光を受け、人類を公平に判断する者たちは、その使命に取り組み、福音を伝えることを恐れているからである。

164. もし人々が霊をもって祈ることを知っていたなら、彼らは私の声を聞き、私の霊感を受けるだろう。しかし、彼らが祈るたびに、彼らの霊的な目にはベールがかかり、私の臨在の な光を隠してしまう。 私は、人々の肉体が休んでいる瞬間に彼らのもとへ訪れ、その魂を目覚めさせ、呼びかけ、語りかけなければならない。深い夜に泥棒の

ようにあなたの心に忍び込み、そこに愛の種を蒔くのは、キリストである。（67, 29）

165. 祈りながら同時に瞑想することを学びなさい。そうすれば、あなた方一人ひとりの内に、認識と理解が光として現れるでしょう。（333, 7）

166. 霊性とは自由である。 それゆえ、今、私を聞き、この解放的な教えの真意を理解した者たちは、自分たちの前に広大な谷が開けるのを見ている。そこでは、全能の創造主である神が、神と人間との対話を導き入れるために来られた時が来たことを、彼らは戦い、証しすることになるのだ。（239, 8）

167. キリストの教えは霊的なものであったが、人々はそれを、高みへと至らない魂たちの理解の範囲内に収めるために、儀式や形式で包み込んだ。

168. あなたがたは、霊の時代、すなわち大いなる啓示の時代に入った。そこでは、あらゆる宗教から物質化、欺瞞、不完全さが消え去り、すべての人間は自らの霊を通じて、全き霊であるその神を知るようになる。その道において、人は完全な対話という形を見出すだろう。（195, 77-78）

169. 人々が一度、私の霊と対話する方法を学べば、もはや本を調べたり、質問をしたりする必要はなくなる。

170. 今日、人々は、自分より多くの知識を持っていると信じる者たちに尋ねたり、真理を見出そうとして書物や文献を探し求めたりしている。（118, 37）

171. もしあなたがたが、毎日少しの間瞑想することを学び、その瞑想が霊的な生活に関わるものであれば、他のいかなる方法でも得ることのできない、無限の説明を発見し、啓示を受けることになるだろう。

172. あなた方の魂は、すでに私に問いかけ、私の答えを受け取るのに十分な光を持っている。人間の魂はすでに高い発展段階に達している。 謙虚な境遇にある人々を観察してみよ。彼らは知識に乏しいにもかかわらず、その深遠な観察力や、他の人々にとっては不可解な事柄を、いかに明快に自らに説明しているかによって、人々を驚かせる。彼らはこれを本や学校から得ているのだろうか。いいえ。しかし彼らは、直感や必然性から、霊的な祈りの一部である瞑想の賜物を発見したのである。 外界の影響や偏見から隔絶された孤独の中で、彼らは永遠なるもの、霊的なもの、真実とつながる道を見出した。その程度は人それぞれ異なるが、 人生の真髄について瞑想した者たちは皆、その知性の中に霊的な光を受け取っている。（340, 43-44）

173. あなたがたは、祈りとは何であるかを私に問う。私はこう答える。それは、あなたがたの霊が自由に父のもとへ昇ることを許すことである。完全な信頼

と信仰をもって、その行為に身を委ねることである。心と知性をもって、霊によって受け取られた印象を受け入れることである。真の謙虚さをもって、父の御心を肯定することである。 このように祈る者は、人生のあらゆる瞬間に私の臨在を喜び、決して欠乏を感じることはない。（286, 11）

174. この時代、私は、その存在の最も純粋な部分、すなわち霊において、私の律法を記し、私の声を響かせ、私の神殿を築くであろう。なぜなら、人の内側にないもの、その魂にないものは、存在しないも同然だからである。

175. たとえ私の栄光のために巨大な物質的な教会を建てようとも、たとえ私に華麗な祝典や儀式を捧げようとも、その捧げ物は私に届かない。なぜなら、それは霊的なものではないからだ。 あらゆる外的な礼拝には、常に虚栄と見せびらかしが内在している。それに対し、人知れず捧げられる捧げ物――世の目には触れず、あなたがたが霊から霊へと私に捧げるもの――は、その謙虚さ、誠実さ、真実さゆえに、一言で言えば、それが霊から生まれたものであるゆえに、私の元へと届くのである。

176. 「第二の時代」に与えられた、ファリサイ人と徴税人のたとえとして知られる、あの私のたとえを思い出してみなさい。そうすれば、私の教えがいつの時代も変わらぬものであることがわかるだろう。（280, 68）

177. ある人々は、それに値しないにもかかわらず愛されていることを知っているか。私はそのようにあなた方を愛している。あなたの十字架を私に委ねよ、あなたの苦難を私に委ねよ、あなたの打ち砕かれた希望を私に委ねよ、あなたが背負っている重い荷を私に委ねよ。私はあらゆる苦痛に対処する。 あなたがたが幸せになれるよう、その重荷から解放されなさい。私の愛の聖域に入り、宇宙の祭壇の前で静まり返りなさい。そうすれば、あなたがたの霊は、最も美しい言葉、すなわち愛の言葉をもって、父と語り合うことができるでしょう。（228, 73）

第18章 – 慈悲の業と愛の中心的な重要性

善行がもたらす後世の祝福

1. あらゆる種類の人間の苦しみ、痛み、困窮を観察し、至る所に存在するその痛みの光景を目の当たりにするたびに、あなたの心がますます思いやりに満ちていくようにしなさい。

2. もしあなたがたの内なる存在の深みで、善を行うという寛大で高貴な衝動を感じたなら、その衝動に身を任せ、それを表に出しなさい。それは、魂が、そのメッセージを伝えるために

、進んでそれを受け入れる心を持った身体を見つけたからである。(334, 3-4)

3. 愛の行いを、あなたの努力の中で最優先とするよう心がけなさい。そして、慈善を行ったことを決して後悔してはならない。なぜなら、この美徳によって、あなたは人生における最大の満足と幸福感を得ると同時に、あらゆる高潔な魂が切望するすべての知恵、力、そして高揚感に到達するからである。

4. 隣人への慈悲によって、あなたは魂を清め、そのようにして過去の負債を清算することになる。あなたは人間としての生活を高尚なものにし、霊的な生活を向上させることになる。

5. そうして、いつかあなたがた全員が叩くことになるその門にたどり着いたとき、あなたがたの至福は極めて大きなものとなるでしょう。なぜなら、霊界があなたがたに投げかける歓迎の呼び声を聞くことになるからです。霊界はあなたがたを祝福し、刷新と霊化の業へと召すのです。（308, 55-56）

6. 私はあなた方に告げる。自由や健康を失った人々の苦しみを心で共感し、彼らを訪ねて慰める、私の働き手たちは祝福されるであろう。 なぜなら、いつの日か彼らは再び出会うことになるからだ——この世であれ、別の世であれ——そして、その時には、彼らに愛のメッセージを刑務所や病院へと届けた者たちよりも、彼らの方がより多くの健康、より大きな自由、そしてより多くの光を持っているかもしれないのだ。その時、彼らは感謝の念を込めてその恩を返し、かつて彼らに手を差し伸べてくれた者に、自ら手を差し伸べるだろう。

7. あなたがたが彼らの心に私の言葉を届けたあの瞬間——あなたがたの手が彼らの額を撫で、彼らに私を思い、私を感じさせたその瞬間は、決して彼らの魂から消えることはない。同様に、彼らの心の中で、あなたがたの顔や兄弟のような声が忘れ去られることもない。それゆえ、あなたがたがどこにいようとも、彼らはどこでもあなたがたを認識するだろう。（149, 54-55）

8. そよ風や太陽があなた方を優しく包むように、わが民よ、あなた方も隣人を優しく包むべきである。今こそ、助けを必要とし、苦しんでいる人々が溢れている時である。あなた方に頼み事をする者は、他者に役立ち、あなた方の救いのために働くという恵みをあなた方に与えてくれているのだと理解せよ。 その人は、あなたがたに慈悲深くなる機会を与え、それによってあなたがたを父に似せようとしているのだ。なぜなら、人はこの世に善の種を蒔くために生まれたのだから。だから、あなたがたに何かを求める者は、実は

あなたがたに恩恵を与えているのだと理解せよ。（27，62）

真の慈善と偽りの慈善

9. おお、弟子たちよ、あなた方の最高の務めは、愛の行いとなるであろう！多くの場合、あなた方はそれをひそかに、自慢することなく行うだろう。右手が何をしたかを左手に知らせることなく。しかし、あなた方の愛の行いが周囲の人々に見られるべき機会もある。そうして、彼らもそれに加わることを学ぶためである。

10. 報いについては心配するな！私は、子供たちの行いを一つも忘れずに、正義をもって報いる父である。

11. あなたがたに言ったように、真の愛をもって一杯の水を差し出すなら、それは報いられずに終わることはない。

12. わたしのもとに来るとき、「主よ、わたしの行いの報いとして何も望みません。ただ、あなたの子供であるという存在と、そのことを知っているだけで十分です。それだけで、わたしの魂はすでに幸福に満たされています」と、わたしに言う者たちは幸いである。（4，78-81）

13. 自分の魂の救いや報いばかりを考えて、利己的な願望を抱いてはならない。なぜなら、あなたがたが霊界にたどり着いたとき、実際には何の報いも得ていなかったことに気づき、その失望は極めて痛ましいものとなるからである。

14. 私が言わんとしていることをよりよく理解してもらうために、次の例を挙げよう。これまで、そして今もなお、同胞に対して慈善の行いをすることに熱心に取り組んできた男女がいる。それにもかかわらず、彼らが私のところに来たとき、霊的な至福を得るための功績を私に示すことができなかった。 その理由は何だったのでしょうか。彼らが、父なる神による不公正の犠牲者であったと想像できますか。 答えは簡単だ、弟子たちよ。彼らの行いは誠実ではなかったため、彼らは自分自身の利益として何一つ良いものを得ることができなかったのだ。なぜなら、彼らが手を差し伸べて何かを与えようとしたとき、それは苦しむ者に対する真の慈悲の心からではなく、自分自身のこと、自分の魂の救い、そして自分の報いを考えて行っていたからである。 ある者は利己心によって、またある者は虚栄心によって動かされていたが、これは真の慈悲ではない。なぜなら、それは心からのものでもなければ、無私の行為でもなかったからだ。私はあなたがたに言う。心の中に誠実さと愛を持たない者は、真理を蒔くこともなければ、報いを得ることもないのだ。

15. 表向きの慈善行為は、この地上において、あなたがたに多くの満足をもたらすかもしれな

い。それは、あなたがたが引き起こす称賛や、受けるお世辞から生じるものである。しかし、見せかけのものは私の王国には入り得ない。そこへ入るのは、真実なものだけである。 そこへは、あなたがたは皆、わずかな汚れや不誠実も隠すことなく、たどり着くことになる。 なぜなら、あなたがたが神の御前に現れる前に、華やかな外套、冠、勲章、称号、そしてこの世に属するすべてのものを脱ぎ捨て、至高の審判者の御前に、 な創造主に対して、自分に託された任務について説明責任を果たす、ただの一つの魂として現れることになるからだ。（75, 22-24）

16. 愛をもって隣人の役に立ちたいと願う者は、人生が提供する数多くの道のうちのどれか一つを通じて、善に身を捧げる。彼は、自分が、極めて高き目的のために神の御心によって用いられることを受け入れるべき人間であることを知っている。 おお、弟子たちよ、私はあなたがたに知識を得て、向上への道を失った者たちをその過ちから解放してほしいと願う。

17. 真の愛――すなわち、人間の心の感情を超越した愛は、知恵の果実である。見よ、私が言葉によって、あなたがたの想像の世界に知恵を蒔く。そしてその後、私はあなたがたの愛の果実を期待する。

18. 善を行う方法、慰め、奉仕する方法は数多くある。それらはすべて、唯一無二の愛、すなわち霊の知恵である愛の表現である。

19. ある者は科学の道を歩み、ある者は霊の道を歩み、またある者は感情に導かれるかもしれないが、そのすべてが合わさって、霊的な調和をもたらすのである。(282, 23-26)

霊的および物質的な愛の活動

20. もしあなたが物質的に貧しく、そのために隣人を助けることができないとしても、嘆いてはならない。祈りなさい。そうすれば、私は、何もない場所に光が輝き、平和が訪れるように導くであろう。

21. 同情が生まれる真の隣人愛こそが、あなたがたが困窮している人々に与えることのできる最高の贈り物である。 もし、一銭、一塊のパン、あるいは一杯の水を施す際に、隣人への愛の心を抱いていないならば――まことに、私はあなたに告げる、その時は何も与えていないのと同じであり、むしろ、与えるものを手放さないほうがあなたにとって良いことである。

22. 人類よ、いつになったら愛の力を知ろうとするのか。今日に至るまで、あなたは、命の源であるその力を一度も用いたことがない。（306、32-33）

23. 周囲にいるすべての人々を敵と見なすのではなく、兄弟と見なせ。誰に対しても罰を求めず、寛容であれ。そうして赦し

の模範を示し、心に良心の呵責を抱かないようにせよ。口を閉ざし、あなたのことは私に裁かせよ。

24. 病人を癒やし、混乱している者たちに理性を取り戻させてやりなさい。精神を曇らせる悪霊を追い払い、両者が失った光を取り戻せるようにしなさい。（33, 58-59）

25. 弟子たちよ。「第二の時代」において私が教えた、互いに愛し合うというその原則は、あなた方の生涯におけるあらゆる行いに適用されるものである。

26. ある者は私にこう言う。「師よ、私は肉体労働に明け暮れる取るに足らない存在ですが、どうして隣人を愛することができるでしょうか？」

27. このような私の子供のような弟子たちに、私はこう言う。一見無意味に見えるこの肉体労働であっても、あなたがたが同胞に奉仕したいという願いを持ってその仕事に取り組めば、隣人を愛することができるのだ。

28. もしすべての人が、善を行うという思いを胸に働き、自分のささやかな努力を他の人々の努力と結びつけるとしたら、あなた方の人生がいかに美しいものになるか、想像してみてください。まことに、私はあなた方に言います。そうすれば、もはや悲惨など存在しなくなるでしょう。しかし、現実には、誰もが自分のために働き、自分自身のこと、せいぜい自分の家族のことしか考えていないのです。

29. あなたがたは皆、誰も自分だけで十分であることはできず、他者を必要としていることを知らなければならない。あなたがたは皆、共に果たすべき普遍的な使命に深く結びついていることを知らなければならない——しかし、それは地上の義務によって結ばれているのではなく、志、霊感、そして理想、一言で言えば、互いへの愛によって結ばれているのである。 そうしてこそ、その実りはすべての人の幸福となるのだ。（334、35-37）

30. 愛の律法に従う弟子たちよ、私はこう言おう。もしあなたがたが、私がイエスにおいて成し遂げたような完全な業を行うことができないとしても、せめて人生において、それに近づこうと努力すべきである。 私にとっては、私にならおうとするわずかな善意と、隣人へのわずかな愛を見るだけで十分であり、そうすれば私はすでにあなた方のそばにいて、あなた方の道のりに私の恵みと力を現すのである。

31. あなたがたは決して、戦いの最中に独りぼっちになることはない。あなたがたが罪の重荷に押しつぶされそうになっている時でさえ、私があなた方を独りにしないのだから——この愛の使命という十字架の重荷を背負って歩む時、私があなた方を

捨て去るとでも思うのか。（103, 28-29）

愛の包括的な意味

32. いつの時代も、私の教えは、あなたがたの最も内なる本質が愛であることを明らかにしてきた。

33. 愛は神の本質である。すべての存在は、生きるためにこの力から汲み取っている。そこから生命と全創造が生まれた。愛は、父によって創造されたすべてのものの運命における起源であり、目的である。

34. すべてを動かし、照らし、生かすその力の前では、死は消え去り、罪は消え失せ、情欲は過ぎ去り、不純物は洗い流され、不完全なものはすべて完全なものとなる。（295, 32）

35. わたしは、わたしの存在と、あなたがたの存在の理由を明らかにした。命を授け、万物に魂を吹き込む火こそが愛であることを、あなたがたに明かした。愛こそが、あらゆる生命の源である。

36. 見よ。あなたがたは愛から生まれ、愛によって存在し、愛によって赦しを得、愛によって永遠に存在することになる。（135, 19-20）

37. 愛こそが、あなた方の存在の源であり、理由である、おお、人々よ。この賜物なしに、どうして生きられようか。私を信じなさい。自分の中に死を抱えている者もいれば、ただ誰をも愛さないがゆえに病んでいる者も大勢いるのだ。 多くの人々を救った癒しの香油は愛であり、真の命へとよみがえらせ、贖い、高めてくれる神の賜物もまた、愛である。（166, 41）

38. 愛しなさい！愛さない者は、人生において最も美しく、最も高貴なものを持ち合わせておらず、それを感じることができないという深い悲しみを心に抱いている。

39. これこそが、キリストがご自身の生涯と死をもってあなたがたに教え、また神聖な御言葉の中で遺されたものであり、それは「わたしがあなたがたに示したその愛をもって、互いに愛し合いなさい」という言葉に要約されている。

40. 愛しなかった者たちが、その苦々しさや偏見から解き放たれ、私のもとに来て安らぎ、私の限りない優しさに満ちた愛の言葉に耳を傾ける時、彼らは命へと立ち返る、その日が来るであろう。

41. まことに、わたしはあなたがたに告げる。愛の中にこそ、わたしの力、知恵、そして真理がある。それは、下位に立つ人間から、完全性を達成した至高の霊に至るまで、様々な形で現れる、計り知れないほど長い梯子のようなものである。

42. たとえそれがあなたたちなりの方法であっても、愛しなさい。憎んではならない。憎しみは死の跡を残すが、愛によって

赦し合い、あらゆる恨みは消え去るからである。（224, 34-36）

43. 私はあなたに告げる。愛を最高の形で、かつ絶対的な誠実さをもって表さない者は、愛していないのだ。その者は真の知識を持たず、所有するものはごくわずかである。 それに対して、全霊と与えられたすべての力をもって愛する者は、その内に知恵の光を宿し、自分を取り巻くすべてのものの真の所有者であることを感じるだろう。なぜなら、父が持つものは、その子供たちの所有物でもあるからだ。（168, 11）

44. 愛は、科学の険しい道において他者が徒労に探している真理を理解するための知恵を、あなた方に与えてくれる。

45. すべての行い、言葉、そして思いにおいて、師があなた方を導くことを許しなさい。師の慈愛に満ちた模範に従って自らを整えれば、あなた方は神の愛を現すことになる。そうして、あなた方は神と調和するようになるため、神に近づいていると感じるだろう。

46. 愛すれば、イエスのように柔和でいられるようになる。（21, 10-12）

47. 愛する者は理解し、学ぶ者は意志を持ち、意志を持つ者は多くのことを成し遂げることができる。言っておくが、魂の全力を尽くして愛さない者は、 、魂の高揚も知恵も得られず、偉大な業を成し遂げることもない。（24, 41）

48. あなたがたの心を驕らせてはならない。なぜなら、それは、万物がそこから生まれ、万物が新たに生かされる、あの御方の永遠の火を象徴しているからである。

49. 霊は、身体を通じて愛するために心を用いる。もしあなたがたが物質の法則に従ってのみ愛するなら、その愛は有限であるゆえに儚いものとなる。しかし、もしあなたがたが霊的に愛するなら、その感情は、永遠にして完全、かつ不変である父の感情に似る。

50. すべての生命とすべての被造物は、霊と関係している。なぜなら、霊は永遠の命を持っているからだ。自らを制限してはならない。私を愛し、互いに愛し合いなさい。あなたがたは、「存在」という神の火花を宿しており、その愛には限界がなく、それこそが神そのものだからである。（180, 24-26）

51. 山頂へと続く道を登りなさい。一歩一歩進むごとに、私の教えをより深く理解し、神のメッセージの解釈においてますます完成されていくでしょう。

52. 霊の言語とは何だろうか。それは愛である。愛は、すべての霊の普遍的な言語である。 人間的な愛もまた語っていることに気づかないのか。多くの場合、言葉は不要であり、行動や思考を通じてよりよく語られる。

人間的な愛がすでにこのように表現されるならば、あなたがたが私の律法において完成したとき、その言葉はどのようなものになるだろうか。（316, 59-60）

53. 私が知恵そのものであるとあなたがたが考えるならば、その知恵は愛から湧き出るものである。あなたがたが私を裁き手として認識するならば、その裁きは愛に基づいている。あなたがたが私を力ある者と見なすならば、私の力は愛に根ざしている。 私が永遠であることを知れば――私の永遠性は愛に由来する。なぜなら、愛こそが命であり、命こそが魂を不死にするからである。

54. 愛は光であり、命であり、知恵である。そして、この種を、私は太古の昔からあなた方に与えてきた――完全なる農夫として、あなた方の心という畑に蒔いた唯一の種である。（222.23）

愛の崇高な力

55. 世の男女よ、あなたがたは、自分たちを賢く、幸せにすることができる唯一のものを、その知恵の中で忘れてしまった。あなたがたは、万物を鼓舞する愛、すなわち、万事を成し遂げ、万物を変容させる愛を忘れてしまったのだ！あなたがたは苦痛と闇の中に生きている。なぜなら、私が教える愛を実践しないがゆえに、あなたがたは自らの肉体的、あるいは精神的な苦しみを引き起こしているからである。

56. 私のメッセージを発見し、理解するためには、まず心から慈愛に満ち、穏やかでなければならない。これらは、あらゆる魂が創造されたその瞬間から備えている美徳である。しかし、の愛という真に崇高な感情を感じ取るためには、善なる感情を育むことによって精神性を高めなければならない。それにもかかわらず、あなた方は人生においてあらゆるものを求めようとしたが、ただ一つ、霊的な愛だけは求めようとしなかった。(16, 31-32)

57. いつの時代にも、愛の力を教えてくれた導き手たちがいた。 彼らは、私の律法に対するより深い理解と、その行いにおけるより大きな清らかさを備えた、あなた方より進んだ兄弟たちであった。彼らは、迷いと罪に満ちた生活を、善と犠牲、そして実践的な隣人愛に捧げる存在へと変えることで、強さ、愛、そして謙虚さの模範を示してくれたのである。

58. 幼少期から老齢に至るまで、愛によって何が達成されるか、また隣人愛の欠如がどのような苦しみをもたらすかについて、明確な手本が与えられてきた。しかし、岩よりも無感覚なあなたたちは、日々の生活が与える教えや手本から学ぶことを理解しなかった。

59. 愛の呼びかけに、猛獣でさえも優しく反応することを、一度でも観察したことがあるか。自然界の要素や力、物質界と霊界に存在するすべてのものは、同じように反応しうるのだ。
60. それゆえ、私はあなたがたに、宇宙の父であり創造主である御名において、すべてを愛をもって祝福すべきだと言うのだ。
61. 祝福するとは、満たすことである。祝福とは、善を感じ、それを語り、伝えることである。祝福とは、あなた方を囲むすべてのものを、愛の思いで満たすことである。（14, 56-60）
62. まことに、あなたがたに告げる。愛こそが、宇宙を動かす不変の力である。愛は、生命の源であり、その意味である。
63. 私は今、すべての人々のための霊的な復活の時代を切り開く。 ――それは、私が十字架の高みからこの世に注ぎ、人々が私が教えたように互いに愛し合うならば、「死」はこの世から消し去られ、その代わりに命が人々に支配し、彼らのあらゆる行いの中に現れるであろうと告げた、あの祝福された愛の種を、私が開花させる時代である。(282, 13-14)

V. 神の啓示の形態と働き

第19章 - 神の三位一体

神とキリスト、そして聖霊との一体性

1. 私の言葉の光は、この第三の時代に人々を一つにするだろう。私の真理はすべての人の心に輝き、それによって信仰告白や礼拝の相違を消し去るだろう。
2. 今日、ある者はエホバとして私を愛しキリストを否定し、またある者はキリストとして私を愛しエホバを知らない。ある者は聖霊としての私の存在を認める一方で、またある者は私の三位一体をめぐって争い、分裂している。
3. さて、私はこの人類と、彼らを霊的に導く者たちに問う。なぜ、あなたがたは皆、真の神を信奉しているというのに、互いに距離を置くのか。もしあなたがたがエホバにおいて私を愛するなら、あなたがたは真理の中にある。もしあなたがたがキリストを通して私を愛するなら――彼は道であり、真理であり、命である。もしあなたがたが聖霊として私を愛するなら、あなたがたは光に近づく。
4. あなたたちにはただ一人の神、ただ一人の父しかいない。神の中に存在する三つの神聖な位格などなく、ただ一つの神聖な霊が、三つの異なる発展段階において人類に自らを現しただけである。この深みへと踏み込む際、人類はその未熟さゆえに

、ただ一つの神聖な霊しか存在しない場所に、三つの位格を見たと信じたのである。だから、もしあなたがたが「エホバ」という名を聞くならば、神を父であり、裁き主であると考えるがよい。 キリストを思うときは、彼の中に、師として、愛として神を認識しなさい。そして、聖霊の源を探ろうとするなら、より進んだ弟子たちにその計り知れない知恵を啓示される聖霊は、他ならぬ神そのものであることを知れ。

5. もし私が「初期」の人類を、今日のように霊的に発達した状態で出会っていたならば、私は彼らに父として、師として、そして聖霊として自らを現したであろう。そうすれば、人々はただ一つの神しか存在しないのに、三つの神格を見ることなどなかっただろう。 しかし、彼らは私の教えを正しく解釈することができず、混乱し、私の道から遠ざかって、自分たちの想像にかなう、身近で小さな神々を作り続けていたであろう。

6. 人々がこの真理を理解し、受け入れるやいなや、彼らは、ほんの少しの愛があれば避けられたはずの過ちのために、互いを誤解してしまったことを悔やむようになるだろう。

7. もしキリストが愛であるならば、私が愛であるにもかかわらず、キリストがエホバから独立しているなどと言えるだろうか。

8. 聖霊が知恵であるならば、私が知恵であるにもかかわらず、その霊がキリストとは独立して存在すると信じるのか。あなたがたは、「言葉」と聖霊が別物であると考えているのか。

9. イエスが人類に教えた御言葉のほんの一部を知っているだけでも、神はただひとりしかおらず、永遠にただひとりであるということを理解するには十分である。 それゆえ、私は彼を通してこう言った。「子を知っている者は父を知っている。なぜなら、 、彼は私の中にあり、私は彼の中にあるからだ。」その後、彼が別の時に人々のところに戻ってくると告げたとき、彼は単に「私は再び来る」と言っただけでなく、聖霊、すなわち慰め主の霊、真理の霊を送ると約束した。

10. なぜキリストは聖霊から離れて来なければならないのか。彼の御霊の中に、真理と光と慰めを携えて来ることができないというのか。（1, 66-70, 73-76）

11. わたしはあなたがたの師である。しかし、わたしを父から切り離して見てはならない。なぜなら、わたしこそが父だからである。

12. 御子と聖霊との間に違いはない。なぜなら、聖霊と御子は一つの霊であり、その霊こそが私だからである。

13. あらゆる時代を通じた私の啓示の中に、多様で異なる教訓

によってあなた方を教え導いてこられた唯一の神を見なさい。それは、多くのページを持つ一冊の本である。（256, 4）

神の三つの啓示の仕方

14. 今や、あなたがたは、父が段階的に啓示された理由を知り、また、三位一体という概念に関する人々の誤りも理解している。

15. もはや、私の姿をあなたの想像の中で肉体的な形にしようとしてはならない。なぜなら、私の霊には形が存在しないからである。知性や愛、あるいは知恵に形がないのと同じように。

16. 私がこう言うのは、多くの人が父を思うとき、私を老人の姿として想像しているからだ。しかし、私は老人ではない。私は時間の外におり、私の霊には年齢がないからだ。

17. あなたがたがキリストを思うとき、すぐに心の中にイエスの肉体的な姿を形作ってしまう。しかし、私はあなたがたに告げる。肉体に生まれ出た神の愛であり、私の人間となった御言葉であるキリストは、その肉体という殻を離れたとき、彼が生み出された私の霊と融合したのである。

18. しかし、あなたがたが聖霊について語る時、何らかの形で聖霊を想像しようと、鳩という象徴を用いる。 しかし、私はあなたに告げる。象徴の時代は終わったのだ。それゆえ、聖霊の影響下にあると感じる時、あなたはそれを霊感として、あなたの霊における光として、不確実性や謎、闇を解消する明晰さとして受け取るのだ。（39, 42, 44-47）

19. 時代から時代へと、人々は私についてますます明確なイメージを持つようになってきた。キリストを通して私を知った者たちは、モーセの律法を通してのみ私を知る者たちよりも、真理に近い認識を持っている。かつて人々がその正義を恐れ、従い、服従していたあの神は、後に、彼らの心の中にキリストの愛の種が芽生えたとき、父であり師である として求められるようになった。（112, 3）

20. 私は時代を超越し、すべての被造物を超えている。私の神聖な霊は、発展の法則に支配されることはない。私は永遠であり、完全である――あなた方とは異なり、あなた方には確かに始まりがあり、あなた方は発展の法則に完全に支配されており、さらに、あなた方の存在の上に時代の流れを感じているのだから。

21. だから、父はただ一つの時代に属し、キリストは別の時代に、そして聖霊はまた別の時代に属しているなどと言ってはならない。 なぜなら、父は永遠であり、いかなる時代にも属さない。むしろ、時代は父のものである。また、キリストは人間としてこの世を去った後、神その

ものであり、聖霊もまた、あなたがたの父そのものであり、あなたがたの間で、いかなる地上の仲介者も介さず、その最高の顕現の形態を準備しておられるのである。(66, 43)

22. 私は、あなたがたが「父」と呼ぶものは、唯一の被造物ではない、全宇宙の創造主である神の絶対的な力であり、あなたがたが「子」と呼ぶものは、 キリスト、すなわち、被造物に対する父の完全なる愛の顕現であり、また、あなたがたが「聖霊」と呼ぶものは、あなたがたの霊が私の啓示をよりよく理解できるようになったこの時代に、神が光としてあなたがたに送る知恵である。

23. その聖霊の光、すなわち神の知恵は、まもなく、あなたがたが到来を目撃しているこの第三の時代において支配し、霊性を必要とし、真理を渇望し、愛を飢え渇く人類の思考を照らすであろう。

24. 民よ、一つの神が、たとえ三つの異なる側面を通じてとはいえ、人々に御自身を現されたこともまた真実である。 もしあなたがたが、あの第一の時代の父の御業の中に愛を求めるならば、それを見つけるであろう。また、もしあなたがたが知恵の光を求めるならば、それも見出すであろう。それは、キリストの御業と御言葉の中に、愛だけでなく、力と知恵にも出会うのと同じことである。 それならば、この時代の聖霊の御業の中に、力、律法、権威だけでなく、愛、優しさ、そして癒しの香油を見出したとしても、何がおかしなことだろうか。（293, 20-21, 259 25-26）

25. 律法、愛、知恵――これらは、人間が自身の成長の道において、創造主に対する確固たる確信と完全な認識を持つことができるよう、私が人間に自らを現した三つの啓示の形態である。これら三つの啓示の段階は互いに異なるが、それらはすべて同一の源に由来しており、その全体として絶対的な完全性を成している。（165, 56）

26. わたしの中には、裁き主、父、そして師がいる――一つの存在の中に三つの異なる顕現の段階、三つの力の中心、そして一つの本質、すなわち愛がある。（109, 40）

27. 私は、あらゆる時代において、あなた方を死から解放してきたエホバである。 私は、いつの時代もあなた方に語りかけてきた唯一の神である。キリストは、イエスを通してあなた方に語りかけた私の「言葉」である。彼はあなた方にこう言った。「御子を知る者は、父を知る。」そして、今日あなた方に語りかけている聖霊も、やはり私である。なぜなら、聖霊はただ一つ、言葉もただ一つであり、それは私のものだからである。

28. 聞け、わが弟子たちよ。「第一の時代」には、わたしはあ

なたがたに律法を与え、「第二の時代」には、あなたがたがその戒めを解釈すべき愛を教え、そして今、この「第三の時代」において、わたしはあなたがたに光を送る。それは、あなたがたが啓示されたすべての事柄の真意を深く理解するためである。

29. それなのに、なぜ、ただ一つの神聖な霊、すなわち私のものである霊しか存在しない場所に、どうしても三つの神格を見出そうとするのか。

30. わたしは最初の人類に律法を与えたが、それでもなお、モーセに、わたしがメシアを遣わすことを告げた。わたしがあなたがたに「言葉」を与えたキリストは、その使命がすでに終わりに近づいた時、こう言った。「わたしは、わたしがそこから出てきた父のもとへ帰っていく。」 また、彼はこうも言いました。「父と私は一つである。」しかしその後、彼は、私の意志に従い、またあなたがたの成長に合わせて、私の啓示の神秘を明らかにしてくれる真理の霊を、あなたがたに遣わすと約束しました。

31. しかし、誰が私の奥義に光を当て、これらの神秘を解き明かすことができるだろうか。私以外に、私の知恵の書の封印を解くことができる者がいるだろうか。

32. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが現在、エホバやキリストとは別のものであると考えている聖霊は、あなたがたに真理を理解させ、見させ、感じさせるために、私があなたがたの霊に啓示する知恵に他ならない。（32, 22-27）

33. 神としての私の啓示、すなわちあなたがたに律法を告げるものを、 父としての私の啓示、すなわち私の無限の愛を明らかにするものと、師としての私の教え、すなわち私の知恵を明らかにするものを、心と霊において一つに統合しなさい。そうすれば、あなたがたはこれらすべてから一つの本質、一つの神聖な意図を受け取るだろう。それは、あなたがたが霊的な光の道を通って私のもとに来ることである――それは、単にあなたがたへの啓示以上のものなのだ。私は、私が常にそこに存在し、永遠にあなた方の内におる、私自身の王国へとあなた方を導きたい。（324, 58）

34. 人々が神の啓示を解釈しようと苦闘したり、彼らの目には謎として映る事柄について明快さを求めたりするのは、今回が初めてのことではない。 「第二の時代」においてさえ、私がこの世で説教を行った後、人々はイエスの人格について議論し、彼が神であるかどうか、父と一つであるのか、それとも父とは異なる存在なのかを知りたがった。彼らはあらゆる方法で私の教えを評価し、探求した。

35. 今、私は再び、解釈や議論、論争、そして調査の対象となるだろう。
36. キリストの霊が現れたとき、それが父の霊から独立していたかどうかが検証されるだろう。また、語ったのは父でも子でもなく、聖霊であったと主張する者たちも現れるだろう。
37. しかし、あなたがたが「聖霊」と呼ぶものは神の光であり、あなたがたが「子」と呼ぶものは神の「言葉」である。 したがって、あなたがたがここでこの御言葉を聞くとき、あるいは私の「第二の時代」の教えを利用するとき、あるいは「第一の時代」の律法と啓示について考えるときは、あなたがたが唯一の神の御前にあり、その御言葉を聞き、その御霊の光を受けていることを自覚しなさい。（216, 39-42）

創造主の霊であり父である神

38. 私は、すべての被造物の本質である。万物は、私の無限の力によって生きている。私はあらゆる肉体とあらゆる形の中にいる。私はあなた方一人ひとりの内にもいるが、私を感じ、私を見出すことができるよう、あなた方は自らを準備し、感受性を高める必要がある。
39. 私はすべての存在にとっての命の息吹である。なぜなら、私が命そのものだからだ。それゆえ、私はあなたがたに、私があなたがたのすべての行いに存在している以上、私を礼拝したり、私を身近に感じたりするために、粘土や大理石で私の像を作る必要はないことを理解させた。この誤解は、人類を偶像崇拝へと誘うことしか役立たなかった。
40. わたしの言葉によって、あなたがたは父とすべての被造物との間に存在する調和を予感し、わたしがすべての存在を養う本質であり、あなたがたがわたし自身の一部であることを理解する。（185, 26-28）
41. 父の御霊は目に見えないが、無限の形態をもって現れている。全宇宙は、神性の物質的な現れに過ぎない。すべての被造物は、真理の反映である。
42. 私は、私の神性の子供である魂たちの存在を、彼らが住む場所に応じて、一連の生命形態で取り囲んだ。そして、それらの各住処に、私の存在の最も明白な証拠と、私の力の概念を与えるために、知恵、美、生命力、そして意味を注ぎ込んだ。 私は、人生の意味は愛すること、知ること、そして真理を認識することにあると、あなた方に指摘しておく。（168, 9-10）
43. 弟子たちよ、私から三つの本質的性質が生まれた。すなわち、神聖な性質、霊的な性質、そして物質的な性質である。すべての被造物の創造主であり所有者である私は、神聖かつ同時に理解しやすい方法で、あなた方に語りかけることができる。

物質的な性質は私から生まれたものであるため、私は人間に自分を理解してもらうために、自分の声と言葉を肉体的に聞こえるようにもすることができる。

44. 私は完全なる科学であり、万物の起源であり、あらゆる原因の原因であり、すべてを照らす光である。私はすべての被造物、あらゆる学識の上に立っている。（161, 35-36）

45. 今こそ、理解の時、魂と知性の啓発の時である。この時、人間はついに霊的に私を求めるようになるだろう。なぜなら、神は単なる人物でも空想上の存在でもなく、無限かつ絶対的な普遍的霊であることを悟るからである。（295, 29）

キリスト、愛、そして神の言葉

46. 父がイエスにおいて人類に御自身を現す前に、父は物質的な形や出来事を利用しつつ、あなた方に御自身の啓示を送られた。 「キリスト」という名のもと、あなたがたは、人々の間に神の愛を現した御方を知った。しかし、彼が地上に来られたとき、彼はすでに父として自らを現していた。それゆえ、キリストがこの世に生まれたなどと言ってはならない。生まれたのはイエスであり、それはキリストが宿った肉体であったのだ。

47. よく考えなさい。そうすれば、やがて私を理解し、キリストはイエスよりも前から存在していたことを認めるようになるだろう。なぜなら、キリストは神の愛そのものだからである。（16, 6-7）

48. 今、私はあなたがたのもとにおり、あなたがたの魂の永遠の平安のために戦う力を与えている。しかし、まことに、あなたがたに告げる。人類が私を知る前から、私はすでに無限の彼方からあなたがたを照らし、あなたがたの心に語りかけていたのだ。なぜなら、私は父と一つであるから、常に父の中にいたのだ。 世界がイエスにおいてわたしを受け入れ、神の御言葉を聞くに至るまで、人類の上に幾世代もの時が過ぎ去らなければならなかった。とはいえ、当時わたしの教えを聞いた者たちのすべてが、キリストの中に神の臨在を感じるために必要な霊的な成熟を備えていたわけではない、とあなた方に言わなければならない。（300, 30）

49. あなたがたは、エホバを、残酷で恐ろしく、復讐心に燃える神であると見なしていた。そこで主は、あなたがたをその誤りから解き放つために、キリスト、すなわち主の神聖な愛を遣わされた。それは、「御子を知ることで、父を知る」ためであった。 それにもかかわらず、無知で再び罪に堕した人類は、怒りと侮辱に満ちたイエスを見ていると思い込んでいる。そのイエスは、「霊的な谷」に、自分

を傷つけた者たちが現れるのを待ち、彼らに「私から離れよ、私はあなたたちを知らない」と言い、直ちに永遠の最も残酷な苦しみを受けさせるためだけに待っているのだと。

50. あなたがたが誤りに陥らないよう、今こそ私の教えの真意を理解すべき時である。神の愛は、あなたがたが私のもとに来ることを妨げることはない。しかし、もしあなたがたが過ちを償わなければ、あなたがたが光の王国に入るに値しないと告げるのは、あなたがたの良心の容赦なき裁き主となるだろう。(16, 46-47)

51. あなたがたが真に私の弟子と名乗れるように、私はあなたがたが師のようになることを望む。私の遺したものは、愛と知恵である。あなたがたのもとに来たのはキリストであり、今この瞬間、あなたがたに語りかけているのもキリストである。しかし、私を神から切り離そうとしたり、私を神の外に置こうとしたりしてはならない。なぜなら、私は今も、そして常に、父と一つだからである。

52. わたしは、キリストこそが神聖な愛であるとあなたがたに語った。それゆえ、わたしを父から切り離そうとしてはならない。父が、自分の子供たちを愛さないような父であると思うのか。どうしてそのような考えに至ったのか。あなたがたがこれを悟る時が来たのだ。

53. 誰も、創造主である神を父と呼ぶことを恥じてはならない。なぜなら、それが神の真の名だからである。(19, 57-58)

54. イエスにおいて、世界は人となった神を目の当たりにした。人々はイエスから、愛の教え、無限の知恵の教え、完全な正義の証しだけを受け取ったが、暴力的な言葉や、恨みの行為、あるいはその兆候を一度も受けたことはなかった。 その代わりに、彼がどれほど侮辱され、嘲笑されたかを見てほしい。彼の手には、全世界が持つことのできない権威とあらゆる力が握られていたが、世界が、その真の本質、真の正義と慈悲において、自らの父を知る必要があったのだ。

55. イエスにおいて、世界は、自分のために何一つ求めず、子供たちのためにすべてを捧げる父を見出した。最もひどい侮辱をも無限の愛をもって赦し、決して復讐を行わない父。そして、自分を侮辱する子供たちの命を奪う代わりに、彼らを赦し、自らの血をもって彼らの魂の救いへの道を切り開いてくださる父を見出したのである。(160, 46-47)

56. 人間としてのイエスは、あなたがたの理想であり、完全性の体現であった。あなたがたがイエスの中に、従うに値する模範を見出せるように、私は、神に似るために人間がどうあるべ

きかを教えようとしたのである。

57. 神は唯一であり、キリストは神と一つである。なぜなら、キリストは神性の「言葉」であり、あなたがたがすべての被造物の父のもとへ至ることができる唯一の道だからである。（21, 33-34）

58. 弟子たちよ、キリストは神の愛の最高の現れであり、霊の領域において命である光である。それは闇を切り裂き、あらゆる霊的な視線の前で真理を明らかにし、謎を解き明かし、扉を開き、魂の知恵、永遠、そして完全性への道を示す光である。(91, 32)

聖霊――神の真理と知恵

59. 知恵の中にこそ、あなたがたの心が切望する癒しの力と慰めがある。それゆえ、かつて私は、慰めの霊として、真理の霊をあなたがたに約束したのである。

60. しかし、成長の道を歩み続けるため、また試練を恐れないためには、信仰を持つことが不可欠である。(263, 10-11)

61. これは光の時代であり、聖霊の光である神の知恵が、心と魂の最も秘められた隅々までも照らし出すであろう。（277, 38）（第8-10節、12節、18節、21-24節、27節、32節、36-37節も参照）

第20章 - 神の母なる愛、マリア

謙遜に生きるマリアの地上での生涯

1. マリアは、私の天の庭の花であり、その本質は常に私の霊の中にあった。

2. ここに、その美しさを謙虚さの中に隠している花たちが見えるか。マリアもまた、かつてそうであり、今もそうである。彼女を清らかさと畏敬の念をもって見つめることができる者にとっては、尽きることのない美の泉であり、すべての存在にとっては、慈愛と優しさの宝庫である。

3. マリアはこの世を歩み、その神聖な本質を隠しておられた。彼女は自分が誰であり、その子が誰であるかを知っておられたが、その恵みを誇示する代わりに、ただ至高者のしもべであり、主の御計画の道具であるとだけ宣言された。（8, 42-43, 46）

4. マリアは、地上のあらゆる王よりも力強く、偉大な王を身ごもることを知っていた。しかし、それゆえに、彼女は自らを人間の中の女王と称しただろうか？広場や通り、質素な小屋や宮殿で、彼女の唇は、自分がメシアの母となること、父の「独り子」が彼女の胎から生まれることを告げ知らせただろうか？

5. 決してそうではない、わが民よ。彼女の中には、この上ない謙遜と柔和と恵みが満ちており、その約束は成就した。 人間の母としての彼女の心は喜びに満たされ、出産する前から――その時から、そしてその後、息子の生涯を通じて――彼女は最も慈愛に満ちた母であり、霊的にイエスの定め、彼が人々の間で果たすべき使命、そして彼が何のために来たのかを知っていた。彼女は決してその定めに逆らわなかった。なぜなら、彼女もまた、その同じ業に参与していたからである。
6. 時折彼女が涙を流したとしても、それは人間としての母の涙であり、息子、すなわち彼女自身の肉体に宿る痛みを、肉体という性質が感じ取ったからに他なりません。
7. しかし、彼女は師である息子イエスの弟子であったのか？ いいえ。マリアはイエスから何も学ぶ必要はなかった。彼女は父そのものの中にあり、ただその美しくも困難な任務を果たすために受肉したに過ぎなかった。
8. その卓越した母の心は、ただ最愛の息子を愛することに限られていたのだろうか？決してそうではない。その小さな人間の心を通して、母なる心は、慰めと崇高な言葉、助言と善行、奇跡、光、そして真理として現れたのである。
9. 彼女は決して自分を誇示することはなく、師の言葉をも誤解することはなかった。しかし、彼女がゆりかごとして役立った飼い葉桶の足元にいたのと同様に、彼女はまた、息子であり、師であり、全被造物の父である方が死に、人間としての最後の息を引き取った十字架の足元にもいた。
10. こうして彼女は、人間の母としての使命を果たし、すべての母たち、そしてすべての人々に崇高な模範を示した。（360, 28-31）

マリアとイエス

11. 人々はしばしば、なぜイエスは、十字架にかけられた後であっても、罪人であるマグダラのマリアに姿を見せ、その後弟子たちを訪ねたのに、一方で、母を訪ねたという話は何も聞かれないのか、と疑問に思ってきた。 それに対し、私はこう言おう。マリアの前で、あの人々の前と同じように私を現す必要はなかったのだ。なぜなら、キリストとマリアとの絆は、世界が造られる前から、常に存在していたからである。
12. 私は、罪人を救うために、イエスを通して人類に御自身を現し、また、私を必要とする者たちの信仰を奮い立たせるために、十字架の後に彼らに御自身を見せたのである。 しかし、まことに、あなたがたに告げる。マリア――人間として私の愛す

る母――は、いかなる汚れからも清められる必要などなかった。また、彼女は、母なる胎をキリストに捧げる前から、キリストが誰であるかを知っていたのだから、信仰に欠けることなどあり得なかったのだ。
13. 彼女が、私をその胎内に宿したのと同じ清らかさと柔和さをもって、私を私が来たところの御国へと返してくれた彼女を訪ねるために、私の霊を人間化する必要はなかった。しかし、私が彼女の孤独の中で彼女に語りかけた方法や、私の霊が彼女を包んだ神聖な愛撫を、誰が知ることができただろうか。
14. イエスが最初に母を訪ねるべきだったとよく考えていた人々に対し、私はこのように答える。
15. 私がマリアに現れた形は、マグダラのマリアや弟子たちに私の存在を感じさせるために用いた方法とは、どれほど異なっていたことか。（30, 17-21）

マリアの処女性

16. 主がおられる山の頂上には、普遍的な母であるマリアもいます。彼女は、「第二の時代」において、「神の言葉」の受肉の奇跡が現実となるために、女性となった方です。
17. 人間は、マリアや、イエスがこの世に生を受けた方法について、しばしば裁き、探求してきた。そして、それらの裁きは、その心が自らの血をこの世に注ぎ出した、母なる霊の清らかさの衣を引き裂いてしまった。
18. 私はこの時代、不信仰者の疑いを払拭し、霊的な教えの知識を与えるために、未知なるもののベールを取り除いた。
19. 人々は、道のような私の真理から多くの脇道を作り出し、そのほとんどで迷い道へと迷い込んでいる。ある者は天の母の執り成しを求め、またある者は彼女を誤解しているが、彼女の愛と慈しみのマントは、すべての人を永遠に包み込んでいる。
20. 太古の昔から、私は、預言者たちが彼女の誕生以前から語っていた霊的な母の存在を明らかにしてきた。（228, 1-5）
21. マリアは、その徳、模範、そして完全なる神性を明らかにするために遣わされた。彼女は、人間の中にある他の女性たちのような女性ではなかった。彼女は、他とは異なる性質を持つ女性であり、世界は彼女の生涯を見つめ、彼女の考え方や感じ方を知り、彼女の魂と身体の清らかさと優雅さを知っていた。
22. 彼女は、質素、謙遜、無私、そして愛の模範である。しかし、彼女の人生が当時の人々や後世の人々に知られていたにもかかわらず、彼女の徳や処女性を認めない者は多い。彼らは、彼女が処女でありながら母でもあったという事実を説明できないのだ。 その理由は、人間は本来、不信仰であり、目覚めた精神をもって神の御業を判断する

ことができないからである。もし聖書を研究し、マリアの受肉と彼女の先祖の生涯を深く探求すれば、やがて彼女が誰であるかを知るだろう。（221，3）
23. 神の被造物に対する最も優しい愛には形がない*。それにもかかわらず、第二の時代において、その愛はイエスの母マリアという女性の姿をとった。
＊したがって、マリアの御出現で知られるマリアの姿は、一時的にとられた霊的な顕現の姿としてのみ捉えるべきである。
24. マリアの本質、すなわち彼女の愛と優しさは、常に神性の中に存在していたのだから、マリアは常に存在していたのだと理解せよ。
25. 人々はマリアについて、どれほど多くの説や誤りを生み出してきたことか！彼女の母性、受胎、そして清らかさについて。その過程で、彼らはどれほど冒涜的なことを口にしてきたことか！
26. 彼らがその清らかさを真に理解するその日、彼らはこう言うだろう。「我々は生まれてこなかった方がましだった」と。火の涙が彼らの魂の中で燃え上がるだろう。 その時、マリアは彼らをその恵みで包み込み、神の母はマントで彼らを守り、父は彼らを赦し、無限の愛をもってこう言われるだろう。「目を覚まし、祈りなさい。わたしはあなた方を赦す。そして、あなた方を通して、わたしは世界を赦し、祝福する。」（171，69-72）

女性のためのマリアの模範

27. あなたがたの師の生涯は、すべての人々にとっての模範である。しかし、女性には母としての役割についての教えが欠けていたため、神の慈愛の体現者であるマリアが彼女たちに遣わされた。マリアは、人間の中に女性として現れ、あなたがたにも同様に、謙遜という神聖な模範を示してくれたのである。（101，58）
28. 祝福された女性たちよ。あなた方もまた、私の使徒の群れの一員である。肉体的には異なっており、双方の役割も異なるが、男性の精神とあなた方の精神との間に違いはない。
29. イエスをあなたがたの霊の師として受け入れ、その愛が示した道を歩みなさい。その言葉を自分のものとし、その十字架を抱きしめなさい。
30. あなたがたは霊的に等しいので、私は男性たちに語るのと同じ言葉で、あなたがたの霊に語りかける。しかし、もしあなたがたの女性の心が、模範として追随すべきものを求めているなら、もしあなたがたが人生において完全になるための支えとして、完全な模範を必要としているなら、マリアを思い出し、彼女が地上で過ごした生涯全体を観察しなさい。

31. マリアの謙虚な生涯を、彼女の活動期間を通じて彼女を知り、彼女と語り合った私の弟子たちが書き記すこと、それが父の御心であった。
32. その生涯――知る者にとっては謙虚なものだが――は、誕生からこの世での最期に至るまで輝かしいものであった。 マリアは、その謙虚な精神、限りない優しさ、心の清らかさ、そして人類への愛をもって、多くの慈愛に満ちた教えのページを綴った。彼女は、人々に語りかけるべき方はキリストであることを知っていたため、言葉よりも沈黙をもってそれを表現した。
33. マリアの精神は、父から発せられた母性愛そのものであり、人類に謙虚さ、従順、そしてな柔和さの完全なる模範を示すためのものであった。彼女がこの世を歩んだ道は、光の軌跡であった。彼女の生涯は質素であり、威厳に満ち、清らかであった。彼女の中に、メシアが処女から生まれると予告した預言が成就したのである。
34. 彼女だけがその胎内に神の種を宿すことができた。彼女だけが、イエスに対する使命を果たした後、人類の霊的な母としてこの世に残るにふさわしい存在であった。
35. それゆえ、マリアは、女性たちよ、あなた方の完全なる模範である。しかし、彼女に心を向け、彼女の沈黙、謙遜の行い、困窮する者たちへの愛による限りない自己犠牲、静かな苦しみ、すべてを赦す思いやり、そして執り成し、慰め、そして優しい助けとなる愛において、彼女を模範とせよ。
36. 処女たち、妻たち、母たち、親のない少女たち、あるいは未亡人たち、孤独な女性たち、あなたがたは痛みに満ちた心を抱いている――マリアを、あなたがたの愛情深く思いやりのある母と呼び、心の中で彼女を呼び求め、霊において彼女を受け入れ、心の中で彼女を感じなさい。（225, 46-54）

人々の執り成し手、慰め手、そして共同の救い主としてのマリア

37. マリアは静かにこの世を歩みましたが、人々の心を平安で満たし、困窮する者たちのために執り成し、すべての人々のために祈り、そして最後に、人々の無知と悪に対して、赦しと憐れみの涙を流されました。 あなたがたが主のもとに来たいと願うなら、なぜマリアに頼らないのか。あなたがたは彼女を通してイエスを受け入れたではないか。救い主の死の瞬間に、母と子は一つになっていなかったか。その瞬間、子の血は母の涙と混ざり合わなかったか。（8, 47）
38. 私は十字架の上から、この世に「いのちと霊的な知恵の書」を遺した。それは、何世紀に

もわたり、時代や時代を経て、人々によって解釈され、理解されるべき書である。 それゆえ、私は十字架の足元で悲しみに打ちひしがれているマリアにこう言った。「女よ、これがあなたの息子だ」と。そのとき、私はヨハネの方を見据えていた。彼はその瞬間、人類を体現していたが、それはキリストの良き弟子へと変容した人類、すなわち霊化された人類であった。

39. また、ヨハネに対しても、私は「子よ、これがあなたの母である」と語りかけた。この言葉について、今、あなたがたに説明しよう。

40. マリアは、清らかさ、従順、信仰、優しさ、そして謙遜を体現していた。これらの美徳の一つひとつは、私がこの世に降りてきて、あの聖なる清らかな女性の胎内で人間となるために登った梯子の段である。

41. その慈愛、その清らかさ、そして愛こそが、命の種が受精する神聖な胎内である。

42. 私が人間となり、私の子供たちと共に住むために、あなたがたのもとへ降りてきたその梯子は、あなたがたが人間から光の霊へと変容し、その梯子を登って私のもとへ上るために、私があなたがたに差し出すものと同じものである。

43. マリアは梯子であり、マリアは母なる胎内である。彼女に身を委ねよ。そうすれば、あなたは私に出会うだろう。（320, 68-73）

44. 私は、十字架の足元、すなわち私の血と母の涙を受け止めたその高台に、マリアをあなた方のために残した。彼女はそこで子供たちを待ち続けた。なぜなら、十字架を彼らの肩から取り除き、天への道を彼らに示すのは、彼女であるからだ。（94, 73）

45. マリアのメッセージは、慰め、慈愛に満ちた配慮、謙遜、そして希望のメッセージであった。彼女は、その母性的な本質を世に知らしめ、その処女の胎を捧げるために、この地上に来なければならなかった。それは、その胎の中で「御言葉」が人となるためであった。

46. しかし、彼女の使命は地上だけで終わったわけではない。この世の彼方に、彼女の真の故郷があった。そこから彼女は、すべての子供たちの上に思いやりと慈愛の外套を広げ、迷える者たちの歩みを追いかけ、苦しむ者たちに天の慰めを注ぐことができるのである。

47. マリアが、一人の女性として人間となり、神聖な使命を果たすためにこの世に生まれる何世紀も前に、神の預言者が彼女を予告していた。その預言者を通して、あなたがたは、ある処女が息子を宿し、産むこと、そしてその子が「インマヌエル」、すなわち「神は我々と共にお

られる」と呼ばれることを知ったのである。
48. 天の母なる愛の御霊が降りた、汚れなき女性マリアにおいて、預言者によって告げられた神の約束は成就した。
49. それ以来、世界は彼女を知り、人々や諸民族は愛を込めてその名を口にし、苦しみの中で彼女を母として慕っている。
50. あなたがたは彼女を「悲しみの母」と呼ぶ。なぜなら、世界が彼女の心に苦痛の剣を突き刺したことを知っているからであり、その悲しみに満ちた御顔と、限りない悲嘆の表情が、あなたがたの想像の世界から消えることはないからだ。
51. 今日、私はあなたがたに、その絶え間ない苦痛のイメージを心から取り除き、その代わりに、霊的に働き、すべての子供たちが師が示した道に沿って向上できるよう助けてくださる、慈愛に満ち、微笑み、愛に溢れた母としてのマリアを思い描くべきだと告げたい。
52. さて、マリアの使命が地上の母性だけに限定されていたのではないことを、今、お分かりになっただろうか。また、「第二の時代」における彼女の顕現だけが唯一のものであったわけではなく、彼女には新たな時代が用意されており、そこでは彼女が霊から霊へと人々に語りかけることになるのだ。
53. 私の弟子ヨハネは、預言者であり先見者であり、恍惚の中で、太陽に身を包んだ女性、光に満ちて輝く処女を見た。
54. この女、この処女こそがマリアであり、彼女はもはや新たな救い主を胎内に宿すのではなく、愛と信仰と謙遜に養われ、あらゆる完全さの師であるキリストの神聖な足跡に従うために、彼女の中に宿る全人類を宿すことになる。
55. 預言者は、その女性がまるで出産するかのように苦しんでいるのを見た。しかし、その痛みは、人々の清め、魂の贖罪によるものであった。その痛みが過ぎ去れば、魂は光に満ち、喜びがあなたがたの普遍の母の霊を満たすであろう。（140, 44-52）

マリアの神性

56. あなたがたの天の母のマントは、永遠の昔から世界に影を落とし、私の子供たち、すなわち彼女の子供たちをも慈愛をもって守ってきた。霊としてのマリアは、この世に生まれたのではない。彼女の母性的な本質は、常に私の一部であった。
57. 彼女は、私の清らかさ、私の聖性の配偶者である。彼女は、女性となった時には私の娘であり、「受肉した御言葉」を宿した時には私の母であった。（141, 63-64）
58. マリアはその本質において神聖であり、その霊は父と子と一つである。それなのに、なぜ人々は彼女を人間的な基準で判

断するのか。彼女は、太古の昔から「神の言葉」が受肉する純粋な被造物として人類に予告されていた、選ばれた娘であったではないか。
59. それなのに、なぜ人間は冒涜し、私の力を疑い、敬意もなく私の業を探ろうとするのか。その理由は、人間が私の神聖な教えに深く入り込まず、聖書が何を語っているかを考えず、また私の御心に従わないからである。
60. 今日、「第三の時代」において、人間は同様に、マリアが人々に現れることさえ疑っている。しかし、私はあなたがたに告げる。彼女は私のすべての業に参与しているのだ。なぜなら、彼女は私の神聖な霊に宿る、最も優しい愛の具現化だからである。（221, 4-6）
61. マリアは、神性とその一体となり、その一つの側面を成す霊である。それは、父、御言葉、聖霊の光という三つの啓示の形態が示す通りである。この意味で、マリアは神の慈愛を現し、体現する神の霊そのものである。（352, 76）
62. 多くの人々は、至高の天国にたどり着き、マリアと出会うことを望んでいる。彼らはマリアを、この世で人となったキリストの母として、かつてこの世にいた女性として、また、玉座に坐す美しく力強い女王として、常に人間の姿で思い描いている。
63. しかし、私はあなたがたに告げる。もはや、あなたがたの心の中で神聖なものに形を与えるべきではない。 マリア、すなわちあなたがたの霊的な母は存在している。しかし、彼女は 、女性の姿でも、いかなる他の姿でもなく、ただ聖なる、慈愛に満ちた優しさそのものであり、その慈悲は無限に広がっている。彼女は魂の中で統治しているが、その統治は謙遜と慈悲と清らかさによるものである。しかし、彼女が人間の想像するような玉座を持っているわけではない。
64. 彼女は美しいが、その美しさは、あなたがたが最も美しい顔をもってしても想像することさえできないものである。彼女の美しさは天的なものであり、あなたがたは決してその天的なものを理解することはできないだろう。（263, 30）

マリアの普遍的な輝き

65. マリア、すなわちあなたがたの普遍的な母は、私の中に生きており、その最愛の子供たちに最も優しい愛撫を注いでいる。彼女はあなたがたの心の中にあり、そこに彼女の平安と聖域としての備えを残していった。マリアは世界を見守り、ヒバリのようにその翼を広げ、世界の端から端まで守っている。（145, 10）
66. わたしの神性の中には、執り成す愛が宿っている。それは

マリアである。信仰に心を閉ざしていたどれほど多くの心が、彼女を通して悔い改めと愛へと開かれたことか！彼女の母性的な存在は全被造物の中に遍在し、すべての人によって感じられている。それにもかかわらず、目が見えているにもかかわらず、それを否定する者もいる。（110, 62）

67. マリアの神聖な母性を否定する者は、神性が人類に与えた最も美しい啓示の一つを否定しているのだ。

68. キリストの神性を認めながらマリアを否定する者たちは、私の神性の中に存在する、最も繊細で愛らしい性質を自ら放棄していることに気づいていない。

69. 聖書を知っていると信じているのに、何も理解していないために何も知らない者は、どれほど多いことか。また、創造の言葉を解き明かしたと思い込んでいるにもかかわらず、誤った生き方をしている者は、どれほど多いことか。

70. 母なる霊は、あらゆる存在の中で愛をもって働いている。その姿は至る所に見出すことができる。 その神聖な母の愛は、祝福された種としてすべての被造物の心に蒔かれ、自然のあらゆる領域がその生きた証であり、すべての母の心はその偉大なる愛のために築かれた祭壇である。マリアは神聖な花であり、その実がイエスであった。（115, 15-18）

第21章 - 神の全能、遍在、そして正義

神の力

1. 現代の人間は、そのすべての科学をもってしても、自然の要素を自らの意志に従わせることができない。それならば、どうしてその力を霊的な力に強いることができるだろうか。

2. 宇宙の天体が、人間の意志によってその軌道や運命を変えさせることなく、不変の秩序に従っているのと同様に、霊界に存在する秩序も、誰によっても変えることはできない。

3. 私は昼と夜を創造した。すなわち、私は光であり、私以外の誰もそれを遮ることはできない。霊的な世界についても、同じことが言える。（329, 31-33）

4. もしあなたがたがわたしを信じるならば、わたしの力は人間の罪よりも無限に大きいこと、そしてそれゆえ、罪が真理と正義の光の前に退くやいなや、人間とその人生は変容せざるを得ないことを、確信してよい。

5. もし人々が神の御心を行うようになったら、この世での生活がどのようなものになるか、想像できるだろうか。（88, 59-60）

6. 私にとって、人間の悔い改め、その再生、そして救いが不可能であるはずがない。もしそうならば、私は全能ではなく、人間の方が私よりも強くなってしまおう。あなたがたは、私の力を、人間の中に宿る悪が持つ力よりも劣っていると考えているのか。人間の中の闇を、神の光よりも優れていると見なしているのか。決してそうではない！と、あなたがたの心は私に告げよ。

7. よく考えなさい。私の使命は、あなた方に存在を与えた後、あなた方を完全へと導き、あなた方すべてをひとつの霊的な家族として一つに結ぶことである。そして、私の御心は、いかなるものをも超えて成就することを忘れてはならない。

8. わたし、神なる種蒔き人は、愛の種を、気づかれないようにすべての魂に蒔く。この種が全人類の中でいつ発芽するかは、わたしだけが知っている。そして、わたしの業の果実を、限りない忍耐をもって待ち続けることができるのも、わたしだけである。（272, 17-19）

9. 私は、私の偉大さによってあなた方を卑下させたり、それを誇示したりするつもりはない。しかし、私の意志の及ぶ限り、それをあなた方に示す。それは、全能、全知、そして完全なる神を父として持つことへの至高の喜びを、あなた方が感じられるようにするためである。

10. あなたがたは、私の力の限界を決して目にすることはないこと、そして、あなたがたの魂の発達が深まるほど、私をよりよく知ることになるという考えに喜びを見出してください。主の偉大さに決して及ばないことを知ることに対して、誰が同意しないというのでしょうか。 あなたがたは、地上で、自分の地上の父に比べて年下であることを、受け入れなかっただろうか。あなたがたは、父に経験と権威を喜んで認めていなかっただろうか。自分よりも に強く、誇り高く、勇敢で、美徳に満ちた男性を父として持つことを、喜ばなかっただろうか。（73, 41-42）

11. 私の力に比べれば、人間の力など何の意味があるだろうか。物質主義的な民族の反抗など、霊化の無限の力に対して何ができるというのか。何もない！

12. 私は、人間が権力への欲望の限界まで、そして傲慢の頂点まで至ることを許した。それは、父から授けられた自由意志という賜物が真実であることを、彼自身が悟るためである。

13. しかし、人間がその限界に達したとき、彼は光と愛に目を開き、唯一の絶対的な力、そして唯一の普遍的な知恵、すなわちあなたがたの神のものであるものに打ち負かされ、私の御前にひれ伏すことになる。（192, 53）

すべての被造物における神の臨在

14. 私は、無限の中に住まう特定の、あるいは限定された場所など持っていない。なぜなら、私の臨在は、神聖なもの、霊的なもの、物質的なものを問わず、存在するすべてのものの中にあるからである。 あなたがたは、私の王国がどの方向にあるかと言うことはできない。そして、もしあなたがたが視線を高く上げ、天に向けるとしても、それはあくまで象徴的なものに過ぎない。なぜなら、あなたがたの惑星は絶えず回転しており、その動きごとに、新たな天の領域と新たな高みをあなたがたに提示しているからである。

15. これらすべてを通して、私はあなたがたに、あなたがたと私の間には距離などないこと、そして、あなたがたを私から隔てている唯一のものは、私の完全な律法とあなたがたの精神の間に立ちはだかる、あなたがたの許されない行いであることを伝えたいのだ。

16. あなたがたの清らかさが大きければ大きいほど、あなたがたの行いが高潔であればあるほど、そしてあなたがたの信仰が堅固であればあるほど、あなたがたは私をより近く、より親密に、そして祈りに応える存在として感じるようになるだろう。

17. 同様に、善、正義、許されたものから遠ざかり、暗く利己的な生活の物質主義に身を委ねれば委ねるほど、私を自分からますます遠く感じざるを得なくなるだろう。あなたがたの心が私の律法の成就から遠ざかれば遠ざかるほど、私の神聖な臨在に対して鈍感になっていく。

18. なぜ私がこの時代に、この形で御言葉を告げ、霊と霊との対話に備えさせているのか、理解しなさい。

19. あなたがたは、わたしを無限に遠い存在だと信じていたため、わたしのもとに来ることを理解できなかった。わたしは、あなたがたにわたしの神聖な臨在を実感させ、父と子供たちの間には、彼らを隔てる空間も距離も存在しないことを証明するために、あなたがたを訪ねたのである。（37, 27-32）

20. もしあなたがたが、私が自らを現すために玉座を離れたと考えているなら、それは誤りである。なぜなら、あなたがたがに思い描いているその玉座は、存在しないからだ。玉座などというのは、虚栄心と傲慢に満ちた人間のためのものに過ぎない。

21. わが霊は無限にして全能であるゆえ、特定の場所に留まることはない。霊は至る所、あらゆる場所に、霊的な世界にも物質的な世界にも遍在している。それならば、あなたがたが私に帰するその玉座は、いったいどこにあるというのか。

22. 地上にあるような玉座に、物質的な肉体という形を私に与えるのをやめなさい。あなたがたがいつも私に与えている人間の姿から私を解放しなさい。あなたがたの人間的な知性では理解し得ない天国を夢見るのをやめなさい。 もしあなたがたがこれらすべてから解放されれば、それはあたかも、あなたがたを縛っていた鎖が断ち切られたかのようであり、あたかも、あなたがたの目の前の高い壁が崩れ落ちたかのようであり、あたかも、濃い霧が晴れ、あなたがたに、境界のない地平線と、無限で輝く大空を、しかしあなたがたの精神にはアクセス可能なものとして見せてくれるかのようになるだろう。

23. ある者は「神は天におられる」と言い、またある者は「神は来世におられる」と言う。 しかし、彼らは自分が何を言っているのかを知らず、自分が何を信じているのかも理解していない。確かに、私は天に「住まう」が、あなたがたが想像するような特定の場所ではない。私は、光と力と愛と知恵と正義と至福と完全性の天に住まうのである。（130, 30, 35-36）

24. 私の遍在は万物を満たしており、宇宙のいかなる場所や生息域にも空虚はなく、すべてが私によって貫かれている。（309, 3）

25. 私は、あなたがたに、私がそれほど近くにいること、あなたがたの思考の最も秘められた部分さえも知っていること、私が遍在するゆえにあなたがたがいるところならどこにでもいることを告げた。私は、霊感や光に満ちた考えによって、あなたがたの知性を照らす光である。

26. 私はあなたがたの中にいる。なぜなら、私はあなたがたに魂を吹き込む霊であり、あなたがたを裁く良心だからである。私はあなたがたの感覚と肉体の中にいる。なぜなら、私は全創造物の中にいるからである。

27. あなたがた自身の中、そして周囲のあらゆるものの中に、私をますます感じなさい。そうすれば、この世を去る時が来たとき、あなたがたは完全に霊的な生活へと入り、感覚の世界が残すかもしれない印象によって魂が乱されることなく、また、あなたがたが永遠に飲み続ける無限の清らかさの源である私に、さらに一歩近づくことができるのです。（180, 50-52）

28. 声の担い手の唇から語られる言葉に含まれている、あの光の源が何であるか、知っていますか？その源は、善、神の愛、神から発せられる普遍的な光にあります。 それは、あなた方に命を与える、その輝ける全存在の一筋の光、あるいは一粒の火花であり、万物を動かし、その下で万物が振動し、動き、絶え間なくその軌道を描く無限の力の一部である。それは、あなた方が神聖な な輝きと呼ぶもので

あり、魂を照らし、活気づける神聖な霊の光である。

29. その輝きは、魂にも身体にも、世界にも、そして人間や植物、創造のあらゆる存在にも影響を及ぼす。 それは霊にとって霊であり、物質にとって物質であり、知性にとって知性であり、心にとって愛である。それは知識であり、才能であり、内省であり、本能であり、直感であり、あらゆる存在の感覚の上に、その秩序、性質、種類、そして発達段階に従って存在している。 しかし、その起源はただ一つ、神であり、その本質もただ一つ、愛である。それゆえ、私がこれらの被造物の知性を啓発し、あなた方に霊的な光のメッセージを送ることのどこに不可能なことがあるだろうか。

30. 植物は、実を結ぶために、私の霊が送る生命の光を受け取っている。星々は、その軌道上を巡るために、私の霊が放つ力を受け取っている。 今この瞬間、生き生きとした証であり、あなたがたのあらゆる感覚に開かれているこの地球は、その胎内から数多くの奇跡を生み出す生命の放射を絶えず受け取っている。 それならば、その存在の中に、私との類似性の根源である霊の存在が宝石のように輝いている人間が、私の霊から直接、その霊へと、彼の中で実を結ぶべき霊的な種である神聖な放射を受け取ることは、どうして不可能であるというのか？（329, 42-44）

31. あなたがたの嘆きの声は、天において一つとして聞き逃されることはない。あらゆる祈りは、わたしの中にその響きを見出す。あなたがたの苦難や人生の危機は、父なる愛によって見過ごされることはない。280 第21章 わたしはすべてを知り、聞き、見ており、すべてのことに存在している。

32. 人々は、自分たちの罪のために私が彼らから身を引いたのだと思い込んでいるが、その結果、彼らはついに私から遠く離れていると感じてしまう。ああ、人間の無知よ、それは彼らの唇にどれほどの苦味を帯びさせたことか！ もし私が、私の被造物の一人からでも離れることがあれば、その者は即座に存在しなくなることを知れ。しかし、そのようなことは起こらなかったし、これからも起こらない。なぜなら、私があなた方に霊を与えたとき、私はあなた方すべてに永遠の命を与えたからである。（108, 44-45）

運命の試練

33. あなた方や全人類を苦しめる試練を呪ってはならない。それらが神の罰、怒り、あるいは復讐であるなどと言ってはならない。そうすれば、あなたは冒涜することになるからだ。私はあなたに告げる。まさにこれらの試練こそが、人類を救いの港

へとますます近づけるのである。

34. それらを正義、贖罪、あるいは教訓と呼べば、それは的確かつ正しいことになる。 怒りと復讐は、 魂の平安、調和、そして完全さからまだ遠く離れた者たちに特有の、人間的な情熱である。私のすべての業を決定づける、あなた方への私の愛に、下品な「罰」という名や、不名誉な「復讐」という名をつけることは、公正ではない。

35. あなたがたは自ら進んで茨の道や暗い深淵へと足を踏み入れ、私の愛に満ちた呼びかけにも、良心の声にも耳を傾けなかったことを思いなさい。それゆえ、痛みが助けとして現れ、あなたがたを目覚めさせ、立ち止まらせ、正気に戻し、真の道へと立ち返らせる必要が生じたのである。 (181, 6-8)

36. わたしはあなた方を罰するのではない。しかし、わたしは正義そのものであり、その正義として、わたしの戒めに背く者すべてに、その正義を感じさせるのだ。なぜなら、永遠なる方は、誰も変えることのできないその律法をあなた方に明らかにされたからである。

37. 人が重い試練に直面し、計り知れない深淵に落ち、愛する者を失って妻が泣き、子供たちが生計の手段を奪われ、家庭が悲惨と苦難に沈んでいくのを見る時、その人がいかに嘆くかを見よ。 彼は自身の不幸に打ちのめされ、絶望する。しかし、祈り、自分の罪を悔い改める代わりに、彼はわたしに反抗し、「どうして神は、このようにわたしを懲らしめるのか」と言う。その一方で、神聖なる御霊は、実のところ、御子らの苦しみゆえに同様に涙を流しておられる。そして、その涙は、愛と赦しと命の血である。

38. まことに、わたしはあなたがたに告げる。人類が到達した発展の段階ゆえに、この時代における彼らの状況の改善は、わたしの慈悲だけに依存するものではない。それは彼ら自身の犠牲によるものであり、わたしの罰によるものではない。なぜなら、わたしの律法と光は、あらゆる良心の中に輝いているからである。

39. わたしの正義は、あらゆる雑草*を根こそぎ引き抜くために降りてくる。そして、自然の力さえも、この正義の執行者として現れる。そうすると、すべてが人間を根絶やしにしようと結託しているかのように見えるが、それは実は人間の浄化のためである。 しかし、ある人々はこれに惑わされ、「これほど大きな苦痛に耐えなければならないのなら、そもそもなぜ私たちはこの世に生まれてきたのか」と言う。彼らは、その苦痛と罪が私から来るものではないことを考えもせずに。

＊ キリストの別の類似した言葉からは、この「雑草」とは人間

そのものを指すのではなく、彼らの邪悪で堕落した衝動や性向を指していることが分かる。

40. 人間は、正義とは何か、贖罪とは何かについて無知のままであることに対して責任を負っている。それゆえ、まず反抗が生じ、その後に冒涜が生じるのである。わたしの教えを深く探求し、わたしの律法を守る者だけが、もはやその父を非難することはできなくなる。（242, 19-21）

神の正義

41. あなたがたは、時として、あまりにも枯れ、病んだ枝を持つ低木のようなものである。それらは、再び健康を取り戻すために、病んだ部分を取り除くという痛みを伴う剪定を必要とする。

42. 私の愛の正義が、人の木からその心を傷つける病んだ枝を取り除けば、その人は立ち直る。

43. もし人の体の肢を切り落とさなければならない時、たとえそれが、病んでいるもの、死んでいるもの、そしてまだ生き得るものを脅かしているものを取り除くためだと分かっていても、その人はため息をつき、震え、臆病になる。

44. バラもまた、剪定されるときには、痛みの涙のようにその生命の雫を流すが、その後、最も美しい花で身を飾る。

45. わたしの愛は、はるかに高い次元において、わたしの子供たちの心にある悪を切り取り、その際、時にはわたし自身をも犠牲にする。

46. 人々が私を十字架につけたとき、私は自分の慈悲と赦しをもって、私を処刑した者たちを包み込み、彼らに命を与えた。私の言葉と沈黙によって、私は彼らを光で満たし、守り、救った。こうして私は悪を切り取り、私の愛によってそれを退け、悪を行う者を守り、救うのである。それらの赦しは、かつてそうであったように、今も、そして永遠に、救いの源であり続けるであろう。（248, 5）

47. わたしは、あなたがたの過ちの重さよりも重い裁きを、あなたがたに下すことはできない。それゆえ、あなたがたはわたしを恐れる必要はなく、むしろ自分自身を恐れるべきであると、わたしは告げる。

48. あなたがたの過ちの重さ、その大きさ、そしてその意味を、私だけが知っている。 人々は常に外見に惑わされる。なぜなら、彼らは隣人の心の中を見通すことができないからだ。しかし、私は心の中を見通すことができる。そして、重大な過ちを犯したと自白し、私を侮辱したことを深く悔い改めた人々が私のところに来たが、私は彼らを清い者と認めた、とあなたに告げることができる。 それとは対照的に、他の人々はやって来て

、誰に対しても悪事を働いたことは一度もないと私に言ったが、私は彼らが嘘をついていることを知っていた。なぜなら、彼らの手は隣人の血で汚れてはいなかったとしても、彼らが命を奪うよう命じた犠牲者たちの血が、彼らの魂に降り注いでいたからである。 彼らは、石を投げながらその手を隠している者たちである。私が啓示の中で「臆病者」「偽者」「裏切り者」という言葉を発すると、彼らの全存在が震え上がり、しばしば彼らは、自分たちを裁く視線を感じたために、私の教えの場から立ち去った。（159, 42-43）

49. もし神の正義の中に父の最大の愛が存在せず、もしその正義がこの源を持たなかったならば、この人類はもはや存在していなかったであろう。彼らの罪と絶え間ない過ち（ ）は、神の忍耐を尽きさせていたはずである。しかし、そのようなことは起こらなかった。 人類は生き続け、魂たちは依然として転生しており、一歩一歩、あらゆる人間の行いにおいて、愛であり無限の慈悲である私の正義が示されている。（258, 3）

50. 私の言葉を深く探求しなさい。そうすれば、多くの者たちのように、私が些細な過ちを犯した者たちを力強く罰し、それに対して、一見すると重大な罪を犯した者たちを赦しているように見えるとき、私の神聖な正義の行いに惑わされることはないだろう。

51. 主はあなたがたにこう言われる。一見、軽微な過ちを犯した者にのみ、私が力を持って報復するのは、私が魂の弱さを知っているからであり、もし彼らが律法を遵守する道から逸脱すれば、それが彼らを破滅へと導く第一歩となり得るからだ。 しかし、私が他者の重大な過ちを見逃すのは、大きな過ちこそが、魂にとってそれに見合うほどの大きな悔恨の理由となることを知っているからである。

52. 裁いてはならない、断罪してはならない。ましてや、人々の間で流血を引き起こす者たちに、私の正義が下ることを、心の中でさえ願ってはならない。彼らもまた、あなた方と同様に私の子供であり、私の被造物であることをただ思いなさい。そして、彼らは自らの大きな罪を、大きな贖罪によって償わなければならないのだ。 まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたが指をさして、「平和を容赦なく破壊し、あなたがたを混沌へと突き落とした者たち」と呼ぶ者たちこそが、来るべき時代において、偉大な平和の使者となり、人類の偉大な恩人となるのである。

53. 数百万の犠牲者の血が、地から私の神聖な正義を求めて叫んでいる。しかし、人間の司法を超えて、あらゆる魂、あらゆ

る心に届くのは、私の正義である。

54. 人間の裁きは、赦さず、救わず、愛さない。しかし、私の裁きは愛し、赦し、救い、新たな命へと目覚めさせ、高め、照らす。 そして、まさに人類にこれほど多くの苦痛をもたらした者たちを、私は贖い、救うであろう。彼らを、その大きな贖罪の道を通らせることによって。それは、彼らが清められ、良心の声に完全に目覚め、自らの行いの最も深い底まで見通せるようになるための、試練の炉となるであろう。 私は彼らに、彼らが犠牲者たち、すなわち彼らの民を歩ませたのと同じ道を歩ませる。しかし、最終的には、彼らは魂の清らかさを手に入れ、地上に戻り、破壊されたすべてを再建し、荒廃したすべてを回復することができるようになるだろう。（309, 16-18）

55. あなたがたは、死が訪れる時になって初めて父があなたがたを裁くのではなく、あなたがたが自分の行いに気づき、良心の呼びかけを感じた瞬間に、この裁きが始まることを知らなければならない。

56. わたしの裁きは常にあなた方の上にある。人間生活であれ、霊的生活であれ、一歩一歩、あなた方はわたしの裁きに服している。しかし、この世において、肉体の殻の中にいるとき、魂は良心の呼びかけに対して鈍感になり、耳を塞いでしまう。

57. 私があなた方を裁くのは、あなた方の目を光に向けて開かせ、罪から解放し、苦しみから救い出すためである。

58. 私の裁きにおいて、私が決して考慮しないのは、あなたがたが私に対して犯したかもしれない侮辱である。なぜなら、私の裁きには、恨みも、復讐も、ましてや罰さえも現れないからである。

59. もし痛みがあなたの心に突き刺さり、最も敏感な場所に突き当たるならば、それはあなたが犯している何らかの過ちを指摘し、私の教えを理解させ、新しく賢明な教訓を与えるためである。これらの試練の根底には、常に私の愛が存在している。

60. ある場合には、私はあなたがたに試練の原因を理解することを許したが、またある場合には、あなたがたは私の正義によるその警告の意味を見いだせない。それは、父の御業とあなたがたの魂の生活の中に、人間の知性では解き明かすことのできない深い神秘があるからである。（23, 13-17）

61. 「あなたがたが量るその尺度で、あなたがたも量られる」と言われた時代は遠い過去のものとなった。この地上で復讐を果たし、隣人愛のあらゆる感情を脇に押しやるために、その法則がどれほど頻繁に利用されてきたことか！

62. 今、私はあなたがたに告げる。私はこの正義の尺を取り上

げ、あなたがたが測ったのと同じ尺度で、あなたがたを測るつもりである。ただし、私のあらゆる裁きには、あなたがたを深く愛しておられる父と、あなたがたを救うために来られた救い主が臨在されることを、付け加えて説明しておかなければならない。

63. 人間こそが、その行いによって自らに裁きを下す者であり、時には恐ろしい裁きを下すこともある。そして、あなたがたが贖罪に耐えうる道を見出せるよう、助けを与えてくださる方は、あなたがたの主である。

64. まことに、あなたがたに告げる。もしあまりにも痛ましい贖いを避けたいと望むなら、時宜を得て悔い改め、心からの刷新によって、兄弟たちへの愛と慈悲の行いをもって、あなたの人生に新たな方向性を与えなさい。

65. 私が救いの門であることを理解せよ。それは、真の信仰をもって私を求めるすべての人々のために、決して閉ざされることのない門である。（23, 19-23）

66. さて、神の正義は愛によって成り立っていることがお分かりだろう。あなたがたのそれのような罰によるものではない。もし私が、あなたがた自身の法律を用いて、あなたがたを裁くとしたら――外見や偽りの弁明など一切通用しない私の前で――あなたがたはどうなるだろうか。

67. もし私が、あなたがたの悪に従って裁き、あなたがたの恐ろしく厳しい法律を適用したとしたら、あなたがたはどうなるだろうか。そうすれば、あなたがたは当然、私に慈悲を施すよう懇願するだろう。

68. しかし、あなたがたは恐れる必要はない。なぜなら、私の愛は決して枯れることも、変わることも、消え去ることもないからだ。それに対し、あなたがたは必ず滅び、死んでまた生まれ変わり、去ってはまた戻ってくる。そうして、あなたがたは巡礼の道を歩み続けるのだ。やがて、あなたがたが父を認識し、その神聖な律法に従う日が来るまで。（17, 53）

第22章 - 神の愛、慈しみ、そして恵み

天の父の愛

1. あなたがたが罪を犯しているにもかかわらず、私の愛がどこへでもあなたたちを追いかけてくることを不思議に思うな。あなたがたは皆、私の子供たちである。この世において、あなたがたは両親の愛の中に、神の愛の写しを見てきた。あなたがたは両親に背を向け、その権威を認めず、その命令に従わず、その助言に耳を貸さないかもしれ

ない。 あなたがたは、その悪しき行いによって彼らの心に傷を負わせ、彼らの目を涙で乾ききらせ、こめかみに白髪を生やし、その顔を苦しみの跡で刻みつけるかもしれない。しかし、彼らは決してあなたたちを愛することをやめることはなく、あなたたちに対して祝福と赦ししか持たないだろう。

2. しかし、あなたがたが地上で持っていた、不完全なこれらの両親でさえ、これほどまでに純粋で崇高な愛の証しをあなたがたに与えてくれたのだ。それならば、なぜ、その心を作り、親となるという使命を与えた方が、完全な愛をもってあなたがたを愛しておられることに、あなたがたは驚くのか。愛こそが最高の真理である。 真理のために、私は人間となり、真理のために、私は人間として死んだ。（52, 27）

3. 私の愛に驚いてはならないが、この世でしばしば非常に苦い杯を飲み干す経験をする時、その愛を疑ってはならない。

4. 人は深く堕ち、闇に満たされたり、私のもとへ戻ることを躊躇したりすることがある。しかし、誰にとっても、自らの内なる存在の中で私を感じ、もはや私を遠くにあるとは感じず、私を見知らぬ者とは見なさず、また私の存在、私の愛、そして私の正義を否定することのできない時が来るのだ。（52, 30）

5. わたしは、あなた方を被告としてわたしの前に立たせるつもりはない。常に、わたしの父なる愛がいつでも助けとなる、わたしの子供たちとしてあなた方を見たいと願っている。わたしは、わたしの御霊の栄光のために、また、あなたがたがわたしの中で幸せであるために、あなた方を創造したのだ。（127, 41）

6. わたしを愛することを学びなさい。あなたがたの過ちや罪にもかかわらず、わたしの愛がどこへでもあなたがたに付き従い、あなたがたがその影響から逃れることも、避けることもできないことを悟りなさい。悟りなさい。あなたがたの過ちが重いほど、あなたがたに対するわたしの憐れみは大きいのだ。

7. 人々の悪意は私の愛を拒もうとするが、愛は万物を創造し、万物を動かす普遍的な力、すなわち神の力であるため、悪意は愛に打ち勝つことはできない。

8. 私があなたがたに語るすべてのことの証拠は、人類が罪の深淵に迷い込んだこの時代に、私があなたがたの中に現れたときに与えたものである。私の愛は、人間の罪に対して嫌悪を感じることはなく、ただ憐れみを感じるだけである。

9. わたしを認め、わたしのところに来なさい。そうすれば、わたしの憐れみの水晶のように澄んだ泉で、あなたがたの汚れ

を洗い流すことができる。求めなさい、求めなさい。そうすれば、与えられる。（297, 59-62）

10. 人々は、一瞬、自分たちが私に対してあまりにも不適格であると思い込み、私がそれほどまでに彼らを愛することができるということを理解できない。そして、父から離れて生きることを一度受け入れてしまうと、彼らは自分たちの思い通りに人生を築き、独自の掟を作り、宗教共同体を設立する。それゆえ、彼らが私の到来を目にしたとき、その驚きは大きい。そして彼らは問う。「果たして、私たちの父は、このようにして私たちに語りかける機会を模索するほど、本当に私たちを深く愛しておられるのだろうか？」

11. 人々よ、私はただこう言っておく。私のものは滅びさせない、そして、あなたがたは私のものなのだ。あなたがたが存在する前から、私はあなたがたを愛しており、永遠に愛し続ける。（112, 14-15）

神の慈しみと助け

12. 弟子たちよ、私は、魂が成長するために必要なすべての教えを、あなた方に与えた。

13. 真理を悟る者たちは幸いである。彼らは「道」を速やかに見出すからである。他の人々は、自分たちの行いが私の行いよりも優れていると見なすため、常に神の教えを拒み続けている。

14. わたしはあなたがたすべてを愛している。わたしは、羊を呼び、彼らを一つにまとめ、数え、日々その数を増やしたいと願う羊飼いである――彼らに餌を与え、愛撫し、世話をし、その数が多いのを見て喜ぶが、すべての者が従順ではないのを見ると、時には涙を流すこともある。

15. これがあなた方の心である。あなた方の多くは私のところに来るが、真に私に従う者は少ない。（266, 23-26）

16. 自分の十字架を背負い、謙虚にわたしに従いなさい。あなたがたが誰かに慰めを与え、心に平安をもたらし、魂に光をもたらしている間、わたしはあなたがたの物質的な生活に関わるすべてのことに気を配り、何一つおろそかにしないことを信じていなさい。

17. 私があなたがたの霊に語りかける時、私は同時にあなたがたの心の中を覗き込み、その中の悩み、必要、そして願いを見出しているのだと信じなさい。（89, 6-7）

18. どんなに未開に見える人種や部族であっても――たとえ、手の届かない森に住んでいるためにあなたがたが知らない人々であっても――私の愛の現れを経験していない者などいない。彼らは危険にさらされた瞬間、

彼らを守り、護り、助言する天の声を聞いたのである。

19. あなたがたは、決して見捨てられたまま生きてきたわけではない。あなたがたが命を得て以来、初めから、あなたがたは私の愛の盾の下にあったのである。

20. 子供たちを慈しんで愛する人間の親たちよ。もし子供たちがこの世に生まれて間もない時、つまり、あなたの世話や献身、愛を最も必要としている時に、彼らを運命に任せることができるだろうか。

21. 私は、あなたがたが、たとえ子供たちが成人した後であっても、彼らのことを心配しているのを見てきました。過ちを犯し、あなたたちを傷つけた者たちでさえ、あなたがたは最大の愛をもって心配しているのです。

22. しかし、あなたがたがこのように子供たちの苦難に反応するならば、あなたがたが存在する前からすでにあなたがたを愛しておられた天の父の愛は、いったいどのようなものであろうか。

23. 私は常にあなた方を助けにやって来た。そして今、あなた方の霊的な成長がより進んだこの時代に、私は、悪の力を打ち砕くためにどのように戦わなければならないか、そして善の波動を増大させる方法をあなた方に教えてきた。（345, 39-42）

24. あなたがたは今、人生の新たな段階へと踏み出そうとしている。道はすでに整えられている。自分の十字架を背負い、わたしに従いなさい。 この道に試練がないとは言わない。しかし、困難な道程を通り抜けたり、苦難の杯を飲み干したりするたびに、あなた方を励まし、助言する声が聞こえるだろう。あなた方に寄り添い、あなた方を高めてくれる私の愛が共にあり、私の癒しの香油の優しい愛撫を感じるだろう。（280, 34）

25. もしあなたがたが痛みに打ち負かされ、あらゆる試練が内包する教訓をそこから学ぶ代わりに、ただ泣いたり、罵ったり、あるいは単に苦しみの終わりとして死を待つことに甘んじているのを見るとき、 その時、私はあなた方に近づき、愛をもってあなた方の心に語りかけ、慰めと希望を与え、それを強める。そうして、あなた方の心が、自らの弱さや信仰の欠如を克服し、試練に打ち勝つことができるようにするためである。なぜなら、その勝利の中にこそ、平和と光、そして真の幸福である霊的な幸福があるからだ。（181, 10）

26. 私が自然界の最も小さな存在の中にも宿っていることを考えれば――あなたがたに不完全さがあるからといって、私がどうしてあなたがたを拒み、あなたがたから離れようなどと思うだろうか。 まさにその時にこそ

、あなたがたは私を最も必要としているのだから。
27. 私は命であり、万物の中にいる。それゆえ、死ぬものは何もない。言葉の表現に縛られないよう、深く考えなさい。感覚を静め、言葉の核心に私を見出せ。（158, 43-44）
28. 自分の内面へと立ち返りなさい。そうすれば、そこには聖所、契約の箱があるのを見つけるでしょう。あなたは、恵みと祝福の泉、源泉を発見するでしょう。
29. 救いようのない魂など存在せず、誰一人として相続権を奪われた者はいない。わたしの神聖な慈悲の前において、全宇宙に、自らを貧しい者と呼べる者、父に見捨てられた者、主の地から追放された者など、一人として存在しない。
30. 自分を見捨てられたと感じる者は、自分の中に恵みの賜物を見出せていないからであり、あるいは今まさに罪の中に迷い込んでいるからであり、目が曇っているからであり、あるいは自分には値しないと感じているからである。
31. あなたがたは、常に自分の中にこれらの恵みの賜物を見出さなければならない。そうすれば、私の臨在が決して欠けることがないこと、そして「パン」、「癒しの香油」、「武器」、「鍵」、そしてあなたがたが必要とするすべてのものが、常に自分の中に備わっていることを体験するだろう。なぜなら、あなたがたは私の王国と私の栄光の相続人だからである。（345, 87）
32. 父と子供たちの間には、決して断ち切ることのできない絆があり、この絆こそが、神聖な霊とあなた方全員との間に対話が行われる原因である。（262, 35）
33. 人類は、心の奥底にまで届く私の愛と、私の言葉を必要としている。師は、あなたがたの魂が日々より一層啓発され、無知から解放されてより高い領域へと昇華できるよう、たゆまず奮闘している。
34. わが王国の門は開かれており、父の「言葉」は、再び道を示すために、限りない愛を込めてあなた方の元へやって来る。
35. 私は再び人類のもとに来ましたが、私は霊的に現れたのに対し、彼らの物質主義は甚だしいため、彼らは私を感じ取ることができませんでした。あなたがたの魂は私の神聖な霊から生まれたのです。それなのに、なぜ人々は私を感じ取らなかったのでしょうか。それは、彼らが自らの魂を物質主義や低俗な情欲に縛り付けてしまったからです。
36. しかし、ここに神の子羊がいる。それは光としてあなた方の元へやって来て、あなた方を照らし、真理をもたらすのだ。（340, 13-15）

至高者の謙虚さ

37. 私の言葉は、虚しい哲学であなたの知性を満たすものではないことを理解せよ。それは生命の真髄である。私は、世俗的な富をあなたに提供する金持ちではない。 私は、真の 命の王国を約束する唯一の神である。私は、華やかさを排して子供たちに近づき、その愛撫と奇跡的な言葉をもって、贖罪の道において彼らを立ち上がらせる謙虚な神である。（85, 55）

38. 私のしもべとなりなさい。そうすれば、あなたがたは決して私によって辱められることはない。

39. 見よ、私は王として来たのでもなく、笏や冠を戴いているわけでもない。私は謙遜の模範として、それ以上に、あなたがたの僕として、あなたがたの中にいるのだ。

40. 私に求めよ、そうすれば私は与える。私に命じよ、そうすれば私は従う。それは、私の愛と謙遜のさらなる証しをあなたがたに与えるためである。 ただ、あなたがたに願うのは、わたしを認識し、わたしの御心を行うことだけである。そして、義務を果たす上で障害に遭遇したなら、祈り、わたしの名においてそれを乗り越えなさい。そうすれば、あなたがたの功徳はより大きくなるであろう。（111, 46）

41. 父があなた方に語りかける――その御方は、御前にひれ伏して祈る者が誰一人としていない方である。しかし、まことに、あなた方に告げる。もし私より偉大な方がおられたなら、私はその方の御前にひれ伏すであろう。なぜなら、私の霊には謙遜が宿っているからである。

42. あなたがたは、わたしの小さな子供たちであるにもかかわらず、わたしのもとへ登ろうとするのではなく、わたしが降りてきて、あなたがたに語りかけ、耳を傾け、慰めるように仕向けていることをよく考えなさい。（125, 19）

43. あなたがたの心の中で、父に愛されているという喜びを味わいなさい。父は、その偉大さによってあなたがたを卑しめることは決してなく、むしろ完全な謙遜の中でその偉大さを現し、あなたがたを偉大にし、始まりも終わりもない御国における真の命の喜びへと導いてくださるのです。（101, 63）

神の憐れみと共にある苦しみ

44. もしあなたがたが、イエスは神の子であったから痛みを感じなかったと信じているなら、それは誤りである。もしあなたがたが、私が今日、霊として来ているから痛みから解放されていると信じているなら、それについても同様に誤りに陥っている。もしあなたがたが、私が「あなたがたは皆、最終的に私の元に来ることを知っている」から、今日私は苦しみを感じない

と思っているなら、それもまた正しくない。 まことに、あなたがたに告げる。神聖な霊ほど感受性の強い存在は他にない。

45. 私は問う。すべての存在に感受性を与えたのは誰か。あなたがたが、私に喜びをもたらさない善行など、一体何ができるというのか。また、私の感受性にとって傷となるような悪行など、一体何ができるというのか。 見よ、これこそが、私が「人類は私を再び十字架につけた」とあなたがたに告げる理由である。いつになったら、私は十字架から降ろされ、いばらの冠から解放されるのだろうか。（69, 34）

46. もしある者たちが私の敵として立ち上がっても、私は彼らを敵とは見なさない。ただ、助けを必要としている者たちとして見るだけである。 学者を自任し、私の存在を否定する者たちには、私は憐れみの眼差しを向ける。人々の心の中で私を滅ぼそうとする者たち は、命の創造主である私を滅ぼす力と武器を持っていると信じているゆえに、私は彼らを無知な者たちと見なす。（73, 33）

47. 私は、慈愛に満ちた父として、謙虚な師として、あなたがたに自らを現す。あなたがたの苦しみに対して決して無関心ではなく、あなたがたの不完全さに対しては常に寛容で慈悲深い。なぜなら、私の目には、あなたがたはいつまでも子供たちだからである。

48. 私は、これほど多くの愛をもって創造され、永遠の命に定められた子供たちが、霊的な命に無関心であり、その存在が彼らに用意している完全性を知る望みさえ持たずに、地上において執拗に死を求めているのを見ると、あなた方を裁かねばならない。（125, 59-60）

49. 私はあなたがたの父であるゆえに、子供たちが感じることを必然的に共に感じざるを得ない。そうして初めて、あなたがたは、一人ひとりが苦しみ、それぞれの痛みを感じている間にも、神の御霊がすべての子供たちの痛みを共に味わっておられることを理解するだろう。

50. この真実の証として、私はこの世に生まれ、人間となり、世界のあらゆる苦しみと罪を象徴する十字架を背負った。しかし、私が人間として、あなたがたの不完全さの重荷を肩に背負い、あなたがたのすべての痛みを感じていたならば――神として、どうして私は子供たちの苦難を前にして無感情でいられようか。（219, 11-12）

神の赦し、恵み、そして憐れみ

51. 私は、すべての者の運命を知る唯一の存在であり、あなたがたが歩んできた道、そしてこれから歩まなければならない道

を知る唯一の存在である。あなたがたの苦しみと喜びを理解しているのは、私である。私は、あなたがたが真理と正義を見出すために、どれほど長い道のりを歩んできたかを知っている。私の慈悲こそが、心の中で過ちの赦しを私に求める者の、恐怖に満ちた叫びを受け止めるのである。

52. そして父として、私はあらゆる切実な願いを叶え、あなたがたの涙をぬぐい、病を癒し、あなたがたが赦され、汚名から解かれたことを感じさせ、あなたがたが人生を新たに築き直せるようにする。

53. また、私は、私の子供であるあなたがたから私に向けられた侮辱を、赦すことのできる唯一の存在である。（245, 39-41）

54. この時、わたしの言葉が再びあなた方を照らす。わたしは、あなた方が清く、優雅であるように、わたしの恵みを豊かに注ぎたい。 しかし、もしあなたがたが再び罪に陥るならば、民よ、あなたがたを私の懐から遠ざけるのは私ではなく、私の意志に反して、あなたがた自身が私から離れていくのだと悟りなさい。しかし、私の赦しと愛は、悔い改めて私のもとに戻ろうとする者なら誰をも迎え入れる、開かれた門のようなものである。（283, 69）

55. 私があなた方を赦し、戒めるその愛の中に、私は自らを現す。あなたがたが自分の意志のままに生き、その過程で絶えず父を傷つけていたとき、私はその罪深い生活の糸を断ち切ることはせず、空気もパンも与えなかったわけではない。私はあなた方を苦しみの中に置き去りにすることも、あなた方の嘆きを聞き流すこともなかった。 そして、自然は、その豊穣と光と祝福をもって、引き続きあなた方を包み込んだ。こうして、私は人々に私を明らかにし、彼らに私を現すのである。この地上で、私ほどあなた方を愛せる者は誰もおらず、私のようにあなた方を赦せる者もいない。

56. あなたがたの魂は、私が永遠の昔から育て、磨き上げ、最も美しい花と最も完全な実を結ぶまで導いてきた種である。どうして私が、あなたがたを見捨てたり、嵐の猛威にさらしたりできようか。すべての被造物の運命を知る唯一の存在である私が、どうしてあなたがたの道の途中で見放すことができようか。（242, 31-33）

57. 迷いの道を歩む者たちよ。あなたがたがわたしを呼び求めれば、わたしは喜んであなたがたを受け入れ、わたしの力と光を与える用意がある。 あなたがたが、肉体と魂に大罪人の痕跡を帯びていようとも、それは問題ではない。私は、あなたがたが自分を侮辱した者たちを祝福し、また、神があなたがたの中にそのような奇跡を起こし得る

とお考えになったことを祝福するように導く。そうすれば、あなたがたは心の中でキリストの愛を感じ始めるだろう。
58. この言葉を聞いて、ある人々はこう思うだろう。「大罪人たちが、その功績によってこの恵みを受ける義人たちと同様に、どうしてこの恵みを受けられるというのか？」と。
59. ああ、人々よ、目に見える範囲しか見通せない人々よ！私は、あなたがたがそれに値する前から、常に恵みによって私の恩恵を与えてきたのだ。
60. 私は、純粋な思いにも、また、隣人への愛の欠如ゆえに、たとえほんのわずかな謙遜や悟りの火花さえも、その人から漏れ出る時、汚れを抱えて私に近づく者の悲痛な嘆きにも、応えるのである。
61. 私は、自らの大きな無力さと無知ゆえに涙を流す弱き者たちの擁護者である。私は、泣く者たちを呼び寄せ、慰める神聖なる希望である。私は、苦しみと贖罪のうちに呻く者を優しく愛撫する、慈愛に満ちたイエスである。
62. 私はあなたがたの救い主、あなたがたの贖い主である。私は、人間にとって理解しうる真理である。（248, 18-21）

第23章 - 神の霊感と啓示

神の霊感

1. 弟子たちよ。もし私の言葉があなた方に届いても、それを理解できなければ、あなた方はそれを疑うだろう。しかし、私はあなた方に言う。もし不確かさがあなた方を苦しめるなら、野原の孤独な場所へと身を引け。そして、広々とした野原、山々、そして大空だけが証人となる自然のただ中で、もう一度、あなたの師に問いかけてみよ。 その言葉に深く浸れば、すぐにその愛に満ちた答えがあなたに届くでしょう。そうすれば、あなたは支えられ、霊感を受け、未知の霊的な歓びに満たされるのを感じるでしょう。
2. このようにして、あなたがたはもはや信仰の薄い人々ではなくなるだろう。なぜなら、神の言葉の一つひとつに真理が含まれていることを知っているからだ。しかし、それを解き明かすためには、それが聖域であるゆえに、敬虔な心と清らかな精神をもってその言葉に深く入り込まなければならない。
3. あなたがたが準備を整え、何かを知りたいと願うたびに、その光への渇望が神の光を引き寄せるでしょう。私は何度、こう言ってきたでしょうか。「山奥の静寂へと行き、そこで私にあなたの悩み、苦しみ、そして困窮を語れ」と。
4. イエスは「第二の時代」において、自らの模範をもって、これらの教訓をあなた方に示し

た。 私が宣教の務めを始める前に、祈るために荒野に退いた時の私の模範を思い出してください。私が人々の間での生涯の最後の数日間、祈るために会堂に行く前に、父と語り合うためにオリーブ山の森の孤独を求めたことを思い出してください。

5. 自然は創造主の神殿であり、そこでは万物が主を崇めるために主へと昇りつめる。そこでは、あなたがたは父の輝きを直接、ありのままに受け取ることができる。 そこでは、人間の利己主義や物質主義から遠く離れて、賢明な霊感があなたの心に染み込み、その道において善を行うようにあなたを導くのを感じるでしょう。（169, 28-31）

6. 弟子たちよ、目を覚ましていなさい。私はこの口を通してのみあなたたちに語りかけるのではなく、あなたの肉体が眠っている瞬間にも、あなたの魂に自らを現すからである。 私は、あなたがたに、準備を整えて眠りにつき、魂を地上のものから解き放つよう教える。そうして魂が光の領域へと昇り、そこでその道を照らす啓示を受け取り、そのメッセージを理性へと伝えることができるようにするためである。（100, 30）

7. あなたがたが時折信じていたように、私は決してあなたがたから遠く離れていたわけではない。また、あなたがたの苦しみに対して無関心であったことも、あなたがたの呼びかけに耳を貸さなかったこともない。次のようなことが起こったのだ。あなたがたは、より高次の感覚を研ぎ澄ます努力をせず、肉体の感覚で私を感知できると期待していた。 しかし、私が人々にこれを許していた時代は、すでに遥か昔のことであると、私はあなた方に告げる。

8. もしあなたがたが、霊的瞑想による内面の高揚、祈り、予感、預言的な夢、あるいは霊的な幻視といった、霊的な能力のいくつかを開花させるために少しばかり努力していたなら――私は保証する、そのいずれを通しても、あなたがたは私と結びつき、それゆえに、あなたがたの問いに対する答えと、神聖な霊感とを、あなたがたの思考の中に受け取ることができたはずである。

9. 私はいつでもあなた方と語り合う用意があり、あなた方の高揚と精神的な準備を常に待ち望んでいる。それは、あなた方を喜ばせ、私の存在をあなた方の精神に明らかにするという喜びをあなた方に与えるためである。そのためには、この恵みを得るために、最大限の誠実さをもって身を整えることだけが必要である。（324, 52-54）

10. あなたがたの学者たちに尋ねてみなさい。もし彼らが正直であれば、彼らは神に霊感を求めたと答えるでしょう。もし彼らが、自分自身の虚栄心を抑え、隣人への愛をもって私にそれ

を求めてくれたなら、私は彼らにもっと多くの霊感を与えるでしょう。
11. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが蓄積してきた真の知識のすべては、私から来ている。人々が持つ純粋で高貴なものはすべて、この時代にあなたがたのために用いる。なぜなら、私はそのためにそれをあなたがたに与えたからである。（17, 59-60）
12. 今こそ、わたしの霊が絶えず人々の霊、魂、理性、そして心に語りかける時である。わたしの声は、思考と試練を通じて人々に届く。それによって、多くの人々が自発的に真理に目覚める。なぜなら、彼らを導き、教え導く者たちは眠っており、世界が決して目覚めることのないことを望んでいるからである。（306, 63）
13. 「第三の時代」において、私は啓示の明瞭さをもって、人間にとっては不可能なこと、すなわち人間の知性を通じて自分自身を伝えることを実現した。
14. 弟子たちよ、私を理解せよ。なぜなら、あなたがたを待ち受ける霊と霊との対話において、あなたがたは永遠に私の臨在を感じるようになるからだ。もしあなたがたが備えることを知れば、もはや私にこう言うことはなくなるだろう。「主よ、なぜあなたは来られないのですか？なぜ私の苦しみを見ないのですか？」と。あなたがたは、もはやそのように私に語りかけることはなくなるだろう。 まことに、弟子たちよ、私はあなたがたに告げる。このように私に語りかける者は、自らの無知と準備不足を明白に示すことになるのだ。
15. 私は弟子たちが私から離れているのを見たくはない。私は、あなたがたが心の中で私にこう言うことを望んでいる。「師よ、あなたは私たちの間におられます。私たちの魂はあなたを感じています。あなたの知恵は私のインスピレーションの源です。」これこそが、私があなたがたから聞きたいと願う真の告白である。（316, 54）

神の啓示を人間の理解に合わせる

16. 神性を啓示するには、あなた方の言語はあまりにも限られている。それゆえ、私はいつの時代も、たとえ話や比喩を用いて、あなた方に語りかけなければならなかった 。しかし今、あなた方は、たとえ私がそのように語りかけたとしても、私の啓示を深く探求する必要な意志が欠けていたために、私をほとんど理解していなかったことを悟っている。（14, 50）
17. どの時代においても、あなたがたは私を待ち望んできた。それにもかかわらず、私があなたがたのそばにいたときでさえ、あなたがたは準備不足と霊性

の欠如ゆえに、私を見分けられなかった。私はあなたがたに言う。私の臨在がどのような形をまとおうとも、そこには常に真理と神聖な生命のエッセンスが含まれているのである。

18. わたしは、世に自らを現すために様々な形を用いたと、あなたがたに語った。しかし、それらはわたしの霊をあなたがたから隠すための仮面ではなく、わたしを人間らしくし、制限し、それによって人々がわたしを聞き、感じられるようにするためのものだった。

19. 今、私はあなたがたに告げる。あなたがたは、判断を下す前に、まずこの声を聞くべきである。そうして、魂の中に光が差す、確信や啓示の瞬間が訪れるまで待つのだ。（97, 11-12）

20. 人々がその盲目さと無知の中に留まっている限り、何よりも父である神は、理解されるために、御自身の子供たちに対して人間的な姿をとらざるを得ず、自らを制限し、小さく見せなければならないという状況を生み出すことになる。いつになったら、あなたがたは、私があなたがたの前に、あなたがたが私を見るべきその栄光のうちに現れることを許してくれるのだろうか。

21. あなたがたは、わたしの偉大さを想像し得るほどに偉大でなければならない。そのために、わたしは繰り返しやって来て、あなたがたに霊的な偉大さを与えるのだ。そうしてこそ、あなたがたは、父を知り、その愛を感じ、頭上に響き渡る神聖な協奏曲を聴くという、限りない歓びを体験することができるのである。（99, 26-27）

22. シナイ山における父の啓示の外的側面は、神の律法を彼に刻み込むための手段となった石であった。

23. イエスを通して神が人々に伝えた啓示における外的な側面は、キリストの肉体、すなわち人間の姿であった。

24. 現代において、私の啓示の外的側面は声の媒体であった。それゆえ、この啓示の形式は、過去の時代のものと同様に、終わりを迎えなければならない。

25. あなたがたは、形式ではなく本質によって養われるべき霊性主義の民の子らであることを理解せよ。もしあなたがたが私の言葉を正しく理解すれば、二度と偶像崇拝に陥ることはなく、また、外的な礼拝行為や儀式、はかないものに固執することもなくなるだろう。なぜなら、あなたがたは常に本質的なもの、永遠なるものを渇望するようになるからである。（224, 69-71）

神の啓示の様々な形態

26. 人類は、深淵から自分たちを救い出す新たなメシアの到来を望んでいる。あるいは、少なくとも、空に響き渡る、人の声のような神の声を聞きたいと願

っている。しかし、私はあなたに告げる。少しばかり観察するか、あるいは瞑想の中で魂を静め、感性を研ぎ澄ませるだけで十分である。そうすれば、あらゆるものがあなたに語りかけているのが聞こえるようになるだろう。 石が語りかけるなどあり得ないと思われるなら、私はこう言おう。石だけでなく、あなた方を囲むすべてのものが、創造主からあなた方に語りかけているのだ。それは、あなた方が偉大さや傲慢、物質主義という夢から目覚めるためである。（61, 49）

27. かつての啓示を受けた者たちは、常に光の輝きを見、常に私の言葉を聞いていた。 預言者たち、霊感を受けた者たち、先駆者たち、そして高い霊性を備えた教義の創始者たちは、雲や山々、風、あるいは正確には特定できないどこかから聞こえてくるような声を聞いたと証言した。彼らは、あたかも炎の舌や神秘的な反響の中から響いてくるかのように、神の声を聞いたのである。 多くの者は感覚を通じて聞き、見、感じ、他の者は霊的な資質を通じてそうしました。今この時代にも、同じことが起こっています。

28. まことに、わたしはあなたがたに告げる。肉体の感覚をもってわたしのメッセージを受け取った者たちは、神の霊感に霊的な解釈を与えた。そして彼らは、自らの肉体的・霊的な準備の度合いや、この世にいた時代に応じてそうしたのである。それは、あなたがたが「声の担い手」あるいは「賜物の担い手」と呼ぶ、現在の人間の器たちにおいて起きていることと同じである。 しかし、私はあなたがたに告げなければならない。過去においても現在においても、彼らは神の啓示の純粋さに、自らの観念、あるいは周囲で支配的であった観念を混ぜ合わせ、知らず知らずのうちに、あるいは意図的に、真実の純粋さと無限の本質を変質させてしまったのである。その真実は、その最高の啓示において、愛そのものである。

29. 霊的な波動と霊感は彼らの中にあり、「最初の人々」も「最後の人々」も、その霊感について証言してきたし、これからも証言し続けるだろう。その霊感は、今日多くの人々に、そして明日さらに多くの人々に起こっているのと同じように、彼らがほとんど気づかないうちに、彼らの霊へと届いたのである。

30. 言葉、解釈、そして行動の様式は、人々と彼らが生きる時代に起因するものであるが、それらすべての上に、至高の真理が立っている。（16, 11-14）

31. 時折、私の霊が、あなたがたの理解力に届き、理解できる何らかの形で現れる必要がある。あなたがたに語りかけるこの必要性は、私の律法に対するあ

なたがたの不従順、真の道からの逸脱に起因している。

32. 人間は、その自由意志ゆえに、被造物の中で最も反抗的な存在である。今日に至るまで、人間は良心の指針に従おうとはしなかった。

33. わたしの言葉は、ある者たちを制止し、他の者たちに指針を与え、すべての人を真理において強め、深淵から救い出そうとするものである。

34. 私が今、自らを現しているこの方法に、不快感を抱いてはならない。それは「第二の時代」のそれとは大きく異なるものである。 私が二度と同じ形を用いたことは一度もないことを知れ。それは、あなたがたを同じ教えにとどまらせることを意味するからであり、私は常に、あなたがたに新しい教訓を教え、新たな一歩を踏み出すのを助けるためにやって来るのだ。（283、39-42）

35. わたしの言葉は、良心を通じて、わたしを語る試練を通じて、自然の力を通じて、あるいはわたしの霊的な子供たちを通じて、様々な形で伝えられる。わたしの言葉は普遍的である。準備を整える者は皆、わたしの声を聞くであろう。（264, 48）

神の啓示の必要性

36. 私の神聖な教えは、霊のためだけのものではない――いや、それは人間の心にも届くものでなければならない。そうして初めて、霊的な部分と肉体的な部分が調和するのだ。

37. 神の言葉は、人の知性を啓発し、心を感化するために定められており、その言葉に含まれる生命のエッセンスは、魂を養い、高めるために定められている。

38. 人の人生が完全なものとなるためには、物質的な糧を得るために働き、苦労するのと同様に、霊的な糧が不可欠である。

39. 「人はパンだけで生きるものではない」と、私は『第二の時代』においてあなたがたに語った。私の言葉は今もなお有効である。なぜなら、人々が霊的な糧を欠くことになれば、この地上において病、苦痛、闇、災難、悲惨、そして死に襲われることになるからだ。

40. 唯物論者たちは、人間はすでに地球と自然が与えるものだけで生きており、人生の旅路において彼らを養い、強めるような霊的なものを求める必要などない、と反論するかもしれない。 しかし、私はあなた方に言わなければならない。それは完全で充実した人生ではなく、精神性という本質を欠いた存在に過ぎないのだ。（326, 58-62）

41. 私はいつの時代も、人間が私を理解できるよう、簡素な形で自らを現してきた。常に、私はあなたがたの知力と心の理解の範囲内でそうしてきたのである。 私は、あなたがたを、より良い生活へと引き上げるために

、あなたがたの貧しい生活に身を屈めたとき、それによって謙遜の模範を示すために、あなたがたのところへ降りてきたのである。（226, 54）

42. ここに、私が「第二の時代」において、イエスが父に感謝した時の言葉が成就している。すなわち、父は知恵を学者や教養ある者たちからは隠し、謙虚な者たちに与え、啓示されたのである。

43. そう、わが民よ。あなたがたが「学者」と呼ぶ者たちは、自らを誇り、庶民を貶めようとしている。彼らは、自分たちが私から授かったパンのかけらに過ぎないと見なすようなことだけを、庶民に教えているのだ。

44. 一方、貧しい人々、すなわち「庶民」は、人生がもたらす苦難やそれに伴う欠乏を身をもって知っている。彼らが何かを自分のものと呼べるようになったとしても、それは自分たちには余りにも多すぎると感じ、それゆえ他の人々と分かち合うのである。

45. さらに付け加えるならば、貪欲な者が寛大な人となり、高慢な者が謙虚な人となれば、彼らは即座に、徳ある生き方を知る者のために私が用意しているすべてのものに与るようになる。なぜなら、私の愛は偏ったものではなく、すべてを包み込み、私のすべての子供たちのためのものだからである。（250, 17）

神の啓示の無限性

46. 第三の時代を照らすこの教えは、私の最後の教えではない。霊的なものには終わりがない。私の法は、神聖な太陽のようにすべての良心の中で輝いている。停滞と衰退は人間にのみ固有のものであり、それは常に悪徳、弱さ、あるいは情熱の奔放さの結果である。

47. 人類が一度、その生活を霊的な基盤の上に築き、私の教えがあなた方に鼓舞する永遠の理想をその内に抱くようになれば、人類は進歩と完全への道を見出し、もはやその向上への道から逸れることは決してなくなるだろう。(112, 18)

48. もしあなたがたが、私が今になって初めて霊的な生活について何かを啓示したと思っているなら、それは大きな誤りである。なぜなら、私はもう一度言うが、神の教えは最初の人間が生まれた時に始まったのである。そして、世界が存在する以前、霊が創造された時に私の教えが始まったと言っても、私は決して誇張しているわけではない。（289, 18）

49. 人々が、自分の目で発見できるものだけが存在すると信じ、自分たちが住む世界の姿さえ知らなかった頃、彼らは、自分の目が知る範囲に限定された神を想像していた。

50. しかし、彼らの知性が次々と謎を解き明かすにつれて、彼

らの目の前で宇宙はますます広がり、驚嘆する人間の知性にとって、神の偉大さと全能性はますます増していった。

51. それゆえ、私はこの時代に、あなた方の発展にふさわしい教えを授けなければならなかった。

52. しかし、私は問う。私の啓示に含まれているのは、物質的な知識なのか。いいえ、私が教える知識は、あなたがたが見て、長い間探求してきた自然を超えた存在に関するものである。私の啓示は、精神を、そこからすべてを発見し、認識し、理解することができる生命の次元へと導く道を示している。

53. 神が霊的に人々に御自身を現すこと――霊界が自らを現し、あなた方の生活の中に現れること――未知の世界や領域があなた方に語りかけることが、あなた方には不可能に思えるか、あるいは少なくとも奇妙に思えるだろうか？ まさか、あなた方の認識がそこで止まり、父がすでに啓示された以上のことを二度と啓示しないことを望んでいるというのか？

54. 慣習に縛られてはならず、あなたの精神の認識に制限を設けてはならない！

55. 今日、あなたがたは霊の教えを否定し、それに立ち向かい、迫害するかもしれない。しかし、私は、明日にはあなたがたが真理に屈服することを知っている。

56. あらゆる神の啓示は、現れた当初は戦い、拒絶されてきた。しかし、最終的にはその光が勝利を収めてきた。

57. 科学の発見に対しても、人類は同様に不信の態度を示したが、結局、現実に屈服せざるを得なかった。（275, 64-70）

58. 人類の中心から聖霊の神殿が無限にそびえ立つ時、その中心には新たな啓示が現れるだろう。そして、魂が上へと発展すればするほど、その啓示はより大きなものとなる。（242, 62）

59. 私があなたがたのもとへ降りてきたというのに、あなたがたは皆私の子供であるにもかかわらず、私が他の国々を顧みないなどと思うことができるだろうか。私の霊は普遍的であり、すべての被造物を包み込んでいるというのに、誰かが私から遠く離れている、あるいは私の外にいるなどと思うのか。

60. すべてのものは生きており、私から養われている。それゆえ、私の普遍的な光線は地球全体に降り注ぎ、霊はこの世界や他の世界において私の影響を受け取ったのである。なぜなら、私はすべての私の子供たちを救うために来たからである。（176, 21）

61. 私の意志によれば、声の媒体を通じた私の啓示は一時的なものに過ぎず、この民にとって、この真理を証し、広め、そして世界に「第三の時代」の到来を告げるための規範、法、そし

て基礎となるべき、準備の短い段階に過ぎない。

62. 人間の知性による私の啓示が、稲妻のように一瞬のものであると定められていたのと同様に、この啓示に立ち会い、このメッセージを受け取るよう招かれるのは、ごく一部の人々の集団のみであることも、あらかじめ定められていたのである。

63. それに対し、霊から霊への対話は、時間的な制限なく全人類に届くであろう。なぜなら、私を求め、私を受け入れ、私に祈り、私の声を聞き、私を感じるというこの形は、永遠に通じるものだからである。（284, 41-43）

人間における神の臨在の顕現

64. わたしは、あなたがたをわたしの弟子とし、わたしの霊の子としてわたしを感じ取れるようにしたい。あなたがたはわたしの本質そのものであり、わたしの分身であるのだから、どうして自分の中にわたしの臨在を感じないというのか。

65. あなたがたがわたしを感じないのは、そのことに気づいていないからであり、霊性や準備が欠けているからである。また、どれほど多くのしるしや感覚的な印象を受け取っても、それを物質的な原因に帰しているからだ。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。たとえわたしがあなたがたと共にいても、あなたがたはわたしの臨在を感知できないのだ。

66. 今、私はあなたに言う。あなたがたは私の一部なのだから、自分の内なる存在として私を感じることは、ごく自然なことではないだろうか。 そうであるならば、やがてあなたがたの霊が私の霊と融合していくのは、当然のことではないだろうか。私は、すべての人間に本来備わっているべき真の偉大さを、あなたがたに明らかにする。なぜなら、あなたがたは道を誤り、この地上で偉大でありたいという欲望によって、霊的に小さくなってしまったからだ！（331, 25-26）

67. もう、あなたがたに「主よ、なぜあなたは私から遠く離れているのですか、なぜ私の声に耳を傾けてくださらないのですか、なぜ私は人生の道で孤独を感じるのですか」と言わせたくない。

68. 愛する民よ。私は決して子供たちから離れることはない。あなたたちが私から離れていくのだ。それは、あなたたちに信仰が欠けていたからであり、あなたたち自身が私を拒絶し、心の扉を私に閉ざしてしまったからだ。（336, 60）

69. あなたがたに、わたしが遠くにいると感じてほしくない。なぜなら、あなたがたは皆、霊化によってわたしを感じ、わたしを直接に知覚するようになると、わたしは言ったからだ。あ

なたがたの霊はわたしの声を聞き、霊的にわたしの臨在を見るようになる。こうして、わたしはあなたがたの霊が、わたしの霊と永遠に一つになるのを見たい。それがわたしの御心だからである。（342, 57）

VI. 創造

第24章 - 霊的創造と物質的創造

霊的存在の創造

1. 世界が存在する以前、あらゆる生き物や物質が生命を宿す以前、すでに私の神聖な霊は存在していた。しかし、万物の統一体として、私は自らの内に計り知れない空虚を感じていた。なぜなら、私は臣下のいない王のようであり、 弟子を持たない師のようであったからである。 それゆえ、私は、自分と似た存在を創造し、彼らに私の生涯を捧げ、深く心から愛し、その時が来れば、躊躇することなく十字架上で彼らに私の血を捧げるという計画を立てた。

2. あなたがたが存在する前から、すでにあなたがたを愛していたと私が言っても、それを不快に思わないでほしい。そう、愛しき子供たちよ！（345, 20-21）

3. 神の御霊は、ただ御自身だけがおられたにもかかわらず、愛に満ちておられた。まだ何も創造されておらず、神の御身の周りには何一つ存在しなかったが、それでもなお、神は愛し、御自身を父として感じていた。

4. 神は誰を愛しておられたのか。神は誰の父としてご自身を感じていたのか。それは、神から生まれ出るすべての存在とすべての被造物であり、その力は神の御霊の中に秘められていた。その御霊の中には、あらゆる科学、あらゆる自然の力、あらゆる存在、あらゆる創造の基盤があった。神は永遠であり、時間そのものであった。 世界や存在が生命を得て現れる以前から、彼の中には過去、現在、そして未来が存在していた。

5. その神聖な霊感は、神の愛の無限の力のもとで現実のものとなり、生命が始まった。（150, 76 79）6. 神が自らを「父」と呼べるように、神は御自身の懐から霊たち――神の神聖な性質に似た被造物――を現出させられた。これがあなた方の起源であり、こうしてあなた方は霊的な命へと生まれ変わったのである。(345, 22)

7. あなたがたが創造された理由は、愛、すなわち私の力を誰かと分かち合いたいという神の切なる願いであった。そして、私があなたがたに自由意志を与えた理由も、やはり愛であった。私は、子供たちから愛されて

いると感じたかったのだ――それは法律によって強制されるものではなく、あなたがたの魂から自由に湧き出る自発的な感情によるものであった。（31，53）

8. すべての霊は、神性の純粋な思考から生まれた。それゆえ、霊たちは創造主の完全なる御業である。（236，16）

創造の業における偉大な霊たちの働き

9. エリヤは、神の右に坐する偉大な霊であり、その謙虚さゆえに自らを神の僕と呼ぶ者である。私は、彼や他の偉大な霊たちを媒介として、霊的宇宙を動かし、偉大かつ崇高な御旨を実行する。そう、私の弟子たちよ、私には、創造を統治する大勢の偉大な霊たちが仕えているのである。（345，9）

神の摂理の思惟

10. 聞け、弟子たちよ。あなたがたが人生に足を踏み入れる前から、私はすでに存在しており、私の霊の中にはあなたがたの霊が隠されていた。しかし、私は、あなたがたが功績を積むことなく私の王国の相続人となることを望まなかったし、また、誰があなたがたを創造したかを知らずに、すでに存在するものを所有することも望まなかった。さらに、私は、あなたがたが方向も目標も理想も持たずに、私のもとを去ることも望まなかった。

11. それゆえ、私はあなたがたに霊を与え、それがあなたがたの導き手となるようにした。私はあなたがたに自由意志を与え、あなたがたの行いが私の前で真の価値を持つようにした。 私は、魂をあなた方に与えた。それは、魂が常に、光に満ちた清らかなものへと昇華することを切望するようにするためである。私は、肉体をあなた方に与えた。それは、あなたがたが心を通じて善と美に対する感覚を持つためであり、また、肉体が試金石として、絶え間ない試練として、そして物質世界において生きるための道具として役立つためである。（35，48-49）

霊的存在のための物質世界の創造

12. 空間が初めて霊たちの存在によって照らされたとき、彼らは――まだ幼子のようにふらつき、言葉もたどたどしく、高い霊性を持つ場所に留まるための成長も力も持たなかったため――強さを感じるための支え、拠り所を必要とした。 こうして彼らには物質と物質世界が与えられ、その新たな状態において、彼らは経験と知見を得た。（35，50）

13. 宇宙は存在たちで満たされ、そのすべてにおいて、父の愛と力と知恵が現れた。主が原子

に結合して存在と身体を形成し、それらに形を与えるよう命じられたその瞬間から、主の懐は尽きることのない生命の泉のようであった。

14. 最初に存在したのは霊的な生命であり、最初に存在したのは霊的存在であり、その後に初めて物質的な自然が現れた。

15. 多くの霊的な被造物が物質的な世界に生きるために肉体的な姿をとることが定められていたため、主の子供たちがすべてを整えられた状態で迎えられるよう、あらかじめ万全の備えがなされていた。

16. 主は、御子らが歩むべき道を祝福で満たし、宇宙を生命で溢れさせ、人間という存在の道を美で満たされた。そして、その人間の中に、神聖な火花――すなわち精神、魂――を宿し、愛、知性、力、意志、そして意識をもって人間を創造された。しかし、主は存在するすべてのものを御自身の力に包み込み、その存在の目的を示された。（150, 80-84）

17. 父が世界を創造し、それを贖罪の場とするという使命を与えたとき、神はすでに、子供たちがその道のりで弱さや過ちに陥ること、そして再生と完成への第一歩を踏み出すために安住の地が必要となることを知っておられた。（250, 37）

人間の創造

18. 聞きなさい。神、すなわち至高の存在は、あなた方を「御自身の像と似姿」として創造された――それは、あなた方が持つ物質的な姿に関してではなく、あなた方の精神が備えている能力に関してであり、それは父の能力に似ている。

19. 創造主の似姿であると自認することは、あなた方の虚栄心にとってどれほど心地よいことだったか。あなた方は、神が造られた最も高度に発達した被造物であると自負している。しかし、宇宙があなた方のためだけに創造されたと考えるならば、それは大きな誤りである。なんと無知なことであろうか、あなた方は自らを「創造の頂点」と呼んでいるのだ！

20. 地球でさえ、人間のためだけに創造されたのではないことを理解せよ。神の創造という果てしない階段の上には、神の律法を成就するために発展を続ける、数えきれないほどの魂たちが存在する。

21. すべてを包含する目的は、たとえ望んだとしても、人間であるあなたがたには理解できないほど大きく、父のすべての御心と同様に完全である。しかし、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは、主の被造物の中で、最も偉大な者でも、最も小さな者でもない。

22. あなたがたは創造された。その瞬間、あなたがたの霊は全

能者から命を受け、永遠における困難な使命を果たすために必要な、あらゆる特質をその内に宿していたのである。（17, 24-28）

23. わたしの傑作である人間の魂の中に、わたしはわたしの神聖な光を宿した。わたしは、庭師が庭の大切に育てた植物を世話するように、無限の愛をもってそれを育ててきた。あなたがたがわたしを知り、また自分自身を知るために、生きるために何一つ欠けることのないこの生ける場へと、あなたがたを置いたのだ。 私は、あなたがたが活力を得て、完全になるために、魂には来世の生命を感じる力を、肉体には感覚を与えた。 私は、あなたがたがこの世界で最初の一歩を踏み出し、進歩と完成へのこの道において、私の律法の完全さを体験し、生涯を通じて私をますます認識し、愛し、その功績によって私のもとへ至ることができるように、この世界をあなたがたに委ねた。

24. 私は、あなた方に自由意志の賜物を与え、良心を授けた。前者は、あなたがたが私の律法の枠組みの中で自由に成長するためであり、後者は、善と悪を見分けることができるようにするためである。それは、あなたがたが私の律法を遵守しているか、あるいは違反しているかを、完全な審判者として告げるためである。

25. 良心とは、私の神聖な霊からの光であり、一瞬たりともあなた方から離れることはない。

26. 私は道であり、真理であり、命である。私は平和であり、幸福であり、あなたがたが私のもとにいるという永遠の約束であり、また、私の言葉のすべてが成就することでもある。（22, 7-10）

楽園の記憶

27. 最初の人間たち――すなわち人類の祖先であった者たちは、しばらくの間、彼らの魂が「霊的な谷」 から持ち帰った印象を保っていた。それは、肉体の情欲や生存競争が彼らの生活の中に現れるまでは、彼らの中に存続し続けた、美と平和と歓喜の印象であった。

28. しかし、私はあなた方にこう言わなければならない。あの人々の魂は、光の世界から来たとはいえ、最も高き住処、すなわちあなたがたが功績によってのみ到達しうる場所から来たものではなかったのだ。

29. それにもかかわらず、それらの魂が最初の歩みを踏み出した際に保っていた無垢、平和、幸福、そして健康の状態は、光に満ちた忘れがたい時代として、彼らが子供たちに、そして子供たちがその子孫へと受け継いでいった証しとなった。

30. しかし、その証言の真の意味を誤解した、物質主義に染まった人々の知性は、やがて、最

初の人類が暮らした楽園が地上の楽園であったと信じるようになった。それは、それがあの被造物たちの魂の状態であったことを理解せずに。（287, 12-13）

人間の性質

31. 魂と肉体は異なる性質を持ち、それらがあなた方の存在を構成しており、その両者の上に精神が立っている。 前者は光の娘であり、後者は大地に由来する物質である。両者は一つの存在に統合されており、あなたがたの中に神の臨在がある霊に導かれて、互いに争っている。この闘いは今日に至るまで絶えず続いてきたが、最終的には、魂と肉体は調和して、私の律法が双方に割り当てた使命を果たすことになる。

32. 魂を植物、体を大地として想像することもできる。物質の中に植えられた魂は、人間としての生涯において受ける試練と教えを糧として、成長し、天へと伸びていくのである。（21, 40-41）

創造主と被造物との一体性

33. 神の霊は、枝が世界であり、葉が存在である、無限に大きな木のようなものです。幹を通ってすべての枝へ、そしてそこから葉へと流れるのは、すべて同じ樹液なのです。それゆえ、あなた方を互いに結びつけ、創造主と一つにする、永遠で神聖な何かが存在すると信じないでしょうか？（21, 38）

34. すべてを包み込む私の霊は、霊的なものであれ物質的な自然であれ、私が創造したすべてのものの中に存在している。すべてのものに私の業は現れており、あらゆる生命の次元において私の完全さを証ししている。

35. 私の神聖な業はすべてを包含している――私の右に座する最も偉大で完全な存在から、かろうじて感知できる微小な生物、植物や鉱物、原子や細胞に至るまで、それらはすべての被造物に形を与えている。

36. それによって、私は再び、物質的な存在から、すでに完全性を達成した霊に至るまで、私が創造したすべてのものの完全性をあなた方に示すのである。これが私の業である。（302, 39）

37. 最高法である霊的法から逸脱する者は、人間もほとんど知らない下位の、すなわち物質的な法則の支配下に置かれる。しかし、最高法に従い、それと調和を保つ者は、あなたがたが自然と呼ぶあらゆる秩序の上に立ち、科学や宗教の中で見つけた知識しか持たない者よりも、より多くを感じ、理解する。

38. それゆえ、イエスはあなたがたが「奇跡」と呼ぶ行いによって、あなたがたを驚嘆させたのである。しかし、彼が愛をもって与えた教えを悟りなさい。

全創造物の中に響き渡る神性の中に、超自然的なものも矛盾するものでもないことを理解しなさい。（24, 42-43）

第25章 - 自然

自然の法則

1. 私は、神を「唯一なるもの」として、また、あなたがたの霊的な想像力を超えた無限の奇跡として、全宇宙における動きと作用を引き起こす力として、そして、最も単純な植物の中にも、宇宙を何百万もの軌道で巡る世界の中にも現れている生命として、それらすべてが、それを支配する法則に背くことなく存在していることを、あなたがたに教えてきた。

2. その法則こそが、私、すなわちあなたがたの神である。それは絶え間ない発展の法則であり、人間を驚嘆させ、自然の神秘にますます深く入り込むことを可能にする広大な研究の分野を人間に開くものである。（359, 74-75）

3. その法則こそが、至高の創造主の愛によって切り開かれた、そのすべての被造物を導く道であることを理解せよ。 あなた方を囲む生命について考えてみよ。それは無数の基本物質と生物から成り立っているが、やがてあなた方は、あらゆる物体や存在が、一見すると未知の神秘的な力によって導かれているかのような道や軌道の上を動いていることに気づくだろう。この力こそが、神がすべての被造物のために定めた法である。

4. あなたがたがこれらの重要な事象を探求すれば、最終的には、実際にすべてのものが、ある至高の命令の下で生き、動き、成長しているという認識に至るでしょう。（15, 4）

自然における神の臨在

5. わたしが成し遂げたすべての業の中にわたしを求めなさい。そうすれば、どこにでもわたしを見出すことができるだろう。わたしに耳を傾けてみなさい。そうすれば、すべての被造物から発せられる力強い声の中に、わたしの声を聞くことができるだろう。なぜなら、被造物の存在を通して自分自身を表現することは、わたしにとって何ら困難なことではないからである。

6. わたしは、星の中にも、嵐の荒れ狂う中にも、そして、夜明けの優しい光の中にも、自らを現している。 私は鳥のメロディアスな歌声の中に私の声を響かせ、また花の香りを通して表現する。そして、私のあらゆる表現形態、あらゆる側面、あらゆる業は、愛について、正義の法則の成就について、知恵について、霊的な世界における永遠について、あなた方に語りかけているのだ。(170, 64)

自然、神の創造物、そして霊的なもののたとえ

7. 多くの人々は、自然を、存在するすべてのものの創造的な源として神格化することで、自然を自分たちの神としてきた。しかし、まことに、私はあなたがたに言う。すべての存在が生まれたその自然――あなたがたを取り巻く物質的な力や自然界――は、創造主ではない。それは、あらかじめ神なる創造主によって計画され、創造されたものである。 自然は、生命の原因でも、根拠でもない。私、すなわちあなたがたの主こそが、初めであり終わりであり、アルファでありオメガである。（26, 26）

8. この人生において、あなた方を囲み、包み込むすべてのものは、永遠の命の写しであり、理解されるために物質的な形や物を通じて説明される深遠な教えである。

9. あなたがたはまだ、この驚くべき教えの真髄に到達してはいない。そして、人間は、地上での生活をあたかも永遠であるかのように捉えてしまったため、再び誤りを犯してしまった。人間は、その表層的な現れに目を向けるだけで満足し、そこに含まれる神の啓示、すなわち全創造物に遍在する本質と真理をすべて軽んじてきたのである。（184, 31-32）

10. 私は、私の子供たちの維持、健康、栄養、幸福、そして喜びのために、私が自然の中に置いたものについて、何一つあなた方から隠すつもりはない。

11. それどころか、私はあなたがたにこう言う。私が霊のパンを差し出し、神聖なエッセンスを吸い込み、霊的な香りに心を癒やすよう招くのと同様に、あなたがたもまた、自然が与えるものを軽んじたり、そこから遠ざかったりしてはならない。そうすれば、調和、 健康、エネルギーを得て、それによって生命の法則の正しい成就に至るからである。（210, 22）

12. 理性を持ち合わせない存在は、その内なる声であり、師であり、導き手である本能に導かれる。それは、母なる自然から発せられる光のようで、その存在が人生において歩まなければならない道――これもまた危険とリスクに満ちた道である――を照らし出す。

13. あらゆる種が調和して生きている様子、勤勉な者たちの活動を見習いなさい。忠誠や感謝の模範を心に留めなさい。 それらは、私の被造物から発せられたものであり、同様に私から生まれたものでもあるため、神の知恵を含んでいる。それらは、この世においてあなた方を包み、伴い、私がこの地上に置いたものに参与するために存在するのだ。（320, 34; 37）

神の子らが自然に対して持つ力

14. あなたがたが私の律法を遵守し、同胞の幸福のために私にそう願うならば、自然の力はあなたがたに従うであろう。（18, 47）

15. 私はあなたがたに、解き放たれた自然の力さえも、あなたがたの祈りを聞き、鎮まることを教えたではないか。もしそれらが私の声に従うのなら、主の子らが準備を整えたとき、なぜ彼らの声に従わないというのか。（39, 10）

16. わたしは、霊が試練を勝ち抜き、道の最終目標に到達できるよう、霊に物質に対する力を与えた。しかし、その戦いは激しいものとなるだろう。なぜなら、人間がこの世に、自らが信じる唯一の王国を築いて以来、人間は、自身と周囲のあらゆるものとの間に存在すべき調和を破壊してきたからである。 人間は、その高慢な玉座から、あらゆるものを科学の力の下に服従させ、自然の要素や力に自らの意志を押し付けようとしている。しかし、人間はこれを成し遂げられなかった。なぜなら、人間はとっくの昔に、霊的な法則との友好の絆を断ち切ってしまったからである。

17. 私が今、この民に、自然の力が彼らに従うことができると語ったとき、それを信じなかった者たちがいた。そして私は、彼らには疑う理由があると告げる。なぜなら、自然は、それを軽んじ、冒涜し、嘲笑する者たちには決して従わないからだ。それに対して、霊と物質の法則に調和して生きることを知る者――すなわち、周囲のあらゆるものと調和して生きる者は、その生涯において創造主と調和し、自然の諸要素が彼に仕え、従う権利を獲得する。それは、万物の創造主である父に従順なすべての子供にふさわしいことである。（105, 39）

18. 自然界があなたがたの声を聞き、あなたがたに従い、尊重している、と私が言うとき、私は嘘をついているわけでも、誇張しているわけでもない。

19. イスラエルの歴史は、わたしの真実の証として記されたものであり、その中において、神の民がいかにして自然の力や要素から繰り返し認められ、尊重されてきたかを発見することができる。なぜ、これがあなたたちには当てはまらないというのか。

20. まさか、私の力や人類への愛が、時を経て変わったとでも思っているのか？　いいえ、この言葉を聞く者たちよ、私の霊の光があなた方を包み込んでいる。私の力と愛は永遠であり、不変である。（353, 64）

人間と自然

21. しかし、地上の民よ、汝らは用心しなければならない。も

し汝らが、私の神聖な霊感を引き続き自然の力に挑むために用いるならば――もし汝らが、持っているわずかな知識を今後も悪のために用いるならば、汝らは、最も予期しない時に、苦痛に満ちた厳しい報いを受けることになるだろう。 あなたがたは空気、火、土、水、そしてあらゆる力を挑発している。もし、あなたがたの無分別によって解き放たれた自然の力を食い止めるために、時宜を得て行動を改めなければ、その報いがどうなるかは、すでに分かっているはずだ。

22. あなたがたは、私の正義があなたがたの自由意志に許す限度を満たそうとしていることに、私は注意を喚起する。あなたがたは自然をあまりにも挑発しすぎている。そして、あなたがたは、自分たちを偉大だと錯覚している小さな者たちであるゆえに、あなたがたが置かれている危険を警告するために、この言葉が与えられるのである。（17, 60）

23. 私は、私の意志なしには木の一枚の葉さえも動かないとあなた方に言った。そして今、私は、自然のいかなる要素も、私の意志以外の意志には従わないと告げる。

24. また、自然は人間にとって、彼らが望むものになり得ると言っておく。祝福と慈愛と糧を惜しみなく与える母とも、飢えと渇きが支配する不毛の砂漠ともなり得る。 人生、善、愛、そして永遠について、賢明で無限の啓示を与える師となることもあれば、人々の不従順や迷いに対して容赦ない裁き人となることもある。冒涜、

25. わが父なる神の声は、最初の人類に祝福を授けつつこう告げられた。「生めよ、増えよ、地を満たせ。地を支配せよ。海の魚、空の鳥、地を這うすべての生き物を支配せよ。」

26. そう、人類よ、私は人間を創造した。それは、人間が空の領域、水域、全大陸、そして創造の自然界において、主となり、権威を持つためである。 しかし、私は「支配者」と言った。なぜなら、人間は――自らの科学によって地球を支配していると信じているが――実際には奴隷だからである。 彼らは自然の要素を制していると思い込んでいるが、その未熟さ、傲慢さ、無知の犠牲となっている。

27. 人間の力と科学は、大地、海、そして大空を征服した。しかし、その力と権力は、神の愛の現れとして、生命、知恵、調和、そして完全性である自然の力と権力とは調和していない。人間の業、その科学と力には、傲慢、利己心、虚栄、そして悪意しか表れていない。（40, 26-30）

28. 自然の力の均衡が乱れ、それらが受けた最も根本的な変化に気づいているか。なぜ、解き放たれた自然の力に襲われてい

るのか、その理由を自覚しているか。 その理由は、あなたがたが霊的な生活と物質的な生活との間に存在する調和を壊し、それによって今あなたがたが沈みつつあるあの混沌を招いたからである。しかし、人類が生命を支配する法則に従うようになれば、すべては再び平和、豊かさ、そして至福となるだろう。（108, 56）

29. あなたがたが、まさに自らの生を営む源である自然の要素と敵対しているのを見て、どうしてあなたがたの地上の行いが完全であると言えるだろうか。

30. 私の教えは、あなたがたが自然の要素や力を利用することを妨げるものではない。しかし、それはそれらを善き目的のために用いるよう、あなたがたに命じ、教えているのである。

31. あなたがたの手に委ねられた自然の力は、友や兄弟から、あなたがたを厳しく罰する裁き人へと変わる可能性がある。

32. 人々がもはや自然の力を挑発しないよう、経験の果実を収穫する時が、とっくに訪れていた。なぜなら、彼らはそのすべての科学をもってしても、それらを止めることはできないからである。（210, 43-46）

33. 科学という木は、猛威を振るう竜巻の前に揺さぶられ、その実を人類の上に落とすだろう。しかし、人間以外の誰が、それらの自然の力の束縛を解いたというのか？

34. 確かに、かつての人類もまた、現実、すなわち良心の光に目覚め、ある法則に従うようになるために、苦痛を知らされた。しかし、この時代の、発達し、意識が高く、教養のある人間が――どうして生命の木を冒涜するなどということを敢えてできるだろうか！（288, 28）

35. 私が自然の力を解き放つことによって人間を罰しているのだと考える者たちに対し、私はこう言おう。そう考えるならば、彼らは大きな誤りに陥っているのだ。なぜなら、自然は発展し、変化するものであり、その変化や移行の過程で激変が生じる。もしあなたがたが私の律法を守らなければ、それらは な苦しみをもたらすが、あなたがたはそれを神の罰だと解釈しているのだ。

36. 確かに、彼らの中には私の正義が働いている。しかし、もしあなたがた――魂を照らす神聖な火花によって選ばれた存在であるあなたがた――が、周囲の自然と調和して生きていたならば、あなたがたの精神は、自然の変容や自然の力の猛威を超えて昇華し、あなたがたは苦しみを受けることはなかっただろう。(280, 16)

37. 自然とは、巨大な被造物に他ならないではないか。そう、弟子たちよ、それは、その懐に明日の人類を宿すことができるよう、同様に発展し、浄化され

、開花し、完成へと向かう被造物なのだ。
38. あなたがたは、その完全性を達成するための自然の過渡的な現象に、どれほど頻繁に不機嫌になり、それを神の罰だと見なしていることか。しかし、あなたがた自身もまた、自然と創造物と共に浄化され、発展し、完全性に向かって進んでいることに気づいていないのだ。（283, 57-58）

第26章 - 他の世界

キリストの普遍的な光

1. かつて私はあなた方に、「私は世の光である」と言った。それは私が人間として語ったからであり、人々が自分たちの小さな世界の外側について何も知らなかったからである。今、霊として私はあなた方に言う。私は、すべての世界、天、そして住まいの命を照らし、すべての存在と生き物を啓発し、彼らに命を与える普遍的な光である。（308, 4）
2. 私は永遠の種蒔き人である。私が地上に来る前から、人々からイエスと呼ばれていた以前から、私はすでに種蒔き人であり、物質化や誤り、無知の彼方にいた者たち――あなたがたがまだ知らず、想像もできない霊的な領域や住処に住む者たち――は、すでに私を知っていた。
3. 私が地上に来る前から私を知っていた者たちの中から、私は多くの人々をあなたがたのもとに遣わした。それは、この世で私について証しをし、愛と父の「言葉」であるキリストの到来を告げ知らせるためである。その者たちの中には、預言者もいれば、先駆者もいれば、また使徒もいた。
4. 私の足跡が残されたのは、この世界だけではない。救い主が必要とされたところには、どこにでも私は存在していた。
5. しかし、私はあなたがたに告げなければならない。他の世界では、あなたがたの兄弟姉妹たちの刷新と愛によって、私の十字架と杯は取り除かれた。それに対し、ここ、この世界では、何世紀も経った今もなお、私は の茨の冠を戴き、あなたがたの不完全さという十字架に磔にされ、いまだに胆汁と酢の入った杯を飲み続けているのだ。
6. わたしの愛の業は全人類の救済を含むものであるため、わたしは限りない忍耐をもってあなた方を待ち望んでいる。そして、すべての人間に対し、ただ一度だけでなく、幾度もの向上への機会を与え、深い昏睡状態に陥っている者たちの目覚めを、長い時代を通じて待ち続けてきたのである。（211, 26-29）
7. 完全性への梯子には多くの段があり、「霊的な谷」や果て

しない宇宙の空間には多くの世界がある。しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。私は常にすべての人々に自らを現してきたのであり、彼らが置かれている世界の霊的段階に応じて、私の啓示は彼らの間にあったのである。（219, 34）

8. 人間たちが私の神性、私の存在、そして私の教えについて議論している一方で、私が完全なる愛をもって愛されている世界もある。

9. ある者たちが最高の魂の清らかさを獲得したのと同時に、あなた方の惑星は道徳的、霊的に大きな堕落の時代を経験している。（217, 65-66）

世界間の霊的つながり

10. 私の神聖な光は至る所に輝いている。あなたがたが私を求める場所はどこであれ、私の臨在を見出すだろう。

11. 私は、すべての子供たちの間に調和が支配し始めるよう働きかける父である――地球に住む者たちの中にも、他の世界に生きる者たちの中にも。

12. すべての存在の間の霊的な調和は、彼らに偉大な啓示をもたらし、霊と霊との対話を可能にするだろう。それは距離を縮め、遠く離れた者を身近にし、対立や境界を取り除くことになる。（286, 1-3）

13. 人間は霊化に向けて大きな歩みを進めるだろう。その精神は人間の限界を超え、より高い生命の世界へと到達し、兄弟たちと交わり、彼らが差し出す光を受け取ることができるようになる。

14. また、人間は、発展の程度が低い存在や、遅れた存在が留まっている生命の次元へと降りていくこともできる。それは、彼らがその貧しい存在を脱却し、より良い生活段階へと移れるよう助けるためである。

15. 魂が完成へと登っていく階段は非常に長い。その階段の上で、あなたは無限に多様な発展段階にある存在たちに出会い、あなたが持つものを彼らに差し出すだろう。そして彼らもまた、その精神的な豊かさのいくつかをあなたに与えてくれるだろう。

16. そうして、改善を求めて奮闘しているのはこの世界だけではないことに気づくでしょう。すべての惑星において魂が発展し、すべての惑星で魂が活動し、その使命を果たすために成長していることを、あなたは知ることになる。そして私は、あなたがすべての兄弟たちと盟約を結び、互いに認識し、愛し、助け合うという聖なる願いにおいて彼らと交流できるよう、準備を整えてほしいと願っている。

17. 私の名において、そして絶対的な服従をもって、あなたの思考を通じてそれを行いなさい。この実践を始めれば、次第に彼らの願い、教え、そして恩恵

を正しく理解するようになるでしょう。
18. 私は、あなたがたが、現在あなたがたの住まいであるこの惑星上およびその外にいる兄弟たちと調和することを切に願っている。友情の絆を結び、必要な時には助けを求め、また、あなたがたが持っているものを求めてくる者たちにも、急いで助けを差し伸べなさい。（320, 44-46）

他の世界や生命体との出会い

19. あなた方は、この世界の向こう側に何があるのか、また宇宙を周回するあの星々が、あなた方の世界のような世界なのかどうか、私にしばしば尋ねてきた。
20. あなたがたの好奇心に対する私の答えは、秘密のベールを完全に晴らすものではなかった。なぜなら、あなたがたには、それを理解するために必要な成長も、他の世界と調和するために不可欠な霊性も、まだ備わっていないと私は見ているからだ。
21. あなたがたは、自分たちが住むこの惑星が与える教えをまだ認識し理解していないのに、すでに他の世界を探そうとしている。同じ世界の住人である互いの間で兄弟となることさえできなかったのに、他の世界にいる存在の存在を発見しようとしているのだ。
22. ひとまず、私が「第二の時代」において、「父の家には多くの住まいがある」と語ったことを思い出すだけで十分である。そして今、その言葉を裏付けるように、あなたがたは宇宙の唯一の住人ではなく、あなたがたの惑星だけが生命を宿す惑星ではないと、私は告げる。
23. 明日の世代には、他の世界へと近づく門が開かれているのを見ることが許され、彼らは当然のことながら父を称賛するだろう。
24. 慈善と平和が花開く善と愛こそが、神秘の扉を開く鍵となり、それによって人々は宇宙の調和へと一歩を踏み出すことになるだろう。
25. 今日、あなたがたは依然として孤立し、制限され、妨げられている。なぜなら、利己心が、魂の自由や高揚を求めることなく、ただ「この世界」のために生きることを強いてきたからだ。
26. 虚栄心にあふれた人々よ――物質主義によって矮小化された存在たちよ――もしあなたがたが、人間としての過ちから解放される前に、他の世界へ行くことを許されたとしたら、どうなるだろうか。あなたがたが蒔く種とは何だろうか。不和、度を越した野心、虚栄心である。
27. まことに、わたしはあなたがたに告げる。すべての人間が渇望するその知識、そして、人

間を苦しめ、その好奇心を掻き立てる疑問から思考を解放するその啓示を得るためには、人間は自らを深く清め、徹夜し、祈らなければならない。

28. 私の神秘を彼に明らかにするのは、科学だけではない。その知識への渇望が、霊的な愛に促されたものであることが必要である。

29. ひとたび人々の生活が霊性を映し出すようになれば――私はあなたに告げる、その時、彼らは自らの世界の彼方を探求するために努力することさえ必要としないだろう。なぜなら、その瞬間、彼らはより高い住処に住む者たちによって訪ねられることになるからだ。(292, 3-11)

星々の運命

30. あなたがたの父の家には多くの「住まい」があり、それらは完全性へと至る梯子の無限の段である。そこから「霊的世界」は降りてきて、あなたがたの間でその存在を明らかにする。

31. あなたがたは、霊から霊へと、数えきれないほど多くの星や、あなたがたの世界の上に輝いている惑星が存在する理由について、何度も私に尋ねてきた。そして、「師よ、それらの世界は空っぽなのですか？」と私に言った。

32. しかし、私はあなたに告げる。私がそれを完全に明らかにする時は、まだ来ていない。人が霊性を獲得して初めて、大きな啓示が与えられ、私の神性の愛すべき存在たちと霊から霊へと対話できるようになり、その時、すべての兄弟たちの間で思想の交流が行われるようになるのだ。

33. しかし、あなたがたは今日、すでに知っておくべきである。すべての世界は私の被造物によって住まわれており、空っぽなものは何一つなく、すべてが祝福された領域であり、神聖な慈愛の体現であるマリアによって守られた庭園なのである。

34. 聖霊は、あなた方の口を通して、あなた方にも人類にも未知の高き教えを再び伝えるであろう。いつのことか、愛する民よ？それは、あなた方の内に霊性が支配し、使命への献身が満ちた時である。（312, 10-12）

35. 見よ、わが民よ、天を見上げ、よく見よ。そうすれば、どの星にも約束があり、あなたを待ち受ける世界があることを悟るだろう。それらは神の子供たちに約束された生命の世界であり、あなたがた全員がそこに住むことになるのだ。 なぜなら、あなたがたは皆、私の王国を知るようになるからだ。それは特定の存在のためにのみ に創造されたものではない。それは、主のすべての子供たちが一つになるための、普遍的な故郷として創造されたのである。（12, 24）

第27章 － あの世

霊的生活に関する必要な知識

1. 今日の人々は、霊的な教えに関してなんと無知なことか。その理由は、彼らに対して、私の律法と教えが、彼らの助けとなる単なる道徳的教訓としてのみ説かれてきたからであり、彼らの魂を完全なる故郷へと導く道として説かれてこなかったからである。

2. 様々な宗派は、人々の心に霊的な知識に対する誤った恐れを植え付け、その結果、人々は私の啓示を避け、無知という闇の中にますます沈んでいくことになった。彼らは、霊的な生活は解き明かせない神秘である、と理由を挙げている。

3. そう主張する者たちは嘘をついている。人類の始まりから神が人々に与えてきたすべての啓示は、霊的な生活について語ってきたのである。確かに、あなたがたにはまだすべてを知る能力がなかったため、私は教えのすべてを授けてはいなかったが、その時はやがて来るはずだった。しかし、父が今日に至るまで啓示してきたことは、霊的な生活について完全な知識を得るには、あなたがたにとって十分である。（25, 38-40）

4. ある者たちが切望する霊的生活は、他の者たちからは恐れられ、否定され、さらには嘲笑さえされている。しかし、それは皆を確実に待ち受けている。それはすべての人を受け入れる胎内であり、あなた方に向かって差し伸べられる腕であり、霊の故郷である。それは学者たちにとっても測り知れない神秘である。しかし、その門を開くために用いる鍵が「愛」であるならば、いつでも私の神秘に踏み込むことができるのだ。（80, 40）

「天国」と「地獄」

5. 人々は、地獄を永遠の苦しみのある場所として想像してきた。彼らの考えによれば、私の戒めに背いた者たちは皆、そこへ送られるという。そして、重大な罪に対してこの地獄を創り出したのと同様に、彼らは軽微な罪に対しては別の場所を、また善も悪も行わなかった者たちのためにもまた別の場所を想像した。

6. あの世では喜びも苦しみもないと言う者は、真実を語っていない。苦しみを知らぬ者も、喜びを知らぬ者もいない。魂が至高の平安に達するまでは、苦しみと喜びは常に混在するものである。

7. 聞け、わが子らよ。地獄は、現世に生きる者にも、すでにこの世を去った者にも、この世の住人にも、霊界の住人にも存在する。 地獄とは、重く罪を犯した者たちの激しい苦しみ、恐ろしい良心の呵責、絶望、痛み、そして苦渋の象徴である。し

かし、彼らは魂を愛へと向かわせることで、これらの結果から解放されるだろう。

8. 一方、真の幸福と真の平和を象徴する天国は、神との交わりの中で生きるために、この世の情欲から背を向けた者たちのための場所である。

9. 自分の良心に問いかけてみよ。そうすれば、自分が地獄に生きているのか、過ちを償っているのか、それとも天国の平安に満たされているのかが分かるだろう。

10. 人々が天国や地獄と呼ぶものは、特定の場所ではない。それは、あなたの精神が「霊的な谷」に到達した時に刈り取る、あなたの行いの本質そのものである。 誰もがそれぞれの地獄を経験し、贖罪の世界に身を置き、あるいは神聖な霊との高揚と調和がもたらす至福を享受するのだ。（11, 51-56）

11. 人が地上において、わが王国の平和に似た霊的な平和の世界を自ら築き上げることができるのと同様に、その堕落によって、悪徳、邪悪、良心の呵責に満ちた地獄のような生活を送ることもできる。

12. 来世においても、魂の傾向、迷い、そして情熱に応じて、霊は闇、堕落、憎しみ、そして復讐の世界に遭遇することがある。 しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。人々が地上の形やイメージによってのみ想像する天国も地獄も、魂のさまざまな発展段階に他ならない。一方はその徳と発展によって完全性の頂点にあり、もう一方はその闇、悪徳、そして迷いの深淵にあるのである。

13. 正義の魂にとって、その魂がどこにいようとも関係はない。なぜなら、どこにいようとも、その魂は創造主の平安と天国をその内に抱いているからである。一方、不純で混乱した魂は、たとえこの世で最も素晴らしい場所にいたとしても、その内面では絶えず良心の呵責という地獄を感じ続けるだろう。その呵責は、その魂が清められるまで、その魂の中で燃え続けるのである。

14. あなたがたは、私が、あなたがたの父として、あなたがたを罰し、あなたがたの冒涜に対して永遠に復讐するために、特別に定められた場所を創造したと思うのか。

15. このような説を説く人々とは、なんと視野が狭いことか！

16. 永遠の闇と永遠の苦痛こそが、ある魂を待ち受ける結末であると、どうして信じることができるのか。たとえ彼らが罪を犯したとしても、彼らは依然として永遠に神の子である。もし彼らが教えを必要とするなら - ここに師がいる。もし彼らが愛を必要とするなら - ここに父がいる。もし彼らが赦しを渇望するなら - ここに完全なる裁き主がいる。

17. 私を求め、自らの過ちを正そうと決して試みない者は、私のところに来ることはない。しかし、私の正義や試練に耐えられない者は一人もいない。清められた者だけが、私のところに来ることができるのだ。（52, 31-37）

18. 父の家が持つ多くの住まいの中に、闇の世界は一つもなく、すべてに父の光がある。しかし、もし魂たちが無知ゆえに目隠しをしてそこに入るのであれば、どうしてその栄光を見ることができるだろうか。

19. もしあなたがたがこの世で盲人に、何が見えるかと尋ねれば、彼はこう答えるだろう。「闇だけだ」と。それは太陽の光が存在しないからではなく、彼にはそれが見えないからである。（82, 12-13）

20. 私はこの時代に、あなた方にこう言った。人間たちの間に存在する地獄についての観念を抱いてはならない、と。なぜなら、この世において、あなた方が戦争や敵意によって作り出した人生ほど大きな地獄はなく、また来世において、良心がその過ちを突きつける時の魂の良心の苦しみ以外に、火など存在しないからだ。（182, 45）

21. 宗教的狂信によって、来世において地獄の罰しか期待していない者たちが、その考えに固執している限り、彼らは自ら地獄を作り出すことになる。なぜなら、魂の混乱は人間の理性のそれと同様であるが、はるかに強いものだからである。

22. さて、あなたがたはこう尋ねるだろう。「師よ、彼らに救いはあるのでしょうか？」私はこう言う。救いはすべての人に与えられているが、平安と光がそれらの魂に届くのは、迷いの闇が晴れて初めてのことである。

23. 混乱した理性が、実在しないものまで見せてしまう人間に対して、憐れみを感じたことはあるか。もし来世で、自分たちが想像した地獄を目の当たりにしている、妄想に囚われた存在たちを見たら、その時のあなたの痛みはどれほど大きくなるだろうか！（227, 71）

24. これらの啓示を前にして震えることはない。それどころか、この言葉が、あなたがたが抱いていた永遠の罰という概念や、かつて与えられてきた永遠の火に関するあらゆる解釈を打ち砕くのだと考えると、喜びなさい。

25. 「火」とは、魂を苦しめ、それを精錬する痛み、自責、そして悔恨の象徴である。それは、るつぼの中で金が精錬されるのと同じである。この痛みの中に私の意志があり、私の意志の中に、あなた方への私の愛がある。

26. もし、人間の罪を根絶するのが火であるというのが真実であるならば、罪を犯した者たちの肉体はすべて、この地上の生

において火の中に投げ込まれなければならないはずである。なぜなら、死んでしまえばもはやそれを感じることができないからである。 なぜなら、肉体は決して霊界へ昇ることはないからだ―― それどころか、一度その役割を終えると、肉体は地中へと沈み、そこから生命を授かった自然へと溶け込んでいくのである。

27. しかし、あなたがたが「永遠の火」と呼ぶものが、肉体のためではなく魂のために用意されていると信じるならば、それはさらなる重大な誤りである。なぜなら、霊界には物質的な要素は存在せず、また火が魂に作用することもないからである。物質から生まれたものは物質であり、霊から生まれたものは霊である。

28. わたしの言葉は、いかなる信仰の信念をも攻撃するために下されるのではない。もし誰かがそう考えるなら、それは大きな誤りである。わたしの言葉は、正しく解釈されてこなかったすべての事柄、それゆえに誤りを生み出し、人類の間で世代から世代へと受け継がれてきた事柄の真意を明らかにするであろう。

29. もし私の律法と教えが、魂を誤りと罪から救い出すことができないのであれば、それらはどのような価値があるだろうか。また、もし永遠に、終わりのない贖罪の中で滅びなければならない者が大勢いるのであれば、人間としてこの世に私が現れたことに、どのような意味があっただろうか。（352, 44-48）

30. 死が突然訪れ、主へ捧げるべき功徳が何も残っていないのではないかと恐れるがゆえに、善行を行うように駆り立てられる者もいる。また、罪の中に死んでしまい、この世の後に永遠の地獄の苦しみを受けなければならないという恐怖から、悪から離れる者もいる。

31. これほど多くの人々が想像する姿において、この神はなんと歪んでおり、不完全なことか！ なんと不公正で、怪物的で、残酷なことか！人間が犯したすべての罪と犯罪を合わせても、それは、神が罪を犯した子供たちを――彼らの考えによれば――永遠の地獄の罰へと追いやるという、その忌まわしさには比べものにならない。 神の最も崇高な属性は愛であると、私はあなた方に説いてこなかったか？ ならば、永遠の苦しみとは、永遠の愛という神の属性の絶対的な否定であると思わないか？（164, 33-34）

32. あなたがたは、天国とは永遠の中に存在する領域であり、肉体の死の瞬間に自分の過ちを心から悔い改めることによってそこに入ることができると信じている。なぜなら、その瞬間に赦しを得て、私によって天の御国へと導かれると信頼している

からだ。それが、あなたがたの信じていることである。

33. しかし、私はあなたがたにこう言おう。天国とは、特定の場所でも、ある地域でも、住処でもない。魂の天国とは、その高貴な感情の世界であり、その完全性であり、その清らかな状態である。では、あなたがたが天の国に入ることを許すのは、誰の責任なのだろうか。常にあなたがたを呼び続けてきた私か、それとも、常に耳を貸そうとしなかったあなたがた自身か。

34. もはや、無限なるもの、神聖なるものを限定してはならない。もし天国が、あなたがたが信じているようなもの――特定の住処、地域、 、あるいは特定の場所――であったなら、それはもはや無限ではないということになるのだと、理解できないのか。 たとえあなたの想像力が現実のすべてを捉えきれないとしても、今こそ、より高次な方法で霊的なものを理解すべき時である。しかし、少なくともそれに近づこうとするべきである。（146, 68-69）

天国の音楽

35. あなたがたは、天国の天使たちが永遠に神聖なコンサートを聴いていると聞いたことがあるだろう。この象徴について考えるとき、天国でも、あなたがたが地上で聴き慣れているような楽曲が聴こえるのだと信じることに注意せよ。 そう考える者は、物質主義という完全な誤りに陥っている。それに対して、天の音楽や、それを聴く天使たちの至福について語られるのを聞いた時、この神聖なコンサートにおける神との調和を思い浮かべる者は、真理の中にいることになる。

36. しかし、あなた方一人ひとりの魂の中に、この「普遍的なコンサート」の音色が宿っているにもかかわらず、なぜ一部の人々はそう受け止めないのでしょうか。なぜ、この言葉を耳にしても、それを理解せず、感じ取らず、あるいは誤って解釈する人がいるのでしょうか。

37. ああ、愛する子供たちよ、理解力が弱いあなた方は、祈りの中で光を求めてください。瞑想の中で私に問いかけてください。なぜなら、あなたの問いがどれほど広範なものであっても、私は永遠からあなたに答えることを知っているからです。私からも同様にあなた方に問いを投げかけ、師と弟子との間に真理の光が輝くようにします。

38. 天上の音楽とは、あなた方の中にある神の臨在であり、あなたがたが真の高み、すなわち霊的な美に到達した時、そのコンサートの真っ只中で、あなた方の音が響き渡るだろう。これこそが天上の音楽であり、天使たちの歌である。あなたがたがそう体験し、感じるとき、真実があなた方の存在の中に輝き、神があなた方の内におられるこ

とを感じるだろう。 人生は、あなた方に永遠の、神聖なコンサートを捧げてくれるでしょう。そして、その音の一つひとつの中に、あなた方は啓示を見出すことになるのです。

39. あなたがたは、まだそれらの美しい音色を完全な調和の中で聴いたことはない――時には甘美な音、また時には力強い音。もし偶然それらを耳にしたとしても、それらは調和させることができない、曖昧な音として聞こえるだろう。 あなた方は、それらに含まれる美しさをまだ完全に自覚していないのだ。魂の中で神のコンサートを聴き取るためには、感覚や情熱、そして物質主義の影をすべて捨て去らなければならない。（199, 53-56）

わが父の家には多くの「住まい」がある

40. 私の業はますます拡大し、やがてすべての魂が私の律法の成就において一つとなり、この地上の住まいが完全なる世界となるだろう。 その時にそこに住む者たちは、すべての被造物の中に私の愛を感じ、より良い世界で生きるために備えるだろう。この地球は、あなた方の魂にとって一時的なものに過ぎず、完全性を求める心を持って、他の領域、あの世の他の次元へと旅立つことになる。

41. 私が「父の家には多くの住まいがある」と語ったことを思い出せ。そして、あなたがたが私の教えをより深く理解するようになったこの発展の時代において、私はこう告げよう。「父の家には無限の数の住まいがある」と。だから、この世を去る時、すでに最大の霊的高みに達したなどと思ってはならない。いいえ、弟子たちよ。この惑星での滞在が終わる時、私はあなた方を新たな住まいへと導き、そうして私は、あなた方の完成への無限の階段を、いつまでも導いていくのだ。私を信頼し、私を愛しなさい。そうすれば、あなた方は救われる。（317, 30）

42. あなたがたが、この世にいながらにして、私の王国、すなわち天国とその栄光がどのようなものであるか、あるいはどのような性質のものかを想像することは不可能です。私は、あなたがたが、それが魂の完全な状態であり、そこから魂が、あなたがたが現在理解することも想像することもできない、霊の素晴らしい生活を体験し、感じ、理解するのだということを知るだけで満足してほしいのです。

43. 言っておくが、あなたがたがいる次元よりも高い次元に住む魂たちでさえ、その命の現実を知ってはいないのだ。 「父の懐」に生きるということが、どういうことか、お分かりだろうか。あなたがたがそこに住むよ

うになって初めて、それを知ることができるのだ。その神秘に対する漠然とした予感、かすかな予兆だけが、あなたがたの成長の道のりにおける励みとして、一瞬だけあなたがたの心にふれ、過ぎ去っていくのである。（76, 28-29）

VII 完全性への成長の道

第28章 - 死、死後、そしてあの世での目覚め

精神の不死

1. 今こそ、人々が精神の美しさに目覚め、永遠の事柄に関心を持ち、「死後に待ち受ける人生とはどのようなものだろうか」と自問する時である。

2. たとえどれほど不信心な者であっても、自分の中に、肉体の死を超えて生き残る何かが存在しないかと、一度は自問したことがない者はいないだろう。まことに、私はあなたに告げる、 その神秘を予感せず、その測り知れないものについて一瞬たりとも考えたことがない者など、誰一人としていないのだ。

3. ある者は、遠くにあるように思われながら、実際にはまさに目の前にある霊的な命の神秘について問いを投げかける。ある者はそれに戸惑い、またある者はそれを否定する。ある者は、すべてを知っていると思い込んで語るが、ある者は沈黙し、様子を見守る。しかし、あの世について真に何かを知っている者は、いかに少ないことか。（107, 1）

4. 第三の時代において、私は人類が私を追い込んだ忘却の墓から立ち上がり、彼らを新たな命へと目覚めさせた。なぜなら、私は命そのものだからである。誰も死ぬことはできない。自らの手で命を絶とうとする者でさえ、その良心が信仰の欠如を責める声を聞くことになるだろう。（52, 63）

5. 私の教えは、単にあなたがたが地上の生を歩む間に力と確信を与えるためだけのものではない。それは、この世を去り、あの世の門をくぐり、永遠の故郷へと入る方法を、あなたがたに教えるためのものである。

6. あらゆる宗派は、この世を旅する魂を力づけるが、死後の世界への大いなる旅について、魂にどれほど明らかにし、準備させているだろうか。それゆえ、多くの者は死を終わりと見なしているが、そこからこそ、真の命の果てしない地平線が見えることを知らないのである。（261, 52-53）

7. 「死」とは単なる象徴に過ぎず、「死」は、まだ真理を認識できない者たちのためにのみ存在する。彼らにとって、「死」は依然として、その背後に不

可解なもの、あるいは無があるという恐怖の象徴である。私はあなたに告げる。目を開き、あなたたちも死ぬことはないのだと悟りなさい。 あなたがたは肉体から離れることになるが、それはあなたがたが死ぬことを意味するのではない。あなたがたは、あなたがたの師のように、永遠の命を持っているのだ。（213, 5）

この世を去るための準備

8. あなたがたは、霊の賜物を持つ者として、創造において父の最も愛された御業であることを理解しなければならない。なぜなら、父はあなたがたの中に霊的な本質、霊的な性質、そして不死を宿されたからである。

9. 魂にとって死など存在しない――あなたがたが理解するような、すなわち存在の消滅を意味する死は。肉体の死は、魂にとっての死や終わりではあり得ない。まさにその時、魂はより高次の生命へと目を開くのであり、その一方で、肉体の殻は、この世界に関して言えば、永遠にその目を閉じるのである。それは、完全性へと至る道のりにおける、単なる移行の一瞬に過ぎない。

10. もしあなたがたがまだそう理解していないとすれば、それはあなたがたがこの世をまだ深く愛し、それに強く縛られていると感じているからである。あなたがたは、この世を「家」として去ることに重圧を感じている。なぜなら、あなたがたは『』で所有しているものを自分の所有物だと考えているからだ。また、ある人々は私の神聖な正義に対する漠然とした予感を抱き、霊界に入ることを恐れている。

11. 人類はこの世界をあまりにも深く愛しすぎてしまった――その愛が誤った方向に向かっていたがゆえに、あまりにも深く愛しすぎたのだ。このために、どれほど多くの者がこの世で命を落としたことか！ 同じ理由で、どれほど多くの魂が物質化してしまったことか！

12. 死の足音がすぐそばに迫っているのを感じたとき、重病にかかったとき、苦しんだとき、そのとき初めて、あなたはあの世、つまりそのような危機的な瞬間にのみ恐れるあの正義の御前に、あと一歩のところまで来ているのだと気づくのです。そして、あなたは父に誓いを立て、地上で父を愛し、仕え、従うことを誓うのです。（146, 46-49）

13. 人々は、この生をあまりにも愛しすぎて、それを去る時が近づくと、私の意志に背き、私が彼らに向けて発する呼びかけを聞こうとしない。彼らは私の王国の平安を拒み、地上の財産を持ち続けるために、父に地上でのさらなる時間を求めている。

14. 霊的な生を予感できるよう、感性を研ぎ澄ませ、あなた方の発展の始まり――すなわちこの生――に満足してはならない。なぜなら、その上に、より高次の創造の業が存在するからである。

15. もし死が私の意志に従ってあなた方に迫るなら、それを拒もうとしてはならない。また、科学者に、私の決定に逆らい、あなた方の存在を延ばすという奇跡を行わせるよう求めたりしてはならない。なぜなら、あなた方はその過ちを深く後悔することになるからだ。 この人生において備えをしておけば、来世への旅立ちを恐れる理由などなくなるだろう。（52, 55-57）

16. この世に生きている間は、その法則を遵守できるよう、ある程度の範囲でこの世のものを愛しなさい。 しかし、常に高次の霊的な世界に住むという崇高な目標を胸に抱き続けなさい。そうすれば、魂が肉体を脱ぎ捨てた時に動揺することも、この惑星で愛したものに誘惑されることもないだろう。そうでなければ、魂はもはや属さない世界に縛られ、鎖でつながれたままとなり、その世界を何ら楽しむこともできなくなるからだ。（284, 5）

17. 自分自身に憐れみを持て！いつ魂が肉体から離れる瞬間が訪れるか、誰も知らない。明日、自分の目が再び光に開かれるかどうか、誰も知らない。あなたがたは皆、すべての被造物の唯一の所有者に属しており、いつ召されるかを知らないのだ。

18. 頭の上の髪の毛さえも、あなたがたのものではないこと、また、あなたがたが踏む塵さえも、あなたがたのものではないことを心に留めなさい。あなたがた自身さえも、あなたがたのものではないのだ。あなたがたの王国はこの世のものではないのだから、はかない所有物など必要ないのだ。

19. 霊的な境地に至れば、必要な限り、すべてを正義と節度をもって所有することになる。そして、この生を捨てる時が来れば、光に満たされて昇り、あの世であなたに与えられるものを手に入れるだろう。（5, 95-97）

あの世への移行

20. あらゆる時、私の声は、平安のある善き道へとあなた方を呼びかけている。しかし、耳の遠いあなた方は、その声に対してほんのひとときしか感応せず、そのひとときこそが、死の苦しみによって肉体の死が近づいていることを告げられる、あなた方の生涯の最後の瞬間となるのである。 その時、あなた方は過ちを償い、良心の裁きに直面して魂を安らかにし、主に価値ある功績を捧げるために、人生をやり直したいと願うだろう。（64, 60）

21. もしあなたがたが魂の不死を志すならば、人間の生命に終止符を打つ死の到来を恐れてはならない。準備を整えてそれを待ち受けよ。死は私の命令に従うものであり、それゆえ、たとえ人々がしばしばその反対を信じているとしても、死は常に適切な時に、そして正当な理由で訪れるのである。

22. 辛いのは、人が死ぬことではなく、肉体を離れる際にその魂が光に欠け、真理を見ることができないことである。 私は罪人の死を望むのではなく、その回心を望む。しかし、死が必要となった時――たとえそれが魂を解放するためであれ、あるいは人が破滅へと転落するのを食い止めるためであれ――その時、私の神聖な正義がその人間の存在の命の糸を断ち切るのだ。（102, 49-50）

23. あなたがたの運命の書には、あの世の門が開き、あなたがたの魂を受け入れる日と時刻が記されていることを知れ。そこから、あなたがたは地上のすべての行い、すべての過去を見ることになる。 その時、あなた方を非難したり嘆いたりする声を聞きたくないでしょうし、自分たちの不幸の原因はあなた方にあると指さす者たちを見たくはないでしょう！（53, 49）

24. あなたがたは、まだ長い道のりが目の前にあるからといって、立ち止まって、決して目的地にたどり着けないなどと考えてはならない。前進しなさい。たとえ一瞬の時間を無駄にしたとしても、後であなたの魂はそれを嘆くことになるのだから。誰が、目的地はこの世にあると言ったのか？誰が、死が終わりであり、その瞬間に私の王国に到達できると教えたのか？

25. 死は短い眠りのようなものであり、その後に魂は、私の光の愛撫のもとで、新たな力を得て目覚めるだろう。それは、魂にとって始まる新たな一日のように。

26. 死は、あなたがたが肉体に縛られていた間、閉じ込められていた牢獄の扉を開く鍵であり、同時に、永遠への門を開く鍵でもある。

27. 人間の不完全さによって贖罪の谷へと変えられてしまったこの惑星は、魂にとって監禁であり、追放であった。

28. まことに、わたしはあなたがたに告げる。地上の生活は、生命の梯子におけるさらなる一段階である。なぜ、そのすべての教訓を活かすために、そう受け止めないのか。多くの者が何度もここに戻らなければならない理由は、彼らがそれを理解せず、前世から何の益も得られなかったからである。（167, 22-26）

29. 魂は、長く、時に厳しい試練にさらされようとしているため、地上に転生する前に徹底的な準備を受けることを知らなければならない。 しかし、その準

備のおかげで、魂はこの人生に足を踏み入れる際、動揺することはない。魂は過去に対して目を閉じ、新たな存在へと開く。そうして、魂は自分が来たこの世界に、最初の瞬間から順応していくのである。

30. しかし、肉体とこの世を離れた後、霊的な生活の門戸に立つ際、あなたの魂がどのような態度をとるかは、これとは全く異なる。故郷への帰還に向けた真の準備が与えられていなかったため、魂は混乱し、物質体の感情に支配され、何をすべきか、どこへ向かうべきかも分からなくなるのである。

31. これは、最期の瞬間にこの世界に対しても目を閉じなければならないことを学ばなかったことに起因する。なぜなら、そうして初めて、魂は、かつて去った霊界に向けて再び目を開くことができるからだ。そこでは、魂の全過去が、新たな経験と融合することを待ち受けており、過去のすべての功績が新たな功績に加えられるのである。

32. 彼女が光を取り戻そうとする時、彼女の思考能力は濃いベールに包まれる。彼女が置き去りにしたあらゆるものからの執拗な影響が、彼女の精神の波動を感じることを妨げている。しかし、彼女の影が消え去り、真の核心と一つになろうとする時――なんと大きな動揺、なんと大きな苦痛であろうか！

33. このメッセージを聞いたり読んだりした後、それを無益な教え、あるいは誤った教えとして拒む者がいるだろうか。私は言う。極度の物質主義、あるいは盲目的な頑固さの段階にある者だけが、その魂が深く動かされることなく、この光を拒むことができるのだ。（257, 20-22）

「死の眠り」

34. あなたがたの地上的性質が理解し、捉えているような精神的な安らぎなど存在しない。 魂が待ち望む休息とは、活動であり、善を行うことの増大であり、一瞬一瞬を活かすことである。そうしてこそ、 魂は休息し、自責や苦しみから解放され、善を行うことによって活力を取り戻し、創造主と兄弟姉妹を愛することによって安らぎを得るのだ。

35. まことに、あなたがたに告げる。もし私が、あなたがたの魂を、あなたがたが地上で想像するような休息のために無為のままにしておいたならば、絶望と恐怖の闇がそれを支配することになるだろう。なぜなら、魂の命と光、そしてその最大の幸福とは、労働であり、闘争であり、絶え間ない活動だからである。

36. 地上から「霊的な谷」へと帰還する魂は、肉体の疲れをその内に刻み込み、あの世を休息の場として求め、安らぎ、忘れ

、生との闘いの痕跡を消し去ろうとする。 – そのような魂は、最も不幸な存在であると自ら感じ、その無気力から目覚め、自らの過ちに気づき、私が今まさに語ったような霊的な生活、すなわち愛、活動、そして完全性へと至る道における絶え間ない闘いへと高まるまでは、平和も至福も見出せないだろう。（317, 12-14）

来世での再会

37. 私は、あなたがたが信仰深い人々であり、霊的な生活を信じる者であることを望む。もしあなたがたの兄弟姉妹があの世へと旅立つのを見送ったとしても、彼らを自分たちから遠く離れた存在だとは思わないでほしい。また、彼らを永遠に失ったとも思ってはならない。 もし彼らと再び結ばれたいと願うなら、努力し、功徳を積みなさい。そうすれば、あなたがたが来世にたどり着いたとき、彼らはそこであなたがたを待ち受け、「霊的な谷」で生きることを教えてくれるでしょう。（9, 20）

38. 来世の生活について不安を感じたことがない者はいるだろうか。この世で愛する人を失った者の中で、もう一度その人に会いたい、あるいはせめてその人がどこにいるのかを知りたいという切望を感じなかった者はいるだろうか。これらすべてを、あなた方は知ることになる。あなた方は彼らに再会するのだ。

39. しかし、今こそ功徳を積みなさい。そうすれば、あなたがたがこの地を去り、「霊界」で、探している人々がどこにいるのかと尋ねたとき、「彼らはより高い段階にいるから、あなたには見えない」などと言われないようにするためです。私がずっと以前に、父の家には多くの住まいがあると告げたことを忘れないでください。（61, 31）

自らの良心による霊への裁き

40. もし、ある大罪人の魂が、この物質的な生から離れて 「霊的な谷」へと入ろうとする時、その魂は、自分が想像していたような地獄は存在せず、かつて語られていた火とは、自分の良心という容赦ない審判者の前に立った時に、自らの行いがもたらす霊的な結果に他ならないことに気づき、驚愕する。

41. この来世の裁き、すなわち、その罪人を包む闇の只中に差し込むこの光は、あなたがたが想像しうる最も灼熱の炎よりも激しく燃え上がる。 しかし、それは、私を傷つけた者に対する罰としてあらかじめ用意された拷問ではない。いや、この苦しみは、犯した過ちへの自覚、自分を生かしてくれた方を傷つけてしまったという苦しみ、そして主から授かった時間とすべての恵みを無駄にしてしまったという自覚から生じるのだ。

42. たとえ罪が、それを犯した者自身をより深く傷つけることを私が知っていたとしても、私を傷つけた者を罰すべきだと、あなたがたは思うのか。罪を犯した者自身が自らに悪を行っているのであり、私がその者を罰することで、彼が自ら招いた不幸をさらに増大させようとしているのではないことを、あなたがたは理解できないのか。 私はただ、彼が自分自身を見つめ、良心の容赦ない声を聞き、自らに問いかけ、自らに答え、物質によって失った霊的な記憶を取り戻し、自らの起源、使命、そして誓いを思い出すことを許すだけである。 そして、その裁きの場において、彼は「火」の作用を体験しなければならない。その火は彼の悪を根絶し、坩堝の中の金のように彼を新たに溶かし、彼から有害なもの、無益なもの、そして霊的でないすべてのものを取り除くのである。

43. もし魂が立ち止まり、良心の声と裁きに耳を傾けるならば——まことに、わたしはあなたがたに告げる、その瞬間、その魂はわたしの御前にいるのである。

44. この静寂と沈黙、そして明晰さの時が訪れるのは、すべての魂にとって同じ時期ではない。ある者はすぐに自己の試練へと踏み込み、それによって多くの苦しみを免れる。なぜなら、彼らが現実に目覚め、自らの過ちを悟るやいなや、身を引き締め、自らの悪行を最後の一点に至るまで償おうと取り掛かるからである。

45. 一方、悪癖や何らかの恨み、あるいは罪深い生活を送ってきたために目が曇っている者たちは、その迷いから抜け出すまでに長い時間を要する。

46. また、すべてが順調だったにもかかわらず、あまりにも早くこの世から連れ去られたと不満を抱く者たちは、呪いの言葉を吐き、冒涜を行う。それによって、彼らは自らの動揺から解放される機会を遅らせている。そして、彼らのようなケースは数多く存在し、それらはただ私の知恵のみが知っている。（36, 47-51）

47. あなたがたはすべてについて責任を負わなければならない。そして、あなたがたの悪行の性質に応じて、あなたがたは自分自身によって最も厳しい裁きを受けることになる。なぜなら、私があなたがたを裁くのではないからだ。それは誤りである。 明晰な状態にあるあなた自身の精神こそが、あなたにとって恐るべき告発者であり、恐ろしい裁判官である。それに対し、私は、激しい告発からあなたを弁護し、 、あなたを無罪とし、救い出す。なぜなら、私は清め、赦す愛そのものだからである。（32, 65）

48. あなたがたはまもなく霊界に身を置くことになること、そしてこの地上で蒔いたものを必

ず刈り取らなければならないことを心に留めなさい。この生からあの生への移行は、依然として魂にとって厳粛かつ厳しい審判である。たとえ自分が私の最もふさわしい僕であると自負する者であっても、この審判を免れる者はいない。

49. わが意志は、あなたがたがあの無限の故郷に足を踏み入れたその瞬間から、もはや地上の恐怖を経験することなく、さらなる段階へと登りつめたという喜びと歓びを感じ始めることにある。（99, 49-50）

50. 人類が解釈してきたような「最後の審判」は誤りである。私の裁きは、一時間や一日のことではない。それはすでに長い間、あなた方の上に重くのしかかっているのだ。

51. しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。死した肉体は、それに見合う自然界と融合するよう定められており、その定めに従ったのである。なぜなら、地上のものは地へ帰らなければならないのと同様に、霊的なものは、私の懐であるその故郷へと向かうべきだからである。

52. しかし、私はまたこうも告げる。あなたがたは、その裁きにおいて、自らを裁く者となるのだ。なぜなら、あなたがたの良心、自己認識、そして直感が、あなたがたがいかに称賛に値するか、またどの霊的な故郷に住まなければならないかを告げるからである。 あなたがたは、従うべき道をはっきりと見出すだろう。なぜなら、私の神性の光を受け取れば、自分の行いを認識し、自分の功績を評価できるようになるからだ。

53. 「霊的な谷」には、多くの混乱し、動揺した存在たちがいる。いつかそこに入ったら、彼らに私のメッセージと私の光をもたらしなさい。

54. すでに今、祈りを通じて彼らとつながり、この形の慈悲を実践することができる。 あなたがたの声が、彼らが住む場所に響き渡り、彼らを深い眠りから目覚めさせるだろう。彼らは泣き、悔恨の涙で身を清めるだろう。その瞬間、彼らは一筋の光を受け取ることになる。なぜなら、その時、彼らは過去の虚栄、過ち、罪を理解するからだ。

55. 良心が魂を目覚めさせたとき、その痛みはなんと大きいことか！その時、魂は至高の審判者の御前にいかに謙虚にひれ伏すことか！その存在の最も奥底から、いかに謙虚に、赦しを求める嘆願、誓い、そしてわが名の祝福が湧き上がることであろうか！

56. 今や魂は、父の完全さに近づくことができないと悟り、そこで、目標に近づく機会を与えてくれた時間と試練を活かすことができなかったこの地上へと視線を向け、過ちを償い、果たせなかった使命を果たすために、新たな肉体を請うのである。

57. では、誰が正義を司ったのか。自らを裁いたのは、霊そのものではなかったか。58. わが霊は、あなたがたが自らを映し出さなければならない鏡であり、それはあなたがたが持つ清らかさの度合いを明らかにしてくれる。（240、345 41-46）
59. もしあなたがたの魂が人間の殻を脱ぎ捨て、霊的生活の聖域において自らの内奥へと引きこもり、その過去と収穫を吟味するならば、この世では完全であり、主の御前に差し出すにふさわしく、報いを受けるに値すると見えた多くの行いが、その内省の一瞬において、取るに足らないものとして映るだろう。魂は、この世では善いものと思われた多くの行いの意味が、単なる虚栄心や偽りの愛、心から湧き出たものではない慈善の表れに過ぎなかったことを悟るだろう。
60. 魂が自らを裁くための、完全なる裁判官による啓示を、誰が与えたとあなたは思うか。 正義の時、かつてないほどの明晰さで輝き、あなた方に強い印象を与えるであろうその霊こそが、各人に、地上で行った善、正義、正しさ、真実とは何であったか、そしてその道のりで蒔いた悪、誤り、不純とは何であったかを告げる者となるのだ。
61. 私が今、あなた方に語った聖所は、霊の聖所である。それは、誰も冒涜することのできない神殿であり、神が住まわれ、そこから神の声が響き、光が溢れ出る神殿である。
62. この世において、あなたがたは決してその内なる聖所に入る用意ができていなかった。なぜなら、あなたがたの人間的な人格は、すべての人の中に語りかける賢明な声を避けるための手段や方法ばかりを常に考えているからである。
63. 私はあなたに告げる。もしあなたの魂がその外殻を脱ぎ捨てたなら、やがてその聖所の敷居の前で立ち止まり、心を整えてそこに入り、魂の祭壇の前にひざまずき、自らの声を聞き、良心という光の中で自らの行いを吟味し、父として、師として、そして裁き主として語る神の声を、自らの内から聞くことになるだろう。
64. あなたがた全員が、自分の中に持つ善を認識し、それを守り、また、もはや魂の中に留めてはならないものを見極めるために経験しなければならない、その瞬間の全き荘厳さを、いかなる人間も想像することはできない。
65. 魂が自らの良心に直面し、それが真実の明晰さをもって記憶を呼び起こすとき、その存在は自分自身に耳を傾けるにはあまりにも弱く感じられ、自分が存在しなかったことを願う。 なぜなら、一瞬のうちに、その意識の前を、自分の全人生が駆け抜けていくからだ――過去に残してきたもの、所有していたも

の、そして自分自身のものだったもの、そして今やついにその説明責任を問われなければならないもの。

66. 弟子たちよ、人々よ、この生においてすでにその瞬間に備えよ。そうすれば、あなたの魂が霊の神殿の敷居の前に現れたとき、その神殿を法廷に変えてしまうことはないだろう。なぜなら、その時の魂の苦しみは、それに匹敵する肉体の痛みなど存在しないほど、甚大なものとなるからだ。

67. 私は、あなたがたが、この教えの中で私が語ったすべてのことを熟考し、霊的な領域においてあなたがたの裁きがいかに行われるかを理解することを望む。 それゆえ、あなたがたは、神が老人の姿をとって司る法廷を想像する、あのイメージを、自分の想像の世界から消し去らなければならない。その法廷では、神は善き子らを右側に通して天国の喜びを享受させ、悪しき者たちを左側に立たせて永遠の罰に処するのだ。

68. 今こそ、光があなた方の魂と知性の最も高い領域にまで届き、すべての人の中に真理が輝き、霊的な生にふさわしく歩み入る準備が整う時である。（334, 5-11; 14-15）

取り戻された霊的意識

69. 私の創造物の中に、肉体の死ほど、各魂が人生において到達した発展の段階を示すのに適したものはなく、また、完全性へと昇華するために、私の言葉ほど有益なものはない。 それゆえ、私の法と教えは常に、そして断固として人々の心に浸透しようと努めているのであり、また、痛みと苦しみは、魂を高揚させるどころか深淵へと導くような道を、人々が離れるよう促しているのである。

70. もし良心が、あなたが地上で愛の種を蒔いたと告げるならば、来世において、あなたの魂はどれほど幸福を感じるだろうか！ 過去全体があなたの目の前に現れ、あなたの行いであったものの一つひとつを見るたびに、あなたは限りない歓びを覚えるだろう。

71. あなたがたの記憶が常に留めておくことができなかった、わたしの律法の戒めもまた、明瞭さと光に満ちて、あなたがたの魂の前を通り過ぎていくであろう。真実を見据える目を持って未知の世界へと踏み込むことを許されるような功徳を積みなさい。

72. 人間が解明しようと徒労に終わった多くの秘密がある。人間の直感も科学も、人々が抱いてきた多くの問いに答えることはできなかった。それは、「霊的な谷」に入った魂にのみ与えられる知見があるからである。魂を待ち受けるこれらの驚き、これらの奇跡、これらの啓示は、その報いの一部となるだろう。しかし、まことに、私はあな

たに告げる。もし魂が、 な目を覆う布をまとったまま霊界に入ったならば、何も見ることができず、すべてが明瞭であるべき場所でさえ、依然として周囲に謎ばかりを見ることになるだろう。

73. 今日、私があなた方に伝えるこの天の教えは、多くの美しさを明らかにし、あなた方を準備させるものである。そうすれば、いつか霊として永遠なる御方の正義の前に立つとき、その瞬間からあなた方を包み込むであろう、その驚くべき現実に耐えうるようになるだろう。（85, 42; 63-66）

74. 私の光を受け入れなさい。そうすれば、それはあなた方の生き方を照らし、死の瞬間に意識の曇りからあなた方を解き放つでしょう。そうすれば、あなた方はあの世の境界を越えるその瞬間に、自分が誰であるか、かつて誰であったか、そしてこれから誰になるのかを知るようになるでしょう。（100, 60）

75. あなたがたの肉体は大地に埋もれ、その懐の中で大地と混ざり合い、大地を肥沃にするだろう――死後もなお、それらは力と命であり続けるからだ――しかし、あなたがたの存在の上に立つ霊は、大地に残ることはなく、魂と共に旅立ち、魂にとっての書物として現れる。その書物の深遠で賢明な教えは、魂によって学ばれることになる。

76. そこで、あなた方の魂の目は真理に向けて開かれ、一瞬にして、一生をかけても理解できなかったことを解き明かすことができるようになる。そこで、神の子であり、隣人の兄弟であるとはどういうことかを理解するだろう。 そこで、あなたがたは所有していたすべてのものの価値を理解し、犯した過ちや失われた時間に対する後悔と悔恨を感じ、改善と償いへの最も美しい決意が、あなたがたの中に生まれ出るだろう。（62, 5）

77. 今この時から、皆が同じ目標に向かって進み、魂の生活を和解させ、調和させていきなさい。誰も、自分が兄弟よりも優れた道を歩んでいるなどと思ってはならないし、他者よりも高い段階に立っているなどと考えてはならない。言っておくが、死の瞬間、あなたがたの発達の高さについての真実を告げるのは、私の声である。

78. そこ、良心の前で訪れるその短い悟りの瞬間に、多くの者が報いを受ける。しかし、多くの者は自らの偉大さが消え去るのを見る。

79. 救われたいのか。ならば、兄弟愛の道を歩んで、私のもとに来なさい。それこそが唯一の道であり、他に道はない。それは、私の至高の戒めに記されている、「互いに愛し合いなさい」という言葉そのものである。（299, 40-4）

第29章 － 来世における魂の浄化と昇華

良心の呵責、悔恨、そして自責

1. わたしは、あなたがたの魂が汚されることも、また、真の命に関して死ぬことも望まない。それゆえ、あなたがたが有害な喜びや快楽にふけっているのを見かけたら、わたしは正義をもってあなたがたを懲らしめる。あなたがたの魂は、わたしの懐から生まれた時と同じように、清らかなままわたしの懐にたどり着かねばならない。

2. 肉体を地に残し、混乱した状態でこの世を去った者たちは皆、霊を照らす永遠の光の中に現れる私の御姿を目にしたとき、深い眠りから目覚め、苦い涙と自己非難の絶望に襲われる。子がその苦しみから解放されるまで痛みが続く限り、父もまた苦しむのである。（228, 7-8）

3. 知識の欠如に起因する良心の呵責や苦しみ――あの生命を享受するための霊化が欠如しているために生じる苦しみ――これらは、汚れを抱えて、あるいは準備もなしに霊的生活の入り口にたどり着いた魂たちの贖罪の中に、これ以上に含まれている。

4. 私は、人々が自らに悪をもたらしていることを知っているため、人間の罪、不完全さ、あるいは堕落を、父に対する侮辱として受け止めることはできないと悟りなさい。（36, 56）

5. もしあなたがたが隣人を愛し、父の御心を行うならば――もしあなたがたが自由意志の一部を犠牲にし、良心が命じる通りに行動するならば、あなたがたの人生はどれほど輝きに満ち、あなたがたの科学はどれほど偉大で先導的なものとなるだろうか。 そうすれば、あなたの科学は物質の境界を越えて、超自然的なものに触れることになるだろう。なぜなら、これまでのところ、それはその境界にさえ近づいていないからだ。

6. 科学者の魂は、この世を去り、ついに神の真理と対峙したとき、いかなる動揺を感じるだろうか！そこで魂は恥じ入って顔を伏せ、その傲慢を赦されるよう懇願する。魂は、すべてを知り、すべてができると信じていた。自分の知識や理解を超えたものが存在することを否定していたのだ。 しかし今、命の書、すなわち創造主の無限の御業の前に立つに至り、その魂は自らの無力さを認め、絶対的な英知であられる御方の御前に謙虚に身を包まなければならない。（283, 48-49）

7. 霊界に到着した際、地上で犯した罪について考えなければならないことを恐れてはならない。 もしあなたがたが、苦しみによって清められ、心から悔恨

が湧き上がり、過ちを償おうと奮闘するならば、あなたは尊厳と清らかさを帯びて私の御前に立つことになるでしょう。そして、あなたの良心でさえも、あなたの過去の不完全さを口にすることは決してないでしょう。

8. 完全なる故郷には、時の中であれ永遠の中であれ、その持ち主の到来を待ち受ける場所が、すべての魂のために用意されている。愛、慈悲、信仰、そして功績という「 」の階段を登り、あなた方は一人また一人と、私の王国へと入っていくことになる。（81, 60-61）

均衡の正義

9. この世において、私が持っていた弟子はわずかであり、神の師の写しのような者たちはさらに少なかった。それに対し、霊的な谷には多くの弟子がいる。なぜなら、そこでは私の教えを理解する上で最も大きな進歩が見られるからである。そこそが、愛に飢え渇く私の子供たちが、人類が彼らに拒んだものを師から受け取る場所である。そこでは、謙虚さゆえに地上では見過ごされていた者たちが、その徳によって輝き、また、この世で偽りの光に照らされていた者たちが、悲しみと悔恨の涙を流している。

10. あの世こそ、あなたがたが地上では望みもしなかったような形で、私があなたがたを迎え入れる場所である。あなたがたは涙を流しながらも、私を祝福しつつ、自らの罪を償っていたのだ。 あなたがたが人生の旅路において、一瞬でも激しい反抗の瞬間があったとしても、それは重要ではない。私は、あなたがたが大きな苦痛の日々を過ごし、その中で服従を示し、私の名を祝福したことを考慮に入れる。あなたがたもまた、その小ささの範囲内で、たとえそれがあなたがたの不従順によって引き起こされたものであったとしても、いくつかのゴルゴタを経験してきたのだ。

11. 見よ、神への忠実と愛のほんの一瞬によって、あなたがたは来世において命と恵みの時を得るのだ。かくして、私の永遠の愛は、人間のつかの間の愛に応えるのである。（22, 27-29）

12. あらゆる善行には報いがあるが、それはこの地上ではなく、来世で受け取られるものである。しかし、どれほど多くの人々が、この至福をすでにこの地上において享受したいと願っていることか。彼らは、霊的な生活のために何もしない者は、その世界に入ったとき、何の功績もなく立ち尽くし、そのときその悔恨は甚大になることを知らないのである。（1, 21）

13. 世の栄誉や称賛を渇望する者は、この世でそれを得るかもしれない。しかし、それらは短命であり、霊界に入るその日には何の役にも立たない。 金銭を目当てとする者は、ここでその

報酬を得てもよい。それが彼の目指したものであったからである。しかし、この世のすべてを置き去りにして来世へと向かう時が来れば、たとえ慈善のために多くのことをしたと思っていても、彼は自分の魂のためにいかなる報いをも要求する権利を、ほんの少しも持たないだろう。

14. それとは対照的に、常に諂いや便宜を拒み、純粋な心で利己心なく隣人を愛し、あらゆる物質的な報酬を拒み、善を蒔くことに専心し、 愛の行いを実践することに喜びを見出した者――その者は報いを考えないだろう。なぜなら、彼は自身の 満足のために生きるのではなく、隣人のために生きるからである。彼が主の懐に抱かれる時、その平安と至福はどれほど大きなものとなるだろうか！（253, 14）

15. 私はこの時代に、純粋かつ完全な教えをあなた方に与える。それゆえ、私はあなた方に告げる。日々の業の終わりに、あなた方の生において真の愛をもって行ったことだけが、あなた方の功績として認められるのだ。なぜなら、それこそが、あなた方が真理を知っていたことの証となるからである。（281, 17）

16. 善行を行うその瞬間、その価値が分からなかったからといって、あなたがたが行った善を決して知ることのないのだ、などと考えてはならない。あなたがたの行いのうち、報いを受けないものは一つもない、と私は告げる。

17. いつかあなたがたが霊界に到ったとき、一見取るに足らないような小さな行いが、いかに頻繁に善行の連鎖の始まりであったかを悟るだろう。その連鎖は他者によってますます長くされていくが、それを始めた者自身を永遠に満足感で満たすものである。（292, 23-24）

18. 私はあなたがたに功徳を積むよう促すが、その動機は、自らの魂の救済を求める利己的な願望であってはならない。むしろ、あなたがたは、隣人のことを思い、また、来るべき世代のことを思いながら行いをなすべきである。彼らにとって、「先人たち」によって道が整えられているのを見つけたとき、その歓喜は計り知れないものとなるだろう。 そうすれば、兄弟姉妹の喜びと平安があなたの魂にも届くため、あなたの幸福は限りないものとなるだろう。

19. 自らの救いと至福のみを求める者たちの場合とは、なんと異なることか。なぜなら、彼らが自らの行いによって勝ち取った場所にたどり着いたとしても、自分たちが置き去りにした者たち、そして苦難の重い荷を背負っている者たちを見れば、一瞬たりとも平安や喜びを得ることができないからである。

20. まことに、わたしはあなたがたに告げる。この教えの真の弟子たちは、わたしの光そのものである彼らの霊のように、その行いにおいて義にかなった、清らかな者となるであろう。（290, 76-77）

21. あなたがたが謙虚であれば、あなたがたを待ち受ける人生において、あなたがたの霊的な富は増し加わるであろう。 そうすれば、あなたがたは、存在における最も美しい感覚をもたらす平安を得るだろう。そして、あなたがたの霊の中に、父に仕えたいという渇望が生まれる。父は、私が創造したすべてのものの忠実な守護者であり、苦しむ者への慰めであり、安らぎのない者への平安であるからだ。（260, 29）

神の御国への魂の昇華

22. これこそが「第三の時代」であり、この時代において、あなたの魂は、まだ地上にいながらにして、極めて高い生命の次元や、極めて大きな悟りについて夢見ることを始めることができるのである。 なぜなら、この世を去る者が、自分の魂の中に、これから出会うものについての認識と、その霊的賜物の開花をすでに携えているならば、その者は多くの世界を、そこに留まることなく通り抜け、自分の功績によって住むにふさわしい世界へと至るからである。

23. その人は自らの霊的な状態を完全に自覚し、どこにいようとも自らの使命を果たすことを理解するだろう。愛と調和と正義の言葉を理解し、思考そのものである霊的な言葉の明晰さをもって、自らを表現することができるようになる。 彼にとって、障害も、動揺も、涙も存在せず、永遠の遺産として与えられている、彼にふさわしい故郷へと近づくという計り知れない歓びを、ますます深く味わうことになる。（294, 55）

24. 神の天の梯子には、魂の完成度によって、到達した発展段階に応じた様々な段階に位置することができる、無数の存在がいる。あなた方の魂は、この完成への階段を登り、創造主の高き御旨によって定められた目標に到達するために、ふさわしい性質を持って創造されたのである。

25. それらの魂の運命については、あなた方は知らない。しかし、私は告げる。それらは、私が創造したすべてのものと同様に、完全なものである。

26. あなたがたは、父が与えてくださった賜物を、いまだに理解していない。しかし、心配するな。やがてあなたがたはそれらに気づき、それらが完全に現れるのを体験することになるだろう。

27. あなた方のように、様々な生命の次元に住む無数の魂たちは、愛という高次の力によって

互いに結ばれている。彼らは、停滞のためではなく、闘い、そしてより高い発展のために創造されたのだ。わたしの戒めを果たした者たちは、神の愛において偉大となった。

28. しかし、たとえあなたの魂が偉大さ、力、そして知恵に達したとしても、その性質は神におけるもののように無限ではないため、全能になることはないということを、私はあなたに思い出させておこう。それでもなお、それらは、創造主の愛が最初の瞬間からあなたのために描き出したまっすぐな道の上で、あなたを完成の頂点へと導くには十分である。（32, 34, 37）

29. あなたの魂は、完全性を達成するために、七つの魂の発達段階を経なければならない。今日、あなたがまだ地上に生きている今、あなたは天の梯子のどの段階にいるのかを知らない。

30. 私は、あなた方の魂のこの問いに対する答えを知っているが、現時点ではそれを告げることはできない。（133, 59-60）

31. どの段、どの段階、どの人生レベルも、魂により大きな光と、より完全な至福をもたらす。しかし、最高の平安、すなわち魂の完全な幸福は、魂が一時的に留まるあらゆる場所を超越したところにある。

32. あなたがたは、神の懐における完全な幸福を、あらかじめ感じていると何度思うことか。しかし、その幸福は、この世の後にあなたがたが向かわなければならない次の世界への、ほんの な前味に過ぎないことを、あなたがたは気づいていない。（296, 49-50）

33. どれほど多くの人が、その瞬間が自分たちを私のもとへ導き、天国で永遠に私を礼拝できるようになると期待して、死を夢見ていることか。しかし、その道は彼らが信じていたよりもはるかに遠いことを、彼らは知らない。あなた方を私のもとへ導く天の梯子の、たった一段でも上へ登るためには、人間としての生涯を正しい方法で生きなければならない。 無知こそが、多くの者が私の教えの真意を誤解している原因である。（164, 30）

34. 人間によって、破壊の力が解き放たれた。 戦争はその種をすべての人の心に蒔いた。人類はどれほどの苦痛を経験したことか！ その道筋には、どれほどの見捨てられ、悲惨、孤児、そして悲嘆が残されたことか！ 戦いで倒れた者たちの魂は滅びてしまったと、あるいは、人間の中に宿る生命の一部である永遠はもはや存在しないと、あなたがたは思うのか？

35. いいえ、民よ。魂は戦争と死を乗り越えて生き残る。私の精神の一部であるそれは、苦痛の野原から立ち上がり、生き続け、開花し、発展していくために、私の道において新たな地平

を求めているのだ。（262, 26-27）

36. 私は、あなたがた全員が等しく所有し、平和に暮らし、そこを一時的な住まいとして用いるために、また、そこで能力を開花させ、魂を新たな住まいへと昇る準備をするために、この地球を与えたのだ。

37. わたしはあなたがたに言った。「主の家には多くの住まいがある。」あなたがたは、高みへと昇るにつれて、それらを知ることになるだろう。その一つひとつが、ますますわたしに近づけてくれるものであり、あなたがたの行いに応じてそれらに到達することになる。なぜなら、すべては神の秩序と正義に従っているからである。

38. 誰も、あなたがたがひとつの生命の次元から別の次元へと移ることを妨げることはできない。そして、それぞれの次元の終わりに、あなたがたの霊にも、また私の霊にも、歓喜と祝祭が満ちるであろう。

39. こうして私は、あなたがたが歩まなければならない道は長いことを知り、最初の行いだけで満足して、それらがすでにそれらの住まいの扉を開いてくれると思い込まないように、あなたがたを準備させているのだ。

40. しかし、私はまたこうも告げる。数え切れないほどの障害を乗り越えた後、ある発展段階の終わりに到達し、立ち止まって、大きな闘い、苦難の日々、そして安らぎの瞬間があった歩んできた道を振り返ることは、霊にとって美しく、また充足感に満ちたことなのである。

41. ついに、勝利と報い、そして正義があなた方の周囲に輝き、父なる神の御霊が――今ここに、栄光に満ちて――その子（ ）を祝福し、次の生への段階に備えるまで、その懐に安らぎを与えるのである。 こうして、一つから次へと移り、ついに最高の成就に至り、永遠に私と共に住むことになる。（315, 34-36）

42. 人間をその創造主に似せている霊の火花は、それが生まれた無限の炎にますます近づいていく。そして、その火花は、意識を持ち、愛に満ちて輝き、知識と力に満ちた、輝く存在となる。 その存在は、わずかな痛みも、些細な苦難も存在せず、完全かつ真の至福が支配する、完全なる状態を享受する。

43. もしこれがあなたがたの精神の目標でなかったならば――まことに、わたしはあなたがたに告げる。これほど多くの教えを通して、わたしの教えをあなたがたに知らせることはなかったであろう。なぜなら、その場合は、「最初の時代」の律法だけで、あなたがたが地上で平和に生きるには十分であったからである。

44. しかし、私が人間の中に生き、この世の彼方にある無限に優れた世界を彼らに約束したこ

とを考え、さらに、別の時代に再び来て、引き続きあなた方に語りかけ、あなた方が理解できなかったすべてのことを説明すると約束したことを思い起こせば、人間の霊的な運命は、あなた方が期待しうるあらゆるものよりも高く、はるかに高いものであり、 また、約束された至福は、あなたがたが予感したり想像したりできるものよりも、無限に大きいということになるだろう。（277, 48-49）

第30章 - 転生を通じた魂の進化

発展の法則

1. 私はあなたに告げる。人間は、自分の魂が何度もこの地上に降りてきたにもかかわらず、依然として私の法則に従って山頂へと登る道を理解できていないことを知らなければならない。（77, 55）

2. 人間は科学の発展や、かつては信じられなかったような事柄の発見を目の当たりにしてきたのに、なぜ魂の自然な発展に抵抗するのだろうか。なぜ魂を停滞させ、眠らせてしまうようなものに固執するのだろうか。それは、永遠の命という展望を恐れてきたからである！（118, 77）

3. 理解せよ。創造は一見完了しているように見えるが、それでもなお、万物は発展し、変容し、完成へと向かっている。果たして、あなた方の魂がこの神の法則から逃れることができるだろうか？ いいえ、わが子らよ。霊的なもの、科学、あるいは生命について、誰も最終的な結論を下すことはできない。それらは終わりなき、わが業だからである。（79, 34）

4. 得た知識ゆえに、霊的な偉大さを備えていると思い込んでいる人がどれほど多いことか。しかし、私にとって彼らは、発展の途上で立ち止まってしまった子供たちに過ぎない。 なぜなら、彼らは、魂の上昇的な発展を達成できるのは、単に知性の開花によるものではないことを心に留めなければならないからだ。それは、その存在全体の成長を通じてなされなければならないものであり、完成に至るためには、人間には開発されなければならない多くの能力があるのだ。

5. それゆえ、私は――愛と正義の法則の一つとして――魂の輪廻転生を設けたのである。それは、魂に、その完成に至るために必要なあらゆる機会を提供する、より長い道のりを与えるためである。

6. 地上でのあらゆる生は短い教訓に過ぎない。そうでなければ、人が私の法則を成就する機会は、あまりにも少なすぎるからである。 しかし、あなたがたがこの人生の目的を認識するこ

とは不可欠である。そうして初めて、そこからその真意を受け取り、人間の完全性の基礎である調和に到達することができるのだ。そうして初めて、あなたがたはより高い存在の次元へと進み、私がまだ教えなければならない多くの教訓や、 また、まだ与えなければならない多くの啓示がある。（156, 28-29）

7. あらゆるものが絶えず成長し、変化し、完成へと向かい、開花していく中で――なぜ、あなた方の魂だけが何世紀にもわたって停滞し続けなければならないというのか？

8. 科学を通じて多くのことを発見し、学んできたあなた方にとって、創造のあらゆる存在に存在する絶え間ない発展は、決して未知のものではない。それゆえ、私はあなた方に、長い間魂を置き去りにしてきたあの後進性と停滞の中に、魂を留めておいてはならないことを理解してほしい。 また、あなた方を囲むすべてのものと調和を成し遂げるよう努めなければならない。そうして初めて、自然がその秘密を隠すのではなく明らかにし、自然の力があなた方の敵ではなく、僕となり、協力者となり、兄弟となるような日が、人類のために訪れるのである。（305, 6, 8）

「肉の復活」――正しく理解されること

9. 今、世界は「肉の復活」、すなわち魂の転生についての真実を知るべきである。

10. 転生とは、人間として新たに生まれ変わるために物質世界に戻ること、すなわち、その使命を継続するために人間の肉体において魂が復活することを意味する。これこそが、あなた方の先祖たちが語った「肉の復活」に関する真実であり、彼らはそれについて、歪曲されただけでなく、荒唐無稽な解釈さえも与えてきたのである。

11. 転生とは、神があなたの魂に与えた賜物である。それによって、魂は物質の貧しさ、地上での儚い存在、そして自然の欠点に決して縛られることなく、より高次の性質に由来する魂は、この世における偉大な使命を果たすために必要なだけ、いくつもの物質的な肉体を用いることができるのである。

12. この賜物によって、魂は「肉体」や死、そしてあらゆる地上のものに対する計り知れない優位性を証明する。すなわち、魂は死を克服し、次々と肉体を着ては脱ぎ、どれほど多くの肉体が託されようとも、それらすべてを生き延びていくのである。魂は、時間、抵抗、そして誘惑を克服する者である。（290, 53-56）

13. どうしてあなたがたは、審判の日に死者の肉体が復活し、魂と合体して神の王国に入るなどと考え得たのか。他の時に教えられたことを、どうしてこのように解釈できるのか。

14. 肉体はこの世のものであり、この世にとどまるが、魂は自由に昇り、その源である命へと帰っていく。「肉から生まれたものは肉であり、わたしの霊から生まれたものは霊である。」「肉の復活」*とは、魂の再受肉のことである。これを人間の理論だと信じる者もいれば、新たな啓示だと信じる者もいるが——まことに、わたしは言う。わたしは人類の始まりの頃から、この啓示を世に知らしめ始めてきたのだ！その証拠は、わたしの業の証である聖書の文章の中に見出すことができる。

＊ 古いキリスト教の信条で知られるこの表現は、第2コンスタンティノープル公会議において、それまで部分的に認められていた輪廻転生の教えが、ユスティニアヌス皇帝（！）によって異端として断罪された時期に定式化されたものである。こうして、魂の「肉」における再生は、「肉の復活」となったのである。

15. しかし、この時代において、この啓示は、より高い発展段階にあったあなたの魂に届いたのであり、まもなく、それは創造主の最も公正かつ慈愛に満ちた法則の一つとして、当然のことながら受け入れられるようになるでしょう。 あなたがたが抱いていた「審判の日」という概念を捨てなさい。それは、ある期間を指すものであり、あなたがたの「日」の一つではないからだ。また、「世界の終わり」とは、あなたがたが住んでいる惑星の終わりではなく、あなたがたがその惑星上で作り出した利己的な生活の終わりを意味するのだ。（76, 41 43）

16. 「肉の復活」の神秘は、魂の輪廻転生に関する啓示によって解明された。今日、あなた方は、この愛と正義の法則の意味が、魂が （段階的に）完成していくこと、そして魂が決して失われることがないということであることを知っている。なぜなら、魂は常に、父が差し出す救いの機会としての開かれた扉を見出すからである。

17. この法に基づく、あらゆる魂に対する私の裁きは、完全かつ容赦のないものである。

18. あらゆる運命は人間には理解しがたいものであるため、あなた方を裁くことができるのは私だけである。それゆえ、誰も他者に対して恥をかかされたり、裏切られたりすることはない。

19. 魂たちが罪の中で迷い、数多くの闘争と変遷を経て、長い旅路を歩んだ後、彼らはその経験によって知恵に満ち、苦しみによって清められ、功績によって高められ、長い巡礼の旅に疲

れながらも、子供のように純真で喜びに満ちて、私のもとに来るであろう。（1, 61-64）

魂の異なる発達段階

20. 遥か昔、あなたの魂は私から生まれた。それにもかかわらず、すべての魂が霊的発展の道において等しく進歩したわけではない。

21. すべての運命は異なるが、それらは皆を同じ目標へと導く。ある者にはこれらが、別の者にはあれらが試練として用意されている。ある被造物は一つの道を歩み、別の被造物は別の道をたどる。あなたがたは皆、同じ瞬間に存在へと踏み出したわけでもなく、また皆が同じ時期に帰還するわけでもない。ある者は先頭を歩き、ある者は後方を歩くが、目標はあなたがた全員を待っている。 誰が自分に近く、誰が遠くを歩んでいるのか、誰も知り得ない。なぜなら、あなた方はまだその知識を持つには未熟すぎるからだ。あなた方は人間であり、その虚栄心があなた方を破滅へと導くことになるだろう。（10, 77-78）

22. いつの時代においても、人類の歴史の遥か昔でさえも、高潔な精神を持つ人々の例は存在してきた。もし彼らが、上向きの発展を助ける連続した転生を経ていなければ、なぜ最も初期の時代からすでに魂が発達した人々が存在したのか、どうして説明できようか。

23. その理由は、魂が肉体と同時に生まれるわけではなく、人類の起源も魂の起源と一致するわけではないからである。 まことに、わたしはあなたがたに告げる。あの世で存在することなくして、この世に生まれてきた魂は、ただ一つもない。あなたがたのうち、誰が、その魂が、この地上に生きるためにやって来る前に、他の領域でどれほどの時を過ごしたかを、測り知ることができるだろうか。（156, 31-32）

過去の地上での生と自身の進化の段階に関する知識

24. 魂が肉体と密接に結びついている限り、魂は、過去の生で獲得した功徳を認識することも、知ることもできない。しかし今、魂は、その生が永遠であり、頂点に到達したいという願望による途切れることのない 発展であることを知るようになる。だが、今日、あなたがたは、自分がどの高みに達したのか、まだ知らない。（190, 57）

25. あなたがたの知性は、魂の過去からの印象や記憶のイメージを受け取ることができない。なぜなら、肉体は、魂の生活へと侵入することを許さない、厚いベールのようなものだからである。魂が過去の過程で受け取ったイメージや印象を、いったいどの脳が受け止めることができようか。人間的な概念と結び

つけて、自分には理解できないものを把握できる知性など、いったいどこにあるというのか。

26. これらすべてのゆえに、私はこれまで、あなたがたが霊的に何者であるか、また、あなたがたの過去がどのようなものであったかを知ることを許してこなかった。（274, 54-55）

27. わたしのすべての業は、わたしによって『生命』と名付けられた一冊の本に記されている。 そのページ数は数えきれず、その無限の英知は、その著者である神以外には、誰にも到達することはできない。しかし、その中、その一ページ一ページには、父がそれぞれの業を、あらゆる知性にとって理解できるように、分かりやすく示した短い要約が含まれている。

28. あなた方もまた、絶えずあなた方の人生の書に書き記している。そこには、あなた方のすべての行いと、発展の道のりにおけるすべての歩みが、永久に記録されることになる。その書はあなた方の魂の中に記され、知識と経験の光となり、明日、あなた方が幼い兄弟姉妹たちの道を照らすためのものとなるだろう。

29. まだ、その内容さえ知らないのだから、誰にもその書を見せることはできない。しかし、まもなくそれはあなたの内面に光となり、あなたは自分の成長、贖罪、そして経験について語るページを、周囲の人々に示すことができるようになるだろう。そうすれば、あなたは人々にとって開かれた書となるのだ。

30. 自らの使命を自らのものとする者たちは幸いである。彼らは、ヤコブが夢の中で見た梯子を登っているのを感じるだろう。それは、存在たちを創造主の御前に至らせる霊的な道である。（253, 6-8）

霊的・精神的成長のための必要条件としての愛

31. あなたがたの肉体が生きるために空気、太陽、水、そしてパンを求めるのと同様に、魂もまた、その本質にふさわしい生活環境、光、そして糧を必要としている。 もし魂が、自らの糧を求めて高みへと舞い上がる自由を奪われたと見なせば、それは弱り、萎れ、鈍感になる。まるで、子供を常に揺りかごの中に留め、その部屋に閉じ込め続けるかのように。その手足は不自由になり、顔色は青ざめ、感覚は鈍り、能力は萎縮してしまうだろう。

32. 魂もまた、不自由な者になり得ることを悟れ！ 私は、この世界は魂の不自由な者、盲人、聾者、病人に満ちているとさえ言えよう！ 閉じ込められて生き、開花する自由のない魂は、知恵においても、力においても、徳においても、成長しない存在である。(258, 62-63)

33. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたを高めてくれるのは愛である。なぜなら、愛には知恵と感情と高揚が内在しているからだ。愛は神性のあらゆる特質の総括であり、神はこの炎をあらゆる霊的な被造物の中に灯されたのである。

34. あなたがたが愛することを学ぶために、私はどれほど多くの教訓を与えてきたことか！神の慈悲は、あなたがたにどれほど多くの機会、人生、そして転生を与えたことか！その教訓は、習得されるまで、必要なだけ繰り返されてきた。一度習得されれば、繰り返す理由はない。なぜなら、それはもはや忘れられることもないからだ。

35. もしあなたがたが私の教訓を素早く学べば、もはや苦しむ必要も、過ちを嘆く必要もなくなるだろう。地上で受けた教訓を活かす存在は、この世に戻ってくるかもしれないが、それは常に、より大きな成熟と、より良い生活条件のもとで行われることになる。 一つの生と次の生の間には、常に休息の期間があります。それは、新たな日々の営みを始める前に、熟考し、休息するために必要なものです。(263, 43-45)

転生の様々な理由

36. まことに、わたしはあなたがたに告げる。人類のいかなる時代においても、人間がわたしの律法を知ることを欠いたことはなかった。なぜなら、その精神である神聖な火花から、魂への一筋の光、知性へのひらめき、あるいは心への予感さえも、決して欠けたことはなかったからである。

37. それにもかかわらず、あなたがたの魂は、目の上に暗い覆いをかけられたまま、あの世へと戻っていった。そして、わたしはあなたがたに言う。この試練の谷であるこの世の生活が含む教訓を活かせない者は、償いを完遂するため、そして何よりも学ぶために、そこへ戻らなければならないのだ。(184, 39)

38. 他の世界においても、魂たちは同様に自由意志を享受し、罪を犯して道を踏み外すこともあれば、善に堅く留まり、そのようにして向上していくこともある。それは、あなたがたが地上で行っているのと同じである。 しかし、定められた時が来ると、この世で生きることを定められた者たちは、高貴な使命を果たすために、また、贖罪の義務を果たすために、この世へと降りてくる。

39. しかし、彼らがこの地球をどのように見ようとするかによって、ある者には楽園として、またある者には地獄として現れる。したがって、彼らが父の慈悲を理解すれば、祝福と精神のための教訓に満ちた素晴らしい人生、すなわち約束の地へと近づく道しか見えなくなる。

40. ある者はこの世を去る際、再び戻りたいという願いを抱き、またある者は戻らなければならないという恐れを抱いて去る。その理由は、あなた方の人間の本質が、主と共に生きるべき調和をまだ理解できていないからである。（156, 33-34）

41. 誰も、別の肉体を持ってこの惑星に戻らなければならないという考えに反発してはならない。また、輪廻転生が魂に対する罰であるなどと考えてはならない。地上に生きることを運命づけられたすべての魂は、より高い発展を達成し、私が彼らに託した使命を果たすために、輪廻転生の法則を経なければならないのである。

42. 未発達な魂だけが再び転生しなければならないわけではない。高次の魂もまた、その業を成し遂げるまで、幾度となく戻ってくるのである。

43. エリヤは、この地上に遣わされた預言者の中で最も偉大な者である。しかし、彼が成し遂げた偉大な業や、（神が存在するという）提示した確かな証拠にもかかわらず、彼は別の時代、別の肉体、そして別の名をもって、この世に戻らなければならなかった。

44. この愛と正義の法則は、長い間、人々には知られていなかった。もし彼らが以前それを知っていたならば、混乱に陥っていたかもしれないからだ。それでもなお、父は、すべての秘密を解き明かす、この時代を先取りする光となるいくつかの啓示と兆しを、あなた方に与えてくださった。（122, 25-28）

完全性への道

45. あなたがたが光の充満に至る道は遠い。父、すなわち神聖な彫刻家が、あなたがたの魂を形作り、磨き上げ、完全な姿を与えるその道ほど、長い道程を歩む存在は他にない。（292, 26）

46. まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたが完全な清らかさを得るためには、この世においても、霊界においても、あなたがたの魂はなお大いに浄化されなければならない。

47. あなた方にとって必要である限り、この惑星に戻らなければならない。そして、父が与えてくださる機会を無駄にすればするほど、真の生命への最終的な入りを遅らせ、涙の谷での滞在期間を延ばすことになる。

48. すべての魂は、地上での生において、その都度確かな一歩を踏み出すことで、進歩と成長の成果を示さなければならない。

49. 自らの幸福に寄与する唯一の善とは、他者に対する真の愛と慈悲から、しかも無私無欲に行われるものであることを自覚せよ。（159, 29 32）

50. 人間の中には、常に争い続けている二つの力がある。それ

は、はかない人間的な性質と、永遠である霊的な性質である。
51. この永遠の存在は、自らの魂の完成に至るには、非常に長い時が経たなければならないことをよく知っている。真の幸福を得るには、数多くの人生を送り、その中で多くの試練を経なければならないことを予感している。 魂は、涙と苦痛を経て、そして肉体の死を何度も経験した後、完全性への渇望の中で常に探し求めてきたあの頂点に到達するだろうと予感している。
52. 一方、肉体という、儚く小さな存在は、泣き、反抗し、時に魂の呼びかけに従うことを拒む。魂が成長し、「肉」や周囲のあらゆるものとの闘いにおいて強さと経験を積んで初めて、魂は肉体を支配し、それを通じて自らを現すことに成功するのだ。
53. 魂の巡礼の旅は長く、その道は遠く、その存在の形態は多岐にわたり、実に変化に富んでいる。そして、あらゆる瞬間が、それぞれ異なる種類の試練である。しかし、魂はこれらを乗り越えるにつれて、高まり、清められ、完成されていく。
54. 人生の歩みの中で、魂は光の軌跡を残していく。それゆえ、高潔な魂にとって、肉体のうめき声は往々にして重要ではない。それは、それが過ぎ去るものであり、自分にとって些細に見える出来事に、旅の途中で足を止められてはならないと知っているからだ。
55. 彼女は一瞬、自らの「肉体」の弱さに注意を向けるが、短命でやがて大地の奥深くへと消え去るものを、あまり深く愛してはならないことを知っている。（18, 24; 27-28）

生命の普遍的な学校

56. 人類の始まり以来、魂の輪廻転生は、愛と正義の法則として、また父がご自身の無限の慈悲を示された形の一つとして存在してきた。 転生は、この時代だけの事柄ではなく、あらゆる時代の事柄であり、また、私がこの神秘を今になって初めてあなた方に明らかにしたのだと、決して思ってはならない。はるか昔より、人間の内には、魂の再転生に関する直感的な知識が存在していたのである。
57. しかし、唯物論的な科学や世の富を追い求めた人々は、肉の情欲に支配され、その結果、霊的なものを感知する人間の心の繊維が硬化し、人々は霊に属するあらゆるものに対して耳も目も塞がれてしまったのである。（105, 52）
58. あなたがたが創造される前、あなたがたはわたしの中にいた。その後、霊的な被造物として、あなたがたは、すべてが完全な調和の中で振動し、命の本質と、わたしがあなたがたを養う真の光の源がある場所にいた。

59. 苦しみは父によって創造されたものではない。私があなたがたに語っているあの時代、あなたがたには嘆く理由もなく、不平を言うこともなかった。あなたがたは自らの内に天を感じていた。なぜなら、あなたがたの完全な人生において、あなたがたはこの存在そのものの象徴であったからである。

60. しかし、あなたがたがその故郷を去ったとき、私はあなたがたの霊に衣を与え、あなたがたはますます深く沈んでいった。その後、あなたがたの魂は一歩一歩発展し、今あなたがたがいる、父の光が輝いている存在の次元に到達したのだ。（115, 4-5）

61. あらゆる魂の目標は、浄化と完成を経て、神性*と融合することである。そのために、私はあなたがたの道を光で満たし、あなたがたが段階を追って上昇できるよう、魂に力を与える。あなたがたがこの世を去る際に到達している発展の段階に応じて、来世で住むことになる霊的な住まいが決まる。なぜなら、宇宙は魂のための完成の学校として創造されたからである。（195, 38）

＊ これに関するより詳しい説明は、第23章69節、第58章46節などの箇所にある！

62. もし私がこの人生においてすべてをあなた方に与えていたならば、あなた方はもう、さらに上の段階へと昇ろうとする渇望を抱くことはなかっただろう。しかし、ある生において達成できなかったことは、別の生において追求し、その生で達成できなかったことは、さらに別の、より高い生において約束される。こうして、魂の果てしない発展の道において、永遠に段階的に進んでいくのである。

63. あなたがたは私の言葉を聞くと、自分の魂がこれほど大きな完全性に達することができるとは到底信じられないと思うだろう。しかし、私が言うには、あなたがたが魂の崇高な使命を疑うのは、物質的な目で見えるもの――すなわち、貧しさ、無知、悪意――だけを見つめているからに他ならない。 しかし、これは単に、ある者たちの魂が病んでいるからであり、またある者たちの魂は麻痺しているからであり、さらにある者たちは盲目であり、またある者たちは霊的に死んでいるからに過ぎない。しかし、そのような魂の悲惨さを目の当たりにすれば、あなたがたは、永遠があなたがたのために用意している運命を疑わざるを得ないだろう。

64. こうして、あなた方はこの世と物質主義を愛する時代に生きている。しかし、すでに私の真理の光はあなた方に届き、過ぎ去った時代の夜の闇を追い払い、その夜明けとともに、私の教えによって魂が啓蒙を受ける

時代の到来を告げている。（116, 17-18）

65. あなた方の多くは、過ちを償うために再び地上に戻る機会を得ることはないだろう。あなた方は、今日持っている、そして頼りにしているその道具、すなわち肉体をもはや持ち合わせないことになる。この世に生まれることは、 にとって魂にとっての特権であり、決して罰ではないということを理解しなければならない。それゆえ、あなた方はこの恵みを活用しなければならない。

66. この人生の後、あなたは新たな教訓を受けるために他の世界へと旅立ち、そこでさらに高みへと昇り、自己を完成させるための新たな機会を見出すでしょう。人間としての義務を果たしたとき、あなたは使命を全うしたという満足感と共にこの世を去り、あなたの魂には平安が訪れるでしょう。（221, 54-55）

67. 今、私の声は多くの人々を呼び寄せている。多くの魂にとって、この地上の巡礼の終わりが近づいているからだ。

68. 彼らが心に抱いているあの落胆、あの嫌悪、あの悲しみは、彼らがすでに、より高き住まい、より良い世界を切望していることの証である。

69. しかし、彼らがこの世で歩む最後の段階を、良心の指針に従って生きることは必要である。そうしてこそ、地上における彼らの最後の足跡が、後に続く世代にとって祝福となり、彼らがこの世で果たすべき様々な使命を全うできるようになるからである。（276, 4）

70. この世界は永遠のものではなく、またそうである必要もない。この住処が、今持っている存在の目的を果たさなくなった時、それは消え去るだろう。

71. もしあなたの魂が、この世での生活が与える教訓をもう必要としなくなったなら――それは、別の世界で、より高次の教訓が待っているからである――その時、この地上の闘いの中で勝ち取った光によって、魂はこう言うだろう。「今、私はどれほどはっきりと理解していることか。この人生のあらゆる浮き沈みは、私がより深く理解するために必要だった経験と教訓に過ぎなかったのだと。 苦しみによって押しつぶされていた間は、あの人生という旅はどれほど長く感じられたことか。しかし今、すべてが終わった今、永遠という観点から見れば、それはなんと短く、はかないものに見えることか。」（230, 47）

72. 人よ、喜びなさい。この涙と哀れさと苦しみに満ちた世の中で、あなたがたは空を飛ぶ鳥なのだと心に留めなさい！喜びなさい。ここはあなたがたの永遠の故郷ではないのだから。より良い世界があなたがたを待っているのだ！

73. だから、もしあなたがたがこの地を去るなら、後悔するこ

となく去りなさい。そうすれば、ここに残されるのは、苦痛の嘆き、苦労、そして涙だけとなるだろう。 あなたがたはこの世に別れを告げ、天の高みで待ち受ける者たちのもとへと舞い上がるのだ。そこから、あなたがたは地球を宇宙の点として見下ろし、愛を込めてそのことを思い返すことになるだろう。（230, 51）

輪廻転生説の説得力

74. スピリチュアリズムの光は今、輪廻転生という魂の能力に内在する真実、正義、理性、そして愛を世界に明らかにしている。それにもかかわらず、世界は当初、この啓示を 頑なに拒み、それを異質で誤った教えであるかのように見せかけ、善意の人々に不信感を抱かせるだろう。

75. 各宗派が、信徒たちを古い信仰観念や時代遅れの信仰体系という固定された軌道に留めようと行う努力は、無益かつ無駄なものとなるだろう。 なぜなら、人間の思考能力の根底にまで浸透し、啓示と神の霊感、疑念や謎の解明、そして精神的な解放の時代に向けて魂を目覚めさせる神聖な光を、誰も止めることはできないからだ。

76. また、思考、精神、信仰の自由を渇望して立ち上がる人類が形成する大河を、誰も止めることはできないだろう。（290, 57-59）

魂の転生の道

77. 私は、すべての地上の巡礼者たちに呼びかける。彼らを向上へと導き、永遠の命を得るよう招く私の声を聞いてほしい。

78. 「神の言葉」が明らかにされるこの日に――その言葉を利用し、それによって啓発されなさい。なぜなら、知識の中にこそ光があり、そこにこそあなたがたの救いがあるからだ。

79. もしわたしの律法が、あなた方の生涯におけるあらゆる行いにおいて、道徳と正義と秩序を教えているのなら――なぜあなた方は、自らに苦痛をもたらすような、それとは正反対の道を求めるのか。しかし、あなた方があの世へと旅立ち、この地上に肉体を残す時、あなた方はこの肉体という殻をあまりにも愛しすぎていたがゆえに、涙を流すのだ。

80. もしあなたがたが、その肉体はもはや自分のものではなく、わたしのもとに来るまで発展の道を歩まなければならないと感じるならば、わたしはこう言う。「わが子よ、お前はわたしに何を示すことができるのか。お前は地上で、わたしの戒めを全うして生きてきたのか。」

81. しかし、あなた方は――これほどまでにあなた方を愛し、多くの恵みを与えてくださった方への愛の贈り物を持たないために、恥じ入り、落胆し――魂を押しつぶす鎖を自ら作り出し

、その魂は光を失い、恵みを失ったことを嘆き、泣き叫んでいる。魂は、自分と呼びかける父の声を聞くだけである。 しかし、成長しておらず、また御前に出るに値しないと感じているため、立ち止まり、ただ待ち続ける。

82. 時が過ぎ、魂は再びその声を聞く。苦しみで満たされた魂は、誰が自分に語りかけているのかと問う。するとその声はこう告げる。「目覚めよ！ お前は、どこから来て、どこへ向かうのか、知らないのか？」そこで魂は目を上げ、計り知れないほど大きな光を見る。その輝きの前では、自分は惨めな存在に思える。 彼女は、地上に遣わされる前からすでに存在しており、その声が発せられた父にすでに愛されていたことを悟る。そして今、父は彼女が哀れな状態にあるのを見て、彼女のために心を痛めているのだと気づく。彼女は、戦いの道を歩み、その功績によって報いを得るために、様々な住処へと遣わされていたことを悟る。

83. そして、その子は問う。「もし私が、地上に遣わされる前から、あなたの深く愛された被造物であったのなら――なぜ私は徳に堅く留まることができず、堕ち、苦しみ、苦労して、あなたのもとへ戻らなければならなかったのですか？」

84. その声は彼に答えた。「すべての魂は発展の法則に従うことになっており、その道において、私の父なる霊は常に彼らを見守っておられる。そして父は、子供たちの善行を喜ばれる。もっとも、私があなた方を地上に遣わしたのは、そこを戦争や苦痛の戦場ではなく、魂の完成のための闘いの場とするためである。

85. わたしは、あなたがたに増えよ、不毛であってはならない、と告げた。 しかし、あなたがたが「霊的な谷」に戻る時、収穫をもたらすことはなく、ただ嘆き、私が与えた恵みを持たずにやって来る。それゆえ、私は再びあなたがたを遣わし、こう告げる。「自らを清め、失ったものを求め、霊的な上昇を勝ち取れ。」

86. 魂は地上に戻り、その中で安らぎ、新たな人生の旅を始めるために、小さくて繊細な人間の体を探す。魂は自分に割り当てられた幼い子供の体を見つけ、それを用いて、私の律法に対する自らの違反を償うのである。 その原因を知った上で、魂は地上に来る。魂は、自分が父の息吹であることを知っており、父から託された使命も知っている。

87. 最初の数年間、魂は無垢であり、その清らかさを保ち、霊的な命とつながり続ける。その後、魂は罪を知り始め、父の正義の法に対する人々の高慢、傲慢、反抗を間近に見るようになり、生まれつき反抗的な「肉」

は悪に染まり始める。 誘惑に負けて堕落すると、彼女は地上に持ち込んだ使命を忘れ、律法に背く行いをしようとする。魂と肉体は禁断の果実を味わい、破滅に陥ったとき、最期の時が彼女を襲う。

88. 再び、魂は霊的な領域に身を置くが、罪の重荷に疲れ、打ちひしがれている。そこで彼女は、かつて自分に語りかけ、今もなお呼びかけている声を思い出す。そして、自分が誰なのかも分からず、迷子になったかのように感じ、多くの涙を流した後、かつてその場所にいたことを思い出す。

89. 深い愛をもって彼女を創造した父が、彼女の行く手に現れ、こう問いかける。「お前は誰だ。どこから来て、どこへ行くのか。」

90. その子は、その声の中に、自分存在と知性と能力を与えてくださった方——常に赦し、清め、闇から救い出し、光へと導いてくださる父——の言葉を認める。 子供は、自分が裁き人の前に立っていることを知り、震えながらこう言う。「父よ、私の不従順と罪はあなたに対して甚大であり、私には何の功績もないため、あなたの王国で暮らすことを期待することはできません。今日、『霊的な谷』に戻ってきて、私はただ償わなければならない罪を積み重ねてきただけだと気づきました。」

91. しかし、慈愛に満ちた父は、再びその者に道を示し、その者は再び肉体に帰還し、再び人類の一員となる。

92. しかし今、すでに経験を重ねたその魂は、自らの意志を貫き、神の戒めに従うために、より大きな力で肉体の殻を従わせようとする。戦いが始まる。魂は、人間を堕落させる罪と戦い、自らの救いのために与えられた機会を最大限に活用しようとする。 人は初めから終わりまで戦い続ける。そして、こめかみに白髪が輝き、かつては強靭で力強かった体が年月の重みに屈し始め、力を失っていくとき、魂はより強く、より成熟し、より経験豊富になったと感じる。罪は、なんと大きく、忌まわしいものに見えることか！魂は罪から背を向け、ついに目的地に到達する。 今や彼女は、父が彼女を呼ぶその瞬間をただ待つばかりである。なぜなら、彼女は神の律法は公正であり、神の御心は完全であり、この父は子供たちに命と救いを与えるために生きておられる、という結論に達したからである。

93. 最期の時が訪れると、彼女は肉体に死を感じたが、痛みは感じなかった。彼女は静かに、そして敬虔にこの世を去った。彼女は心の中で自分自身を見つめ、まるで目の前に鏡があるかのように、光に包まれて美しく輝いている自分を見た。 すると、声が彼女に語りかけ、こう言

った。「子よ、どこへ行くのか。」そして、彼が誰であるかを知っていた彼女は、父のもとへ歩み寄り、その光を自らの存在に注ぎ込み、こう言った。「おお、創造主よ、おお、すべてを包み込む愛よ。私はあなたのもとへ来て、安らぎを得、この成就をあなたに捧げます。」

94. 清算は済んでおり、魂は健全で清く、罪の鎖から解き放たれ、目の前に待ち受ける高き報いを目の当たりにした。

95. その後、彼女はあの父の光と一つになり、その至福がさらに深まるのを感じた。そして、平和の場所、聖なる地を目にし、深い静寂を覚え、「アブラハムの懐に安らぎ」を得た。（33, 14-16）

第31章 – 救い、贖い、そして永遠の救い

贖いに関する誤った考えの是正

1. 多くの人々は、この世のすべての涙は、最初の地球の住人たちの罪によって引き起こされたものだと考えていた。彼らはそのたとえ話を解釈することができず、ついには、キリストは自らの血によってあらゆる汚れを洗い流すために来られたのだと言い出した。もしこの主張が正しかったとしたら――なぜ、その犠牲がすでに成し遂げられているにもかかわらず、人々は罪を犯し、苦しみ続けているのだろうか？

2. イエスは、人々に完全への道を教えるためにこの世に来られた。それは、イエスがご自身の生涯、行い、そして言葉をもって示された道である。（150, 43-44）

3. あなたがたは皆、自らの使命を果たすことによって、その目標に到達するだろう。私が、尽きることのない教えをあなたがたに与えたのは、あなたがたが発展の階段を登っていくためである。あなたがたを救うのは私の血ではなく、あなたがたの魂の中にある私の光が、あなたがたを贖うのである。（8, 39）

4. 第三の時代において、私は新たな十字架を背負うことになる。それは人間の目には見えないものだが、その高みから、私は人類に愛のメッセージを送り、私の言葉の霊的な本質である私の血は、魂のための光へと変容するだろう。

5. かつて私を裁いた者たちは、今日、自らの精神をもって悔い改め、過ちを償うために、人々の心に光をもたらしている。

6. 人間の悪について語る私の教えが勝利を収めるためには、まずキリストが苦難の柱で鞭打たれ、嘲笑されたように、それ自体も鞭打たれ、嘲笑されなければならない。愛のないこの世の闇を照らすために、私の光は

あらゆる傷口から溢れ出さなければならない。人類に再び救いの道を示すためには、私の目に見えない血が人類の上に降り注ぐことが必要である。（49，17-19）

7. 私は再びあなたがたに告げる。私の中にあって、全人類は救われるのだ。ゴルゴタで流されたその血は、あらゆる魂にとっての命である。しかし、それは単に土に落ちた血そのものではなく、その血に象徴される神の愛なのだ。私があなたがたに私の血について語る時、あなたがたは今や、それが何であり、どのような意味を持つのかを知っている。

8. 多くの人々が、主に仕え、また隣人への愛から自らの血を流してきたが、それは神の愛を体現したものではなく、ただ霊的な、人間的な愛に過ぎなかった。

9. しかし、イエスの血は神の愛を体現している。なぜなら、その血には何の欠点もないからだ。師には決して罪はなく、神が被造物にとってすべてであり、彼らを無限に愛しているゆえに、何の留保もなく完全に身を捧げていることを、あなたがたに理解させるために、師は最後の一滴に至るまでその血をあなたがたに与えたのである。

10. 大地の塵が、主の体の中にあった命そのものであるその液体を吸い上げたのは、私の教えが、神の愛と知恵と正義による灌漑によって、人々の生活を実りあるものにする必要があったことを、あなたがたに理解させるためであったのだ。

11. 世界の者たちは、師の言葉や模範に対して不信仰であり懐疑的であり、私の教えに反対し、イエスが人々を罪から救うために血を流したにもかかわらず、世界は救われなかったと主張する。彼らは、世界はより進歩しているにもかかわらず、日々ますます罪を犯していると主張する。

12. 人々は、「救いの血の力はどこにあるのか」と問うている。それなのに、私の教えの真の根本思想を明らかにすべき者たちは、光を渇望し、真理の認識を渇望する人々の問いに応える術を知らない。

13. 私はあなたがたに告げる。この時代において、真理を知らない者たちの問いは、真理を知っていると主張する者たちの答えや説明よりも、より深い意味と、より大きな価値を持っているのだ。

14. しかし、わたしは再び来て、あなたがたに語りかける。そして、あの血が実際に、神の正義から罪人たち――すなわち、失われ、重い苦しみへと定められていたすべての人々――を救ったと信じている者たちへの、わたしの言葉はこうである。

15. わたしはあなたがたに言う。もし、すべてを知っておられる父が、人々がイエスがその言

葉と行いによって与えた教えのすべてを、徐々に活用し理解することはないと信じていたならば――まことに、父は決してイエスを遣わすことはなかったであろう。なぜなら、創造主は決して無益なことをなさらないからである――実を結ぶよう定められていないことは何一つなさらないからである。 しかし、もし父が、イエスを人々の間に生まれ、成長し、苦しみ、死ぬために遣わされたとすれば、 それは、主の輝きに満ちた実り豊かな生涯が、その行いを通じて消えることのない道、破壊され得ない足跡を描き出し、それによってすべての子供たちが、真の愛へと導き、その教えに従うことによって、創造主が待ち受ける故郷へと至る道を見出せるようになることを、主が知っておられたからである。

16. また、主は、清らかさと限りない愛を証し、最後の一滴まで流されたその血が、人々に、創造主への信仰をもって、彼らを約束の地へと引き上げる使命を果たすことを教えるだろうことも知っておられた。そこで彼らは、その使命の成就を私に捧げ、こう言うことができるようになるのだ。「主よ、すべては成し遂げられました。」

17. 今、私はあなたがたに告げよう。十字架上で私の血が流されたその瞬間こそが、人類の贖いの時を告げるものではなかったのだ。私の血は、この世に留まり、生き生きと、新鮮なままであり、私の受難の血の跡をもって、あなたがたの贖罪への道を示した。その道こそが、あなたがたに、あなたがたの父が約束された住まいを勝ち取らせるのである。

18. わたしはあなたがたに言った。「わたしは命の泉である。来て、あなたがたの汚れを洗い清め、自由で健全な者として、あなたがたの父であり創造主である方のもとへ行きなさい。」

19. わたしの泉は愛によって成り立っており、尽きることなく、限りがない。これこそが、当時流されたわたしの血が、あなたがたに伝えようとしていることである。それはわたしの言葉を確証し、わたしの教えを裏付けたのである。（158, 23-33）

20. あの出来事から何世紀も経った今日、私はあなたがたにこう告げる。私は全人類のために血を流したが、イエスが教えた道を歩んだ者たちだけが、その魂の救いを得ることができた。一方、無知や狂信、誤り、あるいは罪の中に留まり続けた者たちは、まだ救われていない。

21. 言っておくが、たとえ私が千回人間となり、千回十字架で死んだとしても、人々が立ち上がって私に従わない限り、彼らは魂の救いを得ることはない。あなた方を贖うのは私の十字架ではなく、あなた方の十字架なのだ。 私は自分の十字架を肩に担ぎ、人間としてその上で死ん

だ。そしてその瞬間から、私は父の懐にいた。あなたがたは、柔和と愛をもって私に従い、真の謙遜をもって自分の十字架を肩に担ぎ、使命の最終目標に到達するまで歩み続け、そうして初めて、同様にあなたがたの父のもとにいることになるのだ。（168, 16-17）

22. 幸福を見出したいと願わない者はいない。そして、それが永続的であればあるほど良い。なぜなら、私はあなたがたに、至高かつ永遠の至福へと至る道を教えているからだ。とはいえ、私はただ道を示すだけであり、その後、あなたがた自身に、最も心に響く道を選ばせるのである。

23. 私は問う。「もしあなたがたが幸福を渇望するなら、なぜそれを蒔いて、後に収穫しないのか？」人々のために尽くすよう駆り立てられたと感じた者は、なんと少ないことか！（169, 37-38）

24. あなたがたが抱いている、地上での人生の意味、魂とは何か、そして霊界とは何かという考えは誤っている。

25. 信者の大多数は、ある程度の正義感を持って生きれば、あるいは人生の最期に犯した過ちを悔い改めれば、自分の魂は確実に天国に行けると考えている。

26. しかし、人間にとって非常に心地よいこの誤った考えこそが、 、人間が生涯を通じて律法を堅実に守らない原因となっており、その結果、魂がこの世を去って霊界にたどり着いたとき、自分が想像していたような奇跡を見ることもなく、また当然の権利として信じていた至高の至福を感じることもできない場所にやって来てしまったと気づかざるを得なくなるのである。

27. 天国に行けると確信していたのに、その代わりに混乱ばかりを目の当たりにした者たちに、何が起こるか知っているか。彼らはもはや肉体という拠り所を失い、地上に居場所を持たなくなっていたが、霊的な光の領域が存在する高みへと昇ることもできなかったため、自覚することなく、人間的でもなく、深く霊的でもない世界を自ら作り出してしまったのである。

28. すると、魂たちは自問し始める。「これが天国なのか？ これが、長い間地上を彷徨った後、神が魂たちに定めた住まいなのか？」と。

29. いいえ――と他の者たちは言う――光と愛と清らかさのみが存在しうる「主の懐」が、これであるはずがない。

30. 次第に、思索と苦痛を経て、魂は悟りに至る。魂は神の正義を理解し、その精神の光に照らされて、過去の行いを裁き、それらが貧弱で不完全であり、自分が信じていたものを得るに値しないものであったことに気づく。

31. その後、この内省によって謙虚さが現れ、かつて歩んだ道へと戻り、汚点を消し去り、過ちを償い、父なる神の前で真に価値ある行いをするという願望が生まれる。

32. 人類にこれらの秘密を明らかにすることは必要である。そうしてこそ、物質界での生活が、人間が自らの魂のために功徳を積む機会であることを理解できるようになるからである - それらは、より高い霊性を持つ領域で生きるにふさわしいまで魂を高め、そこで遅れをとらず、段階から段階へとさらに昇り続けるために、再び功徳ある行いをしなければならない。なぜなら、「父の家には多くの住まいがある」からである。

33. あなたがたは、父の永遠の律法が教えたように、愛によってこの功徳を積むことになる。こうして、あなたがたの魂は、完全性への階段を一段ずつ登り進み、天の御国へと続く狭い道、すなわち魂の完全性である真の天国へと至る道を、その過程で知ることになる。（184, 40-45）

34. まことに、あなたがたに告げる。もし私がこの時代に人間として来られたならば、あなたがたの目は、私の傷がまだ生々しく、血を流しているのを見なければならなかったであろう。なぜなら、人々の罪は止むことなく、また、ゴルゴタで私が流した、人類への私の愛の証であるその血を思い起こして、自らを贖おうともしなかったからである。 しかし、私は霊として来た。それは、地上で私を裁き、有罪とした者たちの行いを、あなたがたが見て恥じることを避けるためである。

35. すべては赦されている。しかし、すべての人の魂の中には、私が十字架の上で全人類のために流したものの、その一部が存在している。 その生命力と血が消え去ったり、失われたりしたとは決して思ってはならない。それらは、その瞬間から私がすべての人々に注ぎ続けた霊的な命を体現していたのだ。私の言葉を確証し、私が地上で語ったこと、行ったことすべてを裏付けたその血によって、人々は魂の刷新を渇望し、上へと発展していくであろう。

36. 私の言葉、私の業、そして私の血は、無駄ではなかったし、これからも無駄になることはない。 時折、私の名と私の言葉がほとんど忘れ去られたかのように思えることがあっても、やがて、それらが再び、生命の活力と生命と清らかさに満ちて現れるのを目撃することになるだろう。それは、絶えず攻撃されながらも決して滅びることのない種のようなものである。（321, 64-66）

37. 救いの光へと変容したイエスの血は、救いとしてすべての魂に浸透し、今もなおそうしている。 私の霊は永遠に救いと光

を授け、私は絶えず、暗闇の中に私の光の輝きを注ぎ込み、私の神聖な霊は絶え間なく――人間の血としてではなく、救いの力として、霊的な命として――私のすべての子供たちに注がれている。（319，36）

「天国」は勝ち取られるべきものである

38. 情熱の激しさに流され、人々は罪の中に深く沈み込み、救いへのあらゆる希望を捨ててしまった。 しかし、癒やされない者は一人もいない。なぜなら、魂は――霊の声に耳を傾けない限り、人間の嵐は止まないことを確信したならば――立ち上がり、その運命の目的地、すなわち地上ではなく永遠にある場所に到達するまで、私の律法を全うするからである。

39. 存在に意味がないと信じ、闘いや苦痛は無益だと考える者たちは、人生こそが形作る師であり、苦痛こそが完成へと導く彫刻刀であることを知らない。私が痛みを創り出し、それを杯に注いであなた方に与えたのだなどと思わないでほしい――私があなた方を堕落させたのだなどと思わないでほしい。人間は自らの意思で不従順になったのだから、それゆえ、自らの努力によって再び立ち上がらなければならないのだ。 また、痛みだけがあなた方を完成させるのだと思ってはならない。いや、愛の行いを通しても、あなた方は私のもとへ至るのだ。なぜなら、私は愛そのものだからである。（31，54-55）

40. 肉体よりも霊をもって祈りなさい。救いを得るためには、一瞬の祈りや一日の愛だけでは不十分であり、忍耐と寛容に満ちた行い、そして私の戒めを守る人生が必要だからである。そのために、私はあなた方に大きな能力と共感力を与えたのだ。

41. わたしの業は、すべての人を招き入れる救いの箱舟のようなものである。わたしの戒めに従う者は、滅びることはない。もしあなたがたがわたしの言葉に導かれるなら、救われるであろう。（123，30-31）

42. 完全なものだけが、わたしのもとへ至ることを心に留めなさい。それゆえ、あなたがたの魂は、完全さを達成して初めて、わたしの王国に入ることができるのである。あなたがたは、経験を持たないままわたしのもとから出てきたが、 、功績と美徳という衣をまとい、わたしのもとへ戻らなければならない。（63，22）

43. まことに、わたしはあなたがたに告げる。神の近くに住む義人の魂たちは、自らの行いによってその場所を占める権利を勝ち取ったのである。それは、わたしが彼らに与えたからではない。わたしはただ彼らに道を示し、その道の果てに高い報いを示したに過ぎない。

44. 「主よ、あなたは道であり、その道を照らす光であり、旅人の力です。 あなたは、進むべき方向を示し、人生の旅路において私たちを新たに生き返らせてくださる声であり、また、目的地にたどり着いた者への報いでもある。」――そう、わが子らよ、私は命であり、死者からの復活である。（63, 74-75）

45. 今日、父はこう問うことはない。「誰が、その血をもって人類を救う能力と用意を持っているか？」と。また、イエスはこう答えることもない。「主よ、私は、その血と愛をもって人類の贖罪への道を切り開く用意のある小羊です。」

46. また、私はこの時代に人間となるために、私の「言葉」を送ることもない。その時代はあなた方にとって過ぎ去り、その教えと高揚をあなた方の魂の中に残した。今、私は霊的進歩の新たな時代を切り開いた。その時代において、あなた方は功徳を積む者となるべきである。（80, 8-9）

47. 私は、あなたがた全員が、平和と光の中に住み、次第にすべてを手に入れるのを見たいと願っている――それは私の愛によってだけでなく、あなたがたの功績によってもである。なぜなら、そうしてこそ、あなたがたの満足と幸福は完全なものとなるからである。（245, 34）

48. 私は、人間的な生活よりも高い次元の生活の美しさをあなた方に示し、高き業へとあなた方を鼓舞し、愛を呼び覚ます言葉を教え、犠牲と信仰と愛の山を登りきった魂を待ち受ける、かつてない幸福を約束するために来たのである。

49. あなたがたは、私の教えの中でこれらすべてを認識し、ついに、あなたがたの魂を真の至福へと近づけるのは、あなたがたの善行であるということを理解するようになるべきである。（287, 48-49）

50. もし、地球上の大陸から別の大陸へと旅をするために、多くの高い山や低い山、海、民族、都市、国々を通り抜け、旅の目的地に到達しなければならないとしたら、その約束の地へ至るためにも、同様に長い旅をしなければならないことを心に留めておきなさい。そうしてこそ、その長い旅の途中で、経験、知見、そして魂の開花と成長を得ることができるのだ。 これこそが、それを手に入れるために多くの闘いと涙を流した後、最終的にあなたがたが味わうことになる、生命の樹の実となるであろう。(287, 16)

51. あなたがたは光の父の子らである。しかし、もしあなたがたの弱さゆえに、苦労と過ちと涙に満ちた人生の闇 に陥ったとしても、これらの苦しみは過ぎ去るだろう。なぜなら、私があなたがたを呼び、こう告げるとき、あなたがたは私の呼び声に応じて立ち上がるからである。

「私はここにいる。あなた方の世界を照らし、山に登るよう招く。その頂上には、地上ではむなしく集めようとしたすべての平安、幸福、そして富が見つかるだろう。」（308, 5）

52. あらゆる世界、あらゆる存在の次元は、魂がその上で発展し、創造主へと一歩を踏み出し、そうして、絶えず完成への道を歩み進める中で、汚れなく、清く、美しく整えられた姿で、その旅路の終着点、すなわち魂の完全性の頂点に到達する機会を得られるようにと、創造されたのである。それこそが、まさに神の御国に住むということなのである。

53. 結局のところ、「神の懐」に住むことが、誰にとって不可能に見えるだろうか？ ああ、哀れな理性の人々よ、あなたがたは真に考えることを知らないのだ！あなたがたは、私の懐からこの世に現れたこと、つまり、それ以前にすでに私の懐に存在していたことを、もう忘れてしまったのか？生命の源から生まれたすべてのものが、やがてその源へと帰っていくことに、何ら不思議なことなどないではないか。

54. すべての魂は、私からこの世に生を受けた時、処女のように清らかであった。しかしその後、多くの者がその道のりで汚れを帯びてしまった。それでもなお――すべてが私によって、賢明かつ慈愛に満ち、正義を重んじる方法で予見されていたゆえに、私は直ちに、わが子らが歩まねばならぬ道において、彼らの救いと再生に必要なあらゆる手段を用意することに着手した。

55. たとえその魂の純潔が多くの存在によって汚されたとしても、彼らがすべての過ちから清められ、それによって本来の清らかさを取り戻す日が来るだろう。その清めは、私の目には非常に称賛に値するものである。なぜなら、魂は、その信仰、愛、忠誠、そして忍耐に対する大きく絶え間ない試練を経て、それを勝ち取ることになるからである。

56. あなたがたは皆、労働と闘争と苦痛の道を歩んで、光の王国へと帰還するだろう。そこでは、もはや人間の体に転生する必要も、物質の世界に生きる必要もない。なぜなら、その時には、あなたがたの霊的な働きかけの力が、すでに、ある存在の次元から別の次元へと、あなたがたの影響力と光を送り、それを実感させることを可能にしているからである。（313, 21-24）

救いへの最も強力な力

57. 見よ、ここに道がある。その道を歩め、そうすれば、あなたがたは救われる。まことに、わたしはあなたがたに告げる。この時代にわたしの言葉を聞いたことがなくても、救いを得ることは可能である。 人生におい

て私の神聖な愛の律法を実践し、創造主から霊感を受けたその愛を隣人愛へと変える者は、誰でも救われる。その者は、その人生と行いにおいて、私について証しをするのである。(63, 49)

58. 太陽が全自然とすべての存在に生命の光を放ち、星々もまた地上に光を放つならば――なぜ神聖な霊が人間の魂に光を放ってはいけないというのか。

59. 今、私はあなたがたに言う。人々よ、内省しなさい。愛にその源を持つ正義の光が、この世に広まるようにしなさい。私の真理によって、真の愛なしには、あなたがたの魂の救いを得ることはできないと確信しなさい。(89, 34-35)

60. わたしの光は、すべてのわたしの子供たちのためのものだ。この世に住むあなたたちだけでなく、さまざまな存在の次元で生きるすべての魂のためである。もし彼らが、兄弟姉妹に対する愛の行いによって、互いに愛し合うことを求めるわたしの神の戒めを果たすならば、彼らは皆、解放され、永遠の命へとよみがえるであろう。(65, 22)

61. 愛する民よ、これは私が「死者」の間で私の言葉を新たな命へと蘇らせる「第三の日」である。 これは、私が霊的な形で世の前に現れ、「ここに、あなたがたが十字架上で死んでいくのを見たあのキリストがおられる。そして今、彼はあなたがたに語りかけている。なぜなら、彼は生きており、これからも生き続け、永遠に存在し続けるからだ」と告げる「第三の時代」である。

62. それに対して、私は、人々が信仰、愛、そして光に関して死んだ心をその内に抱いているのを見る。彼らはそれぞれの宗教共同体において真理を宣べ伝えていると主張しているにもかかわらずである。彼らは、教会で祈り、儀式に参加すれば、自分の魂の救いは保証されたと考えている。 しかし、私はあなたに告げる。魂の救いは、愛と慈悲の行いを実践することによってのみ得られるのだということを、世界は知らなければならない。

63. 礼拝の場は単なる学校に過ぎない。教会は、単に律法を解説することに留まるべきではなく、人生とは、神の律法から学んだことを、私の愛の教えを実践することで適用しなければならない道であることを、世の人々が理解できるよう導かなければならない。(152, 50-52)

64. キリストは、神の愛を世に明らかにするために人となられた。しかし、人々は心が硬く、独善的な知性を持っているため、受けた教えをすぐに忘れ、それを誤って解釈してしまう。 私は、人々が次第に正義と愛を、復讐や罰と混同してしまうことを知っていた。それゆえ、私は、人々が理解できなかった教え

を説明するために、霊的にこの世に戻ってくる時が来ると、あなた方に告げておいたのだ。
65. その約束された時とは、あなたがたが今生きているこの時代であり、私は、私の正義と神聖な知恵が、あなたがたの神の崇高な愛の完全な教えとして明らかにされるよう、あなたがたに私の教えを与えたのである。私が来たのは、人間が 、ついに主の御業、あるいは命そのものを滅ぼしてしまうのではないかと恐れているからだと、あなたがたは思うのか。 いいえ、私はただ、光と平安に満ちた姿で見ていたいと願う、私の子供たちへの愛ゆえに来るのです。
66. あなた方もまた、ただ私への愛ゆえに来るべきではないか。 しかし、それは自分自身への愛からではなく、父への愛、そして隣人への愛からである。地獄の苦しみへの恐れからだけ罪を避ける者が、あるいは、それによって得られる報い、すなわち永遠の場所を獲得することだけを念頭に置いて善行を行う者が、神の愛に触発されているとでも思うのか？ そう考える者は、わたしを知らず、またわたしへの愛から来ているのでもない。彼はただ自分自身への愛から行動しているだけである。（164, 35 37）
67. わたしの律法はすべて、二つの戒めに要約されている。すなわち、神への愛と隣人への愛である。これこそが道である。（243, 4）

すべての魂のための救いと贖い

68. 今、私は「第二の時代」にラザロに対して行ったように、肉体的に死んだ者をよみがえらせるために来たのではない。今日、私の光は、私に属する魂を目覚めさせるために来る。そして、その魂は、私の言葉の真理によって永遠の命へと高められるであろう。なぜなら、あなたがたの魂こそが、あなたがたが現在その内に抱いているラザロであり、私が死からよみがえらせ、癒やす者だからである。（17, 52）
69. 霊的な生活もまた法則によって支配されており、もしあなたがたがそれらから離れるならば、その不従順の痛ましい結果をすぐに感じるようになるだろう。
70. 私がどれほど強く、あなた方を救いたいと願っているかを知りなさい。今日、かつてと同様に、私はあなた方を真の命へと引き上げるために、十字架を背負うであろう。
71. かつてゴルゴタで流された私の血が人々の心を揺さぶり、彼らを私の教えへと回心させたように、この時代においては、私の神聖なる光が魂と肉体を震わせ、あなた方を真の道へと立ち返らせるであろう。

72. 私は、恵みの生にとって死んでいる者たちが、永遠に生きることを望む。私は、あなたがたの魂が闇の中に住むことを望まない。（69, 9-10）

73. あなたがたの同胞のうち、どれほど多くの者が、偶像崇拝の渦中にありながら、メシアの到来を待ち望んでいるか、よく見よ。 無知ゆえに、私が悪しき者たちに裁きを下し、善き者を救い、世界を滅ぼすためだけにやって来ると信じている者がどれほど多いか、よく考えてみよ。彼らは、私が人間の中に父として、師として、兄弟として、あるいは友として、愛と謙遜に満ちて存在し、すべての人を救い、祝福し、赦すために助けの手を差し伸べていることを知らないのだ。（170, 23）

74. 偶然に生まれた者は一人もいない。たとえ自分がどれほど取るに足らず、無能で、みすぼらしい存在だと思い込んでいたとしても、その者は至高の存在の恵みによって創造されたものであり、その存在は、その者が自分より優れていると考える者たちと同様に、その者を愛している。そして、その者には、他のすべての人々と同様に、神の懐へと導く運命があるのだ。

75. 社会から疎外され、道端をさまよい、悪徳と悲惨を背負い、自分が何者でどこへ向かっているのかも知らずに生きている人々を見よ。 まだ森の中で暮らし、猛獣に狙われている人々について、知っていますか？私の父なる愛から忘れ去られた者は誰一人としていません。すべての者には果たすべき使命があり、すべての者は成長の種を宿しており、功績と努力と闘いによって、魂が段階を追って私のもとへと導かれる道を歩んでいるのです。

76. たとえほんの一瞬であっても、私の平安を渇望せず、この地上の生活から解放されることを願わなかった者が、いったいどこにいるだろうか？ すべての魂は、かつて住んでいた世界、生まれ落ちた故郷への郷愁を抱いている。あの世界は私のすべての子供たちを待ち受け、永遠の命を楽しむよう招いている。ある者はそれを切望しているが、一方で、混乱した魂を持ち、希望も信仰もなく生きているため、ただ死を待ち、存在しなくなることだけを望んでいる者もいる。 一体何が、これらの存在たちに、自らの再生のために戦うよう促すことができるだろうか？一体何が、彼らの中に永遠への憧れを呼び覚ますことができるだろうか？彼らはただ、もはや存在しないこと、沈黙、そして終わりを待っているだけだ。

77. しかし、「世の光」、すなわち「道であり真理」である方が、あなたがたをその赦しによって命へとよみがえらせ、あなたがたの疲れ果てた顔を優しく撫で、あなたがたの心を慰め、

そして、自分には存在価値がないと信じていた者にも、私の声を聞かせるために、戻ってこられたのです。その声はこう告げます。「私はあなたを愛している。私のところに来なさい！」(80, 54-57)

78. 人は堕ち、闇の中に身を投じ、それゆえに私から遠く離れていると感じるかもしれない。人は、死ねば自分にとってすべてが終わると信じているかもしれない。しかし、私にとっては、誰も死ぬことはなく、誰も失われることはない。

79. この世で堕落した存在と見なされていた者たちのうち、今日、光に満ちている者はどれほど多いことか！ 罪や悪徳、犯罪という汚点を跡として残した者たちのうち、すでに清めを達成した者はどれほど多いことか！（287, 9-10）

80. 確かに、多くの者が自らの魂を汚している。しかし、彼らを非難してはならない。彼らは、自分たちが何をしているのかを知らないのだから。 彼らもまた、たとえ今、私を忘れていたとしても、あるいはこの世で作り出した偽りの神々によって私を置き換えていたとしても、私は救う。たとえ彼らが今、偽りの預言者に従うがゆえに、愛の教えを授けるために自らの命を捧げた慈愛に満ちたキリストを忘れていたとしても、私は彼らをも私の王国へと導く。

81. 父にとって、「悪」な者は誰一人としていない。誰もそうなることはできない。なぜなら、彼らの起源は私にあるからだ。道に迷った者、盲目な者、暴力的で反抗的な者――私の子供たちの多くは、彼らに与えられた自由意志によって、そのようになってしまったのだ。しかし、 、すべての人の中に光が差し込み、私の慈悲が彼らを救いへの道へと導くであろう。（54, 45-46）

82. あなたがたは皆、わたしの種であり、主はそれを刈り取る。良い種の中に雑草の種が混じったとしても、わたしはその種をも慈愛をもって手に取り、黄金の小麦へと変えるのだ。

83. 私は、心の中に雑草、泥沼、罪、憎しみの種を見出すが、それでもなお、あなた方を刈り取り、愛している。私はその種を慈しみ、清め、太陽の下で小麦のように輝くようになるまで磨き上げる。

84. 私の愛の力が、あなた方を救い出すことができないとでも思うのか。私はあなた方を清めた後、私の庭に蒔き、そこであなた方が新たな花と実を結ぶようにする。あなた方を私にふさわしい者とすることは、私の神聖な使命の一部である。（256, 19-21）

85. 魂が、決して消えることのない私の光の火花をその内に宿し、私があらゆる道においてその魂と共にいるというのに、ど

うしてその魂が私にとって取り返しのつかないほど失われることがあり得ようか。たとえその魂の反抗が続こうとも、あるいはその混乱が続きようとも――これらの闇の力は、決して私の永遠に打ち勝つことはできない。（255, 60）

86. 最も重い過ちの痕跡にまみれた存在が、高き理想に感化されて自らを清めることは、最初から光を愛し、最後まで汚れぬよう奮闘し続けた存在が清らかであり続けることと同様に、私にとって称賛に値する。

87. 混乱した霊は光の霊とは性質が異なると考える者たちは、いかに真理からかけ離れていることか！

88. もしそれが真実であるならば、父は不公正である。また、もし父に、汚れた者、不浄な者、不完全な者を救い、彼らをすべての義人と共に一つの同じ住まいへと結ぶための知恵と愛が欠けていたならば、父はもはや全能者ではないだろう。（295, 15-17）

89. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが誘惑者や悪魔と呼ぶ存在でさえ、ただ混乱した、あるいは不完全な存在に過ぎず、父はご自身の崇高な御計画と御意図を実行するために、それらを賢明に用いておられるのだ。

90. しかし、今日その魂が闇に包まれ、私が与えた能力を悪用してきた者たちの多くも、その時が来れば、私によって救われるであろう。

91. なぜなら、おおイスラエルよ、主のすべての被造物が、私を永遠に賛美する時が来るからだ。もし私が、私の力と知恵と愛をもって、一つの魂さえ救うことができないとしたら、私はもはや神ではない。（302, 31）

92. この地上において、親たちが良い子供だけを愛し、悪い子供を嫌ったことが、いったいあっただろうか。彼らが、自分たちを最も傷つけ、苦しめる者たちに対してこそ、最も愛情深く、最も思いやり深く接しているのを、私は何度見てきたことか！ 、あなたがたが、私のそれよりも大きな愛と赦しの業を行うことなど、どうして可能であろうか。 師が弟子たちから学ばなければならないなどということが、かつてあっただろうか？

93. だから、私は自分の者たちの誰一人として不適格だとは考えていないことを知れ。それゆえ、救いへの道は、あなたがたが歩むよう永遠に招いているのだ。また、光であり、平和であり、善である私の王国の門も、律法と真理から遠ざかっていた者たちの到来を待ち望みながら、永遠に開かれているのである。（356, 18-19）

神の子らの輝かしい未来

94. 私は、私の子供たちのうち、たった一人でも道に迷ったり、ましてや失われたりすること

を許さない。私は寄生植物を実を結ぶ植物へと変える。なぜなら、すべての被造物は、完全という目標に到達するために存在へと招かれたからである。

95. 私は、あなたがたが私と共に私の業を喜び楽しむことを望む。あなたがたは私の一部であるから、以前にも私はあなたがたに私の特質を分かち与えてきた。すべては私のものであるから、私はあなたがたをも私の業の所有者とする。（9, 17-18）

96. わたしの言葉を疑ってはならない。 「最初の時代」に、私は、偶像崇拝と闇を意味するエジプトの奴隷状態からイスラエルを解放し、自由と生ける神への崇拝の地であるカナンへと導くという約束を、あなたがたに果たした。そこで、私が人間として来ることが告げられ、その預言はキリストにおいて一語一語成就した。

97. イエスに宿り、彼を通してあなたがたを愛したその主である私は、別の時に世界に向かって語りかけ、御霊によって自らを現すと世界に約束した。そして今、ここに私の約束の成就がある。

98. 今日、私はあなたがたに告げる。私はあなたがたの魂のために、素晴らしい領域、住まい、霊的な故郷を用意しておいた。そこでは、愛し、善を行い、私の光を広めるための真の自由を見出すことができる。私がかつての約束を果たした今、あなたがたはそれを疑うことができるだろうか？（138, 10-11）

99. 私の神聖な願いは、あなた方を救い、光と美と愛の世界へと導くことである。そこでは、魂の高揚、感情の寛大さ、完全という理想によって、あなた方は喜びに満ちて躍動するだろう。しかし、あなた方はこの神聖な願いの中に、私の父なる愛を見出せないのか。 これをそう理解できない者は、間違いなく盲目である。（181, 13）

100. よく考えてみなさい。この世のあらゆる美しさは、いつか他のものに道を譲るために、消え去る運命にあるのです。しかし、あなた方の魂は永遠に生き続け、その全き栄光のうちに父――あなた方がその胎から生まれた、 なる父――を仰ぎ見るでしょう。すべての被造物は、その源である場所へと帰らなければならないのです。(147, 9)

101. わたしは永遠の光であり、永遠の平安であり、永遠の至福である。あなたがたはわたしの子供たちであるから、あなたがたをわたしの栄光の共同者とするのが、わたしの意志であり、わたしの義務である。そのために、わたしはあなたがたに律法を教える。それは、魂をその王国の高みへと導く道である。（263, 36）

102. 善、知恵、清らかさ、そして愛の高い境地に達した魂は、時間、苦痛、そして距離を超越していることを、常に心に留

めておきなさい。その魂は、ある一か所に留まることに制限されることなく、どこにでも存在し得、あらゆる場所で、存在し、感じ、知り、愛し、そして愛されていることを知ることに、至高の喜びを見出すことができるのである。 これこそが、魂の天国である。（146、70-71）

VIII. 人間

第32章 - 人間の転生、本質、そして使命

地上における転生

1. あなたがたは、身内の一人が「霊的な谷」へと旅立つとき、その人が主にもう一歩近づいたことを理解して平安を感じるのではなく、泣いてしまう。 それに対して、新しい存在があなたの家に来ると、あなたはその魂がこの涙の谷で贖罪を果たすために肉体に降りてきたのだとは、その瞬間には考えもせず、祝宴を開く。その時は、その魂のために泣くべきである。（52, 58）

2. あなたがたは肉による子を産むが、家族、部族、国家、そして世界へと魂を配分するのは私である。そして、人間には理解できないこの正義の中に、私の愛が表れている。（67, 26）

3. あなたがたは現在に生きており、私があなたがたの未来のために何を定めたのかを知らない。私は、地上に住み、困難な使命を帯びてくる霊的存在の大きな軍勢を準備している。そして、あなたがたのうちの多くが、私の使者が転生するその存在たちの親となることを知らなければならない。 あなたがたの義務は、彼らを受け入れ、導くことができるよう、内面的に準備を整えることである。（128, 8）

4. 私は多くの霊的な事柄についてあなた方に語りかけたいが、あなた方はまだそれを理解できない。もし私が、あなた方がすでにどのような住処に降りてきたのかを明らかにしたとしても、あなた方はそのような場所でどのように生きてきたのか理解できないだろう。

5. 今日、あなたがたは「霊的な谷」を知っていることを否定できるだろう。なぜなら、魂が肉体に宿っている限り、その過去にはアクセスできないようにされているからだ。そうすることで、魂が驕ったり、落ち込んだり、あるいは新たな存在として、あたかも新しい人生のように一から始めなければならないという現実に直面して絶望したりすることがないようにするためである。

6. たとえ望んだとしても、あなたがたはそれを思い出すことはできない。私がここで明らか

にする事柄について、あなたがたがほんのわずかな予感や直感だけを抱き続け、人生の闘いの中で耐え忍び、試練を喜んで受け入れることができるように、私はそれを許しているのだ。

7. あなたがたは、私が語るすべてのことを疑うかもしれない。しかし、まことに、あなたがたが霊的存在であった間、あの霊界こそが真にあなたがたの故郷であった。あなたがたは、苦しみを知らず、父の栄光を自らの存在の中で感じていた、その故郷の住人であった。なぜなら、父には何の欠点もないからである。

8. しかし、あなた方には功績がなかった。それゆえ、あなた方の魂がその努力によってあの王国を取り戻すために、あの天を去り、この世に降りてくる必要があったのである。

9. しかし、あなたがたは道徳的にますます堕落し、ついに、あなたがたの起源である神聖で霊的なものから、非常に遠く離れていると感じるようになった。（114, 35-36）

10. 魂が地上に来るとき、それは、その存在を父に捧げ、あらゆる点で父に喜ばれ、隣人のために役立つという、最善の決意に満ちている。

11. しかし、肉体に囚われ、人生の道において千通りの試練と試みに直面すると、魂は弱くなり、「肉」の衝動に屈し、誘惑に負け、利己的になり、ついには何よりも自分自身を愛するようになる。そして、その使命と誓いが記されている御言葉に耳を傾けるのは、ほんの一瞬のことである。

12. わが言葉は、あなたがたが霊的な契約を思い出し、誘惑や障害を打ち勝つ助けとなる。

13. 私が示した道から一度も逸れたことがない、と断言できる者は誰もいない。しかし、あなたがたが隣人を赦すことを学ぶために、私はあなたがたを赦す。（245, 47-48）

14. 人が良心の声に従って生きるためには、大きな霊的な教えが必要である。 なぜなら、万物は神の愛に満ち、人間の幸福と喜びのために賢明に創造されているとはいえ、この世で人間を取り巻く物質は、魂が本来属さない世界に身を置き、自分とは性質の異なる肉体と結びついたその瞬間から、魂にとっての試練となるからである。

15. ここに、魂が自らの過去を忘れる理由を見出すことができる。魂が、生まれたばかりの無自覚な存在に転生し、それと融合するその瞬間から、その身体と密接に結びついた人生が始まるのである。

16. 精神のうち、残るのはただ二つの特性、すなわち良心と直感のみである。しかし、人格、成し遂げた行い、そして過去は、しばらくの間隠されたままである。それは父がそう定められたからである。

17. 高き故郷の光から、この世の悲惨な状況の中で生きるためにやって来た魂が、もし自分の過去を思い出したら、どうなるだろうか。そして、別の人生においてその魂の中に存在していた偉大さが人々に明らかにされたら、人間たちの間にどのような虚栄心が生まれるだろうか。（257, 18-19）

肉体の正しい評価と、霊によるその導き

18. 私は、あなたがたに魂を清めるべきだと言うだけでなく、あなたがたから生まれる新しい世代が健康であり、その魂が困難な使命を果たせるように、体を強めるべきだとも言っている。（51, 59）

19. あなたがたの身体の健康に気を配り、その維持と生命力を保ちなさい。私の教えは、あなたがたの魂と身体に対して慈愛に満ちた配慮を持つよう勧めている。なぜなら、両者は互いに補い合い、彼らに託された困難な霊的使命を果たす上で、互いを必要としているからである。（92, 75）

20. 自分の体に、実際以上に大きな重要性を与えてはならない。また、魂にのみふさわしい場所を、体に占めさせてはならない。

21. 肉体という外殻は、魂が地上においてその存在を現すために必要な道具に過ぎないことを理解しなさい。（62, 22-23）

22. この教えが、いかにあなたの魂にとって有益であるかを見よ。なぜなら、肉体の物質は過ぎゆく日々ごとに、少しずつ大地の懐へと近づいていく一方で、魂は逆に、ますます永遠へと近づいていくからである。

23. 肉体は、魂が地上に宿っている間、その魂が安らぐ拠り所である。なぜそれを、束縛する鎖や、閉じ込める牢獄にしてしまうのか。なぜそれを、あなたの人生を操る舵にしてしまうのか。目が見える者を、盲人が導くことが正しいと言えるだろうか。（126, 15-16）

24. この教えは、すべての純粋で神聖なものと同様に簡潔であり、それゆえ理解しやすい。しかし、それを実践することは時に困難に思えるだろう。魂の営みは、肉体からの努力、自制、あるいは犠牲を必要とする。もしあなたがたに教養や精神的な鍛錬が欠けているならば、苦しむことになるだろう。

25. 太古の昔から、神から与えられた法に則った人生を送るために、何が正しく、何が許され、何が善であるかを理解しようとする際、魂と「肉」との闘いが存在してきた。

26. この厳しい闘いの中で、あなたたちは、まるで異質で悪意ある力が絶えず、戦いを放棄するよう誘惑し、自由意志を行使して物質主義の道を歩み続ける

よう勧めているかのように感じるだろう。

27. 私はあなたに告げる。あなたの肉体の弱さほど大きな誘惑はない。肉体は周囲のあらゆるものに敏感であり、屈服するほど弱く、容易に倒され、誘惑されるものである。 しかし、身体の衝動、情熱、そして弱さを制御することを学んだ者は、自らの中に抱える誘惑に打ち勝ったのである。（271, 49-50）

28. 地球は戦場であり、学ぶべきことは多い。そうでなければ、この惑星での数年の生涯で十分であり、あなたがたは何度も生まれ変わるために送り出されることはなかっただろう。汚れや物質主義がまとわりついているとき、魂にとって、自身の肉体ほど陰鬱で暗い墓穴はない。

29. わが言葉は、あなた方をこの墓から引き上げ、その後、翼を与えて、平和と霊的な光の領域へと舞い上がれるようにする。（213, 24-25）

人間における魂、精神、良心の意味と役割

30. 人間は、霊なしでも、ただ魂を宿した肉体的な生命によってのみ存在することはできる。しかし、その場合は人間という存在ではない。その者は魂は持ちながらも霊を持たないことになるが、それゆえに自らを導くことはできず、また、霊を通じて法を知り、善と悪を区別し、あらゆる神の啓示を受け取る最高存在ともなり得ない。（59, 56）

31. 霊は魂を照らし、魂は肉体を導くべきである。（71, 9）

32. この世では、ある者たちが虚栄の大きさを追い求める一方で、他の人々は、人間は神の前では取るに足らない被造物であると語り、さらには自らを土中の虫に例える者さえいる。確かに、あなたがたの物質的な肉体は、わたしの創造物の中にあっては小さく見えるかもしれないが、わたしにとってはそうではない。なぜなら、わたしがそれを創造した際の知恵と能力があるからだ。

33. しかし、どうして体の大きさだけで、あなた方の存在の偉大さを判断できるだろうか。あなた方は、その中に魂の存在を感じないのか。魂は体よりも偉大であり、その存在は永遠であり、その道は無限である。あなた方は、その発展の終わりを見極めることも、その起源を知ることもできない。私はあなた方を小さく見たいのではない。私は、あなた方が偉大さを達成するためにあなた方を創造したのだ。 私が人間を小さいとみなすのは、いつだと思うか？それは、彼が罪に溺れ、その高貴さと尊厳を失ってしまった時である。

34. 長い間、あなたがたはもはやわたしにすがっていません。あなたがたは、自分たちが実の

ところ何者であるかを知らなくなっています。なぜなら、あなたがたは、創造主があなたがたの中に置いた多くの性質、能力、賜物が、あなたがたの本性の中で眠ったまま、活用されないままにしておくことを許してきたからです。 あなたがたは魂と精神に関して眠っている。しかし、まさにそれらの霊的な性質の中にこそ、人間の真の偉大さがあるのだ。あなたがたは、この世に生まれ、この世で死ぬ存在のように生きている。（85, 56-57）

35. 私の愛の言葉をもって、私はあなたがたの精神が私にとってどれほど価値あるものであるかを証明する。 物質的な創造物の中に、あなたの精神よりも偉大なものは何一つない――その光を放つ王の星であれ、あらゆる驚異を備えた地球であれ、あるいは他のいかなる被造物であれ、私があなたに与えた精神よりも偉大なものはない。なぜなら、それは神聖な粒子であり、神聖な精神から生まれた炎だからである。

36. 神を除けば、霊のみが霊的な知性、意識、意志、そして自由意志を備えている。

37. 「肉」の本能や欲求の上に、あなたの魂である光が輝き、その光の上に、導き手であり、教本であり、裁き手である霊が存在する。（86, 68）

38. 人類は、その物質主義の中で、私にこう言う。「霊の領域など、果たして存在するのだろうか？」しかし、私はあなた方に答える。おお、不信仰者たちよ、あなた方は「第三の時代」のトマスである。同情や憐れみ、優しさ、慈愛、寛大さといった感情は、身体に属する性質ではない。それは、あなた方が内に秘めている神の賜物と同様に、身体に由来するものではない。 あなたがたの心と知性に刻み込まれているあらゆる感情、あらゆる能力は、すべて霊に属するものであり、あなたがたはそれを否定してはならない。「肉」は限られた道具に過ぎないが、霊はそうではない。霊は神の一粒の原子であるゆえに、偉大なのである。

39. あなたがたの存在の核心に精神の座を求め、愛の栄光の中に偉大な知恵を求めなさい。（147, 21-22）

40. まことに、わたしはあなたがたに告げる。人類の黎明期から、人間は自分の中に霊的な存在を宿しているという直感的な知識を持っていた。それは目には見えない存在でありながら、人生の様々な営みの中でその姿を現していたのである。

41. あなたの主は、時折、霊の存在、その本質、そしてその隠されたあり方をあなたに啓示してきた。なぜなら、あなたがたは霊を内に宿しているにもかかわらず、物質化によってあなたを包むベールはあまりにも厚く、あなた自身の存在の中で最も

高貴で純粋なものが何であるかを認識することができないからである。

42. 人間は多くの真理を否定することを敢えてしてきた。それにもかかわらず、自らの霊の存在への信仰は、彼が最も激しく戦った対象の一つには含まれていなかった。なぜなら、人間は、自らの霊を否定することは、すなわち自分自身を否定することと同じであることを感じ取り、ついには理解したからである。

43. 人間の肉体は、その情欲、悪徳、そして感覚的快楽によって堕落したとき、魂の開花にとっての鎖となり、暗い目隠しとなり、牢獄となり、障害となった。それにもかかわらず、試練の時において、人間を助けに来る内なる光の火花は、決して欠けたことはなかった。

44. まことに、わたしはあなたがたに告げる。霊の最も高貴で純粋な表現とは、良心、すなわち、人間を、周囲のあらゆる被造物の中で、第一であり、最高であり、最大であり、最も高貴な存在たらしめるその内なる光である。（170, 56-60）

45. わたしはすべての民に告げる。人間が持つ最も高貴で美しい称号とは、「神の子」であるということである。もっとも、それを得るには、それに見合う行いが必要ではあるが。

46. 律法と教えの意義は、あなたがたに私の真理の知識を啓示し、至高の完全性であるその神なる父のふさわしい子となれるようにすることにある。（267, 53）

47. あなたがたは、「わたしの像と姿」として創造されたことを知っている。しかし、そう言うとき、あなたがたは自分の人間の姿を思い浮かべている。わたしは言う。わたしの像はそこにあるのではなく、あなたがたの魂の中にあるのだ。その魂は、わたしに似るために、徳を実践することによって完全にならなければならない。

48. 私は道であり、真理であり、命であり、正義であり、善である。そして、これらすべては神の愛に由来する。さて、あなたがたが「私の像と似姿」となるために、どうあるべきか、今や理解できたか。（31, 51-52）

49. あなた方の内には神性の反映があり、私はまことにあなた方の内にいる。あなた方が持つ知性、意志、能力、感覚、そして美徳は、あなた方が属するより高い本質を証し、あなた方がそこから生まれた父の生きた証である。

50. 時として、不従順や罪によって、あなたがたは自らの本質の中に私から受け継いだ像を汚し、辱めている。その時は、あなたがたは私に似ていない。なぜなら、創造主の像であるためには、人間の肉体と魂を持っているだけでは不十分だからである。 私との真の類似性は、あな

たがたの光と、すべての隣人に対する愛の中にこそあるのだ。（225、23-24）

51. わたしはあなた方を「わたしの像と姿」として創造した。そして、わたしが同時に三位一体であり、かつ唯一であるように、あなた方の中にも同様にこの三位一体が存在する。

52. あなたがたの物質的な体は、その完全な造形と調和ゆえに、創造を象徴している。あなたがたの受肉した魂は、人間の世界に愛の痕跡を残すために人となった「言葉」の写しであり、あなたがたの霊は、聖霊の神聖な光から放たれた輝かしい火花である。（220、11-12）

53. もしあなたの魂が、意志も独自の志向も持たない肉体の中で活動していたとしたら、そこにどのような功績があるだろうか。魂と肉体の殻との闘いは、力と力の対決である。そこにおいて、魂は自らの優位性と魂の偉大さを証明しなければならない試金石を見出すのである。 それは、魂がしばしば一瞬、世界が「肉」を通じて持ち込む誘惑に屈してしまう試練である。これらの（誘惑）が魂に及ぼす力はそれほど大きく、ついには、超自然的で邪悪な力があなたを破滅へと引きずり込み、情欲の中であなたを滅ぼしてしまったかのような印象さえ抱かせてしまうほどである。

54. 神の前における魂の責任は、なんと大きいことか！肉体はこの責任を引き受けてはいない。死が訪れた時、肉体が永遠に土の中に眠る様子を見よ。いつになったら、あなたがたは功徳を積み、今生きているこの場所よりも、より完全な住まいに住むにふさわしい魂となるのだろうか？

55. この世は、虚栄と高慢、そして偽りの偉大さを示すだけの冠をあなた方に差し出している。しかし、こうした虚栄を乗り越えることを知る魂には、来世において別の冠、すなわち私の知恵の冠が用意されている。（53, 9-11）

56. 生命は、肉体よりもむしろ魂の中に現れるべきものである。この世に生きてきた者は数多いが、霊的に生きた者、すなわち、すべての人間に存在する恵み、創造主が人間に宿したその神聖な火花を表現した者は、いかに少ないことか。

57. もし人々が精神の中に透視能力を保つことができたなら、それによって自らの過去、現在、そして未来を見通すことができるだろう。

58. 精神は、私の『神の知恵の書』に似ている。そこにはどれほど多くのものが含まれていることか！ 精神は絶えず、あなた方に何かを明らかにしようとしている――時には、あなた方には理解できないほど深遠な啓示さえも。

59. すべての人間に存在するその光の火花こそが、人間を霊界

と結びつける絆であり、彼をあの世や父なる神と接触させるものである。（201，37-40）

60. ああ、もしあなたがたの物質的な性質が、霊の予知能力を通じて受け取るものを理解することができたら！ なぜなら、たとえ肉体がその物質的な性質ゆえに何も感知できなくても、霊は決して見続けることをやめないからだ。いつになったら、あなたがたは自分の霊を理解できるようになるのだろうか。（266，11）

61. 人生を「残酷だ」と言って愛さないあなたがたが、人間における精神の重要性を認識せず、また精神に導かれることもない限り、真の価値を見出すことは決してないだろう。

62. 魂を物質とその情欲を超えた、より高次な生へと引き上げるのは、まさに霊である。もしあなたがたが霊化を実現することができれば、神の偉大な愛を感じ取ることができるだろう。そうすれば、あなたがたは生の意味を理解し、その美しさを目にし、その知恵を発見するだろう。そして、私がなぜそれを「生」と呼んだのかを知るようになるだろう。

63. この教えを知り、理解した後に、それが真実ではないと言って、あえてこれを拒む者がいるだろうか。

64. あなたがたが、自らの真の価値は精神に根ざしていることを理解すれば、父が創造されたすべてのものと調和して生きることになるだろう。

65. そうすれば、精神は貧しい人間の生活を美しく彩るだろう。しかしその前に、人は神から引き離すあらゆる情欲から背を向け、正義と知恵の道を歩まなければならない。そうして初めて、あなた方にとって真の生活が始まるのだ。それは、今あなたがたが無関心に見ている生活である。なぜなら、あなたがたは自分が何を軽蔑しているのかを知らず、その完全さについて何の想像も持っていないからだ。（11，44-48）

人間の中にある神の神殿

66. 人類が私に対して抱いている観念は幼稚である。なぜなら、私が絶えず与えてきた啓示を、彼らは深く理解することができなかったからである。 準備ができる者にとっては、私は目に見え、触れられ、至る所に存在している。しかし、物質主義によって心が硬くなってしまい、感受性を失った者にとっては、私が存在することさえ理解し難く、私は計り知れないほど遠くにいて、いかなる形でも感じたり見たりすることは不可能であると感じてしまう。

67. 人は、自分の中に私を宿していること、自分の魂と精神の光の中に、神性の純粋な臨在を持っていることを知らなければならない。（83，50-51）

68. 現代の人々を押しつぶすような苦しみは、彼らが気づかないうちに、一歩一歩、内なる聖域の門へと導いていく。その門の前で、彼らはこれ以上進むことができず、こう問うことになるだろう。「主よ、あなたはどこにおられるのですか？」そして、神殿の内側から、師の慈愛に満ちた声が聞こえ、彼らにこう告げるだろう。 「私はここにいる。私がいつも住んでいた場所――すなわち、あなた方の精神の中に。」（104, 50）

69. あなたがたは、わたしの中に生まれ出たのである。霊的な命と物質的な命は、父から授かったものである。そして比喩的に言えば、あなたがたがわたしの中に生まれ出たその同じ時に、わたしもまたあなたがたの中に生まれ出たのだ、と告げることができる。

70. 私はあなたがたの霊の中に生まれ、あなたがたの成長と共に育ち、あなたがたの愛の行いの中に完全に現れる。そうして、あなたがたが喜びに満ちてこう言えるようにするのだ。「主は私と共におられる。」（138, 68-69）

71. 今日、あなたがたはまだ幼い生徒であり、私の教えを常に正しく理解できるわけではない。しかし、ひとまず、心と想いを込めて神に語りかけなさい。そうすれば、神はあなたがたの存在の最も奥底から答えてくださるだろう。 あなたがたの霊の中で語られる神のメッセージは、明瞭で、賢明で、愛に満ちた声であり、あなたがたはそれを次第に発見し、やがてそれに慣れていくことになる。（205, 47）

72. 私はこの「第三の時代」において、弟子たちの心の中に聖霊の教会を築き上げる。そこには、創造主なる神、力強い神、「第二の時代」に人間となられた神、無限の知恵を持つ神が住まわれる。 神はあなた方の内に生きておられるが、もし神を感じ、その御言葉の響きを聞きたいと願うなら、内面的に備えなければならない。

73. 善を行う者は、内なる私の臨在を感じる。謙虚な者も、また、あらゆる隣人を兄弟と見なす者も同様である。

74. あなた方の魂の中には、聖霊の神殿が存在する。この領域は破壊不可能であり、それを打ち倒すことのできる嵐や暴風など存在しない。それは人間の目には見えず、触れることもできないが、その柱となるべきものは、善の中で成長したいという渇望である。 そのドームは、父が子供たちに授ける恵みであり、門は聖母の愛である。なぜなら、私の扉を叩く者は皆、天の母の心に触れることになるからだ。

75. 弟子たちよ、ここに、聖霊の教会に生きる真理がある。それは、あなたがたが誤った解釈によって迷い込む者たちの一員

とならないためである。石で造られた教会は単なる象徴に過ぎず、それらからは一石も残らないであろう。
76. わたしは、あなたがたの心の祭壇に信仰の炎が常に燃え続け、あなたがたが自らの行いによって、いつの日か偉大な聖堂が築かれるべき基礎を築いていることを悟ることを望む。 私は、様々な考えを持つすべての人々を試練にさらし、彼らに働きかけている。なぜなら、私はすべての人を、私の神殿の建設に参加させるつもりだからである。（148, 44-48）

第33章 - 夫と妻、親と子、結婚と家族

男女の関係

1. あなたがたが地上に来る前から、私はすでにあなたがたの生き様や性向を知っていた。そして、あなたがたの人生の旅路を助けるために、私はあなたがたの道に、その愛によって道を照らす心を置いた。この心は、男性のものであり、女性のものでもあった。 それによって、私はあなた方に助けを与え、それを必要とする者たちにとって、信仰、道徳的力、そして慈悲の支えとなるようにしたかったのだ。（256, 55）
2. 父となる喜びを、あなた方に分かち合いたかった。そこで、私はあなた方を人間の親とし、あなた方に似た存在を形作り、私があなた方に送る魂が転生する器となるようにした。 神聖かつ永遠なるものの中に母性愛が存在するゆえに、 、私は人間の生活の中に、それを体現する存在があることを望んだ。そして、その存在こそが女性である。
3. 初め、人間という存在は二つに分けられ、こうして二つの性別が創造された。一方は男性、もう一方は女性である。男性には力、知性、威厳が、女性には優しさ、優雅さ、美しさが備わっている。一方は種、もう一方は肥沃な大地である。 ここに、互いに結ばれて初めて、完全であり、完璧であり、幸福を感じることができる二つの存在を見よ。その調和の中で、彼らは一つの「肉」となり、一つの意志となり、一つの理想を形成する。
4. この結びつきが霊と愛に導かれたものであるとき、それは結婚と呼ばれる。（38, 29-31）
5. まことに、私はあなたがたに告げる。この時代、男も女もその道から逸脱しているのを見る。
6. 私は、義務を果たさない男たち、母となることを避ける女たち、そして、古くから「男は女の頭である」と告げられていたにもかかわらず、男に定められた領域に踏み込む者たちを見出す。

7. それゆえ、女は自分を軽んじられていると感じるべきではない。なぜなら、今、わたしはあなたがたに、女は男の心であると告げるからである。

8. 見よ、それゆえに、私は結婚を定め、聖別したのだ。なぜなら、霊的には対等であるが、肉体的には異なるこの二つの存在の結合の中にこそ、完全な状態が存在するからである。（66、68、69）

9. 愛をもって神の律法を全うし、平和と光と調和の楽園に生きようと努める者は、いかに少ないことか。

10. 人々が歩んできた道のりは非常に長い。しかし、彼らは依然として、人生に苦しみと失望を積み重ねるだけの禁断の果実を食べることを好んでいる。禁断の果実とは、神が創造されたゆえに本来は良いものであるが、人間が十分に備えをせず、あるいはそれを過度に用いるならば、有害となり得るものである。

11. 男と女は、準備もせずに生命の果実を受け取り、地上に新たな存在を誕生させる際、創造主に対する自らの責任を認識していない。（34, 12-14）

12. ある人々は私にこう問う。「主よ、人間の愛はあなたにとって許されず忌まわしいものであり、あなたは霊的な愛のみを認めるのですか？」

13. いいえ、民よ。確かに、愛の最も高貴で純粋な感情は霊にふさわしいものだが、私は人間の体にも心を宿し、その心が愛するようにし、また感情を与えた。それは、その感情を通じて、心が周囲にあるすべてのものを愛するようにするためである。

14. その根源が肉体のみにある愛は、理性を欠く存在に特有のものである。彼らには、その道を照らす良心が欠けているからだ。さらに、私はあなたがたに告げる。善き結びつきからは常に善き実が生まれ、そこには光の魂が転生するであろう。（127, 7-8, 10）

15. 私は、あなたがたに超人的な犠牲を求めているのではない。 私は、私に従うために、男性に「もはや男性であってはならない」と求めたこともなければ、霊的な任務を果たすために、女性に「もはや女性であってはならない」と求めたこともない。私は、夫をその伴侶から引き離したこともなければ、彼女が私に奉仕できるようにと、彼女をその夫から遠ざけたこともない。また、私に従うために、両親に子供たちを捨てよ、あるいは仕事を放棄せよと言ったこともない。

16. 私が彼らを「このぶどう畑の働き人」としたとき、彼ら一人ひとりに、私のしもべとなるために人間であることをやめる必要はなく、それゆえ、神のものは神に、世のものは世に、それぞれ与えることを理解しなけ

ればならないことを、私は明らかにした。（133, 55-56）

男性の性質と役割

17. わたしはお前たち男性に、一つの遺産、一つの財産、すなわち愛し、世話をするために託された妻を与えた。それにもかかわらず、お前たちの伴侶はわたしのところに来て、お前たちの無理解を嘆き、わたしの前で泣き叫んだ。

18. わたしは、あなたがたは強く、「わたしの姿と似姿」として造られたのだ、と告げた。しかし、わたしはあなたがたに、女性を辱め、彼女を奴隷にするよう命じたわけではない。

19. 私は、あなたがたが家庭において私を代表できるよう、あなたがたを強くしたのだ。徳において、才能において強くし、また、この地上の生活における補完として、伴侶として女性を与えた。それは、互いの愛の中で、試練や変わりやすい運命に立ち向かう力を見出せるようにするためである。（6, 61）

20. 男性たちよ、よく考えてみよ。多くの場合、あなたがたこそが、高潔な女性たちの繊細で弱い部分を探し出し、その罠に陥らせてきたのではないだろうか。しかし、かつては澄んでいたが、今は曇ってしまったその鏡を、あなたがたは再び、彼女たちの魂の清らかさと美しさを映し出すように導かなければならない。

21. なぜ、かつてあなたがたが堕落した生活へと誘い込んだ者たちを、今日になって軽蔑するのですか。なぜ、女性の堕落を嘆くのですか。 もしあなたがたが、彼女たちを、心と精神、敬意と隣人愛の法則である私の律法の道へと導き、彼女たちを貶める情熱ではなく、高揚させる愛をもって愛していたならば、泣いたり嘆いたりする理由などなく、彼女たちは堕ちることもなかったのだということを理解せよ。

22. 男は女に美徳と美しさを求め、それを期待する。しかし、なぜあなたがたは、自分たちが値しないものを求めるのか。

23. あなたがたは、実際にはほとんど持っていないにもかかわらず、依然として大きな功績があると思い込んでいるようだ。あなたがたが破壊してしまったものを、行い、言葉、そして思いによって再び築き上げ、高潔さ、道徳、そして美徳に、それらが本来持つべき価値を認めてあげなさい。

24. 男性たちよ、あなたがたがこのように努めるならば、イエスの救いの業を助けることになり、善良な妻や高潔な母たちによって家庭が尊ばれているのを見るとき、あなたがたの心は喜びで満たされるだろう。美徳を失っていた者たちにそれが戻ってくるのを見るとき、あなたがたの喜びは大きなものとなるだろう。

25. 救いはすべての人に与えられる。なぜ、最も大きな罪人でさえ救われないというのか。それゆえ、私はあなたがたに言う。あなたがたが破滅へと突き落とした人々を救うために、私と共に働け。私の教えの光をもって、彼らに新たな希望を吹き込むのだ。 私の慈愛に満ちた思いが、彼らの心と魂に届くようにしなさい。刑務所や病院、さらには泥沼のような場所へさえも、私のメッセージを届けてやりなさい。なぜなら、そこでは、世界がその誘惑をもって彼らを破滅へと引きずり込んだ時、自分たちが十分に強くなかったことを悔やみ、痛みを覚えて泣いているのだから。

26. すべての女性はかつて子供であり、かつて処女であった。それゆえ、あなたがたは共感をもって彼女たちの心に届くことができるだろう。

27. 私は、これらの美徳を汚すことのなかった男たちを用い、彼らにこの任務を託す。私が「あなたがたの行いによって、あなたがたは知られる」と言ったことを思い起こせ。地上の姿を通して、魂が語れるようにせよ。

28. しかし、私がその存在に宿らせた愛らしさを尊重しようとしなかった者たちには、こう言おう。あなたがたが感じているのは愛ではないのに、なぜ愛していると言うのか。なぜ他者を堕落させるようなことをし、それを止めるものがないのか。 考えてみなさい。もし、あなたがたがあの散り果てた花々にしていることを、あなたがたの母や姉妹、あるいは愛し、それゆえに敬愛している妻に対して行われたとしたら、あなたがたの心はどのような思いを抱くだろうか。あなたがたは、これほど多くの愛を注いで育ててくれた両親に、自分たちが与えた傷について、一度でも考えたことがあるだろうか。

29. 良心の光のもとで、真の試練として、自分の心に問いかけてみなさい。蒔いていないものを刈り取ることができるだろうか、と。

30. もしあなたがたが絶えず隣人を傷つけ続けるなら、未来の生活のために何を準備しているのか。どれほど多くの人々が、あなたがたの犠牲となるのか。あなたがたの結末はどうなるのか。まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたは、情熱の嵐の中で多くの人々を犠牲にしてきた。その中には、現在に属する者もいれば、過去に属する者もいる。

31. 私は、不誠実と嘘の巣窟であった心と口が、真実と清らかな愛の巣窟となることを望む。

32. 言葉と模範によって隣人の道を照らし、堕ちた女性たちの救い主となれ。ああ、もしあなたがた一人ひとりが、せめて一人でも救うことができれば！

33. その女性について悪口を言ってはならない。なぜなら、誰かを傷つける言葉は、それを聞くすべての人を傷つけることになるからだ。その瞬間から、彼らもまた邪悪な裁き人となってしまうのだから。

34. 他人の行いや秘密を尊重しなさい。それらを裁くのは、あなた方の役目ではないのだから。 罪によって倒れたが、私が再び立ち上がらせてやるような男たちの方が、清らかさを装いながら罪を犯す偽善者たちよりも、私には好ましい。私は、偽りの徳を装うことよりも、たとえ大罪人であっても誠実な者を好む。もしあなたがたが身を飾りたいのなら、それは誠実という祝祭の衣装であれ。

35. もしあなたがたが、高潔な心を持つ徳の高い女性を見つけ、彼女を愛しているにもかかわらず、自分にふさわしくないと感じて近づくことをためらったとして、その結果、彼女を辱め、軽蔑し、その後、苦しみを味わい、自分の過ちを悟って、慰めを求めて彼女のもとへ戻ろうとしても、彼女の扉を叩いても無駄である。

36. もし、一人の男性の人生において役割を果たしたすべての女性が、その男性から愛と敬意と理解の言葉と感情を受け取っていたならば、あなた方の世界は、今のような罪の深みには陥っていなかっただろう。（235, 18-32）

女性、妻、そして母

37. 女性たちよ、あなたがたこそ、祈りによって地上に存在するわずかな平和を守っている者たちである。家庭の忠実な守り手として、そこに愛の温もりが欠けることのないよう配慮している者たちである。このようにして、あなたがたは母マリアと一つとなり、人間の傲慢を打ち砕くのである。（130, 53）

38. 女性たちよ、あなたがたは涙でこの世の道を濡らし、血でこの人生の歩みを刻んでいる。私のもとで休息し、新たな力を得て、引き続き、私が地上であなたがたに託した家の愛の砦、かまどの火、強固な土台であり続けてほしい。そうして、これからも、夫と子供たちをその翼で覆うヒバリであり続けてほしい。 私はあなた方を祝福する。

39. わたしは、男性と、男性の右に立つ女性の地位を高めます。わたしは結婚を聖別し、家族を祝福します。

40. この時、私は愛の剣を持ってやって来る。かつて人間によって歪められたすべてのものを、正すために。（217, 29-31）

41. まことに、あなたがたに告げる。人間の刷新は女性から始めなければならない。そうしてこそ、明日の人間となるその実が、あなたがたを退化へと導いた欠陥から解放されるのである。

42. その後、この回復の業に自らの役割を果たすのは、男性たちの務めとなる。なぜなら、女性を堕落させた者は、その女性を再び立ち直らせなければならないからである。
43. 今日、私はあなたがたに、その道でつまずいた女性を救うよう促した。そして、あなたがたが救ったその女性を私の前に連れて来れば、私は彼女に花と祝福、そして非常に大きな平安を与え、二度と倒れることがないようにする。
44. あなたがたがこの任務をこのように果たすならば、この世によって傷つけられた者たちは、イエスの愛が彼らの心に注がれるのを感じるだろう。
45. 彼らが祈りの中で私にこう言うのを、私は聞くであろう。「父よ、私の罪を見ないでください。ただ私の痛みだけを見てください。私の堕落を裁かず、ただ私の苦しみだけを見てください。」 その瞬間、その苦しむ心に私の慰めが降り注ぎ、涙によって清められるだろう。もしあなたがたが、自分を義であり清いと思い込んでいる高慢な者の祈りよりも、罪人の祈りの方がより強く感じられることを知っていたなら。（235, 16-17, 43-45）
46. 私があなた方に命を与えたその愛について、人々はほんのわずかな証拠や特徴しか示していない。あらゆる人間の感情の中で、神の愛に最も近いのは母性愛である。なぜなら、そこには無私無欲、自己犠牲、そしてたとえ犠牲を伴おうとも子供を幸せにしようとする努力があるからだ。（242, 39）
47. 不妊の女性たちよ、師はこう告げる。あなたがたは、自らの体が命の源となることを切に願い、懇願し、ある晩かある朝、自らの内から幼い心臓の鼓動が聞こえることを望んでいた。しかし、昼も夜も過ぎ去り、あなたの胸からは嗚咽だけが漏れた。なぜなら、あなたの門を叩く子供がいなかったからだ。
48. 私を聞き、あらゆる希望を科学によって奪われてしまったあなた方のうち、どれほどの人々が、私の力を信じ、この奇跡を通して多くの人が私を認めるようになるために、実りある者とならなければならないことか。目を覚まし、忍耐しなさい。私の言葉を忘れるな！（38, 42-43）

子供と青少年の教育

49. 家族の父たちよ、過ちや悪い手本となるような行いを避けなさい。私はあなた方に完璧さを求めているわけではない。ただ、子供たちへの愛と配慮を求めているのだ。心身ともに備えなさい。あの世では、大勢の魂たちが、あなた方の間で人間となる瞬間を待ち望んでいるのだから。
50. 私は、数だけでなく徳においても増し加わり、増殖する新

しい人類を望んでいる。そうして人々が約束の都を目前に見据え、その子供たちが新エルサレムに住むことができるようにするためである。

51. 私は、愛の果実である善意の人々で、この地が満たされることを望む。

52. この時代のソドムとゴモラを滅ぼしなさい。あなたがたの心が彼らの罪に慣れることを許してはならず、また、彼らの住民のようになってはならない。（38、44-47）

53. 熱心に子供たちに道を示し、霊と物質の法則を遵守するよう教えなさい。もし彼らがそれを破るなら、叱りなさい。なぜなら、親であるあなたがたは、地上で私を代表しているのだから。 そして、神の御業、すなわち不変の律法を擁護するために、聖なる怒りに満ちてエルサレムの商人たちに永遠の教訓を与えたイエスのことを思い起こしなさい。（41, 57）

54. 今日、あなた方はもはや幼子ではなく、私の教えの真意を理解することができる。また、あなた方の魂は、今持っている肉体と同時に生まれたわけではなく、一方の起源が他方の起源ではないことも知っている。 あなたがたが腕に抱く幼子たちは、その心に無垢さを宿しているが、その魂の中には、時に両親のそれよりも長く、そして悲惨な過去を秘めている。それらの魂が成長の道において進歩を遂げられるよう、その心を育むべき者たちの責任は、なんと大きなものであろうか。

55. それゆえ、子供たちに対して愛を欠いた目で見るな。あなたがたは、彼らが誰であるか、また何をしたかを知らないのだということを心に留めよ。むしろ、彼らに対する配慮と愛を深め、あなたがたを霊的な兄弟姉妹の導き手および助言者とするために、その慈悲をあなたがたの中に注いでくださった父に感謝せよ。あなたがたは、彼らの肉体と血肉に関して、一時的に親となっているのだから。（56, 31-32）

56. 私は、家族の父たちにこう言います。子供たちの物質的な将来を心配するのと同様に、彼らがこの点に関してこの世に持ち込んだ使命に基づき、子供たちの霊的な将来にも気を配るべきだと。（81, 64）

57. 魂は、転生する際、そのすべての能力を携えてくるものであり、その運命はすでに定められており、したがって、この世で新たに何かを受け取る必要はないことを知れ。魂は、あるメッセージ、あるいは贖罪の課題を携えてくるのである。 時には（良い）種を蒔き、またある時には負債を返済することもある。しかし、この人生において、魂は常に父から与えられる愛の教訓を受け取るのである。

58. 子供たちをこの人生において導く者たちよ、子供らしい無

邪気さの時代が過ぎ去った時、彼らが私の律法の道を歩むよう、心を配りなさい。 彼らの感情を呼び覚まし、彼らの能力を明らかにし、常に善へと彼らを 導きなさい。まことに、私はあなたに告げる。あなたがたがこのように私のもとに導く者は、私の愛であるあの神聖な炎から放たれる光に満たされるであろう。（99, 64-65）

59. 霊的には、あなた方はすでに長い道のりを歩んできた。そして今、新しい世代が幼少期から示している直感と成長に、あなた方は驚いている。なぜなら、彼らは多くの経験を経て、今、人類を前進させるために戻ってきた魂たちだからである。ある者は霊の道で、またある者は世俗の道で、それぞれの能力と使命に応じて。 しかし、彼らすべてにおいて、人々は内なる平安を見出すだろう。私があなた方に語っているこれらの存在たちは、あなた方の子供たちとなるのだ。（220, 14）

60. 堕落していたり悪意に満ちたりする地上の父親という悪い手本を前にして、その生き方に従わないことは、子供にとって過ちだとお考えでしょうか。それとも、子供には親の足跡をたどる義務があるとお考えでしょうか。

61. まことに、私はあなたがたに告げる。良心と理性が、あなたがたを正しい道へと導くべきものである。（271, 33-34）

62. 祝福された無垢さは、世の堕落に染まってしまっている。若者たちは息をのむような速さでその道を突き進み、処女たちでさえも、羞恥心、貞操、そして品位を失ってしまった。これらすべての美徳は、彼らの心から消え去ってしまった。彼らは世俗的な情欲を育み、自らを破滅へと導く快楽だけを渇望している。

63. 私は、あなたがたが立ち上がり、魂の成長に向けて確かな一歩を踏み出すことができるよう、はっきりと語っている。（344, 48）

64. 若者たちに隣人への愛を燃え上がらせ、彼らに偉大で高潔な理想を与えなさい。なぜなら、正義と愛、そして精神の聖なる自由が輝くような存在を実現するために、明日、戦っていくのは若者たちだからである。準備をしなさい。預言が語る大いなる戦いは、まだ到来していないのだから。（139, 12）

子供たちと乙女たちへの言葉

65. 子供たちの魂よ、あなたがたは皆、私の中に神なる父を持っている。私が物質的な生活においてあなたがたに人間の両親を与えたのは、彼らがあなたがたの体に命を与え、あなたがたの天の父をあなたがたのそばで代弁するためであった。 わたしはあなたがたに、「あなたは、すべての被造物よりも神を愛さなければならない」と言い、さ

らに「あなたは父と母を敬わなければならない」と付け加えた。だから、あなたがたの義務をおろそかにしてはならない。もしあなたがたが両親の愛に感謝して認めてこなかったとしても、彼らがまだこの世にいるなら、彼らを祝福し、その功績を認めなさい。（9, 19）

66. この日、私は特に、明日、その存在によって新しい家庭の生活を照らさなければならない少女たちに語りかける。妻としての心と母としての心は、霊が内なる神殿を照らすように、その聖域を照らす光であることを、彼女たちは知るべきである。

67. 新しい生活が突然訪れることのないよう、今からその準備をしておきなさい。今から、子供たちが歩む道を整えておきなさい。彼らは、ある使命を果たすために、形と人間の命を受け取り、あなたの胎内に近づく時を待っている魂たちである。

68. 私の回復の計画において、私の刷新と正義の業において、私の協力者となりなさい。

69. この時代、あなたの歩みを待ち伏せている多くの誘惑から背を向けなさい。多くの女性が滅び、多くの聖域が冒涜され、多くの灯が消えゆく、罪深い都市のために祈りなさい。

70. あなたがたの模範を通して、人類における霊性の欠如がもたらす結果を食い止める、命と真理と光の種を蒔き広めなさい。

71. この民の乙女たちよ。目覚め、戦いの準備を整えよ。心の情欲によって盲目になってはならない。虚構に惑わされてはならない。 直感と霊感という賜物、そして感受性と繊細な心を解き放ちなさい。真理の中で強くなれば、この人生の戦いに立ち向かうための最良の武器を手にしたことになる。

72. あなたがたの血を通して愛を伝え、私がこれほど多く語っている愛、すなわち生命の真髄をもって子供たちを支えるためには、まずあなたがた自身がそれを体験し、それに浸透させ、深く感じなければならない。これこそが、私の教えがあなたがたの心に成し遂げようとするものである。（307, 31-36）

結婚と家族

73. 結婚の律法は、先祖たちの霊を通して語られた光として下された。それは、男女の結合が創造主との契約であることを彼らが悟るためである。この結合の果実は子供であり、そこには両親の血が一つに流れ合っている。これは、神の前で結ばれたものは、地上で解かれてはならないという証である。

74. 父と母が子を産んだときに感じるその幸福は、創造主が、その深く愛する子供たちに命を与えることによって父とならられたときに経験されたものによく似ている。 後に私がモーセを通して、あなたがたが伴侶を選ぶ

ことを理解し、隣人の妻を欲しがらないようにと律法を与えたのは、人々が 、自らの自由意志によって姦淫と情欲の道に迷い込んでしまったからである。

75. その時代が過ぎ去った後、私はイエスとしてこの世に生まれ、常に愛の律法である私の慈愛に満ちた教えによって、結婚、ひいては人間の道徳と徳を高めた。私は、私の言葉を忘れられないものにするためにたとえ話で語り、結婚を神聖な制度とした。

76. 今、私が再びあなたがたの間におるゆえに、私は男女のあなたがたに問う。あなたがたは結婚を何にしてしまったのか。これに満足のいく答えを返せる者は、いかに少ないことか！ 私の聖なる制度は冒涜され、その命の泉からは死と苦痛が湧き出ている。この律法の書物の純白の紙の上には、男女による汚点と痕跡が残されている。甘くあるべき実りは苦く、人々が飲む杯は胆汁で満たされている。

77. あなたがたは私の律法から遠ざかり、つまずくたびに、恐る恐る自問する。「なぜこれほど多くの苦痛があるのか？」と。それは、肉の欲望が常に良心の声を無視してきたからだ。今、私はあなたがたに問う。私が幸せになるために必要なすべてを与えたにもかかわらず、なぜあなたがたには平安がないのか？

78. わたしは天の穹蒼に青い外套を広げた。それは、あなたがたがその下に「愛の巣」を築き、世の誘惑や煩わしさから遠く離れて、鳥のような素朴さをもってそこで暮らせるようにするためである。なぜなら、その素朴さと誠実な祈りの中にあってこそ、わたしの御国の平安と、多くの秘儀の啓示を感じることができるからである。

79. 私の神性の前で結婚の誓いを立てる者は皆――たとえその結合が聖職者によって承認されていなくとも――私との契約を結ぶのである。それは、あらゆる運命が記されている神の書に永遠に記録される契約である。

80. いったい誰が、そこからこの二つが互いに絡み合った名を消し去ることができるだろうか。いったい誰が、この世において、わたしの律法によって結ばれたものを解くことができるだろうか。

81. もし私があなた方を引き離すならば、私は自らの業を破壊することになる。もしあなた方が地上で結ばれるよう私に願い、私がそれを許したのなら――なぜその後、あなた方は誓いを守らず、誓いを裏切るのか？ それは、私の律法と私の名に対する侮辱ではないのか？（38、32-37、39-41）

82. 私は、心の中に清らかさを保つことを知らず、また、伴侶や子供たちに慈愛と理解の温もりを与えることのできなかった

、女性、すなわち母であり妻である者の心に語りかけた。
83. 男女が、まず人間生活の中に存在する重大な過ちを正さなければ、どうしてその魂の生活を高めることができようか。
84. 私の業は、弟子たちが、その生活における行動の誠実さと真実さを通じて、それを証しすることを求めている。
85. どちらの者にも、私は問う。あなた方には子供がいるか。ならば、彼らに憐れみを持て。たとえ一瞬でも彼らの魂を垣間見ることができたなら、あなたは彼らの親を名乗るに値しないと感じるだろう。彼らに悪い手本を見せてはならない。子供たちの面前で怒鳴り散らすことなど、決してしてはならない。
86. 私は、この時代、かつてないほど夫婦間の問題が生じていることを知っている。当事者たちがその解決策として見出すのは、別居や離婚という一つの道だけである。
87. もし人が霊的な知識を十分に持っていれば、これほど重大な過ちを犯すことはないだろう。なぜなら、祈りと霊性の高まりの中に、最も困難な状況の解決や、最も厳しい試練を乗り越えるためのインスピレーションを見出すことができるからだ。
88. 私の光は、悲しみに暮れ、打ちひしがれている人々の心にも届き、彼らに新たな生きる勇気を与えるのである。（312, 3642）
89. 「第二の時代」において、私はモーセの律法に従って結婚した多くの夫婦の家に入ったが、私が彼らの多くをどのように見つけたか、知っているか。彼らは争い、平和と愛と信頼の種を破壊していたのだ。私は、彼らの心の中、食卓の上、そして寝床の中で、敵意と不和を見た。
90. また、私は、法律によって結婚生活が認められてはいなかったものの、ヒバリが巣の中でそうするように愛し合い、暮らし、愛しい子供を慈しみ、守っている多くの人々の家にも足を踏み入れた。
91. 同じ屋根の下に住みながら、互いに愛し合っておらず、愛し合っていないゆえに、一つに結ばれておらず、精神的に隔たっている人々が、どれほど多いことか！しかし、彼らは神の罰や人間の法律、あるいは社会の批判を恐れて、その分裂を公にしない。だが、これは結婚ではない。こうした人々には、共同生活も真実さもない。
92. それにもかかわらず、彼らは偽りの共同体を装い、家族や教会を訪れ、散歩に出かける。そして、愛の欠如を巧みに隠すため、世間は彼らを非難しない。それに対し、互いに愛し合っているにもかかわらず、身を隠さねばならず、真の結束を秘め、無理解や不公正に耐えなければならない人々が、どれほど多いことか。

93. 人間は、他者の人生を見抜き、正しく判断できるほどには十分に発達していない。霊的および世俗的な法律の権限を握っている者たちは、そのような事例を処罰するために、真の正義を適用していない。

94. しかし、私があなたがたに告げている、人類が完成に至る理解と寛容の時代は必ず到来する。その時、あなたがたは、モーセ以前の族長の時代のように、愛し合う者たちの結合が、今日私がわが子らに対して行ったのと同じように、すなわち霊的な方法で行われるのを目撃することになるだろう。 そうして、あなた方もまた、その未来の時代には、結ばれる者たちの両親、友人、親族の面前において、最高の霊性、兄弟愛、そして喜びのうちに、それを行うようになるだろう。（357, 25-27）

第34章 - 自由意志と良心

良心と自由意志の意義

1. 聞け、弟子たちよ。人間は、精神的な賜物として自由意志と良心を持っている。すべての人は美徳を授かってこの世に生まれ、それらを活用することができる。彼らの魂の中には良心の光がある。しかし、肉体の発達とともに、情熱や邪悪な傾向も発達し、それらは美徳と対立する。

2. 神はこれを許しておられる。なぜなら、闘いなくして功徳は生まれず、それゆえ、あなたがたが霊的な道を登りつめるためには、これが必要だからである。もし神の子供たちが闘わなければ、その功徳とは何になるだろうか。もしあなたがたが、この世で切望しているように、幸福に満ちて生きていたとしたら、何をするだろうか。 快適さと富に囲まれて、霊的な進歩を期待できるだろうか。あなたは立ち止まってしまうだろう。なぜなら、戦いがないところには功徳はないからだ。

3. しかし、誤解してはならない。私が「戦い」と言うとき、それはあなたがたが自らの弱さや情欲を克服するために繰り広げる戦いを指しているのだ。私が人間に許す戦いは、この戦いだけである。それは、彼らが自己中心や物質的な欲望を制し、魂が霊によって照らされて、その真の座を占めるためである。

4. 私はこの内なる闘いを是とするが、野心と悪意に惑わされ、自己顕示欲から人々が繰り広げる闘いについては是としない。（9, 42-44）

5. 魂は昇華と進歩を成し遂げようと奮闘する一方で、「肉体」は繰り返し世の誘惑に屈してしまう。しかし、魂と肉体は、両者が から、自分に許された分だけを受け取るようにすれば、互いに調和しうる。これこそが

、私の教えがあなた方に示していることである。

6. どうすれば、いつでも私の律法を実践できるだろうか。それは、あなた方の行いの裁き手である良心の声に耳を傾けることによってである。私は、あなた方が果たすことのできないことを命じることはない。私は、幸福への道が空想ではなく、実在するものであることをあなた方に確信させたい。そして、その道を歩む方法を、ここであなた方に明らかにする。

7. あなたがたには道を選ぶ自由があるが、父としての私の義務は、真実で、最も短い道――すなわち、私があなたがたに抱く愛という神の灯台の光に常に照らされている道――を示すことである。なぜなら、あなたがたは、自らの知識を確かなものとし、信仰を生き生きとさせる、常に新しい言葉を聞きたいと渇望する弟子たちだからである。（148, 53-55）

8. 私は、良心が善と悪を、そして正しいことと不正なことを区別することができるゆえに、それがあなたがたのすべての道の指針となるよう、良心をあなたがたの存在の中に置いた。この光があれば、あなたがたは欺かれることも、無知であると言われることもないだろう。 真理を知っているスピリチュアリストが、どうして隣人を欺いたり、自らを欺こうとしたりすることができようか。（10, 32）

9. 地上の人は、私の愛と正義によってその称号を与えられた君主であり、彼が初めから受けた使命は、地上を治めることだった。

10. 私は、神から与えられた自由意志という賜物の上に、その人生の道を照らすための輝く灯台、すなわち良心を置いた。

11. 行動する自由と、善と悪を見分ける良心の光は、私の父なる愛があなたの霊に遺した二大賜物である。それらは、人が生まれる前から、また死んだ後も、その人の中に存在する。 良心は人を導き、絶望の中にあっても、理性を失っても、死の苦しみの中でも、決して人から離れることはない。なぜなら、良心は精神と深く結びついているからである。（92, 32-34）

12. 魂は、救いを得るために功徳を積むべきであるという、意志の自由を喜んでいる。

13. 許されることと許されないことを区別し、それゆえに迷わないように、魂がその自由な発展の道を歩む際、誰が導き、指針を示し、助言を与えるのか。それは良心である。

14. 良心とは、神聖な火花であり、より高き光であり、人が罪を犯さないよう助ける力である。もし良心が、人を善の道にとどまらせるための物質的な力を持っていたとしたら、人にとって何の功徳があろうか。

15. 私が皆さんに知ってほしいのは、その声に耳を傾け、その

助言において決して嘘をつかず、誤りもないと確信し、その指示に忠実に従うことこそが、功徳であるということだ。

16. 皆さんもきっとお分かりのように、その声をはっきりと聞き取るには、訓練と自己への集中が必要です。今、この従順を実践している人はいますか？自分自身に問いかけてみてください。

17. 良心は常に人間の中に現れてきた。しかし、人間は、その光に人生全体を導かせるために必要な発展段階に達していない。人間には、法律、教え、規則、宗教、そして助言が必要なのである。

18. 人々が自らの精神とつながるに至り、 外側に霊的なものを求めるのではなく、内側にそれを求めるようになれば、彼らは、自分たちが耳を傾けることなく常に自分たちの中に生きていた、穏やかで、説得力があり、賢明で、公正な声を聞くことができるようになり、霊の中に神の臨在があり、神こそが、人間が父であり創造主である神とつながるべき真の仲介者であることを理解するようになるだろう。（287, 26-30）

19. あなたがたは皆、自分の中にわたしの光を持っている。すべての魂がこの恵みを持っている。しかし、ある人々においては、この光がますます強くなり、増し加わり、自らを現すために外へと広がっていった一方で、他の人々においては、それはただ秘密の、隠された、無意識の状態にとどまっている。 しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。人がどれほど霊的に遅れていようとも、善と悪を区別することは常にできる。それゆえ、あなたがたは皆、自分の行いについて私に対して責任を負うのである。

20. あなたがたの認識が深まるにつれて、その責任もまた増していくことを、私は告げなければならない。なぜなら、そうすれば、あなたがたは良心の指針に対してますます敏感になっていくからである。（310, 69 70）

21. あなたがたは、この世のあらゆる被造物の中で、霊と良心を授けられた、最も恵まれた存在であることを知ってほしい。私は、あなたがたが自らの意志で、私へと続く正しい道を進むことができるよう、自由意志を与えた。私があなたがたに提示するのは、花咲く道ではなく、祈りと悔い改めと闘いの道であり、その道において、良心があなたがたを導くべきである。（58, 42）

22. もし精神が自由意志を奪われたら、どうなるだろうか。第一に、それはもはや精神ではなくなる。したがって、それは至高者にふさわしい被造物ではなくなってしまう。それは、あなたがたが作り出す機械のようなもの、すなわち、独自の生命も

、知性も、意志も、向上心も持たないものになってしまうだろう。（20, 37）

23. 私は人間に自由意志を与えた。しかし、もし人間が迷いの中で、そのことを私に非難するほどにまで至るならば、私は彼に、意志の力と知性も与えたのだと告げるだろう。 同時に、私は彼に、つまずいたり迷ったりしないための道である私の律法を啓示し、彼の内に良心の光を灯した。それは、魂の道を照らし、永遠の命へと導く内なる灯台である。

24. なぜ罪が存在し、悪が優勢となり、戦争が勃発するのか。それは、人間が良心の声に耳を傾けず、自由意志を悪用するからである。（46, 63-64）

25. 世界は私を聞き取らない。なぜなら、私が自らを現すために用いるこれらの肉体の声は、その届く範囲がごく狭いからである。 それゆえ、人々に語りかけ、多くの人々を驚かせるのは、私の知恵である御霊の声である。彼らは、自己中心の呪縛に囚われ、その声の呼びかけには耳を貸さず、ただお世辞や世俗的な名声にばかり気を取られ、社会的地位や権力に酔いしれているのである。（164, 18）

自由意志の乱用

26. 今日、私は、自由意志という賜物を濫用した結果、霊的に弱体化した人類を目の当たりにしている。私は、正義、愛、慈悲、善の道を定めた。しかし、人間は、一見光のように見える別の道を創り出し、それが彼らを破滅へと導いたのである。

27. 私の再臨の際、私の言葉は、あなたがたが歩もうとしなかったまさにその道を示してくれる。そして、この教えが人を混乱させたり無関心にさせたりすると言う者は、不公正であり、理不尽である。（126, 5-6）

28. 人々が互いに破壊し合い、憎み合い、犯罪や欺瞞、裏切りをも厭わずに権力を奪い合う様子を見よ。そこには、同胞の犠牲となって死ぬ何百万人もの人々もいれば、悪徳の影響下で滅びゆく人々もいる。果たして彼らの中に光はあるのか。果たして彼らの中に宿る霊は語っているのか。 そこにあるのは闇と苦痛であり、それは自由意志という賜物の乱用と、内なる声に耳を傾けなかった結果である。そして、人々が、あなたがた全員が自らの本質の中に宿している、あなたがたが良心と呼ぶ神聖な光線である、その神の火花の光に目を向けなかったからである。（79, 31）

29. 自由意志とは、人生の道において人間に与えられた自由の最も高き表現であり、最も完全な賜物である。それは、良心による助言と試練に立ち向かう闘いを通じて得た善への粘り強さが、父の懐へと至らせるためである。 しかし、自由意志は放縦に取って代わられ、良心は無視

されている。人々はもはや世の要求にのみ耳を傾け、霊性は物質主義に取って代わられてしまった。

30. これほど大きな混乱と多くの逸脱を前にして、現代の人々には、私の教えは荒唐無稽に映るだろう。しかし、私はあなたがたに告げる。それは、人々が陥っている無気力から自らを解放するために必要な、正しい教えであるのだ。（157, 15-16）

31. わが言葉は道であり、あなた方を完全へと導く神の法であり、魂を高揚させる光である。しかし、その魂は、「肉」がその頑なさで優勢となり、その霊の内なる呼び声に耳を傾けなかったために、曇らされてしまったのである。

32. それゆえ、「肉」の衝動に屈し、周囲の世界の影響に支配され、指導者としての立場を、人間の情熱や弱さに翻弄される無防備な存在へと取り替えてしまった魂は、哀れである。それは、風によって方向もなく舞い散る枯れ葉のようだ。

33. 自由を最も愛する人間は、神の御意志に従うことを恐れる。なぜなら、その御意志が最終的に自分の精神を支配し、自分に害を及ぼすことを知っている多くの人間の快楽を奪ってしまうのではないかと恐れるからである。こうして、彼は真の命へと導く道を離れてしまう。（97, 36）

34. 人々が自由意志を、快楽や卑しい情欲、敵意や復讐のために用いてきた時代は、今や終わりを告げようとしている。わたしの正義は罪の道を閉ざし、その代わりに和解と刷新の道を開く。それは、人々が他の手段ではむなしく探し求めてきた平和の道を、見出せるようにするためである。（91, 80）

35. わたしはあなた方に自由意志という賜物を与え、わたしの子供たちに与えられたその祝福された自由を尊重してきた。 しかし、私はまた、あなたがたの本質の中に、御霊の神聖な光を宿した。それは、あなたがたがその光に導かれて、自らの能力を正しい方向へと向かわせるためである。だが、私はあなたがたに告げる。魂と肉体の戦いにおいて、魂は敗北を喫した。それは痛ましい転落であり、それによって魂は、私である真理の源から、次第に、ますます遠ざかってしまったのである。

36. その敗北は決定的なものではなく、一時的なものである。なぜなら、魂は、その飢え、渇き、裸同然の状態、そして闇をもはや耐えられなくなった時、深淵の底から立ち上がるからである。その苦痛こそが魂の救いとなり、そして魂が御霊の声を聞いた時、魂は力強く、輝かしく、熱意と霊感に満ちて立ち上がり、再びその能力を用いるようになる。 しかし、もはや善か悪かのためにそれらを用いる自

由をもってではなく、神の律法の成就にのみそれらを捧げることであり、それこそが、あなたがたが私の霊に捧げ得る最善の礼拝である。（257, 65 66）

良心の衝動に従うことの必要性

37. 物質的な現在のためにのみ生きている何百万もの存在たちは、現在、現実からどれほど遠く離れていることか！ 彼らはどのようにして現実への目を開くことができるだろうか？ それは、良心の声に耳を傾けることによってのみである――、その声は、聞こえるためには集中、省察、そして祈りを必要とする。（169, 16）

38. あなたがたが歩んでいる道が、上向きの発展への道であるかどうかを知りたいときはいつでも、良心に問いかけるべきである。もし良心に平安があり、あなたがたの心に隣人への愛と善意が宿っているならば、あなたがたの光は依然として輝き、あなたがたの言葉は慰めと癒やしをもたらしていると確信できるだろう。

39. しかし、もしあなたがたが、自分の心に貪欲、悪意、物質主義、そして肉欲が根を下ろしていることに気づいたなら、あなたがたの光は闇となり、欺瞞へと変わってしまったと確信してよい。父があなたがたを召される時、黄金の麦の代わりに、不浄な収穫を提示することになることを望むのか。（73, 45）

40. 弟子たちよ。もし過ちや誤りを犯したくないのなら、良心の光に照らして自らの行いを吟味しなさい。もし良心を曇らせるものがあれば、自分自身を徹底的に探求しなさい。そうすれば、その汚点を見つけ出し、それを正すことができるだろう。

41. あなた方の内には鏡があり、そこに映し出された自分を見つめ、清いかどうかを見極めることができる。

42. 霊性主義者はその行いによって見分けられるべきであり、その行いは、清いものであるために、良心によって導かれたものでなければならない。そのように行動する者は、自分が正当に私の弟子であると名乗れることを感じるだろう。

43. 誰がわたしを欺くことができようか。誰もいない。わたしはあなたがたが何をするかによってではなく、それを行う意図によってあなたがたを裁く。わたしはあなたがたの良心の中にあり、またその彼方にもいる。どうして、わたしがあなたがたの行いとその動機を知らないなどと思えるだろうか。（180, 11-13）

自由意志と良心の葛藤

44. 最初の人間たちが地球に住み始めたとき、創造主は彼らに愛を注ぎ、魂を与え、その精神

に御自身の光を灯し、同時に彼らに自由意志を与えられた。
45. しかし、ある者たちは、清くあり続け、主にふさわしく、良心に沿うことを意図してあらゆる誘惑と戦い、善に堅く留まるよう努めた一方で、他の者たちは、罪から罪へ、過ちから過ちへと、感覚の声に導かれ、情欲に支配され、 そして、同胞たちの間に誤りと誘惑をまき散らした。
46. しかし、これらの混乱した魂たちの傍らには、私の神性の天使の使者として、私の預言者たちもやって来て、人類を目覚めさせ、危険を警告し、私の到来を告げ知らせるために来たのである。（250, 38-39）
47. 「肉」は、良心と呼ばれるその内なる光の指示に従うにはあまりにも頑固で反抗的であり、本能と情熱の奔放さへと誘う衝動に従うほうが、はるかに容易であった。
48. 人類は長い間、決して沈黙することのない良心と、物質主義をその崇拝と法則としようとする「肉」との間の激しい葛藤の中で、この地上の道を歩んできた。しかし今日に至るまで、物質も精神も勝利を収めてはおらず、その戦いは続いている。
49. あなたがたは、誰が勝利するのかと私に問う。そして私は、魂によって「肉」の中で成し遂げられる良心の絶対的な勝利まで、もうそう長くはかからないと告げる。
50. これほど多くの戦いと長い葛藤の末、人間的で儚い肉体は、私の永遠の光である霊に屈服せざるを得ないことを、お前たちは予感しないのか。
51. これほど長い葛藤の末、人間はついに、自らの本質の中で脈打ち、生きているあの声と霊的な生命に対して、かつてないほどの感受性と柔軟性を獲得することになるのだと理解せよ。
52. あなたがたは皆、気づかぬうちにこの点へと向かっている。しかし、いつか地上において善と正義の勝利を目にする時、あなたがたは、その戦い、闘争、そして試練の理由を理解するだろう。（317, 21-26）
53. 人間がいかにして、自身を取り巻くあらゆるものの上に立ち、それらを凌駕しているかを見よ。人間こそが、自由意志と良心を備えられた唯一の存在である。人間のあらゆる迷い、堕落、そして罪は、この自由意志に端を発している。しかし、それらは創造主の正義と永遠の前においては、はかない過ちでしかない。 なぜなら、やがて良心は、肉体の弱さや魂の誘惑に打ち勝つからである。それによって、闇、すなわち無知に対する知識である光の勝利が訪れる。それは、愛、正義、調和である善が、利己心、放縦、不正である悪に打ち勝つこととなる。（295, 49）
54. 私にとって不可能なことは何もない。私の意志は成就して

おり、これからも常にそうなるだろう。たとえ時折、支配しているのは私の意志ではなく、人間の意志であるかのように見えることがあっても。

55. 人間の自由意志の歩み、地上における支配、傲慢による勝利、時に暴力を用いて強いる強制などは、永遠に比べればあまりにも儚いものであり、それらは確かにある意味で神の計画を改変し得るかもしれない。 しかし、明日あるいはその計画の遂行の過程において、私の霊の意志は、善を存続させ、不純なものを排除することで、あらゆる存在に対してますます明らかにされるだろう。（280, 9-10）

56. やがて、愛によってこの世界の境界が取り除かれ、霊化によって世界同士が互いに近づき合う時が来るだろう。

57. その時が来るまで、良心と自由意志との闘いは続くであろう。人間は、その自由意志を用いて、自分の人生を自分の望むものにするためにそれを利用し、活用するであろう。

58. この二つの力との葛藤は頂点に達し、勝利は霊の側に傾くであろう。霊は父への絶対的な愛の献身の中で、父にこう言うであろう。「主よ、私は自分の自由意志を放棄します。私の中で、ただあなたの御心のみを成し遂げてください。」

59. このように私の前に来る者を、私は祝福し、私の光で包むであろう。しかし、私は彼に、彼に授けられたその祝福された自由を、決して再び奪うことはないと知らせるであろう。なぜなら、父の御心を行う者、忠実で従順な者は、主の信頼に値するからである。（213, 61-64）

新しい神の言葉による良心の研ぎ澄まし

60. 光と愛に満ちた私の教えは、精神を強め、それによって精神が「肉」に対してその力を発揮し、肉を非常に敏感なものにする。そうすることで、良心の啓示がますます容易に感じ取れるようになるのである。

61. 霊性は、人が目指すべき目標である。それによって、人は自らの良心と完全に一つとなり、ついに善と悪を見分けることができるようになるからである。

62. なぜなら、人々の精神的な高揚が欠如していたため、その深遠で賢明、揺るぎなく公正な内なる声が十分に聞き取られ、解釈されなかったからであり、それゆえ、人間は善と悪を真に区別することを可能にする、制限のない認識を得ることができなかったのである。

63. しかし、それだけでなく、人はあらゆる善き衝動に従い、あらゆる光に満ちた霊感に従うために必要な力を自らの内に見出し、同時にあらゆる誘惑、あらゆる不誠実あるいは悪しき思

考や感情の衝動を拒絶しなければならない。（329, 56-57）

64. 人々が心の中で静まり、自らの高次の理性の声、すなわち、自分たちが今行っていることの正反対のことを命じていることを知っているがゆえに、聞きたくないと思っているあの審判者の声を聞き取ることができれば、互いに理解し合うことはどれほど容易になることか。

65. さらに、あなたがたが良心の指示に耳を傾ける用意がなかったならば、私の教えを実践する用意も、その意志もなかったのだと、私は言っておこう。あなたがたは理論上はそれを認めているが、 実際にはそれを適用していない。 あなたがたは、その教えに神聖な本質を認めている――キリストは偉大であり、その教えは完全であると語る。しかし、誰も師のように偉大になろうとはせず、誰も彼を真の模範として彼のもとに来ようとはしない。 しかし、あなたがたは知っておくべきだ。私が来たのは、私が偉大であることをあなたがたに知らせるためだけでなく、あなたがた全員が偉大になるためでもあるのだ。（287, 35-36）

66. 私はすべての人々とすべての民族を、私の新しいメッセージのもとに集め、羊飼いが羊を呼び寄せるように彼らを呼び寄せ、荒天や嵐から避難できる、羊小屋のような平安を彼らに与えるであろう。

67. あなたがたは、一見、信仰や霊性の痕跡を微塵も持っていないように見える多くの人々が、その魂の最も清らかな部分に、霊的生活の不滅の原理を保っていたことを、やがて目撃することになるだろう。また、あなたがたには神への崇敬を全く持っていないように見える人々の多くが、その存在の最も奥底に、破壊不可能な祭壇を内包していることを、やがて認識することになるだろう。

68. 人々は、この内なる祭壇の前で、自らの過ち、悪行、そして侮辱について泣き、不従順に対する心からの悔恨をもって、霊的にひざまずかなければならないだろう。 そこ、良心の祭壇の前で、人間の傲慢は崩れ去り、人々はもはや人種を理由に自分たちを優越した存在とは考えなくなるだろう。そうして、愛と謙遜、信仰と善意の当然の果実として、犠牲、償い、そしてついに平和が訪れるのである。（321, 9-11）

第35章 – 思考、感情、意志の力

思考の送受信とその影響

1. 人間の目には見えず、人間の科学では感知できない力が、絶えずあなた方の生活に影響を及ぼしている。

2. そこには善なるものもあれば、悪なるものもある。あるものはあなたに健康を与え、あるものはあなたに病気を引き起こす。光に満ちたものもあれば、闇に満ちたものもある。

3. それらの力はどこから来るのか？ 精神から、弟子よ、知性から、そして感情からである。

4. 肉体に宿っているか、あるいは肉体から離れているかを問わず、あらゆる魂は思考によって波動を発し、あらゆる感情が影響を及ぼします。世界はこうした波動で満ち溢れていると確信してよいでしょう。

5. これで、善を思い、善に従って生きる場所には、必ず癒しの力と影響が存在し、善、正義、愛を特徴づける法や規則を に無視して生きる場所には、必ず不吉な力が存在しなければならないということが、容易に理解できるでしょう。

6. 両者は空間を満たし、互いに争っている。それらは人々の感情生活に影響を及ぼし、もし人々がそれらを見分けることができれば、善なる霊感を受け入れ、悪しき影響を拒絶するだろう。 しかし、もし彼らが弱く、善を行うことに慣れていないならば、これらの波動に抵抗することはできず、悪の奴隷となり、その支配に屈してしまう危険にさらされる。（40, 58-63）

7. 宇宙におけるすべての霊的なものは、あなた方にとって目に見えるものであれ見えないものであれ、光の源であり、この光は力であり、権能であり、インスピレーションである。思想、言葉、そして行いからも、それらが持つ純粋さと高貴さに応じて、同様に光が溢れ出ている。 その思想や行いが高尚であればあるほど、その波動とそこから発せられるインスピレーションはより繊細で精妙なものとなるが、物質主義の奴隷たちにとっては、それを感知することがより困難である。それでもなお、高尚な思想や行いが精神的に及ぼす影響は大きい。（16, 16）

8. もしあなたの心から光のアイデアや思考が湧き上がれば、それはその使命を果たすために、その目的地へと到達する。もし善の思考の代わりに、あなたの心から不純な波動が放たれるならば、それはあなたがそれを送り届ける先で、害をもたらすだけである。 言っておくが、思考もまた行いであり、そのようにして、それらはあなたの魂の中に存在する書物に記録されるのである。

9. あなたがたの行いが善であれ悪であれ、あなたがたが隣人に願ったことは、何倍にもなって返ってくる。隣人に悪を願うよりは、自分自身に悪を行うほうが、あなたがたにとってはましである。

10. それゆえ、私は「第二の時代」において、あなた方にこう言ったのである。「人は蒔いた

ものを刈り取る」。なぜなら、あなた方はこの人生における自らの経験に気づき、その収穫が、あなたがたが蒔いたのと同じ種を、しかし何倍にも増してもたらすことを心に留めておく必要があるからである。

11. ああ、人類よ、お前は師の教えを、熟考することも、感じ取ることも、実践することさえも望まなかったのだ！（24, 15-18）

12. それゆえ、私はあなたがたに、思考の力を認識していないと告げたのである。今日、私はあなたがたに告げる。思考は声であり、耳であり、武器であり、盾である。それは創造するだけでなく、破壊もする。思考は、遠く離れて留まる者たちの間の距離を縮め、その痕跡を見失っていた者たちを見つけ出す。

13. 戦いが始まる前に、あなたがたの武器を認識せよ。準備の仕方を心得ている者は、強く、打ち負かされることのない者となるだろう。あなたがたが殺戮の武器を振るう必要はない。あなたがたの剣は、純粋で清らかな思考、すなわち「 」であり、あなたがたの盾は信仰と隣人愛であるべきだ。静寂の中にあっても、あなたがたの声が平和のメッセージとして響き渡るべきである。（76, 34）

14. 目を覚まし、不純な思考で自分の精神を汚さないよう注意しなさい。精神は創造的なものであり、もしあなたが悪い考えを心に留めれば、それは低い次元へと引きずり下ろし、あなたの魂は闇に包まれることになる。（146, 60）

15. 多くの人々の団結した思考は、悪しき影響を打ち倒し、偶像をその台座から引きずり下ろすことができるだろう。（160, 60）

16. 今日、私はあなた方に保証する。将来、思考による伝達は大きな発展を遂げ、この意思疎通の手段によって、今日なお諸民族や諸世界を隔てている多くの障壁が消え去るだろう。 もしあなたがたが、心の中で父とつながることを学び、霊と霊との対話に到達するならば――そのとき、目に見えるか見えないか、そこにいるかいないか、近くにいるか遠くにいるかを問わず、兄弟姉妹とつながることにおいて、何が困難になり得ようか。（165, 15）

17. たとえ不完全であっても、あなた方の思考は常に私のもとへ届き、たとえそこに、常に込めるべき信仰が欠けていたとしても、私はあなた方の祈りを聞き取っている。その理由は、私の霊がすべての存在の波動と感情を受け止めているからである。

18. しかし、利己心のために互いに距離を置き、今日、自ら陥ってしまった物質主義の結果として霊的な生活から遠く離れている人々は、思考を通じて互い

に意思疎通を図る準備ができていない。
19. それにもかかわらず、私はあなたがたに、自分の精神を鍛え始める必要があると告げる。これを達成するために、たとえ魂たちからはっきりと感知できる答えが得られなくても、魂たちに「語りかけ」なさい。
20. 明日、すべての人々が与えることを学んだとき、彼らは、人間が夢にも思わなかったような、精神的な相互理解の兆しをますます受け取るようになるだろう。（238, 51）

感情、願望、あるいは恐怖の力

21. あらゆる瞬間に、あなた方からは思考的あるいは霊的な波動が発せられているが、ほとんどの場合、あなた方は利己心、憎しみ、暴力、虚栄心、そして低俗な情欲を放っている。 あなたがたは傷つけられれば傷つき、感じ取る。しかし、愛することはない。それゆえ、愛されてもそれを感じ取ることができない。そして、病的な思考によって、あなたがたは生きる環境をますます苦痛で満たし、自らの存在を不快感で満たしている。しかし、私はあなたがたに言う。すべてを平和と調和と愛で満たしなさい。そうすれば、あなたがたは幸せになるだろう。（16, 33）
22. あなたを好まない人々を悪く思うことは決してなく、あなたを理解しない人々に対して恨みを抱いてはならない。なぜなら、あなたが隣人に対して抱く最も内なる感情は、思考を通じて彼らに伝わっているからである。（105, 37）
23. 暴力によって権力を握ろうとする人々を見ますか？ まもなく、彼らがその誤りを悟るのを目にすることになるでしょう。
24. 私は彼らに、愛の輝きである慈愛によってのみ、真に偉大で力強い者となることができることを証明してやる。（211, 22-23）
25. あなた方には、顔を上げ、希望に満ちた微笑みを浮かべ、恐れも不信も抱かずに未来を直視するだけの信仰が欠けている。なぜなら、未来には私がいるからだ。
26. あなたがたは、そう思うだけで病に伏すことがどれほど多いことか。なぜなら、一歩一歩進むたびに、運命が追いかけてきて、苦痛が待ち構えていると思い込んでいるからだ。そうして、あなたがたは思考によって闇の力を引き寄せ、それによって物質的な生活と霊的な上昇の道を覆い隠してしまうのである。
27. しかし、私はここ、あなた方のそばにいて、人生、真理、永遠、そして完全な平和への信仰を新たに燃え上がらせ、また、光を惹きつけることをあなた

方に教えるために来ているのだ。（205, 28-29）

自己克服の欠如

28. 人間は二重の罪を犯している。それは、至高の教えを知ることを妨げる覆いが取り除かれるよう、何の努力もしていないからだけでなく、精神的な喜びとは対照的に、肉体的快楽へと誘惑する物質の束縛から自らを解き放っていないからでもある。 それゆえ、人間は情欲の支配下に自らを奴隷とし、まるで健康を取り戻すための努力を何もしない足の不自由な者のように、自らの魂を放置しているのだ。

29. あらゆる分野において、私は大多数の人々が足場を失っているのを見る。どこへ行っても、私は弱々しい人間にしか出会わない。 そして、その原因は何だろうか。それは、あなたがたが、自ら陥っている泥沼から抜け出し、物質に縛りつける鎖を打ち立てる怠惰を克服する勇気と十分な意志力を持ち合わせていないからであり、これこそがあらゆる悪徳、あらゆる過ちの根源である。

30. しかし、人は、自分に与えられた力、すなわち「意志」という力を用いることを望まない。その意志こそが、無制限の立法者となり、最高指導者となり、理性に支えられて戦うべきものである。力対力、支配対支配の戦いであり、 一方には情熱と欲望、他方には理性と意志があり、後者が戦いに勝利し、あなたがたが解放されたと宣言できるまで。

31. そうしてこそ、あなた方は偉大な預言者、偉大な悟りを得た者、すなわち「超人」となり得るのだ。そうしてこそ、あなた方は野生の獣たちと共生し、爬虫類と戯れることができるようになる。まことに、私はあなた方に告げる。あなた方を重く圧迫している過ちこそが、あなた方の「小さな兄弟たち」を恐れる原因であり、また彼らがあなた方を襲う理由でもあるのだ。

32. しかし、あなたがたが時間をかけて人々を観察すれば、トラよりも獰猛で、コブラよりも毒を持つ人間がいることに気づくであろう。（203, 3-6）

IX 神の知恵の教え

第36章 – 信仰、真理、そして認識

すべてを克服する信仰

1. 弱さ、貧しさ、悲惨、そして情欲に打ち勝ち、疑いを払拭するためには、信仰と善行が不可欠である。これらは不可能を克服する美徳であり、それらを前

にすれば、困難や手の届かないものは影のように消え去る。

2. 私は「第二の時代」に私を信じた人々にこう言った。「あなたの信仰があなたを助けた。」私がそう説明したのは、信仰が癒しの力であり、変容をもたらす力であり、その光が闇を打ち消すからである。(20, 63-64)

3. 霊性からまだ遠い人々は、イエスの姿で私を見て、「主よ、私はあなたを信じます。なぜなら、あなたを見たからです」と言いたがる。彼らに私は言う。「見ずに信じた者は幸いである。彼らは、自らの霊性によって心の中で私を感じ取ったという証拠を示したからである。」(27, 75)

4. 私は、あなたがたに「信仰」とは何かを知ってほしい。そうすれば、信仰を持つ者は比類なき宝の持ち主であることを理解できるだろう。

5. この内なる光に照らされて生きる者は、たとえ世がどれほど貧しいと見なそうとも、決して疎外されたり、見捨てられたり、弱く感じたり、迷子になったりすることはない。 父への、人生への、自らの使命への、そして自分自身への信仰が、人生の闘いの中で決して彼を沈ませることはなく、さらに彼は常に、偉大で驚くべき業を成し遂げる能力を持つことになる。（136, 4-5）

6. 信仰とは、あなたがたが永遠という安全な港にたどり着くまで、人生の道を照らす灯台のようなものである。

7. 信仰は、今日一歩前進し、明日一歩後退するような、生ぬるく臆病な魂のものであってはならない。彼らは自らの苦痛と闘うことを望まず、ただ父の慈悲によってのみ、御霊の勝利を信じているのである。

8. 信仰とは、神が自分の中にいるという自覚を持ち、主を愛し、自分の中に主を感じ、隣人を愛することを喜びとする魂が感じるものである。 その父の正義に対する信仰はそれほど大きく、隣人が自分を愛してくれることを に期待したり、侮辱や過ちを許したりするのではなく、自らの功績によって浄化を達成したゆえに、明日には光に満たされると信じているのである。

9. 信仰を持つ者は、平安を持ち、愛を所有し、その内に慈愛を宿している。

10. その人は霊的に、そして物質的にも豊かである。しかし、それはあなたがたが考えているような富ではなく、真の富である。（263, 12-16）

11. さて、真の信仰が存在するという証拠を、今、あなた方に告げよう。試練の時、心が挫けないこと。最も危機的な瞬間に、平安が魂を満たすこと。

12. 信仰を持つ者は、私と調和している。なぜなら、私は命であり、健康であり、救いだからである。真にこの港とこの灯台

を求める者は、滅びることはない。

13. この徳を持つ者は、あらゆる人間の科学を超えた奇跡を行い、霊とより高い命について証しをする。（237、69-71）

神の真理の認識

14. 心が誠実さを抱き、知性が偏見や曖昧な考えから解放されているとき、人は人生をより深く感謝し、真理をより明瞭に認識する。一方、心に疑いや虚栄を抱き、知性に誤りを抱いていると、すべてが不明確に映り、光さえも闇のように見えてしまう。

15. 真理を求めなさい。それは命そのものである。しかし、愛と謙虚さと忍耐と信仰をもってそれを求めなさい。（88, 5-6）

16. 祈りなさい。祈りの中で父に問いかけてみなさい。そうすれば、瞑想の中で、わたしの無限の光の火花を受け取ることになるだろう。一瞬にして全真理を得られると期待してはならない。長い間真理を求め続け、探求し、あらゆる神秘の核心に迫ろうとしていながら、いまだに切望する目標に到達していない魂たちがいるのだ。

17. キリスト、すなわち油注がれた方は、「互いに愛し合いなさい」という言葉をもって、あなた方に道を示された。この崇高な戒めの深遠さを、あなた方は想像できるだろうか。もしあなた方がこの教えに従って生きれば、人々の生活全体が変容するだろう。愛こそが、神の神秘の真理をあなた方に明らかにすることができる。なぜなら、愛こそがあなた方の命と、すべての被造物の源だからである。

18. 熱心に真理を求め、人生の意味を求め、愛し、善において強くなれば、あなたがたの存在から、誤りや不誠実、不完全であったものが、一歩一歩、すべて取り除かれていくのを体験することになるでしょう。 日々、神の恵みの光に対してより敏感になっていけば、あなたがたは、知りたいこと、そして魂が至高の真理に到達するために必要とするすべてのことを、主ご自身に直接尋ねることができるようになるでしょう。（136, 40-42）

19. 私は、人々が私のもとへたどり着くことができなかったために、人々を訪ねていく「言葉」である。私が彼らに啓示するのは私の真理であり、その真理こそが、私の意志に従ってあなたがた全員が立ち入るべき王国だからである。

20. 私が、そのために多くの犠牲が必要であるとあらかじめ告げなければ、どうしてあなたがたは真理を見出すことができるだろうか。

21. 真理を見出すためには、時に、自分が所有するものを手放し、さらには自分自身さえも捨て去ることが必要となる。

22. 自己満足に浸る者、物質主義者、無関心な者は、自分が住んでいる壁を打ち壊さない限り、真理を見出すことはできない。私の光を直視するためには、その者が自分の情欲や弱さを克服することが必要である。（258, 44-47）

23. 真理を求める者は祝福される。なぜなら、その者は愛と光と善に渇いているからである。求めよ、そうすれば見いだすであろう。真理を求めよ、そうすれば真理はあなたのもとに来るであろう。 引き続き思索を深め、神の知恵の書に問いかけ続けなさい。そうすれば、それはあなたに答えてくれるだろう。なぜなら、父は、切実に問いかける者に対して、決して沈黙したり無関心であったりすることはないからである。

24. 書物や学者、あるいは様々な学問の中に真理を求める者たちのうち、どれほど多くの者が、最終的に自分自身の内面にそれを見出すことになろうか。なぜなら、私はすべての人間の最も内なる部分に、永遠の真理の種を植え付けたからである。（262, 36-37）

25. 私はあなた方を欺くことはできない！私は決して偽りの行いをすることはなく、闇の中に身を隠すこともない。私の真理は常に裸である。しかし、もし人々が私の霊の裸の姿を見ることができなかったとすれば、それは彼らがそう望まなかったからに他ならない。 私は、いかなる衣によっても、あなた方に私の真理を隠したりはしない。私の裸体は神聖であり、清らかであり、聖なるものであり、私はそれを宇宙のすべての存在に示そう。その象徴として、私は人間として裸でこの世に生まれ、また裸であなた方の元を去ったのだ。

26. 私は、私の民の間には常に真実が支配することを望む。なぜなら、私はあなたがたの真実の中にあり、これからも常にそこにいるからだ。私は、あなたがたの間には愛があることを望む。そして、私の愛は常にあなたがたの愛の中にあり続ける。

27. 真理はただ一つ、真の愛もただ一つである。もしこの真理とこの愛があなた方の中にあるならば、あなた方の愛と真理は私のものとなり、私の真理と愛はあなた方のものとなる。（327, 33-34）

28. わたしの光は、あらゆる霊の中にあります。今、あなたがたは、わたしの霊が人々に注がれる時の中にいます。それゆえ、わたしはあなたがたに告げます。まもなく、あなたがたは皆、わたしの臨在を感じるようになるでしょう――学者も無学な者も、偉大な者も小さな者も、権力者も貧しい者も。

29. 生ける真の神の真理を前にして、ある者もまたある者も、震え上がるであろう。（263, 33-34）

霊的かつ神聖なものへの認識

30. わが子らがわたしを忘れることはあり得ない。なぜなら、その魂の中には、遅かれ早かれわたしを認識せざるを得ない、わが霊の光である霊が宿っているからである。

31. ある者にとっては、私の言葉の意味を深く理解し、そこに光を見出すことは容易であるが、他の者にとっては、私の言葉は謎である。

32. 私はあなたがたに告げる。この時代において、すべての者が私のメッセージの霊性を理解できるわけではない。理解できない者たちは、その霊が私の啓示の光に目を開くことができるよう、新たな時代を待たなければならない。（36, 4-6）

33. もし私が、私の知恵はあなた方のものになると告げるとしたら――たった一つの地上の人生だけで、私があなた方に啓示しようとしているすべてを体験し尽くすことができると、あなた方は信じるだろうか。もし私が、長い発展の道を歩まずして人間の科学を習得することはできないと告げるとしたら、ましてや、魂の完全な発展なしに、霊的な認識を獲得することはなおさらできないのである。

34. 私は霊化を科学と対立するものとは見なさない。なぜなら、そのような誤りは人々の犯したものであり、決して私の犯したものではないからだ。それどころか、私はあなたがたに、霊的なものと物質的なもの、人間的なものと神聖なもの、儚いものと永遠なるものを調和させることを教えている。 それにもかかわらず、私はあなたがたにこう説く。人生の道を歩むためには、まず、霊が示す道を知らなければならない。その霊の法則は、神聖なる霊に由来するものである。（79, 38-39）

35. あなたがたは深く堕落し、霊的なものからあまりにも遠ざかってしまったため、霊に属するものでありながら完全に自然なものであるものを、すべて超自然的だと考えている。それゆえ、あなたがたは神聖なものを超自然的と呼び、同様に、あなたがたの霊に属するすべてのものをもそう見なしているが、それは誤りである。

36. その理由は、あなたがたが、感覚の範囲内、あるいは人間の知性の理解の範囲内にあるものしか見たり認識したりせず、感覚や理性の及ばないものを超自然的だと考えてきたからである。（273, 1）

37. 自然の中に知識の光を求める者も、霊的な啓示の中に私の知恵を求める者も、他の道では発見できないあらゆる真理を見出すその道を、自らの足で歩まなければならない。 まさにそれゆえに、私はあなたがたの魂を、この地上において次々と生を全うするよう送り出したのである。そうすることで、その成長

と経験に基づき、魂が自らの内にあるもの、そして周囲にあるものすべてを発見できるようにするためである。

38. もし望むなら、私の言葉を徹底的に吟味しなさい。しかしその後、その視点から人生を研究し、観察しなさい。そうすれば、私があなた方に語ったすべての言葉に含まれる真理を見出すことができるだろう。

39. 今日私が語る事柄と、かつて啓示された事柄との間に矛盾があるかのように思える機会もあるだろうが、そのような矛盾は存在しない。誤りに陥っているのは人間の方である。しかし今や、すべての者が光へと至るであろう。（105, 54-56）

霊的認識のための前提条件

40. 謙虚さは魂の光であり、それとは対照的に、謙虚さの欠如は魂の闇である。虚栄心は無知の産物である。知識によって偉大であり、徳によって尊敬される者は、真の謙虚さと霊的な謙遜さを備えている。（101, 61）

41. すべての悪しき考えをあなたから遠ざけ、高貴な考えを身にまとうがよい。幸福は物質的に所有するものではなく、精神的に認識するところにある。認識することとは、それを所有し、それに従って行動することである。

42. 真の知識を持つ者は、謙虚な心を持っている。彼は、ただ（地上の）すべてを知ろうと努め、理解できないものはすべて否定するだけの、地上の知恵を誇りとはしない。 霊感に満ちた知恵の光を内に宿す者は、それを待ち望むのと同様に、時が来れば啓示を受け取ることができる。自らを学者と称する者は多くいたが、日々、満ち溢れる光で輝いている太陽でさえ、彼らにとっては謎であった。

43. 多くの者が、すべてを知っていると信じてきたが、まことに、わたしはあなたに告げる。彼らの道を気づかぬうちに横切る一匹のアリでさえ、彼らにとっては測り知れない神秘を秘めているのである。

44. 人々は自然の多くの不思議を探求することができるだろうが、神の愛の道においてそれを行わない限り、彼らは魂の不死の命に内包された真の知恵には到達しないだろう。（139, 67-70）

人間に必要な意識の拡大

45. 私は初めから、人間に思考の自由を与えた。 しかし、人間は常に奴隷であった――時には狂信から、またある場合にはファラオや皇帝の誤った世界観の奴隷として。それゆえ、今や霊が獲得した自由と、その目に広がる輝きに直面して、この時代、人間は眩惑されているのである。なぜなら、その理性がまだこの自由に慣れていないからである。

46. 人間は、霊的なものに対する理解力を低下させてしまった。それゆえ、彼は狂信に陥り、曲がりくねった道を歩み、他者の意志の影のようになってしまった。

47. 彼は自由を失い、自分自身も、自らの思考も支配できなくなっていた。

48. しかし今や、光の時代が到来した。それは、あなたがたが鎖を断ち切り、翼を広げて、真理への渇望をもって無限へと自由に舞い上がるべき時である。（239, 4-7）

49. あなたがたが生きるこの世紀には、二つの側面がある。一つは知性の発展であり、もう一つは精神的な停滞である。

50. 実際、神の光は知性の能力に降り注いでおり、それゆえ、そこから私の偉大な霊感が生じ、その実りは人類を驚嘆させている。なぜなら、知性は今や自由と知識の拡大を渇望しているからだ。人間は自然の研究に没頭し、探求し、発見し、喜び、驚嘆するが、決して優柔不断になることはない。

51. しかし、霊的なもの、すなわち、彼にとって既知の物質の彼方にある真理との関係を明らかにしようという考えが彼の中に湧き上がるたびに、彼は恐れを抱き、未知の世界、彼が禁じられていると考えるもの、そして（彼の考えによれば）高貴で、神の神秘を探求するにふさわしい存在にのみ許されるものへと踏み込むことを恐れる。

52. そこで彼は、自分を縛りつける偏見を意志の力で克服することができない、弱く愚かな存在であることを露呈した。そこで、彼が歪んだ解釈の奴隷であることが明らかになったのである。

53. 人間の知性が精神的な次元でも発展しない限り、その開花は決して完全なものにはならない。あなたがたは地上の生活に関する認識にのみ専念してきたがゆえに、自分の魂がいかに遅れているかを悟れ。

54. 人間は他者の意志の奴隷であり、呪い、非難、脅迫の犠牲者である。しかし、それによって何を得たというのか？それは、人間が持つべき最高知識を理解し、獲得するというすべての願望を放棄すること、そして、人間が不条理にも常に秘密だと考えてきたもの、すなわち霊的生活を解明することを自ら妨げることである。

55. 人間にとって、地上の魂の生活は永遠に謎であり続けるとお考えか。もしそうお考えなら、あなた方は大きな誤りに陥っている。 まことに、私はあなた方に告げる。あなたがたが自らの起源を知らず、霊に関わる事柄について何も知らない限り、科学がいかに進歩しようとも、あなたがたは依然として、植物や動物に囲まれた貧しい世界に棲む、単なる被造物に過ぎない

。あなたがたはこれからも戦争で互いに戦い続け、あなたがたの人生はこれからも苦痛に支配され続けるだろう。

56. もしあなたがたが、自らの本質の中に何を抱えているかを見出さず、また隣人の中に、すべての人の中に宿る霊的な兄弟を見出さないのであれば――果たして、本当に互いを愛することができるだろうか？　いいえ、人の子らよ、たとえあなたがたが、わたしを知り、わたしに従っていると言っても。もしあなたがたがわたしの教えを表面的にしか理解しないならば、あなたがたの信仰も、認識も、愛も、誤ったものとなるだろう。(271, 39-45)

57. 人々は、わたしの中に、無知という重荷から自らを解放する勇気を見出すだろう。

58. 人生の前提であり、源であり、基盤である霊的な知識を持たない人々が、どうして地上に平和が訪れ、戦争が終わり、人々が生まれ変わり、罪が減少することを期待できようか。

59. まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの真理を理解せず、従わない限り、あなたがたの地上の存在は、流砂の上に建てられた建物のようなものとなるだろう。（273, 24-26）

60. わたしは人々に言う。人は自分自身を知らない。なぜなら、人は自分の内面に入り込んでいないからであり、自分の秘密を知らないからであり、自分の真の本質を知らないからである。 しかし、私は今この時、長い間彼にとって閉ざされていた、すべての秘密が収められている書物の内容を彼に教えよう。私はすでに「第二の時代」において、私の霊の光をもって、あなたがたにその秘密を明らかにすると約束したのだ。

61. 今、あなたがたは真に自分自身を知り、自らの精神の内奥へと入り込むことになる。そうして初めて、自分が何者であるかを知り始めたと言えるようになるだろう。

62. 人は、自らの起源、使命、役割、能力、そして、その周囲で生き、織りなされている、その無限で永遠の命のすべてを知るようになる。 もはや隣人を傷つけることはできず、同胞の存在を脅かすこともできず、また、自分を取り巻くあらゆるものを冒涜することさえも敢えてしなくなるだろう。なぜなら、万物が神聖であるという認識に至ったからである。

63. 人は、自分の魂が内包し、秘めているものを認識するようになる。そして、魂が素晴らしいものである以上、父が永遠の彼のために用意してくださった住まいもまた素晴らしいに違いない、という明確な認識と深い信仰を持つようになる。（287, 4-6）

第37章 – 聖書のテキストの正しい理解

聖書の言葉と約束の解釈

1. 人々は旧約聖書の研究に没頭し、預言や の約束を調査し解釈することに頭を悩ませてきた。私の教えの霊的な意味を見出した者たちこそが、真理に最も近づいている。 なぜなら、地上的・物質的な解釈に固執し、私の啓示の霊的な意味を理解しようとしない、あるいは見出そうとしない人々は、ユダヤ民族が経験したような混乱と失望を味わうことになるだろう。ユダヤ民族は、現実が示した姿とは異なる形でメシアを想像し、期待していたが、実際に来たメシアは彼らの想像とは異なっていたのだ。（13, 50）

2. 初期の頃、人間が私の正義について抱いていた誤った観念は、その真の認識に道を譲るために、ついに消え去るだろう。神の正義は、やがて、あなたがたの父の中に存在する完全な愛から湧き出る光として理解されるようになる。

3. 人々が復讐心に満ち、残酷で、恨み深く、容赦のない存在だと考えていたあの神は、心の底から、子供たちによる侮辱に対して赦しを与える父として、罪人を愛をもって説得する父として、重大な過ちを犯した者を断罪するのではなく、救いの新たな機会を与える裁判官として、感じられるようになるだろう。

4. 人々は、怒りなどというものが単なる人間の弱さに過ぎないにもかかわらず、私が怒りを感じることができると信じていたため、その無知ゆえに、私にどれほどの不完全さを帰しただろうか！預言者たちが「主の聖なる怒り」について語ったとき、今、私はあなたがたに、その表現を神の正義として解釈すべきだと告げる。

5. 「初期の時代」の人々は、それ以外の表現方法では理解できなかっただろう。また、もし預言者たちがそのような形で語らなかったならば、放蕩者や好色者たちは預言者たちの警告を真剣に受け止めなかったであろう。 私の使徒たちの霊感は、精神的な発達がまだ未熟であった当時の人々の脳と心に響くような言葉で表現される必要があったのだ。（104, 11-14）

6. 「初期」の書物は、イスラエルの民の歴史を伝え、その子らの名、功績と過ち、信仰による行いと弱さ、栄光と没落を保存した。それは、この書物が、神を崇めるその民の発展について、あらゆる新しい世代に語りかけるためであった。 その書物は、徳と正義を愛し、信仰の強さの模範であった先祖たちの名だけでなく、主がご自身の民が危機の瀬戸際に立たされているのをご覧になった際、常にその口を通して語られた預言者たち

、すなわち未来を見通す者たちの名も伝えている。 また、その書は、堕落した者、裏切り者、不従順な者たちの名も伝えている。なぜなら、あらゆる出来事、あらゆる事例は教訓であり、時には象徴だからである。

7. 私がイエスとして人々の間に住んでいた時、私は、必要である場合にのみ、それらの書物の本質、それらの著作の真意を用いて、私の教えを伝えた。物質的なものや中身のないものを、私は決して称賛しなかった。私が義人アベルに言及し、ヨブの忍耐を称え、ソロモンの知恵と栄光を思い起こしたことを、覚えていないのか。 私は多くの機会にアブラハムを想起し、預言者たちについて語り、またモーセに言及して、私が来たのは彼が受けた律法を廃止するためではなく、それを成就するためであると、あなた方に告げなかったか。（102, 31-32）

8. あなたがたは、私があらゆる時代に与えてきた神の啓示を研究し、あなたがたに語られた比喩的な言葉を理解し、そのようにして霊的な感覚を研ぎ澄まさなければならない。そうしてこそ、何が神の言葉であり、何が人の言葉であるかを認識し、私の教えの真意を見出すことができるのだ。

9. 霊的な観点からでなければ、あなたがたは私の言葉の正しく真実な解釈を見出すことはできないだろう――私が預言者たちを通して送ったものも、イエスを通して遺したものでも、あるいは「第三の時代」の代弁者たちを通じて与えているこの言葉も、すべてそうである。

10. この人類が、律法、教え、預言、そして啓示の真の意味を見出したとき、自らの存在に関して最も美しく、最も深遠なものを発見することになるだろう。

11. そうして初めて、人々は真の正義を知り、その心は真の天国を予感するようになる。その時、あなたがたは贖罪、浄化、そして償いとは何かを知るようになるだろう。（322, 39-42）

12. 過去の時代の聖典は、私が今日、あなた方のために繰り返していることを明らかにしてくれたはずである。しかし、人間は私の真理を改ざんし、歪めて広めることを敢えてした。その結果、今やあなた方は、精神的に病み、疲れ果て、孤独な人類を目の当たりにしている。

13. それゆえ、私があなたがたが混乱に陥ることを望まないからこそ、私の目覚めの呼びかけが、声の伝達者を通じて聞こえるのである。（221、14-15）

14. 「第二の時代」において、私の言葉をあなた方に遺した弟子たちの書物が、改ざんされた形であなた方の手に渡ったとしても、私は、あなた方がイエスの真の言葉がどれであるかを認識できるように導くであろう。あなた方の霊は、私の愛という

神聖な調和と一致しないものを、偽りであると見抜くであろう。（24, 19）

15. 人間は、霊の光である私の啓示なしに存在したことは決してない。しかし、人間はそれを深く探求することを恐れてきた。さて、私はあなた方に問う。もしあなたがたが執拗に霊的なものを避けているならば、真理や永遠なるものについて、一体何を知ることができるというのか。

16. 第一の「時代」と第二の「時代」における私の啓示が、ただ神聖なものと霊的なものについて語っているにもかかわらず、あなたがたがそれらに与えた物質主義的な解釈を見よ。あなたがたがいかに物質的な性質と霊的な性質を混同しているか、いかに敬意を欠いて、深遠なものを表面的なものへと、高きものを低きものへと変えてしまっているかを見よ。 しかし、なぜあなたがたはそうしたのか。それは、神の業において何かを成し遂げたいという渇望から、私の教えを、あなたがたが最も大切にしているこの世の生活や人間の安楽に合わせてしまうような方法を探しているからだ。（281, 18-19）

17. この時代において、私は、「第二の時代」にあなたがたに与えた教え――多くの人々が理解できず、また他の人々が忘れてしまった教え――が、すべての人によって理解され、さらに私の新しい教えに基づいて実践されるようにする。（92, 12）

18. 私の聖霊の光があなた方の上に降り注いでいる。それなのに、なぜ私を鳩の姿で表現するのか。私の新しい弟子たちは、もはやそのような像や象徴を崇拝してはならない。

19. 民よ、私の教えを理解せよ。「第二の時代」において、イエスの洗礼の際に私の聖霊が鳩の姿で現れたのは、この鳥の飛翔が聖霊の吹き渡る様子に似ており、その白さは清らかさを表し、その穏やかで優しい眼差しには無垢の輝きが宿っているからである。

20. もし、彼らがこの世で知っている存在の姿を借りなければ、どうしてあの無学な人々に神聖なものを理解させることができただろうか。

21. 今この瞬間にあなた方に語りかけているキリストは、子羊によって表され、ヨハネ自身も、その預言的な幻視の中で、私をそのように見た。これらすべては、あなたがたが私のあらゆる業の中に私を求めれば、全創造物の中に常に、命の創造主の姿を見出すことになる、ということに帰着する。（8, 1-3）

22.

かつて、私は、金持ちの守銭奴が天の国に入るよりは、ラクダが針の穴を通る方がまだ容易だと、あなた方に語った。 今日、私はあなたがたにこう告げる。それらの心は、自己中心から解

き放たれ、隣人に対して実践的な愛を行わなければならない。そうしてこそ、その魂は救いの狭い道を通り抜けることができるのだ。所有物や財産から解き放たれる必要はなく、ただ利己主義から解き放たれればよいのである。（62，65）

23. 私は今、かつて弟子たちがソロモンの神殿を感嘆の眼差しで見つめていた時に、「まことに、あなたがたに告げる。この神殿は、石一つ残らず取り壊されるだろう。しかし、私は三日でそれを再建する」と語った、あの神殿を再建している。

24. 私が言いたかったのは、どんなに人々に華やかに見えても、あらゆる外的な礼拝は人々の心から消え去り、その代わりに、私が私の神性 の真の、霊的な神殿を築き上げるということである。今こそ「第三の時代」、すなわち、私が神殿の再建を完了する第三の日である。（79，4）

25. 神には形がない。もし形があったなら、神は人間のように有限な存在となり、そうなれば神ではなくなってしまうからである。

26. 神の「玉座」とは、完全性、正義、愛、知恵、創造力、そして永遠である。

27. 「天国」とは、魂が完成への道において、知恵と愛によってこれほどまでに高みへと昇り、もはやいかなる罪も苦痛も及ばないほどの清らかさを獲得したときに到達する、至高の至福である。

28. 私の預言者たちが霊的な生活について語るとき、彼らは時に人間の姿や、あなたがたに馴染みのある物を通じてそれを表現した。

29. 預言者たちは、地上の王たちの玉座のようなもの、書物、人間の姿をした存在、壁掛けのある宮殿、燭台、子羊、そしてその他多くの姿を目にした。 しかし今日、あなたがたは、これらすべてが単なる象徴、神聖な意味、啓示を包み込んだものに過ぎないことを理解しなければならない。あなたがたは、それ以外の、より高次なものを理解することができなかったため、それらは比喩的な形で表現されなければならなかったのだ。

30. 今こそ、私が象徴を用いてあなた方に啓示したすべてのたとえや教えの真意を正しく解釈し、その意味があなた方の精神に浸透して、象徴的な形が消え去る時が来た。

31. あなたがたがこの認識に至るとき、その信仰は真実なものとなる。なぜなら、その信仰は真実に基づいているからである。（326，37-42）

32. もし、招かれた者たちが皆、魂を養う食事が供されている主の食卓へと急いで向かったならば、そこは満席となるだろう。しかし、招かれた者たちのすべてが来たわけではない。

33. 神の恵みを感謝しないのは人間の本性であり、それゆえ、あなたがたが彼らに呼びかけをしたとき、多くの同胞があなたたちを拒絶するのを見てきたのである。

34. しかし、わたしはあなたがたに告げる。わたしの食卓に着き、わたしから学ぶために熱心に耳を傾けるこのわずかな者たちが、まさに、終わりを迎えつつある世界を再建し、より輝かしく高みへと導くこの教えの真髄、すなわちわたしの言葉の偉大さを、大衆に広める者となるであろう。（285, 33 35）

使徒ヨハネによるイエスの啓示

35. すべては、神の中にあり、使徒であり預言者であるヨハネによって人類にその存在が明らかにされた「七つの封印の書」に記されている。

36. その書物の内容は、神の子羊のみがあなた方に啓示したものである。なぜなら、地上にも天にも、神の愛と命と正義の深遠な神秘をあなた方に説明できる義なる霊は存在しなかったからである。しかし、キリストである神の子羊は、その子らにその内容を啓示するために、命の書を封じていた封印を解いた。（62, 30）

37. ヨハネの黙示録が、ある者たちからは解き明かせない神秘と見なされ、またある者たちからは誤った解釈で捉えられてきたのは、人類がそこに描かれていることを理解するために必要な霊的成熟をまだ得ていないからに他ならない。そして、私はあなたがたにこうも言っておくが、それは、その啓示を受けた預言者自身でさえも理解していなかったのだ。

38. ヨハネは聞き、また見た。そして、それを書き記すよう命じられたと知ると、直ちに従った。しかし、彼は、そのメッセージが、彼のずっと後に来る人々に向けられたものであることを理解していた。（27, 80-81）

39. 人々はいつ、わが愛する弟子が書き残したものに注意を向けるようになるのだろうか。その啓示が記されている様式は奇妙であり、その意味は神秘的であり、その言葉は計り知れないほど深遠である。果たして誰がそれを理解できるだろうか。

40. ヨハネの黙示録に関心を持ち始めた人々は、それに没頭し、解釈し、観察し、研究する。ある者は真実に少し近づくが、ある者は黙示録の真意を発見したと思い込み、それを全世界に宣言する。またある者は混乱したり、さらに探求するには疲れすぎてしまい、ついにはそのメッセージからあらゆる神聖な意味を否定してしまう。

41. 「第三の時代」の弟子たちよ、今、私はあなた方に告げる。もしあなたがたが、この聖域に入り、それらの啓示の真の意

味を知りたいと心から願うならば、霊から霊への祈り――すなわち、ヨハネが流刑の地で実践したまさにその祈り――に親しむ必要があるのだ。

42. まず、神の啓示は、たとえ地上の姿やイメージによって表現されているとしても、全体として人間の魂、その発展、葛藤、誘惑と転落、冒涜と不従順について語っていることを理解しなければならない。 それは、私の正義、私の知恵、私の王国、私の愛の証し、そして人間との交わり、彼らの目覚め、再生、そして最終的には彼らの霊化について語っているのだ。

43. そこで私は、あなたがたが魂の発達をよりよく理解できるよう、人類の霊的な人生の旅を、時代ごとに区分して啓示した。

44. さて、弟子たちよ、この啓示はあなたがたの霊的生活に関わるものであるから、霊的な観点からこれを研究し、考察するのがふさわしい。なぜなら、もしあなたがたがこれを地上の出来事だけに基づいて解釈しようとすれば、他の多くの人々と同様に混乱に陥ることになるからである。

45. 確かに、多くの地上の出来事は、その啓示の成就に関連しており、今後もそうなるだろう。 しかし、あなたがたは知っておくべきである。そこに含まれる出来事や徴は、また、あなたがたが私の真理を理解し、魂の清らかさの道を通じて私のもとへと昇るという、あなたがたの使命を果たす助けとなるべき姿、象徴、そして例えでもあるのだ。私の弟子ヨハネは、主との霊と霊の対話において人類より数千年も先を行き、その輝かしい模範をあなたがたに残してくれたのである。（309, 47-51）

第38章 – 三つの啓示の時代と七つの封印の時代

神の啓示の発展的依存性

1. 私が人類の発展を区分した三つの時代すべてにおいて、私は私の光をもって、魂の昇華のための同じ真っ直ぐで狭い道、すなわち愛と真実と正義の唯一の道を、あなた方に示してきた。

2. 私は、教えから教えへ、啓示から啓示へとあなた方を導いてきた。そして今、この時が来て、私はあなた方に、すでに霊と霊とで私と結びつくことができると告げている。もし人類が「最初の時代」に、このように結びつくことができただろうか？ – いいえ、人類は、神聖なものと霊的なものを身近に感じられるように、物質的な崇拝、儀式や典礼、伝統的な祭事や象徴に頼らざるを得なかったのです。 霊的なものに近づき、神聖な高みへと昇り、より深層にあるものを認識し、神秘を解き明かすことができなかったというこ

の無力さから、様々な宗教が生まれた。それらはそれぞれ、人々の霊的な未熟さや進歩の度合いに応じて存在し、あるものは他よりも真理に傾倒し、あるものは他よりも霊的であったが、すべてが同じ目標に向かって進んでいた。 それは、何世紀にもわたる時代の中で魂たちが辿る道であり、様々な宗教が指し示す道である。中には極めてゆっくりとしか前進しなかった者もいれば、立ち止まってしまった者もおり、また道を踏み外して自らを汚してしまった者もいる。（12, 92-93）

3. 今日、私は霊としてやって来る。まことに、あなたがたに告げる。かつては今日よりも私があなたがたに近かったと考える者もいる。彼らは間違っている。なぜなら、私が訪れるたびに、ますますあなたがたに近づいてきたからである。

4. 覚えておきなさい。「第一の時代」に、私は山の上に座し、そこから石に刻まれた私の律法をあなたがたに下したのだ。「第二の時代」には、私は山の高みから離れ、あなたがたの谷へと降りて、人間となってあなたがたの中に住んだ。そして現代において、私はあなたがたにさらに近づくために、あなたがたの心を私の住まいとし、そこで自らを現し、その内側から人々に語りかけている。（3, 31）

5. 今、あなたがたは、私が神の啓示を三つの大きな時代区分に分けましたことを理解している。

6. それは人類の霊的な幼年期のことだった。父は彼らに律法を与え、新しい時代への門を開くメシアを約束された。

7. そのメシアとは、人々が霊的な青年期にあった時に人々のところへ来られたキリストである。キリストは、人々が以前父から授かったものの、その守り方を理解できなかった律法を、より高次な方法で守る道を人々に教えた。 神の「御言葉」はイエスの口を通して語られた。それゆえ、私はあなたがたに言う。完全なる師の愛の教えを通して、世界は引き続き父の御声と戒めを聞き取っていたのだ。

8. イエスは、人々に「真理の霊」を送り、その教えの中で理解できなかったすべてのことを彼らに悟らせることを約束した。

9. さて、愛する民よ――今、あなたがたが耳にしているこの簡素で謙虚な言葉こそが、「真理の霊」の声であり、あなたがたの本質に注がれる神の霊的な光である。それは、あなたがたが新しい時代に向けて目を開くためのものである。 この光は、主のすべての啓示をあなたがたに次第にはっきりと理解させるものであり、それはあなたがたの父である聖霊の光である。聖霊は、人類がより高い霊的発展段階、すなわち、神の啓示を理解するために成人期に近づく時

期に、人類を訪れてくれるのである。
10. この光があなた方に啓示するすべてのものにおいて、あなた方は父の教えを受けることになる。なぜなら、「御言葉」は私の中にあり、聖霊は私自身の知恵だからである。（132, 10-15）
11. かつて、私はこのようにあなた方に語りかけなかった。「第一の時代」には、律法が人間の魂を照らした。「第二の時代」には、キリストが愛の光によって人の心を照らした。今日、聖霊の光があなた方の魂を照らし、それをあらゆる人間的なものより高みへと引き上げている。
12. あなたがたは、この三つのメッセージを、ただひとりの神から受け取ったのである。そして、そのすべての間には一つの時代が過ぎ去った――それは、魂が新しいメッセージ、すなわち新しい教えを受け入れることができるようになるために必要な、魂の発展のための時間であった。
13. 今、あなたがたは、なぜ私があなたがたを「聖霊の弟子たち」と呼んだのかを理解できるだろう。（229, 50-52）
14. もし私が最初の啓示においてすべてを語っていたならば、師であるメシアが新たな教えを説く必要も、またこの時代に聖霊が訪れて霊的生活の栄光を示す必要もなかっただろう。
15. それゆえ、私はあなたがたに言う。かつて啓示されたことを、あたかもそれが私の教えの最終的な言葉であるかのように固執してはならない。
16. 私は再び人々のところへ来た。長い間、私は彼らの知性を通して自らを明らかにしてきたが、それでもなお、私の最後の言葉はまだ語られていないと、私はあなた方に告げることができる。
17. あなたがたが真に私の弟子となるために、私の知恵の書の中で、常に最後の言葉、すなわち、以前に与えられたものの真意や内容を明らかにする新たなページを探し求めなさい。（149, 44-45）

神の三つの遺言

18. モーセ、イエス、そしてエリヤ――これこそが、主が人間を平和と光と完全の王国へと昇華させるために示された道である。
19. あなた方の生活の中で、主の使徒たちの存在を感じなさい。彼らの中に死んだ者は一人もいない。彼らは皆、道に迷った人々の道を照らし、彼らが転んだところから立ち上がるのを助け、また、罪の償いという試練に愛をもって取り組めるよう彼らを強めるために生きているのだ。
20. モーセがエホバの霊感によって地上で成し遂げた業を認識せよ。「神の言葉」が語られた

イエスの教えを深く探究し、エリヤの時代によって象徴される、わたしの新しい啓示の霊的な意味を求めよ。（29, 20, 22）

21. 「第二の時代」において、私が人間として生まれたことが一つの奇跡であり、肉体の死後の霊的な復活がさらなる奇跡であったならば――まことに、私はあなたがたに言う――この時代における、人間の知性を通じた私の啓示は、霊的な奇跡である。

22. この時代において、私の預言は最後の一つに至るまで成就するであろう。私は、一つのものとなる三つの遺言をあなたがたに残す。

23. かつて父を愛、犠牲、そして赦しとして知っていた者は、この時代に父を完全に知るべきである。そうして、父の正義を恐れるのではなく、父を愛し、崇めるようになるためである。

24. もしあなたがたが「最初の時代」に律法に固執していたとすれば、それは神の正義があなたがたを懲らしめるのではないかと恐れたからであった。それゆえ、私はあなたがたに「私の言葉」を送った。それは、神が愛であることをあなたがたに悟らせるためであった。

25. 今日、私の光があなた方の元に来るのは、あなた方が迷うことなく、私の律法に忠実に従って道の終着点に到達できるようにするためである。（4, 43-47）

26. わたしの新しい教えは、「第二の時代」にあなたがたに与えた教えを裏付けるものであるが、それらはさらに広範なものである。よく考えてみよ。当時、わたしは人々の心に語りかけたが、今や、わたしは霊に語りかけているのだ。

27. 私は、過去にあなたがたに与えた私の言葉のどれ一つとして否定するものではない。それどころか、私はそれらにふさわしい成就と正しい解釈を与えている。同様に、当時、イエスが律法を破壊しようとしていると信じていたパリサイ人たちに、私はこう言った。「私が律法や預言を廃止するために来たと思うな。それどころか、私はそれらを成就するために来たのだ。」 それらが、三つの時代を通じて人々の心に築かれねばならなかった神殿の礎であり、また、私がこの世に来るという予告である以上、どうして私がその律法や預言を否定できようか。（99, 24-25）

28. 今日、わたしは再びあなたがたに言う。「わたしは道であり、真理であり、命である」。もしあなたがたがこの時代にわたしの言葉の真意を求めるなら、その中に愛の永遠の律法、すなわち、わたしが地上であなたがたに示したまさにその道を見出すであろう。

29. 当時、多くの人々は、キリストが道を誤り、律法を歪めたと信じていた。それゆえ、彼ら

はキリストに敵対し、迫害した。しかし、真理は、太陽の光が闇に打ち勝つように、常に勝利を収めるのである。 今、私の言葉は再び攻撃を受けるだろう。なぜなら、その真意の中に矛盾や不明瞭さ、誤りを見出していると信じる者たちがいるからだ。しかし、その光は再びこの時代の闇の中に輝き、人類は、私があなた方に啓示した道と律法が、あの時代と同じであり、そして永遠にそうあり続けることを悟るだろう。（56, 69 70）

30. この教えは永遠の命への道である。この教えの中に高揚する力と完全性を見出す者は皆、私が地上にいた時にあなたがたに教えた教えとこれを結びつけることを理解するだろう。なぜなら、その本質は同じだからである。

31. 私の教えに含まれる真理を見出すことができない者は、この教えがイエスの教えと同じ目標へと導かないとさえ断言するかもしれない。誤った解釈によって惑わされたり、宗教的狂信によって混乱させられたりした魂たちは、これらの啓示の真理をすぐには理解できないだろう。 彼らは、互いに愛し合うことを教える私の戒めを理解し、果たすことを妨げる地上の心構えから解放されるために、試練の道を歩まなければならない。（83, 42-43）

32. 多くの人々は、この教えは新しいものである、あるいは過去に与えられた神の啓示とは無関係であると主張するだろうが、それは無駄なことだ。私は、この時代に人間の知性を通じて私が語ったすべてのことは、第一の時代と第二の時代にすでに預言として告げられた事柄にその根源と基礎があることを、あなた方に保証する。

33. しかし、私があなたがたに語っているこの混乱は、かつてそれらの啓示を解釈した者たちが、人々に自分たちの解釈を押し付けたことに起因する。それらの解釈は、一部は正しかったが、一部は誤っていた。また、私の教えが持つ霊的な光が人々から隠され、時には歪められた形で伝えられたことにも起因する。 それゆえ、今日、私の光が、あなたがたの無知という闇からあなたがたを解放する時が来たにもかかわらず、多くの人々は、それが真実の光であるとは認めようとしません。なぜなら、彼らの考えでは、それは私が以前あなたがたに教えたことと一致しないからです。

34. 私は、私の言葉は一つも失われることはなく、この時代の人々は、私がかつて実際にあなた方に語ったことを知ることになる、と保証する。その時、世界がスピリチュアリズムを知るようになれば、人々はこう言うだろう。「確かに、これらすべてはイエスがすでに語っていたことだ！」と。

35. 実際、私はすでにすべてを語ったのである。たとえ、啓示された真理の多くについて、その基本原理のみを告げたに過ぎなかったとしても。私は、あなたがたが徐々にそれを理解できるようになるために、それらを残したのである。なぜなら、当時、人類はまだ、私が今、その全容を示しているすべてのことを理解する能力を持っていなかったからである。（155, 24-27）

第三の時代

36. これが「第三の時代」であり、私はこの時代に、人類を霊的に一つにするべき教訓をあなた方に授けた。なぜなら、言語や人種、様々なイデオロギーが、もはや人類の団結の妨げとなってはならないというのが、私の意志だからである。 私が霊を創造した霊的な本質は、すべての人々が持つものと同じであり、人々の血管を流れる血液を構成する物質も、すべての人において同じである。それゆえ、すべての人は等しく、私を受けるにふさわしいものであり、私はすべての人のために再び来たのである。（95, 9）

37. 人間の生活が経験する変化は、あまりにも大きなものとなるため、あなた方にとっては、ある世界が終わり、別の世界が誕生しているかのように思えるだろう。

38. いつの時代も、人間の生活は時代や時代区分に分けられ、それぞれの時代は何かによって特徴づけられてきた――それが発見であれ、受けた神の啓示であれ、人間が「芸術」と呼ぶ美の領域における発展であれ、あるいは科学であれ ―今まさに始まろうとしている な時代、すでに新たな夜明けのように幕を開けつつあるこの時代は、霊的賜物の開花によって特徴づけられることになるだろう。それは、あなたがたがこれほど多くの災いを免れるために育むべきであった、しかし常に後回しにしてきた、あなたがたの存在のその側面である。

39. 人間が霊性を育み、霊的賜物を開花させ、この世において良心が示す法則を施行するならば、人間の生活は完全に変容し得るとは思わないか。

40. まもなく、すべての民族は、神がどの時代においても彼らに語りかけてこられたこと、そして神の啓示こそが、人々が神のもとへと昇りつめることができるよう、主が人々に下された梯子であったことを理解するようになるだろう。

41. この新しい時代を、ある者は「光の時代」と呼び、ある者は「聖霊の時代」と呼び、またある者は「真理の時代」と呼ぶだろう。しかし、私はあなたがたに告げる。それは、魂の向上、霊的な回復、そして取り戻しの時代となるのだ。

42. これは、私がかねてより人々の心の中に生き続けることを願ってきたが、人々自身によって絶えず抵抗され、破壊されてきた時代である。その輝きは万人に見られ、その光の下で主のすべての子供たちが一つとなる時代である。 ある者を受け入れ、他の者を拒絶し、自らの真理を大々的に宣伝しながら他者の真理を否定し、自己主張のために不適切な手段を用い、あるいは光の代わりに闇をもたらすような、人間の宗教共同体としてではない。（135, 53-54, 57-59）

43. これこそが、人間の魂が物質主義の鎖から自らを解き放たなければならない「第三の時代」である。これに伴い、人類の歴史がこれまで経験したことのないほど激しい世界観の争いがもたらされるだろう。

44. 堕落、利己主義、傲慢、悪徳、嘘、そしてあなた方の生活を覆い隠してきたあらゆるものは、砕けた偶像のように、それらを崇拝していた者たちの足元に倒れ、謙虚さに道を譲ることになる。（295, 64-65）

救いの歴史における七つの時代

45. 世界におけるこれらの霊的発展段階の第一は、父の最初の僕であり、神に全焼のいけにえを捧げたアベルによって象徴される。彼は犠牲の象徴である。嫉妬が彼に立ち向かった。

46. 第二の段階はノアによって象徴される。彼は信仰の象徴である。彼は神の霊感に基づき箱舟を建造し、人々を救うためにその中へ導いた。彼に対しては、疑念、嘲笑、そして異教的な心持ちを持った群衆が立ちはだかった。しかし、ノアは信仰の種を残した。

47. 第三の時代はヤコブによって象徴されている。彼は力を体現しており、強き者イスラエルそのものである。彼は霊的に天の梯子を見上げた。それは、あなたがた全員が「創造主の右の座に着く」ために登る梯子である。主の御使いは、彼の力と忍耐力を試すために、彼に立ち向かった。

48. 第四の時代はモーセによって象徴され、彼は律法を体現している。彼は、あらゆる時代の人々のために律法が記された石板を示している。計り知れない信仰をもって民を解放し、救いの道を通って約束の地へと導いたのは彼であった。彼は律法の象徴である。

49. 第五の時代は、イエス、すなわち「神の言葉」、「汚れなき小羊」によって表される。彼は、あらゆる時代にあなた方に語りかけ、これからも語りかけ続ける存在である。彼は愛そのものであり、その愛のために人間となり、この世に生きた。 彼は人間界の苦しみを自ら味わい

、人類がすべての罪からの贖いを得るべき、犠牲と愛と慈悲の道を示しました。彼は師として来られ、たとえ貧しい身の上であっても、いかに愛をもって生き、自己犠牲に至るまで歩み、愛し、赦し、祝福して死ぬかを教えました。 彼は第五の段階を体現しており、その象徴は愛である。

50. 第六の時代はエリヤが象徴する。彼は聖霊の象徴である。彼は「火の車」に乗ってやって来て、すべての国々、そしてあなたがたには知られていないが、私がすべての世界とすべての被造物の父であるゆえに私に知られているすべての世界に光をもたらす。 これが、あなたがたが現在生きている段階、すなわちエリヤの段階である。あなたがたを照らしているのは、彼の光である。彼は、かつて隠されていたが、この時代に人々に明らかにされる教えの代表者である。

51. 第七の時代は、父ご自身が体現される。それは最終目標であり、発展の頂点である。そこには恵みの時、すなわち第七の封印がある。

52. これで、七つの封印の秘密は解かれた。それゆえ、私はあなたがたに、現在の時代が第六の封印を含んでいると告げるのである。なぜなら、そのうち五つはすでに過ぎ去り、第六は今や解かれ、第七はまだ封印されたままであり、その内容はまだ到来しておらず、この段階があなたがたのもとに訪れる時がまだ来ていないからである。 それが到来すれば、恵みと完全さと平和が支配するだろう。しかし、そこに到達するために――人は、自らの魂を清めるために、まだどれほどの涙を流さなければならないことか！（161, 54-61）

53. 『七つの封印の書』とは、あなた方の人生の物語であり、地上におけるあなた方の成長の物語である。そこにはあらゆる闘争、苦難、葛藤、そして最終的には、善と な正義、愛、そして霊性による、物質主義の情熱に対する勝利が記されている。

54. すべてが霊的かつ永遠の目的に向かっていることを真に信じなさい。そうすれば、それぞれの教訓に、それに見合うべき正しい位置を与えることができるだろう。

55. 第六の封印の光があなた方を照らしている間は、それは葛藤と、放棄と、浄化の時となるだろう。しかし、その時が過ぎ去れば、あなた方は新たな時代を迎え、第七の封印が新たな啓示をもたらすことになる。清く、準備が整っていると認められた者の魂は、いかに満足し、幸福に満ちて、その新しい時代を受け入れることだろう。 第六の封印があなた方を照らしている間、肉体と魂は浄化される。（13, 53-55）

56. 天で封印されていた書物は、第六章において開かれた。それは七つの封印の書であり、知恵と裁きを含んでおり、あなたがたへの私の愛ゆえに封印が解かれ、その深遠な教えが明らかにされたのである。

57. 人間は、神の霊の息吹に励まされ、五つの時代を通じて地上に生きてきた。それにもかかわらず、彼は人生の霊的な意味、存在の目的、その使命、そして本質を理解することはなかった。 すべては、その理性にとっても魂にとっても、解き明かせない謎であり、その内容を解釈することのできない封印された書物であった。

58. 人間は霊的な生活を漠然と予感していたが、存在を神に近づける発展の階段を真に知ることはなかった。 彼は、この地上における自らの極めて崇高な使命を知らず、また、闘いに勝利し、人間の苦難を超越し、永遠の光の中に住むために魂を完成させるために、自らの精神に備わっている美徳や賜物についても知らなかった。

59. 神の書が開かれ、人々がその内容を見つめることが必要であった。そうしてこそ、世にあるあらゆる悪の根源である無知の闇から自らを救うことができるのである。 一体誰がこの書を開くことができたのか？神学者か、科学者か、あるいは哲学者か？いいえ、誰も、義なる魂たちでさえも、その内容をあなた方に明らかにすることはできなかった。なぜなら、その書が守っていたものは、神の知恵そのものだったからである。

60. キリスト、すなわち「御言葉」、彼のみ、神の愛だけがそれを成し遂げることができた。しかし、それでもなお、人々が私の霊的な臨在の輝きに目をくらまされることなく、神のメッセージを受け取れるようになるまで待つ必要があった。 こうして人類は、神の知恵の書が人類のために秘めていた「 （神の神秘）」を知ることを可能にする、相応の成熟に達するために、試練、教え、経験、そして発展という五つの段階を経なければならなかった。

61. 神の律法、キリストを通して与えられた神の言葉、そして預言者、使徒、使者たちによるすべてのメッセージは、すべての人々に光、救い、そして正義を常に告げ知らせる神の約束に対する人類の信仰を支え続けた種であった。

62. 今、待望の「大いなる啓示」の時が到来した。それによって、あなたがたは、私が時代を超えて啓示してきたすべてのことを理解し、あなたがたの父が誰であるか、あなたがた自身が何者であるか、そしてあなたがたの存在の理由が何であるかを知るようになるであろう。

63. 今こそ、あなたがたが到達した霊的な発展、経験した試練、そして蓄積された経験に基づ

き、私の霊からあなたがたの霊へと、私の宝庫にあなたがたの準備が整うのを待ちながら保管されていた知恵の光を受け取ることができる時である。 そして、人類が私のメッセージを受け取るのに必要な発展段階に達したため、私は彼らに私の光の最初の光線を送った。それがこれであり、私の代弁者となる教養のない素朴な人々を、恍惚とした状態で語らせたのである。

64. この光の光線はあくまで準備的なものであり、新しい一日を告げる夜明けの光のようなものである。やがて、私の光は完全にあなた方に届き、あなた方の存在を照らし出し、無知、罪、そして悲惨の最後の影さえも取り除くであろう。

65. あなたがたが無限の彼方でその夜明けを称賛しているこの時代は、人類の霊的生活において幕を開ける第六の時代、すなわち、光と啓示、古の預言と忘れ去られた約束の成就の時代である。 それは第六の封印であり、解かれるや否や、正義と啓蒙と啓示に満ちたメッセージとして、その知恵のすべてをあなたがたの魂に注ぎ出すのである。（269, 10-18）

66. 弟子たちよ、私は、あなたがたの心の美徳が、あなたがたの魂の裸身を覆う衣となることを望む。このように、「第二の時代」に約束された慰めの霊が、あなたがたに語りかける。

67. 父は、人類を圧迫するであろう苦痛と試練、そして人々が達するであろう堕落の度合いを、すでに知っておられた。 慰め主の到来は、あなた方にとって第六の封印の解き放たれ、すなわち人類の発展における新たな段階の始まりを意味する。この時点から、すべての人類に対して神の裁きが下される。あらゆる人生、あらゆる行い、あらゆる一歩が厳しく裁かれる。それは一つの時代の終わりであり、人生の終わりではない。

68. これは罪の時代の終焉であり、神の書のこの第六の封印の全内容が魂に注がれ、魂をその無気力から引き離すことが必要である。そうして初めて、人はに立ち上がり、自らの魂と全被造物との調和を体験し、 また、子羊によって第七の封印が解かれる時、すなわち苦難の杯の最後の酵母をもたらすと同時に、真理と愛と神の正義の勝利ももたらすその時に向けて、準備を整えるためである。（107, 17-19）

69. 私は、この時代に人類が備えを固めることを望む。そうすれば、最後の封印が解かれたとき、人々はそれに気づき、新たな啓示の内容を聞き、理解しようと急ぐだろう。私は、諸国と諸民族が、その日々の苦難に耐え抜くために強くなることを望む。

70. 私は、その時代の試練を乗り越えることを知る者たちを幸

いと呼び、彼らの忍耐と私の力への信仰に対する報いとして、彼らを新しい人類の始祖として残す。（111, 10-11）

71. 第七の封印が他の六つの封印と共に閉じられる時、最初の人から最後の人に至るまで、人々の行いに対する神の裁きであったその書もまた、閉じられたままとなる。 その時、主は新しい、まだ何も書かれていない書物を開き、そこに死者の復活、抑圧された者たちの解放、罪人たちの再生、そして善が悪に打ち勝つことを記される。（107, 20）

第39章 - 地上のイスラエルと霊的なイスラエル

イスラエルの歴史的使命、その失敗

1. まことに、わたしはあなたがたに告げる。もし人々が、内なる良心が戒める律法を守っていたならば、あなたがたに指導者や預言者を遣わす必要はなかったであろう。 また、あなたがたの主があなたがたのもとへ降りてくる必要もなかっただろう。そして、私が「第一の時代」に石に律法を刻まねばならなかったことも、また、「第二の時代」に人間となり、人間として十字架で死なねばならなかったことも、なかったはずである。

2. わたしがひとつの民を育て上げ、恵みの賜物を豊かに与えたのは、その民が自らを高め、他者を卑しめるためではなく、真の神に対する服従の模範となり、人間同士の兄弟愛の模範となるためであった。

3. わたしがこの民を選んだのは、彼らが地上でわたしの意志の道具となり、わたしの啓示の伝達者となり、すべての人をわたしの律法に従って生きるよう招き、そうして最終的に全人類が主のただ一つの民を成すためである。

4. この民は、選ばれた民でありながら、多くの苦難を経験してきた。それは、その遺産が自分たちだけのものであり、自分たちの神が異教徒たち（ ）の神でもあるはずがないと信じていたからである。彼らは他の諸民族を異邦人と見なし、父が彼らに託したものを分かち合うことを拒んだのである。 それゆえ、私は、彼らが堕落や物質主義に染まらないよう、一時的に他の民族から彼らを隔離しただけである。

5. しかし、彼らが自己中心の殻に閉じこもり、自分たちが偉大で強大であると信じるようになったとき、私は彼らの力と偉大さが虚構であることを示し、他の国々が彼らを侵略し、奴隷の状態へと陥れることを許した。王たち、ファラオたち、そしてカエサルたちが彼らの主となったが、私は彼らに、私が彼ら

の主となることを申し出ていたのだ。
6. 父なる神は、その限りない愛をもって、民に自由を与え、その使命を思い出させるために、再び御自身を現された。そして今日、私は愛の教えを授けるためにやって来る。しかし、人類の中からイスラエルの子らを見出すことができるのは、私の視線のみである。私は彼らを呼び寄せ、集め、聖霊の光を受けさせるのだ。
7. 私はあなたがたの霊の前に現れた。なぜなら、私が自然を通して、あるいはあなたがたが奇跡と呼んだ物質的な顕現によって、あなたがたに語りかけた時代は、とっくに過ぎ去ったからである。今日、あなたがたはすでに、心の奥底と同様に、霊の中で私を感じ取ることができる。
8. この時代において、私の啓示の証人となったのはパレスチナではない。なぜなら、私が求めているのは特定の場所ではなく、あなたがたの霊だからである。私は「血によるのではなく、霊によるイスラエルの民」――すなわち、私の憐れみによって時代を超えて受け継いできた霊的な種を持つ民――を求めているのである。（63, 64, 69）

ユダヤ民族の、世俗的な者たちと霊的な者たちへの分裂

9. 父が（イエスにおいて）去った後、その民の手から、すでにその先祖に託されていた土地を奪い取る必要があった。
10. ある者たちからは贖罪として、また他の者たちからは報いとして、それは奪い取られたのである。なぜなら、あのカナンの地、かつてのあの愛すべきパレスチナは、霊のための真の約束の地の写しとしてのみ、わたしによって用意されたものだったからである。民からそれらの所有物が奪われたとき、物質主義的な考えを持つユダヤ人は、この地上に故郷を失った者として取り残された。 しかし、もう一方の者たち――常に私の臨在を感じ続けてきた忠実な者たちは、過去の時代のその遺産を失ったことに対して何の痛みも感じることなく、私の意志に献身し続けた。なぜなら、彼らには父からの新たな恵みが託されていたことを知っていたからである。すなわち、御言葉、神聖な御言葉、その犠牲、その血という遺産である。
11. わが民イスラエルがすでに「第三の時代」を生きている今日、私は彼らがいまだに二つのグループに分かれているのを見る。 一方は物質主義に溺れ、地上の富によって富を得て、独断的な な償いとして、その力によって世界の基盤さえも震え上が

らせている。彼らは、父が彼らの霊に注がれた力、才能、恵みの賜物を、自分自身のため、野心のため、偉大さのために用いているからだ。

12. 見よ、あの民は、その物質主義の枠内にあっても、科学、意志、知性において強さの証を示してきた。その心の奥底には、かつての飢饉、奴隷化、屈辱に対する恨みが秘められている。 しかし今日、彼らは強さと誇りをもって立ち上がり、他の民族を屈服させ、その力で威圧し、支配しようとしている。今日、彼ら自身が満腹であり、何百万人もの飢えた人々や、大衆の奴隷たち――彼らの金、権力、科学、そして名声への渇望の奴隷たち――を満足げに見下ろしている。

13. しかし、私はまた、私の民のもう一つの部分、すなわち堅固で忠実な者たち――常に私の臨在を感じることができた者たち、人間の中への私の到来を常に認識していた者たち、私の啓示を信じ、あらゆる困難にもかかわらず私に服従し、私の使命を果たしてきた者たち――をも見ている。

14. そのもう一つの部分は、この時代に、人間の知性を通じて私の啓示の証人となってきたあなた方だけではない。 なぜなら、霊的なイスラエルの民の一部は全世界に散らばっており、各人が置かれたその場所で、私の慈愛を受け取り、私の臨在を感じ、私のパンを糧とし、私がどこから来るのか、どのような形で来るのかを知らぬまま、それでも私を待ち望んでいるからだ。

15. しかし、私がどのようにして来たのか、どのようにして自らを現したのかを十分に知っている者たち――来るべき時代に備えられている者たち、すなわち、私がその民の十二部族の中から選んだ14万4千人の一部をなすあなたがたである ――数多きイスラエルの民の前で、あたかも14万4千人の将軍の如く、「第三の時代」の霊的な戦いのなかで、彼らを大いなる戦いへと導く者たちである。

16. わが民は永遠に分裂したままであると思うか。まことに、わたしはあなたがたに言う。そうではない！ あなたがたには教えと光と試練が与えられ、彼らにはわたしの正義と、同様に懲らしめが下ったのである。 今、私は彼らを大きな歩みで霊の目覚めへと導いている。彼らは確かに、第二の来臨を否定したように、最初の一瞬は私の第三の来臨を否定するだろうが、私はあなたがたに言う。彼らの回心の時は、もはや遠くない。 彼らは古い伝統の中に生きているが、私はユダヤ民族の精神と心を見透かしており、彼らが自らの確信からというよりは、むしろ安逸と霊的啓示への恐れから伝統に固執していることを、あなた方に知らせる。 彼らはあの世

からの な顕現を恐れている。しかし、私が彼らに提案するのは、不必要なものをすべて捨て去り、慈悲と愛と謙虚さを実践することである。

17. あなたがたは彼らに立ち向かわねばならず、双方が武器を手に取るだろう。一方は言葉、思想、祈り、そして証拠を、他方はその才能、権力、伝統を。しかし、私はこの対立の中に臨在し、私の正義が確かに勝利するよう導き、霊性が勝利し、霊が肉に打ち勝ち、それを屈服させ、謙虚にさせるよう取り計らう。そうして、イスラエルの部族の和解、主の民の統一が訪れるであろう。

18. その民が一度準備が整えば――まことに、 言っておくが、その民は、神が世の初めから選ばれた民に託された大いなる使命を全うするまで、その任務を果たし続けるであろう。その使命とは、主の啓示の初子であり、その受託者となることであり、兄弟姉妹の長として他の者たちを導き、彼らと恵みを分かち合い、すべての人を父の右の座へと導くことである。 (332, 17-21)

霊的なイスラエルの民

19. 私が「私の民イスラエル」、すなわち「主の民」について語る時、それは、霊的な使命を携えてこの地上にやって来た者たち、すなわち、私の律法を広め、私を宣べ伝え、私に忠実であった者たち、 生ける神の存在を宣べ伝え、愛の種を蒔き、御子の中に父の臨在と御言葉を認めることができた者たち。これらこそが神の民を成す者たちであり、これこそがイスラエル、すなわち強き、忠実な、賢明なイスラエルである。これこそが、律法と真理に忠実な、私の兵士たちの軍団である。

20. わたしの預言者たちを迫害し、わたしの使者の心を引き裂いた者たち――真の神に背を向け、偶像にひれ伏した者たち――わたしを否定し、嘲り、わたしの血と命を求めようとした者たちは、たとえ血筋上イスラエル人であると自称していたとしても、選ばれた民には属していなかった。 彼らは預言者の民にも、啓示を受けた者たちの群れにも、忠実な兵士たちにも属していなかった。なぜなら、「イスラエル」とは、ある人種を支配するために不当に使用された、霊的な名前に過ぎないからである。

21. また、あなたがたは、私の民に属したいと願う者は誰でも、その愛と慈悲と熱意と律法への忠実さによって、それを実現できることを知らなければならない。

22. わが民は、この世に特定の国や都市を所有しているわけではない。わが民は一つの人種ではなく、あらゆる人種の中に、すべての人々の間に存在する。ここでわが言葉を聞き、新たな

啓示を受け取っているこの人々の群れは、わが民の一部に過ぎない。別の部分は地球上に散らばっており、さらに大部分は霊界に生きている。

23. これこそが、わたしを知り、わたしを愛し、わたしに従い、わたしに従うわたしの民である。（159, 55-59）

24. 今日、わたしはあなたがたに言う。わたしの民はどこにいるのか。試練において賢く、戦いにおいて勇敢で、苦難において揺るぎない者たちはどこにいるのか。彼らは世界中に散らばっている。しかし、わたしはわたしの声によって彼らを出発させ、霊的に一つにまとめ、すべての民の先頭に立たせるであろう。 しかし、今日、その民は、あらゆる人種の人々によって構成されることになる、と私は告げる。彼らは、私がすべての人々に期待する契約が何であるかを理解する者たちである。

25. この民は勇敢で闘争心にあふれていなければならないが、同胞を殺すような武器や戦車を持つことはなく、また、破壊を謳う歌を歌うこともあってはならない。その旗は平和であり、その剣は真理であり、その盾は愛でなければならない。

26. 誰もこの民がどこにいるのか見つけ出すことはできない。彼らは至る所にいるからだ。敵たちは彼らを滅ぼそうとするだろうが、それは叶わない。なぜなら、彼らの団結、秩序、調和は精神的なものであるため、物理的に一箇所に集まっている姿などどこにも見つけられないからだ。（157, 48-50）

27. この時代、真のイスラエルの霊は至る所で働いている。それは、私の臨在を感じ、私の到来を待ち望み、私の正義を信頼する魂たちである。

28. この言葉が他の場所に伝われば、多くの者がそれを嘲笑するだろう。しかし、私はあなたに告げる。彼らにとって、これを嘲笑の対象としないほうがよい。なぜなら、彼らが深い眠りから目覚め、自分たちもまた神の民の子であることに気づく時が来るからだ。

29. 今日、私の声を聞いているここにいるこの人々の群れは、もし私の言葉を深く学ばず、また、この世的な物質的な考え方を捨て去らなければ、誤りに陥る恐れがある。 彼らは、主の声を聞き、律法を受け、預言者たちを擁していたにもかかわらず、結局、自分たちが神に愛される唯一の民であると信じてしまった、初期の時代のイスラエルの民と同じ運命をたどるかもしれない。それは重大な誤りであり、そこから彼らを救い出すために、大きな試練、屈辱、追放、そして捕囚がもたらされることとなったのである。

30. あなたがたは、私の愛が人種や信仰によってあなたがたを分かつことは決してないことを知らなければならない。また、

私が「私の民」と言うのは、私が太古の昔から、その光をもって人類の道を照らすために地上に遣わす魂たちを準備してきたからに他ならない。

31. 彼らは、様々な国々に住み、多くの試練を経てきた永遠の旅人であった。その間、彼らは、人間の法律は不公正であり、人間の感情の表れは真実ではなく、人々の魂には安らぎがないことを悟ったのである。（103、10-14）

32. 神の民は、再び人類の中に現れるであろう――ある人種に具現化された民ではなく、血や人種や言語ではなく、精神こそが決定的な、私の弟子たちからなる大勢の、すなわち大軍である。

33. この民は、書物を通じて私の教えを説くことだけに留まることはない。言葉に命が宿るためには、それを生きなければならない。この民は、書物や書籍を広める者であるだけでなく、模範と行いを広める者でもある。

34. 今日、私はあなたがたを、あらゆる不必要なもの、不純なもの、誤ったものから解放し、あなたがたの魂が高みへと舞い上がることができる、その行いによって証しされる、質素で清らかな生活へと導く。

35. 時が来れば、私は我が民を人類に示すであろう。その時、師は弟子たちを恥じることもなければ、弟子たちが師を否むこともない。その時は、世界観の戦争が起こる時と重なり、そこから、平和の息吹のように、一筋の光のように、スピリチュアリズムが湧き上がってくるであろう。（292、28-31）

36. わが民は増え、拡大している。それは地上においてのみならず、霊界においても同様である。その霊的な大群の中には、かつてあなたがたと血の絆で結ばれていた者たち、すなわち、あなたがたの両親、兄弟姉妹、あるいは子供たちであった者たちがいる。

37. わが民は、この地上に収まりきらないほど多く、しかもさらに増え続けると私が言っても、驚かないでほしい。私がいつか彼らを一つにまとめ、わが子たちの誰一人として欠けることがなくなれば、彼らには無限が住まいとして与えられるだろう。それは、終わりのない光と恵みの領域である。

38. ここ地上において、私はただあなた方を準備し、私の教えを通じて必要な指針を与えるのみである。それは、あなた方がその命にどのように近づけばよいかを知るためである。この人類は、神の民の一部に過ぎない。すべての人々が、自らの生活を完全という理想に向けていくために、これらの啓示を知る必要があるのだ。

39. 人間の代弁者の口を通して語られた私の言葉であるこの神聖なメッセージは、私の意志に

より、すべての人々に届くべきものである。 わが言葉は世界を呼び覚ます鐘であり、その本質は諸民族を奮い立たせ、目覚めさせ、霊化について、またこの世の後の魂の運命について思索させるであろう。（100, 35-37）

選ばれ、印を刻まれた14万4千人

40. この「第三の時代」において私の業を広めるために、私は大いなる群衆の中から14万4千の魂を選び出し、神の光の接吻をもって彼らに印を刻んだ――それはユダの接吻でもなければ、あなたの魂を危険にさらす契約の印でもない。 私の印とは、聖霊が選ばれた者たちに与える印であり、それによって彼らがこの「第三の時代」において偉大な使命を果たすことができるのである。

41. この印を持つ者は、危険から免れているわけではない。それどころか、他の者たちよりも多くの誘惑にさらされ、より多くの試練を受けることになる。「第二の時代」に私が選んだ十二人の一人一人を思い起こせば、私が今言っていることが真実であると確認できるだろう。彼らの中には、疑いや弱さ、混乱の瞬間があり、さらには、口づけによって私を処刑者たちに引き渡し、私を裏切った者さえいた。

42. この時代の選ばれた者たちが、誘惑に負けないよう、どうして目を覚まし、祈らなければならないだろうか！しかし、まことに、あなたがたに告げる。それでもなお、百四十四万人の間には裏切り者が現れるであろう。

43. このしるしは、神に対する使命、任務、そして責任を意味する。それは誘惑や病気に対する保証ではない。もしそうであったなら――私の選ばれた者たちには、いったいどのような功績があるというのか。私の言葉に忠実であり続けるために、あなたがたの精神はどのような努力をするだろうか。

44. 私がこのようにあなた方に語る理由は、この民の中に、選ばれた者たちの数に加えられたいと願う心が多くあるからである。 しかし、私は、私がその印によって与える賜物によって人類に仕えたいという願望以上に、安心感を得たいという願望、あるいは虚栄心が、彼らを動かして私に召しを請うようにさせているのを見てきた。私は、私の子供たちである弟子たちを試すつもりであり、そうすれば彼らは、私の言葉が根拠のないものではないことを自ら確信するだろう。

45. その印とは、愛と敬意、熱意と謙虚さをもってそれを携える者が、その使命を果たすことができるようにする、目に見えないしるしである。 そうして初

めて、その印が神の恵みであることを悟ることができるだろう。それは彼を苦痛の上に立たせ、大きな試練の中で彼を照らし、深い洞察を彼に啓示し、彼が望むところならどこへでも、魂がさらに前進するための道を開いてくれるのだ。

46. その印は、それを所有する者を霊界と結びつける鎖の一環のようなものであり、霊界の思想と言葉があなた方の世界に現れるための手段である。それゆえ、私はあなた方に言う。印を授かった者は私の使者であり、私の使者であり、私の道具であると。

47. 印を授かった者の、わが業に対する使命と責任は大きい。しかし、彼はその道を独り歩くわけではない。彼の な傍らには、常に守護天使がいて、彼を守り、導き、霊感を与え、励ましてくれる。

48. 愛をもって自らの十字架にしがみつくことを知っていた者は、なんと強かったことか。そして、「第三の時代」において、選ばれた者の神聖な印を背負う用意がなかったその選ばれた者にとって、その道はなんと厳しく、苦いものであったことか。

49. わたしに耳を傾けるすべての人々に、目を覚まし、祈り、愛をもって十字架を背負い、正しく従順に行動することを学ぶべきだと言う。そうしてこそ、あなたの魂にとって最も光に満ちた転生であるこの人生が無益なものとならず、後に失われた時間や生かしきれなかった能力を嘆くことにならずに済むのだ。

50. 印を授けられた者であれそうでない者であれ、皆、この教えについて深く考えなさい。なぜなら、あなたがたは皆、わたしの業において果たすべき使命を持っているからである。（306, 3-4, 7-12）

51. 「霊によるイスラエルの部族」は極めて数多い。そのそれぞれから、私は一万二千人を選び出し、彼らの額に印を付ける。しかし、「イスラエルの民」は14万4千人に限定されるものではない。選ばれた民は計り知れないほど大きい。

52. 師は「第二の時代」において、多くの者が召された者であり、選ばれた者はわずかであると教えた。しかし、「イスラエルの民」全体が召され、私はその中から14万4千人に印を付ける。私はすべての人に、平和と霊性、そして霊から霊への対話の始まりを授ける。（312, 7-8）

53. 私は全宇宙の父であり、私の愛はすべての人の心に降り注ぐ。 私は地上のすべての民のもとに来ました。しかし、私がこのメキシコという国を選び、私の言葉と啓示をその上に豊かに注ぐことにしたのは、彼らが謙虚であったからであり、その住民の中に美徳を見出し、そこに

「イスラエルの民」の魂を転生させたからです。

54. しかし、すべての人々がこの国籍に属しているわけではなく、すべての人々が転生しているわけでもない。選ばれた者たちの数に属する魂たちは、今なお世界中に散らばっている。彼らは印を付けられ、私は彼らの目を開き、彼らの心を感受性豊かなものとし、彼らは霊から霊へと私と語り合っている。（341, 25）

55. 人類の中には、わたしによって印を付けられた14万4千人の一部が生きている。これらのわたしの僕たちは世界中に散らばり、平和を祈り、人類の兄弟愛を実現するという使命を果たしている。 彼らは互いに面識はないが、同胞の道を照らすという使命を果たしている――ある者は直感によって、またある者はこの啓示によって啓発されて。

56. 私の愛によって印を刻まれた者たちのうち、一部は素朴な人々であるが、世の中で尊敬されている者たちもいる。 彼らを見分けることができるのは、彼らの生活における霊性、その行い、思考の仕方、そして神の啓示を理解する姿勢によってのみである。彼らは偶像崇拝的でも、偽善的でも、軽薄でもない。彼らは宗教を実践していないように見えるが、それでも彼らの精神と主の精神との間には、内なる礼拝が存在している。

57. 聖霊の光に満たされた者たちは、救命ボートのような存在であり、守護者であり、助言者であり、防壁である。 私は彼らの魂に光、平安、力、癒しの香油、最も閉ざされた扉さえも密かに開く鍵、そして他者にとっては乗り越えられない障害を克服するための「武器」を与えた。 彼らの能力が認められるために、世俗的な肩書きを掲げる必要はない。彼らは科学を知らないが、それでも「医者」であり、法律を知らないが、それでも助言者であり、地上の富には乏しいが、それでも人生の道において多くの善を行うことができる。

58. ここに、私の言葉を受け取るために集まったこの人々の群れの中には、ただ自らの使命を確認するためにやって来た者たちが多くいる。なぜなら、彼らに霊的な賜物が授けられたり、使命が与えられたりしたのは、この地上ではなかったからである。 まことに、あなたがたに告げる。すべての魂が持つ光とは、その魂が長い発展の道のりで自ら獲得してきたものである。（111, 18-21）

59. 人類は信仰を持つようになり、わたしの業は地球全体に広まるであろう。わたしは、信仰と世界観をめぐる争いの時代に、従順に、愛と献身をもって戦う14万4千人の「印された者たち」から始める。 この戦いの最中、彼らはまるで鎖の一つの環の

ように、世界に隷属の鎖ではなく、自由と兄弟愛に満ちた霊的な同盟を提示するだろう。これらの兵士たちは孤独ではない。私の霊界が彼らに寄り添い、守ってくれる。彼らはその道のりで奇跡を起こし、それによって私の真理を証しするだろう。（137, 9）

第40章 - 善と悪の力

善と悪の起源

1. 父があなた方を創造したとき、あなた方がこの道を歩む中で、創造主を真に知り、理解する機会を得られるよう、天の梯子の最初の段にあなた方を置かれた。 しかし、最初の段を踏み出した時、上へと続く進化の道を歩み始めた者は、いかに少なかったことか！ 大多数は、不従順と反抗心で団結し、自由という賜物を悪用し、良心の声に耳を傾けなかった。 彼らは物質に支配され、その波動によって悪という力を生み出し、深淵を掘り下げてしまった。そしてその影響により、兄弟姉妹をもその深淵へと引きずり込まざるを得なくなり、彼らは自らの弱さや堕落、そして高揚と清らかさへの渇望との間で、血みどろの闘いを始めざるを得なかった。（35, 38）

2. 原罪は、男女の結合に由来するものではない。私、創造主は、両者に「増えよ、そして満ちよ」と言ったとき、この結合を命じた。これが最初の掟であった。罪は、人間が自由意志という賜物を乱用したことにある。（99, 62）

3. 「肉」は魂との戦いを恐れ、その解放を阻止するか、少なくとも遅らせるために、世の快楽によって魂を誘惑する道を探している。見よ、人は自らの内に誘惑者を抱いているのだ！それゆえ、私は、もし人が自分自身に打ち勝てば、その戦いに勝利したのだ、と述べたのである。（97, 37）

4. 人間の悪行によって空気さえも、大地も、水さえも汚染されているこの時代において――悪や闇に染まらない者は、なんと少ないことか！（144, 44）

5. 人類の嘆きは私の元へ届く。子供たち、若者たち、壮年期の男女、そして老人の不安が天へと突き上げている。それは正義を求める叫びであり、霊から発せられる平和と慈悲への切なる願いである。なぜなら、この世の愛の種は腐敗してしまったからだ。そして、愛が今どこにあるか、君たちは知っているか？ 人間の心の奥底、あまりにも深く、人間には見つけ出せないほど深いところにある。憎しみ、権力への欲望、科学、そして虚栄心がその種を押しつぶし、霊性も慈悲も存在しないからだ。苦しみの杯はますます満たさ

れ、世界はその底まで飲み干している。（218, 12）

6. 祭壇から祭壇へ、儀式から儀式へ、そして宗派から宗派へと、人々は命のパンを求めてさまようが、それを見つけることはできず、失望から神を冒涜する者となり、目的のない道を歩み、神も法もないまま生きている。

7. しかし、民よ、彼らの間には偉大な魂たちがいること、私が彼らの間に聖霊の預言者や弟子たちを見出していることを心に留めよ！（217, 49）

8. 諸宗派において、人々は悪の力を認め、それを人間の姿として擬人化している。彼らは悪に強大な王国を認め、様々な名前を与えている。人々は、悪が近くにいると信じると恐怖を抱くが、 な誘惑は情欲や弱さに根ざしており、人の内面には善も悪も共に蠢いていることを理解していない。

9. 現世において、悪は優勢であり、あらゆるものに現れる力と権威を築き上げた。そして霊界には、不完全で混乱し、悪と復讐に傾倒する魂の群れが存在し、その力は人間の悪意と結びついて、悪の王国を形成している。

10. その力は「第二の時代」においてイエスに抵抗し、その王国を彼に見せた。 万事に敏感な私の「肉」は試みられたが、私の霊的な強さがその誘惑に打ち勝った。なぜなら、私は、強さの模範を示すために人々のところへ降りてきた師であったから、この世、「肉」、誘惑、そして死の克服者とならなければならなかったのだ。（182, 42-43）

11. あなたがたが魂の中で感じる平安によって、私の臨在を認識することができる。私以外の誰も、あなたがたに真の平安を与えることはできない。闇からの霊的存在は、それをあなたがたに与えることはできない。私がこう言うのは、多くの人々の心が、人々の想像力によって命と形を与えられた、ある誘惑的な存在の罠を恐れているからである。

12. 人々は、いかに誤って闇の君主の存在を解釈してきたことか！ 結局、私の力よりも彼の力を信じた者はどれほど多く、それによって人々は真実からどれほど遠く離れてしまったことか！

13. 悪は存在する。すべての悪徳と罪はそこから生じた。つまり、悪を行う者たちは、地上においても、また他の住処や世界においても、常に存在してきたのである。 しかし、なぜあなたがたは、存在するすべての悪を単一の存在に擬人化し、それを神に対峙させるのか。私は問う。私の絶対的かつ無限の力の前において、不浄な存在など何ものであろうか。そして、私の完全性という観点からすれば、あ

なたがたの罪など何の意味があるというのか。
14. 罪はこの世で生まれたものではない。霊たちが神から生じたとき、ある者は善の中に留まったが、その道から迷い出た他の者たちは、別の道、すなわち悪の道を切り開いた。
15. かつて象徴として啓示として与えられた言葉やたとえ話は、人類によって誤って解釈されてきた。 人々が超自然的なものについて持っていた直感的な知識は、彼らの想像力に影響を受け、こうして彼らは次第に、悪の力をめぐり、今日に至るまで続く科学、カルト、迷信、神話を形成していった。
16. 神から悪魔が生まれることはあり得ない。それらはあなたがたが自らの知性で作り出したものである。あなたがたが常に私の敵として対峙させようとするあの存在に対する認識は、誤りである。
17. 私は、人間からも霊的存在からも生じうる誘惑や悪しき影響から自らを解放するために、目を覚まし、祈るよう、あなた方に教えた。
18. 私は、あなたがたに「肉」よりも魂を優先すべきだと告げた。なぜなら、「肉」とは、あなたがたがそれを守らなければ、常に堕落の危険にさらされている弱い被造物だからである。心、理性、そして感覚は、開かれた扉であり、そこから世の情欲が魂を打ちのめすのである。
19. もしあなたがたが、闇の存在たちを怪物のようなものだと想像していたとしても、私は彼らを、救うために私の手を差し伸べるべき、不完全な被造物に過ぎないと見なしている。彼らもまた、私の子供たちだからである。（114, 54-62）
20. あなたがたは、何か善行を行うたびに、「私は高潔だ、寛大だ、慈善家だ。だからこれを行うのだ」と言う。しかし、私はあなたがたに告げる。もしあなたがたが、主の名においてそれらの行いを行うならば、謙虚であるはずだ。なぜなら、その善は神に由来し、私があなたがたの魂に授けたものだからである。
21. したがって、自分の善行を人間の心に帰する者は、自分の魂と、その魂にこれらの美徳を授けた御方を否定しているのだ。
22. それに対して、もしあなたがたが悪を行うならば、ピラトのように手を洗い、その行いを父のせいにし、「それは神の御心であり、書かれていることだった。神が望まれたことであり、運命なのだ」と言うのである。
23. あなたがたは、自らの過ちから免罪されるために、神の御心なしには何も起こらないと言う。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたは誤っている。なぜなら、あなたがたの過ち、あなたがた

の哀れな行いは、神の御心なしに起こっているからだ。
24. 全能なる神が、決して力や権威をもって、あなた方を強要することはないことを悟りなさい。そうするのは、あなた方自身が、より弱い兄弟姉妹に対して行っていることである。
25. まことに、私はあなたがたに告げる。悪、不誠実、調和の欠如はあなたがたに固有のものであり、愛、忍耐、心の平安は神から来るものである。
26. あなたがたが愛するとき、それはあなたがたの魂の創造主があなたがたを鼓舞しているのだ。それに対して、あなたがたが憎むときは、あなたがた自身であり、あなたがたの弱さがあなたがたを駆り立て、破滅へと導くのである。あなたがたの人生に何か悪いことが起こるたびに、それはあなたがたの仕業であると確信してよい。
27. しかし、そこであなたは自問するでしょう。「なぜ神はこれを許されるのか？神もまた、私たちの罪によって苦しんでおられるのではないのか？私たちが泣くのを見て、神もまた泣いておられるのではないのか？私たちをこうした転落から救うことなど、神にとって何の負担になるというのか？」
28. 言っておくが、あなたがたが愛さない限り、神はあなたがたにとって理解できない存在であり続けるだろう。なぜなら、あなたがたの創造主の寛大さは、あなたがたの理解を超えるものだからである。
29. 強く、偉大に、賢くなりなさい。愛することを学びなさい。愛するようになれば、神を探り知ろうとする子供じみた願望はもはや抱かなくなるだろう。なぜなら、その時には あなたがたは神を仰ぎ、神を感じることになり、それだけで十分だからである。(248, 29-32)

高慢と謙虚さ

30. 霊的な高みへと至るために、謙遜をあなたの最良の味方の一つとしなさい。なぜなら、霊の王国である天国の門は、高慢な者に対しては完全に閉ざされているからだ。彼はその門をくぐったことは一度もなく、また、今後くぐることも決してないだろう。 しかし、もし彼が謙虚になれば、私が真っ先に彼を称え、私の慈悲が彼に永遠への扉を開くであろう。（89, 45）
31. さて、弟子たちよ、ここに私の教えをもう一つ述べよう。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、自分たちを強く、偉大で、あるいは他より優れていると感じるならば、あなたがたは私から遠ざかることになる。なぜなら、あなたがたの傲慢が謙虚さの感覚を窒息させてしまうからだ。 しかし、あなたがたが自分たちを小さく感じ、自分たちが私の創造物の中で原子のような存在であると悟るとき、あなたがたは私に近

づく。なぜなら、その謙虚さゆえに、あなたがたは私を称え、私を愛し、私を身近に感じるからだ。そうして、あなたがたは、神が内に秘めている、あなたがたが知り、体験したいと願う、あらゆる偉大で測り知れないものを思い起こす。 それは、まるで自分の魂の中に、神のささやきのこだまが聞こえてくるかのように感じられるだろう。（248, 22）

32. 弟子：人は、自分が成し遂げた行いについて真の認識を持っているならば、虚栄心に惑わされることはない。もしこの卑しい感情が自分の内面に侵入すれば、知性が曇り、発展の道を進むことができなくなり、立ち止まって無気力に陥ってしまうことを知っているからだ。

33. 虚栄心は多くの人々を破滅させ、多くの繁栄した民族を滅ぼし、諸君の文化を崩壊させてきた。

34. 民族が行動力、有能さ、そして進歩を理想としていた限り、彼らは豊かさ、輝き、そして繁栄を享受していた。 しかし、傲慢さが彼らに優越感を抱かせ、向上という理想が、すべてを独り占めしたいという飽くなき野心に取って代わられたとき、彼らは気づかぬうちに、また望むこともなく、自分たちが築き上げたものを一歩一歩破壊し始め、ついには奈落の底へと転落した。

35. 人類の歴史は、このような経験に満ちている。それゆえ、私はあなた方に告げる。この世に、大きな理想を掲げ、自らの善行を常に自覚しつつも、それに驕ることのない民族が現れるのは正しいことである。そうしてこそ、その歩みは阻まれることなく、これまで達成した輝きは明日にはさらに上回り、やがて再び増大していくであろう。

36. 私がこのようにあなた方に語る時、私は単に物質的な目標を鼓舞しようとしているのではない。私の言葉が正しく解釈され、あなたがたがそれを物質的な面だけでなく、霊的な面にも適用できるようになることを望んでいるのだ。

37. 虚栄心は、人の物質的な生活だけに襲いかかるものではない。私が言うことの証拠として、その基盤が虚栄心、傲慢、偽りの栄華によって蝕まれている大教派の没落と失敗を見よ。 彼らが権力の絶頂にあると信じた時、必ず誰かが現れて、彼らを夢から覚まさせ、彼らの誤り、逸脱、そして法と真理からの逸脱を彼らの目の前に突きつけてきたのである。

38. 良心の光に照らされて、わが律法を真に認識し、それを全うすることによってのみ、この人類は高みにある生活へと昇りつめることができる。なぜなら、わが光である良心は完全であり、曇りなく、公正であり、決して虚栄にふけったり、曲がり

くねった道を行ったりすることはないからである。（295，18-24）

善、善意の人

39. 誰もわたしを否定することがないように、皆、わたしを知りなさい――わたしを認識しなさい。そうすれば、あなたがたの神に対する観念は真実に基づくものとなり、善が現れるところには、わたしがいることを知るようになるだろう。

40. 善は、何ものとも混ざり合わない。善は真理であり、愛であり、慈悲であり、理解である。善ははっきりと認識でき、紛れもないものである。誤らないよう、それを認識せよ。

41. 人はそれぞれ異なる道を歩むことができる。しかし、もし皆が「善」という一点で出会うならば、やがて互いを認識し、一つになるだろう。

42. しかし、現代の人々のように、善に悪の装いを与え、悪を善として偽装することで、頑なに自らを欺き続けるならば、そうはならない。（329，45，47）

43. ほぼ2000年にわたり、あなたがたはベツレヘムの羊飼いたちが聞いたあの言葉を繰り返してきた。「地上の善意ある人々に平和あれ」。しかし、平和を得る資格を得るために、いつ善意を行動に移したのか。まことに、私はあなたがたに言う。あなたがたはむしろその反対のことをしてきたのだ。

44. あなたがたはこの言葉を繰り返す権利を失ってしまった。それゆえ、今日、私は新たな言葉と教えをもって来る。それは、単なる言葉や決まり文句があなたがたの知性に刻み込まれるのではなく、私の教えの真髄が、あなたがたの心と精神に深く浸透するようにするためである。

45. もしあなたがたが、私が与えるままに私の言葉を繰り返したいのなら、そうしなさい。しかし、知っておきなさい。あなたがたがそれを感じ取らない限り、それらは何の効果も持たない。深い感銘と謙虚さをもってそれを口にし、心の中でその響きを感じ取るとき、私はあなたがたに、あなたがたの全存在を震え上がらせるような形で応えるであろう。（24，33-34）

46. もう一度言おう。真理を愛する善意の人々に平安あれ。彼らは神の御心に服従するために何かをしているからだ。そして、私の保護の下に身を置く者は、必然的に私の臨在を感じることになる――その魂においても、また人間としての生活においても、その闘いにおいても、その必要においても、その試練においても。

47. 善意の人々は、父の律法に従う子供たちである。彼らは正しい道を歩んでおり、激しい苦しみの中にあっても、赦しと平安を渇望して、その魂をわたしへと向ける。

48. 彼らは、痛みがしばしば必要であることを知っており、それゆえ忍耐をもってそれを耐え忍ぶ。ただ、それが耐え難いものとなった時のみ、彼らは自分の十字架の重荷が軽くされるよう願う。「主よ」と彼らは私に言う。「私の魂が向上するために、浄化と苦しみが必要であることを私は知っています。 私に何が必要か、あなたは私よりもよくご存知です。あなたは、私が必要としないものを私に与えることはできません。ですから、あなたの御心が私の上に成りますように。」

49. このように考え、祈る者たちは祝福される。彼らは、人生の試練に適用するために、主の模範を求めているからである。（258, 52-53）

悪、悪に堕ちた人間

50. この時代、悪の影響力は善の影響力よりも大きい。それゆえ、人類を支配している力は悪の力であり、そこから利己心、嘘、淫行、傲慢、他人の不幸を喜ぶ心、破壊、そしてあらゆる卑しい情欲が生まれている。この乱れた道徳的均衡から、人々を苦しめる病気が生じている。

51. 人々には、これらの力と戦う武器がない。彼らは打ち負かされ、精神的な光のない、健全な喜びも、善への追求もない人生の深淵へと囚人として連れ去られてしまった。

52. まさに今、人間は知識の頂点に立っていると信じているが、自分が深淵の中にいることを知らない。

53. 永遠におけるあなたがたの始まりと未来を知る私は、太古の昔から、人々に悪の力と戦うための武器を与えた。しかし、人々はそれを軽んじ、悪対悪の戦いを好んだ。その戦いでは誰も勝利することはなく、すべての者が敗北者としてそこから出てくることになる。

54. 悪は支配し続けることはない、と書かれている。これは、世の終わりに勝利するのは善であることを意味する。

55. もしあなたがたが、私が悪の勢力や影響と戦うために人々に与えた武器とは何であったかと私に問うならば、私はこう答える。それは、祈り、律法への堅忍、私の言葉への信仰、そして互いへの愛であった。（40, 65-70）

56. わが民よ、悪は人々の間で増大している。 善、徳、愛は、悪、病気、災い、疫病、そして不幸の侵入に対して弱かった。堕落した者たちの種であるこれらすべてが、善人の心を汚染し、多くの人を躓かせ、忠実な者の数を激減させた。なぜなら、悪は人類に対して大きな力を振るってきたからである。

57. 私は、あなたがたに与えられた自由意志のために、このようなことが起こることを許した。なぜなら、人間のあらゆる堕

落、あらゆる闇、そして迷いの背後には、神聖な光、すなわち、消え去ることのない、そして決して消え去ることのない霊が存在するからである。 光の魂である根源的な存在があり、それは父が与えた口づけ、すなわち私がすべての子供たちを戦いの道へと送り出した神聖な印を、汚れなく守っている。この印によって、これらの魂のうち、一つとして失われることはない。（345, 11-12）

善と悪の戦い

58. あなた方はまた、人類の存続のあらゆる時代を通じて、悪意に満ちた男女が露わにしてきた暴力に驚嘆してきた。歴史の書は彼らの名を記録している。あなた方の存在の記憶の書、すなわち神があなた方のすべての行い、すべての業を書き記し、留めておられるその書にも、彼らの名は同様に記されている。そして、あなた方は、一つの魂、一つの人間の心が、これほど多くの悪の力を秘め、自らの行いに戦慄することなく、これほど多くの勇気を持ち続けることができることに驚いてきた。また、神がすべての子供たちに求める、その良心を通じた清算の要求を聞かずに済むよう、良心の声を沈黙させることができることにも驚いてきた。 そして、この惑星におけるそれらの魂の歩みは、どれほど長く、また永続的なものであったことか。

59. 私の愛と正義に、自由意志によって反抗したこれらの人々を、私は用いた。そして、まさに彼らの不従順を利用して、彼らを私の僕としたのである。彼らは自由に行動していると思い込んでいたが、彼らのすべての思考、言葉、そして行いは、自分自身に対しても、他者に対しても、私の正義の道具であった。

60. しかし、その支配はいつ終わるのか？――父はあなた方に言う。悪の支配が人類を（完全に）支配したことは一度もない。なぜなら、最も堕落した時代でさえ、私の教えに従順な、私への忠実な人々や、私の律法の使徒たちがいたからだ。しかし、戦いは初めから常に存在してきた。

61. これまでの戦いにおいて、この二つの力のうちどちらが優勢であったか。それは悪の力である！それゆえ、私はあなたがたの中に肉体をもって現れ、 あなたがたを助け、私への希望と信仰を新たに蘇らせ、あなたがたの心に温もりを与え、こう告げなければならなかった。「あなたがたは道において独りではない。私は決してあなたがたに嘘をついたことはない。」 私があなた方の内に植え付けた原則を決して変えてはならない。これこそが善と愛の道である。（345, 48-49）

62. 見よ、私の光が、あなた方の世界の霧を切り裂くのを。 私

は確かに人々と戦っているが、それは彼らの心に住むあらゆる悪を根絶するためだけである。私は、私に忠実に従う者たちに、私の愛の光と力を注ぎ込む。そして彼らはこう言うだろう。「私たちを待ち伏せている竜を探そう――私たちを罪へと誘い、主を冒涜させるあの怪物を探そう。」 彼らは海や砂漠、山や森、目に見えない世界の中でそれを探し求めるだろうが、見つけることはできない。なぜなら、それは人の心の中に生きているからだ。それだけがそれを生み出し、そこで成長し、やがてこの地を支配するに至ったのだ。

63. もし私のライトセーバーの閃光が、すべての人間の心を傷つけるならば、悪から発せられる力は次第に弱まり、やがて消え去るだろう。 その時、あなたがたはこう言うだろう。「主よ、あなたの慈悲の神聖な力によって、私は竜を打ち倒しました。かつて私は、その竜が不可視の世界から待ち伏せしていると信じていましたが、実は自分の心の中にそれを抱えていたことに気づかなかったのです。」

64. ひとたびすべての人々の内に知恵が輝き出れば――その時、誰がまだ善を悪へと歪めることを敢えてしようか。その時、誰がまだ永遠なるものを儚いものと引き換えにしようか。まことに、わたしはあなたがたに告げる。誰もいない。なぜなら、あなたがたは皆、神の知恵において強くなるからである。 罪とは、無知と弱さの結果に過ぎない。（160, 51-54）

誘惑と惑わし

65. 人類は様々な「木」を育てている。人々の飢えと悲惨さは、彼らに救い、正義、あるいは平和をもたらす影と実を求めて、それらの木の下へと向かわせる。これらの木とは、しばしば憎しみ、利己心、権力欲、そして誇大妄想に駆られた人々による教えである。 その実とは、死、血、破壊、そして人間の生活における最も神聖なものである信仰、思考、言論の自由の冒涜、つまり一言で言えば、精神の自由の奪取である。これらは、光と戦うために立ち上がる闇の勢力である。（113、52-53）

66. 愛するイスラエルよ、私はあなたに告げた。やがて、偽りのイエスに道を開くために、邪悪な代弁者たちが立ち上がり、物質的な欲望に駆られて、自分たちを通して主が語っておられると偽り、人々を欺く時が来るのだ。 偽りの「指導者」や偽りの「預言者」、偽りの「兵士」たちが立ち上がり、その言葉と物質的な欲望によって、あなた方を光と真理の道から逸らそうとするだろう。（346, 38）

67. 祈りなさい。今こそ、私の正義と光がすべての闇の勢力をかき乱した時であることを悟りなさい。これは困難で危険な時

である。なぜなら、闇に住む者たちでさえ、あなた方を誘惑し、惑わすために、あなた方の間で光の存在を装うからである。あなたがたが道から迷い出たり、私の名を悪用する者たちに欺かれたりしないよう、私はあなたがたに私の光を与える。

68. 誘惑者たちは目に見えない存在だけではない。彼らは、教えを説き、光を装いながら、実は私の教えに反する人間として、あなたがたの前に現れることもある。そのような者たちの言葉には耳を貸してはならない。（132, 7-8）

69. わが王国は強大であり、力強い。もし私が、わが力と権威の前に、別の力――すなわち悪の力――が立ち上がることを許したとしても、それはわが力を証明するためである。すなわち、欺瞞や闇に直面したとき、あなたがたがわが光と真理の力を体験し、目にするためである。それは、迷いや誘惑という暗い影の王国が、たとえ大きな力を持っていたとしても、私の道具であり、実際には私がそれを用いていることを、あなたがたに悟らせるためである。

70. 私があなた方を試すのは、あなた方の成長の道を妨げるためではない。なぜなら、私はあなた方が私の王国にやって来るのを待っているからだ。 しかし、私は、あなたがたが戦いの後に勝利して私のもとに来ることを望んでいる。長い巡礼の道のりの後に、霊的な経験の光に満ち、霊において功績を積んで、父が近づき、その神聖な口づけを与えるその瞬間に、あなたがたが謙虚に顔を上げ、父を見上げることができるように。 - その口づけには、あなたの魂のためのあらゆる幸福と完全性が込められているのだ。（327, 8-9）

道徳的罪悪

71. 人々よ、互いにぶつかり合う人々よ！私は、あなたがたが自らの悪意を否定し、自らの恥を隠しながら、自分たちが偉大だと考えるものを誇っている姿を見出した。 しかし、私はあなたがたに告げる。その見せかけの偉大さにおいて自分を称賛に値する者だと考える人間は、魂の貧しい者である。そして、徳の欠如ゆえに他人の過ちを中傷し、他人の過ちを裁く者たちには、私はこう言わなければならない。彼らは偽善者であり、正義と真実からはほど遠い存在である、と。

72. 肉体の命を奪う者だけが殺人者なのではなく、中傷によって心を引き裂く者もまた殺人者である。心の感情、信仰、理想を殺す者は、魂の殺人者である。そして、そのうちの何人が、牢獄も鎖もなく、自由に生きていることか。

73. 私がこのように語ることを不思議に思うな。なぜなら、私はあなたがたの中に破壊された

家庭を見ているからだ。あなたがたは、自らの義務を軽んじ、家族が抱く痛みや孤独を顧みることなく、家庭の外で新たな関係に身を投じてしまったのだ。周りを見回してみよ。どれほど多くの家庭が崩壊し、どれほど多くの女性が堕落し、どれほど多くの子供が父親を失っているか。そのような心の中に、優しさや愛などあり得るだろうか。あの人々の幸福を殺し、聖なるものを破壊した者は、犯罪者ではないとでも言うのか。

74. あなた方は悪にあまりにも慣れきってしまい、一瞬にして何百万もの人命を奪うことのできる、あの新しい殺戮兵器を発明した人々さえも、偉大だと称賛している。 そして、あなた方は彼らを「学者」とさえ呼んでいる。あなた方の理性はどこへ行ってしまったのか？偉大であることができるのは精神によってのみであり、真理の道を歩む者だけが真の学者である。（235, 36-39）

悪の無力さと儚さ

75. あなたがたの目には、人間の堕落は偉大であり、極めて偉大であり、人間が行使する悪の力と権力は恐ろしいものに見える。しかし、それでもなお、私はあなたがたに告げる。それらは、私の正義の力、運命と生と死、そして全創造物の主である私の神性に対しては、弱いものである。（54, 70）

76. 私のように全能である存在のみが、私と戦うことができる。しかし、もし私から神性が現れたとしても、それが私に敵対すると思うのか？ それとも、それが無から生じ得るとでも思うのか？ 無からは何も生じ得ない。

77. 私は万物であり、決して生まれたことはない。私は始まりであり終わりであり、すべての被造物のアルファでありオメガである。

78. 私が創造した存在の誰かが、神にまで昇りつめることができると想像できるか。すべての被造物には限界があり、神であるためには、限界を持たないことが必要である。権力と偉大さという夢を抱いた者は、自らの傲慢という闇に堕ちてしまったのだ。（73, 34-35）

79. まことに、あなたがたに告げる。私の愛に対抗しうる力などない。敵はみすぼらしく、敵対する勢力は弱く、真理と正義に立ち向かおうとした武器は、常に脆いものであった。

80. 悪の勢力が神の正義に対して繰り広げてきた戦いは、あなた方にとって終わりのない紛争のように見えた。 それにもかかわらず――永遠という観点から見れば、それは一瞬のことに過ぎず、あなたがたの魂が未熟であった時代に犯した過ちは、あなたがたの徳と私の慈愛に満ちた正義によって永遠に消し去ら

れる、小さな汚れのようなものとなるだろう。（179, 12-13）

許しの力

81. すべての人々よ、私はあなた方に問う。そして、ここにいるこの民をあなた方の代表として見なす。いつになったら、あなた方は内面から立ち上がり、互いに愛し合い、互いの侮辱を赦し合うようになるのか。いつになったら、ついにあなた方の惑星に平和が訪れるのか。

82. 愛から生まれる赦しこそが、私の教えの唯一の教えであり、それは悪を善へと変え、罪人を徳ある人間へと改心させ、変容させる強力な力を持っている。

83. 赦すことを学べば、あなたがたの世界に平和の始まりが訪れるだろう。たとえ千回赦す必要があろうとも、千回赦すべきである。時宜を得た和解こそが、あなたがたに苦難の杯を飲むことを免れさせてくれることを、気づいていないのか。（238, 12-14）

84. あなたがたが人間である限り、あの十字架上の私を思い出せ。私が自分の処刑人たちを赦し、祝福し、癒したように、あなたがたもまた、その困難な人生の道のりにおいて、自分に不当なことをする者たちを同様に祝福し、自分に悪を行なった者たちに対して、可能な限りの善を行いなさい。 そのように振る舞う者は私の弟子であり、まことに、私は彼にこう告げる。その苦しみは常に短く過ぎ去るであろう。なぜなら、試練の瞬間に、私は彼に私の力を感じさせるからである。（263, 56）

85. 互いに赦し合いなさい。そうすれば、あなた自身にとっても、またあなたに不当な扱いをした者にとっても、安らぎを見出すことになるでしょう。憎しみや恨みの重荷を魂に背負ってはいけません。心を清く保ちなさい。そうすれば、あなたは平和の秘訣を見出し、私の真理の使徒として生きるようになるでしょう。（243, 63）

第41章 – 現世と来世のつながり

霊界からの霊感と助け

1. あなたがたは皆、霊的完成への階段を登っている。ある者は、あなたがたが今のところ理解できないような発展の段階に達しており、またある者はあなたがたの後を追っている。

2. 闘い、愛、そして努力によって偉大となった偉大な魂たちは、小さな兄弟姉妹たち、遠ざかっている者たち、怠惰な者たちとの調和を求めます。彼らの使命は高貴で崇高であり、私の神性に対する、そしてあなた方に対する彼らの愛もまた非常に大きなものです。

3. これらの魂は、自分たちが活動と高次の発展のために創造されたことを知っている。彼らは、神の子供たちにとって無為など存在しないことを知っている。 創造においては、すべてが生命であり、動きであり、均衡であり、調和である。それゆえ、これら無数の存在たちは働き、努力し、 において自らの闘いに喜びを見出す。彼らは、そのようにして主を賛美し、隣人の進歩と完成に奉仕しているのだと悟っているからである。

4. 今日、あなたがたは私の律法が示す道から外れているため、これらの兄弟姉妹があなたがたに及ぼす影響を知らない。 しかし、もしあなたがたに、彼らが送るその波動やインスピレーション、メッセージを感知する感性があれば、彼らが自らの存在を捧げている無数の活動や高貴な行いの片鱗を垣間見ることができるだろう。

5. あなたがたは知らなければならない。それらの魂は、創造主の律法に対する愛と敬意から、自分たちにふさわしくないものを決して奪わず、禁じられたものには手を触れず、また、創造の根本的な構成要素を不調和に陥らせないために、自分たちが立ち入ってはならないと知っている場所には決して踏み込まないのだ。

6. それとは対照的に、地上の者たちは、いかに異なる行動をとっていることか。彼らは、この世で偉大かつ強大になろうとする野望に駆られ、私の教えに対して微塵の敬意も払わず、科学という鍵を用いて破壊的な自然の力を求め、未知の力への扉を開き、そのようにして自分たちを取り巻く自然の調和を破壊しているのだ！

7. いつになったら、人間は霊界の賢明な助言に耳を傾ける準備ができ、そのようにして霊界の導きに従うようになるのだろうか。

8. まことに、私はあなたに告げる。これさえあれば、あなたを待ち受ける山の頂へと、確かな道筋で導くのに十分である。そこでは、今やただあなた方に善を行い、苦難の中であなた方を支えることのみを目的としている魂たちが歩んできた、まっすぐで光に満ちた小道を目の前に見出すだろう。彼らは一歩一歩、あなた方を道の終着点へと近づけていく。そこでは、あなた方の父が皆を待っておられるのだ。

9. 私は、それらの存在たちの善さと霊的な高みについて語ったので、彼らもまた、あなた方と同様に、初めから自由意志の賜物、すなわち真の、聖なる行動の自由を与えられていたことを伝えなければならない。これは、創造主が御子らに対して抱く愛の証である。（20, 28-36）

10. あなたがたは一人ではない。私の励ましと光が、一人ひとりと共にいるからだ。しかし、

もしそれが不十分であると思われるならば、私はすべての人間の被造物の傍らに、霊的な光の存在を配した。それは、あなたがたの歩みを見守り、いかなる危険も予感させ、孤独の中の伴侶として、また人生の旅路における杖として、あなたがたに仕えるためである。 それこそが、あなたがたが守護天使や守護者と呼ぶ存在たちである。

11. 決して彼らに対して恩知らずな態度をとってはならない。また、彼らの示唆に耳を貸さないであってはならない。なぜなら、あなた方の力だけでは、 な人生のあらゆる試練を乗り越えるには不十分だからである。あなた方は、自分たちよりも進んだ存在、そして私が彼らに啓示したゆえにあなた方の未来をいくらか知っている存在を必要としているのだ。

12. あなたがたが霊化に達しない限り、それらの存在たちの戦いは非常に困難である。なぜなら、あなたがたは、彼らの困難な使命を支援するために、ほとんど何も貢献していないからである。

13. もし、あなたがたの霊化によって、目に見えず、何の誇示もなく、あなたがたの幸福と進歩のために働いている兄弟たちの存在を感じ、認識できるようになれば、あなたがたは、自分の罪のために彼らにこれほどまで苦労させ、苦しませたことを後悔するだろう。 しかし、この気づきがあなたの中に湧き上がるのは、あなたの心の中にすでに光が差しているからに他なりません。そうすれば、彼らに対する同情、感謝、そして理解が芽生えるでしょう。

14. 守護者たちは、自分たちの努力があなた方によって支えられ、彼らのインスピレーションがあなた方の高揚と調和しているのを見たとき、どれほど大きな幸福感に満たされることか！

15. あなた方には、「霊的な谷」に、あなたがたが知らない多くの兄弟姉妹や友人がいます。

16. 明日、霊的な生についての認識が地球全体に広まったとき、人類は、あなた方の傍らにいるそれらの存在の重要性を認識し、人々は私の摂理を祝福するだろう。（334, 70-76）

17. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたの信仰が確固たるものであれば、肉体の感覚で霊的な存在を感じたいという欲求は抱かないだろう。なぜなら、その時には、絶えずあなたがたの周りで脈打っているあの世界を、その繊細な感受性をもって知覚するのは、魂そのものだからである。

18. そう、人類よ、もしあなたが霊界から遠く離れていると感じるとしても、それらの存在たちは人間から遠く離れているとは感じない。彼らにとって距離も、境界も、障害も存在しないからだ。彼らは霊界に生きている。それゆえ、魂の上昇的発展

と完成こそが最高の使命である人間たちの生活から、遠く離れているはずがないのだ。（317, 48-49）

19. あなた方と神との間、あるいはあなた方と霊的存在との間に存在する唯一の距離は、物質的な距離ではなく、霊的な距離である。それは、霊感や霊的な影響を受け入れるための準備、清らかさ、あるいは受容の姿勢があなた方に欠けていることによって引き起こされるものである。

20. 決して、あなた方と師との間、あるいはあなた方と霊界との間にそのような隔たりを設けてはならない。そうすれば、あなた方は、それを求めることを知る者たちの上に、私の愛が注ぐ恵みを常に享受することになるだろう。霊界は、それを感じ取る準備をしている者たちの心に、常に近くにあるという感覚を、あなた方は常に抱くことになるだろう。

21. 現代の人類が、自分たちと霊的な生との間に築いている隔たりは、なんと大きいことか！それはあまりにも大きいため、今日の人々は神を自分たちから無限に遠く感じ、天の国を遠く離れた、手の届かないものだと考えているのである。（321, 76-78）

22. 私はあなたに告げる。霊界の影響下に生きていない人間の知性など、一つとして存在しないのだ。

23. 多くの者がこれを否定するだろうが、人間の理性が、霊的存在や同胞たちだけでなく、私自身の思考や波動さえも受け取ることが不可能であると証明できる者は、誰一人としていない。

24. これは全人類への啓示である――この啓示が広まれば、それを大きな喜びをもって受け入れる開かれた心に出会うだろう。同様に、頑固な反対者や敵対者にも遭遇するだろう。

25. しかし、彼らは、霊界の光が人々の生活の中で輝き出すのを防ぐために、一体何ができるというのか。不信者たちは、その波動を遮断するために、どのような手段を用いることができるというのか。神の創造的かつ活力を与える力である、その普遍的な影響力の外にいると自認する者など、いったい誰がいるというのか。

26. わたしはあなたがたの霊、魂、そして理性に向けて語っているが、改めて言う。あなたがたは他の存在次元からメッセージやアイデア、インスピレーションを受け取っているのだ。そして、あなたがたの魂がどこから来てこの肉体へと転生したのかが分からないのと同様に、目に見えず、触れることもできない存在が、誰が魂に語りかけているのかも分からないのである。（282, 33-37）

混乱し、悪意に満ちた霊たち

27. この時代は、第一期や第二期とは異なる。今日、あなた方は、解き放たれた目に見える要素と目に見えない要素の混沌の中に生きている。警戒しない者は災いを受けるだろう。なぜなら、その者は敗北するからだ。そして、備えのある者は戦わなければならない！

28. 数千もの目に見えない目が、あなた方を見つめている。ある者は、あなた方の道を待ち伏せ、陥れようと待ち構え、またある者は、あなた方を守ろうとしている。（138, 26-27）

29. 混乱した魂の大軍団は、人々の無知、鈍感さ、そして霊的な洞察力の欠如を利用し、人々と戦いを繰り広げている。そして人々は、その攻撃から身を守るための愛という武器を備えていないため、この戦いにおいて無防備な存在のように見えるのである。

30. この戦いに勝利するために、どのように備えるべきかを教えるために、私の霊的な教えがあなた方に届く必要があった。

31. あなた方の世界の中に織り込まれ、息づいているあの目に見えない世界からは、人々の心、感情、あるいは意志に働きかけ、彼らを の従順な僕、奴隷、道具、犠牲者へと変えてしまう影響が放たれている。 至る所に霊的な啓示が現れているにもかかわらず、世の人々は依然として、自らの精神を取り巻くものを認識しようとしない。

32. 戦いを始め、闇を打ち砕く必要がある。そうして初めて、人々の内に光が差し込んだとき、すべての人々が真の共同体として団結し、長い間彼らを支配してきた力に対して挑む戦いを、祈りによって勝利へと導くことができるのである。

33. 人類が気づかないうちに、人々や民族は、そうした影響力の支配下に陥ってしまった。それらが引き起こす稀で未知の病は、人々を倒し、科学者たちを困惑させている。

34. 人間は、どれほどの不和、どれほどの混乱と苦痛を自ら招いてきたことか。祈り、道徳、そして霊性の欠如が、不浄で混乱した存在たちを引き寄せた。しかし、光も準備もなくこの世を去った者たちに、一体何を期待できようか。

35. そこには、あなたがたが欺き、抑圧し、混乱させ、屈辱を与えた者たちがいる。彼らがあなたがたに送ることができるのは混乱と闇だけであり、彼らは復讐することしかできず、ただ非難するだけである。（152, 22-28）

36. 闇の存在たちの大群は、雷雲のように人類の中に侵入し、混乱を引き起こし、人々の思考を混乱させ、心を暗くする。そして、この人類には、こうした陰険な攻撃から身を守るための武器があるにもかかわらず、あ

る者はその使い方を理解しておらず、またある者は、自分たちがそれを所有していることさえ気づいていない。（240, 53）

37. 今日の人類は、あなたがたの目にはその数が膨大に見えるかもしれないが、彼らを取り巻く霊界と比較すれば、極めて小さい。あの軍団は、いかなる力を持って人々の道に侵入していることか。しかし、人々は自分たちを包み込むその世界を認識せず、感じもせず、聞くこともない。（339, 29）

38. 罪深い生活に陥った人間は、闇の存在たちの大軍を引き連れて歩き、その道筋に不吉な影響の痕跡を残すことになる。（87, 7）

39. もしあなたがたが、ここから「霊的な谷」――この世での霊的な旅のために何も積み重ねてこなかった、物質化した存在たちが住む場所――を見ることができたなら、あなたは打ちのめされるだろう。 しかし、一瞬たりとも「神の正義とはなんと恐ろしいことか！」などとは決して言わないだろう。いや、その代わりに、こう叫ぶはずだ。「私たちは、自分自身に対してなんと恩知らずで、不公正で、残酷なのだろう！ 私たちの魂に対してなんと無関心で、イエスの弟子としてなんと冷淡であったことか！」

40. それゆえ、父は、それらの存在たちが時折、あなた方の生活の中に姿を現し、彼らの暗く安らぎのない生活についての痛ましい、恐ろしい知らせをあなた方に伝えることを許されたのである。彼らは、霊的な故郷の輝く 光も、かつて住んでいた地球の美しさも持たない世界の住人である。（213,52-53）

41. この世を目的もなくさまよい、様々な形で人々の心の扉を叩く魂の群れは、しばしば、あなたがたに「目覚めよ」「現実に対して目を開けよ」「過ちを悔い改め、自らを新たにしなさい」と告げようとする声である。そうすれば、後にあなたがたが肉体を大地の懐に委ねたとき、彼らのように孤独や 無知、そして物質主義を嘆くことのないように。ここに、闇の中からも光が湧き出ていることを悟りなさい。なぜなら、私の意志なしに木の一枚の葉さえも動くことはないのだから。同様に、日々増え続けるそれらの霊的な現れは、やがて人々を圧倒し、最終的に人類の懐疑心を打ち破ることになるだろう。（87, 65）

42. あなた方の元を去り、あの世へと旅立つ人々のために祈りなさい。なぜなら、すべての人が道を見いだせるわけではなく、すべての人が魂を高揚させることができるわけでもなく、またすべての人が短期間で平安に到達するわけではないからである。

43. 霊界において、物質的な生活への幻想を抱いて生きる者もいれば、激しい後悔の念に苦し

む者もいる。 また、感覚を失い、肉体と共に地中に埋もれている者もいれば、嘆き、利己心、そして人間の無知によって引き留められ、物質に縛られ、平安、光、そして前進を奪われているため、この世に残された家族と別れることができない者もいる。

44. まだこの世にとどまっている魂たちが、不必要なものを抱え込むことなく、先へ進むことを許してあげなさい。彼らがこの生で所有し、愛した財産を手放し、真の遺産が待ち受ける無限の世界へと魂を高め上げられるようにしてあげなさい。（106, 35-37）

45. あなたがたが「霊の谷」に到着した際、彼らに迎えられ、あなたがたが彼らに示した慈悲に対して感謝のしるしを受け取ることは、あなたがたの魂にとって非常に慰めとなるだろう。そして、彼らが光に満ち溢れているのを見たとき、あなたがたの喜びは大きなものとなるだろう。

46. しかし、もしあなたがたが、混乱によって心を曇らされたあの大勢の存在たちに出会い、彼らがあなたがたからの愛の行いを期待していたのに、あなたがたがそれを彼らに与えなかったことを知ることになれば、それはどれほど痛ましいことだろうか。（287, 58）

47. まことに、わたしはあなたに告げる。わたしがあなた方人間をこれほど多くの愛と慈悲をもって扱うように、わたしは同じ慈愛をもって、あの世で過去の過ちを償っている者たちにも向き合うのである。 私は、闇のような彼らの動揺と、「火」である彼らの自責の念から彼らを解放するために、これらの存在たちに私の光を送る。そして、かつて人々の心に苦痛を蒔いた者たちが、今や認識の光に照らされ、自らの兄弟姉妹の恩人となり、守護者となるように、彼らを人々の間に送り出すのである。（169, 6）

人間をめぐる霊たちの戦い

48. あなた方の人間の生活の彼方には、霊たちの世界、すなわちあなた方の兄弟姉妹である、人間には見えない存在たちが存在し、彼らはあなた方を手中に収めようと互いに争っている。

49. その争いの原因は、双方の発達段階の違いにある。 光の存在たちは、愛、調和、平和、そして完全性という理想に支えられ、人類の道を光で照らし、常に善を啓発し、人々の幸福につながるあらゆることを明らかにしている一方で、依然として地上の物質主義に固執し、 自己中心やこの世への愛から解き放たれることができず、あるいは人間の欲望や傾向を際限なく養っている存在たちは、人々の道を混乱で覆っている。彼らは、人々の知性を曇らせ、心を盲目にし、意志を奴隷化することで、

人々を利用し、自らの計画の道具とし、あるいはあたかも自分の体であるかのように彼らを操ろうとするのである。

50. 光の霊界が、永遠への道を開くために人々の魂を勝ち取ろうとしている間、あの祝福された大軍が、愛を深め、病人の枕元で看病する者となり、 大きな責任の重荷を背負う人々の傍らで助言者となり、若者の指導者となり、子供たちの守護者となり、忘れ去られ孤独に生きる人々の伴侶となるよう努めている一方で、霊的知恵の光も、高揚させる愛の感情も持たない存在たちの軍団も、同様に絶え間なく人間社会の中で活動している。しかし、彼らの目的は、あなたがたが霊界への道を歩みやすくすることではない――いや、これらの存在の意図は全く正反対であり、彼らの目的は世界を支配し、引き続きその支配者であり続け、地上に永続し、人間を支配し、彼らを自らの意志の奴隷や道具にすること――一言で言えば、彼らが常に自分たちのものと考えてきたもの、すなわち世界を奪われないようにすることである。

51. さて、弟子たちよ。両者の間では激しい戦いが繰り広げられている――それは、あなたがたの肉眼には見えない戦いだが、その影響は日々、あなたがたの世界で感じられるようになっている。

52. 人間が自らを守り、悪しき影響から解放されるためには、自身を取り巻く真理についての知識が必要であり、霊と共に祈ることを学ばなければならず、また、善と悪、光と闇、精神化と物質主義という の壮大な戦いにおいて、武器として用いることができるよう、自らの存在がどのような能力を備えているかを知らなければならない。

53. まさに、光の霊的世界こそが働き、戦い、そしてすべてを準備し、いつの日か世界が霊性化への道を歩み出すようにしているのだ。

54. これらすべてについて考えてみよ。そうすれば、人類の救済に尽力するあなたの霊的な兄弟姉妹たちの戦いの激しさを想像できるだろう。彼らにとって、その戦いは杯のようなものであり、あなたは彼らから与えられるすべての善を受け取るだけに留まり、 しかし、彼らの戦いを支えるために、決して彼らの側に立ち、彼らを助けることはしない。

55. 彼らに加わることを知る者はわずかであり、彼らの霊感に耳を傾け、その助言に従う者もまた少ない。しかし、そうした者たちは、いかに力強く人生を歩み、いかに守られていると感じ、いかなる歓びと霊感によってその精神が鼓舞されていることか！

56. 大多数の人々は、この二つの影響の間で揺れ動いている。

どちらにも決着をつけず、物質主義に完全に身を委ねることもなければ、そこから解き放たれ、自らの生活を精神化すること――すなわち、善、知識、そして精神的な力によってそれを高めること――のために努力することもない。彼らは依然として、自分自身との闘いの真っ只中にいる。

57. 良心の声などもはや気にも留めず、自らの魂に関わるあらゆるものを軽んじて、物質主義に完全に身を委ねてしまった者たちは、もはや戦ってはいない。彼らは戦いに敗れたのである。 彼らは勝利したと信じ、自由であると信じているが、自分たちが囚人であることに気づいておらず、彼らを解放するためには、光の軍勢が闇へと降りてくる必要があることに気づいていない。

58. 私はこの光のメッセージを、地球上のすべての民族に送る。それは、人々が目覚め、彼らが打ち負かすまで戦わなければならない敵が誰であるか、そして彼らが知らず知らずのうちに携えている武器が何であるかを自覚するためである。（321, 5363）

神の霊界とのつながり

59. 弟子たちよ、目覚めよ。そして、あなたがたが生きているこの時代を認識せよ。私は言う。私の正義を阻む者がいないのと同様に、私の慈悲によって開かれたあの世への門を、誰も閉ざすことはできない。あの世界から、光と希望と知恵のメッセージが人々に届くことを、誰も妨げることはできない。（60, 82）

60. わたしは、あなたがたが短期間、あの世の存在たちと交信することを許した。これは「第二の時代」には認めなかったことである。なぜなら、当時、 、彼女たちも、あなたがたも、その準備ができていなかったからである。この扉は、この時代にわたしによって開かれたものであり、それによって、わたしは預言者たちの告げと、わたしの約束のいくつかを成就させるのである。

61. 1866年、この目に見えない扉があなた方のために開かれ、また、光の霊たちが人々に伝えるであろうそのメッセージを告げ知らせるために選ばれた者たちの伝達機関も現れた。

62. その年より以前にも、地球上の諸国や諸民族の中に、私の到来を告げる先駆けとなる霊的存在たちが現れていた。（146, 15）

63. もし今日の人々がそれほど冷酷で無感情でなければ、彼らは間違いなく絶えず霊界からのメッセージを受け取ることになるだろう。そして時折、人々の目覚めに向けて絶えず働きかけている無数の存在たちに囲まれていることに気づき、自分たち

が決して一人ではないと悟るだろう。

64. ある者はその世界を「目に見えない」と呼び、ある者は「あの世」と呼ぶ。しかし、なぜだろうか。それは単に、彼らが霊的なものを「見る」ための信仰を欠いているからであり、また、彼らの人間の貧しさゆえに、心の中で感じるべき世界から遠く離れ、異質なものだと感じさせられているからである。（294, 32-33）

65. あなたがたは、霊的存在が自らを現したり、あなたがたと接触したりすることに驚いているが、それと同時に、あなたがた自身もまた自己表現を行い、他の世界や他の領域においてさえも自らを現しているということを、思い至っていない。

66. あなたの「肉体」は、祈りの瞬間にあなたの魂が私と結びついていることに気づいていない。この賜物を通じて主へと近づくことを、肉体は認識できないのだ――私の霊だけでなく、祈りの瞬間にあなたが思い起こす霊的な兄弟姉妹たちへの接近も同様である。

67. 同様に、あなたがたは、休息の時間、つまり肉体が眠っている間に、魂がその発達段階や霊化の度合いに応じて肉体から離れ、遠く離れた場所、さらにはあなたがたの知性では想像すらできない霊的な世界にまで現れることにも気づいていない。

68. 誰も、これらの啓示に驚いてはならない。あなたがたは今、時代の完結に近づいていることを理解せよ。（148, 75-78）

69. 私は、純粋な思考こそが、霊界に住む兄弟姉妹たちとあなたがたが意思疎通を図るための言葉となることを望む。そのようにして互いに理解し合うのだ。まことに、あなたがたの功績と善行は彼らにとって有益となるであろう。同様に、私の子供たちの影響力、彼らの霊感、そしてあなたがたへの保護は、あなたがたが共に私のもとへ来るために、人生の道において力強い助けとなるであろう。

70. 霊性を高めなさい。そうすれば、あなた方は人生において、あの存在たちの慈愛に満ちた臨在を体験することになるだろう。すなわち、地上に子供を残して旅立った母の愛撫、、そして同様にこの世を去らざるを得なかった父の温かさと助言である。(245,7-8)

71. この著作は、霊的な存在たちがそこに現れていることを知ると、多くの人々から批判され、拒絶されるだろう。しかし、心配する必要はない。私の教えのこの部分を敵視するのは、無知な者たちだけだからである。

72. 主の使徒たち、預言者たち、そして使者たちは、霊的な光の存在たちの影響を受けて、人類がそれに気づくことなく、どれほど頻繁に世に語りかけてきたことか。また、あなた方一人

ひとりが、霊的存在たちの意志に従って行動し、語ってきたことが、どれほど頻繁にあったことか。そして、これまでも常に起こってきたまさにこのことを、私は今、あなた方に確認したのだ。（163, 24-25）

73. もし、単なる好奇心からあの世とのつながりを求めようとするならば、あなたは真理を見出すことはできない。もし、偉大さへの渇望や虚栄心からそうするならば、あなたは真の啓示を受けることはない。 もし誘惑が、偽りの目的や利己的な利益であなたの心を惑わすならば、同様に、私の聖霊の光とのつながりを得ることはできないだろう。 ただ、あなた方の畏敬の念、純粋な祈り、愛、慈悲、そして魂の高揚こそが、あなた方の魂が翼を広げ、空間を横切り、私の意志が及ぶ限り、霊的な住処へと至るという奇跡をもたらすのである。

74. これこそが、聖霊があなた方に授けた恵みと慰めである。それは、あなた方が一つの故郷を仰ぎ見、死も疎外も存在せず、私の被造物の一人も永遠の命に関して死ぬことはない、ということを確信するためである。なぜなら、この「第三の時代」において、あなた方は、この地上の生を去った者たち、すなわち、あなた方が知っていた者たち、愛していた者たち、この世では失ったが永遠においては失っていない者たちをも、霊的な抱擁で包み込むことができるようになるからである。

75. あなた方の多くは、私の「働き手」たちの助けを借りて、そうした存在たちと接触してきた。 しかし、まことに、私はあなた方に告げる。これは完全な接触の方法ではない。そして、肉体をまとった魂と肉体を離れた魂が、もはやいかなる物質的あるいは人間的な手段を用いることなく、霊から霊へと互いに意思疎通を図れる時が近づいている。すなわち、霊感、魂の繊細さという賜物、啓示、あるいは予感の能力を通じてである。あなた方の霊の目は、あの世の存在を感知できるようになり、その後、あなた方の心は「霊の谷」に住む存在たちの生命の表れに共感するようになる。そうすれば、あなた方の霊の歓喜、そして父への認識と愛は、大きなものとなるだろう。

76. そうして、あなたがたは、自分の魂が何であるか、魂が誰であり、かつて誰であったかを、自分の肉体に相当するような狭い枠組みに自らを閉じ込めることなく、自分自身を知ることで理解するようになるだろう。なぜなら、父はこう言われるからだ。「たとえあなたがたの肉体の物質が実際に小さくとも、あなたがたの霊は、いかに私の神聖な霊に似ていることか！」（244, 21-24）

第42章 - 罪と贖罪、試練と苦しみ

悔い改めと贖罪の必要性

1. 私がしばしば、あなたがたが隣人に与えたのと同じ杯を飲むことを許すのは、そうして初めて、自分たちが引き起こした悪を理解できる者もいるからである。そして、他者に味わわせたのと同じ試練を通ることで、彼らは他者に感じさせた痛みを知るようになる。 これは彼らの魂を照らし、理解と悔い改め、ひいては私の律法の成就をもたらすことになる。

2. しかし、もしあなたがたが苦しみを通ることを避けたい、あるいは苦難の杯を飲むことを避けたいと望むなら、悔い改めや善行、そして良心が命じるあらゆる行いによって、自らの罪を償うことで、それを成し遂げることができる。 そうすれば、愛の負債を清算し、かつて同胞から奪った名誉、命、あるいは平和、健康、喜び、あるいはパンを返すことになるのだ。

3. 私の正義の現実が、あなたがたが自分の父について抱いていたイメージとは、いかに異なるかを見てください！

4. 忘れてはならない。私が「あなたがたのうち、だれ一人として滅びる者はいない」と言ったとき、私は確かに、「あらゆる罪は償われ、あらゆる過ちは命の書から消し去られなければならない」とも言ったのだ。私のもとへ至る道を選ぶのは、あなたがた次第である。あなたがたには、依然として自由意志があるのだ。

5. もしあなたがたが、高慢な国々の人々が今もなお用いているような、昔ながらの報復の法則を好むのであれば、その結果を見てみよ！

6. もし、あなたがたが、他人を測るその物差しで、自分自身も測られることを望むなら、私の正義を受けるために、あの世へ旅立つのを待つ必要さえない。なぜなら、ここ（地上）で、あなたがたが最も予期しない時に、あなたがたは、他人を陥れたのと同じ危機的な状況に、自ら置かれることになるからだ。

7. しかし、もしあなたがたが、より高き法に助けを求めているのであれば――単にあなたがたが最も恐れる苦痛から解放されるためだけでなく、高潔な思いと善き感情を授かるためにも――祈り、わたしを呼び求め、そして、より良き者となるために、試練の中で強くなるために、 ――一言で言えば、 愛をもって、あなたがたが父と隣人に対して負っている罪を償うために。（16, 53-59）

8. よく誰かからこう尋ねられる。「師よ、もしあなたが私たちの過ちを赦してくださるのなら、なぜ私たちが苦しみをもってそれを償うことを許されるのですか？」それに対して私はこ

う言う。私はあなた方を赦すが、あなた方の魂に清らかさを取り戻すためには、それらの過ちを償うことが必要なのである。（64, 14）

9. 私は、人間の心から最後の汚れさえも消し去られるとあなた方に告げたが、同時に、各自が自らの汚点を洗い流さなければならないとも告げる。私が「あなたがたが量るその尺度で、あなたがたも量られる」と、「蒔いたものは刈り取らなければならない」と告げたことを思い出せ。（150, 47）

10. 人類が私に捧げる物質的な供物について、私は、それが真に善きものである場合にのみ、その善意を受け入れる。なぜなら、供物の中に、常に寛大で高潔な意図が表れているとは限らないからである。 人々は、自分の悪行を隠すため、あるいはその見返りとして私に何かを要求するために、どれほど頻繁に犠牲を捧げようとするか。それゆえ、私はあなたに告げる。魂の平安は金で買えるものではなく、たとえあなたが私に最大の宝を捧げることができたとしても、物質的な富によってあなたの心の汚れが洗い流されることはないのだ。

11. 悔い改め、私を侮辱したことへの痛み、刷新、改善、犯した過ちの償い、これらすべてを、私があなたがたに教えた謙遜さをもって――そう、 そうしてこそ、人々は心と魂と思いの真の捧げ物を私に捧げるのであり、それは香や花や蝋燭よりも、あなたがたの父にとって限りなく喜ばしいものである。508 第42章（36, 27-28）

贖罪の法則

12. あなた方は次々と機会を与えられてきた。そこには、あなた方に対する私の限りない愛が表れている。なぜなら、私はあなた方に恵みを与え、あなた方の存在に過ちを償い、魂を清め、完成させる機会を与えたからである。かつてあなた方が考えていたように、あなた方を罰したり、永遠に破滅させたりするのではなく。

13. これらの教えを知り、それが真実であると信じる者が、それによって自分の魂にさらに厳しい贖罪を招くことを知りながら、あえて地上の使命に背を向けるだろうか。

14. なぜなら、私の正義が、汚れを取り除き過ちを償うための新たな機会をあなた方に与えるというのは事実であるが、同時に、機会が増えるごとに試練の数も増え、犯した過ちが重くなるにつれて、その苦労や苦しみも毎回より激しくなるというのもまた事実だからである。

15. あなた方の義務――罰などと言うべきではないが――は、回復し、刷新し、償い、最後の罪に至るまで清算することにある。 天の父も、地上の兄弟姉妹も、「霊界」の者たちも、あな

たがた自身だけがなすべきことを代わって行う者は誰もいない。とはいえ、私は常にあなたがたの呼び声に応えるだろう。もしあなたがたが孤独で、見捨てられたと感じるなら、私の存在を感じるだろう。そして、霊界は常に、あなたがたの十字架の重荷を支えるためにやって来るだろう。（289, 45-47）

16. 今日、私の愛と正義のみが、それを渇望し、飢えている者たちを守ることができる。私だけが、その完全な正義をもって、自ら命を絶つ者を受け入れることができるのだ。

17. もし彼らが、魂の孤独がこの世の孤独よりも恐ろしいものであることを知っていたなら、彼らはこの地上の生涯の最後の日まで、忍耐強く、勇気を持って耐え抜くであろう。（165, 73-74）

18. たとえ彼らがどれほど私を傷つけたとしても、私は自分の子供たちを滅ぼすことはない。私は彼らを守り、過ちを償い、彼らが離れてしまった道へと立ち返る機会を与える。しかし、私が彼らを赦したとしても、彼らは自らの行いの結果と向き合うことになり、それこそが彼らを裁き、正しい道へと導くのである。（96, 55）

試練と苦しみの原因

19. 自らを悟れ！私はあらゆる時代の人々の存在を観察し、彼らのあらゆる苦痛と不幸の根本原因が何であったかを知っている。

20. 太古の昔から、私は、人々が嫉妬や物質主義、権力への渇望から（互いに）命を奪い合うのを見てきた。 彼らは常に、自分たちが単なる物質に過ぎないと信じ、魂を顧みなかった。そして、地上での人間の姿を後にする時が来ると、彼らが物質的な生活の中で作り出したものだけが残り、精神にとってのいかなる至福も得られなかった。なぜなら、彼らはそれを求めず、考えもせず、精神の美徳にも知識にも関心を払わなかったからである。 彼らは、神へと導く道を求めることなく、ただ生きることに満足していた。（11, 42-43）

21. 今日、文明の進歩にもかかわらず、あなたがたは物質的な自然からますます遠ざかり、同様に、霊的なもの、清らかなもの、神に由来するものからも遠ざかっている。それゆえ、地上での日々を過ごすごとに、より強く、より幸せになりたいという願いにもかかわらず、人生の各段階において、ますます大きな弱さと、ますます大きな苦しみの中に陥っているのだ。 しかし、おお、地上の住人たちよ、今やあなたがたは、わたしの律法の成就において一歩前進することになるのだ！（16, 35）

22. あなたがたが人生の道で遭遇する試練は偶然ではない。あなたがたが功徳を積むために、

私がそれらを送ったのだ。木の一枚の葉さえも、私の意志なしには動かない。そして私は、創造の大きな業にも小さな業にも共に在る。
23. 目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、あなたがたは、それぞれの試練からどのような実を収穫すべきかを理解し、その贖罪の期間が短くなるだろう。愛をもって自分の十字架を背負いなさい。そうすれば、私はあなたがたが忍耐をもってその贖罪を背負えるようにする。（25, 6）
24. 人々が笑い、楽しみ、虚栄にふけって私を忘れ、さらには私を否定するならば、なぜ彼らは、魂と肉体を苦しめる涙の収穫を刈り取るときに、落胆し、震えるのか。そして彼らは冒涜し、神などいないと言うのだ。
25. 人は罪を犯すには十分に勇敢であり、わたしの律法の道から逸れることには決然としている。しかし、贖罪し、その負債を清算することになると、人は極めて臆病になる、とわたしは保証する。 それでもなお、私はあなたがたの臆病さを強め、弱さを守り、無気力から引き離し、涙をぬぐい、失われた光を取り戻し、忘れ去られた私の律法の道を再び見出せるよう、新たな機会を与える。
26. わたしは、「第二の時代」の時のように、魂のためにも、また体のためにも、命のパンとぶどう酒をあなたがたにもたらすために来る。それは、あなたがたが、父が創造されたすべてのものと調和して生きるためである。
27. わたしの道には美徳が咲き誇るが、あなたがたの道には茨、深淵、そして苦難がある。
28. 主の道は茨に満ちていると言う者は、自分が何を言っているのか分かっていない。なぜなら、私はどの子供のためにも苦痛を創り出したわけではないからだ。しかし、光と平和の道から離れた者たちは、その道に戻る際、自らの罪の結果を味わわなければならない。
29. なぜ、あなたがたは苦しみの杯を飲み干したのか。なぜ、主の戒めも、私があなたがたに託した使命も忘れてしまったのか。それは、あなたがたが私の律法を自分たちの律法に置き換えてしまったからだ。そしてここに、あなたがたの虚栄に満ちた知恵の結果がある。それは、苦しみ、戦争、狂信、失望、そして嘘であり、それらはあなたがたを窒息させ、絶望で満たすものである。 そして、物質主義に染まった人間、すなわち、あらゆるものを自分の計算に従わせ、この世の物質的な法則に従属させる者にとって、最も痛ましいことは、この世を去った後もなお、自らの迷いや欲望という重荷を背負い続けなければならないということである。その時、あなた方の魂の苦しみは極めて大きなものとなるだろう。

30. ここで、あなたがたの罪の重荷を振り払い、わたしの律法を守り、すぐに来なさい。あなたがたが傷つけたすべての人々に許しを請い、残りはわたしに委ねなさい。 あなたがたが本当に愛することを決心すれば、愛する時間は短いものとなるからである。（17, 37-43）

31. 心に秘めた悲しみを抱いている者たちよ、皆、わたしのところに来なさい。あなたがたは、裏切りによって与えられた痛みを密かに抱えており、深く傷つけたのがとても愛していた存在であったため、その恨みは極めて大きい。

32. 心の中で静まりなさい。そうすれば、祈りがあなたを照らし、かつてあなたが裏切られた原因を、あなた自身が作っていたのではないか、と気づくことができるでしょう。そうすれば、祈りは、あなたの愛、信仰、信頼を裏切った者たちを赦さなければならない、という思いをあなたに強めてくれるでしょう。

33. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたを傷つけた者を赦すその瞬間、あなたがたは私の平安を満ち溢れるほどに感じるだろう。なぜなら、その瞬間、あなたがたの霊は私の霊と一つとなり、私は私のマントを広げ、あなたがたを赦し、二人を私の愛に包み込むからである。（312, 49-51）

34. まことに、師はあなたがたにこう告げる。わたしは、すべての魂のために、平和と完全なる王国を用意した。しかし、わたしが用意したこの王国には、別の王国、すなわち「世界」が対立している。わたしの王国は謙遜、愛、徳によって勝ち取られるが、もう一方の王国を手に入れるには、傲慢、野心、高慢、貪欲、利己主義、そして悪意が必要とされる。

35. いつの時代も、この世は私の王国に抵抗してきた。私に従う者たちは、目に見える影響であれ、目に見えない力によるものであれ、常にその道において迫害され、誘惑にさらされてきたのである。

36. あなたがたが私のもとへ至るために茨の上を歩むのは、今この時だけではない。私の御前に達しようと努める中で、あなたがたの魂がつまずくのは、今回が初めてではない。いつの時代も、あなたがたは自らの内なる深みで戦いを繰り広げてきた。

37. わが霊の霊感は、あなたがたの内面を照らし、闇の力、偽りの光、偽りの美徳、物質、あらゆる余分なもの、この世のあらゆる偽りの栄光との戦いを引き起こした。（327, 3）

38. あなたがたが私のために耐えてきた苦痛を、私は祝福する。なぜなら、私のためにあなたがたが受けるすべての苦しみは

、あなたがたを永遠に尊い者とするからである。（338, 61）

試練における信仰、服従、そして謙遜

39. 人間の生活は、魂にとって、自らを清めるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるる

40. 永遠の命への信仰がなければ、人はあらゆる厳しい試練の中で絶望に陥り、高き理想がなければ物質主義に沈み、失望に耐える力がなければ、気力を失うか、あるいは悪徳の中に滅びてしまう。（99, 38-39）

41. わたしはあなたがたに、自分の十字架を愛すべきだと言う。なぜなら、それを肩に担がなければならないのにそれに反抗すれば、その痛みがあなたがたの心に深い傷を刻むことになるからだ。わたしは本当に自分の十字架を愛している、おお、民よ。しかし、あなたがたは、私が自分の十字架を何と呼んでいるか知っているか。私の十字架とは、私がこれほどまでに愛している、おお、人々、すなわちあなたがた自身でできているのだ。（144, 20）

42. 私が定めたことに対する信仰、服従、そして謙遜は、試練の道を短くするだろう。なぜなら、そうすれば、あなたがたは苦難の道を二度と歩む必要がなくなるからだ。 しかし、試練の中で反抗や不満、あるいは神への冒涜さえ生じれば、その試練は長引くことになる。なぜなら、その教訓を学ぶまで、その道を再び歩まなければならないからだ。（139, 49）

43. わたしはあなたがたに言う。この時代に人間が自ら招いた試練は極めて厳しいものである。なぜなら、それらは人間の救いのために必要だからである。

44. すべての人にとって最も愛する者に対して、神の正義が執行され、すべての人間の被造物の行いについて問責が行われるのである。

45. 人間が、霊的な贖罪とは何を意味するのかを悟ることが、いかに重要であるか。そうして初めて、魂には神のみが知る過去があるという認識のもと、愛と忍耐と敬意、さらには喜びをもって、自らの苦難の杯を受け入れることができるのだ。それによって、過去と現在の汚名を洗い流し、負債を清算し、法の前で功績を積むことになるのだと知ることによって。

46. 愛をもって苦しみ、私の正義を尊重し、各自が自ら招いた結果に身を委ねていなければ、苦しみの中に魂の高揚は生じない。 しかし、試練の只中におけるこの高揚こそが、人々に「霊的償いの法則」とは何かという認識を与えることができるのである。（352、36-37、42-43）

苦しみと痛みの意味

47. もしあなたがたが人生の試練を偶然のせいにすれば、強くなることは難しいだろう。しかし、贖罪とは何か、正義と償いとは何かという概念を持っていれば、試練に打ち勝つための高揚と受容を、信仰の中に見出すことができるだろう。

48. 私は、あなたがたの魂を様々な方法で試すことを望んでいる。なぜなら、私はそれを形成し、鍛え上げ、完成させるからである。そのために、私はあらゆる物とあらゆる人々を用いる。私は、義人をも、また 悪人をも道具として用いる。ある時は光を用い、またある時は闇を私の僕とする。 それゆえ、私はあなたがたに言う。もしあなたがたが危機的な状況に置かれたなら、私、すなわちあなたがたの師を思い起こしなさい。私は愛をもって、その試練の理由をあなたがたに説明してあげるだろう。

49. すべての者が飲まなければならない杯がある。ある者は早く、ある者は遅く、そうしてすべての者が私を理解し、愛することを学ぶためである。苦難、病気、中傷、不名誉は、罪人の唇だけに届くわけではない、非常に苦い杯である。 あの「第二の時代」において、最も義なる方が、あなたがたが想像しうる最も苦い杯を飲み干されたことを思い出せ。その苦難の杯を飲む際の従順、謙遜、そして愛こそが、十字架の重荷を軽くし、試練をより早く過ぎ去らせるのである。（54, 4-6）

50. あなた方を囲むすべてのものは、あなた方を清めることを目的としているが、誰もがそう受け止めているわけではない。あなたがたが苦難の杯から飲む痛みを、実りのないものにしてはならない。その痛みから、知恵、柔和さ、強さ、そして感受

性という光を得ることができるのだ。（81, 59）

51. 弟子たちよ、痛みはあなたがたの心から悪い実を取り除き、経験を与え、過ちを正すものであることを知れ。

52. このようにして、あなたがたの父は、あなたがたの理解が明るくなるよう、あなたがたを試される。しかし、もしあなたがたが理解せず、私の賢明な教訓の意味を見出せないために実りのない苦しみを味わうならば、その痛みは無意味であり、あなたがたはその教訓を活かすことができない。（258, 57 58）

53. 人々は叫ぶ。「もし慈悲と愛の神がおられるのなら、なぜ善人は悪人によって、義人は罪人によって苦しめられなければならないのか？」

54. まことに、わが子らよ、言っておく。この世に生まれてくる者は、ただ自分の魂の救いを得るためだけではない。人は孤立した個人ではなく、全体の一部なのだ。

55. 人間の体において、他の臓器が病気であるとき、健康で完全な臓器が苦しむことはないだろうか。

56. これは物質的な例えであるが、それによって、一人ひとりの人間と他の人々との間に存在する関係を理解してほしい。 善人は悪人のために苦しむことになるが、兄弟姉妹の霊的進歩のために尽力しないならば、善人もまた完全に無罪とは言えない。しかし、個人として、誰もがそれぞれの責任を負っており、その人は私の霊の一部であり、それに似ているゆえに、すべての者の進歩に寄与するための意志と知性を備えているのである。（358, 18-19）

57. 私の教えを正しく解釈しなさい。私の霊が、地上のあなた方の苦しみを見て喜んでいるとか、私があなた方の喜びをすべて奪い取り、それを楽しんでいるなどとは決して思ってはならない。 私は、あなたがたに私の律法を認識し、遵守するよう させるために来る。なぜなら、それらはあなたがたの敬意と遵守に値するものであり、また、それらを守ることは、あなたがたに永遠の至福と永遠の平安をもたらすからである。（25, 80）

58. あなたがたが地上に住んでいる限り、その生活をできるだけ快適なものにするよう努めてよい、と私は言わなければならない。来世での平安を得るために、絶えず泣き、苦しみ、「血を流す」必要はないのだ。

59. もしあなたがたがこの地を、涙の谷から幸福の世界へと変えることができ、互いに愛し合い、善を行うよう努め、私の律法に従って生きることができるならば――まことに、 私は言おう、そのような人生は、たとえあなたがたがどれほどそれを耐える意志を持っていたとしても、苦しみ、不幸、そして涙に満ちた人生よりも、私の目にはさ

らに称賛に値し、高貴なものとなるだろう。（219, 15-16）
60. 痛みは永遠に続くものではないことを喜びなさい。あなたの苦しみは一時的なものであり、すぐに過ぎ去る。
61. 試練を霊的な視点から捉える者にとって、贖罪と浄化の時はつかの間である。しかし、物質主義に完全に没頭する者にとっては、実際にはすぐに過ぎ去るものが長く続くことになる。
62. あなたの心臓の鼓動が過ぎ去るように、無限の彼方において、人の命も過ぎ去っていく。
63. 恐れる理由などない。なぜなら、人がため息をついたり、涙を流したり、言葉を口にしたりするように、人間の苦しみもまた過ぎ去っていくのだから。
64. 神の限りない慈愛の中で、あなたがたのすべての痛みや苦しみは、無に溶けていくのです。（12, 5-9）

第43章 – 病気、癒やし、そして再生

病気の起源と意味

1. 人が祈りと善行を怠ることで善の道から逸れると、道徳的な力や霊性を失い、誘惑にさらされる。そして弱さゆえに罪を犯し、それらが心を病ませる。
2. しかし、私は医者として病人の寝床に訪れ、彼に私の愛と慈しみをすべて注いだ。私の光は、熱で乾いた唇に注がれる清らかな水のようなものであり、彼が額に私の香油を感じたとき、彼は私にこう言った。「主よ、あなたのみが私を救うことができます。 私の魂はひどく病んでおり、死がすぐに私のもとに来るでしょう。」
3. しかし、私は彼にこう言った。「あなたは死なない。なぜなら、命そのものである私が来たのだから。そして、あなたが失ったものはすべて、あなたに返されるだろう。」（220, 39）
4. どんな努力もできない病人は、どのような功徳を積むことができるだろうか。もし彼が忍耐と受容をもって身構えることを知り、神の御心に対して謙虚であり、その痛みにもかかわらず私を祝福することができれば、彼の功徳は多岐にわたり、大きなものとなり得る。 なぜなら、その模範は、暗闇の中に住み、絶望し、試練に直面すると悪徳に身を委ねたり死を考えたりする多くの心を照らすことになるからだ。
5. こうした人々が、その道のりで、自らも非常に重い十字架を背負い、多くの苦しみを味わっている心から湧き出る、信仰と謙遜と希望の模範に出会ったとき、彼らは自分の心が一筋の光に触れたのを感じるだろう。
6. まさにその通りである。彼らは自らの霊の声を聞き取ることができなかったため、他の人物がその模範と信仰を通じて彼ら

に伝えた霊の光を受け取らなければならなかったのだ。
7. 決して打ち負かされたと思わず、決して失敗したと宣言せず、苦しみの重荷に屈してはならない。常に、信仰という燃えさかる灯を眼前に掲げなさい。この信仰と、あなた方の愛が、あなた方を救うだろう。（132, 38-39）

自らの力で癒やすこと

8. あなたがたは、わたしに癒やしを求めている。しかし、まことに、あなたがた自身ほど優れた医者などいないと、わたしは言う。
9. もしあなたがたが、自分の過ち、罪、悪癖、そして不完全さを捨て去らないのであれば、私があなたがたを癒し、痛みを取り除いたところで、何の益があるだろうか。病の原因は痛みではなく、あなたがたの罪である。見よ、これこそが痛みの根源なのだ！だから、罪と戦い、そこから離れよ。そうすれば、あなたがたは健康になるだろう。しかし、これを行うことは、あなたがたの課題である。 私はただ教え、その手助けをするだけである。
10. もしあなたがたが、良心を通じて自らの苦しみの原因を見出し、それを打ち負かすために全力を尽くすならば、その戦いに勝利し、霊的な自由を勝ち取るのを助ける神の力を、完全に感じることになるだろう。
11. 自らの功績によって苦痛から解放され、平安を得たと感じたとき、その満足感はどれほど大きなものになるだろうか。その時、あなたはこう言うだろう。「父よ、あなたの御言葉が私の癒やしであり、あなたの教えが私の救いでした。」（8, 54-57）
12. 人々よ、すべての病を癒やす真の癒しの香油は、愛から湧き出るものである。
13. 霊をもって愛し、心と知性をもって愛しなさい。そうすれば、あなたがたには、単に身体の病を癒したり、些細な人間の苦難を慰めたりするだけでなく、霊的な謎、魂の大きな恐怖、その動揺や良心の呵責を解き明かすのに十分な力が備わるだろう。
14. その癒しの薬は、大きな試練を解き放ち、光を灯し、苦痛を和らげ、締め付ける鎖を溶かす。
15. 科学に見放された人間も、この香油に触れることで健康と生命を取り戻すだろう。離反した魂も、呼びかける兄弟の愛の言葉によって帰ってくるだろう。（296, 60-63）
16. 苦痛をなくしなさい！わたしが創造した生命は、苦痛に満ちたものではない。苦しみは、神の子らの不従順と過ちから生じる。苦痛は、人間が放縦のうちに作り出した生命に特徴的なものである。

17. 視線を上げ、わたしの業の美しさを見出せ。神聖なコンサートを聴き取れるよう、内面を整えよ。この祝宴から自らを締め出してはならない。もしあなたがたが自らを隔離するなら——どうしてこの歓びに与ることができるだろうか。あなたがたは悲しみ、苦しみ、病んで生きるだろう。

18. わたしは、あなたがたが宇宙のコンサートにおいて調和のとれた音色となり、あなたがたが命の源から生まれたことを理解し、すべての魂の中にわたしの光があることを感じることを望んでいる。いつになったら、あなたがたは完全な成熟に達し、わたしにこう言えるようになるだろうか。「父よ、わたしの魂をあなたの御霊に委ねます。わたしの意志と人生もまた、あなたの御霊に委ねます。」

19. あなたがたの感覚が病んでおり、魂が利己的に正しい道から外れている限り、これを言うことはできないのだと悟りなさい。

20. あなたがたは、病の苦しみ、あるいは病を招くことへの恐れの中で生きている。しかし、魂の過ちと比べれば、肉体の病など何の意味があるだろうか。魂が立ち上がることができるならば、それは何の意味もない。なぜなら、私の憐れみの中に、あなたがたは常に助けを見出すからである。

21. 血があなたの静脈を流れ、全身に活力を与えるように、神の力は命の流れとしてあなたの魂に浸透する。あなたがたが律法を全うするならば、病気になる理由などない。命とは、健康であり、喜びであり、幸福であり、調和である。あなたがたが病んでいるなら、神の恵みの宝庫となることはできない。

22. 病んだ思考、心、あるいは身体を持つ人々よ、師はこう告げる。全能者の子であるあなたの魂に、正しい道へと立ち返り、あなたの苦しみを癒し、あなたの弱さを支えてくれるよう願いなさい。（134, 57-59）

人間の再生

23. 虚栄心——最初の人間においてすでに現れていた弱さ——は、霊化によって打ち負かされるであろう。 それは、古来より魂と「肉」との間に存在してきた闘いである。なぜなら、父の本質を渇望する魂が永遠かつ高きものへと傾く一方で、「肉」は、たとえそれが魂の害となるものであっても、ただ自分を満足させ、喜ばせるものだけを求めるからである。

24. あらゆる人間に現れるこの闘いは、世界が人間に及ぼす影響の結果として、人間自身の中に生じる力である。なぜなら、地上のものは、その本性にかなうあらゆるものを求めるからである。

25. もし魂がその力を制し、正しい軌道へと導くことができるならば、魂は自らの本質において両方の性質を調和させ、進歩と昇華を達成することになる。それに対して、もし「肉」の力に支配されてしまえば、魂は悪へと誘惑され、嵐の真っ只中に舵のない舟となるだろう。（230, 64）

26. あなた方――不信仰者や疑い深い者たち――は、正義の世界を信じることができず、また、この地上に愛と徳に満ちた生活があることなど想像もできない。一言で言えば、あなた方は自分たちに何一つ良いことを成し遂げる能力がないと思い込み、自分自身への信頼も持っていないのだ。

27. しかし、私はあなた方を信じている。私の子供たち一人ひとりの内に宿る一粒の種を知っている。なぜなら、私が彼らを創造し、私の愛によって彼らに命を与えたからだ。

28. 私は確かに人間に希望を託し、その救い、その価値ある者となること、そしてその高みへの昇りを信じている。 なぜなら、私が人間を創造したとき、私は彼を地上の主と定め、そこで愛と平和の場を作り出すべきであると定めたからである。また、私は、彼の魂が人生の闘いの中で強くなり、功績によって、あなたがたに永遠の遺産として与えられている完全なる王国の光の中で生きるに至らなければならないとも定めたのである。（326, 44-46）

第44章 – 神的な意味での生活

必要な均衡

1. すべての人の運命は、その霊的使命と人間的使命によってあらかじめ定められている。両者は互いに調和し、一つの目標に向かって進むべきである。まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしはあなたがたの霊的な行いだけでなく、物質的な行いも評価する。なぜなら、それらの中に、あなたがたの霊がわたしのもとへ至るのを助ける功績を見出すからである。（171, 23）

2. これまで、人間の傲慢さは彼に精神的な側面を軽視させてきた。そして、その知識の欠如が、彼が完全になることを妨げてきた。

3. 人間が、肉体的および精神的な力を調和させて保つことを学ばない限り、人生においてあるべき均衡を見出すことはできないだろう。（291, 26-27）

4. 弟子たちよ。あなたがたは世の中に生きながらも、霊的な生活を送ることができる。なぜなら、霊化とは、肉体にかなうものから背を向けることにあるのではなく、人間の法則と神の法則とを調和させることにある

と、あなたがたは考えるべきだからである。
5. わたしの律法を学び、それを人間の律法と一つに統合することを理解する者は祝福される。なぜなら、その者は健康で、強く、寛大で、幸福になるからである。（290, 26-27）

善き喜びと堕落をもたらす喜び

6. 私は、あなたがたに、この世の義務や、心と感覚がもたらす健全な喜びから背を向けるよう言っているのではない。私があなたがたに求めるのは、魂を毒し、体を病ませるものを断つことだけである。
7. 律法に従って生きる者は、良心が命じることを果たしている。 許された喜びを軽んじて、禁じられた快楽に身を投じる者は、最も大きな喜びの瞬間でさえ、なぜ自分は幸せになれず、平安も見出せないのかと自問する。なぜなら、快楽から快楽へと、その人はますます深く沈み込み、心と魂に真の満足を見出すことなく、深淵で滅びてしまうからである。
8. ある者たちは、屈服せざるを得ず、喜びを求めても見つからなかったその杯を、最後の一滴まで飲み干さなければならない。そうして初めて、彼らを永遠の命の祝宴へと絶えず招く御方の声を聞くことができるのである。（33, 44-46）
9. 科学者は、畏敬の念を持たない手で、科学の樹から果実を切り取る。その前に、良心の声に耳を傾けることもない。その声は、私の律法が彼に語りかけ、知恵の樹のすべての果実は善であり、それゆえ、それを摘む者は、隣人のためだけにそうすべきであると告げているのだ。
10. 私が挙げた例は、なぜ人類が、その内なる楽園の愛も平和も知らないのか、それを示している。その楽園は、人が律法に従うことによって、永遠にその心の中に持つべきものである。
11. あなたがたがそれと同じものを見出せるよう助けるために、私は罪人、不従順な者、 恩知らず、高慢な者たちに教えを授けている。それは、あなたがたに、霊が与えられていること、良心を持っていること、善悪を判断し評価する十分な （判断力）を備えていることを理解させ、平和、知恵、無限の愛、不死、栄光、そして永遠の楽園へと導く道を示すためである。（34, 15-17）
12. 人間は、私の教えを常に正しく解釈しているわけではない。 私は、私の律法が是認し許容する良き実を、あなたがたが軽んじたり、それを味わうことを控えるよう、決して教えたことはない。私が教えたのは、不必要なもの、余分なものを追い求めたり、ましてやそれを愛したりしてはならないということ、そして、魂や身体に有益な実の

ように、有害で許されないものを用いてはならないということだけである。 しかし、魂や心に許され、その益となるものはすべて、私の律法の範囲内にあるゆえに、私はあなたがたに勧めてきたのである。（332, 4）

13. 人類が霊的な成熟に達するまでには、長い時が必要であった。あなたがたは常に二つの極端に陥ってきた。一つは、より大きな世俗的な快楽を求めようとする唯物主義であった。しかし、これは実際には有害である。なぜなら、それは霊がその使命を果たすことを妨げるからである。 しかし、もう一方の極端、すなわち「肉」を死なせること、この人生に属するすべてのものを完全に拒絶することも避けなければならない。なぜなら、私はあなたがたを人間として、人間存在として生きるためにこの地上に遣わしたのであり、あなたがたが「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に」というように生きるための正しい道を示したからである。

14. 私は、そのすべての美しさと完全さを備えて、この世界をあなた方のために創造した。私はあなた方に人間の体を与えた。それを通して、完全さを達成するために私が与えたすべての能力を開花させるべきである。

15. 父は、あなたがたがこの世界が提供するあらゆる善を自ら拒むことを望んでおられない。しかし、あなたがたは肉体を魂よりも優先してはならない。なぜなら、肉体は儚いものだが、魂は永遠に属するものであるからだ。（358, 7-9）

祝福と不幸をもたらす富

16. もし私が、あなた方を地上の財産の所有者とすることを望むならば、私はそれらをあなた方に与える。それは、あなた方が、財産も支援も持たない者たち、すなわち、弱者や病者といった、困窮している兄弟姉妹たちとそれを分かち合うためである。しかし、地上で何も所有していない人々の多くは、その霊的な財産をあなた方と分かち合うことができるのである。（96, 27）

17. 私は、すべてがあなた方のものとなることを望むが、あなた方が必要なものを意識的に用いること、すなわち、精神的に豊かであることを理解し、物質的なものを多く所有しつつも、それらを正しく用い、双方に真の価値と地位を与えることを望む。

18. 計り知れない富を持つ人の魂が、その所有物が隣人の益となるものであるならば、どうして自らを傷つけることができようか。また、力ある人が、時折祈るために身を引くことを知り、その祈りによって私と交わりを持つならば、どうして に害を受けることができようか。（294, 38）

19. 「主よ、私はあなたに従う者たちの間に貧しさを見ました。しかし、もはやあなたを思い出すことも、あなたの御名を口にすることもない者たちには、豊かさ、楽しみ、そして快楽が見られます」などと言ってはならない。

20. わが民は、こうした事例を、わたしに従う者はこの世において必然的に貧しくなければならないという証拠と見なしてはならない。しかし、わたしはあなたがたに言う。ここで耳を傾け、人生の一部を善を行うことに費やしている者たちが持つ平安は、あなたがたがそれほど羨む者たちには知られておらず、また、彼らがどれほどの富を持っていようとも、それを得ることはできないのだ。

21. 世の富と霊の富を同時に所有することを理解している者もいる。他の人々は、霊の富を忘れてしまうため、世の富に恵まれない。また、神の律法は地上の富の敵であると考えているため、世の富にしか興味を持たない者もいる。

22. 財産は財産であり続けるが、誰もがそれを正しく用いることを知っているわけではない。また、多くの人が所有しているもののすべてが、私が彼らに与えたものではないことを知っておくべきである。私から受け取ったものを代償として持っている者もいれば、所有するすべてを盗んだ者もいるのだ。

23. 人生における義務を果たした証として、人々が得ることができる最良のものは、魂の平安であり、金貨の鳴る音ではない。（197、24-27）

24. 私が「求めよ、そうすれば与えられる」と言うとき、あなたがたは私に対して地上のものを求める。しかし、まことに、あなたがたは私にどれほどわずかなことしか求めていないことか！何よりもまず、あなたがたの魂の益となるすべてのものを私に求めなさい。 地上の宝を蓄えてはならない。ここには盗人がいるからだ！父の御国に宝を蓄えよ。そこでは、あなたがたの財産は安全であり、それはあなたがたの魂の喜びと平安に役立つだろう。

25. 地上の宝とは、富、権力、そして虚栄の称号である。霊の宝とは、善行である。（181, 68-69）

26. 傲慢な者は、そうではないのに自分が偉大であると信じている。そして、心と精神の真の価値を見出すことなく、この世の不必要な富に満足する者は、実に哀れな者である。その者の願い、欲望、理想は、なんと哀れなことか！その者は、なんとわずかなもので満足していることか！

27. しかし、生きることを知っている者とは、神のものは神に、世のものは世に与えることを学んだ者である。物質の奴隷になることなく、自然の懐で心身

を癒やす術を知っている者こそ、生きる術を知っている者であり、たとえ外見上は何も持っていなくとも、彼はこの世の財産の主人であり、神の国の宝を所有する道を進んでいるのである。（217, 19-20）

与えるという法則

28. もし人々が私の言葉を信じ、心の中に私を抱いていれば、かつて私の話を聞いていた群衆に私が語ったあの言葉を、常に心に留めていられるだろう。「まことに、あなたがたに告げる。たとえ一杯の水を与えるだけであっても、それは報いなく終わることはない。」

29. しかし、人々はこう考える。「何かを与えたのに何も返ってこないのなら、自分の持っているものを自分だけのものとして、手元に置いておいたほうがよい」と。

30. さて、私はあなたがたに告げる。私の正義の中には完全な均衡があり、あなたがたが自分の所有物を与えることを決して恐れる必要はないのだ。宝物を集め、蓄え、その所有物を誰とも分かち合おうとしない人々を見よ。そのような人々は、死んだ魂をその内に抱えているのだ。

31. それに対して、人生の最期の息を引き取るまで、隣人に自分の持つすべてを捧げることに専心し、最期の時、孤独で、見捨てられ、貧しい自分を見つめることになった人々――彼らは常に信仰の光に導かれてきた。その光は、遠くにある「約束の地」の近さを彼らに示し、そこでは私の愛が彼らを待ち受け、彼らのすべての行いに対する報いを与えてくれるのである。（128, 46-49）

32. さあ、私のところに来なさい。私があなた方を真の命へとよみがえらせ、あなた方が与えるために創造されたことを思い出させてあげよう。しかし、あなた方が自分の中に何を宿しているのかを知らない限り、それを必要とする者に与えることは不可能である。

33. 見よ、あなた方を囲むすべてのものが、与えるという使命を果たしている。元素、星々、生き物、植物、花、そして鳥たち――最大のものからもはや知覚できないものに至るまで、すべてが与える能力と使命を持っている。なぜ、あなたがたは、神の恵みによって愛する能力を最も豊かに授かっているにもかかわらず、例外とするのか。

34. あなたがたが、年下の兄弟姉妹たちの道において光となるためには、どれほど多くの知恵、愛、徳、そして能力を身につけなければならないことか！ 父なる神は、なんと高貴で美しい使命をあなたがたに与えてくださったことか！（262, 50-52）

義務と任務の遂行

35. 「第三の時代」において、私の霊的な教えは、魂にその翼を広げ、父のもとへ昇り、父に真の礼拝を捧げる自由を与えるであろう。

36. しかし、人間という存在としても、創造主への奉仕を捧げなければならない。その捧げ物とは、地上の義務を果たすことにある。すなわち、人間の法律に従い、その行いにおいて道徳と良識を示し、父、子、兄弟、友人、主人、そして僕としての義務を果たすことである。

37. このように生きる者は、地上でわたしを敬い、その魂がわたしを賛美するために高みへと昇ることを可能にするであろう。（229, 59-61）

38. 自分の使命の重荷から逃れ、正しい道から外れ、あるいは自分の魂が私に対して負った義務を顧みず、その代わりに自分の好みや意志に従って義務を引き受ける者は、その魂が決して満足も安らぎも得られないため、心に真の平安を持つことはできないだろう。 彼らは、偽りの喜びやつかの間の満足に欺かれ、苦しみや不安を忘れようと、常に快楽を追い求めている者たちである。

39. わたしは彼らにその道を行かせる。なぜなら、たとえ今日、彼らがわたしから離れ、 私を忘れ、さらには私を否定したとしても、やがて富や称号、この世の快楽や栄誉の無意味さを悟ることを知っているからだ。現実が、地上での偉大さという夢から彼らを目覚めさせ、人が誰も逃れることのできない霊的な真理、永遠、神の正義に直面せざるを得なくなった時、彼らはそれを悟るのだ。

40. これは誰にとっても未知のことではない。なぜなら、あなた方は皆、直感の賜物によって、あなた方の人生の現実――あなた方のために用意された道、そしてその道において実現すべきすべてのことを明らかにしてくれる霊を持っているからだ。しかし、あなた方は自由を感じ、人生の主人であるかのように振る舞うために、あらゆる霊的な誓約からどうしても解き放たれたいと願っている。（318, 13-15）

41. あなたの魂がこの惑星に遣わされる前に、その「畑」が示され、平和を蒔くことがその使命であり、そのメッセージは霊的なものであると告げられた。そしてあなたの魂はそれを喜び、その使命に忠実かつ従順であることを誓った。

42. なぜ今、種を蒔くことを恐れるのか。なぜ今、魂がその使命を課された時にこれほどまでに喜んだその仕事を遂行するに値しない、あるいは無力だと感じるのか。それは、あなたがたが情熱に道を塞がれ、それによって魂の通過を阻んでいるからであり、その迷いを幼稚な言い

訳で正当化しようとしているからだ。
43. あなたがたが来た「谷」へ、手ぶらで戻ってはならない。そうすれば、あなたがたの苦しみは甚大になることを、私は知っている。（269, 32-34）
44. 誰にでも、導き、あるいは世話をするべき魂の数が割り当てられており、この任務は肉体の死をもって終わるものではない。魂は、霊界においても地上と同様に、種を蒔き、育て、収穫し続けるのである。
45. より大きな魂は小さな魂を導き、小さな魂はさらに発展度の低い他の魂を導くが、それらすべてを主の囲いへと導くのは主ご自身である。
46. 私が今、より大きな魂がより小さな魂を導くと述べたとしても、それは、それらの魂が最初から大きかったとか、後者が常に兄弟姉妹に比べて小さいままでなければならないという意味ではない。 今、偉大な者たちは、まだその霊的発展段階に達しておらず、まだ弱い者たち——道に迷った者や苦しんでいる者たち——を愛し、彼らに仕え、支えるという高貴な使命を果たす中で、向上し、開花してきたからこそ、偉大なのである。
47. 今日まだ小さい者たちは、その粘り強さゆえに、明日には偉大になるだろう（131, 19-21）

第45章 － 人生における宿命、意味、そして成就

人間の運命における神の摂理と定命

1. 今こそ光の時であり、人間は信じるだけでなく、私の真理を理解し、その根拠を見出し、それを感じ取るようになる。
2. 私の教えの目的は、誰も正当な理由なくしてこの世に生まれてきた者はいないこと、その理由とは神の愛であること、そしてすべての人間の運命は愛の使命を果たすことにあることを、すべての人に確信させることである。
3. 太古の昔から、いつの時代も、人々は自問してきた。「私は誰なのか？　誰のおかげで生きているのか？　なぜ私は存在するのか？　何のためにここに来たのか、そしてどこへ行くのか？」
4. 彼らの抱く不確かさや認識の欠如の一部については、私の説明や、私が時を経てあなた方に明らかにしてきたことについての考察を通じて、答えを得ている。
5. しかし、すでにすべてを知っていると思い込んでいる者もいる。だが、私はあなたに告げる。彼らは大きな誤りに陥っている。なぜなら、神の知恵の書に秘められているものは、それ

が明らかにされない限り、人間には決して発見できないからである。そして、この神の知恵の書には多くのことが記されており、その内容は無限である。（261, 4-6）

6. 運命には、神がその中に注ぎ込まれた憐れみがある。人々の運命は、神の慈愛に満ちている。

7. あなたがたは、その慈愛を探し求める術を知らないため、しばしばそれを見出せない。

8. もしあなたがたが、私が各魂のために定めた運命の中で、過酷で苦い道を切り開こうとするならば、私はそれを和らげようと努めるが、決してその苦しみを増すことはない。

9. 人々は世の中で互いに必要としている。余分な者も、足りない者もいない。すべての命は、互いの存在を補い、調和させるために必要とされている。

10. 貧しい者は富める者を必要とし、富める者は貧しい者を必要とする。悪しき者は善き者を必要とし、善き者は悪しき者を必要とする。無知な者は知者が必要であり、知者は無知な者を必要とする。幼い者は年長者を必要とし、年長者はその一方で子供たちを必要とする。

11. あなた方一人ひとりは、神の知恵によってこの世にその場所に置かれ、あるべき相手と近くにいる。すべての人には、生きるべき輪が割り当てられており、そこには、共に生きるべき、肉体を持つ魂と、肉体を持たない魂がいる。

12. こうして、各自がそれぞれの道を歩む中で、次第に、あなた方を高めてくれる愛を教える使命を持つ人々すべてに出会うことになる。また、あなた方を清めるために、他者から苦痛を受けることもあるだろう。 ある者は、あなたがたにそれが必要だからという理由で苦しみをもたらすだろうが、他の者は、あなたがたの苦悩を和らげるために愛を授けてくれるだろう。しかし、すべての者には、あなたがたへのメッセージ、あなたがたが理解し、活用すべき教えがあるのだ。

13. あなた方の人生の道に何らかの形で交差する、あらゆる転生した魂や肉体を持たない魂が、あなた方の運命を前進させる助けとなっていることを忘れないでください。

14. 私はあなた方のために、どれほど多くの光の魂をこの世に送り出したことか。それなのに、あなた方は立ち止まって、あなた方への私の愛を祝福しようとはしなかった！

15. 私があなた方に送った多くの魂に、あなた方は注意を払わなかった。それらがあなた方の運命の一部であることに気づくこともなく。しかし、それらを受け入れる術を知らなかったがゆえに、あなた方は手ぶらで立ち去り、後に悔恨の涙を流さざるを得なかったのだ。

16. 人類よ、汝らの使命は、すべての被造物と調和することにある。私が汝らに語るこの調和こそ、あらゆる法則の中で最も偉大なものである。なぜなら、その中にあってこそ、汝らは神とその御業との完全なる交わりを見出すからである。（11, 10-16, 22-25）

17. 自らの使命を否定する者は、「わが神性の子供」という尊い名を拒むことになる。もし彼が私の存在を信じないならば、私の愛を信じることはできない。

18. ある人々にとって、この人生が極めて苦しく、悲痛なものだったとしても、この現世だけがすべてではないこと、それはただ長く見えるだけであり、あらゆる生き物の運命には、私だけが知り得る秘密が隠されていることを知れ。（54, 8-9）

19. 地上における人間の存在は、永遠の中の一瞬に過ぎず、ひととき人間を生き生きとさせる命の息吹であり、 すぐにまた去って行き、後に再び戻って来て、新たな肉体に息吹を与えるのである。（12, 4）

20. 人生の旅路において、各人に何が与えられるかはあらかじめ定められている。ある者は時機を逃さずそれを受け入れ活用するが、ある者はそれを浪費し、中にはそれを受け取るための準備さえできなかった者もいる。しかし、彼らが霊界へと帰ったとき、自分たちに定められていたもの、そして自分たちが獲得することも、獲得するに値することも知らなかったものすべてに気づくことになる。（57, 31）

21. 偶然に生まれた者は誰もおらず、気まぐれに創造された者もいない。私を理解すれば、人生の道において自由な者は誰もおらず、すべての運命を導き支配する法則があることを悟るだろう。（110, 29）

22. 人は、自らの意志に従って行動していると信じ、自分にはいかなる高次の影響も及ばないと信じ、ついには、自分が独立しており、自らの運命の創造者であると見なしている。しかし、やがてその時が来れば、すべての人々が、彼らに成し遂げられたのは私の意志であったと悟ることになるのだ。（79, 40）

23. 同胞のために良き実を結ぶことで、良き報いを勝ち取れ。来るべき時代に備えよ。なぜなら、私が去る前に、あなた方の間に争いが生じるだろう。あなた方すべてに誘惑が迫るからだ。警戒していなければならない。祈り、そして私の教えを実践せよ。 まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが善を行うことに捧げるこの短い時間は、あなたがたの後を継ぐ多くの世代において、その恵み深い影響をなおも感じさせるであろう。誰も自らの運命を決定することはできず、また今後とも決定することはできない。それは私の

みがなすことである。私の意志を信頼しなさい。そうすれば、あなたがたは大きな困難もなく、人生の道を最後まで歩み通すことができるだろう。

24. 私が、私の意志なしに木の一枚の葉さえも動くことはないと言うとき、それを正しく受け止めてほしい。そうすれば、いつ私があなた方を試しているのか、そしていつあなた方が苦難の杯を飲み干しているのか――その後に私を非難するために――が分かるだろう。そうしてあなた方は裁判官となり、私を被告にするのだ。

25. 自分の過ちを悟り、それを正しなさい。隣人の過ちを赦すことを学びなさい。もしそれを正すことができないなら、せめて寛容のベールをその上に広げなさい。（64, 43-44）

26. 運命論者になってはならない。自分の運命は、神が自分の人生の道に定めたものと全く同じであり、苦しむのはそれが定められていたからであり、喜ぶのはそれもまた定められていたからだと確信して、その考えを固めてはならない。あなたがたは、自分が蒔いたものを刈り取ることになると、私はすでに説いた。

27. しかし、よく聞きなさい。ある場合には、その収穫を直ちに受け取ることもあれば、またある場合には、あなたがたは新たな生へと移り、そこで自らの種を刈り取り、収穫しなければならないこともある。私が今言ったことをよく考えなさい。そうすれば、私の正義に対する多くの誤った判断や、多くの不明瞭な点を解消することができるだろう。（195, 53）

人生の学校

28. 人々は、自分の行いの結果について考えない子供のようなものであり、それゆえ、道中で遭遇するつまずきの石が、ただ師が彼らの無分別な歩みを止めたり、悪い決断を下すことを防いだりするために設けた障害に過ぎないということを理解していない。

29. 私は、あなたがたがこれからは大人のように振る舞い、自分の行いや行動をよく考え、言葉を選び取ることを望む。これこそが、あなたの人生に賢明さと正義をもたらす道である。さらに、人生とは魂にとって計り知れず、絶え間ない試練であることを心に留めておくべきである。

30. 私の道において、滅びる者はいない。たとえ、十字架の重荷に打ちひしがれて人が倒れるような時があっても、より高い力がその人を再び立ち上がらせ、励ましてくれる。この力は信仰から生まれる。（167, 55-57）

31. 人々がこれらの教えから、また宇宙を支配する法則への従順を通じて得る理解に、彼らの幸福はかかっている。ある者は

、この地上に幸福など存在しないと考えるが、またある者は、私だけがそれを余すところなく持っていると考えている。しかし、それはまさに、あなた方の魂の平安の中に明らかに現れているのである。

32. さて、愛する民よ、汝の至福は汝自身の中にあることを知れ。そうして、人々に教えよ。彼らの本質の核心には、彼ら自身の考えでは苦しみ、憎しみ、恨み、後悔、そして涙しか存在しないと思われるその場所に、何ものにも消すことのできない光、すなわち霊の光が存在することを。（178, 6-7）

33. あなたがたの霊的な過去は、あなたがたの「肉体」には知られていない。わたしはそれをあなたがたの魂に刻み込み、魂が開かれた書物となるようにし、霊と直感によってそれがあなたがたに啓示されるようにしている。これこそがわたしの正義であり、それはあなたがたを裁くのではなく、過ちを償う機会、あるいは誤りを正す機会を与えるものである。

34. もし過去があなたの魂から消し去られたなら、あなたはすでに過ぎ去った試練を再び経験しなければならなくなるだろう。しかし、もしあなたが経験の声を聞き、その光に照らされるならば、あなたは自分の道をより明確に認識し、地平線をより輝かしく見ることになるだろう。（84, 46）

人間の人生の意味と価値

35. 人間の自然な状態とは、善、心の平安、そして周囲のあらゆるものとの調和にあることを知れ。生涯を通じてこれらの美徳を実践し続ける者は、神への認識へと導く真の道を歩んでいるのである。

36. しかし、もしあなたがたがこの道から逸れ、自らの行いを導くべき律法を忘れてしまうならば、人間が常に留まるべき自然な状態である、精神の高揚の道から離れた日々を、涙ながらに償わなければならないことになる。（20, 20）

37. 多くの人々は、あなたがたが生きる罪と苦しみの世界にあまりにも慣れきってしまい、この人生こそが最も自然なものであり、地球は涙の谷となるよう定められており、決して平和や調和、そして霊的な進歩を宿すことはできないのだと考えている。

38. そう考える人々は、無知の眠りの中に囚われている。この世界が、私によって涙と贖罪の谷として定められたと考える者は誤っている。私が人類に与えたエデンは、再び訪れることができ、またそうあるべきである。なぜなら、私が創造したすべてのものは、命であり、愛だからである。

39. それゆえ、この世界が神によって人間の苦痛の場として定められたと主張する者は誤って

いる。むしろ、彼らは、本来、人間となった魂の喜びと安らぎのために創造されたこの世界を、自ら裁きの場として断罪してしまったのだと言うべきである。

40. すべてが、人間をその堕落から救うために予見されていたにもかかわらず、罪を犯すようあらかじめ定められていた者は誰もいなかった。

41. 人間は、愛によって高みへと発展しようとはせず、また、わたしの律法を全うすることによって賢くなろうともせず、そして、常に避けようとしていたわたしの正義が、完全な愛に由来するものであるがゆえに、彼を守っているということを忘れてしまった。（169, 10-13）

42. もしあなたがたがわたしの言葉を深く探求すれば、父が、危険と誘惑に満ちたこの世の道を歩むためにあなたがたをこの世に遣わされたとき、その意図は、あなたがたがその道で迷うことではなかったと理解するだろう。 なぜなら、それらの道はあらかじめ、あなたがたが魂の発展に必要な教訓をそこで得、欠けていた経験を積み、そして最終的に、光に満ちて私のもとへ帰ってくることができるようにと、そう設計されていたからである。

43. あなたがたの霊が私から発した時、それはまるで火花のようなものでした。風がその火花を炎へと変え、私のもとへ帰還する際、あなたがたの光が神性の光と一つとなるようにするためでした。

44. わたしは、新しい山の頂上からあなた方に語りかけている。そこでわたしはあなた方を待ち受けている。まことに、あなた方に告げる。あなた方が到着するその日、この王国では祝宴が催されるであろう。

45. あなたがたは苦痛の道を辿ってそこへ至り、その過程で自らの過ちを清める。それは私が示した道ではなく、人間が作り出した道である。あなたがたは、この道を私にも歩ませた。しかし、それ以来、犠牲と苦痛の道は、私の血によって栄光に輝いている。（180, 64-65）

46. 人はやがて、自分の王国もまたこの世のものではないこと、自分の肉体、すなわち人間の殻は、その感覚を通じて、試練と償いの世界を知覚するための単なる道具にすぎないことを理解するだろう。人はやがて、この人生は、素晴らしい姿やイメージで彩られた壮大な一課に過ぎないことを知るようになる。それは、生徒たち、 すなわちすべての人々が、人生が与える教訓をよりよく理解できるよう、それによって、もし彼らがそれを正しく評価することができれば、魂の成長を達成し、彼らを強くする闘いの意味、すなわち、彼らを研ぎ澄ます痛み、彼らを高潔にする苦難、彼らを啓発する知識、そして彼らを高揚さ

せる愛を理解するようになるためである。

47. もしこの現世が唯一の存在であったなら——まことに、私はあなたに告げる、私はとっくにそこから苦痛を取り除いていただろう。なぜなら、あなたがたがただ苦難の杯を飲み干すためだけにこの世に生まれてきたとするなら、それは不公正なことだからである。しかし、今日苦しみ、泣いている者たちは、かつて放蕩にふけって楽しんだがゆえに、そうしているのだ。しかし、この苦しみは彼らを清め、昇華させ、主の御国において、より清らかな姿で喜びを享受するにふさわしい者とするであろう。（194, 34-35）

48. 人の人生には過酷な試練が待ち受けているため、その十字架の重荷をより愛おしく、より軽く感じられるよう、心と体のあらゆる喜びをもってそれを和らげる必要がある。

49. 私は、家庭の温もりの中で人生の最高の喜びを見出し、親の子供への愛、子供の親への愛、そして兄弟姉妹同士の愛を、神への奉仕とするよう努めるすべての人々を祝福する。なぜなら、その一致、その調和、そしてその平和は、全能の父とその霊的な家族との間に存在する調和に似ているからである。

50. こうした家庭には魂の光が輝き、わが王国の平和が宿っている。そして、苦しみが訪れたとしても、それは耐えやすく、試練の瞬間もそれほど苦くはない。

51. さらに称賛に値するのは、他者に満足をもたらすことに喜びを見出し、隣人の健全な喜びを共に喜ぶ人々である。彼らは喜びの使徒であり、偉大な使命を果たしている。

52. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、満足と喜びの瞬間を求め、また内なる平安の時間を保つことを理解していれば、地上での生涯のあらゆる日に、それらを得ることになるだろう。しかし、そのためには、まず 、魂を高め、感情と人生に対する考え方を、より寛大なものにしなければならない。

53. 私がこの言葉を通してあなたがたに送るこのメッセージは、光に満ちている。その光はあなたがたの道を照らし、あなたがたの本質に上向きの発展をもたらし、平和に生き、私があなたがたの存在に授けたすべてのものを健全に享受することを教えてくれるだろう。

54. この人類は、苦痛の影と戦い、誤った快楽や虚ろな満足への傾きを克服するために、まだ大いに奮闘しなければならない。人類は、真理を認識することを妨げる宗教的狂信と戦わなければならない。 すべてが、誰も逃れられない最終的な破滅に向かっていると信じ込ませる宿命論と戦わなければならない。そして、魂を悪徳、苦痛、絶望、

そして闇の深淵へと突き落とす、単なる一時の快楽――感覚的な喜び――ばかりを追い求める物質主義とも戦わなければならない。

55. 私は、あなたがたが影を離れ、あなたがたが涙の谷へと変えてしまったこの惑星において、他のあらゆる喜びが小さく取るに足らないものとなる、魂と心の真の歓びをようやく見出せるよう、私の光を与える。（303, 28-33）

X 物質主義と精神主義

第46章 - 誤った道に迷った物質主義的な人間

人間の精神の鈍さ、無知、そして傲慢

1. この世界が創造された究極の目的は人間である。私は、人間の喜びのために、他の存在や自然の力を与え、人間が自らの維持と安らぎのためにそれらを利用できるようにしたのである。

2. もし人間が、その霊的な幼少期である太古の昔から、私を愛し、私を認識していたならば、今日、人間は無知も差異も存在せず、知識と感情の洗練において皆が等しい、偉大な霊たちの世界に属していただろう。

3. しかし、人間の成長はなんと遅いことか！ 人間が地球に生きてからどれほどの時が過ぎたというのに、いまだに自らの霊的な使命と真の目的を理解することさえできていない。 彼は、永遠の命を持つゆえに死なない自身の霊魂を、自分の中に発見することができなかった。彼は、その霊魂と調和して生きることを理解せず、 、その権利を認めもせず、自由を奪われたその霊魂は、その賜物を開花させることなく、停滞してしまったのである。（15, 24）

4. 人間は――私の律法の成就から背を向けたとき――様々な思想、理論、宗教、教義を生み出した。それらは人類を分裂させ、混乱させ、魂を物質に縛り付け、魂が自由に高みへ昇ることを妨げている。 しかし、私の聖霊の光はすべての人を照らし、真のいのちの道を示している。その道には、ただ一つの導き手、すなわち良心があるだけである。（46, 44）

5. 唯物論者は、人間の生命だけを愛する。しかし、自分の中のすべてが儚いものであると悟っているため、その人生を激しく生きようと努める。

6. そこで、もしその計画や願いが実現しなかったり、何らかの形で苦痛に見舞われたりすると、彼は絶望し、冒涜する。彼は運命に挑み、自分が当然受け取るべきだと信じている恩恵を

受けられないのは運命のせいだと非難する。
7. 彼らは、屈強な肉体の中に弱い魂を宿した者たちであり、道徳的に未熟な存在である。彼らは、物質主義に囚われて、取るに足らない行いに過大な価値を見出しているという誤りを悟らせるため、様々な試練にさらされるのである。
8. 物質化された者たちは、どれほど自分の運命を変えたいと願っていることか！ 彼らは、すべてが自分の思い通り、自分の意志通りに進むことをどれほど切望していることか。（258, 48-50）
9. さて、私が常に知恵をもって人々に自らを現してきたのは、限られた知性によって囚われた魂たちを解放するためであったことが、今やあなた方には理解できるだろう。
10. 今もなお、この時代には、霊感に欠け、知性が限られている人々が存在する。人々はすでに、その発展によって開かれた明晰な知性を備えているはずであるにもかかわらず、多くの者が依然として原始的な時代のように考え、生きている。
11. 他の人々は科学において大きな進歩を遂げ、知識の頂点に達したと思い込み、その虚栄心と利己主義の中に閉じこもっている。しかし、彼らは霊的進歩への道において立ち止まってしまっているのだ。（180, 32-33）
12. もし人間が、自分より上に存在し、振動しているより高い生命について意識的に生き、自らの精神に問いかけることを知っていたなら――どれほどの不快な事態を免れ、どれほどの深淵から自らを救うことができただろうか。 しかし、人は生涯を通じて、自らの疑いや不確かさに対する解決策を持たない者たち、すなわち物質的な自然には深く入り込んでいるものの、魂が昏睡状態に陥っているために霊的な生活を知らない科学者たちに、助言を求めているのである。
13. 人間の魂は目覚めなければならない。そうしてこそ、自分自身を見出し、その闘いを支えるために託されたあらゆる能力を発見することができるのだ。
14. 今日、人間はまるで生命の木から落ち、風のなすがままに翻弄される、小さくて枯れた葉のようだ。千変万化の運命にさらされ、自然の力には無力であり、死を前にしては弱々しく、哀れな存在である。それなのに、本来なら、この世で完成するために私から遣わされた君主として、地球を支配すべき存在であるはずなのに。（278, 4-6）
15. 裁きの時が来た。その時、私はある者たちに問うであろう。「なぜ、私を否定したのか？」と。また、他の者たちには、「なぜ、私を迫害したのか？」と。自らを深く見つめることさえできなかった者が、私の王国

の存在を否定する権利などあるだろうか。もしあなたがたが私の真理を知らず、それを見出す術を知らないとしても、それはその真理が存在しないことを意味するものではない。 もしあなたがたが、自分たちが理解できるものだけが存在すると考えるならば、私はあなたがたに告げる。あなたがたにはまだ知らないことが多くあり、その傲慢さは極めて大きいのだ。

16. まことに、あなたがたに告げる。神とその王国を否定する者は、自分自身を否定したことになる。自らの中に力を求め、自分を独立した存在と見なし、神を必要とせずに偉大になれるという傲慢な思いを抱く者は、この世でそれほど遠くまで行くことはできず、すぐに道に迷い、その苦しみは極めて痛ましいものとなるだろう。

17. 真に賢い者たちはどこにいるのか。

18. 知とは、私の存在を感じることを意味する。知とは、私の光に導かれ、私の御心を行うことを意味する。知とは、律法を理解することであり、知とは、愛することである。（282,19-22）

19. 今日、あなた方の霊的な無知は甚だしく、あの世へ旅立った人々を思うとき、「かわいそうに、彼は死んですべてを残し、永遠に去ってしまった」と言うほどである。

20. もしあなたがたが、霊界にいる者たちが、あなたがたがそう語っているのを聞いて、どれほどの憐れみの眼差しであなたたちを見ているかを知っていたら。あなたがたの無知を前にして、彼らが感じているのは憐れみなのだ！ なぜなら、たとえ一瞬であっても、もしあなたがたが彼らを見ることができたなら、その真実を前にして、言葉を失い、圧倒されるだろうからである！（272, 46-47）

21. あなた方は物質的な価値に、それらが持つ以上の重要性を与えてきた。一方で、霊的なことについては何も知りたがらず、この世への愛があまりにも大きくなりすぎて、霊的なことに関連するあらゆるものを可能な限り否定しようとさえしている。なぜなら、その知識は地上の進歩と矛盾すると考えているからだ。

22. 私は言う。霊的な知識は、道徳においても科学においても、人間の進歩を妨げるものではない。それどころか、その光は、現在の科学にはまだ未知である、 （計り知れない）無限の知識の豊かさを人間に明らかにするのだ。

23. 人間が霊化への階段を登ることを拒み続ける限り、彼は真の栄光に近づくことはできないだろう。その栄光こそが、ここ、父の懐において、神の子であること――すなわち、その愛と高揚と知識によって、わが霊に

ふさわしい子であること――という最高の幸福をもたらすのである。（331，27-29）

犠牲、努力、責任に対する意欲の欠如

24. もし人類が、その無知にこれほど頑なに固執しなければ、彼らの地上の存在は異なるものとなるだろう。しかし、人々は私の戒めに背き、自らの運命を呪い、私と共に私の業に協力する代わりに、自分の意志を通すために私の律法を回避する方法を模索している。

25. また、私はあなたに告げる。もし人々が自らの行いを一つひとつ注意深く観察したなら、彼らは一歩一歩、いかに私に反抗しているかに気づくだろう。

26. 私が人々に豊かな祝福を注ぐと、彼らは利己的になる。私が彼らに人生の喜びを味わわせると、彼らは放蕩にふける。私が魂を強くするために彼らの力を試すと、彼らは反抗する。 彼らを清めるために苦難の杯を彼らの唇に届かせれば、彼らは人生を呪い、信仰が消え去っていくのを感じる。私が彼らの肩に大家族の重荷を背負わせれば、彼らは絶望し、私が彼らの親族の一人をこの世から連れ去れば、彼らは私を不公正だと訴える。

27. あなたがたは決して同意せず、試練の中で私の名を賛美する声を私は決して聞かず、また、私の創造の業に協力しようと試みる姿も私は目にすることはない。（117，55-57）

28. わたしは人間に偉大さを与えたが、それは彼が地上で追い求めるようなものではない。わたしが語る偉大さとは、自己犠牲、愛、謙遜、慈悲である。人間は絶えずこれらの美徳から逃げ、それによって、父が自分の子として彼に授けた真の偉大さと尊厳から背を向けている。

29. あなたがたは、謙遜が貧しさを意味すると信じているがゆえに、それを避けている。 あなたがたは試練から逃げている。なぜなら、苦難が恐怖を煽るからであり、それが魂を解放することを理解していないからだ。また、あなたがたは霊的なものからも逃げている。なぜなら、その知識に深く入り込むことは時間の無駄だと考えているからであり、それによって、あらゆる人間の科学よりも高い光を軽んじていることに気づいていないからだ。

30. それゆえ、わたしはあなたがたにこう告げたのである。わたしを愛していると断言しながらも、実際には愛しておらず、わたしを に信じていると主張しながらも、信仰を持たない者が大勢いると。彼らは、わたしに従う用意があるとまで言いながら、十字架なしにわたしに従おうとしている。しかし、わたしは彼らにこう告げた。わたしに従おうとする者は、皆、自分の

十字架を背負って、わたしに従うべきだと。 愛をもって自分の十字架を抱く者は皆、山の頂上にたどり着き、そこでこの地上の最後の息を引き、永遠の命へと復活するのだ。（80, 37-39）

31. 今日、人々は自分たちを取り巻く至る所の悲惨さを取り除く代わりに、そこから自分たちに最大の利益を得ようと躍起になっている。

32. なぜ人々は、より純粋な感情と、霊にふさわしい志を授けてくれる理想を渇望して、高みへと発展しなかったのか。それは、彼らが、この世の目に見えるもの、すなわち、自らの苦難や地上の快楽、そして物質主義的な科学の先を見ようとしなかったからである。

33. 彼らは、この世で与えられた時間を、できるだけ多くの富と快楽を得るために費やし、利用してきた。それは、肉体が滅びれば、自分たちにとってすべてが終わってしまうという考えに基づいていたからである。

34. 人間は、高みへと発展し、自らを神の子と見なす代わりに、無知な傲慢さゆえに、より低次の存在の段階へと堕ちていく。そして、その精神が神性や霊的な生について語りかける時、神の正義への恐れが彼を支配し、彼はその内なる声を黙らせ、そうした警告について「無駄に」考えることを避けることを選ぶ。

35. 彼は、自らの存在についても、また自身の精神的・肉体的状態についても、深く考えたことがない。そのような生き方と思いを持ち続ける限り、彼が塵であり、惨めな存在である以外に、どうしてあり得ようか。（207, 18）

36. あらゆる時代において律法の解説である私の教えは、光への道として、霊のための確かな突破口として、あなた方の元へやって来る。それにもかかわらず、人々は与えられた自由意志を行使し、人生の道に従いたいという願望の中で、常に物質化という安易な道を選んでしまった。 その過程で、常に霊的なものへと導く良心の呼びかけを、全く聞き流してしまった者もいれば、霊的な道を確かな足取りで歩んでいると信じるために、儀式や儀礼を作り出した者もいる。しかし実際には、彼らは、私という名と私の言葉を自らの生活から排除した者たちと同様に、利己的である。（213, 51）

37. 道は整えられ、私のもとに来ようとする者すべてのために門は開かれている。

38. その道は狭い。これは、あなたがたには以前から知られていることだ。私の律法と教えが極めて純粋で、決して曲げられないものであることは、誰にとっても周知の事実である。それゆえ、誰も、自分の都合や意志に合わせてそれらを変えようなどとは考えないだろう。

39. 広い道と大きく開かれた門は、あなたの魂を光、平和、そして不滅へと導くものとは程遠いものである。広い道とは、放縦、不従順、高慢、そして物質主義の道であり、人々の大多数が、自らの霊的な責任や良心の内なる裁きから逃れようと、その道を歩んでいるのである。

40. この道は、真実でも完全でもないため、無限であるはずがない。したがって、この道は人間的なものすべてと同様に限りがあるため、人はいつの日かその終着点に到達し、そこで立ち止まり、道の終わりを表す深淵を恐ろしさのあまり覗き込むことになるだろう。その時、すでに長い間真の道から逸れてしまった者たちの心の中に、混乱が巻き起こるだろう。

41. ある者たちには悔い改めの心が芽生え、それによって自らを救うのに十分な光を見出すだろう。またある者たちは、不当で不合理だと感じる結末を前にして動揺するだろう。さらに別の者たちは、神を冒涜し、反抗するだろう。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。これこそが、光への回帰の始まりとなるのである。（333, 64-68）

人間の魂の苦しみ

42. 私が創造したものに、私は誤りはなかった。しかし、人間は定められた道と人生を見失ってしまった。だが、まもなく彼は、全財産を浪費してしまった「放蕩息子」のように、私のもとへ戻ってくるだろう。

43. 人間は、その科学によって、新たな世界、すなわち偽りの王国を築き上げた。人間は法律を制定し、玉座を築き、笏と冠を身につけた。しかし、その栄光はいかに儚く、欺瞞に満ちていることか。わが正義の微かな息吹一つで、その土台は揺らぎ、その王国全体は崩れ去る。 しかし、彼が手に入れることができなかった平和と正義と愛の王国は、人の心からは遠く離れている。

44. 人々の業がもたらす喜びや満足は、単なる幻想に過ぎない。彼らの心には、笑顔の仮面の裏に隠された痛み、不安、そして失望が食い込んでいる。

45. 人間の生活はこのようなものになってしまった。そして、魂の生活やそれを支配する法則に関しては、それらが歪められてしまった。なぜなら、魂を活気づける力や要素も存在し、人間が試練や誘惑に耐え、完全性への上昇の道においてあらゆる障害や逆境を乗り越えるためには、それらと接触し続けなければならないということを、人々は忘れてしまったからである。

46. 無限から各々の魂へと届く光は、太陽から来るものではない。魂があの世から受け取る力は、地球から湧き出るものではない。魂の な知識への渇きを癒やす愛、真実、そして健康の源

は、あなたがたの海や泉の水ではない。 あなた方を包む大気は、単なる物質的なものではなく、万物の創造主、すなわち生命を創造し、その完全かつ不変の法則によってそれを統治する御方から、人間の魂が直接受け取る流出、息吹、そして霊感である。

47. もし人間が、真理の道へと立ち返るためにほんの少しの善意を注ぎ込めば、即座に平和の愛撫を励みとして感じることだろう。 しかし、魂が物質の影響を受けて物質化してしまうたびに、それは物質の爪に屈服し、この人生の主人であり、自らの船を操る舵手であるはずが、人間の弱さや欲望の奴隷となり、嵐の中で難破してしまうのである。

48. 私はすでに、魂は身体に先立つものであり、それは身体が衣服に先立つようなものだと、あなた方に語った。あなたがたが持つ身体は、魂の一時的な衣に過ぎない。（80, 49-53）

49. ああ、もしすべての人々が、この時代の昇りゆく光を見ようとしてくれたなら――彼らの心にはどれほどの希望が満ちることだろう！しかし、彼らは眠っている。彼らは、王なる天体が日々彼らに送る光――創造主から放たれる光の写しのようなその光――を受け取る方法さえ理解していない。

50. その光はあなた方を優しく包み込み、日々の生存競争へと目覚めさせるが、創造の美しさに無感覚な人々は、私に感謝するためにほんの少し立ち止まることさえしない。その栄光は、彼らが気づくことなく通り過ぎてしまうかもしれない。なぜなら、彼らは常に心配事に満ちて目覚め、私の中に霊的な力を求めるために祈ることを忘れてしまうからだ。

51. 同様に、彼らは自然の源から肉体の力を得ようともしない。皆、何のためにか分からぬまま慌ただしく走り回り、苦労し、明確な目標も持たずにただ突き進んでいる。まさにこの無感覚で無意味な生存競争の中で、彼らは自らの魂を物質化し、それを利己的なものにしてしまったのである。

52. こうして、生命の光である精神の法則が忘れ去られると、人々は互いに破壊し合い、殺し合い、パンを奪い合うようになる。良心の声を聞くこともなく、配慮することもなく、立ち止まって考えることもない。 53. しかし、もし誰かが彼らに、現在の生活をどう評価するか尋ねたなら、彼らは即座にこう答えるだろう。かつてないほど多くの光が今、人間の生活に輝いていること、そして科学がかつてないほど多くの秘密を彼らに明らかにしていることを。 しかし、彼らは顔に幸福の仮面を被ってそう言わざるを得ないだろう。なぜなら、彼らの心の中では、すべての精神的苦痛と悲惨さ

を隠しているからだ。（104, 33-34）

54. 私は、その魂を地上に送り出し、人間として転生させた。それは、彼が地上に存在するすべてのものの主となり、支配者となるためであり、私が実際に目にするような、奴隷や犠牲者、あるいは苦しむ者となるためではない。人間は、自らの欲望、情熱、悪徳、そして無知の奴隷である。

55. 人間は、この地上を歩む中で、精神的な高みへの欠如がもたらす苦しみ、過ち、そして運命の打撃の犠牲となっている。人間は、人生において自分に与えられている相続財産を知らないため、自分が何を持っているのかを知らず、何も持っていないかのように振る舞う。

56. この人類はまず目覚め、霊的生活の書物を学び始めなければならない。そうして、この思想の世界が世代から世代へと伝えられることで、やがて、わが言葉が成就するその祝福された種が現れるであろう。

57. 私は、この人類がいつの日か霊化に達し、すべての被造物と調和して生きることを理解し、魂と知性と心が歩調を合わせるようになると、あなた方に告げた。（305, 9-11）

誤った地上的行動とその結果

58. 戦争に巻き込まれ、この世の財宝の所有権をめぐって互いに殺し合う人々を見る時、私は、価値のないものをめぐって争う幼い子供たちに、人々を何度も重ね合わせてしまう。 子供たちは、ほんの少しの権力やわずかな金のために争い合う、依然として人間に過ぎない。他の人々がその内に備えている美徳に比べれば、こうした所有物など何の意味があるというのか。

59. 憎しみを人々の心に植え付け、民族を分断する者は、万人を包み込む兄弟愛の種を蒔くことに生涯を捧げる者とは比べものにならない。同胞に苦しみをもたらす者は、隣人の苦しみを和らげることに生涯を捧げる者とは比べものにならない。

60. 人類は当初から、この世における王座の価値がいかに乏しいかを経験してきたにもかかわらず、あらゆる人は地上の王座を夢見ている。

61. わたしはあなたがたに、わたしの王国における地位を約束したが、それを受け入れた者はごくわずかである。それは、天の王国の最も卑しい臣下でさえ、地上の最も強力な君主よりも偉大であることを、人々が理解しようとしないからである。

62. 人々はまだ幼子に過ぎない。しかし、彼らに迫る大いなる試練は、短期間のうちに多くのことを経験させるだろう。それによって彼らはこの幼年期からすぐに成熟へと至り、そして経験の果実を手にした時、こう叫ぶことになるだろう。「イエス、私たちの父は正しかった。彼

のもとへ行こう。」（111，3-7）

63. 人々は世の中で不滅を求め、物質的な行いによってそれを達成しようと試みる。なぜなら、地上の名声は――たとえ一時的なものであっても――目を奪い、彼らは霊の名声を忘れてしまうからである。彼らは、その命の存在を疑っているからだ。人々の目の前に懐疑のベールを敷いたのは、信仰の欠如と霊性の欠如である。（128，45）

64. 人間の発展、その進歩、科学、そして文明は、人間の中に存在する最も高貴で崇高なものである霊魂の昇華を、決して目的としてこなかった。人間の努力、野心、願望、そして懸念は、常にこの世をその目標としてきた。 人間はここで知識を求め、ここで財宝を蓄え、ここで快楽、名誉、報酬、権力、栄誉を手に入れ、ここで自らの栄光を見出そうとしてきた。

65. それゆえ、わたしはあなたがたに言う。自然は、絶え間ない発展という法則に従って、より精妙なもの、より完全なものへと一歩一歩前進し、立ち止まることなく進んでいる一方で、人間は取り残され、前進できていない。それゆえ、地上における彼の運命の打撃があり、それゆえ、彼が人生の道で遭遇する試練、障害、そして打撃があるのだ。（277，42）

66. 確かに、私はあなたがたに憧れを持ち、向上心を持ち、偉大で、強く、賢くなることを夢見てほしいと願っている。しかし、それは精神の永遠の善についてのことである。

67. なぜなら、それらの善を得るためには、慈悲、謙虚、寛容、忍耐、寛大さ、一言で言えば「愛」といった、あらゆる美徳が必要だからである。そして、あらゆる美徳は魂を高め、清め、完成させるのである。

68. この貧しい世界、この一時的な住処において、人間は――偉大であり、力強く、富み、あるいは学識ある者となるために――利己的であり、偽りであり、復讐心に満ち、残酷であり、無関心であり、非人間的であり、傲慢でなければならなかった。そして、これらすべてが、人間を、真理、愛、平和、真の知恵、そして正義とは正反対の極限へと追いやったのである。（288，32）

69. 人間が霊的に自己を発見するとき、彼は自分の中に父の存在を感じる。しかし、自分が何者であるか、どこから来たのかも知らないならば、彼は私を遠く、異質で、手の届かない存在として感じるか、あるいは無感覚のままである。

70. 目覚めた魂のみが、真理の領域に踏み込むことができる。人間は、その科学だけでは、真理を認識することはできない。

71. 私は、人々が知識、名声、力、富、権力を追い求めているのを見る。そして私は、それら

すべてを達成するための手段を彼らに提供する――しかし、それはその真の本質的な性質において、その霊的な真実においてであり、この世の表層的なものや狡猾なもの、あるいは儚く欺瞞的なものの中ではない。

72. 人間が物質的なものに身を捧げ、あなた方の世界のような狭い空間に閉じこもると、彼は貧しくなり、自らの魂を制限し、抑圧する。彼にとって、自分が所有するもの、あるいは知っているもの以外には、もはや何もない。 そうなると、彼は真実を見出すためにすべてを失う必要が生じ、自らの過ちに気づいた後、再び永遠なるものへと視線を向けることになる。（139, 40-43）

第47章 – 唯物論と精神論

支配的な唯物論の影響

1. まことに、わたしはあなたがたに告げる。多くの人々は、精神化することを恐れて、わたしの教えから逃げ出すだろう。しかし、彼らの中で語っているのは、理性でも霊でもなく、「肉」の低俗な情欲である。

2. 真理に傾倒して生きる魂は、汚染された環境から離れる者のように、物質主義から逃れる。高潔な魂は、道徳の中に、すなわち平和が支配し、愛が宿る場所に、その幸福を見出す。（99, 41-42）

3. 私の言葉を、その純粋さと真実を確信できるまで深く探求しなさい。 そうして初めて、あなたがたは勇気を持って自分の道を歩み、魂を脅かす物質主義的な考えの侵入に対して、揺るぎない姿勢を保つことができるのだ。なぜなら、物質主義とは死であり、闇であり、魂にとってのくびきであり、毒だからである。決して、魂の光や自由を、地上のパンや、みすぼらしい物質的な財産と取り替えてはならない！

4. まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの律法を信頼し、信仰をもって最後まで耐え忍ぶ者には、物質的な生計が欠けることは決してない。そして、わたしの霊と結ばれるその瞬間、その者はわたしの限りない慈悲によって、常に永遠の命のパンを受け取るであろう。（34, 61-62）

5. 物質主義は、魂の発展にとって途方もない障害として立ちはだかる。人類はこの壁の前で立ち止まってしまった。

6. あなたがたは、人間が物質に関する科学に応用してその知的能力を開花させることができた世界にいる。しかし、霊的な存在に対するその判断力は依然として限定的であり、物質に完全には属さないものすべてに関するその認識は、遅れている。（271, 37-38）

7. あなたがたの世界が経験している試練は、一つの時代の終わりを告げる兆しであり、物質主義の時代の没落、あるいは死の苦しみである。なぜなら、物質主義は、あなたがたの科学、な目標、そして情熱の中に存在してきたからである。物質主義は、私に対するあなたがたの崇拝、そしてあなたがたのすべての行いを決定づけてきた。

8. 世への愛、地上のものへの貪欲、肉の欲望、あらゆる低俗な情欲への快楽、利己心、自己愛、そして傲慢さ――これらは、あなたがたが自らの知性と人間の意志に従って人生を築き上げる原動力であった。そして、あなたがたの経験が完全なものとなるよう、私はその実をあなたがたに収穫させたのである。

9. しかし、今まさに終わりを迎えようとしているこの時代が、人類の歴史においてその物質主義によって特徴づけられるものであるならば――まことに、わたしはあなたがたに告げる。新しい時代は、その霊性によって特徴づけられるであろう。 なぜなら、その時代において、地上の良心と霊の意志は、愛によって寛大である存在たちの世界を築き上げるからである。それは、父の霊が子供たちの霊の中で脈打つのを感じるような生活であり、なぜなら、今日、あなた方の存在の中に隠されているすべての賜物と能力が、無限をその活動領域として持つようになるからである。(305, 41-42)

スピリチュアリズムの本質

10. スピリチュアリズムは、諸宗教の混合ではない。それは、その簡潔さにおいて最も純粋かつ完全な教えであり、この「第三の時代」において人間の精神へと降り注ぐ神の光である。（273, 50）

11. 霊性主義とは、霊の生活について語りかけ、あなたがたに父と直接つながることを教え、物質的な生活を超越させる啓示であると、私は呼んできた。

12. まことに、私はあなたがたに告げる。スピリチュアリズムは新しいものではなく、またこの時代にのみ属するものでもない。それは、人類の霊的発展に合わせて、ますます明らかにされてきた啓示なのである。

13. 私があなたがたに与える教えは、神と隣人への完全な愛を教え、完全性へと至る道へと招くスピリチュアリズムである。それゆえ、スピリチュアリズムは、「第一の時代」において神の律法が、また「第二の時代」においてキリストの言葉が、あなたがたに教えたものでもあったのである。（289, 20-22）

14. スピリチュアリズムは宗教ではない。それは、私がイエスという姿で、あらゆる時代、世界中のすべての人々の指針として広めた教えそのものである。それは、愛、正義、理解、そし

て赦しに関する私の教えである。

15. この「第三の時代」において、私は、あなた方の精神的、肉体的、そして知的な発展に基づき、より明確にあなた方に語りかけているに過ぎない。（359, 60-61）

16. スピリチュアリズムは、人間によって導入され、魂の進歩を妨げてきた慣習や伝統を打ち破る。スピリチュアリズムとは、魂が な能力と資質によって自らを浄化し、完成へと至り、ついにその創造主に到達するまでの、絶え間ない発展と高揚である。スピリチュアリズムは、魂が主を表現し、主を感じ、主を受け入れる方法を示すものである。 スピリチュアリズムは魂を解放し、その開花をもたらす。

17. 霊的なものは、万物に存在し、万人に属する普遍的な力であり、普遍的な光である。私の教えは、誰にとっても異質なものとして映ってはならない。

18. 霊の性質は不変である。なぜなら、それらは私の神性の美徳であり、永遠の力だからである。しかし、あなたがたがどのように生きてきたかによって、あなたがたが示しうる清らかさは、大きくなったり小さくなったりすることを理解せよ。（214, 57-59）

誰が正当にスピリチュアリストと名乗ることができるのか？

19. その粘り強さ、成長、そして父の教えへの愛によって、ある種の霊性を達成した者は、たとえ口に出してそう言わなくとも、スピリチュアリストである。

20. 信仰を持ち、その行いに寛大さを示す者は、その精神が持つものを反映することになる。（236, 27-28）

21. スピリチュアリストは、全能者が万物の中にあり、世界、宇宙、そして無限が、私の本質と私の臨在によって満たされていることを知っている。

22. このように私を認識し、理解する者は、生ける神の神殿であり、もはや象徴や像によって霊の啓示を物質化することはない。（213, 31-32）

23. スピリチュアリズムとは、あなたがたが所有し、内に抱いているすべてのものを明らかにし、教える啓示である。それは、あなたがたが神の御業であり、単なる物質ではないこと、そして、あなたがたの「肉体」の上に、周囲の自然の次元や、情熱の汚れを超越させる何かが存在することを悟らせるものである。

24. 人が霊性を獲得すれば、あらゆる戒律や教義は、その魂の光の一部となる。たとえその記憶が、私の教えの一文たりとも

、あるいは一言たりとも留めていなくとも、その人はその本質を内に宿すことになる。なぜなら、その人はそれを理解し、それを感じ、それに従っているからである。（240、17-18）

25. 真の霊性を持つ者は、物質的な富に乏しくとも、主であり、豊かで、幸福であると自感する者である。なぜなら、その者は、父が自分を愛しておられること、愛すべき兄弟姉妹がいること、そして魂の富に比べれば、この世の宝は二の次であることを知っているからである。

26. また、物質的な財産の所有者でありながら、それらを善い目的に用いることを知り、地上での重要な使命を果たすために神から与えられた手段としてそれらを用いる者も、優れた霊性を持つ者となるだろう。

27. わたしに従う者たちの仲間入りを果たすために、必ずしも貧しく、軽蔑され、惨めである必要はない。同様に、わたしに愛されるために、苦しむ者たちの仲間入りを果たす必要もない。まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの意志によれば、あなたがたは常に強く、健康であり、わたしがあなたがたのために創造したすべてのものの所有者であるべきなのだ。

28. いつになったら、あなたがたは、自分たちの相続財産の所有者であることを理解し、あらゆる恵みを尊び、人生において万物にその正しい位置を与えるようになるのだろうか。（87、28-30）

宗教と宗派におけるスピリチュアリズム

29. 今日、人々は混乱の時代を生きている。なぜなら、彼らの人生全体とあらゆる努力が、創造主との対話という目標を持つ精神の開花へと導くものであることを理解していないからだ。

30. 今日、大多数の人々が信奉している信仰は、唯物論である。

31. 信仰の教義や宗教が互いの相違に固執する限り、世界は憎しみを育み続け、真の神への崇拝へと向かう決定的な一歩を踏み出すことはできないだろう。

32. しかし、魂の救済への鍵や秘密、そして永遠の命の鍵を自分たちが持っていると思い込み、自分たちの考えでは神に近づくに値しないとみなして、他の道を歩む者たちを一切認めようとしない人々が依然として存在する限り、いつになったら人々は互いに理解し合い、団結し、互いへの愛への第一歩を踏み出すことができるだろうか。

33. それゆえ、あらゆる宗派、あらゆる人間のイデオロギー、あらゆる分派を超越した教えであるスピリチュアリズムの真の目的を、よく心に留めておきなさい。（297, 38-41）

34. スピリチュアリズムは、過去の信仰教義の発展に追いつこ

うとする新しい教えではない——いや、それは第一の「時代」および第二の「時代」の啓示と同じものである。それはすべての宗教の基礎であり、私はこの分離の時代に、人類がその起源を忘れないよう、このことを思い出させたいのである。

35. 人間の行い、その慣習、そして様々な宗教において自らを称賛し、それを誇りに思うために感覚に訴えかける手法は、私の業が世界に示そうとしているものとは矛盾している。（363, 9）

36. この時代、私はあなたがたに、熟考すべき新たな教えを与える。それは、あなたがたを救い、高める愛の教えであり、たとえ苦いものであっても、あなたがたの道の光となるべき真理である。

37. この時代のスピリチュアリズムは、かつてのキリスト教と同様に、怒りと残酷さと憤りをもって攻撃され、迫害されるだろう 。しかし、その闘争の只中で、霊的なものが現れ、奇跡を起こし、人々の心を勝ち取っていくであろう。

38. 唯物主義、利己心、傲慢、そして世俗への愛こそが、この啓示に立ち向かう力となるであろう。この啓示は、私がかつてあなた方に伝えたものとは、新しいものでも、異なるものでもない。 私が今、あなた方に啓示した教え、すなわちあなたがたがスピリチュアリズムと呼ぶものは、「第一の時代」と「第二の時代」に啓示された法と教えの核心である。

39. 人類がこの教えの真理、その正義、そしてそれが明らかにする無限の知恵を理解すれば、あらゆる恐れや偏見を心から追い払い、それを人生の指針とするだろう。（24、48-51）

40. まことに、わたしはあなたがたに告げる。世界のあらゆる場所に、スピリチュアリストたちが散在している。彼らは成熟した人々であり、人類に平和をもたらすであろう。

41. しかし、私はあなたがたに告げる。全世界のスピリチュアリストたちの結束は、新しい教会の組織化によってもたらされるものではない。なぜなら、彼らの力は物質的なものではないからだ。彼らの結束は、思想的、理念的、そして活動において成立するものであり、そのようにして彼らの力は無敵となる。なぜなら、彼らは私の霊の中にある永遠の源からその力を得ているからである。

42. 私は彼らすべてに私の真理を啓示し、また彼らを訪ねて、彼らの心と知性からあらゆる不純物が消え去るようにする。なぜなら、それらは私の光と混ざり合うことを許されないからである。

43. あなた方全員には、霊的な能力によってスピリチュアリズムの教えが説明され、明確に理解されるようにし、人間の哲学

によって汚されないようにする義務がある。（299、30-32）

44. まことに、わたしはあなたがたに告げる。スピリチュアリズムの歴史は、人類の歴史の中に輝かしい文字で刻まれるであろう。

45. イスラエルは、エジプトのくびきからの解放によって不朽の名声を築かなかったか。キリスト教徒たちは、その勝利の行進において、愛によって不朽の名声を築かなかったか。同様に、スピリチュアリストたちもまた、精神の自由のための闘いにおいて、不朽の名声を築くであろう。（8, 64-65）

第48章 – 霊的賜物と霊化

人間の霊的能力

1. 疑い深く、不信仰で、唯物論的なこの人類は、神の啓示、あるいは彼らが「奇跡」と呼ぶものに遭遇するたびに、 すぐに、超自然的な働きなど存在せず、そのような奇跡も起こったことはないと論証するための理由や証拠を探し求める。

2. 並外れた霊的能力を示す人物が現れると、その声を封じ込めるために、嘲笑や疑念、あるいは無関心が向けられる。そして、自然が私の神性の道具として、正義の声を上げ、人々に警鐘を鳴らしても、人々はそれをすべて偶然のせいにする。 しかし、人類がこれほどまでに、神聖なもの、霊的なもの、そして永遠のものに対して無感覚で、耳が聞こえず、目が見えない状態であったことは、かつてなかった。

3. 何百万人もの人々が自らをキリスト教徒と称しているが、その大多数はキリストの教えを知らない。彼らは確かに、私が人間として行ったすべての業を愛していると主張する。しかし、彼らの信仰の仕方、思考の仕方、物事の見方において、彼らは私の教えの本質を知らないことを証明している。

4. 私はあなたがたに魂の生き方を教え、魂の中に宿る能力を明らかにした。それこそが、私がこの世に生を受けた目的である。

5. 私は薬を用いずに病人を癒し、霊たちと語り合い、憑依された者たちを異質な超自然的な影響から解放し、自然と戯れ、人間として霊的存在へと変容し、また霊的存在として再び人間へと戻った。そして、これらの業の一つひとつは、常に、あなたがたに魂の発展への道を示すことを目的としていたのだ。（114, 1-4）

6. あなた方の内には真の宝、すなわち、あなた方が想像もしていない能力や才能がある。しかし、その無知ゆえに、あなた方は貧しい者のように涙を流している。祈りの力や思考の力について、あなた方は何を知って

いるというのか？ 霊と霊との対話に秘められた深遠な意味について、あなたがたは何を理解しているのか？ 何も知らないのだ、物質主義的で世俗的な心を持つ人類よ！（292, 14）

7. 私は世界に対し、霊化を期待している。私にとって、各教会や宗派を区別する名称など何の意味も持たない。また、その儀式や外的な礼拝形式の、多かれ少なかれ華やかさも同様である。それらは人間の感覚には届くかもしれないが、私の霊には届かない。

8. 私は人々に霊化を期待する。なぜなら、それは生命の高揚、完成への理想、善への愛、真理への回帰、愛の実践、自己との調和を意味し、それは他者との調和であり、ひいては神との調和だからである。（326, 21-22）

9. 霊化とは、偽善を意味するものではなく、いかなる儀式の実施をも前提とするものではなく、また外的な崇拝の形式でもない。霊化とは、人間が持つあらゆる能力の開花を意味する——それは、人間的な部分に属するものもあれば、肉体的な感覚を超えた、魂の力、性質、能力、感覚に属するものもある。

10. 霊化とは、人間が持つすべての賜物を正しく、善く用いることである。霊化とは、あなた方を囲むすべてのものとの調和である。（326, 63-66）

11. かつて、私はあなたがたに、慈悲という最大の美徳を教えた。私はあなたがたの心に霊感を与え、感情を敏感にした。今、私はあなたがたの霊魂に備わっている賜物を明らかにする。それは、あなたがたがそれらを開花させ、隣人のために善を行うために用いるためである。

12. 霊的生活に関する知識は、あなたがたに、師が行ったのと同様の業を成し遂げることを可能にするだろう。あなたがたが能力を養えば、真の奇跡を起こすことになる、と私が言ったことを思い出してほしい。（85, 20-21）

13. あなたがたは皆、霊の賜物を持っている。それは、魂が到達した発展によって、この「第三の時代」において開花し始めている。 直感、霊的な視力、啓示、預言、霊感は、人々の間で明確に現れており、これは新しい時代の到来を告げるものであり、この時代に第六章が開かれた『七つの封印の書』の光である。

14. しかし、これらの顕現が何のためにあるのかを知り、あなたがたが生きている時代を理解しているあなたがたは、その霊の賜物を愛の道へと向けなさい。 常に愛に満ちた助けの手を差し伸べる準備をしておきなさい。そうすれば、あなたがたは私の律法と調和し、同胞たちにとって模範となるだろう。そうしてこそ、あなたがたは私の弟子

となり、そのように認められるのである。（95, 18）

15. かつて人々が互いに愛し合い、赦し合うことを知り、心に謙虚さが存在し、精神が肉体に対して優位に立つようになったとき、「肉」も、世界も、情熱も、もはや、あなたがたが前や後ろの道を見通すことを妨げる、あの厚いベールを形成することはなくなるだろう。 それどころか、私の教えに従うことによって霊化された「肉」は、良心の指示に従順な僕となるだろう。それは、今日のそれがそうであるのとは対照的に、障害であり、落とし穴であり、霊の目の前の覆いである。（122, 32）

16. 霊的な洞察、予感、そして預言である直感は、理性を照らし、無限から受け取るメッセージや声に心を高鳴らせる。（136, 46）

17. 私がすべての人々に授けた直感の賜物によって、あなたがたは心の奥底に秘められた多くの事柄――同胞たちの地上の生活だけでなく、その魂をも揺るがす多くの悲劇――を発見することができる。

18. それらの心の奥深くに、傷つけたり、その秘密を冒涜したりすることなく、どのようにして入り込むことができるだろうか。 同胞の人生を覆い隠している、あの隠された苦しみを、いかにして発見すればよいのか。私はすでに でありなた方に語った。直感、すなわち霊的な予知能力の一部であり、祈りによってあなた方の中で完全に開花すべきその能力こそが、同胞一人ひとりの痛みを和らげるための道筋を示してくれるのだ。(312, 73-74)

19. 人間にとって、まだ解き明かされていない秘密はどれほどあることか。人間は、本来ならすでに目に見え、感じられるはずである、目に見えず、触れることのできない存在たちに囲まれている。

20. 美と啓示に満ちた生命が、人々の存在の上に脈打っている。しかし、盲目である彼らは、まだそれを見ることはできない。（164, 56-57）

21. 私の教えによって準備された人間は、超人的な業を成し遂げる能力を持つようになる。その魂と身体からは光が溢れ出し、知性だけでは成し遂げることのできないことを実現させる力と気力が彼に与えられる。（252, 4-5）

22. 今こそ、私の後継者たちの中に神聖な光が完全に輝き出す時である。彼らは御霊の賜物を現し、善を行い、奇跡を起こすために、地上の財産も世俗の科学も必要としないことを証明するだろう。 彼らは私の名において癒やしを行い、絶望的な病人を回復させ、水を香油に変え、死者をその寝床からよみがえらせるであろう。彼らの祈りは、嵐を鎮め、自然の力を静め、疫

病や悪しき影響と戦う力を持つであろう。

23. 取りつかれた者たちは、私の新しい弟子たちの言葉と祈りと権威によって、その憑依や迫害者、抑圧者から解放されるであろう。（160, 28-29）

24. 霊化とは、感情の高潔化、生活の清らかさ、信仰、隣人愛、隣人への援助、神に対する謙虚さ、そして授かった賜物への深い敬意を意味する。もしあなたがたがこれらの美徳のどれか一つでも達成できれば、霊的な視線をもって、愛と完全性の故郷へと踏み込み始めることになる。 同様に、霊化を成し遂げれば、たとえそれが祈りの瞬間の間だけであっても、この地上にいながらにして、あなたがたは霊的な故郷に生きていると言えるようになる。同時に、上昇する魂にとって未来はもはや秘密ではないため、あなたがたは、未来に起こる出来事を明らかにする光を受け取るようになる。

25. そう、弟子たちよ、人間は、この地上での人生においてのみ、将来何が起こるのか、明日何が訪れるのかを知らない。人は自らの運命を知らず、歩むべき道も、その結末も知らないのである。

26. 人間は、自らの存在において乗り越えなければならないあらゆる試練を知ることなど耐えられないだろう。それゆえ、私は彼に対する慈悲深い愛をもって、彼の現在と未来の間に、 という神秘のベールを敷き、彼がこれから経験し、耐え抜かなければならないすべてのことを知ってしまった場合に、その理性が混乱することを防いだのである。

27. 一方、力に満ち、永遠のために創造された存在である魂は、未来を知る能力、すなわち自らの運命を認識する賜物と、待ち受けるあらゆる試練を理解し受け入れる強さをその内に備えている。 魂は、律法に従順に従ってその道を歩み終えた時、約束の地、すなわち魂の楽園に到達することを知っている。そこは、魂が最終的に到達する高揚、清らかさ、そして完全さの状態である。

28. あなたがたは、自分の運命が何を用意しているのか、未来が何をもたらすのかを知るために、師の霊的境地には達することはできない。しかし、あなたがたの内面の高まりに基づき、私はあなたがたに、何らかの出来事が近づいていることを予感させてあげよう。

29. この予感する力、未来を霊的に見通す力、そして自分の運命を知るこの知識は、肉体と魂から成るあなたがたの本質が、霊化の道を歩むにつれて次第に高次へと発展していくにつれてのみ、得られるものである。それはすなわち、信仰、誠実さ、生命への愛、隣人への愛と助け合いの心、そして主に対する謙

虚さと愛である。（160, 6-9, 13-14）

30. 心を研ぎ澄ませ、あなた方と同じように、私の神性から託された使命を果たすために旅立つ者たちと戦わないようにしなさい。そうしてこそ、真の預言者と偽りの預言者を識別し、前者の業を確証し、後者の業を無に帰すことができるのだ。

31. なぜなら、今こそ、あらゆる勢力が戦いに立ち上がった時だからである。善が悪と戦い、光が闇と戦い、知識が無知と戦い、平和が戦争と戦っている様子を見よ。（256, 66）

真の霊性の前提と特徴

32. すべての人の中にユダが宿っていることを知れ。そう、弟子たちよ、あなた方の場合、肉体こそが魂のユダなのだ。肉体こそが、霊化の光が輝くことに抵抗し、魂を待ち伏せして、物質主義や低俗な情欲へと陥れようとするものである。

33. しかし、あなたの肉体があなたを奈落の淵へと追いやってくるからといって、それを非難してはならない。いいえ、そうではない。なぜなら、あなたは進歩のためにそれを必要としているからであり、私が愛によってユダを克服したように、あなたも霊化によってそれを克服すべきだからである。(150, 67-68)

34. あなたがたが、私の生きた原則を教え、その内容を説くために旅立つ前に、まず、私があなたがたに啓示した教えに従うことから始めなければならない。すなわち、隣人を愛し、霊的なものに向き合った生活を送り、愛の行いと光をもって自分の道を彩るのである。 もしあなたがたがそうしないならば、 、私は今ここで、あなたがたはスピリチュアリズムを理解していないと告げる。それはあなたがたに本来の性質を明らかにし、それを通じてあなたがたは父について明確なイメージを抱き、自分自身を知ることができるのだ。

35. 確かに、霊性を得るためには、ある程度の放棄、努力、そして犠牲の精神が必要である。しかし、もしあなた方の内に、より高次の存在への憧れが芽生え、あなた方の本質の中で愛が輝き始め、あるいは霊的なものへの渇望が始まったならば、あなた方にとって、犠牲や放棄ではなく、自分の中にある無用なもの、有害なもの、あるいは悪いものをすべて取り除くことは、喜びとなるだろう。（269, 46-47）

36. たとえ外見上の運命がそれぞれ異なっていても、あなたがたは皆、私の前では等しく、皆同じ起源を持ち、皆同じ目標を持っているということを、常に自覚しなさい。

37. あなたがたは皆、私のもとへ至らなければならないことを決して忘れてはならない。それ

は、たとえその方法は異なれども、あなたがた全員が、最高の霊的高みに達するために必要な功徳を積まなければならないことを意味する。それゆえ、決して誰かを自分より劣った存在と見なしてはならない。

38. スピリチュアリストの中に、決して虚栄心が根を下ろしてはならない。それに対して、常に真の謙虚さがその伴侶となるべきである。そうすれば、その行いは、偽りの光で眩ませるのではなく、人々の心に響くものとなるだろう。（322、32-34）

39. スピリチュアリズムの良き種蒔き人たちは、決して外見や物質的なもので際立つことはない。彼らには、特別な服装も、徽章も、あるいは特別な話し方などない。彼らの振る舞いのすべてが、簡素さと謙虚さを物語っている。それでも、もし彼らが何かで際立つとすれば、それは彼らの隣人愛と霊性である。

40. スピリチュアリズムの真の説教者たちは、その雄弁さによって注目を集めるのではなく、その言葉の知恵と簡潔さ、そして何よりも、その行いの真実性と生活の善良さによって注目を集めるのである。（194, 24-25）

41. 霊性とは、明晰さであり、簡素さであり、愛への献身であり、魂の完全性を達成するための闘いである。（159, 64）

霊性の恵み深い影響

42. 霊化によって、人はある高みに達し、それによって、自分の理性が予感しうるものを超えたアイデアを受け取り、物質的なものに対する力を持つことができるようになる。

43. 考えてみてほしい。 もし、魂の霊的昇華が、自然が提示する物質的創造物の研究において、あるいはその他いかなる人間の目的においても実践されるならば、あなた方の発見が単なる理性の探求によるものではなく、万物を創造されたお方から与えられる霊的啓示も加わったものであるならば、どのような実りを 収穫できるか、想像してみてください。（126, 26-27）

44. 人々が霊化を成し遂げれば、彼らは周囲のあらゆるものに優越する存在となるだろう。なぜなら、これまで彼らは、自然の力や影響力にさらされた弱い存在に過ぎなかったからである。それらの力や影響力は、人間より上位にあるわけではないため、人間より優越してはならないのである。(280, 29)

45. まことに、わたしはあなたがたに告げる。霊化もまた子孫に受け継がれるものである。それゆえ、あなたがたは、子供たちに心の清らかさと、霊的なものに対する感受性を授けるよう努めなければならない。 子供たちは、あなたがたに感謝するだろう。なぜなら、あなたがたは、情欲から解放され、明晰な知

性、感受性豊かな心、そして良心の呼び声に目覚めた魂を備えた身体を彼らに授けることで、慈悲を示したからである。（289, 65）

46. 私の業が目指す唯一のものは、すべての人々の霊化である。なぜなら、霊化によって彼らは一つとなり、互いに理解し合うようになるからだ。霊化の中で、彼らは、それぞれの宗教が神を異なる方法で解釈してきたために、霊的な分断の原因となっていた、その名称や外的な形式が消え去っていくのを見るだろう。

47. すべての人々がそれぞれの異なる道を通じて霊化に近づくやいなや、彼らには、自分たちに欠けていた唯一のものは、物質主義から解放され、これまで物質的な意味で捉えてきたものを霊的に解釈できるようになることだったのだと理解するだろう。

48. 霊化こそが、この時代に私が人々に求めるすべてである。そうすれば、彼らは許された範囲内で、自らの最高の理想が成就し、最も深刻な葛藤が解決されるのを目にするだろう。（321、22-23、29）

XI 人類

第49章 - 宗教と司法

唯一の真の宗教や宗派など存在しない

1. 私は、人々の間に宗教的狂信を呼び起こすために来たのではない。私の教えは、誤ったことを説くものとは程遠い。私が望むのは、改善、信仰、隣人愛、そして精神化である。狂信とは、目の前の暗い覆いであり、不健全な情熱であり、闇である。この悪い種があなたの心に侵入しないよう、警戒せよ。 狂信は時に愛の装いをすることもあることを心に留めなさい。

2. この暗闇が、この時代の人類を襲っていることを理解せよ。異教の民は地上から姿を消し、人類の大部分が真の神を崇拝していると公言しているにもかかわらず、人々はわたしを知らず、また愛してもいないことを悟れ。彼らの戦争、憎しみ、そして調和の欠如こそが、彼らがまだ心の中でわたしを生かしていないことの証拠である。

3. この宗教的狂信と偶像崇拝の闇の上に、人類の精神的崇拝を浄化する大嵐が迫っている。この業が成し遂げられたとき、無限の彼方に平和の虹が輝き渡るであろう。（83, 60-62）

4. 私は、魂にとって神へと至る道となる宗教が地上に存在することを許してきた。善と愛を教え、慈悲を称えるあらゆる宗教は、光と真理を含んでいるゆ

えに良いものである。しかし、人々がその中で退廃し、本来善であったものを悪へと変質させてしまうならば、その道は物質主義と罪の下で失われてしまう。

5. それゆえ、私はこの時代に、道であり、生命の真髄であり、法である私の真理を、改めてあなた方に示す。それは、あなた方が、形や儀式を超え、あらゆる人間的なものを超えて、灯台であり導きの星であるこの法を求めるためである。このように私を求める者は、スピリチュアリストとなるであろう。（197, 10-11）

6. 誰も失われることはない。ある者は、私が示した道を通って早く到着し、またある者は、彼らが従う道を通って遅く到着するだろう。

7. あらゆる宗教において、人は善となるために必要な教えを受け入れることができる。しかし、もしそれを達成できなければ、人は自分が信奉する宗教のせいにするだけで、これまでと変わらぬままのままである。

8. すべての宗教は道である。あるものは他よりも完全であるが、すべては善を目指し、父のもとへ至ろうと努めている。 もしあなたがたが知っている宗教の何かが満足のいくものでないとしても、私への信仰を失ってはならない。隣人愛の道を歩みなさい。そうすれば、救いを見出すだろう。なぜなら、私の道は愛の力によって照らされているからである。（114, 43）

9. 宗教とは、魂を真の道へと導く小さな脇道であり、その道を通って魂は一歩一歩昇り続け、ついに私のもとへ至ることができるのである。 人々が地上で異なる宗教を信奉している限り、彼らは分断されている。しかし、ひとたび愛と真実の道に踏み出せば、彼らは一つとなり、その唯一の光と一体となるだろう。なぜなら、真実はただ一つしかないからだ。（243, 5）

10. 人々の精神が、物質主義、伝統、偏見、そして狂信を乗り越えたとき、宗教の統合は訪れるだろう。 その時、人々は一つの礼拝において精神的に一つとなるだろう。それは、神と隣人への愛から生まれる善の礼拝である。これが実現すれば、人類は完成の時代へと入っていく。（187, 43）

11. 人々の精神的な分裂は、ある者たちが（神の啓示という）木のひとつの枝を利用し、他の者たちが別の枝を利用したことに起因している。木はただ一つだが、その枝は数多い。しかし、人々は私の教えをそのように受け止めようとはせず、論争が彼らを分断し、意見の相違を深めている。 誰もが真理を手にしていると信じ、誰もが自分こそが正しいと感じている。しかし、私はあなたに告げる。ただ一つの枝の実だけを味わい、他の枝の実を拒み続ける限り、すべ

ての果実が神の樹に由来し、その総体が初めて完全な真理を成すという認識には至らないだろう。
12. 私がこれらの真理について語る時、師が様々な宗教の表層的な儀式を指しているのではなく、それぞれの宗教の根底にある根本原理を指しているのだと、誤解してはならない。
13. 今、激しい暴風が吹き荒れている。その突風が木を揺さぶり、その多様な果実を地面に落とさせ、それらは、かつてそれらを知らなかった者たちによって味わわれることになる。
14. それを見て、彼らはこう言うだろう。「我々はなんと見当違いで盲目だったことか。狂信に駆られて、ただ見知らぬものだという理由だけで、兄弟たちが差し出したあらゆる実を拒んでいたのだ！」
15. 私の光の一部は、あらゆる人々の集団、あらゆる共同体の中に存在する。それゆえ、誰も「真実のすべてを掌握している」などと自慢してはならない。だから理解せよ。もしあなたがたが永遠の核心へとさらに深く進み、これまで到達した場所よりもさらに先へ進みたいと望むなら、まずある者たちの知見を他の者たちの知見と結びつけ、そのようにして他のすべての人々と結びつけなければならない。そうすれば、この調和から、あなたがたがこれまでこの世で探し求めても見つけることができなかった、明瞭で非常に明るい光が放たれるだろう。
16. 「互いに愛し合いなさい」、これが私の信条であり、信仰告白や宗教にかかわらず、人間に対する私の最高の戒めである。
17. この至高の戒めを実践することによって互いに近づきなさい。そうすれば、あなたがたは、一人ひとりの内に私が現存しているのを見出すだろう。（129, 36-41）

宗教の発展に対する敵意

18. 人間にとって、たとえ人間的なものは儚く、霊的なものは永遠であることをしばしば自覚していたとしても、人間的な生活は霊的な生活よりも重要であった。これが、文明や科学において進歩を遂げたにもかかわらず、人間が霊的に停滞し、その宗教において眠りについてしまった理由である。
19. 宗教を一つひとつ観察してみれば、そのどれ一つとして、発展や開花、あるいは完成への兆しを見せていないことがわかるだろう。どれ一つとして、最高真理であると宣言されている。しかし、その宗教を信奉する者たちは、その中にすべてを見出し、理解したと思い込んでいるため、一歩でも前進しようと努力することはない。
20. 神の啓示、神の律法、私の教え、そして私の啓示は、初めから、人間とは発展の過程にあ

る存在であることを、あなた方に理解させてきた。それなのに、なぜあなた方のどの宗派も、この真理を立証し、検証しようとしないのか。

21. 私はあなたがたに言う。魂を目覚めさせ、その内に光を灯し、魂を育み、その内に秘めたものを明らかにし、つまずくたびに立ち直らせ、立ち止まることなく前進させる教え――ただそのような教えのみが、真理に霊感を受けたものである。 しかし、これこそが、私の教えがいつの時代にもあなた方に明らかにしてきたことではないのか？

22. それにもかかわらず、あなたがたは長い間、霊的に停滞してきた。なぜなら、あなたがたは、自分の魂に関わる事柄よりも、地上の生活に関わる事柄の方をより気にかけてきたからだ。しかし、霊的なものを完全に放棄しないために、あなたがたは、地上の仕事や義務の遂行に、ほんの少しでも支障をきたさないよう、宗教を形作ってきたのである。

23. そうしてその宗教的伝統に従うとき、あなたがたは神に義と認められると思い、それによって良心をなだめ、天の御国への入りを確かなものにするのだと信じている。

24. なんと無知なことか、人類よ！いつになったら、お前たちはついに現実に目覚めるのか？宗教的な慣習に従うことで、お前たちは私に何も与えていないばかりか、魂も空っぽのまま終わってしまうことに気づかないのか？

25. あなたがたが教会を後にし、「これで神に対する義務を果たした」と言うとき、あなたがたは大きな誤りに陥っている。なぜなら、私に何かを与えたと思い込んでいるからだ。しかし、あなたがたは私に何も与えることはできないが、私から多くのものを受け取り、自分自身に多くの恵みをもたらすことができるのだということを知るべきである。

26. あなたがたは、律法の履行とは、そうした場所を訪れることに限られると信じているが、これもまた大きな誤りである。なぜなら、それらの場所は、生徒が将来のために学ぶべき学校であるべきだからだ。再び日常生活に戻ったとき、彼は学んだ教訓を実践的に応用すべきであり、それこそが律法の真の履行なのである。（265, 22-27）

宗教と科学の関係

27. 太古の昔から、律法と霊の教えの使徒たちは、科学者を敵としてきた。両者の間には激しい争いが勃発しており、今こそ、私がこれらの対立についてあなた方に語る時が来た。

28. 私は、この世界を、転生した魂たちの一時的な住まいとして創造した。しかし、彼らがこの世界に定住する前に、私は彼

らに、霊、知性、そして意志の能力を授けた。

29. 私は、私の被造物たちの運命と発展をあらかじめ知っていた。私は、人間の存在の維持、養生、発展、そして活力を与えるために必要なすべての要素を、地球の内部、地表、そして大気の中に備え付けた。 しかし、人間が生命の源としての自然の神秘を発見できるよう、私はその知性が目覚めることを許した。こうして、科学の端緒が人間に明らかにされたのである。あなたがたは皆、その能力を備えているが、常に、より優れた才能を持つ人々が存在し、彼らの使命は、人類の幸福と喜びのために、自然からその力と要素の秘密を引き出すことだった。

31. また、私は偉大な霊たちを地上に遣わし、超自然的な生命――すなわち、この自然を超越し、科学の彼方にある生命――をあなた方に啓示させた。 これらの啓示を通じて、普遍的で、強大で、創造的であり、全能かつ遍在する存在の存在が予感された。その存在は、人間のために死後の生、すなわち魂の永遠の命を用意している。

32. しかし、ある者たちは霊的な使命を、またある者たちは科学的な使命を帯びていたため、宗教と科学という両者は、いつの時代も互いに敵対し、争い合ってきた。

33. 今日、私はあなたがたに告げる。物質と精神は対立する力ではない。両者の間には調和が支配すべきである。私の霊的な啓示は光であり、科学の啓示や発見もまた光である。 しかし、私が科学者たちの業績をしばしば非難しているとあなたがたが聞いたことがあるならば、それは、彼らの多くが、かつて未知であった自然の要素や力を、破壊、敵意、憎しみ、復讐、地上の支配、そして度を越した権力欲といった破滅的な目的のために悪用してきたからである。

34. 愛と善意をもってその使命を果たした者たち、すなわち、敬意と謙虚さをもって私の秘められた宝庫に踏み込んだ者たちに対しては、私の娘である人類の幸福のために、彼らに偉大な秘密を啓示することが、私にとって喜びであったと、あなた方に告げることができる。

35. 科学は、世界の始まり以来、人類を物質的進歩の道へと導いてきた。その道において、人間は一歩一歩、科学の果実を見出してきた――あるものは甘く、あるものは苦いものであった。

36. 今こそ、あなたがたは、すべての光が私の霊に属し、生命であるすべてのものが私の神性から生じていることを理解しなければならない。なぜなら、私は 、すなわち全創造の源であり、その起源である秘密の宝庫そのものだからである。

37. 霊的なものと科学的なものとの間のそうした対立は、人々

の生活から消え去り、やがて霊的なものと科学が、人間の道を無限の彼方まで照らす一つの光の中で融合するに至るだろう。（233、25-34）

地上の司法の厳しさと不公正

38. わたしは、あなたがたの誤った法律を廃止するために来る。そうして、わたしの戒めによって形作られ、わたしの知恵と調和した法律のみが、あなたがたを治めるようにするためである。わたしの法律は愛に満ちており、わたしの神性から生じているゆえに、不変かつ永遠である。一方、あなたがたの法律は儚く、時に残酷で利己的である。

39. 父の法は愛と慈愛から成り立っており、それは慰めを与え、罪人を立ち直らせ、その過ちの償いに耐えられるようにする、まるで香油のようなものである。 父の愛の法は、過ちを犯した者に常に道徳的な再生への寛大な機会を与えるが、それとは正反対に、あなた方の法は、過ちを犯した者、そしてしばしば無実で弱い者をも辱め、懲らしめるものである。

40. あなた方の司法には、厳しさ、復讐、そして憐れみの欠如がある。キリストの法は、愛に満ちた説得力、無限の正義、そして至高の公正さによって成り立っている。あなた方自身があなた方の裁判官であるが、私はあなた方のたゆまぬ擁護者である。しかし、あなた方は、自分の過ちを償うには二つの方法があることを知らなければならない。一つは愛によって、もう一つは苦痛によってである。

41. 自ら選びなさい。あなたがたは今なお、自由意志という賜物を享受しているのだ。（17, 46-48）

42. 私は神聖なる裁判官であり、過ちの重さ以上の厳しい判決を下すことは決してない。私の前に罪を告白する者たちのうち、どれほど多くの者を私は清い者と見なすことか。それに対し、自らの清さを大々的に誇示する者たちのうち、どれほど多くの者を私は堕落し、有罪であると見なすことか。

43. 人間の司法はなんと不公正なことか！ どれほど多くの犠牲者が、無能な裁判官によって他人の罪を償わされていることか！ どれほど多くの無実の者が、目の前で刑務所の鉄格子が閉まるのを見ていることか。その一方で、有罪者は自由に歩き回り、盗みや犯罪という重荷を目に見えないまま背負い続けているのだ。（135, 2-3）

44. 人間の司法は不完全であるため、あなたの刑務所は犠牲者で溢れ、処刑場は無実の者の血で汚されている。ああ、私はこの世で、どれほど多くの犯罪者が自由と尊敬を享受しているのを見ていることか。そして、あなたたちは、その記憶を称えるために、どれほど多くの堕落し

た者たちに記念碑を建てたことか！

45. もしあなたがたが、彼らが霊界で生き、その魂の中に光が差し込むのを見ることができたなら！無意味で無益な称賛の代わりに、あなたがたは、彼らの重い悔恨を慰めるために、彼らに祈りを捧げるだろう。（159, 44-45）

人間の冷酷な独善性

46. あなたがたが神の慰め主の真の使徒となるために、愛こそがあなたがたを導くべきである。なぜなら、深淵に落ちることのなかったあなたがたは、常にすぐに非難し、裁こうとするからだ。あなたがたは、ほんの少しの同情も持たずに隣人を断罪するが、それは私の教えではない。

47. もしあなたがたが、裁く前に自分自身と自分の過ちを省みるならば――私は保証する、あなたがたの裁きはより思いやりに満ちたものとなるだろう。あなたがたは、刑務所にいる者たちを悪人と見なし、病院にいる者たちを不幸な者だと見なしている。 あなたがたは、彼らが私の愛の王国に入るにふさわしい存在であることを自覚することなく、彼らから距離を置いている。あなたがたは、彼らにも、例外なくすべての生き物に生命と暖かさを与えるために創造された太陽の光を受ける権利があるということを、考えようとはしない。

48. 贖罪の場所に閉じ込められている人々は、しばしば、人々が自分たちを映し出したくない鏡である。なぜなら、その鏡が彼らに映し出す像は、多くの場合、告発となることを知っているからだ。（149, 51-53）

必要悪としての地上の司法

49. 依然として、地上に存在する司法は、公正な行いを示していない。私は、慈悲の欠如、理解の欠如、そして心の硬さを見ることができる。しかし、誰もがやがて完全な裁きを受けることになる。

50. 私はこれらの試練を許容してきた。そして、人間が私の律法を遵守せず、その戒めに背き続ける限り、地上には、その心を屈服させ、傷つける者が存在し続けるだろう。

51. もしあなたがたが律法を遵守するならば、この世に裁判官は必要なく、罰もなく、政府も不要となるだろう。誰もが自らの行いを決定し、すべての人々が私によって統治されることになる。あなたがたは皆、私の律法に導かれ、その行いは常に慈愛に満ち、霊性の高まりと愛を目的とするものとなるだろう。

52. しかし、人類は深い奈落の底へと転落してしまった。不道徳、悪徳、罪が人々の心を支配し、その結果として、あなたがたは苦い杯を飲み干さねばなら

ず、兄弟であるにもかかわらず地上で権力を振るう者たちによる屈辱に耐えなければならない。
53. しかし、謙虚でありなさい。裁きを忍耐強く受け止めなさい。私が完全なる裁き主であることを心に留めなさい。（341, 53）

第50章 - 教育と科学

虚栄と知識への驕り

1. 私は、この世の歴史上最も進歩していると考えている現代の人々に問う。あなたがたは、そのすべての才能をもってしても、隣人を殺したり、滅ぼしたり、奴隷にしたりすることなく、平和を築き、権力を得て、繁栄を成し遂げる方法を見出したというのか。 あなたがたは、道徳的には泥沼にまみれ、精神的には暗闇の中をさまよっているのに、その進歩が真実で本物だと信じているのか。私は科学そのものを否定するのではない。なぜなら、私が自ら人間にそれを授けたからだ。私が非難するのは、あなたがたが時にそれを用いるその目的である。（37, 56）
2. 人類よ、光の娘よ、目を開き、あなたがたはすでに霊の時代に生きていることを悟りなさい！
3. なぜあなたは私を忘れ、あなたの力を私の力と比べようとしたのか。私はあなたに告げる。ある学者がその科学をもって、あなた方に似た存在を創造し、それに魂を宿らせ、霊を与えるその日、私は私の笏をあなたの手に委ねるだろう。しかし、あなたの収穫は、まずは別のものとなるだろう。（125, 16-17）
4. なぜ、創造主が与えた能力を用いて人間の科学を知った後、それを用いて神の科学と戦い、拒絶する人々が、過去にも現在にも存在するのだろうか？ それは、彼らの虚栄心が、謙虚さと敬意をもって主の宝庫に入ることを許さず、彼らがこの世において自らの目的と王座を求めているからである。（154, 27）
5. 今日、人間は自分を偉大だと感じ、自己を誇示し、「神」と言うことを恥じている。彼らは、その自惚れを傷つけず、社会的地位という台座から転落しないために、神に他の名前を付けている。それゆえ、彼らは私を「宇宙の知性」、「宇宙の建築家」と呼ぶのである。 しかし、私は「第二の時代」に教えたように、私を「私たちの父」、「私の父」と呼ぶよう、あなた方に教えてきた。なぜ人々は、私を「父」と呼ぶことが、自分の人格を卑しめたり、貶めたりすることになると信じているのか。（147, 7）

6. 人間は、いかに深く物質主義の深みへと沈み込み、ついには万物を創造した御方を否定するに至ったことか！ 人間の知性は、どうしてこれほどまでに暗黒に覆われてしまったのか？ どうしてあなたの科学は、私を否定し、生命と自然を冒涜するようなことを、あのように行えたのか？

7. あなたがたの科学が発見するあらゆる事象の中に、私は存在している。あらゆる事象において、私の法則は明らかにされ、私の声が聞こえる。どうしてこれらの人々は感じず、見ず、聞かないのか。私の存在、私の愛、そして私の正義を否定することが、果たして進歩や文明の証なのだろうか。 それならば、あなた方は、あらゆる自然の力や自然の驚異の中に、神聖で、高貴で、賢明で、公正で、力強い存在の業を見出し、存在するすべてのものの中のあらゆる善をその存在に帰し、それゆえにそれを崇拝していた原始人よりも、何ら進歩していないことになる。（175, 72-73）

8. 私は再び人々に私の言葉を授ける。それは、彼らが見捨てられていないことを知らせるためであり、彼らの霊の声によって目覚め、この生を終えた後に魂を待っている偉大な神の奇跡を知るためである。

9. 私は彼らを通して人々に語りかけた。そして、霊的なものと交わるために祈ることを知る者もまた、科学によって自然の神秘に深く入り込む者が証言するように、同じことを体験する。これら二つの道において、探求すればするほど、理性も霊もますます多くのことを発見していくであろう。

10. しかし、人間が研究や探求において愛にインスピレーションを受ける時が、いつ来るのだろうか。それが実現して初めて、その業績は世に永続するものとなる。科学の動機が権力への欲望、傲慢、物質主義、あるいは憎悪である限り、人々は、自らの軽率さを罰する、解き放たれた自然の力の懲らしめを絶えず味わうことになるだろう。

11. どれほど多くの人々が、悪や傲慢、虚栄に満ちた野望の中で膨れ上がり、どれほど多くの人々が、貧しく、精神的に裸であるにもかかわらず、自らに冠を戴いてきたことか。あなたがたが真実だと見なしているものと、わたしの真実との間には、なんと大きな隔たりがあることか！（277, 31-32, 36）

物質主義的な思考の帰結

12. もし人々が隣人に対する真の愛を感じることができれば、彼らが今置かれているような混乱に苦しむ必要はなく、彼らの内なるすべてが調和と平和に満ちているはずである。 しかし、彼らはこの神聖な愛を理解せず、ただ科学的な真理、つまり推論によって導き出された真理

――人間の思考で証明できるもの――だけを求めます。彼らは、心に届く真理ではなく、脳に訴えかける真理を望んでいるのです。そして今、彼らはその唯物論の結果を目の当たりにしています。それは、利己的で偽り、苦しみで満ちた人類という姿です。（14, 42）

13. 科学の成果を過大評価してはならない。なぜなら、科学においてこれほど大きな進歩を遂げた今、人類はかつてないほど苦しみ、最大の悲惨、不安、病気、そして同胞殺しの戦争に苛まれているからだ。

14. 人間は、愛の道を通じて得られる真の科学を、まだ発見していない。

15. 見よ、虚栄心があなた方をいかに盲目にしているか。どの国も、地球上で最も偉大な学者たちを擁したいと願っている。まことに、私はあなた方に告げる。科学者たちは、主の神秘を深く掘り下げてはいない。私はあなた方に言える。人間が持つ生命に関する知識は、まだ表面的なものに過ぎないのだ。（22, 16-18）

16. 今この瞬間、あなたがたが地上で最も切望しているものは何だろうか。平和、健康、そして真理である。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたがこれまで用いてきたような科学では、これらの賜物を与えることはできない。

17. 学者たちは自然に問いかけ、自然はあらゆる問いに答える。しかし、それらの問いには、必ずしも善意や善き心、あるいは隣人愛が込められているわけではない。 自然からその秘密を強引に引き出し、その最も内なる本質を冒涜する人々は、未熟で無知である。彼らは、真の兄弟姉妹として互いに善を行うためにその源から原料を取り出すのではなく、利己的で、時に破滅的な目的のために取り出すことで、自然を敬っていないのだ。

18. 全被造物は彼らに私について語りかけており、その声は愛の声である。しかし、この言葉を聞き、理解できた者は、いかに少なかったことか！

19. もしあなたがたが、被造物が私が住まう神殿であることを考えるならば、イエスがそこに現れ、鞭を手に取り、商人たちや、それを冒涜する者たちすべてを追い払うのではないかと恐れないのか。（26、34、37）

20. 私は人間に、光である科学という賜物を授けた。しかし、人間はそれを使って闇を生み出し、苦痛と破壊をもたらした。

21. 人々は、自分たちが人類の進歩の頂点に立っていると思っている。それに対し、私は彼らに問う。地上に平和はあるか。人々の間に兄弟愛があり、家庭には道徳と美徳が満ちているか。 あなたがたは、同胞の命を尊重しているか。弱者に配慮して

いるか。――まことに、あなたがたに告げる。もしこれらの美徳があなたがたの中にあれば、あなたがたは人間生活の最高の価値を手にしているはずである。

22. 人々の間には混乱が蔓延している。それは、あなたがたが、自らを破滅へと導いた者たちを台座の上に掲げてしまったからである。それゆえ、なぜ私が人々のところに来たのかと問うてはならない。また、私が罪人や無知な者たちを通して自らを現すことについて、判断を下してはならない。あなたがたが不完全だと見なすものすべてが、実際に不完全であるとは限らないからである。（59, 52-54）

23. 学者は、存在するすべてのもの、起こるすべての事象の理由を求め、自らの学問をもって、自然の外にはいかなる原理も真理も存在しないことを証明しようと望んでいる。しかし、私は彼らを未熟で、弱く、無知であると見なしている。（144, 92）

24. 科学者たちは、傲慢のあまり、神の啓示を自分たちの関心に値しないものと見なしている。彼らは霊的に神へと高みを目指すことを望まず、 、自分たちを取り巻く事象の何かを理解できないときは、自らの無力さや無知を認めざるを得なくなるのを避けるために、それを否定する。彼らの多くは、自分たちが証明できることだけを信じようとしている。

25. 創造を支配する愛という根源的な原理を認識せず、さらに人生の霊的な意味も理解していないこれらの人々が、隣人の心にどのような慰めをもたらすことができるだろうか？（163, 17-18）

26. この人類は、いかに私の教えから遠ざかってしまったことか！彼らのすべては、表面的で、偽りであり、外見的であり、華美である。それゆえ、彼らの霊的な力は無力であり、魂における力の欠如と未発達を補うために、彼らは科学の懐に飛び込み、知性を発達させてきた。

27. このようにして、人間は科学の助けを借りて、自分たちが強く、偉大で、力強いと感じるようになった。しかし、私はあなたに告げる。その力と偉大さは、あなたがたが成長させ、現れ出させることを許さなかった霊魂の力に比べれば、取るに足らないものである。（275, 46-47）

28. 今日、あなたがたは日々、科学という木の苦い実を食べている。その木は、あなたがたが自らのあらゆる賜物の調和のとれた開花に努めなかったために、人間によって不完全なまま育てられてきたのだ。それゆえ、知性だけを鍛え、魂と心を疎かにしてきたあなたがたに、どうして自らの発見や業績を正しい

方向へと導くことができようか。

29. あなた方の間には、野獣のように情欲に完全に身を任せ、隣人に対して憎悪を抱き、血に飢え、兄弟民族を奴隷にしようと企む者たちがいる。

30. もし、私の教えが人間の道徳的崩壊を招くかもしれないと信じる者がいるならば――まことに、 言っておくが、その者は大きな誤りに陥っている。そして、この時代の懐疑者、唯物論者、そして高慢な者たちにこれを証明するために、私は彼らに、自らの科学の果実を収穫し、飽きるまでそれを食べさせ、彼らの魂から、私にこう告げる告白が自然と湧き出るまで待つつもりだ。 「父よ、私たちをお赦しください。あなたの力のみが、私たちの無分別によって解き放たれた力を食い止めることができるのです。」（282, 15-17）

31. 人間の科学は、人間がその唯物論の中で到達しうる限界に達した。なぜなら、愛、善、そして完成という精神的な理想に触発された科学は、あなたがたが到達させたところよりもはるかに遠くまで進むことができるからである。

32. あなたがたの科学的進歩が、相互の愛を動機としていなかったことの証拠は、諸民族の道徳的衰退であり、兄弟殺しの戦争であり、至る所に蔓延する飢餓と悲惨であり、霊的なものに対する無知である。（315, 53-54）

33. 今日の学者たちについて、私はあなた方に何を語ればよいのか。彼らは自然とその力、そして要素に挑み、それによって善を として悪のように見せかけている者たちである。彼らは大きな苦しみを受けることになるだろう。なぜなら、彼らは科学の樹から未熟な果実を摘み取り、食べてしまったからだ――それは、愛をもってのみ熟させることができたはずの果実である。（263, 26）

34. 人類は、全創造物を支配する普遍の法則と調和していないため、制御不能な状態が生じ、それは自然の力の暴走として現れることになる。

35. 人間は原子を分裂させた。その発達した脳は、この発見を利用して、最大の力を得ると同時に、死をもたらしている。

36. もし人間が、その科学や知性と同じ程度に霊的に発達していたならば、新たな自然の力の発見を人類の幸福のためだけに用いたであろう。しかし、その霊的な未熟さは甚大である。それゆえ、その利己的な知性は、人類に害を及ぼすためにその創造力を用い、破壊の力を動員し、イエスの愛と慈悲の原則から背を向けてしまったのである。したがって、もしあなたがたが天から火の洪水が降り注ぐのを見ても、それは天そのものが開かれたからでも、太陽の炎があ

なたがたを苦しめるからでもない――いや、それは死と破滅をまき散らす人間による仕業なのである。（363, 23-25）

37. 人々は前進し、その科学的知識はますます増大している。しかし、私は問う。人々がその知識に深く入り込むほど、生命の源であり起源である霊的真理からますます遠ざかってしまうような、そのような「知恵」とは一体何なのか。

38. それは人間の科学であり、利己主義と物質主義に病んだ人類が捉えるような学問である。

39. それならば、その知識は誤りであり、その科学は悪である。なぜなら、あなたがたはそれによって苦痛に満ちた世界を創り出したからだ。光の代わりに闇が支配し、あなたがたは人々をますます破滅へと追いやっている。

40. 科学は光であり、光は生命であり、力であり、健康であり、平和である。これが、あなた方の科学の結実なのか？ いいえ、人類よ！ それゆえ、私はあなたに告げる。あなたがたが、霊の光が理性の闇を貫くことを許さない限り、あなたがたの行いは決して高次で霊的な起源を持つことはできず、単なる人間の行い以上のものにはなり得ない。（358, 31-34）

41. 医師たちもまた、呼び出されるであろう。私は彼らに問うであろう。私が彼らに明かした健康の秘訣を、そして私が彼らに託した癒しの香油を、彼らはどう扱ったのかと。 私は彼らに問うだろう。果たして彼らは他者の痛みを真に感じ取ったのか、苦しむ者を愛をもって癒やすために、最も貧しい寝床にまで身を屈めたのか、と。 同胞の苦しみ――彼らが常に和らげることを理解していたとは限らないその苦しみ――を利用して、栄華、安楽、そして贅沢を手に入れた者たちは、私に何と答えるだろうか？ 皆が心の中で自問し、良心の光の中で私に答えなければならないだろう。(63, 62)

42. この世には、どれほど多くの霊的に死んだ者たちがさまよい、肉体の死が彼らを私の御前に連れてくるのを待ち、彼らを真の命へと立ち上がらせ、愛撫する主の声を聞くのを待っていることか。 彼らは、真の悔い改めと過ちの償いができると感じていたにもかかわらず、取り返しのつかないほど永遠に失われた者と自らをみなしていたのだから、この地上でどのような再生への渇望を抱くことができただろうか。

43. しかし、魂の救いを絶望視され、希望もなくわたしのもとに来た者たち以外にも、学者たちから肉体的な死を宣告された者たちも、わたしの御前にたどり着いた。命を持つわたしが、彼らを肉体の死の爪から救い出したのである。 しかし、私が魂と身体の健康を託した者たちは、この世で何をしているのか。

彼らは、主が彼らに託し、果たすべきであるという崇高な使命を知らないというのか。健康と命のメッセージを携えて彼らを遣わした私が、絶えず彼らの犠牲を受け入れなければならないのか。（54, 13-14）

神と霊界による新たな科学的知見への啓示

44. もし、あなた方の世界を推進し、変革している科学者たちが、愛と善にインスピレーションを受けていたならば、彼らは、私がこの時代の科学のためにどれほど多くの知見を用意しているかを、すでに発見していたはずであり、彼らがそれほど自負している、ごくわずかな部分だけにとどまることはなかっただろう。

45. ソロモンは、その裁き、助言、そして言葉が知恵に満ちていたため、賢者と呼ばれた。その名声は王国の境界を越え、他の国々にも届いた。

46. しかし、この男は、王でありながらも、主の前に謙虚にひざまずき、知恵と力と守りを求めた。彼は、自分がただ私のしもべに過ぎないことを悟っていたからであり、私の前に、その笏と王冠を置いたのである。 もしすべての学者、すべての科学者が同様に振る舞うならば――その時の彼らの知恵はどれほど偉大であり、私の『神の知恵の書』から、今なお知られていない教えがどれほど多く彼らに啓示されることか！（1, 57-59）

47. あなたがたの学者たちに尋ねてみよ。もし彼らが正直であれば、彼らは神に霊感を求めたと答えるだろう。しかし、もし彼らが、兄弟たちへの愛をより多く、そして自分自身の虚栄心をより少なくして、私にそれを求めてきたならば、私は彼らにより多くの霊感を与えただろう。

48. まことに、私はあなたに告げる。あなたがたが蓄積してきた真の知識のすべては、私から来ている。彼らが持つ純粋で高貴なものはすべて、私はこの時代の において、あなた方の利益のために用いるであろう。なぜなら、私はそのためにそれをあなた方に与えたからである。（17, 59-60）

49. 人の魂は発展してきた。それゆえ、その科学も進歩した。私は、かつて知らなかったことを知り、発見することを彼に許した。しかし、彼は物質的な仕事だけに専念してはならない。私が彼にその光を与えたのは、彼を待ち受ける霊的な生活において、自らの平安と幸福を築き上げるためである。（15, 22）

50. もしあなたがたが、その科学の一部を私を探求し、評価するために用いてきたのなら――それよりも、自らの本質を認識し、物質主義を排除するまで、自分自身を探求するためにその科学を用いるほうが、より理に

かなっていると思わないか。もしかすると、あなたがたの父が、あなたがたの優れた科学の道において、あなたがたを助けることができないとでも思っているのか。 まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが神の愛の本質を感じ取ることができれば、その知識は容易にあなたがたの理解に届くであろう。あなたがたが、深遠だと考えているが、実際には手の届く範囲にある知識を研究するために、脳を疲れさせ、身をすり減らす必要などないのだ。（14, 44）

51. 偉大な人間の業には、高次の霊的存在たちの影響と働きが伴っている。彼らは絶えず人々の思考能力に作用し、その転生した兄弟姉妹たちに未知のものを啓発し、あるいは啓示するのだ。

52. それゆえ、私はあらゆる時代の学者や科学者たちにこう言う。あなたがたは、理解していることや行っていることを自慢してはならない。なぜなら、すべてがあなたがたの功績というわけではないからだ。私が語っているあの霊的存在たちにとって、あなたがたはどれほど頻繁に単なる道具として奉仕していることか！ あなたがたは、自らの発見の意義の深さに、しばしば驚かされてはいないか？ あなたがたは、すでに実現してしまったことを、自分たちでは試みることさえできなかったと、密かに認めてはいないか？ そこに答えがある。それなのに、なぜそれを自慢するのか？ あなたがたの働きは、より高次の存在によって導かれていることを自覚せよ。彼らの啓示を決して変えようと試みてはならない。なぜなら、それらは常に善に向けられているからだ。（182, 21-22）

53. 人類は科学の発展を目の当たりにし、かつては信じられなかったような発見を見てきたのに、なぜ魂の発展を信じることに抵抗するのだろうか。なぜ、自分を妨げ、鈍らせるものに固執するのだろうか。

54. この時代における私の教えと啓示は、あなた方の発展と調和している。科学者は、自らの物質的な業績や科学を過信してはならない。なぜなら、そこには常に私の啓示と、あの世からあなた方にインスピレーションを与える霊的存在たちの助けが、存在してきたからである。

55. 人間は創造の一部であり、創造主のすべての被造物と同様に果たすべき使命を持っている。しかし、人間には霊的な性質が与えられ、 知性と独自の意志が与えられている。それは、自らの努力によって、彼が持つ最高のものである霊魂の発達と完成に到達するためである。 霊魂を通じて、人間は創造主を理解し、その恩恵を悟り、その英知を称賛することができる。

56. もしあなたがたが、この世の知識に驕るのではなく、わた

しの全業を自らのものとしたなら、あなたがたにとって秘密など何一つなく、互いを兄弟姉妹として認め合い、わたしがあなたがたを愛するように互いに愛し合うだろう。善、憐れみ、そして愛があなたがたの中にあり、それゆえに父との一致がもたらされるのだ。（23, 5-7）

人類の福祉のために働く科学者たちへの称賛

57. 人間の科学は、この時代に人間が到達した霊的能力の、地上で目に見える表現である。この時代における人間の業は、単なる知性の産物であるだけでなく、その魂の発達によるものでもある。（106, 6）

58. 物質的なものに焦点を当てた科学は、多くの秘密をあなた方に明らかにしてきた。しかし、あなた方の科学が、知るべきすべてのことを明らかにしてくれるなどとは決して期待してはならない。この時代の人間の科学にも、人々に嘲笑され、狂人扱いされた預言者たちがいた。しかしその後、彼らが告げたことが正しいと証明されたとき、あなた方は驚愕した。（97, 19）

59. あなたがたは、私の遣わした者たちが愛のメッセージとして運んできたその光を見つめようとはしなかった。彼らが預言者であれ、予言者であれ、悟りを開いた者であれ、医師であれ、哲学者であれ、科学者であれ、あるいは牧師であれ、である。

60. あの人々は光を広めたが、あなたがたはその光を見ようとはしなかった。彼らはあなたがたに先立って進んだが、あなたがたは彼らの足跡に従おうとはしなかった。 彼らは犠牲と苦痛と慈悲の道を模範として残したが、あなたがたは彼らの例に倣うことを恐れ、わたしに従う者の苦痛が、霊の喜びであり、花に満ちた道であり、約束に満ちた地平線であることを知らなかった。

61. しかし、彼らは地上の花の香りを嗅ぐためでも、世の儚い快楽に酔うためでもなかった。彼らの魂の渇望は、もはや不浄なものではなく、高きものに向けられていたからである。

62. 彼らは苦しんだが、慰められることを求めなかった。なぜなら、彼らは自ら慰めるために来たことを知っていたからだ。彼らはこの世に何も期待しなかった。なぜなら、戦いの後、真理から背いた者たちすべてが、信仰と生へと魂がよみがえるのを見るという喜びを待ち望んでいたからである。

63. 私があなたがたに語っているこれらの存在とは、いったい誰のことか。言っておくが、それは、光、愛、希望、健康、信仰、救いのメッセージをあなたがたにもたらしたすべての人々である。彼らがどのような名前を持っていたか、どのような形

で現れたか、あるいは地上でどのような肩書きを持っていたかは、全く問題ではない。（263, 20-24）

64. 私は科学者たちへの敬意を欠くものではない。なぜなら、彼らにその任務を委ねたのは私だからである。しかし、彼らの多くは、真の人類の助け手となるために必要な、祈り、隣人愛、そして魂の高揚を欠いていた。（112, 25）

65. 今日の人々は、その領域を拡大し、全地球を支配し、横断している。もはや未知の大陸、国、海は存在しない。彼らは陸、海、空に道を開いた。しかし、この惑星上で受け継いだものに満足することなく、さらに広大な支配領域を渇望し、大空を探求し、調査している。

66. わたしは、わが子らにおける知識への渇望を祝福し、彼らが賢く、偉大で、強くなろうとするその志は、わたしの限りない喜びである。しかし、わたしの正義が容認しないのは、彼らの野心的な目標の根底にしばしばある虚栄心、あるいは彼らが時折追い求める利己的な目的である。（175, 7-8）

67. 私は人間に、自然の構成とその現れを探求することを可能にする知性を与え、宇宙の一部を観察し、霊的な生命の現れを感じ取ることを許した。

68. なぜなら、私の教えは魂を妨げるものではなく、また人間の発展を阻害するものでもないからだ。それどころか、それは人間を解放し、啓発して、彼が調査し、熟考し、探究し、努力するように導くのである。しかし、人間が知的探求の最高峰と見なしているものは、ほんの始まりに過ぎないのだ！（304, 6）

第51章 - 権力者、権力の乱用、そして戦争

この世の権力と偉大さという儚い幻想

1. あなたがたの魂が、わたしの律法の道から逸れ、ただ自分の思いのままに生きようとする時、それを食い止めるために、試練をあなたがたの道に置くのは、わたしである。試練の理由を探りなさい。わたしがそれを許すのは、その一つひとつが、あなたがたの心を彫り上げる彫刻刀のようなものであることを、あなたがたに確信させるためである。これが、苦痛があなたがたをわたしに近づける理由の一つである。

2. しかし、人間は常に快楽を求め、権力と栄華を追い求め、地上で主を気取り、自らの兄弟たちの支配者になろうとしてきた。

3. 私が皆を等しく愛をもって創造したにもかかわらず、なぜ常に、自分こそがより高き存在

であるかのように振る舞う者たちがいたのか。なぜ、人々を屈辱にさらし、鞭で支配する者たちがいたのか。 なぜ、卑しい者を拒み、隣人に苦痛を与えても心が動じない者がいるのか。それは、彼らが、すべての被造物を愛する父として、また、すべての生きとし生けるものの唯一の主として、まだわたしを認識していない魂だからである。

4. それゆえ、権力を奪い取り、人間の神聖な権利を軽んじる者たちが存在する。彼らは、わたしの正義のための道具としてわたしに仕えている。彼らは自分たちを偉大な支配者や「王」だと思っているが、彼らはただの下僕に過ぎない。彼らを赦しなさい！（95, 7-8）

5. 人々と、この地の支配者たちを見よ。彼らの栄光と支配は、なんと短いか。今日、彼らは民によって持ち上げられ、明日には民によって王座から突き落とされる。

6. 誰もこの世で王座を求めるな。前進していると思い込むことで、その歩みは妨げられるからだ。そして、あなたがたの使命は、私の王国の門にたどり着くまで、立ち止まることなく前進することである。（124, 31）

7. まことに、わたしはあなたがたに告げる。今日の権力者たちは終わりを迎え、隣人への愛と慈悲によって偉大で強く、力強く、賢明となる者たちにその座を譲ることになる。（128, 50）

8. 現在、権力と地上の栄華への野心的な追求にのみ心を奪われている人々は、自分たちの最も強力な敵が霊性であることを知っており、それゆえにそれを攻撃している。 そして、すでに近づきつつある戦い――霊と悪との戦い――を予感しているため、彼らは自分の所有物を失うことを恐れ、それゆえ、インスピレーションという形で絶えず彼らを驚かせる光に抵抗している。（321, 12）

9. 地上で偉大かつ強大であった者たちは、霊的な宝と永遠の命への道を忘れてしまったがゆえに、なんと貧しい姿で私の天の門にやって来ることであろうか！ わが王国の真理は謙虚な者たちには明らかにされているが、学者や教養ある者たちには隠されている。なぜなら、彼らは霊的な知恵に対しても、地上の科学に対して行ったのと同じことをするだろうからである。すなわち、彼らはその光の中で、自らの虚栄のための玉座と、争いのための武器を求めるだろう。（238, 68）

人々や民族に対する横暴な権力の行使

10. 諸民族を導き、教義を創り出し、それを人々に押し付ける者たちを見よ。誰もが自らの教義の優越性を宣言するが、私は

問う。これらすべての結実とは何であったか。それは、貧困、苦しみ、破壊、そして死を伴う戦争である。これこそが、この地上において、そのような理論の提唱者たちが刈り取った収穫であった。

11. 私が人類の自由意志に反対したわけではないことに留意せよ。とはいえ、その自由にもかかわらず、正義、隣人愛、そして理性から遠ざかる者の心には、良心が絶えず語りかけていることを、私は言わなければならない。（106, 11）

12. もしキリストがこの時代に人間として地上に戻ってきたとしても、もはやゴルゴタで「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかを知らないのです」とは言わないだろう。なぜなら、今やあなたがたは御霊の光を豊かに受け、魂は大きく発展しているからだ。 私が命の与え主であり、それゆえ誰も隣人の命を奪ってはならないことを、誰が知らないだろうか。もし人が命を与えることができないのなら、返すことのできないものを奪う権利などないのだ。

13. 人々よ、あなたがたは、自分たちに宗教があると口にし、外見上の礼拝を遵守しているというだけで、私の律法を履行していると思っているのか。律法において、「殺してはならない」と告げられたにもかかわらず、あなたがたは、罪の祭壇の上で同胞の血を川のように流すことによって、この戒めを破っているのだ。（119, 27-28）

14. わたしは世界に平和を差し出しているが、偽りの力と偽りの輝きに満ちて肥大化した諸国の高慢は、良心の呼びかけをすべて拒絶し、その野心的な目標と憎悪の感情にのみ駆り立てられている。

15. 依然として、人間は善、正義、そして理性の方へと傾くことはなく、人々は依然として立ち上がり、隣人の事柄を非難し、なおも自分たちが正義を打ち立てられると信じている。彼らは裁判官というよりは、むしろ殺人者や死刑執行人と呼ぶべきではないだろうか。

16. 権力者たちは、すべての命の所有者がおられることを忘れてしまった。それにもかかわらず、彼らは隣人の命を、あたかもそれが自分たちのものかのように奪っている。大衆は、パン、正義、住まい、衣服を求めて叫んでいる。正義を打ち立てるのは、人間でもその教えでもなく、私である。（151, 70-72）

17. 祝福された民よ。諸国や地上の諸民族の中で、傲慢と権力への野望に満ちて頭をもたげる者たちは、力に満ちた偉大な魂であり、偉大な使命を担っている。

18. しかし、彼らは私の神性の奉仕者ではない。彼らはその偉大な資質と能力を、愛と慈悲の奉仕に捧げてはいない。彼らは

自らの世界、自らの法、自らの玉座、自らの 家臣、自らの支配領域、そして彼らが目標とすることができるあらゆるものを築き上げた。

19. しかし、試練によってその玉座が揺らぐのを感じたとき、強大な敵の侵攻が迫っているのを感じたとき、自らの財宝や名声が危険にさらされていると見たとき、彼らは全力を挙げて立ち上がり、誇大妄想、世俗的な虚栄心、憎しみ、悪意に満ちて、敵に向かって突進する。 自らの業や理念が、ただ苦痛と破壊と悪の痕跡を残すだけであるかどうかなんて、顧みもしない。彼らの頭にあるのは、敵の殲滅と、さらに巨大な王座の樹立だけである。それは、諸民族、富、日々の糧、さらには人々の命さえも、可能な限り支配下に置くためである。（219, 25）

20. 地球上から、弱い者を抑圧する帝国や強大な民族がもはや存在しなくなるべき時が来ているはずである。それにもかかわらず、それらが依然として存在していることは、人間の中に、権力の乱用によって弱い者を奪い、暴力によって征服しようとする原始的な傾向が依然として優勢であることを証明している。（271, 58）

21. 人々は、この世に支配すべき精神的な平和を理解することから、いまだどれほど遠く離れていることか！彼らは、暴力や脅迫によって、また自慢する科学の成果によって、それを強要しようとしている。

22. 私は決して人々の進歩を軽視したり、それに反対したりはしない。なぜなら、それらは彼らの精神的な発展の証でもあるからだ。 しかし、それでもなお、私はあなたがたに告げる。暴力行使や地上の権力に対するあなたがたの誇りは、私の目に喜ばしいものではない。なぜなら、人々の十字架を軽くするどころか、それによって彼らは最も神聖な原則を冒涜し、自分たちのものではない命に手を出し、平和、健康、幸福の代わりに、痛み、涙、悲しみ、そして血をまき散らしているからだ。 なぜ、彼らが知識を汲み取る泉が、愛、知恵、健康、そして命において尽きることのない、私自身の創造物であるにもかかわらず、彼らの行いはまさにその反対を露呈しているのか。

23. わたしは、「第二の時代」においてすでに説いたように、わたしの子供たちの間に平等を望む。しかし、それは人々が理解するような物質的なものだけではない。わたしは愛による平等をあなた方に啓示し、それによって、あなた方が皆、兄弟姉妹であり、神の子供たちであることを理解させるのである。（246, 61-63）

第二次世界大戦に関する考察

24. 今は試練と苦痛と苦難の時代である。人類が、これほど多

くの相互の憎しみと悪意の結果に苦しんでいる時代である。

25. 戦場を見よ。そこでは武器の轟音と負傷者の恐怖の叫びだけが聞こえ、かつては若者の強靭な肉体であったはずの、引き裂かれた死体の山が横たわっている。彼らが母や妻、あるいは息子に最後に抱きしめられた時の姿を、想像できるだろうか。自らその杯を飲み干した者でなければ、この別れの痛みを測り知ることができるだろうか。

26. 数え切れないほどの恐怖に震える親、妻、子供たちが、愛する家族が、光も隣人への愛も持たない一部の人々の貪欲と傲慢に駆り立てられ、戦争と憎しみと復讐の戦場へと旅立つのを見送った。

27. これらの若く力強い男たちの大群は、戦場で引き裂かれて倒れたままとなり、故郷へ帰ることができなかった。しかし見よ、母なる大地は、民を治め、同胞の命の支配者であると信じている人間たちよりも慈悲深く、その懐を開いて彼らを受け入れ、慈愛をもって覆い隠してくれたのである。 (9, 63-66)

28. わが霊はあらゆる存在を見守り、あなたがたの思いの最も些細なものに至るまで、わたし自身が注視している。

29. まことに、あなたがたに告げる。私は、地上のイデオロギーや権力争いのために戦う軍勢のただ中で、ひとときの静寂の瞬間に、暴力によって兵士にされた、平和を愛し善意に満ちた人々を見出した。 私の名が彼らの唇を過ぎるとき、彼らの心からはため息が漏れ、愛する人々――両親、妻、子供、あるいは兄弟姉妹――を思い出すと、頬を涙が伝う。 そして、彼らの魂は、信仰の聖域以外の神殿もなく、愛以外の祭壇もなく、希望以外の光もなく、自らの武器によって不本意ながら引き起こしてしまった破壊に対する赦しを渇望して、私のもとへと舞い上がる。 彼らは私を求め、その存在の全力を尽くして、故郷へ帰れるよう許してくださるよう、あるいは敵の攻撃によって倒れなければならないとしても、せめてこの地上に残される者たちを、私の慈悲の外套で覆ってくださるよう、私に懇願するのだ。

30. このようにして私の赦しを求める者たちすべてを、私は祝福する。なぜなら、彼らには殺害の罪はないからだ。真の殺人者は他にいる。彼らの裁きの時が来れば、人々の命に対して行ったすべての行いについて、私の前で責任を問われることになるだろう。

31. 平和を愛する者の多くは、なぜ私が彼らを戦場や死の現場へとさえ導いたのかと自問している。それに対し、私はこう告げる。もしあなたがたの人間の知性が、これらすべての奥底にある理由を理解できなくとも、あなたがたの霊は、それが贖罪

を果たしていることを知っているのだ。（22, 52-55）

32. わたしに従う者たちには、世界の平和を心に留め、そのために立ち上がり、祈るよう勧める。諸国民はまもなく、わたしがいつの時代にも彼らに提供してきた平和を乞うて、祈りを捧げるようになるだろう。

33. それ以前、私は人々が自らの行いの報いを味わうことを許した。人々は、人間の血の川が流れるのを見、苦痛の光景を目にし、死体の山や、瓦礫と化した都市を目撃したのだ。 私は、心が石のように硬くなった人々に、家庭の荒廃、罪なき者たちの絶望、痛みに狂った母たちが引き裂かれた子供たちの遺体に口づけする姿、そしてあらゆる絶望、 恐怖、そして人々のあらゆる嘆きを至近距離で体験し、その傲慢さの中で屈辱を感じ、彼らの良心が、彼らの偉大さ、権力、そして知恵は嘘であり、唯一真に偉大なものは神聖な霊に由来するものであると告げるようにしたかったのだ。

34. もしこれらの人々が真実の目を開けば、彼らは恐怖に震えるだろう――それは彼らの目に映る凄惨な光景に対してではなく、自分自身に対してである。そして、彼らは良心の視線と声から逃れることができないため、自らの内に闇と良心の呵責の炎を感じるだろう。 なぜなら、彼らはあらゆる命、あらゆる苦痛、そして彼らのために流された最後のひと滴の血に至るまで、そのすべてについて説明責任を問われることになるからだ。（52, 40）

35. 民族たちは一歩一歩、（死の）谷へと向かい、そこで裁きを受けるために集まる。

36. しかし、いまだに、戦争を仕掛け、同胞の血で手を汚した者たちは、私の名を口にすることを敢えてしている。これこそが、私があなたがたに教えた教えの花や実というのか。あなたがたは、イエスから、彼がどのように赦し、自分を傷つけた者を祝福し、死の床にあってもなお、自分を処刑する者たちに命を与えたかを学ばなかったのか。

37. 人々は私の言葉を疑い、信仰を疎かにした。それゆえ、彼らは暴力に全幅の信頼を置いた。そこで私は、彼らが自らの行いの実を刈り取ることで、自らその過ちに気づくことを許した。そうして初めて、彼らは目を開き、真理を理解するようになるからである。（119, 31-33）

戦争の非道さと無意味さ

38. 今こそ、憎しみと傲慢に対抗する真の武器として、愛、赦し、そして謙虚さが人々の心から湧き出る時である。憎しみが憎しみと、傲慢が傲慢とぶつかり合う限り、諸民族は互いに滅ぼし合い、人々の心には平和が訪れないだろう。

39. 人々は、幸福と進歩を平和の中にのみ見出せるということを理解しようとはせず、権力 と虚偽の偉大さという理想を追い求め、その過程で同胞の血を流し、命を奪い、人々の信仰を破壊している。（39, 29-30）

40. 1945年は、戦争の最後の影を連れ去った。鎌は数千の命を刈り取り、数千の魂が霊的な故郷へと帰った。科学は世界を驚嘆させ、その破壊兵器によって大地を震わせた。勝者たちは、敗者の裁判官であり処刑人となった。 苦痛、悲惨、飢餓が広がり、その後に未亡人、孤児、そして冷たさを残した。疫病は国から国へと移り、自然の力さえも、これほど多くの悪行に対して正義と憤りの声を上げている。 破壊、死、そして荒廃の瓦礫の海こそが、自らを文明人と呼ぶ人間が、この惑星の表面に残した痕跡である。これこそが、この人類が私に捧げる収穫である。 しかし、私は問う。この収穫は、私の穀倉に入るに値するものだろうか。あなたがたの悪意の果実は、あなたがたの父に受け入れられるに値するものだろうか。まことに、私はあなたがたに言う。この木は、互いに愛し合うよう命じるあの神の戒めに従っていたならば、あなたがたが植えることができたであろう木とは、まったく異なるものである。（145, 29）

41. 心の平安さえ得ていないのに、いつになったら魂の平安を得られるというのか？――言っておくが、兄弟殺しの武器が最後の一本まで破壊されない限り、人間の間には平和は訪れない。 兄弟殺しの武器とは、人々が互いに命を奪い、道徳を破壊し、自由や健康、魂の平安を奪い、あるいは信仰を滅ぼすために用いるあらゆるものである。（119, 53）

42. 私は人類に、その問題は暴力によって解決されるものではなく、破壊的で殺戮的な武器を使用している限り、たとえそれらの武器がいかに恐ろしく、強力に見えようとも、人間同士の間に平和を築くことはできないということを証明する。それどころか、その結果として、それらはより大きな憎しみと、より強い復讐心を呼び起こすだけである。 良心、理性、そして隣人愛の感情のみが、平和の時代を支える基盤となり得る。しかし、この光が人々の内面に輝き出すためには、彼らはまず、苦難の杯を最後の一滴まで飲み干さなければならない。（160, 65）

43. もし人々の心がそれほど硬くなっていなければ、戦争の痛みだけで、彼らは自らの過ちを省みるに十分であり、光の道へと立ち返ったであろう。しかし、彼らはあの大量殺戮の苦い記憶をまだ抱えているにもかかわらず、新たな戦争の準備を進めている。

44. 父である私、すなわち神の愛が、戦争によってあなた方を

罰することができると、どうして思えるのか。 の完全なる愛をもってあなた方を愛し、あなた方が互いに愛し合うことを願っている者が、犯罪や兄弟殺し、殺戮、復讐、破壊をあなた方に仕向けることができると、本当に信じているのか。 これらすべてが、人々が心の中に蓄積してきた物質主義に起因していることを、理解できないのか。（174, 50-51）

45. わたしは初めから人間を自由な存在として創造したが、その自由は常に良心の光に導かれていた。 それにもかかわらず、人間は内なる裁判官の声に耳を傾けず、法の道から逸れ、ついに、人間性、慈悲、敬意、そして精神性というあらゆる感情から背を向けた結果、子が父に立ち向かうような、殺戮と血にまみれた、凶悪な戦争を生み出してしまったのである。

46. 人々は、苦痛に満ちた贖罪の義務を免れるために、とっくに破壊や戦争を避けるべきであった。 知れ、もし彼らが私の元へ来る前に善によって自らを清めることに成功しなければ、私は彼らを再びこの涙と血の谷へと送らなければならないのだ。なぜなら、完全性とは相反する精神で生きる者は、私の元へ来ることはできないからである。（188, 6-7）

47. すべての人間が同じ理解のレベルにあるわけではない。ある者は至る所で奇跡を見出す一方で、他の者はすべてを不完全なものとして見なす。ある者は、世界の精神性と道徳の頂点として平和を夢見る一方で、他の者は、人類の発展を推進するのは戦争であると宣言する。

48. これについて、私はあなた方に言う。戦争は世界の発展にとって必要ではない。もし人々が、その野心的で利己的な目的のために戦争を利用するならば、それは、それを是認する者たちが陥っている物質主義のせいである。 そうした人々の中には、霊的な生活を知らないか、あるいはそれを否定しているため、この世での存在だけを信じている者もいる。しかし、人々は彼らを学者だと見なしている。それゆえ、すべての人々がこの啓示を知る必要があるのだ。（227, 69-70）

第52章 – 不正と人類の衰退

強者による弱者の隷属と搾取

1. もし人々が、地球はすべての人のために創造されたものであると悟り、その存在に満ち溢れている物質的・精神的宝物を、同胞と公正に分かち合うことを理解したならば――まことに、私はあなたに告げる、この地上においてさえ、あなたは霊的王国の平和を感じ始めるだろう。（12, 71）

2. 人類が民族や人種に分かれていることは、ある種原始的なことだと考えないか。あなたがたがそれほど誇りに思っている文明の進歩が真実であるならば、もはや暴力と悪意の法則が支配することはなく、人生のあらゆる行いが良心の法則によって支配されるはずである、ということを考えないのか。 - そして、民よ、あなた方もこの裁きから自らを免れようとしてはならない。なぜなら、あなた方の間にも、私は争いや分裂を見出しているからだ。（24, 73）

3. 歴史書に記されている、長い間砂漠をさまよわなければならなかったイスラエルの例を心に留めておきなさい。彼らは、エジプトでの奴隷生活と偶像崇拝から逃れるためだけでなく、平和と自由のある地へとたどり着くためにも戦ったのである。

4. 今日、全人類は、ファラオの支配下にあったあの民に似ています。 人々に信仰告白や教義、法律が押し付けられている。国家の大部分は、より強力な他国に奴隷とされている。飢えと屈辱という鞭打ちの下での過酷な生存競争と強制労働は、今日、人類の大部分が食べている苦いパンである。

5. これらすべてが、人々の心の中に、解放と平和、そしてより良い生活への渇望をますます生み出している。（115, 41-43）

6. 全人類を包み込む一つの家族の本拠地であるべきこの世界は、争いの種となり、無意味な権力争い、裏切り、そして戦争の原因となっている。 この人生は、学びや精神的な思索に捧げ、魂の益となる試練や教訓を活かして永遠の命を得るための努力に費やされるべきものであるが、人間はそれを誤って解釈し、その結果、恨み、憤り、物質主義、そして不満によって自らの心を毒している。（116, 53）

7. 地球の哀れな民よ――ある者は奴隷にされ、ある者は抑圧され、残りの者たちは自らの指導者や代表者によって搾取されている！

8. あなたがたの心は、地上においてあなたがたを統治する者たちをもはや愛していない。なぜなら、あなたがたの信頼は裏切られたからだ。あなたがたはもはや、裁判官たちの正義や寛大さを信頼しておらず、約束や言葉、あるいは笑顔をも信じなくなっている。 偽善が人々の心を支配し、地上に嘘と虚偽と欺瞞の王国を築き上げたことを、あなたがたは目の当たりにしてきたのだ。

9. 哀れな民よ、あなたがたは、耐え難い重荷のように苦難を肩に背負っている――その苦難は、もはや人間が生活に必要なすべてを得たあの祝福された法ではなく、絶望と恐怖に満ちた生存競争へと変貌してしまったのだ。 そして、人々は自らの力

と命を犠牲にして、何を得るのか。中身のない一片のパン、苦渋に満ちた杯である。

10. まことに、わたしはあなたがたに告げる。これは、あなたがたの喜びと維持のために、わたしが地上に置いた糧ではない。これは、不和と虚栄と非人間的な感情のパンである――要するに、あなたがたの人間生活を支配する者たちの、霊的な成熟の欠如、あるいは不在の証拠である。

11. 私は、あなたがたが互いにパンを奪い合っているのを見る。権力を求める者たちは、他者が何かを所有していることを耐えられない。彼らはすべてを自分たちのものにしたいからだ。強者は弱者のパンを奪い取り、弱者は、強者が食べて楽しんでいるのを見るだけで満足せざるを得ない。

12. さて、私はあなた方に問う。この人類の道徳的進歩とは何なのか。彼らの最も高貴な感情の開花はどこにあるのか。

13. まことに、 言っておくが、人間が洞窟に住み、毛皮を身にまとい、互いに口から食べ物を奪い合い、強者が大部分を奪い取り、弱者の苦労もまた、彼らを暴力で服従させた者たちの利益となり、人間も、部族も、民族も、互いに殺し合っていた時代があったのだ。

14. それでは、今日の人類と当時の人類との違いは何にあるのか？

15. そう、あなたがたが、多くの進歩を遂げたと言うだろうことは、私にも分かっている――あなたがたが、自分たちの文明や科学を私に挙げてくることも知っている。 しかし、それに対して私はこう言おう。それらはすべて偽善の仮面に過ぎず、その背後には、あなたがたが魂の成長や私の律法の成就に少しも努めてこなかったがゆえに、隠されている真の感情と、依然として原始的な本能があるのだと。

16. 私は、科学的な研究をしてはならないと言っているのではない――いや、むしろその逆だ。 探求し、研究し、物質的な生活において知識と知性を高め、増大させていきなさい。しかし、互いに慈しみ深くあり、隣人の神聖な権利を尊重し、人間に他者の命を処分する権限を与えるような法律など存在しないことを理解しなさい。要するに、人々よ、私の「互いに愛し合いなさい」という至高の戒めを、あなた方の生活に適用するために何かを行いなさい。そうしてこそ、あなた方が陥っている道徳的・精神的な停滞から抜け出し、あなた方の顔を覆っていた嘘のベールが落ちたとき、あなた方の光が浸透し、誠実さが輝き、あなた方の生活に真実が訪れるのです。 そうして初めて、あなたがたは進歩を遂げたと言えるのだ。

17. 私の教えに従うことで霊的に強くなりなさい。そうすれば、将来、あなたがたの言葉は、常に、真の慈悲、知恵、そして兄弟愛の行いによって裏付けられるようになるでしょう。（325, 10-20）

18. わたしはあなた方にわたしの平安を送る。しかし、まことに、あなた方に告げる。必要なものをすべて持ちながら、飢えで死にゆく人々を忘れている人々が存在する限り、地上に平和は訪れない。

19. 平和は、人間の栄華や富に基づいているのではない。それは善意と相互の愛、すなわち互いに仕え、尊重し合うことに基づいている。ああ、もし世界がこの教えを理解してくれたら！敵意は消え去り、人間の心の中に愛が花開くだろう。（165, 71-72）

人類の堕落

20. 人類は、罪と悪徳の嵐の中で難破している。大人になった人間だけが、情欲の奔流に身を任せて魂を汚すのではない。幼い子供でさえ、乗っている舟が転覆する体験をするのである。

21. 啓示に満ちたわたしの言葉は、この人類のただ中に、巨大な灯台のようにそびえ立ち、難破した者たちに真の航路を示し、信仰を失いかけていた者たちの心に希望を蘇らせる。（62, 44）

22. 人類が増大するにつれて、その罪もまた増大した。この世には、その悪行が全地に響き渡り、人々の心を毒するソドムやゴモラのような都市が、決して欠けてはいない。それらの罪深い都市には、もはや痕跡さえ残っていない。それにもかかわらず、その住民たちは、白昼堂々と罪を犯していたため、偽善者ではなかった。

23. しかし、今日の人類は、情欲にふけるために闇に身を隠し、その後で正義と清らかさを装っているが、その裁きはソドムよりも厳しいものとなるだろう。

24. それは、過去のすべての世代が遺した不吉な遺産であり、その嗜癖、悪徳、病が、今この時代に実を結んでいるのだ。それは、人々の心の中に育った悪の木である――罪によって実り豊かにされた木であり、その実は今もなお男女を誘惑し、日々新たな心を堕落させている。

25. この木の陰には、その影響から逃れる力を持たない男女が横たわっている。そこには、破壊された美徳、汚された人間の尊厳、そして多くの傷ついた人生が残されている。

26. 大人たちだけが、この世の快楽や肉欲に惹かれ、それらを追いかけているわけではない。若者たち、さらには子供たちまでもが、時を経て蓄積された毒に侵されている。そして、悪の不吉な影響から逃れることがで

きた者たちは——道に迷った者たちのために、一体何をしているのか。 彼らは彼らを裁き、非難し、その行いに憤慨している。道から迷い出た者たちのために祈る者は少なく、さらに、人生の一部を悪と戦うことに捧げる者は、なおさら少ない。

27. まことに、わたしはあなたがたに告げる。悪の樹がまだ息づいている限り、わたしの王国は人々の間に築かれることはない。この力は破壊されなければならない。そのためには、愛と正義の剣を手にしなければならない——罪がこれに抗うことのできない唯一の剣である。 理解せよ。裁きや罰ではなく、愛と赦しと慈悲こそが、わが教えの核心であり、あなたがたの道を照らす光となり、人類に救いをもたらす教えとなるのだ。（108, 10-14）

28. あなた方の物質主義は、私が人類に託したエデンを地獄へと変えてしまった。

29. 人々が送る生活は誤りであり、彼らの享楽、権力、富は誤りであり、彼らの学識と科学もまた誤りである。

30. 富める者も貧しい者も、あなた方全員が、その所有は虚しいものである金銭に心を奪われている。あなた方は痛みや病を心配し、死を思うと恐怖に駆られる。ある者は自分が持っているものを失うことを恐れ、またある者はかつて持ったことのないものを手に入れることを切望している。 ある者はすべてを余すところなく持ち、ある者はすべてを欠いている。しかし、これらすべての努力、情熱、欲求、そして野心的な目標は、物質的な生活、肉体の飢え、低俗な情欲、人間の欲望にのみ関わるものであり、まるで人間には魂など存在しないかのように見える。

31. 世界と物質は、魂を一時的に打ち負かし、徐々に再び奴隷の状態へと導き、ついには人間生活における魂の使命を台無しにしてしまった。 なぜ、あなた方は次第に、あなた方の人生を圧迫しているあの飢え、あの悲惨、あの痛み、そしてあの恐怖が、あなた方の魂の悲惨と痛みを忠実に映し出したものに他ならないことに、自ら気づかないのか。（272, 29-32）

32. 世界は私の言葉を必要としており、諸民族と諸国家は私の愛の教えを必要としている。統治者、科学者、裁判官、牧師、教師——彼らすべてが私の真理の光を必要としている。それゆえ、私はこの時代に、人間の魂と心と知性を照らすために来たのである。（274, 14）

33. 依然として、あなた方の惑星は、愛や徳、あるいは平和の場ではない。私はあなた方の世界に清らかな魂を送っているが、あなた方はそれらを不浄なまま私に返している。なぜなら、人々の生活は罪と堕落に満ちているからだ。

34. 私は、利己主義や復讐心、憎悪の嵐に翻弄される魂たちの間に、美徳が小さな点のような光として散らばっているのを見る。それが、人類が私に捧げる実である。（318, 33-34）

未熟な人類の歪んだ世界

35. あなた方には、民を治めるための正義と寛大さを心に持ち合わせていない統治者たちがいる。彼らは、権力と富というみすぼらしい目標を追い求めているからだ。彼らは自分たちを私の代表者だと称しながら、隣人への愛さえ知らない者たちである ——その使命の本質である慈悲を知らない医師たち——そして、正義と復讐を混同し、法を悪用して害を及ぼす裁判官たち。

36. 曲がりくねった道を歩み、自らの良心の灯台である内なる光から目を背ける者は、誰一人として、自ら招く裁きについて想像すらしていない。

37. また、自分にはふさわしくない任務を横取りし、その誤りによって、自ら引き受けた任務を遂行するために必要な能力が全く欠けていることを自ら証明している者たちもいる。

38. 同様に、神の僕であるはずのない者たち、すなわちそのために遣わされていない者たちを見出すこともできる。彼らは民を導くが、自らの歩みさえも導くことができない人々である ——教える賜物を持たず、光を広めるどころか人々の心を混乱させる教師たち——他人の苦痛を前にして心に憐れみの感情を抱くことのない医師たち、そして、この賜物を真に持つ者がキリストの使徒であることを知らない者たち。

39. わたしのすべての基本原則は人々によって冒涜されてきたが、今や、彼らのすべての行いが裁かれる時が来た。これはわたしの裁きである。なぜなら、それを実行するのはわたしの務めだからだ。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。目を覚まし、愛と赦しのわたしの戒めを果たせ。（105, 16-19）

40. この世界を見よ——傲慢で、挑発的で、あらゆる人間の業を誇り、それによって今世紀の世代を驚嘆させている。その大多数は、霊的なものを信じず、またそれを愛してもいない。それゆえ、彼らは祈らず、私の律法に従うこともない。それにもかかわらず、彼らは、自らの科学の力を借りて作り上げた、驚異に満ちた世界を誇示できることに満足し、それを誇りに思っている。

41. しかし、何世紀にもわたる科学、闘争、戦争、そして涙の末に築き上げたこの驚嘆すべき人間の世界を、彼らはやがて自らの手と武器によって破壊することになる。愛と正義、そして真の完成への願いを欠いた彼らの業が、いかに持続不可能で脆

弱であるかを人類が自覚する時が、すでに近づいている。

42. 間もなく、あなたがたは、神なしには何者でもないこと、そして、人間の精神と肉体との間に調和のとれた存在を築くための力、命、知性を、私からしか受け取ることができないことを知るだろう。（282, 9-11）

43. 人々は過ぎ去った時代、古代、長い世紀、果てしなく長い時代について語るが、私は依然としてあなたがたを未熟な存在と見ている。私は、あなたがたが精神的にほとんど成熟していないことを見ている。私の目には、たとえあなたがたが成熟に達したかのように見えても、あなたがたの世界は依然として幼年期にある。

44. いや、人類よ、あなた方の生活の様々な分野において、成熟、向上、完成、進歩の証拠を提示するのが魂でない限り、あなた方は必然的に、外見上は偉大に見えるが、愛の欠如ゆえに道徳的な実質を欠き、永続しない人間的な行いを私に提示することになるだろう。（325, 62-63）

45. 今、魂にとって決定的な時、まさに闘争の時である。すべてが争いと闘いである。この戦争は、一人ひとりの人の心の中で、家族の懐の中で、あらゆる制度の内部で、すべての民族の中で、あらゆる人種の中で繰り広げられている。

46. 地上界だけでなく、霊界においても戦いが繰り広げられている。それは、かつての預言者たちが象徴的な形で予見し、また現代の預言者や先見者たちの幻視の中にも見出される「大いなる戦い」である。

47. しかし、今まさに繰り広げられ、すべてを揺るがしているこの戦いは、人類によって理解されていない。それにもかかわらず、人類はまさにこの戦いの構成要素であり、その目撃者でもあるのだ。

48. 今日、人類の歩みは加速している――しかし、どこへ向かっているのか？ 人間は、これほど急いでどこへ行くのか？ この目眩がするような道で、果たして幸福を見出し、切望する平和、あらゆる心が利己的に願う素晴らしい人生に到達できるのだろうか？

49. 私はあなたに告げる。人間がその慌ただしさの中で実際に到達するのは、完全な消耗である。人間の精神と心は、生への嫌悪と倦怠へと向かっており、この深淵は人間自身によって作り出されたものである。

50. 人はこの深淵へと転落し、この完全な消耗の中、憎悪の感情、快楽、満たされない権力欲、罪と姦淫、そして精神的・人間的な法への冒涜という混沌の中で、その魂は一見した「死」を、その心は一時的な「死」を味わうことになる。

51. しかし、私は、人間がこの「死」から生へと立ち上がるように導く。私は、彼が復活を経験し、その新しい生において、すべての理想の再生、すべての原則と美徳の復活のために戦うようにする。それらは、その源である霊魂の特性であり、遺伝的遺産である。 なぜなら、霊魂は私から生まれ出たものであり（ ）、私から命を受け、私の完全さを飲み干し、私の恵みによって満たされたからである。（360, 6-8）

第12章 人類の裁きと浄化

第53章 - 裁きの時が来た

人間の蒔いた種の実り

1. 愛する弟子たちよ、今この時代は人類にとって裁きの時である。あなたがたが負債の返済を始めるための期限は過ぎ去った。今、あなたがたは過去の蒔き種から収穫を得ている。それは、あなたがたの行いの結果、あるいは帰結である。

2. 人間には、自分の行いを行うための時と、その行いに対して責任を負うための別の時が与えられている。後者が、あなたがたが生きている時代である。それゆえ、あなたがたは皆、苦しみ、泣いているのだ。あなたがたに種を蒔く時と収穫の時があるように、神にも、あなたがたに御法を果たすために与えられた時と、神の正義を明らかにするための別の時がある。

3. あなたがたは今、神の裁きの時代に生きている。苦痛があなたがたを泣かせ、人類は自らの涙の中で清められている。なぜなら、償いから免れる者は誰一人としていないからである。

4. これは裁きの時であり、あなたがたは自らの運命について深く考えるべきである。そうして、内省と霊化を通じて、良心の声を聞くことができるように。その声は、惑わしたり欺いたりすることはなく、むしろ平和の道へとあなたを導くものである。（11, 58-61）

5. これは人類に対する裁きの時である。一人ひとり、民族ごとに、そして国ごとに、私の神性によって裁かれる。 それにもかかわらず、人々はこれに気づいておらず、自分たちがどのような時代に生きているのかも知らない。それゆえ、私は霊として来臨し、人間の知性に私の光線を注ぎ、その媒介を通じて、誰があなたたちに語りかけているのか、あなたがたが生きている時代がどのようなものか、そしてあなたたちの使命が何であるかを明らかにした。（51, 61）

6. まことに、私はあなたがたに告げる。あなたがたはすでに「主の日」に生きており、すで

にその裁きの下にある。生者と死者は今まさに裁かれており、過去と現在の行いは、この裁きの天秤にかけられている。目を開き、神の正義が至る所で顕現していることを目撃せよ。（76, 44）

7. 古来より、私はあなたがたに裁きについて語ってきた。そして今、預言者たちがあたかも一日のことであるかのように描いた、その予告された時が来たのである。

8. あなたがたの神の言葉は王の言葉であり、撤回されることはない。たとえその言葉から数千年が経過したとしても、何の問題があろうか。父の御心は不変であり、必ず成就しなければならない。

9. もし人々が、わたしの言葉を信じるだけでなく、目を覚まし、祈ることを知っていたなら、決して不意を突かれることはなかっただろう。しかし、彼らは不誠実で、忘れっぽく、不信仰であり、試練が訪れたとき、それを神の罰、復讐、あるいは怒りのせいにする。それについて、わたしはあなたがたにこう言う。あらゆる試練は、あなたがたが備えられるように、あらかじめ告げられているのだ。それゆえ、あなたがたは常に目を覚ましていなければならない。

10. 大洪水、火による都市の破壊、敵の侵入、疫病、伝染病、飢饉、その他の災いは、あなたがたが備え、不意を突かれないようにと、地上のすべての民にあらかじめ告げられていた。 今日と同様に、神の愛からは常に、人々が目覚め、備え、強くなるために、警戒と備えを促すメッセージが下されてきたのである。（24, 74-77）

11. わたしはあなたがたに告げる。この世には確かに非常に大きな試練が待ち受けているが、苦痛の日々は短くなるだろう。なぜなら、人々の苦しみは極めて大きくなり、それによって人々は目覚め、わたしに目を向け、わたしの律法の遵守を求める良心の声に耳を傾けるようになるからだ。

12. わたしの正義は、この世に存在するあらゆる悪を根絶する。その前に、わたしはすべてを吟味する。宗教団体、科学、そして社会制度を。そして、神の正義の鎌がそれらを刈り取り、雑草を切り捨て、麦だけを残すであろう。 私が人々の心の中に見出すすべての良き種は、人々の魂の中で引き続き芽生えるよう、私が守り抜く。（119, 10-11）

審判における人類の浄化

13. 人々が私の愛を理解し、良心を通じて私の存在を感じ取るようになるまで、あとどれほど長く発展を続けなければならないのだろうか。人々が彼らに助言する私の声を聞き、私の律法を守るようになれば、それは彼らにとって物質主義の時代が終

わったことを示す兆しとなるだろう。
14. ひとまず、彼らは、人間の物質主義などとは比べ物にならないほど偉大な力があることを確信するまで、自然の力によって様々な形で試練に遭わなければならない。
15. 大地は揺れ動き、水は人類を清め、火は人類を浄化するだろう。
16. 人間が周囲の生命と調和して生きる術を知らなかった場所では、自然のあらゆる要素と力が、地上においてその存在を明らかに示すだろう。
17. それによって、自然は、自らを冒涜する者たちの滅亡を求めているわけではない。ただ、人間とすべての生き物との調和を求めているだけである。
18. もし自然の裁きがますます顕著に現れるならば、それは、人々の違反行為と、自然の法則との不一致が同様に大きくなったからである。（40, 20-25）
19. 人間の手が、自らに裁きを招き寄せたのである。その脳裏には嵐が吹き荒れ、その心には暴風雨が吹き荒れ、これらすべてが自然の中にも現れている。自然の要素は解き放たれ、季節は荒れ狂い、疫病が蔓延し、増え続けている。それは、あなたがたの罪が膨らみ病気を引き起こしているからであり、また、愚かで傲慢な科学が、創造主によって定められた秩序を認めないからである。
20. もし私がただこれを告げただけでは、あなた方は信じないだろう。それゆえ、あなた方がその行いの結果を手に取るように実感し、それによって失望することが必要なのである。まさに今、あなた方は、自ら蒔いたものの結果を経験する、人生のその瞬間に達しているのだ。（100, 6-7）
21. 地上での人生は、人間にとって常に試練と贖罪を伴ってきた。しかし、この発展の道が今ほど苦痛に満ちていたことはかつてなく、その杯がこれほどまでに苦味に満ちていたこともなかった。
22. この時代、人々は成人するまで待たずに、生きるための闘いに立ち向かっている。どれほど多くの存在が、幼少期からすでに失望、重荷、打撃、障害、そして失敗を知っていることか。さらに言おう。この時代、人間の苦しみは、生まれる前から、すなわち母の胎内においてすでに始まっているのだ。
23. この時代に地上にやって来る者たちの贖罪の義務は大きい！しかし、世に存在するあらゆる苦しみは、すべて人間の業であることを心に留めておくがよい。人生の道を茨で覆った者たちが、今それを刈り取らなければならないと許すこと以上に、わが正義に完璧なものがあるだろうか。（115, 35-37）
24. あなたがたは、私の普遍的な救済の計画を理解することは

できない。しかし、私がその一部をあなたがたに知らせるのは、あなたがたが私の業に参与するためである。

25. 世界が置かれているこの時代の意義を知っているのは、私だけである。いかなる人間も、この時の現実を理解することはできない。

26. 人々は、その初期の時代から絶えず自らを汚し続け、ついにその感覚と魂を暗くし、病み、安らぎなく、悲しみに満ちた人生を自ら作り出した。しかし今、浄化の時が訪れた。（274, 11-12）

27. すべての魂にとって収穫の時が到来した。それゆえ、あなたがたは人々の間に混乱を見ている。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。この混沌の中で、誰もが自らの蒔いた種を刈り取ることになる。

28. しかし、絶えず私の律法に背いてきた私の子供たちには、一体何が起こるのだろうか。まことに、眠り続け、私の教えを学ぼうとせず、心に留めようともしない者たちは皆、試練という竜巻に巻き込まれ、倒されることになる。 しかし、私の教えに従ってきた者たちにとっては、それは彼らの義務を果たすための励ましとなり、神が彼らに与える美しい報いとなるであろう。（310, 7）

29. この時代において、自らを新たにする用意のない者は、最大の苦難を味わわなければならず、この地上から連れ去られることになる。それによって、その者は自らの過ちを償い、律法、真理、そして命と和解するという貴重な機会を失うことになる。

30. 一方、この物質的な人生において、果たされた義務がもたらす平安と満足を胸に、霊的な故郷へと旅立つ者たちは、私の光に照らされていると感じるだろう。 しかし、もし彼らが再び転生しなければならない者たちであるならば、私は彼らが人間生活に戻る前に彼らを準備し、彼らが清く、より霊的になり、より大きな知恵を持ってそこに復活できるようにする。（91, 38-39）

裁きにおける神の愛

31. 苦痛はその全容を世界に注ぎ出し、千差万別の形で感じられるようになっている。

32. 人類よ、あなたはなんと恐ろしい慌ただしさの中で生きていることか！あなたは日々の糧となるパン生地を、なんと苦労してこねていることか！それゆえ、男たちは時より早く消耗し、女たちは早々に老い、少女たちは最盛期に枯れ、子供たちは幼い頃に感情を失ってしまう。

33. あなたがたが今生きているこの時代は、痛みと苦しみと試練の時代である。それにもかかわらず、私はあなたがたが平安を見出し、調和を成し遂げ、痛みを追い払うことを望んでいる

。そのために、私は霊として現れ、あなたがたの魂にとって慰めと癒やしと平安の露となる私の言葉を送る。

34. 復活であり、命である私の言葉に耳を傾けなさい。その言葉によって、あなたがたは信仰と健康と喜びを取り戻し、戦い、生きる力を得るであろう。（132, 42-45）

35. 今日は、魂にとって最大の償いの時である。わたしの裁きは始まり、一人ひとりの行いは天秤にかけられた。この裁きが魂にとって重く、苦痛を伴うものであっても、父は彼らに近くおられ、父は裁き手というより、愛に満ちた父である。また、あなたがたの執り成し手であるマリアの愛も、あなたがたを包んでいる。（153, 16）

36. 人類よ、わたしの正義が到来した。それは人間の傲慢を砕き、その邪悪さと物質主義の中で、人間がいかに小さい存在であるかを悟らせるであろう。

37. そう、民よ、私は、その誤った偉大さの中にいる人間を打ち倒す。なぜなら、私は、彼らが私の光を見て立ち上がり、真に偉大になることを望んでいるからだ。私は、あなたがたが光、寛大さ、慈愛、力、そして知恵に満ちあふれることを望んでいるのである。（285, 15-16）

38. 人類はわたしを認識せず、この時代におけるわたしの存在を否定している。しかし、わたしは彼らに、わたしが愛と憐れみをもって正義を現すこと、彼らに苦痛を与えるために鞭を持って来るのではないこと――ただ彼らを恵みの生活へと高め、わたしの言葉であり真理である水晶のように澄んだ水で彼らを清めたいと願っていることを、悟らせるであろう。 39. 世界は私の教えを学ばず、偶像崇拝と狂信を育んできた。それゆえ、今や世界は大きな試練の炉をくぐり抜け、苦難の杯を飲み干している。なぜなら、彼らの物質主義が彼らを私から遠ざけてしまったからである。（334、29-30）

40. 今、民族、人種、言語、肌の色によって分断された人類は、私の神聖な御霊から、それぞれの裁きの分、すなわち、すべての人に与えられる試練、闘い、試練の炉、そして私がすべての人とすべての人種のために用意した贖罪を受けている。

41. しかし、あなたがたは、私の裁きが愛を基礎としていること、父が人々に送る試練が愛の試練であること、そして、たとえこれらの試練の中に不幸や運命、あるいは悲惨さがあるように見えても、すべてが救いへと、善へと導かれることを知っている。

42. これらすべての背後には、生命があり、魂の維持があり、その救いがある。父は常に「放蕩息子」を待ち望み、最大の愛をもって彼を抱きしめるために待っておられる。（328, 11）

第54章 - 世界観、宗教、教会の戦い

地上のキリストの平和の王国到来前の霊的な戦い

1. 私が「第二の時代」において再臨を予告したように、今、私は、人間の中に私の霊化の王国を築くための先駆けとなる前兆として、信仰告白、世界観、そして宗教間の「戦い」を予告する。

2. わたしの言葉は、炎の剣のように、何世紀にもわたって人々を覆ってきた狂信を打ち砕き、無知のベールを引き裂き、わたしへと続く明るく輝かしい道を示すであろう。（209, 10-11）

3. 人々の間にわが王国の平和が確立されるためには、まず、信仰の教義、宗教、そしてイデオロギーによる「戦い」が繰り広げられなければならない。それは、ある者たちがわが名とわが真理を、他者の偽りの偶像に対抗させ、ある教義が別の教義と対立する争いである。

4. これこそが新たな戦い、すなわち霊的な戦いとなる。そこでは、偽りの神々は台座から突き落とされて倒れ、あなたがたが真実だと信じていたあらゆる嘘が、永遠に暴かれることになる。そうして、あなたがたは、混乱と闇の混沌の中から、真理が輝かしく立ち上がるのを目撃することになる。（121, 40）

5. スピリチュアリズムは、世界観、信仰告白、そして宗教的儀式の間で世界的な戦いを引き起こす。しかし、この対立の後、この教えは人々に、彼らがこれほどまでに必要としている祝福された平和をもたらし、すべての魂の上に、私の神聖な正義の太陽が輝き渡るようになるであろう。（141, 11）

6. 私は、世界観が混乱する時代を見据えて、あなたがたを準備し、警告する。それは、あなたがたが魂の内なる葛藤や思考の苦しみから解放されるためである。

7. なぜなら、人類のあらゆる世界観、教義、神学、哲学、そして信仰告白は揺さぶられ、それによって嵐を象徴することになるからだ。それは真の霊の嵐であり、その荒れ狂う波の上で、あなたがたは私の意志に従って航海し、嵐と闇が過ぎ去るまで、その上に留まらなければならないのである。

8. この試練を無事に乗り越えるための、祈りと私の言葉に従うこと以上に優れた処方箋を、私はあなた方に与えることはない。それによって、あなた方の信仰は絶えず強められていくであろう。

9. 世界観の戦い、信仰告白やイデオロギーの衝突、その戦いは、あらゆる宗教や制度の根底

に蓄積された欠陥や誤りが表面化するために、絶対に必要なものである。

10. この「嵐」が過ぎ去って初めて、人々の道徳的・精神的な浄化が始まるだろう。なぜなら、人々は真理が明るみに出るのを見、それを認識し、その真理を自らの内に感じ取り、もはや妄想や偽りに養われることはできなくなるからである。

11. すべての人が、物質的な生命がその光、その暖かさ、そしてその影響力に基づいていることを認識しているため、自発的かつ完全に、自らのために太陽が身体に及ぼす生命維持に不可欠な作用を利用するように、彼らは真理の光から、自らの魂の維持、強化、そして啓発に必要なすべてのものを利用するようになるだろう。

12. そうすれば、人間の生命が、私の律法によって定められた規範である真の生命の原理にますます適合していくにつれて、人間がこれまで一度も感じたことのない力が働き始めるだろう。（323, 19-22）

地上の精神的覇権をめぐる争い

13. この時代には、世界観と信仰の教えの争いがある。誰もが自分が正しいと主張する。しかし、この利己主義と私利私欲の争いにおいて、果たして誰が正しいのだろうか。果たして誰が真理の所有者なのだろうか。

14. もし、自分たちが完全な道にあり、真理を所有していると信じ、それを誇りに思っている者たちがいるならば――まことに、わたしはあなたに告げる、彼らはまだその道を知らないのだ。なぜなら、その道においては謙虚でなければならないからであり、他者の信仰に含まれる真理を認めないというだけで、彼らはもはや謙虚ではなくなってしまうのである。 しかし、私はすでに「第二の時代」において、あなた方にこう言った。「心優しく、謙虚な者は幸いである。」

15. 同胞の信仰や確信を非難する者は、救いから遠ざかる。なぜなら、その高慢と軽率さの中で、彼は自分の神になろうとしているからである。（199, 4-6）

16. あなたがたは、私がこの時代の人類に霊的に現れることで、何を成し遂げようとしているのかと私に問う。それに対し、私はこう答える。私が求めているのは、あなたがたが光へと目覚め、霊化され、そして一つになることである。なぜなら、あなたがたはいつの時代も分裂していたからである。 なぜなら、ある者たちが霊の宝を求めてきた一方で、他の者たちはこの世の富への愛に身を捧げてきたからだ――霊性主義と物質主義は絶え間ない争いの中にあり、霊

性主義者と物質主義者は互いに理解し合うことが決してできなかった。

17. 思い起こせ。イスラエルがメシアを待ち望み、その姿を目の当たりにした時、彼らは私の真理を信じる者と否定する者に分裂した。その理由は単純である。霊をもって私を待ち望んだ者たちが信者であり、「肉」の感覚をもって私を待ち望んだ者たちが私を否定したのである。

18. この二つの力は、この葛藤から真理が明らかになるまで、再び対立せざるを得ないだろう。その戦いは熾烈なものとなる。なぜなら、時が経てば経つほど、人々は地上のものを愛するようになるからだ。彼らの科学と発見は、自分たちが独自の王国、自分たちが作り出した世界に住んでいるという感覚を彼らに与えているからである。（175, 4-6）

19. 今日、あらゆる人は、真理を完全に知っていると信じている。あらゆる宗教は、真理を所有していると主張する。科学者たちは、真理を見出したと宣言する。しかし、私はあなたに告げる。誰も絶対的な真理を知ってはいない。なぜなら、人間は、自らに啓示された部分でさえ、その理性を以て把握することができなかったからである。

20. すべての人間は、真実と誤りの一部をその内に抱えており、それを真実の光と混ぜ合わせている。

21. それぞれの世界観を押し通そうとするため、これらすべての勢力が互いに争う戦いが近づいている。 しかし、最終的に勝利を収めるのは、人間のイデオロギーでも、科学的な理論でも、あるいは宗教的な信条でもなく、あらゆる良き世界観、あらゆる高潔な信仰、最高の精神性へと高められたあらゆる礼拝の形式、そして真の人類の進歩に奉仕するあらゆる科学が、調和して結びついた姿である。

22. 私は、人々が自らの観念について語り、それを発表することを許す。また、他者が自らの礼拝形式や儀式を公に披露すること、議論し、互いに争うこと、科学者たちが最も進歩的な理論を広めること、そしてあらゆる精神の中に秘められているものがすべて解き放たれ、日の目を見て、自らを明らかにすることを許す。 なぜなら、刈り取り人の日は近いからだ――その日、良心は容赦ない鎌のように、人間の心にあるあらゆる偽りを根こそぎ切り落とすのである。（322, 15-18）

霊の教えへの攻撃

23. 現代の聖職者たちは、イエスの犠牲の儀式を象徴的に執り行うために王侯貴族のような装いをしているが、彼らはその際に私の名と私の代理権を主張しているにもかかわらず、私は、彼らの理性が混乱し、彼らの心が陰謀と情熱の嵐によってかき

乱されていることを見抜いている。私が現代の人々の間にいることを預言者として告げ知らせる者は、一人もいない。 彼らは大きな苦しみを受けるだろう。なぜなら、彼らの間には霊的な備えがないからだ。イエスの前で、その足跡に従うと誓った者たちの、その誓いの成就はどこにあるのか。私の使徒たちの後継者たちはどこにいるのか。最初の者たちの一人であったヨハネに似た者、あるいは後継者たちの一人であったパウロに似た者は、一人でもいるのか。

24. それゆえ、師は再びあなたがたに近づき、教えを再開しようとしている。すでに、私に対する憎しみに満ちた新しいパリサイ人や律法学者たちが、私に向かって突進してくるのが見える。まさにその時、私は問うだろう。「私の弟子たちはどこにいるのか？」 しかし、高慢な者たち、偽り者たち、富める者たち、権力を失うことを恐れる者たち、私の真理によって脅かされる者たちが、再び私を嘲り、迫害するならば、激しい嵐が吹き荒れるだろう。しかし、十字架の重みに耐えきれず倒れるのは私ではなく、彼らに命を与えた御方の犠牲を求めた者たちである。（149, 32-33）

25. 物質主義の波は高まり、荒れ狂う海、すなわち苦しみと絶望、そして人間の不正に対する恐怖の海となるだろう。

26. 情熱と欲望と人間憎悪のその海を乗り越えて航行する船はただ一隻のみであり、その船こそがわが律法の船である。この時が来たとき、強き者たちは幸いである！

27. しかし、眠っている者たちには災いあれ！弱い者たちには災いあれ！宗教的狂信という土台に信頼を置いた民たちには災いあれ。彼らは、あの荒れ狂う波の餌食となりやすいからだ！

28. 人類よ、その戦いを予感しないのか？その時が来た時に身を守る準備をするよう、私の言葉はあなたを動かさないのか？

29. 私の光はすべての人の中にあるが、それを見ることができるのは、祈り、備えをする者たちだけである。私の光は、予感、霊感、直感、夢、そして示唆を通して、あなたたちに語りかけている。しかし、あなたたちはあらゆる霊的な呼びかけに耳を貸さず、あらゆる神のしるしに対して無関心である。

30. まもなく、あなたがたは私の言葉が成就するのを見、これらすべてが真実であったと証しすることになるだろう。

31. わたしの教えとわたしの名は、あらゆる攻撃と迫害の標的となり、真理の敵たちがあなた方を迫害する理由となるだろう。しかし、わたしの教えは、立ち上がって信仰を守る者たちのための光の剣ともなり、無垢な者たちが身を隠す盾ともなるだろう。 私の名は、ある者からは

祝福され、またある者からは呪われ、すべての人の口に上ることになる。

32. 人間のあらゆる能力が解き放たれるだろう。その知性、感情、情熱、そして精神的な能力は目覚め、戦う準備が整う。

33. その時、なんと大きな混乱が生じるだろう！私を信じていると信じていた多くの人々が、それが真の信仰ではなかったと悟らざるを得なくなるだろう！

34. 多くの家庭や心の中で、愛と希望の灯は消え失せるだろう。子供たちや若者たちは、この世以外の神を持たず、地上の法以外の法を持たないだろう。（300、35-40）

35. 人々が、世界への度を越した愛と、地上のものへの崇拝が、彼らを悲嘆に満ちた破滅へと導いたことに気づいたとき、何が起こるだろうか。 彼らは、失われた道を取り戻そうとし、背を向けていたあの原則や法則を探し求めようとするだろう。そして、その努力の中で、彼らは教義を作り出し、規則を定め、哲学や世界観、理論が台頭してくるだろう。

36. これらすべてが、新たな大いなる戦いの始まりとなるだろう――もはや、地上の権力への不純な欲望によって引き起こされるものではない。殺戮の武器が、もはや命を奪い、家を破壊し、人間の血を流すことはなくなる。その戦いは異なるものとなる。なぜなら、その時、 、すなわち主要な宗教団体が、新しい教えや新しい宗教と戦いを繰り広げるからである。

37. この戦いで勝利するのは誰か？どの宗教も、この争いから勝者として立ち上がることはないだろう。それは、あなたがたが今日経験しているこの殺戮の戦争において、いかなる民族も勝利者であり続けることができないのと同じである。*

**ここで言及されている第二次世界大戦には、いわゆる「戦勝国」は存在したが、地上の覇権をめぐる争いは終戦後も今日に至るまで続いている。しかし、この争いにおいて、最終的に勝利を収める世界大国は存在しないだろう。*

38. 地上の覇権を巡る戦争には、わたしの正義が支配し、その後、ある教義や宗教を押し通すためのあの戦いにおいては、わたしの真理が勝利するであろう。

39. 唯一かつ至高の真理は、嵐の夜の稲妻の光のように輝き、誰もがその神聖な閃光を、自分がいるその場所で目にするだろう。

40. 私のメッセージはすべての人に届き、あなたがたは皆、私のもとに来ることになる。私は来るべき時代のためにすべてを準備しており、私が魂と世界と人種と民族の主であるゆえに、すべての人において私の意志は成就する。（288, 33-36, 45）

霊的啓示や霊的治癒の無視や妨害

41. 霊界は、その存在と現存を人々に証しするために、さらに人々に近づいてくるだろう。至る所で、新たな時代が到来したことを執拗に告げる兆し、証拠、啓示、そしてメッセージが現れるだろう。

42. 争いが生じ、人々の間に動揺が広がるだろう。なぜなら、宗教の指導者たちは、それらのメッセージを信じる者たちに恐怖を植え付け、科学はそれらの事実を虚偽であると断じるからである。

43. それを受けて、一般の人々は勇気を奮い起こし、自分たちが受け取った証拠の真実を証言するために立ち上がるだろう。科学に見放されながらも、霊的な方法で健康を取り戻した者たちが立ち上がり、奇跡的な治癒や、無限の力と絶対的な知恵の啓示について証言するだろう。

44. 素朴で無名の人々の間から、その言葉が光に満ちて神学者、哲学者、科学者たちを驚かせる男女が公の場に現れるだろう。 しかし、論争が最も激しくなり、貧しい者たちが辱められ、その証言が傲慢な者たちによって否定される時、エリヤが学者たち、 、支配者たちを問いただし、試練にさらす時が来るだろう。

45. その時、偽り者や偽善者たちには災いがある。なぜなら、完全なる正義が彼らに降りかかるからである！

46. それは裁きの時となる。しかし、多くの魂がそこから真の命へと立ち上がり、多くの心が信仰へとよみがえり、多くの目が光へと開かれるであろう。（350, 71-72）

第55章 - 審判における地球と人類の浄化

清めの裁きに先立つ、神と自然からの警告の声

1. わたしは、全人類に非常に大きな試練が訪れると告げた――その試練は、何世紀にもわたる歴史の中で、これまでに類を見ないほど大きなものである。

2. 今、あなたがたは、私があなたがた全員の心に語りかけ、様々な形でメッセージや警告を送っていることを理解しなければならない。それは、人々が自省し、私のたとえ話にある賢い乙女たちのように、私の律法に対して目を覚ましているようにするためである。

3. 世界の諸民族や様々な国々は、私に耳を傾けるだろうか。私がこの姿で現れているこの民は、私に耳を傾けるだろうか。それを知っているのは私だけである。しかし、父としての私の

義務は、子供たちの道において、彼らの救いのためにあらゆる手段を用意することである。（24, 80-81）

4. まことに、あなたがたに告げる。もし人々がこの時代に、自らの魂に生じさせた汚れを清めなければ、自然の力が使者としてやって来て、わたしの裁きと栄光を告げ、人類をあらゆる不浄から清めるであろう。

5. その裁きの時が近づいていることを悟り、「主の日」が来たと感じて、わたしの名を賛美する男女や子供たちは幸いである。彼らの心は、悪の支配の終わりが近づいていると告げるからである。 言っておくが、彼らはその信仰と希望と善行によって救われる。しかし、あの時代に生きる者たちのうち、どれほど多くの者が神を冒涜することになるだろうか！（64, 67-68）

6. 最初の人類の楽園は涙の谷へと変貌し、今やそれはただ血の谷に過ぎない。それゆえ、今日、私は、弟子たちに与えた約束を果たすために来たのであり、人類を霊的な眠りから目覚めさせ、彼らを救うために私の愛の教えを与えるのである。 私は、この時代に、その行いをもって私の啓示と御言葉を証しする運命にある魂たちを求めている。

7. わたしによって選ばれた者たちがわたしの律法によって一つに結ばれるとき、大地と星々は揺れ動き、天にはしるしが現れるであろう。なぜなら、その時、主の御声は地の果てから果てまで聞こえ渡り、義人、預言者、殉教者たちの霊に囲まれた主の聖霊が、霊的世界と物質世界を裁くからである。 その時、聖霊の時代は全盛期を迎えるであろう。（26, 43-44）

8. 多くの民族が物質主義の深淵へと転落し、他の民族も転落寸前にある。しかし、その転落の苦痛こそが、彼らを深い眠りから目覚めさせることになる。

9. かつて栄華を極めた後、衰退を経験し、苦痛、悪徳、そして悲惨という闇へと沈んでいった国々がある。今日、死と混沌へと盲目的に突き進んでいるのは、一つの民族ではなく、全人類である。

10. 諸国民の傲慢は、わたしの正義によって報いを受けることになる。ニネベ、バビロン、ギリシャ、ローマ、カルタゴを思い起こせ。それらの中に、神の正義の深い教訓を見出すだろう。

11. 人々が権力の笏を握り、その心を不敬虔、傲慢、そして無分別な情欲で満たし、それによって自らの民を堕落へと引きずり込んだときはいつでも、私の正義が近づき、彼らからその権力を剥奪してきた。

12. しかし同時に、わたしは彼らの前に、彼らの魂の救いへの道を照らす松明を灯した。もし試練の瞬間に、彼らを自らの力に任せきりにしたら、人間はど

うなってしまうだろうか。（105, 45-47）

13. 人間は精神的に深淵から深淵へと沈み、私を否定し、私を忘れるという段階にまで達した。さらには、自らの本質、すなわち霊を認識しないことによって、自分自身を否定するという極限にまで至った。

14. ただ私の慈悲のみが、私のもとへ至るためにその道を再び歩まなければならないという苦痛を、人間から免れさせることができる。私のみが、私の愛をもって、子供たちが救いの道を見出せるよう、その道の途上に手段を用意することができるのである。（173, 21-22）

15. （大洪水の）水がもはや大地を覆わなくなったその日、私は、神が人々と結んだ契約のしるしとして、大空に平和の虹を輝かせた。

16. 今、わたしはあなたに告げる。「第三の時代」の人類よ、あなたは、自らを清めるためにこれらすべての試練を乗り越えてきた者そのものである。あなたはまもなく、新たな混乱を経験することになる。

17. しかし、私は、私が選んだ民、そしてこの時代に私が自らを明らかにした全人類を警告するために来たのだ。よく聞きなさい、わが子らよ。ここに箱舟がある。その中に入りなさい。私はあなた方を招く。

18. イスラエルよ、あなたにとって箱舟とは、わたしの律法に従うことである。最も苦難に満ちた日々、最も厳しい試練の時期に、わたしの戒めに従う者は皆、箱舟の中にあり、強くあり、わたしの愛の守りを感じるであろう。

19. そして、全人類に、私はもう一度言う。箱舟とは、私の愛の律法である。隣人に対して、また自分自身に対して愛と憐れみを実践する者は、救われるであろう。（302, 17-19）

20. わたしは常に、あなたがたに準備のための時間を与え、あなたがたを救うための手段を用意してきた。時代の終わりや一時期の終わりに、あなたがたに説明を求めるためにわたしの裁きを送る前に、わたしは警告し、目覚めさせ、悔い改め、改心、そして善へと導くことで、わたしの愛を示してきた。

21. しかし、裁きの時が来ると、私はもはや、あなたがたがすでに悔い改めたか、準備を整えたか、あるいは依然として悪と不従順の中に留まっているかを問うために立ち止まることはなかった。

22. わたしの裁きは定められた時に到来し、時宜を得て箱舟を造ることを知っていた者は救われた。しかし、裁きの時が告げられた時に嘲笑し、自らの救いのために何もしなかった者は、滅びざるを得なかった。（323, 51）

悪の力と支配は打ち砕かれる

23. これまで、この世で勝ち残ってきたのは人間の愛ではなかった。人類の始まりからそうであったように、支配し、勝利してきたのは暴力であった。愛した者は、悪意の犠牲となって敗北した。

24. 悪はその王国を拡大し、地上において強大になった。しかし、まさにこの時に、私はそれらの勢力に立ち向かうためにやって来る。それは、人々の間に愛と正義の王国が築かれるためである。

25. その前に、私は戦う。なぜなら、あなたがたに私の霊の平安を与えるためには、私が戦いを繰り広げ、あらゆる悪を排除することが必要だからである。（33, 32-33）

26. 人々は自らの道の終わりに達し、その道を辿って戻ってくるだろう。そして、彼らが蒔いたものの実をすべて刈り取ることになる――それこそが、心に悔い改めを生じさせる唯一の方法である。なぜなら、自分の過ちを悟らない者は、その過ちを償うために何一つできないからである。

27. 新しい世界が準備されつつあり、新しい世代がまもなくやって来る。しかしその前に、飢えた狼たちを排除し、彼らが羊を獲物としないようにしなければならない。（46, 65-66）

28. 肉体的なものではないある種の疫病が地上に蔓延し、心を蝕み、信仰と徳を破壊している。人々は精神的なぼろきれに身を包んで生き、物質的なもの以上のものを見通すことはできないため、この惨めさを誰も暴くことはできないと考えている。

29. しかし、良心の時が近づいている。それは、あたかもあなたがたが「主の日、あるいは主の裁きが目前に迫っている」と言うのと同じことである。その時、ある者には恥が湧き上がり、他の者には悔恨が湧き上がるだろう。

30. この内なる声を、灼熱のように激しく、容赦なく聞き取る者たちは、その内面に、焼き尽くし、滅ぼし、清める炎を感じるだろう。この裁きの炎には、罪も、清くないものも、何一つとして耐えられない。 神聖な力に恵まれている魂だけが、それに耐えることができる。したがって、魂が良心の炎をくぐり抜けたとき、過ちから清められ、新たに生まれ変わるだろう。（82, 58-59）

31. 人々が引き起こしたあらゆる苦しみは、一つの杯にまとめられ、それを引き起こした者たちによって飲み干されることになる。そして、その苦しみに対して決して動揺しなかった者たちでさえ、その時、魂と肉体の両方で震え上がるだろう。（141, 73）

32. すべての者にとって、天が一時的に閉ざされ、すべての存在の父がただひとりであること

を人々が悟り、大地からただひとつの叫びが上がるまで、天が再び開かれるのを待つ必要がある。

33. まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしは、この兄弟殺しで利己的な世界を裁きに服させ、そこから愛と光が立ち上るのを見るまで、それを清めるであろう。 また、今日、自らの民を破滅へと導き、あらゆる悪徳をまき散らし、不正の王国を築き上げた者たちに対しても、償いとして、誘惑と戦い、堕落を排除し、悪の樹を根こそぎ引き抜くという使命を、私は与えるであろう。（151, 14 + 69）

34. 人間は、その自由意志を行使して、自らの発展の道を歪め、自分が誰から生まれたのかを忘れてしまった。そして、美徳、愛、善、平和、兄弟愛が、自らの本質にとって異質なものに思えるほどにまで至り、利己心、悪徳、罪を、最も自然で許されるものとして見なすようになった。

35. 新しいソドムは全地球に広がっており、新たな浄化が必要である。 良き種は救われ、そこから新しい人類が形成される。悔恨の涙で潤された肥沃な畑に、わたしの種は落ち、それは主により高き形の崇拝を捧げるであろう未来の世代の心の中で芽吹くであろう。（161, 21-22）

36. わたしは、人の手が破壊、死、そして戦争をもたらすことを許すが、それはある一定の限度までである。人の不義、堕落、盲目、そして権力への欲望は、この限界を超えることはできない。

37. その時、わたしの鎌がやって来て、わたしの意志が定めたものを知恵をもって刈り取るであろう。なぜなら、わたしの鎌には、命と愛と真の正義が宿っているからである。しかし、民よ、目を覚まし、祈れ！（345, 91）

38. かつて、この地は涙の谷であったが、現在は血の谷となっている。明日、それは何となるだろうか。それは、罪を焼き尽くし、愛なき人々の高慢を打ち砕いた裁きの火が通り過ぎた後の、煙る瓦礫の戦場となるだろう。彼らは自らの魂を顧みなかったからである。

39. 同様に、知恵の神殿からも、科学の商人たちは追い出されるだろう。彼らは光を用いて高利貸しを行い、真理を冒涜したからだ。（315, 61-62）

40. 大国たちは傲慢に立ち上がり、その力を誇り、武器をもって世界を脅かし、自らの知性と科学を誇っているが、彼らが作り出した偽りの世界の脆さには気づいていない。なぜなら、私の正義のわずかな息吹さえあれば、この人工的な世界は消え去るからである。

41. しかし、自らの業を破壊するのは、人間自身の手である。かつて自ら創造したものを滅ぼ

す方法を考案するのは、人間の知性そのものである。
42. 私は、人々に良い実をもたらした人間の業のみが残り、それらが今後も来るべき世代の利益のために用いられるよう、取り計らう。しかし、堕落した目的や利己的な目的に奉仕するものはすべて、私の容赦なき裁きの炎によって滅ぼされるであろう。
43. 物質主義的な人類によって創造され、また破壊された世界の廃墟の上に、経験そのものを基礎とし、魂の向上という理想を目標とする新しい世界が立ち上がるであろう。（315, 55-56）

終末的な戦争、疫病、災厄、そして破壊

44. あなたがたは恐怖の時代に生きており、人々は苦難の杯を底まで飲み干すことによって自らを清めている。しかし、預言を研究してきた者たちは、国家間の不和により至る所で戦争が勃発する時が目前に迫っていることを、すでに知っていた。
45. 未知の病気や疫病が人類の間に現れ、科学者たちを困惑させることは、まだこれからである。しかし、人々の苦痛が頂点に達したとしても、彼らはなお、「神の懲罰だ！」と叫ぶ力を持っているだろう。だが、私が懲罰を下すのではない。あなた方 こそが、あなた方の魂と肉体を支配する法則から逸脱したとき、自らに懲罰を下しているのである。
46. 人間の不合理さ以外、誰が自然の力を解き放ち、挑んだというのか。誰が私の法則に逆らったというのか。科学者たちの傲慢さだ！しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。この苦しみは、人間の心の中で大きく育った雑草を、根こそぎ引き抜くために役立つのだ。
47. 野原は死体で覆われ、罪のない者たちまでもが命を落とすだろう。ある者は火によって、ある者は飢えによって、またある者は戦争によって死ぬ。大地は揺れ動き、自然の力が動き出し、山々は溶岩を吐き出し、海は荒れ狂うだろう。
48. わたしは、人々が自由意志によって許される限り、その堕落を極限まで進めることを許す。そうして、彼らは自らの行いに恐怖を覚え、魂の底から真の悔い改めを感じるようになるためである。（35, 22-26）
49. 科学の木は、嵐の猛威によって激しく揺さぶられ、その実を人類の上に落とし続けるだろう。しかし、人間以外の誰が、それらの要素の鎖を解いたというのか？
50. 確かに、最初の人類もまた、現実を悟り、良心の光に目覚め、法に従うために、苦痛を知ることとなった。しかし、この時代の、発達し、意識が高く、教養のある人間が――どうして

生命の木を冒涜するなどということを敢えてできるだろうか？（288, 28）

51. 世界では疫病が蔓延し、人類の大部分がそれによって滅びるだろう。それは未知の、稀な病気であり、科学はそれに対して無力である。

52. 全世界から雑草が取り除かれる。わが裁きは、利己心、憎しみ、飽くことのない権力への欲望を根絶する。大規模な自然現象が現れるだろう。

53. 国々は荒廃し、広大な地域が消滅する。それは、あなた方の心への警鐘となるだろう。（206, 22 24）

自然と自然災害

54. 人類よ、もしあなたが、血なまぐさい戦争を行うために費やしてきたすべてのものを、人道的事業を行うために費やしていたならば、あなたの存在は父の祝福に満ちていたであろう。しかし、人間は蓄積した富を、破壊と苦痛と死をまき散らすために用いてきた。

55. これでは、神の兄弟姉妹であり子供である者たちが歩むべき真の生活とは言えない。このような生き方は、私があなたの魂に刻んだ律法に合致しない。

56. あなたがたが陥っている過ちに気づかせるため、火山は噴火し、大地からは火が噴き出し、「雑草」を焼き尽くすだろう。風は荒れ狂い、大地は揺れ動き、大洪水は広大な土地や国々を荒廃させるだろう。

57. このようにして、自然界は人間に対する不快感を表すだろう。人間が、周囲の自然と結びつけていた友情と兄弟愛の絆を次々と破壊したため、自然界は人間との関係を断ち切ったのである。（164, 40-42）

58. 人類には多くの災いが降りかかるだろう。自然界には激変が起こり、元素たちはその束縛を打ち破るだろう。火は広大な土地を荒廃させ、川の水は氾濫し、海は変化を遂げるだろう。

59. 水に埋もれたままの地域もあれば、新たな土地が現れるだろう。多くの生き物が命を落とし、人間よりも低い地位にある存在たちも滅びるだろう。（11, 77）

60. 自然の力は、世界に押し寄せ、地球を清め、浄化するための時をただ待っている。ある国家が罪深く、傲慢であればあるほど、彼らに対する私の裁きはより厳しいものとなる。

61. この人類の心は硬く、鈍感である。彼らが良心の声、律法と神の正義の声を聞き取るためには、苦難の杯が彼らに与えられる必要がある。すべては、魂の救いと永遠の命のために起こるのだ。私が求めているのは、まさにその魂である。（138, 78 79）

62. かつて、地球を人間の不浄から清めたあの大洪水や、ソドムに降り注いだ火は、今日では

伝説として知られている。しかし、この時代においても、地球が空気、水、そして火の猛威の下で震えるとき、人類がいかに揺さぶられるかを、あなた方は目撃することになるだろう。 しかし、私は再び、私の律法という箱舟をあなたがたに送る。それに入れば、救われるのである。

63. 試練の時、「父よ、父よ」と叫ぶ者すべてが、わたしを愛するわけではない。常に隣人に対してわたしの愛を実践する者たちこそが、救われるのである。（57, 61-62）

64. 新たな大洪水が押し寄せ、人間の堕落から大地を洗い清めるであろう。それは偽りの神々の祭壇を倒し、傲慢と不敬の塔の土台を石一つ一つまで破壊し、あらゆる誤った教えと歪んだ哲学を根絶するであろう。

65. しかし、この大洪水はかつてのように水だけで構成されるものではない。なぜなら、人間の手は、目に見えるものも目に見えないものも、あらゆる要素を自らに敵対させるように解き放ってしまったからである。人間は自らに裁きを下し、自らを罰し、自らを裁くのである。（65, 31）

66. 自然界は正義を叫び、解き放たれたとき、地表の一部が消え去って海となり、海が消え去ってその代わりに陸が現れるように仕向けるであろう。

67. 火山は裁きの時を告げるために噴火し、自然全体が激しい動きを見せ、揺さぶられるだろう。

68. あなたがたが良き弟子として振る舞えるよう祈りなさい。なぜなら、その時こそ、三位一体・マリアの霊的教義が人々の心に広まるふさわしい時となるからである。（60, 40-41）

69. 地球の表面の4分の3は消え去り、混沌を生き延びた者たちの避難所となる一部だけが残る。あなたがたは多くの預言の成就を目の当たりにするだろう。（238, 24）

70. 誤解してはならない。「第六の封印」が終わりを迎える前に、大きな出来事が起こるからだ。星々は重要な兆しを示し、地上の国々は嘆き悲しみ、この惑星の3分の2は消え去り、聖霊の種が新しい命として芽吹く1つの部分だけが残される。

71. そうして人類は、一つの教え、一つの言葉、そして平和と兄弟愛という一つの絆によって結ばれ、新たな存在としての歩みを始めるだろう。（250, 53）

72. わたしは、あなたがたに、あなたがたが受けるに値する苦しみについて語っている。あなたがたはそれをますます増大させ、時が来れば、それは溢れ出すだろう。

73. 私は決して、わが子らにそのような杯を差し出すことはない。しかし、私の正義において、私はあなたがたが、悔い改め

て私のもとに戻ってくるように、あなたがたの悪意、高慢、そして軽率さの果実を刈り取ることを許すことができる。

74. 人々は、その科学をもって、万物が調和している自然の神殿を冒涜し、私の力と正義に挑んだ。それゆえ、彼らの裁きは今や容赦のないものとなるだろう。

75. 自然の力が解き放たれ、宇宙は揺さぶられ、大地は震えるだろう。 その時、人々は恐怖に襲われ、逃げ出そうとするだろうが、逃げ場はない。彼らは解き放たれた力を抑え込もうとするが、それは叶わない。なぜなら、彼らは罪悪感を抱き、自らの傲慢と愚かさを手遅れになって悔い、罰を逃れるために死を求めるからだ。（238, 15-17）

76. もし人々が自らの霊的な賜物を知っていたなら――どれほどの苦しみを軽減できたことか！しかし彼らは、最大の苦痛の時代が迫っているにもかかわらず、盲目であり続けるか、あるいは怠惰であり続けることを選んだのである。

77. 私の教えは、かつての預言者たちによって人類に予告されたあの大きな苦しみから、あなたがたを救うために、あなたがたを啓発するものである。

78. あなたがたの人生を改善することによってのみ、解き放たれた自然の要素の影響から自らを解放する力、すなわち能力を見出すことができる。なぜなら、信仰や祈りだけが、人生の運命の打撃や逆境に対する勝利をもたらす武器ではないからだ。その信仰と祈りは、徳高く、清く、善良な生活によって支えられなければならないのである。(280, 14-15, 17)

79. まもなく、世界にとって大きな出来事が起こる時が訪れる。大地は震え、太陽はこの世界に灼熱の光線を降り注ぎ、その地表を焦がすだろう。大陸は極から極へと苦痛に見舞われ、地球全体が浄化され、その厳しさと贖罪を感じない生き物は一人もいなくなるだろう。

80. しかし、この大いなる混乱の後、諸国は平穏を取り戻し、自然の力は鎮まるだろう。この世界が今生きているその「嵐の夜」の後、平和の虹が現れ、万物はそれぞれの法則、秩序、調和へと回帰するだろう。

81. 再び、あなたがたは澄み渡る空と肥沃な野原を見るだろう。川の流れは再び濁りなく、海は穏やかになる。木々には実がなり、野原には花が咲き、収穫は豊かになる。清められ、健康を取り戻した人間は、再び尊厳を感じ、自らの昇華と、わたしへの帰還への道が整えられているのを見るだろう。

82. 来るべき新時代を目撃するにふさわしい者となるため、誰もが根底から清められ、浄化されるであろう。なぜなら、私は新しい人類を堅固な土台の上に

築かなければならないからである。（351, 66-69）

神の愛の正義と憐れみ

83. 裁きが世の中で完全に感じられる時が近づいている。あらゆる行い、あらゆる言葉、あらゆる思いが裁かれることになる。諸国民を治める地上の権力者から、最も卑しい者に至るまで、彼らは皆、私の神聖な天秤にかけられる。

84. しかし、正義を報復と混同してはならない。また、償いを罰と混同してはならない。なぜなら、わたしはあなたがたが自らの蒔いた種の実を収穫し、それを食べることを許すだけだからである。そうして、その味と効果によって、それが善か害か、あなたがたが善を蒔いたのか悪を蒔いたのかを知ることができるようにするためである。

85. 人間の悪行によって流された無実の血、未亡人や孤児、追放され、悲惨と飢えに苦しむ者たちの悲しみと涙 – それらはすべて正義を求めて叫び、私の完全で慈愛に満ちた、しかし容赦のない正義がすべての人々に下るのだ。（239, 21-23）

86. 私の正義は、あらゆる被造物に臨み、すべての人間に及ぶであろう。それは、主の御使いがエジプトに臨み、私の裁きを実行した時のように、子羊の血で戸口に印をつけた者だけが救われたのと同じである。

87. まことに、わたしはあなたがたに告げる。この時代において、目を覚まし、救い主、すなわち、あなたがたに祈りを教え、完全な愛をもってあなたがたの贖いの道の務めを果たすために自らを犠牲にした神の子羊の言葉と約束を信じる者は、すべて救われる。なぜなら、わたしの血が、愛の外套のようにあなたがたを守るからである。 しかし、目を覚まさない者、信じない者、あるいは冒涜する者は、その無気力から目覚めるよう、試練に遭うことになる。（76, 6-7）

88. 人々の心の奥底から、私への助けを求める叫びが湧き上がり、「父よ、私たちの救い主よ、私たちのもとに来てください。私たちは滅びてしまいます」と私に告げる時、私は彼らに私の臨在を感じさせ、私の限りない憐れみを彼らに明らかにし、それをもう一度彼らに証明してやる。（294, 40）

89. あなた方の日常の生活は、突然、激しい嵐に吹き荒らされるだろう。しかしその後、無限の彼方で一つの星の光が輝き、その光線は、受肉した霊が永遠について思索するために必要とする平和、光、そして静けさをもたらすであろう。（87, 52）

審判の影響

90. 人間にとってすべてが終わったように見え、死が勝利し、あるいは悪が勝利したかのよう

に思われるとき、闇の中から存在たちは光へと立ち上がるだろう。彼らは死から真の命へと復活し、破滅の深淵から立ち上がり、神の永遠の法に従うことになる。

91. すべての者がその深淵を知るわけではない。なぜなら、ある者たちは、情熱、野心、憎悪の戦いに巻き込まれないよう心掛け、新しいソドムの端っこで生きてきたからである。また、多くの罪を犯した他の者たちは、時機を逃さず立ち止まり、早めの悔い改めと完全な再生によって、多くの涙と苦痛を免れることになるだろう。（174, 53-54）

92. 人類のその道徳的・物質的な構造全体について、「石一つ残らず」取り壊されることになる。なぜなら、この地上に「新しい人間」が現れるためには、あらゆる汚点を消し去り、あらゆる罪を取り除き、良き種を含むものだけを残すことが不可欠だからである。

93. 私の臨在と正義の輝きは全地球に知れ渡り、その光に照らされて、 、偶像は倒れ、慣れ親しんだ伝統は忘れ去られ、実りのない儀式は放棄されるであろう。(292, 33-34)

94. 人間の救いのために開かれたままになる扉はただ一つ、霊化への扉である。救われようとする者は、その高慢、偽りの偉大さ、卑しい情欲、そして利己心を捨て去らなければならない。

95. 人類が大いなる戦いで飲まなければならない杯は、極めて苦いものとなるだろう。それでもなお、私はあなたに告げる。その杯を飲み干し、清められた者としてこの地を去る者たちは幸いである。なぜなら、彼らが別の肉体をもってこの世に戻ってきたとき、彼らのメッセージは光と平和と知恵に満ちているからである。（289, 60-61）

96. その苦渋を伴う「最後の戦い」や「最後の嵐」はまだ到来していない。あらゆる力が騒然とし、原子たちが混沌の中で渦巻くという事態はまだ起こっていない。そして、そのすべてを経て、死を思わせるような無気力、疲労、悲しみ、嫌悪感が訪れるのである。

97. しかし、その時こそ、感性が研ぎ澄まされた霊魂の中に、トランペットの響き渡る反響が聞こえる時となる。それはあの世から、善意ある人々の間に、生命と平和の王国が近づいていることを告げるものである。

98. その音と共に、「死者はよみがえり」、悔恨の涙を流すであろう。そして父は、長い旅路に疲れ、大いなる戦いに疲弊した「放蕩息子たち」として彼らを迎え入れ、愛の口づけをもって彼らの魂を封印するであろう。

99. この「日」から、人は戦争を憎むようになる。人は憎しみ

と恨みを心から追い払い、罪を断ち切り、償いと再建の生活を始めよう。多くの人々は、かつては見えなかった光に感化され、平和な世界を築くために立ち上がるだろう。
100. それは、恵みの時代、すなわち平和の時代の始まりに過ぎない。
101. 石器時代はすでに遥か昔のこととなった。科学の時代もまた過ぎ去り、そして人々の間には精神の時代が花開くであろう。
102. 生命の泉は、人々が善の科学、正義、そして愛に強固な世界を築くことができるよう、偉大な秘密を明らかにするであろう。（235, 79-83）

XIII 世界と創造の変容と完成

第56章 - キリストの霊的業の勝利と承認

神の使徒たちによる霊の教えの普及

1. この時代において、わが法は救いの箱舟となるであろう。まことに、あなたがたに告げる。悪、苦痛、そして悲惨という大洪水の水が解き放たれたとき、他国の人々は、この国の霊性、そのもてなし、そしてその平和に惹かれて、長い列をなしてこの地を訪れるであろう。そして、彼らがこの啓示を知り、私が聖霊として再び来た際に語ったことを信じるならば、私も彼らを「霊によるイスラエル人」と呼ぶであろう。
2. この大群衆の中には、私が彼らの民のもとへ帰らせ、兄弟たちに私の言葉という神のメッセージを伝えるために遣わす使徒たちがいる。
3. しかし、私があなた方に伝えた教えを知るために、この国に来る者は皆ではない。多くの者は、霊的にそれを受け入れるからである。（10, 22）
4. あなたがたは皆、その行いにふさわしい平和を受けることになる。しかし、私はあなたがたにより良い時代を約束する。
5. 地上で行われなければならない浄化の後、私によって遣わされた人々が現れる。彼らは、従順な人類の家族を築くという偉大な使命を帯びた、徳高い魂たちである。
6. あなたがたの世代からさらに四世代が過ぎ去るまで、わたしの教えが地球上に広まり、美しい実を結ぶことはないだろう。（310, 50）

新しい御言葉の承認をめぐる戦い

7. 今日、私を取り巻くのは小さな群れに過ぎないが、明日に

は計り知れないほどの人々が私の周りに集まるだろう。 その中には、ファリサイ派の人々や偽善者たちがやって来て、私の教えの中に誤りを探し出し、大衆の意見を煽って私の働きに反対させようとするだろう。彼らは、私の働きを探り出す前に、自分たちこそが見抜かれてしまうことを知らないのだ。（66, 61）

8. かつて、アンナス、ピラト、ヘロデという三人の裁判官がわたしを裁き、民はわたしに判決を執行した。今、わたしはあなたがたに告げる。多くの者がわたしの裁判官であり、この時代にわたしに苦痛を与える者の数はさらに多い。

9. しかし、人々が私の律法と教えを嫌悪すればするほど――それらが最も迫害され、拒絶される時こそ、信仰を持つ人々の声が響き渡るだろう。なぜなら、「第二の時代」と同じようなことは起こらないからだ。今、私は一人ではない。（94, 67）

10. この時代に与えられた私の言葉が、一見、地上の面影から消え去ったかのように見える短い期間があるだろう。

11. そうして人々は、霊的な教えをでっち上げ、新しい律法や戒めを説き始めるだろう。彼らは自らを師、使徒、預言者、神の使徒と名乗り、私はしばらくの間、彼らに語らせ、種を蒔かせよう。私は彼らにその種を育てさせ、実を収穫した時、彼らが何を蒔いたかを悟らせるのだ。

12. 時と自然の力は彼らの蒔いた種を覆い尽くし、その歩みは、これらの人類の子供たち一人ひとりにとって、さながら裁きとなるであろう。

13. 世界が真実を悟るためには、その欺瞞を知ることが必要である。そうして初めて、この時代に私があなたがたに授けた真理と生命の本質が、その純粋さと霊性のもつべき姿のまま、人々の間で再び蘇ることになる。（106, 9-10）

聖霊の教えの力

14. 人類にとって新たな時代が幕を開けた。それは光の時代であり、その到来は、すべての人々の霊的な道のりにおいて頂点をなすものであり、それによって人々は目覚め、思索し、伝統、狂信、そして誤りの重荷を振り払い、その後、新たな生へと立ち上がるのである。

15. ある者は早く、ある者は遅く、こうして次第にすべての宗教や宗派は、目に見えない神殿、すなわち聖霊の神殿へと至ることになる。その神殿は、私の業の中に存在し、あらゆる民族や世代の人々を待ち望む、無限へとそびえ立つ柱のように揺るぎないものである。

16. すべての人々が祈りと瞑想のために私の聖所の内側に入ったとき、ある者もまたある者も、私の真理について同じ認識を

得るだろう。したがって、この道のりの頂点が一度達成されれば、すべての人々は同じ法の下に結ばれて立ち上がり、同じ方法で父を崇めるようになる。（12, 94-96）

17. 私が育て上げ、闇と無知から救い出した民と共に、私はかつて与えられた預言を成就させる。そして、私の証拠と奇跡を前にして、世界は震え上がり、神学者や預言の解釈者たちは自らの書を焼き捨て、この啓示を研究する準備を心の中で整えるであろう。 称号を持つ者、学識者、王笏と王冠を戴く者たちは、私の教えに耳を傾けるために立ち止まり、多くの者がこう言うだろう。「救い主キリストが再び来られた！」（84, 60）

18. まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの言葉は、あなたがたの現在の世界と、あなたがたの人生そのものの様相を一変させるであろう。

19. 現代の人々にとって、世界とその享楽こそが人生の意義である。しかし、まもなく彼らは、肉体よりも魂を、衣服よりも肉体を重んじるようになり、世俗的な栄華を追いかける代わりに、魂の不死を求めるようになる。

20. 当初は、霊的なもののために狂信的な熱狂が生じ、その追求は極限まで高まるであろう。しかしその後、人々の心は落ち着き、霊性は真実と誠実さに満ちて花開くであろう。（82, 30-31）

21. わたしの教えは世界に大きな変革をもたらし、風俗や思想に大きな変化が生じ、自然界においても変化が起こるであろう。 これらすべてが、人類にとっての新しい時代の始まりを告げるものであり、私がまもなく地上に遣わす魂たちは、これらすべての預言について語るだろう。彼らは私の言葉を解き明かし、その業を語り、この世界の回復と向上に貢献するであろう。（152, 71）

22. 私を見ることができなかったが、その不完全さにもかかわらず私を求め続けたために、ついに私を見ることになった者たちの魂からは、「新しい歌」が湧き出るだろう。そして、私を求める者は必ず私を見出すことを、あなた方はよく知っている。

23. わたしを否定し、わたしを避け、わたしの名を隠し、わたしの存在を認めようとしない者たちについては、彼らの道において、彼らの目を開き、彼らにもまた真理を見させるような試練が与えられるであろう。（292, 35-36）

24. すべてを押し流す激流のように、スピリチュアリズムに傾倒する大衆が形成するその波は、その勢いが圧倒的であるため、誰も止めることのできないものとなるだろう。そして、その流れの進路に障害物として立ち

はだかろうとする者は、その流れに飲み込まれてしまうだろう。

25. 地上に、魂の進化や神の御旨の成就を止める力を持つ者がいるだろうか。誰もいない。絶対的な力と正義を持つ唯一の存在は、あなたがたの父であり、父はすべての魂が完全へと進むよう定められたのである。

26. もし人々が私の神聖な律法を短期間でも無視したとしても、私は、霊的な生において死んでいる者たちでさえも、大きな鐘の音のように私の声を聞き取れるようにするであろう。（256, 40-42）

27. そうして人類が私の教えを知り、その真意を理解すれば、人々はそれに信頼を置き、それが、 な正義、愛、そして隣人への敬意をもって生きたいと願うすべての人にとって、確かな道であり、導き手であるという信仰を強めるだろう。

28. この教えが人々の心に根を下ろせば、それは家庭生活を照らし出すだろう。すなわち、親を徳において強め、夫婦を忠実において強め、子供たちを従順において強め、そして教師たちを英知で満たすであろう。 それは統治者たちを寛大にし、裁判官たちに真の正義を行使するよう促すだろう。科学者たちは啓発されたと感じ、その光は人類の福祉と精神的発展のために、彼らに偉大な秘密を明らかにするだろう。このようにして、平和と進歩の新しい時代が始まるのである。（349, 35）

全世界におけるキリストの再臨の認識

29. 人間が深淵の底へと沈み、闘争と苦しみによって疲れ果て、もはや自らを救う力さえ失ったとき、彼は驚嘆して、自らの弱さ、絶望、失望の深みから、霊に由来する未知の力が湧き出るのを体験するだろう。 解放の時が来たことを自覚した時、その人は翼を広げ、虚栄と利己主義と嘘に満ちた世界の瓦礫の上に舞い上がり、こう言うだろう。「あそこに、見捨てられたイエスがいる。彼は生きている。私たちは、至る所で、日々、彼を殺そうとしてきたが、それは無駄だった。彼は生きており、私たちを救い、その愛のすべてを私たちに与えるために来られるのだ。」（154, 54）

30. まことに、あなたがたに告げる。かつて王たちでさえ、私が生まれた貧しさに驚嘆したように、この時代にも、私があなたがたに私の言葉をもたらすために選んだ、その目立たない方法を知ったとき、人々は同様に驚かされるであろう。（307, 52）

31. 現在、人類は準備段階にある。人々がまだ気づいていないうちに、私の正義が彼らの中で働いているのだ。なぜなら、彼らはその高慢さ、傲慢な物質主

義ゆえに、自分たちにとって避けられない人生のあらゆる出来事を、すべて偶然のせいにしているからである。
32. しかし、まもなく私の呼びかけが彼らの心に届くであろう。その時、彼らは悔い改めて私に近づき、その傲慢と過ちが赦されるよう私に懇願するであろう。
33. それは人間の魂にとって「十字架の時」となるだろう。大きな失望の後、彼は短期間、絶対的な虚無を経験する。その時、彼は自らの独善の誤り、権力の儚さ、そしてイデオロギーの誤りを悟るのだ。
34. しかし、この混乱の状態は長くは続かない。なぜなら、その時、私の使徒たちが現れ、私の新しいメッセージを広めるからである。
35. かつて、私の教えの使徒たちが東方から旅立ち、私の言葉の知識を西方へ した時代と同様に、その時、世界は再び、私の使徒たちが諸民族や家庭にこのメッセージの光をもたらすのを見るだろう。
36. 今や光が西から東へと向かうことが、人々に奇妙に映るだろうか。それゆえに、彼らは私の使徒たちが私の名において伝えるメッセージを認めないのだろうか。（334, 42-45）
37. わたしを認めない民族全体もあれば、わたしの律法から頑なに背き、わたしの教えを知ろうとせず、時代遅れだと考えてそれに反抗する民もいる。
38. わたしを理解していない者たちこそ、地上の自由を主張する者たちである。また、高潔さからではなく、しばしば自らの利益のために善を行う者たちもいる。
39. しかし、あらゆる民族とあらゆる人種には、私の正義と試練が定められており、それらは日々降り注ぎ、彼らの心と魂を、まるで耕すべき畑であるかのように、やがて実りあるものとし、耕し終えた後に、そこに種を蒔くためである。それは、私の愛、私の正義、そして私の光という永遠の種である。
40. それらの民族は、私について愛をもって語り、それらの種族は、その時、私への希望を置くようになる。そして、この人類のすべての民族の魂の中で、歓喜の歌が響き渡り、すべての人々の唯一の主への賛美と愛の合唱が響き渡るであろう。（328, 12）

第57章 – あらゆる分野における回心と変革

新たかつより深い認識

1. 霊的な啓示が人々に光に満ちた道を明らかにし、創造の懐に秘められた神秘を知らしめる時が近づいている。

2. わが霊の光は、真の科学を習得する方法をあなた方に明らかにするであろう。その科学によって、人間は周囲の生き物や創造の自然の力から認められ、服従を得ることが可能となり、それによって、人間が地を支配するというわが意志が成就するのだ。 しかし、これは、霊によって照らされた人間の魂が、肉体の弱さにその力と光を打ち勝ったときに初めて実現する。（22, 19）

3. 人々が魂の持つ意義を理解する日は、すでに近づいている。なぜなら、信仰心があると思い込んでいる者の多くは信じておらず、見ていると自負する者たちは実際には見ていないからである。しかし、彼らがひとたび真理を把握すれば、別の生命に属する な存在を、この世の果実で養い続けることが、いかに幼稚で、不公正で、不合理なことであるかを悟るだろう。

4. そうして彼らは宗教の中に光を求めるようになり、魂の苦悩と真実を見出したいという切実な渇望の中で、教義の誤りを排除し、様々な信仰に見られるあらゆる表面的なものや外的なものを根絶し、ついに神聖な本質を発見するに至るだろう。（103, 42）

5. 人類は、憎しみ、暴力、そして利己主義をまき続けることに、きっと嫌気が差すようになるだろう。彼らが蒔く憎しみの種は、その収穫を刈り取るには彼らの力では足りないほどに増殖するだろう。

6. この予期せぬ、そして彼らの人間の力を超えた結果は、彼らの息をのむような、狂気じみた歩みを止めさせるだろう。その後、私はすべての人の心の中で奇跡を起こし、かつては利己主義しかなかった場所に、隣人愛を花開かせるであろう。

7. 人々は再び、私に完全性、全知、そして至高の正義を認めるようになる。彼らは、イエスが「父の御心なしには、木の一枚の葉さえも動くことはない」と語ったことを思い出すだろう。なぜなら、今日、世間の見解によれば、木の一枚の葉も、生き物も、星々も、偶然に動いているとされているからだ。（71, 30）

8. もし私の声が霊的な形で人類の中に響き渡るならば、人々は、自由には表に出せなかったものの、常に自分たちの中にあった何かが振動するのを感じるだろう。それは、主の声を励みとして、立ち上がり、私の呼びかけに応える霊である。

9. そうして、地上に新しい時代が始まる。なぜなら、あなたがたはもはや下から人生を見るのではなく、魂の高みからそれを眺め、認識し、享受するようになるからだ。（321, 38-39）

10. 理性が精神を駆り立てて科学の観察や深淵への探求を促すのではなく、精神が理性を高め、導くようになって初めて、人

間は、現在では不可解に見えるが、それでもなお、知性を霊化させた瞬間に明らかにされるよう定められているものを発見するだろう。（295, 37）

11. 私は、あらゆる場所、あらゆる国、あらゆる大陸に光が現れる時が来る、とあなた方に語った。その光は、人間の霊的修養に応じて輝きを放つだろう。しかし、それによって、創造に関する新しく、より正確な観念、すなわち霊性に関する新しい概念が形成されることになる。このようにして、霊的・精神的な発展の新たな段階が始まるのである。（200, 41）

12. 人々が愛をもって普遍的に考えるようになれば、誰もが自己を完成させ、他者をより正しく理解し、奉仕しようと努めるようになるだろう。罰への恐れは不要となり、人は恐怖からではなく、確信から法律に従うようになる。そうして初めて、人類は精神的にも知性的にも発展したと言えるだろう。(291, 25)

13. この私の種が、人類を構成する諸民族の心の中で芽生えたとき、人々の生活には絶対的な変革がもたらされるだろう。 かつての人々の生き方、信じ方、礼拝の仕方、「闘い」方、そして考え方と、霊性を生きる人々のそれらとを比較してみれば、彼らが人間としての生活においても、また神への精神的な崇拝においても、どれほど大きな違いを示すことになるだろうか。

14. 狂信、偶像崇拝、物質主義、そして不条理な信仰の教義が横行していたあの時代からは、石一つ残らないだろう。 あなた方の先祖やあなた方自身が、来るべき世代に遺したあらゆる誤りは、一掃されるだろう。善と真実の本質をその中に宿していないものは、すべて残らない。しかし、あなた方が受け継いだすべての善は、彼らが守り抜くだろう。

15. かつての時代よりもより霊的な形で提示されるこの教えは、人々の間、諸民族の間、教会や宗派の間で、自らを確立し、根を下ろすために戦わなければならないだろう。 しかし、この短い混乱の時期が過ぎ去れば、人々に平和が訪れ、彼らは私の言葉の中に、もともとそこに秘められていた真意を読み取ったとき、歓喜するだろう。

16. 私の神性、霊的な生活、そしてあなたがたの存在の目的に関する考え方は、正しい軌道へと導かれるだろう。なぜなら、すべての人間は、あなたがたの師、その使徒たち、そして預言者たちによって、たとえ話や象徴を通して語られてきたすべての事柄を、正しく解釈する者となるからである。

17. あの表現方法は、人々には部分的にしか理解されなかった。 それは、彼らの高まりつつある霊的・知的な理解力に応じて、彼らに与えられた教えであった。しかし、彼らはすぐにすべ

てを知りたがったため、霊的な方法でしか解釈できないものに物質的な解釈を与え、ますます多くの矛盾や誤った観念に迷い込んでしまったのである。（329, 22-26）

神から遣わされた人々による啓蒙

18. わたしは、あなたがたの中に住むべき、大いなる光の霊たちを遣わすと約束した。彼らは、地球に近づき、転生し、回復という大いなる使命を果たす時をただ待っているのだ。

19. さて、それらの霊的存在がこの世に生きるようになった時、あなたがたは彼らに何を教えなければならないだろうか。まことに、私はあなたがたに言う。何も教える必要はない！ なぜなら、彼らは学ぶためではなく、教えるためにやって来るからだ。

20. あなたがたは、彼らが幼い頃から深遠な事柄について語り、科学者や神学者たちと議論を交わすのを目にして驚くだろう。彼らは自らの経験によって大人たちを驚嘆させ、子供や若者たちに正しい道を心に刻ませるのだ。

21. こうした霊的存在の一人をその懐に迎え入れる家庭は、幸いである。わが使徒たちの使命の遂行を妨げようとする者たちが負う贖罪の重荷は、いかに重いことか！（238, 30-31）

22. もう一度言っておくが、この世には、大きな光に満ち、あなたがたの道を照らし、愛を蒔いてくれる人々が決して欠けることはない。

23. 人類は常に、そのような人々の存在を地上に持ってきた。しかし、今や、あなたがたが作り出した偽りの世界を排除し、平和が息づき、真理が支配する新しい世界を築くために、高次の光の霊たちの大軍が世に生まれる時が来ている。

24. 彼らは人々の悪意によって多くの苦しみを味わうことになるだろう。しかし、これは新しいことではない。神の使徒の誰一人として、迫害や嘲笑、敵意を免れた者はいないからだ。彼らの地上での存在は必要不可欠であるため、彼らはこの世に生まれ、この世に住まわなければならない。

25. 彼らはやって来て、人々の心に愛をもって語りかけるだろう。父の正義に満ちた彼らの言葉は、謙遜という魂の衣を、虚栄、傲慢、偽りの権力、偽りの栄光という華やかな衣装に置き換えてしまった者たちの、その高慢と驕りを打ち砕くだろう。

26. そうした者たちが真っ先に立ち上がり、怒りに震える指で私の使徒たちを指さすだろう。しかし、これは、私の僕たちが直面するあらゆる試練において、彼らがこの世にもたらした真理の偉大な証しを立てられるようにするためのものとなる。

27. あなたがたは現在、彼らが人間生活のどのような道において現れるのかを知らない。しかし、私はあなたがたに告げる。ある者たちは、大きな宗教共同体の懐に現れるであろう。彼らは、すべての人々の団結と精神的な調和のために戦うであろう。

28. また、ある者たちは科学者の間で頭角を現し、その霊感の結実をもって、科学の真の究極の目的は、人間の精神的完成にあり、決してその貧困化や滅亡にあるのではないことを示すであろう。

29. このようにして、あらゆる生活領域において、私の律法を心に抱き、言葉と行いをもって、私がこの時代にあなたがたに語ったすべてのことを立証する、私の僕たちが現れるであろう。（255, 43-47）

人間の変容

30. わたしは預言者として、新しい世界と霊化された人類をあなたがたに告げるが、この言葉が知れ渡ったとしても、やはり信じられることはないだろう。

31. 世代は次々と過ぎ去り、人々の傲慢は嵐や洪水、疫病や災いを解き放ち、人類の嘆きの叫びは宇宙を揺るがすだろう。

32. しかし、これらすべてを経て、新しい地球の住人たちは、内省と霊化の生活を始め、過去の世代から受け継いだ計り知れない経験の宝を活用するようになるだろう。そして、神聖な種は発芽し始めるのである。

33. すべての魂には、それが私から生まれたものであるゆえに、神聖な種が存在している。そして、あなたがたの子供たちが両親の顔立ちや性格を受け継ぐように、魂たちもまた、やがて天の父から受け継いだもの、すなわち愛を明らかにするようになるだろう。（320, 9-11）

34. 新たな大洪水の後、虹が輝き、それは平和と、人類が主と霊的に結ぶ新たな契約の象徴となるであろう。

35. あなたがたは、厳しい戦いに備えなければならない。なぜなら、あなたがたは皆、悪の竜と戦わなければならないからだ。その武器とは、名声への渇望、 憎しみ、地上の権力、放縦、虚栄、利己心、嘘、偶像崇拝、そして狂信である。これらはすべて、人間の心から生まれた悪の力であり、あなたがたは、それらを打ち負かすまで、大きな勇気と信仰をもって戦わなければならない。

36. もし、あなたがたの光の武器によって、情熱という竜が倒されたならば、人々の目の前には新しい世界が現れるだろう——同じ世界でありながら、より美しく見える新しい世界である。なぜなら、その時、人々はすべての行いに精神化という理想を吹き込むことで、その世界を自らの幸福と進歩のために活用するようになるからだ。

37. 人々の心は高潔になり、知性は啓発され、霊は自らの存在を証しすることができるようになる。あらゆる善が栄え、あらゆる高揚するものが、人間の業の種となるだろう。（352, 61-64）

38. 人間は深淵にまで落ち込んだが、良心はそこにまで付き添い、その声が聞き届けられる適切な時を待ち続けてきた。まもなく、この声は、あなたがたが今まだ想像もできないほどの強さで、この世に響き渡るだろう。

39. しかし、これにより人類は、傲慢、物質主義、そして罪という深淵から這い上がり、 悔恨の涙の川で身を清め、霊性への道を歩み始め、上へと発展していくことになるだろう。

40. 私はすべての子供たちを助けよう。なぜなら、私は「死者」を墓から引き上げる復活であり、命だからである。

41. 私が今日、人類に差し出すその人生において、人々は私の御心を行い、愛ゆえに自由意志を放棄するだろう。父の御心を行う者は、しもべでも奴隷でもなく、真の神の子であると確信して。そうすれば、あなたがたは、愛と知恵の果実である真の幸福と完全な平安を知るようになるだろう。（79, 32）

42. 言っておくが、この「第三の時代」において――たとえそれがあなたたちには不可能に思えても――人類の刷新と救済は困難なことではない。なぜなら、贖いの業は神の業だからである。

43. 人々を光と真理の道へと連れ戻すのは、私の愛である。 私の愛は、ひそかにすべての心に浸透し、すべての魂を優しく包み込み、あらゆる良心を通して現れる。その愛は、硬い岩を感受性豊かな心へと変え、物質主義的な人々を霊的な存在へと、そして頑なな罪人たちを、善と平和と善意に満ちた人々へと変えていく。

44. 私がこのようにあなた方に語る理由は、あなた方の魂の発展を私以上に知る者はいないからであり、また、今日の人間は、その甚だしい物質主義や、この世への愛、そして最大の罪にまで発展した情熱にもかかわらず、表向きは「肉」や物質的な生活に溺れているように見えるだけであり、実際にはそうではないことを私が知っているからだ。 私は知っている。彼らが魂の中で私の愛の優しい触れを感じた瞬間、彼らはすぐに私のもとへ来て、その重荷を捨て去り、無意識のうちにこれほどまでに切望している真理の道を、私に従って歩み始めるだろう。（305, 34-36）

45. 目を覚ましていなさい。そうすれば、私を否んだ者たちの回心を目撃することになるだろう。また、真の道から逸れた者たちの帰還も目撃することになるだろう。

46. 破壊の要素や力を探求することに生涯を捧げてきた科学者たちは、裁きが近づいていると感じたとき、真理の道へと立ち返り、その最期の日々を、世界の道徳的・物質的な再建に捧げるようになるだろう。

47. 傲慢のあまり、魂の中で私の座を奪おうとした者たちは、その玉座から降り、謙虚に私に倣おうとするだろう。また、かつて民を扇動し、戦争を引き起こした者たちも、自らの罪を悟り、恐怖に駆られて人々の平和のために尽力するようになる。（108, 39）

48. もし私の光がすべての人の心に浸透し、民を導く者たち、民を教える者たち、そして において最も重要な任務を果たすべきすべての者が、良心というその高き光に導かれ、インスピレーションを受けるようになれば、その時、あなた方は互いに信頼し合うことができる。兄弟たちを信頼することができる。なぜなら、私の光はすべての人の中にあり、私の光の中で、私の臨在と私の愛に満ちた正義が支配するからである。（358, 29）

49. 私の教えは人類によって再び聞かれることになるだろう。しかし、それは私の律法が人々に帰ってきたからではない。なぜなら、それは常に彼らの魂に刻まれていたからである。律法の道へと立ち返るのは、人々自身である。

50. この世界は、私のたとえ話にある放蕩息子の姿そのものとなるだろう。彼と同様に、この世界もまた、父が自分の場所で待ち受け、愛をもって抱きしめ、食卓に招いて食事を共にするのを見つけることになる。

51. この人類が私のもとへ帰還する時はまだ来ていない。彼らにはまだ遺産の一部が残されており、彼らはそれを祝宴や享楽に浪費し、裸で、飢え、病に伏すまで使い果たし、その時に初めて父に目を向けることになる。

52. この世の富を追い求める人々に、その失望が完全なものとなるよう、あと少しの「時間」を与える必要がある。そうして彼らは、金、権力、称号、そして肉欲の快楽が、決して彼らの魂に平安と安らぎをもたらすことはないのだと、ついに確信するようになるためである。

53. 全人類にとって、良心の光のもとで自己を省みる時が近づいている。その時、学者、神学者、科学者、権力者、富める者、そして裁判官たちは、自分たちが収穫し、人々に食べさせることができる精神的な、道徳的な、あるいは物質的な実とは何であったのかと自問するだろう。

54. その時を過ぎれば、多くの人々が私のもとに戻ってくるだろう。なぜなら、彼らは、地上で享受した名声にもかかわらず、霊的な生活の果実によっての

み養われることのできる彼らの魂が陥った空虚を埋めるために、何かが欠けていたことに気づくからである。（173、19-20、57-58）

55. 霊性と愛を欠いた今日の人々の中から、私は、私の言葉によってこれほど頻繁に預言されてきた世代を現出させるであろう。しかしその前に、私は、今日、自らを見誤り、互いに戦い、破壊し合っているこれらの民を、導いていくであろう。

56. そうして、すべての者に対するわたしの裁きが下り、雑草が根こそぎ引き抜かれたとき、新たな人類が生まれ始めるであろう。その「血」には、もはや不和や憎しみ、嫉妬の種は含まれていない。なぜなら、彼らの両親の「血」は、苦痛と悔恨のるつぼの中で浄化されたからである。

57. わたしは彼らを迎え入れ、こう告げるであろう。「求めよ、求めよ、そうすれば与えられる」と。これは、わたしが「第二の時代」にあなたがたに語ったことである。しかし今日、わたしはこう付け加える。求めることを理解せよ。（333, 54）

あらゆる生活領域における変化と激変

58. 物質世界、すなわちこの惑星は、その崩壊の危機に瀕しているわけではない。しかし、誤りと罪、闇と誤った科学に満ちたこの世界の終わりは、私の教えの光によってもたらされる。そして、その廃墟の上に、私は進歩と平和に満ちた新しい世界を築き上げる。（135, 5）

59. 人類が短期間のうちに経験する変革は、大きなものとなるだろう。社会組織、原則、信条、教義、慣習、法律、そして人間生活のあらゆる秩序は、その根幹から揺るがされることになる。（73, 3）

60. 人間、国家、人種、そして諸民族、それらすべては、人間の精神が、この地上での束縛に嫌気がさして立ち上がり、物質主義の鎖を打ち砕き、霊的解放の歓声を上げる時、神の呼びかけに従わなければならない。（297, 66）

61. やがて、私の律法を真に愛し、霊的な律法と世俗の律法、すなわち永遠の力と一時的な力を融合させることができる人々が現れる時が来る。

62. それは、かつてのように魂を奴隷にするためではなく、精神の真の自由である光への道を彼らに示すために行われるのである。

63. そうすれば、道徳は家庭の懐へと戻り、真の教育の場が生まれ、あなたの風習や習慣の中に霊性が宿るだろう。それは、良心がその声を響かせ、わが子らがわが神性との間で霊と霊の対話を行う時代であり、人種が互いに融合する時代となる。

64. これらすべてが、多くの違いや対立の解消を決定づけることになる。なぜなら――あなた方の世界はそれほど小さいにもかかわらず――これまで、一つの家族として共に生きることを理解しておらず、私に対して統一された礼拝の形式を捧げることもできなかったからである。

65. かつてのバベルは、諸民族や人種を分断するという運命をあなた方に課しましたが、人々の心の中に私の霊的な神殿を築くことで、あなた方はその贖罪から解放され、互いに真に愛し合うようになるでしょう。（87, 10）

66. やがて、人間の魂をより高次へと発展させたいという渇望が、これほどまでに燃え上がる時が来るだろう。その時、人間は手に入るあらゆる手段を尽くして、この涙の谷を調和が支配する世界へと変え、いわゆる「不可能」を成し遂げ、戦争を防ぐために自己犠牲や超人的な努力さえも厭わなくなるだろう。

67. そうした人々こそが、この世界を高みへと導き、人間の生活から苦難の杯を取り除き、過去の世代が、盲目的な権力争い、物質主義、そして軽率さの中で破壊してしまったすべてのものを再建する者となるだろう。

68. 彼らこそが、私に対する真の礼拝――狂信や、表面的で無益な儀式を伴わない崇拝――を見守る者となるだろう。彼らは、人間の法律と霊的な法則との調和、そしてその両方の履行こそが、人間が神に捧げ得る最良の礼拝であることを、人類に理解させようとするだろう。（297, 68-69）

69. 儀式や祭壇、教会の鐘の時代は、今や人間の間で終わりを迎えようとしている。偶像崇拝と宗教的狂信は、その最後の息吹を吐き出すだろう。私が絶えず予告してきた、闘争と混沌の時代が到来する。

70. 嵐が過ぎ去り、すべての魂に平和が戻ったとき、人々はもはや私の栄光のために王宮を建てたりはせず、鐘の響きによって人々が集められることもなく、また、自分たちを偉大だと感じる者たちが大衆に対して権力を行使することもなくなるだろう。 謙虚さと兄弟愛、そして人類に霊的賜物の平等をもたらす霊性の時代が来るのだ。（302, 37）

71. 現代において、良い実を結ばない木をすべて切り倒すという使命を帯びた刈り取り人が現れている。この大いなる闘いにおいて、正義と真理のみが勝利するであろう。

72. 多くの教会は消え去り、いくつかは残るだろう。ある教会では真理が輝き、他の教会では欺瞞だけが提供されるだろう。しかし、正義の鎌は、地上にあるすべての種が選別されるまで、刈り取りを続ける。（200, 11）

73. これは私の教えの続きであるが、人間が解釈するような「世の終わり」ではない。世界は宇宙を回り続け、魂たちは引き続き地球にやって来て、その使命を果たすために転生するだろう。人間は今後もこの惑星に住み続け、変わるのは人間同士の生き方だけである。

74. 人間の生活が経験する変化は大きなものであり、あまりにも甚大であるため、あなたたちには、ある世界が滅び、別の世界が新たに生まれ出ているかのように映るだろう。（117, 14）

75. それに向かって、あなた方は皆、喜びと平和に満ちたその生活へと向かっているのだ。あなた方の心が予感しているような、深淵や「死」に向かってではない。

76. 確かに、あなたがたが霊化の時を迎えるまでには、まだ多くの苦難を経験しなければならない。しかし、死も、戦争も、疫病も、飢餓も、 な生命の流れと、この人類の魂の発達を止めることはできない。私は死よりも強い。それゆえ、もしあなたがたが命を落とすことになっても、私はあなたがたを生命へと戻し、必要な時にはいつでも、あなたがたを地上へと帰らせるだろう。

77. 愛する人類よ、私はまだあなたに多くのことを啓示しなければならない。私の『神の知恵の書』には、まだ多くの驚きが待ち受けているのだ。（326, 54）

第58章 – キリストの平和の王国と創造の完成

キリストの平和の王国における支配力

1. 私があなたがたにあの大いなる苦難の時代を予告したのと同様に、私はまた、混乱が過ぎ去れば、人々の間に調和が訪れると告げる。

2. 傲慢な者、自分を偉大だと考える者、隣人愛と正義を欠く者たちは、しばらくの間、あの世に留め置かれることになる。それは、善と平和と正義が地上において進展し、その中に霊性と良き学問が育まれるためである。（50, 39-40）

3. 人々の生活において、悪は常に善を抑圧してきた。しかし、私はもう一度言っておく。悪が勝利することはなく、私の愛と正義の法が人類を治めることになるのだ。（113, 32）

4. あの時代の人類に転生する魂の大多数は、善に深く献身するようになるため、たとえ悪に傾倒する人間が現れたとしても、彼らがどれほど強力であろうとも、彼らが眼前に示す真理の光に屈服せざるを得なくなるだろう。これは、現在起きていることとは全く対照的である。 な

ぜなら、堕落した者たちが多数を占めているため、彼らは悪から、善なる者たちを窒息させ、感染させ、包み込むような力を生み出してきたからである。（292, 55）

5. その時代、おお弟子たちよ、新しいエルサレムは人々の心の中にあるだろう。あなたがたは高い霊性へと達し、私は、私のメッセージを伝えるために、高度に発達した魂たちをあなたがたの中に転生させるだけにとどまらない。私はまた、あなたがたの徳を必要とし、あなたがたの中に生きることで自らの罪を清める魂たちをも、あなたがたのもとに送るだろう。

6. その時代には、今日とは正反対のことが起こるだろう。今日、私があなた方に清らかな魂を送っているのに、あなた方はそれらを汚して私に返しているのだから。（318, 46）

新しい人間

7. すべての預言は成就し、人類は、最も隠された未知の隅々から、謙虚で、物質的な富には乏しいが、精神的には強く、私の律法に熱心で、同胞に対して慈悲深い民が現れるのを見るだろう。その聖域は内面的なものであり、目に見えず、触れることもできないため、破壊することは不可能である。 そこには、その道を照らす消えることのない光が燃え続ける。その人生の道と試練は苦しく厳しいものとなるだろうが、それゆえに弱まることは決してなく、不満や悲しみから嘆くこともなく、また、使徒の強さを持っているゆえに、私から背を向けることもない。 人々は、汚れ、泥、罪の中から、律法と徳へと昇り、愛と恵みの道を歩むようになる。至る所で私の霊が感じられ、すべての目が私を見、すべての耳が私を聞き、すべての知性が私の啓示と霊感を受け入れるようになる。

8. 不器用で無学だと思われていた人々が、突然啓発され、私の預言者へと変容するのを目にするだろう。彼らの唇からは、枯れた心に水晶のように澄んだ水となる言葉が流れ出る。

9. 預言者たちは、この水を、すなわち私である知恵と真理の泉から汲み上げる。人々は、その水の中に健康と清らかさと永遠の命を見出すであろう。（68, 38-39）

10. わが王国は、父と隣人への愛から自らの十字架を抱きしめる、善意の子供たちのために用意されている。 私があなたがたに語るこの王国は、特定の場所にあるわけではない。それは、あなたがたが住むこの地上にも、あらゆる霊的な住処にも存在し得る。なぜなら、私の王国は平和、光、恵み、力、調和から成り立っており、これらすべてを――たとえ限定的な形であっても――この現世においてすでに得ることができるからだ。 霊

的な豊かさは、あなたがたが現在住んでいるこの世を越えて初めて得られるものである。（108, 32）

11. まことに、私はあなたに告げる。今日、人々は肉体よりも魂である部分が多いが、明日には魂よりも肉体である部分が多くなるだろう。

12. 人々は自らの魂を完全に物質化しようと試みてきたが、その完全な物質化には到達することはない。なぜなら、魂はダイヤモンドのようなものであり、たとえ泥の中に落ちたとしても、ダイヤモンドであることに変わりはないからである。（230, 54）

13. 人々は、この世での義務や任務を怠ることなく、その科学、力、才能、そして心を、わが神聖な大義に捧げるようになる。彼らは、魂と身体にとって有益な健全な喜びに向き合うようになる。彼らは自らの再生と自由を求めて奮闘し、他者から悪影響を受けることなく、 必要のないものは何も受け取らない。そうすれば、堕落や恥知らずさは地上から消え去り、魂は肉体という殻に対する絶対的な支配権を手にし、たとえまだ肉体に住まっていたとしても、愛と兄弟愛と平和に満ちた霊的な生活を送ることになるだろう。

14. それが、戦争が消え去り、互いへの敬意と助け合いが存在し、あなたがたがもはや隣人の命も、自らの命も支配してはならないと悟る時となる。 その時、あなたがたは、自分自身の命も、子供や配偶者の命も、この地球さえも、自分たちの所有物ではないことを知るだろう。むしろ、全創造物の所有者は私である。しかし、あなたがたは私の深く愛する子供たちであるゆえに、私の所有するすべてのものの所有者でもあるのだ。

15. しかし、私がすべての被造物の主であり所有者であるとはいえ、私は自分の被造物を殺したり、誰かを傷つけたり、苦痛を与えたりすることはできない。それなのに、なぜ、命の所有者ではない者たちが、自分たちに属さないものを奪い取り、それを自由に処分しようとするのか。

16. 人々がこの教えを理解するようになったとき、彼らは魂の成長において一歩前進したことになるだろう。そして、この世界は進化した魂たちの住処となるだろう。

17. あなたがたは、この時代が過ぎた後、再びこの惑星に住むことになるかどうかを知らない。私は、かつては涙と破壊と死の谷であったこの地上の領域を、別の時代において目にすることになる者たち、すなわちその恵みの時代を経験する者たちを、私が選び出すのである。

18. かつて多くの苦しみの証人であった海や山、野原は、やがて平和の地へと変容し、あの世

の世界を映し出すものとなるだろう。

19. 私は、戦いが終われば、私の王国はすでにあなた方の身近にあり、その時、あなた方の魂は美徳の中で花開くであろうと告げてきた。私の教えはすべての魂の中に宿り、私は男女を通して自らを現すであろう。（231、28-30）

20. 私は、人類が従順のうちに高みへと昇る時代を準備してきた。あなた方の孫たちは、私がこの地上に注ぐ栄光を見るであろう。

21. なぜなら、私が地上の楽園としてあなた方に授けたこの世において、私の意志は成就されなければならないからであり、高い発展段階に達し、闘い抜いた魂たちがこの惑星にやって来る時が来るからだ。私の神聖な光が地球を照らし、私の律法の成就がそこに支配するであろう。（363, 44）

約束の地であり、天国の反映である地球

22. 罪によって冒涜され、犯罪によって汚され、貪欲と憎しみによって穢されたこの地球は、その清らかさを取り戻さなければならない。善と悪の絶え間ない闘いであった人間の生活は、神の子らの住まい、すなわち平和、兄弟愛、理解、そして高潔な志の住まいとなるであろう。しかし、この理想を達成するためには、人々は、精神的な無気力から目覚めさせる試練を経なければならない。（169, 14）

23. 私は、罪や憎しみ、悪徳の上に新しい世界を築くことはない。私は、刷新、経験、悔い改めという堅固な土台の上に築き上げ、あなた方の中にあるすべてを変容させる。闇の中からさえ光が輝き出し、死の中からさえ、私は命を創造する。

24. 人々がこの地を汚し、冒涜したとしても――明日、彼らは善行によって、この地をふさわしい住まいとするだろう。この地は約束の地として認められ、人々は高貴な使命を果たすためにそこへやって来る。そうなれば、もはや誰が世界の変容を疑うことができようか。（82, 44-45）

25. 私は今、聖霊の神殿を築いている。 しかし、これが完成すれば、集会所や教会、巡礼地はもはや存在しなくなるか、あるいはその存在意義を失うことになるだろう。宗教的な象徴や儀式、伝統も同様である。その時、あなた方は私の偉大さと私の臨在を感じ、宇宙そのものを教会として、隣人への愛を礼拝として認識するようになるだろう。

26. 母なる自然の懐からは、新たな知見が湧き出るだろう。それらは、あなたがたの科学を幸福への道へと導くであろう。なぜなら、科学は、神の声である良心によって、正しい道へと導

かれるからである。27. 脳はもはや世界の支配者ではなく、それを導き、啓発する御霊の協力者となるであろう。（126, 35-36）

28. そうして世界が新たな解放を成し遂げ、エリヤの光に導かれてこの正義と善に満ちた生活へと入るとき、あなたがたは、この地上において、この世の彼方で待ち受ける霊的な生活の反映を目の当たりにするだろう。そして、永遠に、あなたがたの父の平和と光に喜びを見出すことになるのだ。

29. しかし、もしあなたがたが、かつてイスラエルの民を構成した部族たちのように、すべての国々がどのようにして一つの民として結ばれるのかと問うならば、私はこう告げる。 心配するな。いつの日か、すべての民が「荒野」へと導かれたとき、試練が彼らを一つに鍛え上げるだろう。そしてそれが起これば、天から「新しいマナ」が、助けを必要とするすべての心に降り注ぐのだ。（160, 39）

30. 約束の地がイスラエルの民に分配されたように、全地球も人類に分配されることになる。これは、その時期が来たとき――清めが終わった後に――起こる。この分配が行われることが私の意志であるゆえに、そこには正義と平等が貫かれ、すべての人々が共に一つの事業に取り組むことができるようになる。（154, 49）

31. 精神性から生まれる道徳を持つ人類の進歩を想像してみてください。制限や国境のない人類を想像してみてください。地球がその子供たちに与えるすべての生活手段を、兄弟のように分かち合う人類を。

32. もし人間の科学が、互いへの愛を理想とし、もし人が求める知識を祈りを通じて受け取るようになったら、その科学がどのようなものになるか、想像してみてください。

33. 人々が儀式や外的な礼拝形式に頼ることなく、その生き方を通じて、愛と信仰と従順と謙遜という神への奉仕を私に捧げることは、私にとってどれほど喜ばしいことか、考えてみてほしい。

34. これこそが、人々にとっての真の「生」となるであろう。なぜなら、その中において彼らは平安を吸い込み、自由を享受し、真実を含むもののみを糧とするからである。（315, 57-58）

35. 人々の罪は消し去られ、万物は新しくなるだろう。清らかさと純潔に満ちた光がすべての被造物を照らし、新たな調和が人類を包み込む。そしてその時、人々の魂からは、主が長い間待ち望んでこられた、主への愛の賛歌が湧き上がるだろう。

36. 太古の昔からその子らによって冒涜されてきた母なる大地は、再び最も美しい祝祭の装いをまとい、人々はもはやそれを

「涙の谷」とは呼ばず、血と涙の野へと変えることもないだろう。

37. この世界は、宇宙の真ん中にある小さな聖域のようになり、そこから人々は、天の父への謙虚さと愛に満ちた結びつきの中で、自らの魂を無限へと高めていくであろう。

38. わが子らには、わが律法が魂に、わが言葉が心に刻み込まれるであろう。かつて人類が悪に快楽を見出し、罪に喜びを見出していたとしても、その時には、善以外の理想を持たず、わが道に歩むこと以上の喜びを知ることもなくなるであろう。

39. しかし、それゆえに人間が科学や文明を捨て、人里離れた谷や山に隠れて原始的な生活を送るようになるとは思ってはならない。いや、人間は依然として、これほど熱心に 育ててきた科学の樹の実を享受し続けるだろう。そして、その霊性が高まれば、その科学もまた高まるのである。

40. しかし、世の終わりに近づき、人間がこの道のりをすべて歩み終え、その木から最後の果実を摘み取ったとき、かつては偉大に見えた自らの業の貧しさを悟るだろう。そして霊的な生を理解し、それを通じて、かつてないほどに創造主の御業を称賛するようになる。 霊感によって、彼は偉大な啓示を受け取り、その人生は、単純さ、自然さ、そして霊性への回帰となるだろう。その日が来るまでにはまだしばらく時間がかかるが、私の子供たちは皆、その日を見ることになるだろう。（111, 12-14）

創造の完成

41. わたしは、大いなる普遍の審判のために、わたしのすべての子供たちを集める谷を準備している。わたしは完全さをもって裁きを行う。わたしの愛と憐れみが人類を包み込み、その日、あなたがたはすべての悪からの贖いと癒やしを見出すだろう。

42. 今日、あなたがたが過ちを償うならば、魂を清めなさい。そうしてこそ、あなたがたは、私が一人ひとりのために用意した遺産を私から受け取る準備が整うのである。（237, 6）

43. わが愛は、すべての人々とすべての世界を一つに融合させる。わが御前においては、人種、言語、部族の違いは消え去り、魂の発達における違いさえも消え去る。（60, 95）

44. 私の霊はすべての魂に降り注いでおり、私の天使たちは宇宙の至る所にいて、万物を秩序ある正しい軌道に乗せるという私の命令を遂行している。やがて彼らが皆、その使命を果たしたとき、無知は消え去り、悪はもはや存在せず、この惑星には善のみが支配することになる。（120, 47）

45. わが子らが完成へと向かうすべての世界は、無限に広がる庭園のようだ。今日、あなたがたはまだ若々しい若芽に過ぎないが、わが教えという水晶のように澄んだ水が決して欠けることはなく、その水で潤されることによって、あなたがたはますます知恵と愛を深めていくことを約束しよう。 やがて永遠の彼方のある日、木々が完熟した実を豊かに実らせた時、神聖なる園丁は、自らの愛の果実を味わうことで、その業に喜びを見出すことができるようになる。（314, 34）

46. 戦いの終わりに、私のすべての子供たちが永遠に霊的な故郷で一つになったとき、あなたがた一人ひとりが、神の業を築き上げ、あるいは回復させることに加わったことへの報いとして、創造主である私の限りない幸福を分かち合うことを、私は望んでいる。

47. 霊的存在となって初めて、あなたがたは、私が太古の昔から創造してきたすべてのものの中で、失われたものは何一つなく、すべてが私の中で復活し、すべてが命を得て、新たに生まれ変わることを発見するだろう。

48. したがって、これほど多くの存在が長い間迷い、多くの者が生ける業の代わりに破壊的な行いを為してきたとしても、彼らはやがて、その迷いの時は一時的なものに過ぎず、彼らの行いがどれほど悪かったとしても、永遠の命において償われ、彼らが私の絶え間ない創造の業の協力者へと変えられることを悟るだろう。

49. 人類が地上で経験したような、数世紀にわたる罪と闇など、永遠、すなわち終わりなき発展と平和の時代と比較すれば、何ほどのものだろうか。あなたがたは自由意志によって私から遠ざかったが、良心の導きによって、私のもとへ戻ってくるだろう。（317, 17-20）

50. 私は、最大の星々から、あなたがたの目にはほとんど捉えられない存在に至るまで、全被造物からの捧げ物を受け取った。

51. すべては発展の法則に従い、すべてはその道を歩み、すべては前進し、すべては変化し、より高い次元へと発展し、完成へと至る。

52. そして、それが完全性の頂点に達したとき、私の霊的な微笑みは、あらゆる欠点、あらゆる悲惨、苦しみ、そしてあらゆる不完全さが消え去った全宇宙に、果てしない夜明けの光のように広がるであろう。（254, 28）

回復された創造の調和の賛歌

53. 私の霊の中には、まだ誰もその音を聞いたことのない賛美歌が存在する。天にも地にも、それを知る者はいない。

54. 痛み、悲惨、闇、そして罪が消し去られた時、その歌は全宇宙に響き渡るだろう。
55. その神聖な音色はすべての魂に響き渡り、父と子らは、この調和と至福の合唱の中で一つとなるであろう。（219, 13）
56. わたしは、勝利者としてあなたがたの中に立ち上がろう。あなたがたには、あなたがたの中の悪を打ち破る万軍の王として父を見なし、また、霊的な高潔さと、満足と、魂の平安に満ちた兵士として、自分自身を見なしてほしい。
57. そうすれば、最大の勝利の際、すなわち、やがて訪れるその勝利の際、あなたがたの父も、またあなたがた自身も、愛によって「打ち負かされた者」がいることを悲しむことのない、その勝利の際、普遍的な調和の賛歌が聞こえてくるであろう。
58. 私たちの「敗者」となるのは魂たちではない――それは悪であり、あらゆる闇、罪、そして不完全さである。
59. 父の勝利とは、闇と悪に根ざしていた、取り残されたすべての魂の救済にある。
60. 誰かが失われると信じるなら、それは誤りである。たった一つの魂でさえ救いを見出さないとしたら、私はもはや神ではない。
61. あなたがたが悪魔と呼ぶ者たちも、同様に神から生まれた魂であり、たとえ今日まだ迷っているとしても、彼らもまた救いを見出すだろう。
62. いつ彼らの中に真の光が宿るのか。それは、あなたがたが光の霊的な軍勢と共に、祈りと愛と慈悲の行いをもって、彼らの無知と罪と戦う時である。
63. 主の偉大なる日は、あなたがたの父であり、あなたがたの完全な幸福となるであろう。あなたがたが皆、その食卓で永遠の命のパンを口にする時、普遍の祝宴は行われるであろう。（327, 47-48）
64. あなたがたは私の栄光の相続人であると、私は言わなかったか。それゆえ、あなたがたがそれを自分のものとし、それを享受するために必要なのは、功徳を積むことだけである。
65. 私が創造したすべてのものは、私のためではなく、私の子供たちのためであった。私が望むのは、ただあなたがたの喜び、あなたがたの永遠の至福だけである。（18, 60-61）
66. 存在に息吹を与え、有機体に命を与えたすべての力は、再び私のもとへ戻るであろう。世界を照らしたすべての光は私のもとへ帰し、創造の諸界に注がれたすべての美は、再び父の御霊の中にあるであろう。 そして、再び私の中にあるや否や、その命は霊的な本質へと変容し、主の子供たち、すなわちすべての霊的な存在たちの上に注がれるであろう。なぜなら、私は、あなたがたに与えた賜物から、

決してあなたがたを相続人から外すことはないからである。
67. 知恵、永遠の命、調和、無限の美、慈愛、これらすべて、そしてそれ以上のものが、主の子らの中に宿ることになる。彼らが主と共に、完全なる場所に住まう時、そうなるのである。（18, 55-56）

XIV 宣教の使命

第59章 - 新しい神の言葉の普及に関する使命

書籍の製本、抜粋版、および翻訳に関する指示

1. これは、私が人類に語りかけねばならなかったと予告されていた時であり、私は、私があなた方に与えたこの言葉によって、私の予言を成就させるべく、書籍を編纂し、後にその抜粋や分析を行い、それらをあなたの同胞たちに知らせることを望んでいる。（6, 52）
2. 私の言葉から一冊の本をまとめ、その真意を抽出し、私の教えの純粋さを真に理解するようにしなさい。伝達者を通じて伝えられた言葉の中には誤りがあるかもしれないが、その真意には誤りはない。
3. 私の伝達者たちは、常に準備が整っていたわけではない。それゆえ、私はあなたがたに、表面的に読み流すだけでなく、その真意に深く入り込み、その完全性を発見するようにと告げたのだ。理解できるよう、祈り、瞑想せよ。（174, 30）
4. 私はこの言葉をあなた方に伝え、あなた方の言語で聞かせたが、後に他の言語に翻訳し、すべての人に知らしめるよう、あなた方に命じる。
5. このようにして、あなたがたは真の「イスラエルの塔」を築き始めることになる。それは、すべての民族を霊的に一つに結びつけ、すべての人々を、イエスが「互いに愛し合いなさい」と語った時に、この世でイエスの口から聞いた、その神聖で不変かつ永遠の律法の下に結ぶものである。（34, 59-60）
6. 私の言葉が、世界中に広められるべき書物として編纂される際には、私から発せられたのと同じくらい純粋に、誤りのない形で印刷されることを望む。
7. もしあなたがたが、そのようにしてそれを書物に収めるならば、そこから人類を照らす光が放たれ、その霊的な意味はすべての人々によって感じられ、理解されるであろう。（19, 47-48）
8. わたしは、あなたがたに、わたしが与えたのと同じ形で、それを同胞たちに伝えるよう、わたしの教えを命じる。 しかし、それを教える際に、決して激しい議論をしてはならない。知

らないことについて判断を下すことには注意せよ。だが、清らかな模範を示すだけで、人々を霊性へと回心させるのに十分であることを理解せよ。（174，66）

9. 多くの人々が喜びをもって受け入れるであろう福音を伝えるために、備えなさい。

10. 私が「多くの人々」と言い、「すべての人々」とは言わないのは、神が「最初の時代」に啓示されたことや、キリストが人々に伝えたことで十分だと、あなたに言う者もいるかもしれないからだ。

11. まさにそのような時こそ、わたしに動かされ、霊感を受けたあなたがたの口は、不信仰な人々に、過去の時代に神から人々に与えられた全真理を認識するためには、新しい啓示を知る必要があるのだと告げなければならない。（292，67）

新しい神の御言葉を知る権利

12. 愛しき民よ、あなたがたは地上の様々な道へと旅立つ必要がある。見よ、メキシコという国でさえ、多くの人々がまだ私の業を認めていないのだから。

13. 見よ、霊的に貧しい者たちでありながら、私の名において活動していると主張する者たちが、すでにこの世で台頭している。

14. しかし、わたしの神性から豊かな恵みを受けたあなたがた――あなたがたの使命とは何だろうか。わたしの教えを広めることである。あなたがたは、世から身を隠してはならないし、世が必要とする助けを拒んではならない。(341，16)

15. 今、私はここで静かにあなた方を準備している。やがて、私の言葉がすべての人の心に届くよう、道を切り開くために、あなた方が立ち上がらなければならない日が来るだろう。

16. その時、世界は苦難によって清められ、わたしの言葉はもはや異国の言葉としてではなく、心と魂が容易に理解し、感じ取ることができるものとして、人々に受け止められるようになるだろう。

17. 私は、真理と愛について語るこの書を、あなたがたに託す。あなたがたがこれを全人類に届けるためである。

18. この地上に、この啓示を必要としないから行く必要はない、と私が言えるような民族は一つもない。どの民族が、名ばかりではなく、その愛と慈悲と赦しによって、真にキリスト教的であると主張できるだろうか。どの国がその霊性を証明できるだろうか。 世界のどの地域で、人々は互いに愛し合っているのか。どこで人々は実際にキリストの教えに従っているのか。（124、15-16）

19. このメッセージが完了すれば、私はもはやこれらの伝達者を通して語ることはなく、その

後は繊細な方法で魂の中に現れるであろう。
20. しかし、それを聞いた者たちの心に刻まれ、新たな書物に記された私の言葉は、平和の種として、真の知識の光として、人々の肉体と魂を苦しめるあらゆる悪に対する治療薬として、世界の諸民族と諸国へと届けられるであろう。
21. わが言葉は、わが使徒たちが望む時に人々の心に届くのではなく、わが意志がそうである時に届く。なぜなら、わが種を見守り、そのために土を耕し、道を切り開くのは、他ならぬわたし自身だからである。そして、知恵をもって、適切な時に、諸民族、諸国、そして各家庭へとそれを届けるのも、他ならぬわたし自身である。
22. それは、人々がすでにそれを待ち望んでいるとき、すなわち、私の約束を思い出し、自己中心、傲慢、物質主義、虚栄という深い夢から目覚め、心が高揚しているときに、届くであろう。（315, 28-29）
23. わたしは、わたしの民に、すべての国々にわたしのメッセージを伝えるための手段を与える。そして、その道のりで、善意の人々に出会えるよう導き、彼らがわたしの啓示を地の果てまで運ぶのを助けるようにする。（323, 75）
24. あなた方を通して、律法は新たな世代に再び知らしめられるであろう。それゆえ、私はあなた方に、準備をしておかなければならないと告げたのである。なぜなら、あなた方は未来への道を整えるために来たからであり、そうしてこそ、将来の新たな世代がもはや偶像崇拝者とならず、また人類を欺く偽預言者が彼らの間から現れることもなくなるからである。
25. イスラエルよ、これらすべてを、お前は世界に明らかにしなければならない。様々な世界観が生まれたこの時代には、宗派が宗派と対立し、教派同士が争い、また、あなた方を拒絶することになるだろう。
26. しかし、あなたがたは光と平和の子であるから、彼らにこう告げなさい。「真理は『第三の聖書』の教えの中に含まれている。そこには、この時代に主が臨在し、来られるという証しがある。」
27. あなたがたは、人類にこの書物を示し、私の律法を全うすることによって、その真実を証しなさい。（348, 42 43）

霊の教えの普及に関する指示

28. 民よ、理解せよ。この「第三の時代」において、あなたがたは、この神聖な啓示を目の当たりにした証人として、このメッセージを忠実に、そして真実に広めるという使命を負っている。 あなたがたは、人類に福音を伝え、同胞たちに霊的な道を教えるために召され、選ばれたのである。それは、平和、真の

光、そして万物を包み込む兄弟愛へと導く唯一の道である。（270, 10）

29. 忍耐と理解を持ってください。人類が認めるべきなのはあなた方ではなく、私の業、私の教えであり、それは永遠のものだからです。あなた方の任務は、言葉と行いをもって、人々が完全性へと一歩を踏み出す方法を明らかにするメッセージを伝えることです。（84, 11）

30. 堅固な地に築き上げなさい。そうすれば、私があなたがたの中に築き上げた霊性と刷新が、不信仰者たちによって破壊されることはないだろう。

31. しかし、世を恐れてこの真理を隠してはならない。あなたがたは、それを白昼の光の下で世に示さなければならない。それゆえ、私は繰り返し、あなたがたにこの種を守り、あなたがたとあなたがたの子供たちが、この光を地上の諸民族にもたらすようにと告げている。 私は、私のメッセージを地球の様々な場所に届けるために、あなたがたの良心が正しい道にあると告げる時、あなたがたが適切と考える手段を用いることを許す。この時代、祈り、私を愛するために地下墓地を訪れる必要はない。

32. あなたがたが、いかなる形であれ、わたしについて語ったり、証しをしたりする際に、臆病になってはならない。そうすれば、人々は、わたしがあなたがたに現れたことを認めず、病める者や助けを必要とする者たちが大勢、癒やされ、その苦しみが和らげられたことを疑うだろう。彼らは、あなたがたの信仰に火をつけるためにわたしが行った奇跡を否定するだろう。

33. わたしは、あなたがたにわたしの教えの書を残す。それは、あなたがたが世に向かって、「見よ、これが師が遺産として残したものである」と告げるためである。まことに、わたしの言葉を聞くとき、どれほど多くの者が信じ、どれほど多くの罪人が心を新たにするであろうか。

34. 人生における試練に不意を突かれないよう、これらの教えをすべて心に留めなさい。（246, 69-70）

35. あなたがたは、どれほど多くの教え、どれほど多くの神への礼拝の形式、そして霊的な生活や人間生活に関するどれほど多くの新しい考えに出会うことか。もしあなたがたがそれらを深く掘り下げ、判断する術を知っているならば、それぞれが、正義、愛、そして完全性である真理からかけ離れた、誤った部分とは別に、良き正しい部分を示してくれるだろう。

36. あなたがたが誤り、無知、あるいは悪を発見した場所では、私の教えの本質を広めなさい。それは私の教えであるゆえに、不純なものや誤りと混ざり合

うことは決してあってはならない。
37. 私の教えは絶対的であり、包括的であり、完全である。（268, 58-60）
38. 私は今、こう告げる。私があなた方に託したのと同じ熱意をもって、この種を真に蒔く者たちは、平和のうちにその道を歩むであろう。彼らの呼びかけに耳を貸さなかった扉も、彼らには開かれるであろう。そして、たとえ戦いを強いられることがあっても、彼らは決して戦いに敗れることはない。なぜなら、彼らの徳が、あらゆる試練を乗り越えさせてくれるからである。
39. それに対して、良心の声を無視し、わたしの言葉に従わず、わたしを裏切る者たちは、常に敵にさらされ、安らぎのない生活を送り、死への恐怖を抱くことになる。（252, 24-25）
40. 人々よ、世の中の戦争が終わる前に、たとえ今日、その方法がまだ分からなくとも、わが愛の律法はすべての魂に響き渡るであろう。
41. この霊的な光のメッセージは、人々にも同様に届くであろう。しかし、それはあなたがたが強くなった時に初めて起こる。
42. もし確信がなければ、この業が真理であると口にする者は誰もいないようにせよ。そうしなければ、誰もあなた方を信じないだろう。しかし、もしあなた方の信仰が絶対的であり、確信が真実であるならば、誰もあなた方がすべての心に福音を伝えることを妨げることはできないだろう。（287, 52-53）

第60章 - キリストの御霊による働き

新しい弟子たちに必要な資質、美徳、能力

1. この時代に自分の使命を果たすための道を切り開くことは、あなたたちにとってどれほど困難に見えることか。しかし、私はあなたたちに言う。それは困難ではない。なぜなら、人類は私のメッセージを受け入れる準備ができているからだ。
2. いつの時代も、戦いに直面して弱い者たちは落胆するが、強い者たちは、私の律法への信仰がすべてに打ち勝つことを示してきた。イスラエルよ、あなたの使命は、常に新しいメッセージと啓示を世界に告げ知らせることであった。それゆえ、あなたは時に、信仰を見出せるかどうか疑うことがあるのだ。
3. しかし、心配するな。わたしがあなたたちに託した種を受け取り、それを蒔きなさい。あなたがたが不毛だと思っていた畑の多くが、わたしの言葉の真理によって肥沃にされたとき、

どれほど実り多いものになるか、やがてわかるだろう。

4. 自分には値しないと感じて、自分の務めを果たすことを怠ってはならない。まことに、あなたがたに告げる。使命を持ちながらそれを果たさない者は、故意に律法を冒涜する者と同じくらい悪行を犯しているのだ。

5. 父は最終的に、あなたがたに説明を求めることを忘れてはならない――あなたがたが行った悪事についても、また、行うべきことを怠ったことについても。どちらの過ちも、あなたがたの魂に苦しみをもたらすことを知れ。

6. わたしの教えを広め、人々にわたしの言葉を語り、愛の行いによって彼らを説得し、わたしに耳を傾けるよう招きなさい。そして、彼らが群衆と共にやって来て、その心に信仰の光が灯ったとき、わたしは彼らを「新しいイスラエルの民」の子らと呼ぶであろう。（66, 14-17）

7. 泥沼や汚れ、利己主義から抜け出し、同胞への奉仕と実践的な隣人愛の生活へと立ち上がる者たちを、私は、私の教えに罪人を刷新する光と恵みが宿っていることの証しとして示すであろう。この模範は、すべての人の心に広がっていくであろう。

8. 誰が、わたしを証しする者たちの仲間入りを望まないだろうか。しかし、まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたの行いが心からのものでなければ、それは周囲の人々に実を結ぶことはなく、あなたがたはしばしば、偽善者や偽りの説教者と呼ばれることになるだろう。そして、わたしはあなたがたがそのような目に遭うことを望まない。

9. あなたがたは、現代において人々を欺くことが非常に難しいことを知らなければならない。彼らの精神は目覚めており、たとえ物質主義的な生活の中で道に迷っていたとしても、あらゆる霊的な現れに対して敏感である。しかし、もしあなたがたが周囲の人々を欺くことができないのなら――果たして、あなたがたは父を欺くことができるだろうか？

10. 主の愛をあなた方の内に宿らせなさい。そうすれば、主があなた方を赦してくださるように、あなた方も敵を赦すことができる。そうすれば、あなた方の心は人々の間で救いの錨となるであろう。（65, 44-46）

11. 人々を恐れてはならない。まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしはあなたがたの口を通して語り、あなたがたを通してわたしの言葉を証し、その響きは世界の果てまで、偉大な者たち、小さな者たち、統治者たち、科学者たち、そして神学者たちのもとへ届くであろう。（7, 37）

12. 改めて言っておくが、あなたがたは論争を恐れてはならない。だから、主があなたがたの

ところに来られたことを、最も自然な態度で人々に告げなさい。

13. 十字架で死んだのはイエスであったと彼らに告げなさい——キリストが身を隠したその肉体、すなわち「神の言葉」が宿った生ける神殿であったと。しかし、神聖なる愛であるキリストは生きており、御霊としてその子らのもとに来られ、彼らを御自身の霊的な王国へと導く道を教えるのだと。（88, 62-63）

14. 諸宗派や教派による批判や嘲笑を恐れるな。預言の書を手中にしながらも、それを正しく解釈できず、それゆえにわたしを待ち望むことを知らなかったのは、彼らの方である。それに対し、聖霊としてのわたしの再臨を告げる預言を知らなかったあなたがたは、わたしを待ち望んでいた。 今や「第三の時代」が到来したが、人類は福音を正しく解釈することができなかった。（33, 26）

15. これほどまでに物質主義が蔓延し、精神が混乱しているこの時代に、いかにして人類に霊性を見出させるのでしょうか。

16. あなたがたの務めは困難であり、それを果たすためには、戦いの場で強く、忍耐強くなければならないことを自覚しなさい。

17. あなたがたは、私の律法に対してなされた誤った解釈、そして私への礼拝の捧げ方が不完全であるという点を正すために、多大な努力を払わなければならない。

18. しかし、考えや礼拝の形式を一瞬で変えることはできないことを心に留めなさい。それを実現するためには、忍耐と善意を備え、自らの行いによって愛の模範を示さなければならないのである。（226, 60）

19. 心清き者たちのみが、私のメッセージを広めるために諸国や諸民族へと旅立つことを許される。なぜなら、彼らこそが、この業の真実を証しするにふさわしい唯一の存在となるからである。

20. これらの使徒たちが、彼らを待ち望む国々へと旅立つとき、彼らの心からはあらゆる宗教的狂信がすでに消し去られていなければならない。お世辞や称賛を求めるわずかな願望さえも存在してはならず、また、彼らが成し遂げる愛の業のために、この世の金銭で自らの手を汚すようなことをしてはならない。

21. 彼らは奇跡を売り物にしてはならず、互いの愛に値段をつけてはならない。彼らは主ではなく、しもべでなければならない。

22. あなたがたが真の謙遜の偉大さを理解する時がまだ来る。その時、あなたがたは、しもべであることを理解した者は、実際には善を行い、慈悲を広めるという使命において自由であり、その人生において信仰と確信

と平安に導かれていたことを悟るだろう。（278, 11-12）

23. あなたがたの魂が、隣人にわたしの教えを説く準備が整ったとき、あなたがたはそれを感じるだろう、とわたしは告げる。なぜなら、それはあなたがたが自分自身を見出したときのことだからである。その時、あなたがたは良心の声をはっきりと聞くようになるだろう。あなたがたにそれが当てはまらない限り、あなたがたはわたしを真に感じることができないだろう。（169, 36）

24. この言葉を注意深く聞き、その後、それを解釈し、人々の心に蒔きなさい。理解するだけでは満足してはならない。それについて語り、模範を示し、行いを通して教えなさい。 敏感でありなさい。そうすれば、いつが語るべき適切な瞬間か、そしていつが、あなたの行いが私の教えを証しすべき時が来たのかを知ることができるでしょう。

25. わたしは、わたしの言葉を広めるために、ただ一つの言葉をあなた方に与える。その言葉とは、すべての人々に理解されるであろう霊的な愛である。

26. それは人々の耳と心に心地よい言葉であり、彼らが心の中に築き上げたバベルの塔を、石一つ一つ取り壊していくであろう。そうして、すべての人が互いを兄弟姉妹とみなすようになる時、わたしの裁きは終わる。（238, 27-28）

27. あなたがたが内面から変容して初めて、私はあなたがたを世に送り出し、私のメッセージを広めさせる。なぜなら、弟子たちの中に真の霊性が宿って初めて、彼らは私から受けたままの形でそれを伝えることができるようになるからである。（336, 38）

28. 私の教えは、あなた方の想像や理解力の範囲に限定されるものではないことを心に留めなさい。私の神聖な知恵には限界がない。私がそれを明らかにする以前には、誰も私の啓示のどれかを知っていた、あるいは理解していたなどとは主張できない。

29. 科学者たちが物質的な知識をもって万物を説明しようと試みる一方で、私は謙虚な者たちに、霊的な生、すなわち真の生を啓示する。そこには、存在するすべてのものの原因、根拠、そして説明があるのだ。

30. あなたがたが伝える知識から、人々が私の業について抱く観念が生まれるだろう。理解の欠如ゆえに、多くの者は、あなたがたの地味な外見に基づいて私の教えを判断するだろう。それは、「第二の時代」において、キリストであるイエスが、その控えめな外見と質素な衣姿によって、また彼に従った十二使徒たちも質素な服装をしていたがゆえに、判断されたのと同じである。 しかし、私は真実を告げる。彼らはぼろ布をまとって

いたわけではなく、ただ、私の教えによって魂の真の価値が何であるかを理解していたからこそ、この世の虚栄を拒んだのである。

31. 弟子たちよ、私はあなたに告げる。人々が私の業を研究し始め、あなたたちを訪ねて質問してきたとしても、私から授かった知識ゆえに自分たちを優越していると思い込み、誘惑に陥ってはならない。あなたがたが謙虚であればあるほど、彼らはあなたたちをより高潔で信頼できる者とみなすようになる。

32. このようにして、狂信を解きほぐし、魂を解放する光は、人から人へと次第に広がっていくであろう。そして、キリスト教徒と名乗っていたが、実際にはそうではなかった者たちも、この光によってキリストの真の教えを知り、解釈するようになるであろう。なぜなら、それは彼らに、イエスが教えの中で語った霊的な生活についての、心を高揚させるような概念を与えるからである。（226, 17-21）

33. 偽りの、あるいは見せかけだけの準備をして人々のところへ行ってはならない。彼らの魂は発達しており、彼らの目を覆っていた覆いは、とっくに落ちているからだ。

34. 彼らに霊性をもたらし、平和を捧げ、周囲に安らぎと兄弟愛の雰囲気を作り出せば、彼らはあなた方の言葉に耳を傾け、それを受け入れるようになるだろう。その言葉には、私の霊感と力が宿っているからだ。

35. あなたがたが説教し、平和を教えるならば、自らも平和を愛する者でありなさい。愛について語るならば、言葉で表現する前に、まずそれを感じなさい。もし隣人が同様にその実をあなたに差し出すなら、それを拒んではならない。あなたがたが知り得るすべてのことを吟味し、彼らの教えの中に許容され、正しいとされるものに従いなさい。

36. また、宗教的実践において狂信的になり、その儀式を物質化させることによって理解力を低下させてしまった人々にも出会うだろう。その際には、忍耐強く彼らの知識を広げる手助けをし、彼らが私の教えに深く没頭した時に、彼らの精神が到達し得る地平を示してやれ。

37. あなたがたは彼らに、私の普遍的な霊について、魂の不死について、そして魂の絶え間ない発展について語るべきである。 あなたがたは、彼らに真の祈り、すなわち霊との対話を教え、偏見や 誤りから彼らを解き放たなければならない。これこそが、私があなたがたに命じる業である――愛と忍耐の業である。（277, 6-7）

38. 肉体の苦しみも魂の苦しみも、すべてを癒やしなさい。なぜなら、あなたがたには、隣人を慰め、力づけ、癒やすという使命があるからだ。しかし、私

は問う。もしあなたがた自身が病んでいるなら、どうして苦しむ人々に健康をもたらすことができようか。もしあなたがたの魂が、心配事や苦しみ、良心の呵責、そして低俗な情欲によって乱されているなら、そこからどのような平安が流れ出ようか。

39. あなたがたが心の中に蓄えたものだけが、隣人に差し出すことができるものとなるのだ。（298, 1-2）

40. 私は、あなたがたが罪人の中にあって、その影響を受けずに生きることを学び、茨の道を傷つくことなく歩み、 残虐行為や不道徳な行いを目の当たりにしても怒りに駆られることなく、惨めさに満ちたこの世に生きながらもそこから逃げ出そうとはせず、むしろその中に留まり、苦しむ人々に可能な限りの善を行い、あらゆる道において善の種を蒔くことを切望するように。

41. 人間の罪によって地上の楽園が地獄へと変貌してしまった以上、人間は自らの汚点を洗い流し、それによって自らの生に本来の清らかさを取り戻す必要がある。（307, 26-27）

42. 私は、恵みの生活から死んでいるような者を使者として遣わすことはない。なぜなら、彼らには与えるものが何もないからだ。私は、自分の心を利己心から清めていないような者に、この使命を託すことはない。

43. わたしの言葉の使者は、ただそこにいるだけで、人々の心にわたしの平安を感じさせることができる、わたしの弟子でなければならない。彼は、人生で最も困難な瞬間にあっても、周囲の人々を慰める力を持たなければならず、その言葉からは常に、魂や精神のあらゆる闇を追い払う光が溢れ出ているものでなければならない。（323, 60-61）

御言葉を伝える際の正しい在り方

44. 私の新しい弟子たちは、この祝福された種を広めるために多くの手段と方法を持つだろう。しかし、謙虚さと質素さを決して忘れてはならない。なぜなら、私がそうしてあなた方のところに来たように、あなた方も同じ方法で、人々の心や家庭、そして民族に近づかなければならないからだ。 そのようにして近づけば、あなたがたは霊的なメッセージの使者として認められ、その闘いは真の霊化、刷新、そして兄弟愛の実を結ぶであろう。（82, 66）

45. あなたがたが人々の間で何をなすべきかを知りたいならば、あなたがたが初めて私の言葉を聞いたその日から、私があなたがたの間でなしてきたことを見つめれば十分である。

46. 私はあなた方を赦し、限りない慈悲と愛をもって迎え入れ

、日々の重労働からあなた方を休ませた。私は、あなた方の社会的地位や身分、あるいはカーストを判断することに を費やすことはなかった。私はあなた方の罪という癩を清め、あなた方の病を癒した。

47. 私は、あなたがたの欠点を裁くにあたり、理解深く、寛容で、慈愛に満ちていた。私は、あなたがたに愛の教えを与え、隣人を救うことによって自らも救われる力を与えることで、あなたがたを真の命へと導いた。

48. 私があなた方一人一人に対して行ったこれらの業の中に、肉体的・精神的に苦しむ人々、すなわち大挙してあなた方の元へやって来る人々に対して適用すべき最良の模範を見出すことができる。

49. 私がここでこの民に語りかける時、私は人類に語りかけているのだ。あなたがたの使命は、明日、人々の心に寄り添い、救いの業を完成させる私の言葉を、兄弟愛をもって彼らに伝えることである。（258, 21-24）

50. あなたがたは謙虚でなければならない。侮辱されても気に病んではならない。柔和であれ。 人々はあなた方に屈辱と苦しみを与えるだろう。しかし、私のメッセージとなるあなた方の言葉は、彼らの魂から追い出すことはできない。それゆえ、私はあなた方に言う。もしある人々があなた方の呼びかけに対して無感覚で耳を貸さなくても、その代わりに、他の人々は長い眠りから目覚め、前進し、自らの生活を刷新と回心の道へと導くために立ち上がるだろう。

51. 戦いに立ち向かうことができるよう、勇気と信仰と力を備えなさい。しかし、私はあなた方に注意を促す。たとえ相手が立派な服を着ていたり、公爵、領主、あるいは大臣と呼ばれていたりするからといって、その人と話す際に、決して萎縮してはならない。

52. 世が「主」と呼ぶ者たちの前で声を上げたパウロとペトロを模範としなさい。彼らは精神において偉大であったが、それでも誰に対しても自分たちが主であると誇示することはなく、むしろ自分たちが僕であることを表明した。彼らの模範に従い、あなたがたの行いの愛によって、わたしの真理を証しなさい。（131, 60-62）

53. また、私の言葉を剣として同胞を傷つけたり、笏として彼らを辱めたりする者は、私の弟子とは名乗れないことを指摘しておく。同様に、この教えについて語る際に興奮し、平静さを失う者もまた、信仰の種を蒔くことはできない。

54. 準備の整った弟子とは、自らの信仰、すなわち信念の最も神聖な部分が攻撃されたときにも、平静を保つことができる者である。なぜなら、その者は嵐の只中に立つ灯台のような存在

となるからである。（92, 9-10）

55. もしあなたがたが罪人を善へと諭そうとするなら、彼が改心しない場合に私の裁きや自然の力、あるいは苦痛で脅すようなことはしてはならない。そうすれば、あなたは彼に私の教えに対する嫌悪感を植え付けてしまうことになるからだ。愛と慈悲と赦しそのものである真の神を示しなさい。（243, 36）

56. 周囲の人々の嘲笑によって傷つくことのないようにしなさい。なぜなら、そうする者は無知ゆえに真理を見分けることができないのだと、あなたがたは知っているからである。その埋め合わせは、あなたがたを探求するためにやって来て、私の真の弟子たち一人ひとりを照らす内なる平安に驚嘆する人々の中に見出すことができるだろう。

57. それに対し、あなたがたは、宗教的狂信によって偶像崇拝者となっている者たちを決して嘲笑してはならない。なぜなら、彼らがたとえ物質的な形の中でわたしを求めようとも、その形の中でわたしを礼拝しているのだから。

58. あなたがたは、人々の誤りを正すために、その誤りを指摘する必要はない。むしろ、そうすることで彼らの怒りを買い、その狂信をさらに強めることになるだろう。人々の誤りを真理の光の下にさらすには、私の教えを、それが求める霊性をもって実践するだけで十分である。

59. 人類がまもなく、わが言葉の霊的な本質を認識し、それに対して真の崇敬を捧げることを学び、またあらゆる人間を、神における霊的かつ地上の兄弟として認識するようになることを望むならば、あなたがたは多くの忍耐と、大きな慈悲と、真の愛を注がなければならない。（312, 20-22）

60. 私は、無知な者や惑わされた者の目から、その者に害を与えたり、侮辱したり、傷つけたりすることなく、暗闇の覆いを取り除くことができることを、あなた方に示した。 私も、あなたがたにはそのように行動してほしい。私は、愛、赦し、忍耐、寛容こそが、厳しさや非難、あるいは暴力の行使よりも力を持つことを、あなたがた自身を通して証明した。（172, 63）

61. 私が残した足跡を、あなたがたが私に従うために、もう一度示しておこう。福音を伝えるために人々を探し求めるなら、彼らに耳を傾けてくれるよう懇願してはならない。尊厳を持ってその使命を果たせ。そうすれば、あなたがたを信じる者こそが、私が弟子とするために選んだ者たちとなるだろう。（10, 50）

正しい宣教の方法

62. 私があなたがたに私の言葉を与えたのは、それを通りや広

場で宣べ伝えるためではない。イエスは確かにそうしたが、彼はあらゆる質問に答える術を知っており、彼を試そうとする者たちを試練にさらすことができたのだ。

63. あなたがたは小さく、弱い。それゆえ、周囲の人々の怒りを招いてはならない。注目を集めようと試みてはならない――自分たちに特別なものなど何もないのだと考えなさい。また、すべての人々が誤っており、自分たちだけが な真理を知っていることを人々に証明しようと努めてはならない。そうすれば、あなたがたの蒔いた種から何の良い実も得られないからである。

64. もしあなたがたが精神的、道徳的に成長したいと望むなら、同じ過ちを犯さないよう、周囲の人々の過ちを非難してはならない。 自らの不完全さを正し、師に謙虚に祈り、その柔和さに触発され、善行を決して公にしないという師の助言を心に留めなさい。そうすれば、右手が何をしたか、左手が決して知ることのないようにできる。

65. また、私はあなたがたに告げる。人々に私の教えを説くために、わざわざ人々を探し回る必要はない。なぜなら、私の慈悲が、助けを必要とする人々をあなたがたの元へと導いてくれるからである。

66. しかし、もし私の律法を全うするために、隣人愛の行いをする必要を感じた時、身近に困っている人がいなくても、それゆえに悲しんだり、私の言葉を疑ったりしてはならない。 その時こそ、あなたがたは、不在の兄弟たちのために祈るべき時である。あなたがたが真の信仰を持っているならば、彼らは私の慈悲を受けるであろう。

67. 兄弟たちよりも多くを知ろうと努めてはならない。あなたがたは皆、それぞれの成長段階に応じた認識を得ているのだと理解せよ。もし私が、あなたがたに功績がないにもかかわらず、私の光を与えたならば、あなたがたは自分を偉大だと見なし、その虚栄心によって堕落し、その知恵は偽りのものとなるだろう。

68. 私はあなたがたが謙虚であるのを見たい。しかし、私の前でそうあるためには、隣人に対してもそれを示さなければならない。

69. 弟子たちよ、愛と知恵は決して切り離されることはなく、一方は他方の構成要素である。なぜ、この二つの美徳を切り離そうとする者たちがいるのだろうか。両者は、聖域の門を開く鍵であり、それによってのみ、あなたがたは私の教えを完全に理解することができるのだ。

70. わたしはあなたがたに言った。「多くの友を持ちたいか？それなら、親切、温かさ、寛容、そして慈悲を用いなさい。」なぜなら、これらの美徳こそが

愛の直接的な表現であり、それによってのみ、あなたの精神は隣人の道において輝きを放つことができるからだ。精神はその最も内なる本質に愛を秘めている。なぜなら、精神は神聖な火花であり、神は愛そのものだからである。（30, 29-36）

71. 今、私は、他の国々で使徒および預言者としての使命を果たすべき者たちに語りかける。私が彼らに託した使命を誇示してはならない。彼らは、宗教団体や信仰告白と対立することで、物議を醸してはならない。

72. あなたたちに対して憤りを煽るのは他の人々である。彼らは、それによって多くの人の好奇心を呼び起こし、それが後に信仰へと変わることで、私の教えを広める手助けをしていることに気づいていないのだ。（135, 28）

73. 私があなたがたの中に私の神聖なメッセージを根付かせる時、それは兄弟愛に満ちたメッセージとならなければならない。 しかし、それがこの人類の物質主義的な心に感銘を与え、心を動かすためには、私があなた方に啓示した真理の刻印がなければならない。もしあなたがたが何かを隠し、何かを黙っているならば、第三の時代における私の啓示が何であったかについて、真実の証しをしたことにはならず、その結果、信仰を見出すことはできないだろう。（172, 62）

74. 私が人類に出会うとき、その道徳的、精神的な未熟さはなんと大きいことか！この時代に私の言葉の恵みと光を受けた者たちの責任は、なんと大きいことか！

75. 弟子たちよ、師となれ。人に対する恐れを心から追い出し、無関心と怠惰を排除し、あなたがたが真に天のメッセージの伝達者であることを悟れ。 今この時代に起きているすべての事象について説明すべきは、あなた方である。人類が忘れてしまった私の教えの原則を明らかにするよう努めなければならないのは、あなた方なのだ。

76. あなたがたは、私が語った通りに、ただ私の言葉を人々に繰り返してはならない。それを説明できるよう、自らを鍛えよ。巧みな雄弁さで人を感心させようとする言葉を求めないでほしい。霊の真理を最もよく表す、素朴な言葉で語れ。（189, 11-13）

77. 新しい弟子たちよ、この真理について語る際には、たゆまず努めなさい。恐れから私の言葉を口にできない、不慣れな唇よ――決断したその瞬間に、心を開きなさい。 私の名において語られるたった一言が、罪人を救い、悪に身を任せて反抗的になった者たちの道を阻む深淵を塞ぐことができる。あなたがたは、私の言葉が持つ力を知っているのか。あなたがたの権威の力を知っているのか。

78. 模範となる行いによって語り、私があなた方に託した私の業のその部分にふさわしい者となりなさい。残りの686は、私が成し遂げる。（269, 6）
79. もし、あなたがたの同胞である他の人々がキリストの御名と御言葉を教えているのを見ても、彼らを見下してはならない。なぜなら、「第二の時代」に私があなたがたにもたらした御言葉が全地球に広まった時、私の再臨が起こると書かれているからである。
80. しかし、私はあなたがたに告げる。この世には、まだそのメッセージを受け取っていない場所が依然として存在する。救い主が御言葉と御血によってあなたがたに与えた神の愛の種を、彼らが先に受け取らなければ、今日のこの深く霊的な教えが、どうしてそれらの民に届くことができようか。（288, 44）
81. 一度真理を理解し、それを感じ取れば、たとえ最も厳しい試練にあっても、霊が主の足跡に従うことがいかに容易であるかを体験するだろう。できる限りのことを行いなさい。なぜなら、私はあなたがたに、あなたがたができる以上のことを求めることはないからである。そうすれば、あなたがたは次世代のために道を切り開いて残すことになる。
82. 私はあなたがたに子供たちを託し、彼らを正しい道へと導くよう命じる。彼らを集め、愛と献身をもって、私について語りなさい。
83. 疎外された者たち、すなわち、悲惨と悪徳の中に迷い、生きる者たちを訪ねなさい。あなたがたの言葉が、あなたがたの唇から発せられるとき、それが救いへの道となるよう、私はその言葉に霊的な力を与える。
84. 無知な者たちの前に「真の命の書」を開きなさい。そうすれば、彼らの魂は目覚め、聖霊の啓示に浸るにつれて成長するだろう。あなたがたの師に倣いなさい。そうすれば、人々はあなたがたの言葉に耳を傾けるようになる。（64, 70）
85. 私は、道を見出した者たちが、その道を分かりやすく教え、同胞にとって歩みやすいものにすることを望む。多くの者がそうしてきたように、私を求める者たちが私のところに来ることを妨げるような、つまずきの石で道を埋め尽くしてはならない。（299, 34）
86. 私は、あなた方スピリチュアリストたちに、人類が神と自らの間に築き上げた障壁、すなわち、誤った信仰、永遠なるものへの見せかけだけの信仰、物質化、そして不必要な儀式行為からなる障壁を打ち壊すという任務を託す。
87. 民よ、私はあなたに、人々が依然として崇拝している「黄金の子牛」をその台座から引きずり下ろすという使命を与える。彼らは自分たちが偶像崇拝や

異教から遠く離れていると自負しているにもかかわらず、そうしているのだ。（285, 54-55）

88. 人々が霊的な教えについて抱いている、あたかもそれらが無知、欺瞞、そして詐欺に基づいているかのような誤った印象を取り除きなさい。 私の教えを、その純粋さと崇高さのすべてにおいて示しなさい。そうすれば、人々が自らの霊的な自己について考えることを妨げ、その行動の自由をすべて奪い去ってしまった無知、狂信、そして心の硬化を解消することができるだろう。（287, 42）

89. この啓示を受けたあなたがたは、人間の知性を通じて、人類に私の新しい啓示を宣べ伝えるために選ばれた者である。あなたがた以外、誰がこの証しをなすべきだろうか。

90. もしあなたがたが、人類の宗教団体の高位者や聖職者たちがこの福音を伝えることを期待しているなら、それは誤りである。まことに、わたしはあなたがたに告げる。たとえ彼らがわたしを見たとしても、人類に向かって「見よ、そこにキリストがおられる。彼のもとへ行け」と口を開くことはないだろう。（92, 13）

91. 私があなた方に語ったあの時を待ちわびて眠り込んではならない。そうして初めて立ち上がり、人々に「今、あなた方の目の前にあるものは、すでに予言されていたのだ」と言うことなどあってはならない。

92. いや、民よ、あなたがたは、それをあらかじめ告げ、預言し、私があなたがたに予告し約束したすべてのことが実現するための道を整えることが、絶対に必要である。そうしてこそ、あなたがたは、地上の霊化への先駆者としての使命を果たしたことになるのだ。

93. そうして、世の中に奇跡的な事象が現れ始め、主の御霊がかつてない出来事を通してあなた方に語りかけ、そして人間の精神が想像もできなかった賜物や能力を現し始めたとき、あなた方は、あらゆる信仰告白、理論、規範、 制度、そして科学が揺るがされるのを目撃することになるだろう。そしてその時、人類は、一見異質に見える教えを謙虚に説いた者たちが正しかったと認めることになる。なぜなら、彼らの言葉は実現したことで裏付けられたからである。

94. その時、あなたがたは、地上の諸民族が霊的な教えに関心を持ち、神学者たちがキリストの教えを新しい啓示と比較するのを目にするでしょう。そして、これまで霊的な事柄に無関心であった多くの人々が、現代および過去の時代の啓示の研究に熱心に興味を持つようになるのを見ることになるでしょう。（216, 16-17）

肉体的・精神的に苦しむ者たちを慰め、癒やす使命

95. わたしは、選ばれた者たちに大きな賜物を託した。その一つが癒やしである――この賜物によって、人間社会における最も美しい務めの一つを果たすための癒やしの香油である。なぜなら、あなたがたの惑星は涙の谷であり、そこには常に痛みがあるからだ。

96. この能力をもって、あなたがたは、私の御心に従って慰めを与えるための広大な分野を前にしている。 私はこの癒しの力を、あなた方の存在の中に、あなた方の心の最も繊細な琴線に宿した。そしてあなた方はそれに癒され、その奇跡の前に頭を垂れ、人々の痛みによって心は柔らかくなり、常に慈悲の道を歩んできた。

97. これからも、この癒しの香油を与え続けなさい。それは、あなた方の手の中にあるものではない。なぜなら、それは、思いやり、慰め、理解に満ちた眼差しによって伝えられ、善き思いによって受け継がれ、有益な助言や光の言葉へと変容するからである。

98. 癒しの賜物には限界がない。あなたがたがその賜物に満たされていることを決して忘れるな。もし試練にさらされ、痛みに打ちのめされることがあっても、もしこの薬でそれを取り除くことができないとしても、私の教えを忘れず、自分の苦しみを忘れ、自分よりも大きな苦しみにある他の人々のことを思いなさい。 そうすれば、あなた自身と周囲の人々の間で、奇跡を目撃することになるだろう。（311, 18-19）

99. 人々の心の中を覗き込み、そこに秘められているもの、隠されているもの、そして彼らが必要としているものを知るためには、どれほど準備が必要だろうか！

100. わたしは、あなたがたに、魂を養い、癒やし、光を与え、そして彼らの向上への道を示すよう教えてきた。

101. この言葉を聞き、それを心に留める者は、魂の導き手、医者、そして助言者となることができるだろう。その言葉の中に、光を必要とする周囲の人々への平和と慰めの贈り物を見出すことになる。（294, 3-4）

102. 私は、あなたがたに一滴の癒しの香油を与える。それは、あなたがたが迫害されたとき、人々の間で奇跡的な癒しを行うためである。なぜなら、大流行の際、異質で科学にも知られていない病気が発生するとき、私の弟子たちの権威が明らかにされるべきだからである。

103. わたしは、あなたがたに一つの鍵を託す。それによって、あなたがたは最も錆びついた錠前、すなわち最も頑なな心さえも開くことができる。さらには、無実の者に自由を与え、罪

人を救うために、牢獄の門さえも開くことができるのだ。

104. あなたがたは、どこへ行こうとも、わたしの天使たちによって守られるから、常に平安とわたしへの信頼のうちに生きるだろう。天使たちは、あなたがたの使命の成就を自らの使命とし、あなたがたを家庭や病院、刑務所、不和や戦争の現場へと伴い、あなたがたがわたしの種を蒔くために向かうあらゆる場所へ同行するだろう。（260, 37-38）

105. 人々はやって来るだろう。その中には、科学と唯物論を体現する「トマス」もおり、探求するために鋭い眼差しを向けてくる。 そして、目だけでなく、手の指でも触れて確かめようとする。なぜなら、そうして初めて、彼は私の存在と、人類の間に次々と起こる霊的な出来事を信じることができるからだ。人々はそれらの出来事を証ししなければならない。そうしてこそ、「第三の時代のトマス」は、その疑いと唯物論を乗り越え、私の愛に打ち勝つことができるのである。（319, 38）

106. いつ働き始めるべきか、私はあなた方に指示を与える。なぜなら、それは非常に大きく明確なしるしの時代となるからであり、あなた方は霊界の呼び声と、この世の呼び声を聞くことになるだろう。この世は、その出来事によって、あなた方の戦いの時が来たことを告げるのだ。私は霊から霊へとあなた方に語りかけ、その道を導いていく。

107. しかし、あなたがたが人々のところへ教師として、あるいは医者として赴く前に、まず彼らの痛みを和らげてほしい。そうして初めて、彼らはわが言葉という清らかな水の泉から飲むことができるのだ。まず傷や腫れ物、あるいは病を探し出し、その苦しみを癒してから、その後に彼らの魂に向き合え。

108. 「第二の時代」のイエスのように、あなたがたの同胞のもとへ行き、わたしの言葉の前に癒しの香油を携えて行きなさい。しかし、その香油とは何なのか、おお、弟子たちよ。それは、祝福され、病人のための薬へと変えられる泉の水のことだろうか。 いいえ、民よ。私があなた方に語るその香油は、 あなた方の心の中にある。私はそれを貴重なエッセンスとしてそこに置き、愛だけがそれを解き放ち、止まることなく流れ出させるのだ。

109. もしあなたがたが、ある病人の上にそれを注ぎたいと願うなら、癒すのはあなたがたの手ではなく、愛と慈悲と慰めに満ちあふれた霊である。あなたがたが思いを向けるその場所で、奇跡は起こるのだ。

110. 自然の存在や要素に対しては、あらゆる者に慰めをもたらすために、様々な方法で働きかけることができる。しかし、

私はこうも言っておく。病を恐れてはならない。そして、すべての人に対して忍耐強く、慈悲深くあれ。

111. 悪霊に取りつかれた者や、人間の理性を失った者たちについても、同様に癒すことができる。なぜなら、あなた方にはその能力があり、絶望と忘却に陥った者たちのためにその力を用いるべきだからである。彼らを解放し、この権能を不信仰者たちの前で明らかにせよ。 闇のある場所に光をもたらし、あらゆる束縛と不正を打ち破り、この世界が主を認識し、真理を完全に悟って自らの内面を見出すように導くこと、それがこの民の偉大な使命の一つである。（339, 39-41）

世界的な使命への出発の時

112. 現在、世界は盲目であり、真理の光を認識することも、その最も内なる本質において私の呼びかけを聞くこともできないため、あなたがたは祈り、霊的な地盤を固めなければならない。なぜなら、現在、すべての民族が破壊の準備や防衛に忙殺されているため、あなたがたの声は聞き入れられないだろうからである。

113. 絶望、憎しみ、恐怖、そして苦痛が極限に達した時、人々はさらに盲目にならざるを得なくなるだろう。

114. その時もまた、私のメッセージを伝えるにはふさわしい時ではない。なぜなら、あなたがたは砂漠の真ん中で叫ぶ者のようであり、誰もあなたがたに耳を傾けないからである。（323, 27-29）

115. 地球が極から極へと荒廃し、すべての国家、すべての社会制度、そしてすべての家庭がその根幹から正され、人類があらゆる汚点を洗い流した後になって初めて、あなたがたは私の名において、私の教えを兄弟たちに伝えるために、準備を整えて出かけていくべきである。（42, 54）

116. 時が来たら、愛する民よ、立ち上がり、あなたの同胞に私の聖なる言葉を体現させなさい。 あなたがたは良き弟子として世界中に散らされ、私があなたがたに残すこの新しい福音は広まっていく。第六の封印から放たれるこの光は、この時代の人類を照らし、それによって秘密は解き明かされる。

117. わたしの教えは他の国々にも根を下ろし、人々がまだ発見していないすべてのことは、七つの封印がもたらす光によって明らかにされるであろう。しかし、あなたがたは、受けたこれらの教えについて語り、人々にわたしの戒めを守るよう教え導かねばならない。(49, 43)

XV. 戒め、警告、教え

第61章 - 主の戒めと警告

戒めと使命

1. イスラエルよ、ただ世との約束を果たすだけではいけない。律法も果たさなければならない。なぜなら、あなたがたは父に対して任務を引き受けたのであり、その遂行は厳格で、崇高で、霊的なものでなければならないからだ。

2. わたしは、あなたがたが物質主義から離れ、狂信者や偶像崇拝者であることをやめるように、また、人の手によって作られた物質的な物を崇拝したり、それらを崇拝の対象としたりしないように、あなたがたに教える。 私は、あなたがたの心に、偶像崇拝、狂信、そして誤った礼拝の根が残っていることを望まない。私のもとには届かない供え物を私に捧げるな。私が求めるのは、あなたがたの刷新と、霊性における充実だけである。

3. かつての習慣について自らを刷新し、過去を振り返ったり、あなたがたが捨て去ったものや、もはや行ってはならないことに目を向けてはならない。あなたがたは向上への道を歩み始めたのだということを理解し、立ち止まってはならない。 その道は狭く、あなたがたはそれをよく知っていなければならない。なぜなら、明日、あなたがたはその道で兄弟たちを導かなければならないからであり、私はあなたがたが迷うことを望まないからだ。

4. 私は、あなたがたの悔い改めと善意を待ち、私の恵みと憐れみを注ぎかける、忍耐強い父である。（23, 60-63）

5. わたしの言葉は、常に善と徳を勧めている。すなわち、隣人の悪口を言って彼らを恥にさらしてはならない。あなたがたが「伝染病」と呼ぶ病に苦しむ人々を軽蔑して見てはならない。戦争を助長してはならない。 道徳を破壊し、悪徳を助長するような不名誉な職業に就かないこと。いかなる被造物も呪わず、所有者の許可なく他人の物を持ち去らず、また迷信を広めないこと。

6. 病人を訪ね、あなたを侮辱する者を赦し、徳を守り、良き模範となるべきである。そして、私とあなたの隣人を愛すべきである。この二つの戒めに、律法全体が要約されているからである。

7. 私の教えを学び、その行いを通してそれを教えなさい。もし学ばなければ、どうして私の教えを説くことができるだろうか。また、学んだことを心に感じなければ、どうして良き使徒として教えることができるだろうか。（6, 25-26）

8. 人々よ、もし前進したいのなら、あなた方の中にある怠惰を克服しなさい。もし偉大になりたいのなら、あなた方の行い

に私の原則を適用しなさい。もし自分自身を知りたいのなら、私の言葉によって自らを探求しなさい。

9. 愛と知恵と助言と助けを与える私の言葉がいかに必要であるかを悟りなさい。しかし同時に、私が与えるものに対して責任を感じなさい。なぜなら、世の中で助けを必要としているのはあなたたちだけではないからだ。 これらの教えを渇望し、飢えている人々は数多くいる。だから、あなたがたは、私の愛のメッセージを彼らに届けるために、自らを準備しておくことを心に留めなければならない。（285, 50-51）

10. この民が人類に対して負う責任は極めて大きい。真の霊性化の模範を示さなければならない。内なる信仰の実践、神に喜ばれる捧げ物、神にふさわしい礼拝をいかに捧げるかを示さなければならない。

11. 心を開き、そこで良心の声を聞き取れ。そうして自らの行いを吟味し、私の教えを忠実に解釈しているのか、それともあなた方もまた私の教えの真意を誤解しているのかを知りなさい。（280, 73）

12. あなたがたが私の教えを実践しなければ、その教えはすべての意味を失ってしまう。

13. 愛する弟子たちよ、あなたがたはよく知っているはずだ。私の律法と教えの目的は善を行うことにある。それゆえ、それらを単に記憶や口先だけで留め、自らの行いに適用しない者は、義務に背く行為をしているのである。（269, 45）

14. あなたがたは、心の中にこの人生の経験の光を、そして魂の中に、幾度もの地上生における成長が残した光を持っている。それなのに、なぜあなたの魂は、自分にとって無益なことに心を奪われ、なぜ、その痛みを受けるに値しないような理由で、しばしば涙を流すのか。 あらゆるものの中に真理を求めなさい。真理はあらゆる道にあり、白昼の光のように明るく明瞭である。（121, 48-49）

15. 忘れることなく、常に心に留めておきなさい。あなたがたが人々に抱かせる信頼は、あなたがたの正義と徳に満ちた生き方にかかっているのだ。つまり、人々はあなたがたの私生活までも探り、観察し、あなたがたが説く教えの確証を、あなたがたの行いの中に求めようとするのである。（300, 57）

16. 言ってみよ。あなたがたが過ちを犯したとき、私があなたがたを拒んだことがあったか。何かつまずきに阻まれたとき、私があなたがたを見捨て、置き去りにしたことがあったか。痛みに打ちひしがれて倒れたとき、私があなたがたに厳しい顔を見せたことがあったか。

17. それにもかかわらず、私がこれほど深い愛をもって「弟子」と呼ぶ者たちが、不幸に見舞

われた同胞を見捨て、正しい道から外れた者を拒絶し、愛をもってその者を引き寄せ、改心するよう助ける代わりに、時には裁くべきではない事柄に干渉して、裁き人となってしまうのを、私は見ている。
18. これは私の教えにかなっているか？　いいえ、とあなたの良心が私に告げている。なぜなら、私はあなたがた自身を厳しく見つめ直し、感情を蝕む多くの荒さを削ぎ落とし、私の弟子となる道を歩み始められるようにと願っているからだ。（268, 46）

信仰、希望、愛、謙遜、確信

19. あなたがたが謙遜であれば、偉大になるだろう。偉大さは、多くの人が信じているような傲慢や虚栄心の中にあるのではない。「心から柔和で謙遜であれ」と、私は常にあなたがたに言ってきた。
20. わたしを父として認め、わたしを愛しなさい。自分の肉体のために、他の人より自分を際立たせるような王座や名声を求めないでください。ただ、他の人々の中の一人の人間としてあり、心の中に善意を抱きなさい。（47, 54）
21. 私は、あなたがたの中に、「第二の時代」に私のもとに来た病人たち――麻痺した者、盲人、そして不治の病の女――が示したような信仰を見たいと願っている。私は、父として愛され、医者として求められ、師として聞き入れられることを望んでいる。（6, 46）
22. 信仰においても、希望においても、弱くなってはならない。この人生の旅の終わりが必ず来ることを常に心に留めておきなさい。あなたがたの起源が私にあること、そして最終的な目的地もまた私にあることを忘れてはならない。その目的地とは永遠である。なぜなら、魂に死はないからだ。
23. 永遠を志向の理想とし、人生の浮き沈みの中で勇気を失ってはならない。これが地上での最後の転生であるかどうか、お前たちは知っているのか？ 今日あなたがたが持っているこの肉体の中で、私の正義に対して負ったすべての負債を完済できると、誰が断言できようか。それゆえ、私はあなたがたに言う。時を有効に活用せよ、しかし、性急に振る舞ってはならない。もしあなたがたが、信仰と受容をもって苦難を受け入れ、忍耐をもってその杯を飲み干すならば――まことに、私はあなたがたに言う、あなたがたの功績は決して無駄にはならない。
24. 霊が常に前進し続けるよう努めなさい。そうすれば、あなたがたは決して、決して、自己を完成させることをやめることはないだろう。（95, 4-6）
25. あなたがたの兄弟姉妹である父の子供たちを愛することで、父のために生きなさい。そう

すれば、不死を得ることになる。もしあなたがたが利己主義に陥り（ ）、自己愛に閉じこもるならば、あなたがたが残す種は、あなたがたの記憶を長く残すことは難しいだろう。

26. 心から柔和で謙虚でありなさい。そうすれば、あなたがたは常に私の恵みに満ちているであろう。（256, 72-73）

27. あなた方の使命は偉大である！しかし、悪い前兆に支配されてはならない。むしろ、近づきつつある苦難の日々は、人々の目覚めと浄化のために必要であり、それなしには霊性化の時代の勝利の到来を経験することはできない、という考えに勇気を持ち、希望に満ちていなさい。

28. 逆境を乗り越えることを学びなさい。心が落ち込むことを許してはならず、健康に気を配りなさい。私について語り、信仰と希望に火をつける私の教えを彼らに示すことによって、兄弟姉妹の心を励ましなさい。

29. 多くの人々がどれほど落ち込んで生きているかを見よ。彼らは、人生の闘いにおいて敗北を喫してしまった者たちである。彼らがどれほど早く老い、白髪になり、顔は萎れ、表情は憂鬱になっているかを見よ。しかし、強くなければならない者たちが弱ければ、若さは枯れ果て、子供たちは周囲に悲しみしか見出せなくなるだろう。

30. 民よ、たとえ儚いものであっても、あなたがたが享受できる健全な喜びを、自分の心から奪ってはならない。平和のうちにささやかなパンを食べなさい。まことに、あなたがたに告げる。そうすれば、そのパンはより美味しく、より栄養豊かに感じられるだろう。

31. 私の言葉から、私があなたがたに求めているのは、確信、信仰、楽観、心の平安、そして強さであり、あなたがたの苦難や災いにもかかわらず、あなたがたの心に苦々しさがあってはならないということを理解しなさい。もしあなたがたの心が苦しみ、心配、あるいは不満で満たされていたなら、それを必要とする人々に、どのような親切や励ましを与えることができようか。

32. まさに試練の中にあってこそ、あなたがたは高揚、信仰、そして謙虚さの最良の模範を示すべきである。

33. 自分の人生にこの霊性を吹き込むことができる者は、常に平安を感じ、たとえ眠っているときでさえ、その眠りは穏やかで安らかなものである。魂はこれを利用して肉体から離れ、あの世へと向かい、そこで魂を養い、また肉体にも分かち与えている、あの神聖な力の流れを受け取るのだ。（292, 45-51）

祈り、研鑽、警戒、刷新、そして霊化

34. 愛する弟子たちよ、私はもう一度言う。目を覚まし、祈りなさい。なぜなら、肉体は弱く、その弱さゆえに、魂を正しい道から逸らすことがあるからだ。

35. 「目覚める」ことを知る魂は、主が示された道から決して逸れることはなく、その発展を成し遂げるまで、自らの遺産と賜物を活用することができる。

36. そのような人は、警戒して生き、決して肉体に支配されることがないため、試練に打ち勝つだろう。目を覚まし、祈る者は、人生の危機から常に勝利者として抜け出し、確かな足取りで人生の道を歩んでいく。

37. 祈り、そして「目覚めて」いることを忘れる者の振る舞いは、これとはいかに異なることか！彼は、私が人間の中に置いた最良の武器、すなわち信仰、愛、そして知識の光によって自らを守ることを、自ら進んで放棄している。彼は、直感、良心、そして夢を通して語りかける内なる声を聞き取らない者である。 しかし、その人の心と理性はこの言葉を理解せず、自らの精神からのメッセージを信じようとしない。（278, 1-3）

38. 混乱した魂たちのために、地上に縛られた者たちのために、地底でまだ肉体から解き放たれることができない者たちのために、そして、彼らのために地上に残された無知な悲しみによって苦しみ、泣いている者たちのために祈りなさい。

39. また、あなたがたの心に悪を蒔いた者たちをも赦し、もはや彼らを裁いてはならない。もしあなたがたの目が、彼らがひざまずいて懇願し、あなたがたの赦しを請う姿を眺めることができたなら、あなたがたは彼らに対してそれほど不公正にはならなかっただろう。 彼らが無限の世界へと昇華できるよう助け、あなたの慈愛に満ちた思いやりによって彼らを高め、彼らがもはやこの世に属していないことを理解しなさい。（107, 15）

40. 自分の最初の行いに満足し、魂の完成のために十分な功徳を積んだと思い込んではならない。しかし、日々新たな教訓を学び、より大きな啓示を見出すために、常に少しの時間を私の著作の研究に捧げなさい。

41. 知識を渇望する弟子は、常に自らの問いに対する答えを聞き、試練の瞬間に、常に私の父なる助言を耳にするだろう。

42. 進歩した弟子は、同胞たちにとって愛の源となるだろう。彼は、父から真に遺産を授かったと実感し、人々の間で自らの偉大な霊的使命を果たすために旅立つべき時を見極めるだろう。（280, 40-42）

43. あなたがたがより完全になるほど、目標がより近くに見えるようになる。あなたがたは、

救いまであと一歩なのか、それともまだ長い道のりを歩まなければならないのかは分からないだろう。ただ、私の神聖な御霊の声であるこの言葉に、進んで従順に導かれるべきだと言うだけである。

44. 律法に背き、同じ過ちを繰り返し犯すことのないよう、気をつけなさい。この呼びかけを心に留めなさい。それは改心を促すものであり、あなたがたの父があなたがたに投げかける願いである。なぜなら、私はあなたがたが地上で無駄に生き、その後、あなたがたの不従順を嘆く姿を見たくはないからである。（322, 60）

45. 人々の噂や彼らの裁きを恐れるな。むしろ、あなたがたの神の裁きを恐れよ。私が裁き主として容赦がないと告げたことを思い起こせ。それゆえ、人生の道において何一つ欠けることがないように、常に私を父として、神として求めよ。（344, 31）

46. わが民よ、不意を突かれることのないようにせよ。常に警戒して生き、忠実な番人となれ。あなたがたが誤っていることを納得させようと、自分の兄弟姉妹が言う言葉を恐れてはならない。

47. 堅く立ち続けなさい。なぜなら、わたしの大義に忠実な「兵士」たち――世界観、信仰告白、そして宗教が混乱するこの困難な時代に立ち向かうあなたがたのうちの人々――には、わたしが大きな報いを与えるからである。

48. あなたがたは、私の業を尊ぶのと同じように、すべての同胞を尊び、私が再びあなたがたに残す教えを指し示さなければならない。人々があなたがたを嘲笑しても、そのままにしておきなさい。私の聖霊の光が彼らに届き、その時、彼らの心には悔い改めが生まれるからである。（336, 18）

49. 立ち止まってはならない、おお、弟子たちよ！私がいつも言ってきたように、あなたがたの歩みは善と進歩の道にしっかりと留まらなければならない。なぜなら、善のみが人間を救い、徳と真実のみが、闘争と対立の道において人間を支え続けるような時代が来るからだ。

50. 欺瞞が倒れ、偽り、偽善、利己心、あらゆる悪しき種が、厳しい試練、転落、そして打撃によってその終焉を迎える日が近づいている。

51. それゆえ、師はあなた方にこう告げる。善においてますます強くなれ！わが民よ、あなたがたが行う善に対して、悪を受けることは決してない、と確信せよ。もしあなたがたが地上で行う善に対して、悪しき実や悪しき報いを受けるとしても、その悪しき実は一時的なものであり、最終的な実ではない、と私は真実をもって告げる。 収穫を

得るまで、粘り強くあり続けなければならない。（332, 31）

啓示を受けた教会への警告

52. わが言葉を自分の都合に合わせて解釈する者は災いである。そのことについて、彼はわたしに責任を負うことになるからだ。

53. 地上では、父の愛の業における協力者としての責任を自覚することなく、真理の歪曲に専心している者が多くいる。

54. 多くの者は、自分たちが経験している出来事をどう解釈すべきか分からず、この裁きの時を認識していないが、裁きは各人の魂の中にあり、この世での旅路において、愛の律法の内外におけるその行いについて、その者に説明を求め続けている。

55. これらの書物において、霊感によって与えられた私の啓示の真意を改変しようとする者は、その行いについて私の前で責任を負うことになる。

56. それゆえ、あなたがたは誠実に行動しなければならない。なぜなら、これらの教えは、肉体に宿っているか、あるいは霊界にいようとも、より詳細な教えを待ち望んでいるわが子たちへの、わが愛の遺産だからである。（20, 12-14）

57. イスラエルよ、私はあなたの中に偽りを見たくない。いつの日か、それは露見するだろう。そしてその時、世界はこう言うだろう。「これらが師の弟子たちなのか？もし彼らが偽りの弟子であるならば、彼らの中に住み、偽りを伝えようとした師もまた偽りだったということになる。」（344, 10）

58. あなたがたは、人々の苦しみを和らげ、長い間、祈りの中で魂を高揚させることなく過ごしてきた神を冒涜する者たちに祈りを教えるという使命を帯びている。

59. しかし、そのためには、日々ますます霊的になり、物質主義から自らを解き放たなければならない。

60. なぜなら、私はあなたがたが過激なスピリチュアリストになることを望んでいないからだ。いや、そうではない。狂信は私の目には忌まわしいものであり、私があなたがたの中から排除しようとしているのはそれである。良心が、あなたがたが万物と調和して生きるべき方法を教えてくれるだろう。（344, 17-18）

61. 民よ、私の言葉を聞きなさい。弟子たちよ、耳を傾けなさい。私は今、あなた方に光を与え、鎖や束縛、そして闇からあなた方を解放している。しかし、私はあなた方に、この働きを新たな宗教に変えたり、いつものように像や儀式で満たしたりすることを許すのではない――いや、決して！

62. 私があなた方に与える自由が何であるかを正確に理解し、

それを新たな狂信と取り替えないようにしなさい。

63. あなたがたの知性、そしてそれとともに魂の成長が阻まれていたことに、まだ気づいていないのか。あなたがたが真実をありのままに見、光を受け取れるようにと、私があなたがたを解放した、先祖から受け継いだ誤った恐怖や偏見の洪水を、覚えていないのか。（297, 20-21）

64. 大地は湿り、私の種蒔き人たちの種を待ち受けて受け入れる準備が整うだろう。ここで、あなたがたは一度、これらの種蒔き人たちの責任について考えてみるべきである。 人類が狂信や理性を惑わす崇拝から解放された後、この民が新たな偶像崇拝を持ち込むことが、果たして正しいことだろうか？ いいえ、愛する弟子たちよ。だからこそ、あなたがたの道のりの一歩一歩には、教訓と試練があるのだ。（292, 44）

1950年以降の啓示の継続と偽りの「キリストの啓示」に対する警告

65. 私の神性が定めた日以降、あなたがたはもはや私の言葉を聞くことはなくなるだろう。しかし、それはあなたがたの精神の中に、あなたがたの心の中に、そして書物に記されているであろう。

66. その後、自らを「声の伝達者」と称し、私の光線に呼びかける者は、自らに下す裁きの判決を知らないのである。

67. 私は、あなたがたが偽りの預言者、偽りの代弁者、そして偽りの「キリスト」たちに耳を傾けないよう、警告する。 私は、あなたがたが時宜を得て混乱を避け、闇の霊たちがあなたがたの中に侵入するのを防ぐことができるよう、あなたがたを目覚めさせる。目を覚ましていなさい。なぜなら、もしあなたがたが備えをしておかなければ、これらの教えについて、私に説明責任を問われることになるからだ。（229、40-41）

68. これはすでに、私がこの姿であなたがたと共にいる最後の時期である。これを信じなさい。また、私がこの世に戻って、私の言葉を物質的に聞こえるようにすることなど決してないこと、ましてや人間になることなどないことも信じなさい。

69. 身構えなさい。私が戻ってきた、キリストが地上に来たと主張する人々からの噂が、あなた方の耳に入るだろうから。その時には、忠実であり続け、確信を持ってこう言いなさい。「主は、すべての御子たちの内に霊的におられる。」

70. しかし、もしあなたがたが眠りにつき、霊的にならなければ、私が自分の言葉を撤回したことを否定することになるだろう。そして、神を冒涜し、不従

順な者となって、人々の群れの上に私の光線を呼び下ろし、彼らにこう言うだろう。「私たちに御言葉をくださったあの方に、これからも私たちに語りかけてくださるよう願いましょう。我々は、彼が我々の祈りに耳を傾けてくださるよう、彼に歌と賛美を捧げよう。」

71. しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの光はもはや人間の知性には戻らない。なぜなら、わたしはあなたがたの愚かさを助長することはないからだ。

72. あなたがたは何を期待していたのか。見せかけの光の言葉が、あなたがたを混乱に陥れることか。あなたの心はそれを望まないのか。ならば、その試練に備えよ。そうすれば、あなたがたの従順と謙虚さの上に、わが霊感の光が降り注ぐであろう。

73. 私はあなたがたに告げる。もし1950年までに、これらの共同体が一つの民として結ばれないならば、まもなく混乱が支配することになるだろう。なぜなら、主が においてなおも御自身を現していると主張する者たちが現れるからであり、そうなれば、その民は悲惨なことになるだろう！あなたがたは、この脅威をまだ予感していないのか？

74. あなた方の間には、いまだに兄弟愛と一致の精神が芽生えておらず、あなた方は、出来事こそがあなた方を一つにするものだと期待している。 しかし、もしあなたがたがそれを期待するなら、その代わりに、疫病、混乱、戦争、そして自然の力の裁きが勃発し、地上にも、地中にも、海にも、空にも、この世に平和な場所が一つも残らなくなるのを経験することになるだろう。（146, 24-26）

75. あなたがたは備えをなすべきである。そうすれば、あなたがたが集まるたびに――それがこれらの集会所であろうと、ご自宅であろうと、あるいは大自然の中であろうと――その集まりにおいて、霊的に私の臨在を感じることになるだろう。

76. しかし、警戒せよ。偽りの弟子たちも現れるだろう。彼らは、自分たちが父と直接対話していると大々的に宣伝し、誤った指示や霊感をもたらす者たちである。

77. わたしは、あなたがたに、真実と欺瞞を見分け、その実によって木を見分けるよう教えた。（260, 65-66）

78. わたしは、多くの「スピリチュアリズム」が現れる時が来ることを、また、その時、どれが真実に基づき、どれが欺瞞に基づいているかを見分けるよう、あなたがたは訓練されなければならないことを、あらかじめ告げておいた。

79. あなたがたは、私に帰せられる偽りの宣言が現れるのを見ることになるだろう。世界へメッセージをもたらすという神の

使者の噂、七つの封印の名を冠した宗派、そして多くの混乱した曖昧な教えが現れるだろう。
80. これらすべては、人類が招いた大きな霊的混乱の結果となるだろう。 しかし、心配するな。むしろ、目覚めて祈りながら生きるよう心がけなさい。そうすれば、あなたがたは霊的な混乱に屈することはない。なぜなら、最も深い闇の瞬間において、わたしの言葉は光となり、わたしの水晶のように澄み切った永遠の真理をあなたがたに見せてくれるからである。（252, 15-17）

悪徳、偽善、堕落

81. 虚栄心は、真理を完全に理解したと自負し、学識があり、強く、誤りなく、偉大で、絶対的であると自らを過信し、しばしば誤りを犯していることに気づかない者たちの心に巣食っている。
82. 私は、これらの教えの光の下で形成され始めたばかりのこの民の中に、明日、虚栄心に惑わされて、自分たちがキリストの転生であるとか、新しいメシアであるとかと吹聴する人々が現れることを望まない。
83. そのような行いをするのは、私の真理のすべてを理解したと思い込んでいる者たちであるが、実際には、キリストによって示された道、すなわち謙遜の道から遠く離れているのである。
84. 地上のイエスの生涯を研究しなさい。そうすれば、謙遜についての深く、忘れがたい教えを見出すだろう。（27, 3-6）
85. 最も深刻な性格上の欠陥の一つは、偽善である。あなたがたが、隣人の中に私を愛することができない限り、愛について大声で語るな。
86. ユダの接吻を非難した者たちのうち、どれほど多くの者が、自分たちが兄弟に偽りの兄弟愛の接吻を与え、背後で彼を裏切っていたことを認めようとしないことか！ 困窮者に奉仕していると言う者たちのうち、どれほど多くの者が、金銭と引き換えに光、真理、慈善をもたらしているのを、私は見ていることか。
87. なぜ、誰かが質問であなたたちを威圧したとき、ペトロが弱さの瞬間にしたように、私を否み、私を知らなかったと断言するのですか。なぜ、人間の裁きを恐れ、私の裁きを恐れないのですか。
88. しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。神の正義とあなたがたの罪との間には、常にあなたがたのために祈り続ける、あなたがたの天の母マリアの執り成しが立ちはだかるのである。（75, 34）
89. 誰も、他人の行いを裁く権利はない。なぜなら、清い者でさえそうしないのだから――それならば、心に汚点を持つ者が

、どうしてそれを許されるだろうか。

90. 私がこう言うのは、あなたがたが常に兄弟の種を探り、そこに欠点を見つけ出して、自分の種を見せつけ、自分の働きの方がより純粋で完全だと告げて彼を辱めようとしているからだ。

91. あなたがたの行いを秤にかけることを知る唯一の裁き主は、天に住まわれるあなたがたの父である。彼がその秤を持って現れたとき、彼の目には、より多くを理解する者がより大きな功績を持つのではなく、同胞の兄弟であり、主の子であることを理解した者が功績を持つことになる。（131, 55 57）

92. 学び、行動し、教え、その際、自分の行いや言葉に留意し、その行いによって私の教えを裏付けなさい。私は弟子の中に偽善者を望まない。 もし、これほど多くの愛と忍耐をもって築かれたこの業が、あなた方の生活における道徳、徳、誠実さの欠如によって崩壊してしまったら、人類とあなた方自身はどうなってしまうか、よく考えてみなさい。（165, 25）

93. もはや、この世の快楽や軽薄な事柄を追いかけてはならない。あなた方の生涯を通じて、私はあなた方の心に励みとなる満足を与えていくのだから、あなた方の生活を非の打ち所のないものにするという理想に従いなさい。（111, 61）

94. もし、あなたがたの魂にある美徳よりも邪悪な傾向の方が優勢となり、私の教えが実を結ばないならば、あなたがたは悲惨なことになるだろう。もしあなたがたが私の言葉を熟考し、深く探求することなく、それで私の意志を果たしていると思い込んでいるなら、私の光があなたがたを目覚めさせるだろう。しかし、あなたがたが全き真理を悟るとき、私があなたがたをこの世に遣わしたのは、善行を行うためであったことを思い出すだろう。（55, 6）

95. この時代に、その不品行と不従順によって、私が霊的な使命を帯びて地上に遣わした子供たちに悪い手本を示している者たちよ、災いあれ！ あなたがたは、叫び声と嘲笑の中でイエスをゴルゴタへと導き、祝福を授けるだけの人をなぜ拷問し殺すのか理解できない子供たちの心に恐怖を植え付けた群衆のようになりたいのか。

96. イエスが倒れるたびに、あの無垢な子供たちは泣いた。しかし、まことに、あなたがたに告げる。彼らの涙は、肉よりもむしろ霊から湧き出たものだった。彼らのうち、どれほど多くの者が後に私に従い、私を愛したか。彼らの無垢な目が見てしまったあの光景の記憶が、彼らの心から消し去られることはなかったのだ。（69, 50-51）

誤った悔い改めと誤った期待

97. 誤って理解された悔い改めを行うことには気をつけ、自分の体に必要なものを奪ってはならない。それどころか、たとえそれが自分にとって犠牲を伴うとしても、体に有害なものは避けるようにしなさい。これこそが、あなたの魂に役立つ悔い改めであり、それゆえに父の御心に適うものである。（55, 40）

98. あなたがたはすでに、神を裁き主というよりは、完全で尽きることのない愛に満ちた父として見ている。そして、神を父として見ることは良いことだと、私はあなたがたに告げる。

99. それでもなお、あなたがたを油断させないために、私はこう言わなければならない。すなわち、あの昔の民のように、あなたがたもまた新たな過ちに陥る可能性があるということだ。その過ちとは、道徳的・精神的に自らを向上させようと努力しないこと、あるいは、父はとりわけ愛そのものであり、必ず赦してくださるという信頼のもと、絶えず重く罪を犯していることについて何の心配も抱かないことにある。

100. 確かに、神は愛であり、どんなに重い罪であっても、神が赦さないものなどない。しかし、あなたがたは、この神の愛から、容赦のない正義が湧き出ていることを、はっきりと知っておくべきである。

101. あなたがたが私の教えとして心に受け入れたものが真理にかなうものであり、あなたがたの中に存在するかもしれないあらゆる誤った考えを打ち砕くことができるよう、これらすべてを自覚しておきなさい。

102. 父の愛はあなた方を赦してはくれるが、赦しにもかかわらず、その汚点はあなた方の魂に刻み込まれたままであり、あなた方は功績によってそれを洗い流さなければならないこと、そしてそうして初めて、あなた方を赦してくださった愛にふさわしくなることを忘れてはならない。（293, 43-44）

103. ある声があなた方を目覚めさせた。それは、光と命の御国へとあなた方を招く、慈愛に満ち、慰めを与える声である。しかし、もしあなた方が、引き続き自分の魂を貶め、律法を無視することを選ぶならば、その声は正義へと変わることもある。

104. 従順で謙虚な者たちよ、私の言葉はこう告げる。「堅く立ち続けよ。そうすれば、あなたは私の恵みを多く受け、兄弟姉妹のために多くのことを成し遂げることになるだろう。」

105. 愚かな者たちよ、わが声はこう告げる。もしあなたがたが、この祝福された機会を利用して、罪の汚れや、あなたがたが生きている無知の闇から逃れようとしないならば、主がその御言葉の中で何を伝えられたの

か、また主が御民に啓示された霊の賜物が何であったのかを知ることもなく、時代が過ぎ去っていくのを見ることになるだろう。

106. 確かに、すべての者にとって、自らを救い、高みへと舞い上がるのにふさわしい時は訪れる。 しかし、その日を先延ばしにする者は、ああ、哀れな者だ！この世の虚無に没頭したために、魂の成長を遂げる機会を逃した者は、ああ、哀れな者だ！彼は、新たな機会を待つまでにどれほどの時が経つのかを知らず、また、その償いの苦しみも知らないのだ。

107. そこには、父からのわずかな報復も、最も穏やかな罰も存在しない。あるのは、父の厳格で容赦のない正義のみである。

108. 私が今、あなたがたの中に身を置いているこの時、あなたがたは、かつての機会をすでに逃したり、無駄にしたりしていないか、また、あなたがたの魂が、はるか昔に託された使命を果たすためのこの新たな機会を得るために、どれほどの時を待ち続けてきたかを知っているだろうか？

109. あなたの心や理性は、その魂の過去、その運命、負債、課題、そして贖罪について、何を知っているというのか。何も知らないのだ！

110. それゆえ、あなたは魂の完成を中断してはならず、また、この世の富への愛によって魂を誘惑してはならない。魂は、別の道、別の目標、別の理想に従わなければならない。（279, 16-19）

地上の諸国民と権力者たちへの警告

111. 人々の心の中に、ついに慈悲と実践的な隣人愛が芽生えなければ、彼らには災いがある！人々が、ついに自らの悪行を完全に認識しなければ、彼らには災いがある！彼ら自身の手が、自然の力の怒りを解き放ち、諸国民の上に苦痛と苦悩の杯を注ごうとしているのだ。 たとえ自らの行いの結果を として刈り取ることになっても、なお「これは神の罰だ」と言う者さえいるだろう。（57, 82）

112. 偶像崇拝、狂信、そして伝統に頑なに固執する民よ、災いあれ！彼らは私の光を見ることもできず、魂の目覚めがもたらす限りない至福を感じることもないだろう。

113. 確かに、私の教えは世界を震撼させるだろう。しかし、戦いが終われば、地上には真の平和が訪れるだろう――それは私の霊から湧き出る平和である。愚かな者、頑固な者、そして心硬い者たちだけが、引き続き苦しむことになる。（272, 12-13）

114. 私は、戦争を煽ろうとする者たち――すなわち、人々の

頑なな心の中に、自らを現す。それは、私の意志が彼らの好戦的な意図よりも強いことを彼らに悟らせるためである。もし、そのような者たちの心が依然として頑なで、私の意志によって改心しないならば、私の正義は地球全体に感じられるようになるだろう。（340, 33）

115. ノアの時代と同様に、人々は預言を嘲笑するだろう。そして、大洪水がすでに彼らの体を飲み込もうとしているのを感じたときになって初めて、彼らは信じ始め、悔い改め始めるのである。

116. わたしの憐れみは、あなたがたが軽率な行いに走るたびに、常にそれを止めようとしたが、あなたがたは決してわたしの言葉に耳を傾けようとしなかった。ソドムとゴモラもまた、恐れと悔い改めを感じ、滅亡を免れるよう警告された。しかし、彼らはわたしの声に耳を傾けようとはせず、滅びてしまった。

117. エルサレムに対しても、私は祈り、真の神への礼拝に立ち返るよう促した。しかし、その不信仰で肉欲に満ちた心は、私の父なる者の戒めを拒み、出来事を通じて真理を悟らざるを得なかった。あの日々は、エルサレムにとってなんと苦いものであったことか！

118. さて、あなたがたは、今もなおかつてと変わらぬままであるという真実を悟るだろうか。なぜなら、あなたがたは、成長し、私の言葉に宿る知恵の道を歩んで高みへと登るために、霊的な幼さから抜け出そうとはしなかったからだ。

119. わたしは、諸民族と諸国が目を覚まし、警戒するために、預言として役立つこのメッセージを、あなたがたすべてに送る。その内容を信じるなら、あなたがたは幸いである。

120. その真意について熟考しなさい。しかし、その後、目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、あなたがたが安全に至るまで、内なる光が導き、より高い力が守ってくれるだろう。（325, 73-77）

第62章 - メキシコにいる聴衆への言葉

メキシコにいる聴衆への言葉

1. 弟子たちよ、内面に向き合い、かつてのように私を聞き、感じなさい。この言葉こそがあなた方の命であり、運命の光であると認めたことを思い出してください。今日、私があなた方に告げることを忘れないでください。あなた方に必要なものは、時が来れば与えられるのです。

2. 信仰と知識の炎が再び燃え上がるよう、ランプに新たな油を注ぎなさい。

3. 眠ってはならない。目を覚まし、祈りなさい。かつてのよ

うに、主があなたがたの住まいに入られる時、あなたがたを驚かせるかもしれないからだ。それは、あなたがたが歩む一歩一歩に私の臨在を感じていた、あの霊的な熱意に満ちた日々のように。

4. そうすれば、あなたがたは、気づかないうちに照らすことをやめてしまったあの光が、再びあなたの人生を照らすのを見るだろう。そして、それは、豊かさと知恵に満ちた未来への信頼を、あなたに取り戻してくれるだろう。（4, 27-29）

5. あなた方の多くは、私が人間の知性を通じて啓示を行う際の私の臨在を信じ、また私の言葉を聞くためにしばしばその場に居合わせるため、自らをスピリチュアリストと呼んでいる。しかし、私はあなたがたが、善を実践すること、人生の本質を悟ること、隣人への愛、そして寛大で実り豊かで徳のある生き方による神への奉仕を通じて、スピリチュアリストとなることを望んでいる。（269, 55）

6. ある者たちには、彼らが人生において師を模範とするようにと、この世で謙虚な生い立ちを与えた。また、他の者たちには、王でありながらその「王座」を捨て、貧しい者、病める者、罪人たちに仕えたイエスに倣うようにと、豊かな家庭を与えた。

7. 社会的地位を捨てて、隣人である者たち、それが誰であれ、その奉仕に身を捧げる者の功績は、愛の道を歩み、貧しく無名の生活から義人の高みへと昇りつめる者の功績と等しく偉大である。（101, 55-56）

8. あなたがたは、なぜ私があなたがたのところに来たのかと問う。それは、あなたがたが、自分たちが生まれた母胎へと帰還すべき道を忘れてしまったのを見るからである。しかし、私はその道を再びあなたがたに示す。

9. その道こそが私の律法であり、それに従うことによって、魂は不死を得るであろう。私は、かつて私の教えをもってあなたがたに示した道と同じく狭い門を、今、あなたがたに示す。（79, 2-3）

10. わたしに耳を傾けるあなたがたは、霊的にわたしを受け入れる者たちのための道を整えるべきである。わたしの教えを受けた者たちをわたしの御前に導いたのは偶然ではなかったのと同様に、人間の声の媒体を必要とせずに、わたしの な御存在を感じるべき者たちの中に霊的な賜物を育むのも、偶然ではないのである。（80, 4）

11. わたしは、あなたがたを、真の霊性である善を地上に広める者とするよう定めた。

12. 自分たちは無力すぎて取るに足らない存在だと感じているのか。このような使命を自らの魂に負うには、自分たちは不浄すぎると考えているのか。その

理由は、あなたがたが私の知恵と慈悲を知らず、私が自然の中で一歩一歩与えている教えの模範を、曇りのない心で観察していないからである。

13. 太陽の光線が、すべてを照らし出し、最も汚れた水たまりにさえ届き、それを蒸発させ、大気中に昇らせ、浄化し、ついには雲へと変え、その雲が大地を覆い、大地を肥沃にする様子が見えないのか。（150, 51-53）

14. ここ、私の御前で、あなたがたの魂からあらゆる不純物を取り除き、それを解き放ちなさい。恐れることはない。あなたがたは私に秘密を明かすわけではないのだから。私はあなたがた自身よりも、あなたがたをよく知っている。心の奥底から私に告白しなさい。私は誰よりもあなたがたを理解し、あなたがたの律法違反と罪を赦す。なぜなら、あなたがたを裁くことができるのは、私だけだからである。

15. しかし、もしあなたがたが父と和解し、その内なる存在の中で、あなたがたの霊が奏でる勝利の賛歌を聞くならば、平安のうちに私の食卓に着き、私の言葉の意味に込められた霊の糧を食べ、飲みなさい。（39, 71）

16. あなたがたの多くは、苦痛を呪った後、泣きながら私のところへやって来る。私は、それらがあなたがたの無知に起因するものであることを考慮し、あなたがたの過ちを赦す。

17. 心をお静めになり、理解する準備を整えて、私が今、あなた方に語ることを悟りなさい、人生の弟子たちよ。もし再び、心が痛みに貫かれるのを感じたら、周囲のあらゆるものから少しの間離れ、一人になりなさい。 そこで、寝室という親しみ深い場所で、自分の魂と語り合い、その痛みを手に取り、あたかも何かの物体を手に取って調べるかのように、それを探求しなさい。

18. このようにして、その悲しみを掘り下げ、それがどこから来て、なぜ訪れたのかを見極めなさい。御霊の声を聞きなさい。まことに、あなたがたに告げる。その内省から、あなたがたの心のために、光と平安という宝を引き出すことになるだろう。

19. 光は、その痛みを取り除く方法をあなたに示し、平安は、試練が終わるまで耐え抜く力をあなたに与えるだろう。（286, 26-28）

20. あなたがたは、精神的にも肉体的にも強靭であるよう、引き続き努めなければならない。なぜなら、今日に至るまであなたがたの中に病があるのは、 霊性への目覚めと信仰の欠如ゆえに、この人生の悲惨さと苦痛を超越することができなかったからである。

21. 私の教えは、単に神の力への信仰を持つことだけでなく、自分自身への信仰を持つべきであることを教えている。（246, 40 41）

22. 今日、あなたがたは「神は我々の内にいる」と言うが、それを感じも理解もせずに言っている。なぜなら、あなたがたの物質化が、あなたがたの本質における私の存在を感じ取ることを妨げているからだ。しかし、一度霊性があなたがたの生活の一部となれば、あなたがたはすべての人の中に私の存在があるという真実を知るだろう。 私の声は良心に響き渡り、内なる審判者の声が聞こえ、父の温もりが感じられるようになるだろう。（265, 57）

23. この教えは、改善への決意と高潔な感情が生まれた、あなた方の心に届く。

24. もしあなたがたが、私に心の扉を開く準備ができるまで、多くの苦しみを味わい、涙を流したのなら――まことに、私はあなたがたに告げる。多くの苦しみを味わった者は、それによって同時に自らの過ちを償い、赦しを得るであろう。（9, 37-38）

25. わが民よ、あなたがたは悔い改めた心の中で主の愛を感じているがゆえに泣いているのだ。かつて、魂に重い罪を抱いて父の前に出る者は、赦しを得ることはなく、永遠の破滅に苦しむことになる、と教えられてきた。

26. しかし、どうしてあなたがたは、わたしの神聖な正義をそれほど恐ろしいものと捉えることができたのか。わたしがイエスを通して、最も罪深い者たちに対してこそ、最も優しい言葉と最も慈愛に満ちた眼差しを向けていたことを、気づかなかったのか。どうしてわたしが、この世で一つの教えを説きながら、永遠においてはその反対のことをするだろうか。（27, 41）

27. 人生における苦しく困難な瞬間に、私の賢明で完全な律法がすべてを裁くという考えをもって、慰めを見出してください。

28. 私は、あなたがたがその痛みを通して私を求めるようにと、あなたがたの苦しみの中にいた。私は、あなたがたが願い求め、謙虚になり、他者を理解することを学ぶようにと、貧しさをもってあなたがたを訪ねた。

29. 私は、あなたがたに日々の糧さえも与えなかった。それは、信頼を保ち続ける者は、明日のことを心配しない鳥たちのようであることを示すためである。彼らは、私の臨在の象徴として夜明けの光が昇るのを見、目覚めるとすぐに、感謝の祈りとして、また信頼の証として、さえずりを天へと捧げるのである。（5, 55-57）

30. 時折、あなたがたは私にこう言う。「主よ、もし私がすべ

てを持ち、何一つ欠けることがなければ、私はあなたの霊的な業に協力し、慈善を行うでしょう。」しかし、あなたがたは人間として気まぐれであり、今、何も持たないあなたがたの今日の決意は、もし私があなたがたの望むすべてを授けたならば、変わってしまうだろうということを知っておきなさい。

31. 神の子供たちに対する神の愛だけが、決して変わることのないものである。

32. もし私があなた方に豊かに恵みを与えたならば、あなた方は滅びてしまうだろうと、私はあらかじめ知っている。なぜなら、私はあなた方の決断と弱さを知っているからだ。（9, 55-57）

33. 私があなたがたに快楽を控えるよう言ったとき、あなたがたは私の言葉を誤って解釈し、ついには、私があなたがたが喜ぶのを見るよりも苦しむのを見るほうが喜ばれるのだと考えた。

34. 私はあなたがたの父である。それなのに、どうして私が、あなたがたが笑うのを見るよりも泣くのを見ることを好むなどと思うことができるのか。

35. 私があなたがたに快楽を控えるよう言ったとき、私が意味したのは、魂を堕落させたり、身体に害を及ぼすようなものだけだった。しかし、私は、あなたがたが精神と心のために、自分たちの手の届く範囲で、有益な満足を得るべきだと言う。（303, 27）

36. あなたがたがここへたどり着いた時、私はあなたがたに私を信じるよう求めたことさえなかった。私が先回りして、あなたがたの肉体の病を癒し、魂に平安を与え、あるいはあなたがたが手の届かないと思っていたものを与えることで、証拠を示したのは私であった。

37. その後、あなたがたが私を信じ、信仰をもって私の律法の成就に専心したとき、私は一人ひとりにその役割を示した。それは、彼らが道から迷い出ることなく、自分にふさわしいものだけを引き受け、私があなたがたにしたように、兄弟姉妹に慈悲と愛を注ぐためである。

38. 教えを説く者すべてが師であるとお考えか。神の僕と名乗る者すべてが、私の使徒であるとか、私が彼らにその務めを与えたとお考えか。世の中で支配し、統治し、命令を下す者すべてが、その務めを果たすために必要な資質を備えているとお考えか。 いいえ、民よ！ 真に託された使命を遂行している者は、いかに少ないことか！ ある者たちが、自分たちにふさわしくない地位を強引に奪い取る一方で、本来その地位に就くべき者たちは、貶められ、後回しにされているのだ。（76, 36-37）

39. 誰かがこの啓示における私の臨在を信じないとしても、私が傷つくなどと思ってはならな

い。なぜなら、私の真理は決して損なわれることはないからだ。宇宙のあらゆる奇跡を創造した神聖な存在が存在することを疑った人々は数多いが、それにもかかわらず、太陽は彼らに光を注ぐことをやめたわけではない。（88, 7）

40. 今日、あなたがたは、私の教えの光に、心と知性の扉を開いている。どのような行いをもって、私を賛美するつもりなのか。

41. あなたがたは皆、沈黙している。魂も、そして肉体も、私の前では沈黙している。あなたがたは首を垂れ、自らを卑しめている。しかし、私は子供たちが私の前で自らを卑しめることを望まない。私は、彼らが顔を上げ、私の顔を見上げるにふさわしい者となることを望む。なぜなら、私はしもべも奴隷も求めてはいないからだ。 私は、追放された者、見捨てられた者と感じるような被造物を求めてはいない。私は、深く愛する子供たちの元へやって来る。それは、彼らが父の声を聞くとき、 、魂を霊的な向上への道へと高めるためである。（130, 39-40）

42. 愛する弟子たちよ、私の業を熱心に守り、私の指示に従いなさい。そうすれば、それによってあなたがたは私について証しをすることになる。 マリア、あなたがたの慈愛に満ちた母もまた、あなたがたの元へ降りてきて、あなたがたを恵みで満たし、完全な愛を教え、あなたがたの心を慈悲の泉へと変え、あなたがたが隣人の中で偉大な愛の業を成し遂げ、真理を悟ることができるようにする。彼女は私の協力者であり、師であり裁き主である私の言葉の傍らには、母であり執り成し手である彼女の言葉がある。 民よ、彼女を愛し、その名を呼び求めなさい。まことに、わたしはあなたがたに告げる。マリアは、この試練の日々だけでなく、永遠に、あなたがたを見守り、支えてくれるのである。（60, 24）

43. わたしはあなたがたを「マリアの民」と呼んだ。それは、あなたがたが神の母を愛し、認め、慈しみを求める子供のように、あるいは執り成しを求める罪人のように、彼女の元へやって来ることを知っているからである。

44. 世におけるマリアの現存は、私が人々を愛していることの証である。彼女の清らかさは、あなたがたに明らかにされた天の奇跡である。彼女は私から地上に降りてきて、女となり、その胎内で神の種が芽生えるようにした。それはイエスの体であり、それを通して「御言葉」が語られることになるのである。現代において、彼女は再び自らを現している。（5, 9-10）

45. 人間の心は、彼女の霊が世界に運んだ尊いメッセージを根本から知る必要がある。そして、あなたがたが全き真理を知っ

た後、彼女に捧げてきたあらゆる偶像的かつ熱狂的な崇拝を心から消し去り、その代わりに霊的な愛を彼女に捧げるべきである。（140, 43）

46. ある者たちは私にこう言う。「主よ、なぜ、あなたを見たと証言する兄弟姉妹たちのように、私たち全員があなたを見ることを許してくださらないのですか？」

47. ああ、見ることでしか信じられない、弱き心を持つ者たちよ！ 愛と信仰と感性によって、あなたがたの霊は私の神聖な本質を無限かつ完全に知覚できるにもかかわらず、なぜ幻視の中で人間の姿をしたイエスを見ることに、何の功徳を見出すのか。

48. 霊的なものを形や象徴として限定的に見る賜物を持つ者たちを羨むことは、あなたがたにとって悪しき行いである。なぜなら、彼らが目にするものは、厳密に言えば神聖なものではなく、霊界から彼らに語りかける象徴や寓話に過ぎないからである。

49. あなたがたは、自らの賜物に満足し、受け取る証しを深く探求し、常にその真意、光、教え、真理を求めなさい。（173、28-30）

50. 決して私の教えを歪めてはならない。私の業を、純粋さのみを含む一冊の本として提示しなさい。そうすれば、あなたがたが歩みを終えた時、私は あなたがたを迎えよう。 私はあなたがたの魂の汚れには目を向けず、神聖な口づけを与えるであろう。それは、あなたがたが約束の地に着いたとき、最大の報いとなるであろう。なぜなら、私はこの時代に、あなたがたに一握りの種を与えたのだ。それは、あなたがたが肥沃な畑に種を蒔き、そこでそれを増やしていくことを学ぶためである。（5, 27）

51. 愛する民よ、自分の責任を吟味しなさい。あなたがたが一日を無駄にすることは、この福音が同胞の心に届くのを一日遅らせることであると心に留めなさい。また、あなたがたが一つ教えを失うことは、困窮している人々に差し出すことのできるパンが一つ減ることであると。（121, 40）

52. あなたがたはすでに、この木の果実の味を知っている。私は、将来、あなたがたが偽預言者に惑わされないよう警告する。しかし、あなたがたは、隣人に対しても、私の教えの本質を彼らに悟らせることによって、「見張る」べきである。

53. 書かれている通り、私が去った後、偽預言者たちが現れ、私の民に、自分たちは私の使者であり、私の名において、私があなたがたの間で成し遂げた業を継続するために来たのだと言うだろう。

54. もしあなたがたが偽預言者や偽教師にひれ伏したり、ある

いは私の教えに霊的な実体のない言葉を混ぜ合わせたりすれば、ああ、あなたがたは悲惨なことになる。なぜなら、そうなれば大きな混乱が生じるからだ！それゆえ、私は繰り返しあなたがたに言う。「目を覚まし、祈りなさい。」（112, 46-47）

55. もしあなたがたが備えをしなければ、曖昧な声があなたがたの耳に届き、あなたがたを惑わすだろう。そして後になって、あなたがたはそのことで兄弟たちを惑わすことになる。

56. わたしがあなたがたに警戒を促すのは、これらの啓示が終わった後、あなたがたがそれを再び受け入れようとはしないためである。なぜなら、現れるのは光の霊ではなく、あなたがたが以前に築き上げたものを破壊しようとする、混乱した存在たちだからである。

57. それに対して、備えを知る者、すなわち、目立とうとするのではなく役に立とうとする者、出来事を急ごうとするのではなく忍耐強く待つ者は、その内に宿る賜物、すなわち霊感、直感、 予感といった賜物を通じて、祈り、霊的な洞察、そして預言的な夢によって、その精神に届くであろう。（7, 13-14）

58. 今日、あなたがたは、恍惚とした状態で語りかけるこれらの声の伝達者たちを見つめている。そして、たとえ一部の者の不信仰がいかに大きかろうとも、あなたがたは、これらの伝達者たちを通して私の啓示が可能であると信じている。しかし、かつて人々が、私の弟子たちが平常の状態で神の啓示を告げているのを見れば、彼らは彼らを疑うようになるだろう。

59. あなたがたの教会の中でも、私が霊感を与えて語っているのを聞いて疑う者たちが現れるだろう。そして、あなたがたは信仰を見出すために、大きな な準備と魂の清らかさを備えていなければならない。（316, 52-53）

60. あなたがたが歩む道において、その行いや考え方が、わたしの啓示に対して霊的な未熟さを示している人々を見かけたとしても、動揺してはならない。なぜなら、すべての人々が同じ歩調で進んできたわけではないことを知らなければならないからだ。時が来れば、彼らを目覚めさせる言葉を、わたしはすでに彼らのために残しているのだと信頼しなさい。

61. あなたがたが現在理解できないその言葉こそが、まさに彼らには理解できるものとなるのだ。（104、42-43）

62. 狂信的にならずに信じ、行動せよ。立ち上がり、あらゆる教義や偏見なしに、すべての同胞を導くことができる高みに身を置け。信仰告白

63. たとえその人が、未熟で不完全な神への崇拝を実践しているからといって、困っている人に善行を行うことを躊躇しては

ならない。むしろ、あなたの無私の行いがその人の心を勝ち取るべきである。

64. 集団に閉じこもって、それによって活動範囲を狭めてはならない。あらゆる魂にとっての光となり、あらゆる苦難における癒やしとなれ。（60, 27）

65. もしあなたがたが私の呼びかけに従ったために、周囲の人々が軽蔑してあなたたちのことを語るなら、耳を塞ぎ、沈黙を守りなさい。彼らは無知なのだ。しかし、もしあなたがたがこのことを理由にして彼らを裁こうとするなら、災いあれ。なぜなら、あなたがたはすでに御霊の光に照らされており、自分が何をしているかを知っているのだから。（141, 27）

66. さて、わが民よ、すべての人々があなた方と同じように考え、信じることを求めてはならない。決して人々を非難してはならない。また、あなた方の言葉に耳を傾けず、あなた方の提案や教え、助言を受け入れない者に対して、裁きを下したり、罰を与えたりしてはならない。あなたがたは、すべての同胞を、同じ深い敬意と、真の霊的な隣人愛をもって見なければならない。 そうすれば、あなたがたは、誰もがそれぞれの宗教的実践、教え、そして歩みにおいて、その霊的能力によって与えられた権利に応じた場所に到達していることを知るだろう。そして、あなたがたが人々を見るその地点こそ、彼ら自身の成長が導いた場所なのだ。（330, 29）

67. 私は今、あなたがたに告げる。あなたがたは誰よりも優れているわけではない。あなたがたが抱いてきた、すなわち「選ばれた存在の民である」という信仰は誤りである。なぜなら、すべての被造物に対する完全な愛を持つ創造主は、誰をも特別に優遇することはないからである。

68. 私がこう言うのは、明日、あなたがたが同胞たちに、この時代に私が伝えた教えを説くことになるからである。私は、あなたがたが後世の人々の前で高位の存在として映ることを望まないし、また、あなたがたが私の言葉を聞く唯一の存在となるにふさわしい功績を積んだかのような印象を与えることも望まないのだ。 69. あなたがたは、理解力があり、謙虚で、質素で、気高く、慈悲深い兄弟姉妹でなければならない。

70. あなたがたは強くあれ、しかし傲慢であってはならない。そうしてこそ、弱い者たちを辱めることがない。もしあなたがたが私の教えについて深い知識を持っているとしても、決してその知識を誇ってはならない。そうしてこそ、あなたがたの隣にいる人々が、自分たちは劣っていると感じることがないのだ。（75, 17-19）

71. ここ、私の働き手たちの間ですら――私の教えを理解する

ことなく、霊的な賜物を受けたと自認しただけで、自分たちを崇拝や称賛に値する高次の存在だと見なしていた者が、どれほど多くいることか。 これについて、私はあなた方に問う。高位の霊が、その賜物を誇りに思うことを、あなた方は是認できるだろうか。謙虚さと隣人愛こそが、その霊が備えていなければならない本質的な資質であるにもかかわらず。（98, 15）

72. 私がかつてこう言ったことを思い出してほしい。「私は、あなたがたを寄生植物のような存在にするために創造したのではない」。私は、あなたがたが単に誰にも悪事を働かないということに満足することを望んでいない。私は、あなたがたが善行を行ったことに満足を見出すことを望んでいる。 善を行う能力があるにもかかわらず行わない者は、善を行う能力がなく、自分には悪を行うことしかできないと悟り、それだけに留まった者よりも、さらに多くの悪を行ったことになる。（153, 71）

73. ああ、わが愛しき子らよ、迷い羊のように嘆き、恐る恐る声をあげて羊飼いを呼ぶ者たちよ！もしあなたがたが、自分たちを取り巻く現実から目を背けるならば、ついには、この地上のあらゆる苦難の原因は私にあると思い込むようになるだろう。また、他の人々は、私が彼らの幸福や不幸に無関心であると信じ込むだろう。

74. あなたがたは、このように父について考えるとは、なんと恩知らずなことか。そして、わたしの完全なる正義を判断するにあたり、なんと不当なことか！

75. あなたがたは、自分たちが苦しみだけを糧としている、住んでいる世界は幸福のない世界であり、送っている人生には生きる価値がない、と口にする時、私がそれを聞いていないと思うのか。

76. あなたがたは、私があなたがたを懲らしめている、私があなたがたにあらゆる憐れみを拒んでいると信じる時だけ、私を感じ、父の優しさと慈愛を忘れてしまう。あなたがたは、その恵みを祝福する代わりに、自分の人生について嘆いているのだ。

77. それは、あなたがたが真実から目を背け、周囲に苦しみと涙しか見ず、すべてが報われぬまま終わると思い込んで絶望に陥っているからである。

78. もし、この反抗や無理解の代わりに、毎日、まず父を祝福することを第一に考え、その愛がもたらす数多くの恵みに対して感謝の言葉から一日を始めるとしたら、あなた方の生活はどれほど異なるものになるだろうか。

79. しかし、あなたがたはもはやこれらの美徳を感じることができない。なぜなら、「肉」があなたがたの魂を乱し、あなた

がたはわたしの教えを忘れてしまったからだ。それゆえ、わたしはあなたがたが心から追い出したこれらの感情について、あなたがたに語りかけるのである。（11，4-9）

80. あなたがたは罪を犯し、結婚の誓いを破り、犯罪を犯した。そして今、あなたがたの過ちを指摘するわたしの言葉の真理に直面すると、その過ちを忘れ、主が試練や贖罪について語られるとき、主は不公正であると信じている。（17，33）

81. 愛する弟子たちよ、あなたがたは多くの試練にさらされてきた。あらゆる試練には秘密が隠されているため、それが戦いのためにあなたがたを強めるためなのか、あなたがたが知らない何かを明らかにするためなのか、あるいは何らかの過ちを償うためなのか、あなたがたには分からない。 しかし、決して試練から逃げ出してはならない。それらはそのような目的で送られたものではないし、また、それらはあなたがたの道徳的あるいは精神的な力を超えるものでもないからだ。（47，26）

82. なぜ、あなた方の多くは、自分の運命が、試練や苦痛、罰、あるいは不幸によって、わたしによって定められているのではないかと恐れるのか。あなた方を完全に愛しておられる方が、とげだらけの道をあなた方に与えるなどという考えに、どうして至ることができるのか。 まことに、私はあなたに告げる。不吉で、運命の打撃が散りばめられた道とは、あなたがたが自らの意志で選ぶ道である。その道には喜び、自由、至福が見出せると考え、真の平和、安全、力、健康、幸福、そして豊かさが存在する、まさにあなたに定められた道から遠ざかっていることに気づかずにいるのだ。

83. 私が教えの中であなたがたに提示するこの道こそ、あなたがたの魂が創造された時からあらかじめ定められていた道であり、その道の上で、あなたがたはついに切望するものを発見するのだ。（283，10-11）

84. あなたがたは、まるで子供であるかのように表面的に判断し、自分たちを苦しめる試練が、自分たちの行いの結果であることを顧みない。それゆえ、それらがあなたたちに降りかかると、あなたたちはそれが去ることを願い、苦しまずに済むよう、もはや苦難の杯を飲み干さなくて済むよう、運命が変わることを望むのである。

85. その理由は、あなたがたが霊的な眼差しをもって現実を深く見通すことができず、あなたがたが刈り取るものはすべて、あなたがた自身が蒔いたものであり、あらゆる苦しみはあなたがた自身が招いたものであることを理解できないからである。

86. いいえ、あなたがたは真実を深く理解することが一度もなかった。それゆえ、痛みが心に

突き刺さると、自分たちを神の不正の犠牲者だと考える。しかし、私はあなたがたに告げる。神の中に、ほんのわずかな不正さえも存在し得ないのだ。

87. 神の愛は不変であり、揺るぎなく、永遠である。それゆえ、神聖な御霊が怒りや憤り、激怒に駆られることがあると信じる者は、大きな誤りに陥っている。そのような弱さは、魂の成熟と情欲への自制を欠いた人間的な存在においてのみ、想像し得るものである。

88. 時折、あなたがたは私にこう言う。「主よ、なぜ私たちは自分たちのものではない行いの結果を『償わなければならない』のですか。なぜ他者が生み出した苦い実を収穫しなければならないのですか？」――それに対し、私はこう答える。あなたがたは、かつて自分が何者であったか、また自分の行いが何であったかを知らないゆえに、そのことを何も理解していないのだ、と。（290, 9 12）

89. 愛する民よ。あなたがたは、この「第三の時代」においてわたしの弟子であるという考えに、心が満たされている。しかし、わたしはあなたがたに告げる。決して虚栄心に惑わされてはならない。もしあなたがたがこの弱さに屈すれば、自分の良心が過ちを指摘しても、もはやそれに耳を傾けることはできなくなるだろう。 人間としての生活を清め、高潔なものにし始めない者は、霊的に向上することを期待することはできない。なぜなら、その歩みは誤った方向へと導かれ、その行いには真理の種が宿らないからである。

90. だから、私が教えの中で、時には霊的な指導から助言へと降りてくるのは、あなたがたが人間としての生活において正しく振る舞えるようにするためであることを心に留めておきなさい。その時、私は人の心に語りかけ、刷新を促し、悪癖が肉体に与える害と、それが魂に及ぼす悪を悟らせるのだ。

91. 私は、悪徳に支配される人間は、精神は打ち負かされてはならないということを忘れてしまったのだ、と、また、真の強さとは徳によって悪を克服することにあるということを忘れてしまったのだ、と、あなた方に語った。

92. 肉欲に打ち負かされたその人は、自らを貶め、自尊心を傷つけ、人間としての高貴な地位から、戦う勇気さえ持たない哀れな存在へと堕ちてしまった。

93. その男は、家庭に光とパンとワインをもたらす代わりに、影と苦しみと死をもたらし、自身と妻、そして子供たちの十字架を重くし、周囲のすべての人々の魂の成長の道を妨げている。（312, 32-35）

94. 悪しき道を捨て去る者は、その一人ひとりが、悪の力がその力の一部を失うように作用させることを理解せよ。また、そ

の行い、言葉、そして思いにおいて正しい人生は、その軌跡に良き種を残すものであること、敬虔な心から発せられる助言には、奇跡を起こす力があること、 また、思いやりと愛に満ちた思いから生まれた祈りは、あなたがたが祈る相手にとって、光のメッセージとなるのだ。（108, 16）

95. ここ、私の元で、あなたがたはあらゆる汚点を清めている。ああ、もしあなたがたが、生涯を通じてこの清らかさを保つことができたなら！しかし、あなたがたが、この交わりと教えの時間に作り出している、この霊性と兄弟愛の雰囲気は、世には存在しない。あなたがたが吸っている空気は、罪によって毒されている。

96. しかし、あなたがたは、わたしの教えを自分のものにするにつれて、世に縛り付けていた鎖が、一環また一環と、徐々に自分から外れていくのを感じたはずだ。（56, 26-27）

97. 常に警戒して生きなさい。なぜなら、あなたがたの道には、自分たちは私のものであると言う者たちが現れるだろうから。しかし、彼らを最初の瞬間から信じるのではなく、彼らが示す謙遜、知恵、そして愛によって信じるようにしなさい。

98. 他の人々は、自分たちが私とつながっているとあなたに言うだろうが、彼らは最も先に欺かれた者たちである。それゆえ、あなた方は、自分たちが担う使命と、自分たちが占める立場について、常に警戒しなければならない。目と耳を研ぎ澄まし、また多くのことを赦さなければならない。（12, 55-56）

99. 行動せよ、眠ってはいけない！それとも、眠っている間に迫害が襲ってくるのを待つつもりなのか？再び偶像崇拝に陥るつもりなのか？異端の教えが、暴力や恐怖によって広まるのをただ待っているのか？

100. 目を覚ましていなさい。東から偽預言者たちが現れ、諸国民を惑わすからだ。団結し、その声が全世界に響き渡り、人類に時宜を得て警鐘を鳴らすようにしなさい。（61, 25）

101. 人類には大きな試練が待ち受けている。あらゆる苦痛や災難の際にも、目を覚まし、祈り続けよ。多くの苦しみは和らげられ、また、祈る者たちによってその進路を阻まれるため、他の苦しみは起こらないだろう。

102. 他の宗派や教団の信者たちが、この民に大勢の人々が従っているのを見れば、それらの宗派の中から、あなた方を迫害する者たちが立ち上がるだろう。しかし恐れることはない。あなたがたが冷静さを保てば、聖霊が光の言葉をあなた方の唇に授け、あなた方を中傷する者たちを黙らせるからである。

103. わたしは、あなたがたを守るために、人を殺す剣を与え

るのではない。愛の剣を与えるのだ。その剣から放たれる光の閃きの一つ一つが、そこから発せられる美徳となるだろう。

104. もしあなたがたが、言葉によって私の業を迫害する者たちの群れを打ち負かし、愛の行いによって彼らを改心させ、私のもとに導くならば、父のもとでどれほどの恵みを見出すことか。

105. これこそが、私が「第二の時代」にあなたがたに与えた教えであり、あなたがたはすでにそれを忘れてしまっていたのだ。

106. 三位一体・マリアの霊的教義を理解しようとするとき、人間の理性は動揺を覚えるだろう。なぜなら、物質化された人間は、霊的なものに対して不器用だからである。（55, 58-63）

107. 私の食卓に、私がこれほど多くの愛を込めて差し出した料理を、手もつけずに残した者はどれほど多いことか。彼らが、私の言葉を聞くために地上に来ることが許された、今のような恵みの時を、いつ再び経験できるというのか。

108. 彼らは堅い岩のようなものであり、風雨にさらされ、時間をかけてようやく柔らかくなる必要がある。彼らがそれを守り、大切にすることを知らぬ限り、その遺産は彼らから奪われるだろう。しかし、彼らは再びそれを手にすることになる。なぜなら、父が子供たちに与えるものは、決して彼らから奪われることはなく、ただ彼らのために保管されているだけだと、私はあなたがたに告げたからである。（48, 8）

109. あなたがたのうちの幾人かは、私の教えによって変容し、備えられ、砂漠で道に迷った者たちを探し求めるようになるであろう。なぜなら、私は人間の生涯を、まさに砂漠として見ているからである。 何人かは、何百万もの魂に囲まれながらも孤独を感じ、喉の渇きに苦しんでいるが、彼に少しの水さえ差し出す者はいない。私は、そこに私の新しい使徒たちを遣わす。

110. 私は、ある者たちには愛を込めて私の名が語られ、またある者たちには感動をもって聞かれることを望む。私は、私の名を知らない者たちにも、それが知られることを望む。 私の存在を知らない人々――老人、女性、子供たちがいる。私は、すべての人が私を知り、私こそが最も慈愛に満ちた父であることを知ってもらいたい――すべての人が私の声を聞き、私を愛してくれることを望んでいる。（50, 3）

111. 私の言葉は、あなた方の利己主義にぶつかった。それゆえ、私はあなた方に、私が授けるものを、あなた方自身の力で周囲の人々に知らせるべきだと告げたのだ。しかし、あなた方は、他者に対する義務を負うこ

となく、ただ私の啓示に慰めを見出そうとしているだけである。

112. しかし、師は、無益な教えを授けるためにあなた方を呼び寄せたのではない。師は、この神聖な教訓を学び、後の人生において、それを隣人に適用することで役立てるようにと、あなた方に告げたのである。

113. 今この瞬間、私はあなた方に啓示する。あなた方の霊は、苦しみや困窮、あるいは願いを携えてあなた方の元に来るすべての人々に対して、古くからの負債を負っているのだ。私がどれほどの愛をもって彼らをあなた方の歩む道に置いているかをよく考えよ。そうして、彼らをあなた方の実践的な隣人愛の対象とすることで、その償いを果たすのだ。（76, 20）

114. 痛みのある時代に、自分の過ちや利己心の報いを受けるために地上に戻らなければならないことのないよう、これを果たしなさい。 その使命を果たしなさい。そうすれば、あなた方は確かに再び戻ってくることになるが、それは平和な時代であり、かつて で始めた種を育てながら、心身をリフレッシュするためである。今や、あなた方を解放するためにモーセが先導することはない。「最初の時代」に彼がそうしたように。あなた方を導くのは、あなた方の良心である。（13. 17）

115. ここには、かつて律法の教師や学者であった者たちが多くいる。今や彼らの知性は霊的な知識に対して目覚め、限られた人間の知識の中には最高の真理を見出せないことを確信している。

116. かつてこの地上において権力者や富豪であった者たちがここにいて、今や貧困と卑しさを知った。私は、彼らの服従と完全なる完成への渇望ゆえに、彼らを祝福する。これは私の慈愛に満ちた正義の証である。なぜなら、私は彼らに永遠の知恵の書のもう一つの側面を示すために、彼らを再び地上に来させたからである。（96, 16-17）

117. この世は、あなた方に多くの喜びをもたらす。その中には、私が与えたものもあれば、人間が作り出したものもある。今、あなた方はそれらを得ることができなかったことを経験し、ある者には反抗心を、またある者には悲しみをもたらした。

118. 私はあなたがたに告げなければならない。この時代、多くの人々には、「肉」の快楽や満足に溺れて眠りにつくことも、それに溺れて滅びることも許されていない。なぜなら、彼らの使命は全く異なるものだからである。

119. 真実を言おう。人類の中に、あらゆる快楽を知らず、あらゆる果実を味わったことのない魂など、一つとして存在しないのだ。今日、あなた方の魂は

、私を愛する自由を享受するために（この地上に）来たのであり、再び世界や金、肉欲、あるいは偶像崇拝の奴隷となるためではないのだ。（84, 47）

120. 理想のために命を捧げる人々、民族、国家を見よ。彼らは闘争という火刑台で焼き尽くされながら、世界の栄華、所有物、権力を夢見ている。彼らは、この世の儚い名声のために死んでいくのだ。

121. しかし、あなた方の魂の中で、永遠に続く栄光を得ることを目標とする神聖な理想に火をつけ始めているあなた方は、たとえ命そのものではなくても、少なくともその一部を捧げて、同胞としての義務を果たそうとはしないのか。

122. あなた方の頭上では、準備の整った者だけが感知しうる、目に見えない戦いの渦が吹き荒れている。人々の思考、言葉、行いから発せられるあらゆる悪、何世紀にもわたるあらゆる罪、混乱しているすべての人間と来世の魂、あらゆる迷い、 不義、人々の宗教的狂信と偶像崇拝、愚かで野心的な野望、そして偽りが、すべてを打ち倒し、占領し、浸透して、それを私に対して向けさせる力として結集した。これこそが、キリストに立ち向かう力である。 、その軍勢は巨大であり、その武器は強力であるが、彼らが強さを発揮するのは私に対してではなく、人間に対してである。

123. 私は、正義の剣をもってこの軍勢と戦いを交え、その戦いにおいて、私の軍勢と共にいる。あなたがたは、私の意志により、その軍勢の一員となるべきである。

124. この戦いが、快楽を追い求める人々を不安にさせる一方で、来世で何が起きているかを感じるという賜物を私が託したあなたがたは、兄弟たちのために見守り、祈らなければならない。そうすることで、あなたがたは自分自身を見守ることになるのだ。

125. 主なる戦士キリストは、すでにその剣を抜いている。その剣が、鎌のように悪を根こそぎ断ち切り、その光線で宇宙に光をもたらすことは、必要不可欠である。

126. もしあなたがたの唇が沈黙するなら、世界も、そしてあなたがたも悲惨なことになるだろう。あなたがたはヤコブの霊的な子孫であり、わたしは彼に、あなたがたを通して地上の諸国民が救われ、祝福されると約束した。わたしはあなたがたを一つの家族として結び合わせ、あなたがたが強くなるようにしたい。（84, 55-57）

127. 私は、この民の懐において偉大な業が成し遂げられたことを知っている。しかし、たとえあなたがたの名前が世に知られていなくとも、私がそれを知っていればそれで十分である。

128. あなたがたの業の真の功績、あるいは真の価値を知っているのは、わたしだけである。なぜなら、あなたがた自身でさえ、それを判断することはできないからだ。時には、ささいな業があなたがたには非常に大きなものに見え、また他の業については、その功績がわたしのもとに届いたことさえ、あなたがたは気づかないこともある。（106、49-50）

129. わたしに耳を傾けた人々よ――いつになったら、あなたがたは隠遁と闇の中から現れるのか。もしかすると、あなたがたは（その時迫るであろう）対決を恐れて、意図的に準備を遅らせているのか。 まことに、私はあなたがたに告げる。恐れるのは、霊的に備えていない者だけである。なぜなら、私の言葉を知り、主と隣人を愛する者は、恐れることは何もないからである。そして、人々を避けるのではなく、彼らと出会うことを求め、自分が受けたものを分かち合おうとするのである。 私の教えを学び、深く理解した後、彼はそれを実践するのだ。（107, 41）

130. このメッセージは、あらゆる宗教、あらゆる宗派や信仰共同体、そして様々な指導形態にとっての光である。しかし、弟子たちよ、あなたがたは私の言葉をどう扱ってきたのか。そのようにして、木を花咲かせようというのか。花を咲かせることを許しなさい。なぜなら、それらは後に実を結ぶことを告げるものだからである。

131. なぜ、あなたがたはこのメッセージを隠し、この福音をもって、この新しい時代の驚きを世界に伝えようとしないのか。なぜ、キリストの声があなたがたの間で響いていると、世界に告げる勇気を持たないのか。語りなさい。そして、愛の行いを通して、わたしの教えを証しなさい。なぜなら、 たとえある人々が、あなたたちの声を聞かないように耳を塞いだとしても、他の人々は耳を開くでしょう。そして、あなたたちの声は、彼らにとって、ナイチンゲールの歌のように甘く、心地よい響きとなるでしょう。(114, 46)

132. 人類は私の新しい弟子たちを待ち望んでいる。しかし、私の働き手であるあなたがたが、世間の評価を恐れて種や農具を捨ててしまうなら、この人類はどうなってしまうというのか。あなたがたは、自らの使命に対する責任を感じていないのか。

133. あなたの良心は決してあなたを欺くことはなく、あなたが義務を果たしたかどうかを常に告げてくれるだろう。あなたが経験している不安は、あなたが私の指示に従わなかったことのしるしである。（133, 10）

134. あなたがたは、私の言葉に従う者の数がゆっくりとしか増えていないと、時折嘆く。し

かし、私はあなたがたに告げる。嘆くべきは自分自身である。なぜなら、この共同体を構成する群れを増やし、倍増させるという任務が、あなたがたにあるからだ。 しかし、もしあなたがたの心に信仰が欠けており、霊的な賜物が開花しておらず、知性の中に霊的知識の光が欠けているならば、どうして不信者を説得できるだろうか。もしこれらの美徳が心の中で開花していないなら、どうしてあなたがたの信仰と愛をもって、彼らの内面を動かすことができるだろうか。

135. 理解できない者は、他者を理解へと導くことはできない。感じることのできない者は、他者の感情を呼び覚ますことはできない。今こそ、あなたがたが私の言葉について証しをしなければならないという必要に迫られたとき、なぜ唇がどもり、言葉に詰まってしまったのかを理解せよ。

136. 愛する者はどもる必要はなく、信じる者は恐れない。感じる者には、その誠実さと真実さを証明する多くの機会がある。（172, 24-26）

137. 今日、あなたがたはなぜ自分たちがイスラエルであるかを説明しようとしても論拠がなく、なぜ自分たちがスピリチュアリストであるかを説明しようとしても言葉が見つからない。あなたがたは、自分たちの霊的賜物が何であるかを述べようとしても、それを説得力を持って説明するための論証や霊的成長が欠けている。 しかし、あなたがたの上向きの成長が現実のものとなれば、必要な言葉は自然と湧き出てくるだろう。なぜなら、あなたがたは愛の行いによって、自分たちが誰であり、誰に教えられ、どこへ向かっているのかを明らかにするからである。（72, 27）

138. わたしはあなたに言う。福音を伝えるために、何を待っているのか。まさか、廃墟の上で預言しようというのか。わたしは、あなたがたが同胞から投げかけられるあらゆる質問に対して、いつでも賢明な答えを持てるよう、すべてを語り、啓示しているのだ。準備ができていない者を恐怖に陥れるような、重々しい論拠をもって、あなたがたは攻撃されることになるのだということを心に留めておきなさい。

139. わたしの言葉を心に刻み、あなたがた一人ひとりがわたしの真理の生きた証人となるよう、わたしがあなたがたに与えた大きな奇跡を忘れるな。そうすれば、あなたがたを吟味し、わたしの言葉をくまなく調べる者は、 、それがかつてわたしがあなたがたに語り、預言したことと何一つ矛盾しないことを悟るだろう。

140. 戦いは激しいものとなるだろう――あまりにも激しいため、かつて私の弟子であった者

たちでさえ恐怖に駆られ、私を聞いたことなどないと主張して、私を否認する者さえ現れるだろう。

141. わたしの戒めに忠実であり、戦いに立ち向かう者たちには、わたしがマントを授け、その下で身を守らせ、彼らはいかなる危機的状況も無傷で乗り越えるであろう。

142. この種を不適切に蒔く者、あるいはこの業の清らかさを汚す者には、刻一刻と裁きと人々の迫害と不安が降りかかる。誰もが、自ら育てた木を、その実の味によって見分けることになる。

143. わたしは、わが民の霊的闘争の時期に備え、大きな奇跡を用意している――学者や科学者たちを驚嘆させるような奇跡と業である。決して、あなた方をあなた方自身の力だけに任せることはない。人々があなた方を嘲笑しても、動揺してはならない。「第二の時代」において、群衆があなた方の師をも嘲笑したことを忘れてはならない。(63, 42-44)

144. まことに、わたしはあなたがたに告げる。世界はあなたがたに敵対している。それゆえ、わたしはあなたがたをそのことに備えさせ、愛と慈悲という武器をもって、あなたがたの信仰の大義を守る術を身につけさせるのだ。あなたがたは勝利する、たとえその勝利が世に知られなくとも。

145. 今、あなたがたの犠牲は血の犠牲ではないが、それでもなお、中傷や軽蔑を受けることになる。しかし、主はあなたがたを守り、慰めるためにそこにいてくださる。なぜなら、見捨てられる弟子など一人もいないからである。(148, 17)

146. 人々よ、もはや堕落に慣れ親しむな。清らかさを誇示することなく、それと戦え。また、同胞の過ちに対して憤慨してはならない。 言葉と行動において、思慮深く、的確で、慈愛に満ちていなさい。そうすれば、世界はあなたたちの声に耳を傾け、あなたたちの教えの言葉にも注意を払うだろう。この教えを伝える前に、まずそれを実践しなければならないということを、私がもう一度言う必要があるだろうか。(89, 66)

147. 諸国民の中で、わが民が姿を現し、兄弟愛、調和、隣人愛、そして理解の模範を示すことが必要である。それは、神の教えを再び悪用して争い、互いに傷つけ合い、命を奪い合う者たちの間で、平和の戦士として振る舞うことである。(131, 58)

148. あなたがたは皆、同じ神を愛しているということを、ついに理解しなさい。そして、ある者がその愛をどのように実現したかという形式の違いを理由に、争ってはならない。

149. 信仰の信念、伝統、慣習が、ある者たちの中に深く根を

下ろしていることを理解しなければならない。 あなたがたが教え始めた当初、それらを一瞬にして引き抜くことは容易ではないだろう。忍耐強くありなさい。そうすれば、年月を経て、やがてそれを成し遂げることができるだろう。（141, 9）

150. 1950年が終わりを迎える頃、あなた方の多くの中に不安や疑念が生じるだろう。

151. なぜ、私の啓示を信じる者たちよりも優れた知性を持ちながら、私の啓示を疑う者たちがいるのか。 なぜなら、私の真理を判断できるのは人間の知識でも理性でもないからだ。そして、人間がこれを理解すると、新しいものすべて、未知のものすべてに対して恐怖に駆られ、無意識のうちにそれを拒絶してしまうのである。

152. しかし、あなた方、すなわち、弱く、教養がなく、その知性によって認められた人々のような高みに達することのできない者たちこそが、信じる者たちであり、霊的な神秘に深く入り込むことができるのである。なぜか。それは、永遠の命とその奇跡を理性に啓示するのは、霊そのものだからである。

153. 人間の知性は、あなたがたが今まさに戦いを挑もうとしている力である。なぜなら、それによって人間は、霊によって啓示されたものではない、霊的なものに関する考えや観念を作り上げてしまったからである。

154. この戦いに備え、あなたがたは強くなければならない——その強さもまた、霊に由来するものである。あなたがたの力は、決して肉体や金銭の力、あるいは地上の手段に依拠するものではない。あなたがたの内に住む真理への信仰こそが、この対立においてあなたがたを勝利へと導くのである。（249, 44-46）

155. あなたがたが迷い人と呼ばれても恐れるな——すべての人に手を差し伸べよ。あなたがたにとって真実であるこの働きが、他の人々には偽りに見えるかもしれないことを心に留めよ。彼らの目には、宗教が認められるために受けたような聖別が、この働きには欠けているように映るからである。

156. もしあなたがたがわたしを信じ、わたしがこの声の伝達者たちの言葉を通して自らを明らかにしていると信じるならば、同胞たちの裁きを恐れることはない。なぜなら、わたしの教えはそれほど雄弁であり、わたしのメッセージには多くの真理が含まれているため、もしあなたがたがこの武器をうまく使うことを知っていれば、打ち負かされることはまずないからだ。

157. あなたがたが熱心に真理、すなわち完全なるものを求めることについて、誰も非難することはできない。それには、あなたがた全員に神聖な権利があり、そのために、光に向かって

進む自由が与えられているのである。（297，51-53）

158. あなたがたが使命を果たし始め、諸国へ、最も遠い民族のもとへ、さらには原生林の奥深くへと足を踏み入れるとき、人間たちに出会うだろう。そして、あなたがたは彼らに、あなたがたは皆兄弟であることを理解させ、 、私の霊的な教えを証ししなければならない。そうすれば、あなたがたは、私が与える愛の証しに驚嘆することになるだろう。

159. 文明から隔絶され、また人間の堕落からも遠く離れたあの人々の間に、あなたがたは、イスラエルの民の数を増やすことになる偉大な魂たちを見出すだろう。

160. 病める者たちは、あなたがたの道において癒しの香油を受け、回復するであろう。悲しむ者たちは、最後にもう一度泣くであろうが、その涙は喜びの涙となるであろう。

161. あなたがたが示すべきそのしるしを目の当たりにして、人々の群れは主とその弟子たちを祝福し、あなたがたは、かつて主がエルサレムに入城されたあの日のように、歓呼に包まれるであろう。

162. しかし、あなた方を歓呼する人々の中にも、あなた方が持つ霊の賜物に満ちた男女がいるだろう。 ある者たちにおいては、その預言の賜物があなた方を驚嘆させるだろう。またある者たちにおいては、わたしの癒しの香油が尽きることなく注がれるだろう。さらにまたある者たちにおいては、わたしの言葉が水晶のように澄んだ水のように湧き出るだろう。こうして、あなた方は兄弟姉妹たちの間で、尽きることのない種まきのように、聖霊の賜物が現れるのを見るだろう。（311，38-40）

163. 民よ、今や諸国には見せかけの平和が支配しているが、あなたがたは平和が訪れたと宣言してはならない。口を閉ざしなさい。真の平和は、恐怖や物質的な安楽という土台の上に築かれることはできない。平和は、愛と兄弟愛から生まれなければならない。

164. 人々は今、岩ではなく砂の上に家を建てている。そして、波が再び高まり、その壁に打ち寄せるとき、その建物は崩れ落ちるだろう。（141、70-71）

165. 「最初の時代」以来、私は預言者たちを通して、あなた方を導くために語りかけてきたが、私の律法を遵守するよう強制するためではない。

166. しかし、時は過ぎ去り、人間の霊魂は発展し、成熟に達し、今や霊魂としての使命を理解することができるようになった。深淵、すなわち破滅の淵にこれほど近づいている人類は、あなた方からの霊的な助けを必要としている。

167. それは戦い、最後の戦い、闇と光との間で繰り広げられ

る最も恐ろしく、最も凄惨な戦いなのだ。闇の霊たちは今、結集しつつあり、光の霊たちは皆、その力に立ち向かわなければならない。

168. わたしに耳を傾けた者たちよ、聖霊の光をその内に宿す者たちよ、目覚めよ！もはや、地上の快楽や一時的な目標のために時間を浪費してはならない。人類のために戦い、父の御国がこの世に来るよう奮闘せよ。それは、最も卑しい者から最も教養ある者まで、すべての人にわたしが与える使命である。

169. 霊界はあなた方と共にあり、すべての人々の上に、愛と憐れみに満ちた父がおられる——人々が互いに与え合う苦しみを、限りない痛みをもって見守っている父である。

170. これは光と闇との戦いであり、勝利が勝ち取られるまで、あなた方一人ひとりが戦わなければならない。（358, 20-23）

第63章 - 教会およびすべてのキリストの弟子たちへの教え

キリストの霊の働き

1. 愛する民よ、わたしの臨在を喜びなさい。心の中で祝宴を催し、喜びの声を上げなさい。ついにあなたがたは「主の日」を経験したのだから。

2. あなたがたはこの日の到来を恐れていた。なぜなら、あなたがたは依然として昔の人々のように考え、父なる神の心は復讐心に満ちており、受けた侮辱に対して恨みを抱いており、それゆえ、神は鎌と鞭と苦難の杯を用意して、これほどまでに、これほど何度も神を侮辱した者たちに復讐を加えようとしているのだと信じていたからである。

3. しかし、神の御霊の中には怒りも、憤りも、嫌悪も存在し得ないことを知ったとき、あなた方の驚きは大きかった。たとえ世界がかつてないほど泣き叫び、嘆き悲しんでいるとしても、その理由は、父が彼らにこの実を食べさせ、この杯を飲ませたからではなく、これこそが、人類が自らの行いのゆえに今、刈り取っている収穫なのだ。

4. 確かに、この時代に解き放たれたすべての不吉な出来事は、あらかじめあなたがたに告げられていた。しかし、それらが告げられていたからといって、主が罰としてそれらを送っているのだとは考えてはならない。全く逆である。私はいつの時代も、悪や誘惑からあなたがたを警告し、あなたがたが転んだ時には立ち直るのを助けてきた。さらに、あなたがたが自らを救うために必要なあらゆる手段を、私は与えてきた。しかし、あなたがたは、私の呼びかけに対して常に耳を貸さず、不信仰で

あったことも認識しなければならない。（160, 40-41）

5. この時代に、自分の灯をともす努力をしない者たちには災いがある。彼らは滅びてしまうからだ！ これこそが光の時代であるにもかかわらず、至る所で依然として闇が支配している様子を見よ！

6. わたしの言葉によって、わたしが第三の来臨においてこの国の中でわたしを現すために、この国を選んだことを、あなたがたは知っている。しかし、その理由については知らない。弟子たちの前に秘密を持たないことを望む師が、あなたがたにとっては謎であった。師は、あなたがたが知るべきすべてのことを明らかにするために来られる。そうして、あなたがたは、問い求める者たちに正しく答えることができるようになるのだ。

7. 私は、この地の住人たちが常に私を求め、愛してきたのを見てきた。彼らの崇拝が常に完全であったわけではないが、私は彼らの意図と愛を、無垢と犠牲と苦痛の花として受け入れてきた。私の神性の祭壇の上には、この香る花が常に供えられてきた。

8. あなたがたは、「第三の時代」においてこの偉大な使命を果たすために準備されてきた。

9. 今日、あなたがたは、私がイスラエルの民をあなたがたの中に転生させたことを知っている。なぜなら、私がそれをあなたがたに明らかにしたからだ。あなたがたは、あなたがたの内面に宿る種と、あなたがたを導く内なる光が、私が「第一の時代」にヤコブの家に注いだものと同じであることを知っている。

10. あなたがたは霊においてイスラエル人であり、霊的にアブラハム、イサク、ヤコブの種を宿している。あなたがたは、人類に木陰と実をもたらす、あの祝福された木の枝である。

11. それゆえ、私はあなた方を「長子」と呼び、この時代にあなた方を訪ね、あなた方を通して世界に私の第三の啓示を告げ知らせようとしているのである。

12. 私の意志は、「イスラエルの民」が霊的に人類の間に復活し、それによって人類が真の「肉における復活」を目にすることにある。（183, 33-35）

13. あなたがたは、私がこの言葉を地上のすべての民に与えるだろうとでも思ったのか。いいえ！この点においても、私の新しい啓示は、かつて私がただ一つの民に現れ、その民が旅立ち、福音を広め、私のメッセージの中で受け取った種を蒔くという使命を負った、過去の時代の啓示と似ている。（185, 20）

14. 他の諸民族については、広大な土地が洪水によって荒廃し、国家が戦争によって破壊され、疫病が生命を滅ぼしているのを見て初めて、新しい時代に向

けて目覚めるようにしておきなさい。 これらの民は――科学によって高慢になり、教会の華やかさに眠りこけてしまっている――この目立たない形での私の言葉を認めようとはせず、また霊において私の啓示を感じ取ることもないだろう。それゆえ、まず地が揺さぶられなければならず、自然が人々に告げるだろう。「時は満ち、主があなたがたのところに来られた」と。

15. 人類が目覚め、目を開き、来たのは私であると認めるためには、まず人間の権力と傲慢が報いを受けなければならない。しかし、あなたがたの務めは、見張り、祈り、備えることである。（62, 53）

16. かつて私は、人類のもとに戻ってくると約束した。そして今、何世紀もの時が過ぎたとはいえ、その約束を果たすために、私はここにいる。あなたがたの霊は、平和への渇望、真理への飢え、知識への切望（ ）の中で、私の臨在を切望していた。そして私の霊は、あなたがたが生きるこの時代にふさわしい教えを聞かせるために、降りてきたのである。 人々は、これまでのように生き続けたいとどうして望むことができるだろうか。もはや、精神的な停滞や、儀式や伝統の履行における精神的な怠惰に留まり続けることは、この時代にふさわしくない。（77, 19）

17. 世の中で学識があると認められている多くの人々は、この姿の私を認識できず、私を否定するだろう。しかし、それによって驚いてはならない。私がかつて、「父よ、あなたは御自身の真理を幼子たちに啓示し、学者や賢者たちからは隠された。父よ、あなたは祝福される」と告げたとき、私はすでにそれを予告していたのだから。

18. しかし、これは私が自分の真理を誰かから隠しているからではなく、むしろ、心が無垢な者たちは、その（精神的な）貧しさや取るに足らない存在であるからこそ、私をよりよく感じ取ることができるのに対し、才能のある人々、すなわちその心が理論や哲学、教義で満たされている者たちは、私を理解することも感じ取ることもできないからである。 しかし、すべての人々のための真理は、定められた時に、誰にでも訪れるであろう。（50, 45）

19. 私の律法を知りながらそれを隠す者は、私の弟子とは名乗れない。私の真理を口先だけで伝え、心で伝えようとしない者は、私を模範としていない。愛を語りながら、その行いによって正反対のことを証明する者は、私の教えに対する裏切り者である。

20. マリアの清さと完全さを否定する者は愚かである。なぜなら、その無知ゆえに神に挑み、神の力を否定しているからであ

る。「第三の時代」において私の真理を認めず、魂の不死を否定する者は、まだ眠っており、この時代に人類が経験している啓示を予告した過去の時代の預言を心に留めていない。（73, 28-29）

21. 彼らはやって来て、あなたがたが誤りに陥っていることを証明しようと、わたしを試そうとするだろう。もしわたしが彼らに自分の名を告げなければ、彼らは「わたしがわたしではない」と言うだろう。そして、もしわたしが悪意を持って投げかけられた彼らの問いに答えるならば、彼らはさらに熱心にわたしを否定するだろう。

22. そこで、私は彼らにこう告げるだろう。「光の王国に入ろうとする者は、心をもってそれを求めなければならない。しかし、私を認めずに生きたいと願う者は、自らの精神から神聖な知識を閉ざしてしまうことになり、その結果、明快で光に満ちた啓示であるすべてのものが、彼にとっては謎であり、不可解なものとなってしまうのだ。」（90, 49-50）

23. 今、私はかつてそうであったように、ただ一時的にあなたがたと共にいるに過ぎない。私がもはやあなたがたに語りかけない時がすでに近づいているが、人類は私の存在を感じ取ってはいない。

24. 私があなた方に私の言葉を伝え、あなた方を見守っているその「山」から、私は別れの前夜にこう叫ばざるを得ないだろう。「人類よ、人類よ、あなたがたは、誰があなた方のそばにいたのかを知らなかったのだ！」 かつて私が「第二の時代」、死の直前に、ある山から都を見下ろし、涙ながらに叫んだように。「エルサレム、エルサレムよ、お前のそばにいた善を、お前は見分けられなかったのだ。」

25. 彼が泣いたのは、この世のためではなく、依然として光を持たず、真理を得るためにまだ多くの涙を流さなければならない人々の魂のためであった。（274, 68-69）

26. 私がイエスを通して、あなたがたに私の言葉と最後の戒めを与えた日から、何世紀もの時が過ぎ去った。しかし今日、私は聖霊としてあなたがたの前に現れ、あなたがたへの私の約束を果たすために来たのである。

27. わたしは人となって現れたのではない。わたしは霊として来る。そして、備えのある者だけがわたしを見るだろう。

28. あなたがたがわたしの言葉を信じ、わたしに従う一方で、他の人々はわたしの啓示を受け入れず、それを否定している。わたしは彼らに大きな証拠を示さなければならなかったが、そのおかげで、徐々に彼らの不信仰を打ち破ることができた。

29. 私が常にあなたがたに示してきた愛と忍耐は、このように

あなたがたを愛し、教え導くことができるのは、あなたがたの父だけであることを、あなたがたに理解させる。私はあなたがたを見守り、あなたがたがつまずかないように、あなたがたの十字架を軽くする。あなたがたが私を信頼して歩むことができるよう、私の平安を感じさせてあげる。（32, 4）

30. 私の言葉、すなわち教えは、一見すると今日、あなたたちだけに向けられているように見える。しかし実際には、それはすべての人々に向けられている。なぜなら、その知恵と愛は全宇宙を包み込み、すべての世界、すべての肉体をまとった魂と、肉体を持たない魂とを結びつけるからである。私を必要とするなら、ここに来なさい。迷いを感じたら、私を求めなさい。

31. わたしは、あなたがたの苦しみをよく知り、あなたがたを慰める父である。わたしは、あなたがた自身のために、また周囲に広めるために、あなたがたがこれほど必要としている愛を、あなたがたに注ぎ込む。

32. もしあなたがたが、私がこれらの代弁者を通して明らかにする知恵の中に、真に私の臨在を認めるならば、霊的な道における建設的な働きを始める時が来たことも、また認識しなさい。

33. ああ、もし招かれた者たちが皆、急いで駆けつけてくれたなら。まことに、あなたがたに告げる。主の食卓は弟子たちで溢れかえり、彼らは皆、同じ食事を口にするだろう！しかし、招かれた者たちのすべてが来たわけではない。彼らは様々な用事を口実にし、こうして神の呼びかけを二の次にしてしまったのだ。

34. 急いで駆けつけた者たちは幸いである。彼らはすでに報いを受けているからである。（12, 76-80）

35. この時代に霊的な賜物を受けた者たちのすべてが、ここで私の言葉に耳を傾けているわけではない。食卓にどれほど多くの空席があるか見てみよ。私の小さな子供たちの多くが、恵みを受けた後、立ち去り、責任や使命を避けてしまったからだ。ああ、もし彼らが、この地上に来る前に、すべての魂が私に誓った誓いを、まだ覚えていたなら！（86, 43）

36. 私は今、あなたがたに第三の聖書を遺そうとしているが、あなたがたは最初の二つさえも理解していない。もしあなたがたがこの時代に備えができていたなら、私の言葉が物質的に聞こえる必要などなかっただろう。なぜなら、私は霊的に語りかけ、あなたがたは愛をもって私に答えてくれたはずだからである。（86, 49）

37. これが「第三の時代」の光である。しかし、あなたがたに語りかけているのは神ではなく、この人間だと言う者を試して

みよ。まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの神聖な光線が彼の知性を照らすまでは、たとえ死をもって脅したとしても、彼から霊的な価値と真理に満ちた言葉を聞き出すことはできないだろう。

38. 魂が語り、自らを現すために肉体を用いるのと同様に、魂が短期間その肉体から離れ、その代わりにすべての魂の父である神が自らを現すことを可能にするのは、何ら不思議なことではない。

39. あなたがたはわたしのもとに来る術を知らないので、わたしがあなたがたのもとに来る。そして、父に届く最も喜ばれる祈りとは、静寂の中であなたがたの魂から湧き上がるものであると教える。この祈りこそが、あなたがたがわたしを聞くことができるようにする、わたしの光線を惹きつけるのだ。わたしの神性を喜ばせるのは、歌や言葉ではない。（59, 57-59）

40. あなたがたは、わたしの言葉が不明確であるとか、不完全な点を含んでいるなどと言うことはできない。なぜなら、わたしから不明確さが生じることは決してないからだ。もしあなたがたがそこに何らかの誤りを見つけたとしても、それを声の伝達者による不適切な伝達、あるいはあなたがたの理解力の欠如のせいにせよ。決してわたしの教えのせいにしてはならない。わたしの言葉を歪める声の伝達者よ、災いあれ！ わが教えを不適切に伝え、その価値を貶める者よ、哀れな者よ。その者は、絶え間ない良心の呵責に苛まれ、魂の平安を失うことになるのだ！（108, 51）

41. あなたがたに歩み寄るために、私はこう言う。もしあなたがたが、私が罪深い肉体を用いて愛を授けることを望まないのなら、義人、清き者を私に示しなさい。あなたがたの中から、愛することを知る者を私に指し示しなさい。そうすれば、私はその者を用いることを保証する。

42. 私が罪人を用いて罪人を導くことを理解せよ。なぜなら、私は義人を救うために来たのではない。彼らはすでに光の国にいるからである。（16, 25）

43. この種が、あなたがたが不適切に世話したにもかかわらず、死なない様子をよく見てみよ。暗闇や落とし穴、障害や試練を打ち破り（ ）、日々発芽し、成長し続けている様子を見てみよ。なぜこの種は死なないのか。それは、真理が不死であり、永遠だからである。

44. それゆえ、あなたがたは、この教えが時折消え去ったように見えるときこそ、人々が霊化への道においてさらに一歩前進できるよう助けるために、新しく豊かな新芽が芽吹いているのだということを経験することになるだろう。(99, 20)

45. 私の教えを吟味し、この教えがあなた方の宗教のいずれかに組み込まれる可能性があるかどうか、私に告げなさい。

46. 私は、その包括的な特徴と普遍的な意味をあなた方に明らかにした。それは、人類の一部や（特定の）民族に限定されるものではなく、あなた方の世界の軌道を越えて、この世界と同様に神の子供たちが住む、あらゆる生命の世界を含む無限の世界を包含するものである。（83, 6）

47. 私の言葉は、新しい宗教ではなく、またそうなることもできないことを悟りなさい。この業は、すべてのイデオロギー、信条、そして宗教が霊的に一つとなり、約束の地の門へと至るための、光に満ちた道である。（310, 39）

48. あなたがたの魂を養う私の教えは、あなたがたを師へと、聖霊の忠実な使徒へと変えようとするものである。（311, 12）

49. 私は、あなた方を、第三の時代の三位一体・マリア的霊性主義者として、私の僕として人々に紹介するつもりである。霊性主義者とは、あなたがたが物質よりも精神であるべきだからであり、三位一体とは、あなたがたが三つの時代にわたって私の啓示を受け取ったからであり、マリア的とは、あなたがたが、人生の道で落胆しないよう見守ってくれた、普遍的な母であるマリアを愛しているからである。（70, 36）

50. 人間の知性という器官を通して私の言葉を聞いた者たちだけが、この民の子と呼ばれるわけではない。自分の十字架を背負う者、すなわち、この律法を愛し、この種を広める者は皆、たとえこの啓示を通して私を聞いたことがなかったとしても、私のぶどう園の働き手、私の業の使徒、そしてこの民の子と呼ばれるべきである。(94, 12)

51. 民よ、あなたがたが様々な集会所に集まるからといって、それが互いに距離を置く理由になるとどうして思えるのか。無知だけが、主のすべての子供たちを結びつける霊的な絆に気づくことを妨げるのである。(191, 51)

52. あなたがたが、ある集会所や別の集会所、あるいは様々な集会所を訪れ、その代弁者たちを通して同じ言葉を聞くとき、あなたがたの心は喜びと信仰で満たされ、その教えを、これらの共同体が霊性によって結ばれていることの真の証拠として受け止める。 しかし、もし不十分な説教に立ち会ったならば、心の中に傷つけられたような感覚を抱くであろう。 そして、そこには、この民の中に存在すべきであるはずの団結が存在せず、また表れていないことを理解するであろう。（140, 71）

53. わたしは、あなたがたがわたしの善良で謙虚な弟子となる

ことを望む。すなわち、共同体内で任命や栄誉を求めず、徳によって完成に至り、わたしの指示に従うことのみを理想とし、そのようにしてあなたがたの人生が模範となるような弟子である。 正当にそれらを所有するに値する功績がないならば、名誉ある地位や称号、あるいは名声が、あなた方に何の益があるだろうか。（165, 17）

54. わたしの業は、数ある教えの一つではなく、世の中にまた一つ増えただけの宗派でもない。今日、わたしがあなたがたにもたらしたこの啓示こそが、永遠の法である。それにもかかわらず――霊性と理解の欠如から、あなたがたはこれにどれほどの儀式を付け加え、どれほどの不正を加え、ついにはそれを歪めてしまったことか。 あなたがたは、私の教えにどれほどの儀式を導入したか。その際、あなたがたが行ったことはすべて、私によって霊感を受け、命じられたものだと語り、信じているではないか。（197, 48）

55. あなたがたはまもなく、外面的儀式に疲れ、宗教的狂信に嫌気がさしている人々の間に身を置くことになる。それゆえ、あなたがたが彼らに伝える霊性化のメッセージは、新鮮で清々しい露のように彼らの心に届くであろうと、私は告げる。

56. もしあなたがたが、狂信的な儀式や、霊化に反する行いをもって彼らのところへ行ったとしたら、世界があなたがたを神のメッセージの伝達者として認めてくれると思うか。まことに、あなたがたに告げる。人々はあなたがたを、新しい宗派の狂信者だと見なすだろう！

57. 私があなた方に語るこの明快さにもかかわらず、中には私にこう言う者もいる。「師よ、ロケ・ロハスが遺産として残した多くの儀式を、どうして私たちが捨て去ることができるでしょうか？」

58. それに対し、私はこう言おう。私は「第二の時代」のあの例をあなた方に示した。その時、私は民に、儀式や形式、伝統、祝祭日を守ることに囚われるあまり、本質である律法を忘れてしまったことを理解させたのだ。

59. 私は、あなたがたに師のこの行いを思い起こさせたのは、たとえそれがロケ・ロハスから学んだものであっても、かつてモーセの民が遺産として受け継いだように、今日においても伝統や儀式を忘れてよいのだと、あなたがたに理解してもらうためである。

60. さて、私は、彼らがあなた方に悪いことを教えたと言いたいのではない――いいえ。彼らはただ、民が神の啓示を理解する助けとなるような象徴や行動様式に頼らざるを得なかっただけである。 しかし、その目的が達成されたならば、真理の光を輝かせるために、もはや無用と

なったあらゆる礼拝の形式や象徴を排除することが必要であったのだ。（253, 29-32）

61. 私の律法を理解しなかった僕たちは、私の心にどれほどの苦痛を与えたことか。そして今、私が彼らを訓練し、任命したにもかかわらず、疑いや 不安に身を委ね、その無理解と利己心ゆえに、私がさらに長い期間、民の間に留まり、彼らの人間の意志に従って私の普遍の光線を再び降ろし、長い間、自らを現し続けると語っている者たちは、どれほどの苦痛をもたらしていることか。

62. それゆえ、私はあなたがたにこう言ったのだ。「私の言葉の中に、いつ、優柔不断や不確実さ、あるいは意志の分裂が見られたことがあったか？」決してない、まことに。もしそうであれば、私はもはや完全ではなく、もはやあなたがたの神でも、あなたがたの創造主でもなくなってしまうからだ。

63. わたしの中には決断力があり、ただ一つの意志がある。それゆえ、わたしは明るい日差しのように明瞭に語るのだ。そうして、すべての者がわたしの臨在、本質、そして力を感じることができるよう、また、霊が（根底にある）理性と、わたしが人間の知性を通じて与えた言葉を認識できるようになるためである。

64. 師はあなたがたにこう告げる。人は建物を建て、それを教会と呼んだ。そして、そこに入る民は、敬意を表し、狂信と偶像崇拝を助長し、人自身が作り出したものを崇拝している。 これは私の目には忌まわしいものであり、それゆえ、私はイスラエルの民よ、あなたがたが当初知っていたもの、聞いていたものをすべて取り除いた。それは、あなたがたが狂信を捨て去るためである。

65. イスラエルの民の祈りの家は、人類に知られるべきであり、閉鎖されてはならない。なぜなら、それらは弱き者や迷える者、疲れ果てた者や病める者に、避難所を与えるべきだからである。あなたがたの備え、私の至高の御心への従順、そして私の律法への順守によって、私は、私の神性の真の弟子たちの行いの中に、自らを証しするであろう。

66. 偽りの代弁者、偽りの教会指導者、偽りの「働き手」が現れ、彼らの神を冒涜する口が民に語りかけ、私の言葉と私の普遍的な光が、今後も民への教えとして残ると主張することについて、あなたがたは心を痛める必要はない。

67. 私は、誰が詐欺師であるか、誰が私の意志に従って律法を守らないか、誰がただ自分の意のままを表現しているだけであるかを明らかにし、その者が犯した行いと、その者が作り出した律法を明らかにする。そして

、彼らは拒絶され、追放されるであろう。

68. なぜなら、私は神の恵みと力を差し控えるからであり、誘惑が彼らをその網に捕らえるからである。それゆえ、 彼らを訪ねる者は、その魂において私の聖霊の恵みを感じることがないであろう。（363, 52-56）

69. あなたがたは、自分たちがわたしの使徒であることを大々的に宣伝することなく、使徒でありなさい。たとえ師であっても、自分は弟子であると述べなさい。

70. あなたがたは、他者と区別されるような服を着てはならず、手に本を持ってはならず、集会所を建ててはならない。

71. また、地上に私の業の中心や基盤を設けてはならず、私の代理として人々の上に立つ者もいてはならない。

72. あなたがたがこれまで持っていた指導者たちは、最後のものである。祈り、霊性、そして私の教えの実践こそが、人々の群れを光の道へと導くべきである。（246、30-31）

73. わが弟子たちよ、私があなた方に啓示したような完全な業を、人類に対して、それが迷いであると判断されるような形で、あるいは、この時代に支配的な精神的混乱の産物として生まれた、数ある教えや理論の一つとして見なされるような形で提示することは、果たして正しいことだろうか？

74. 私がこれほど深く愛し、あなたがたの証しを清らかなものとするために私の言葉で教育してきたあなたがたが、過ちの犠牲として地上の司法の手に渡ったり、近隣の人々から有害と見なされて迫害され、散り散りになったりするなど、果たして正しいことだろうか。

75. 私の教えが――正しく従われたとしても――そのような事態を招くことがあると、あなたがたは思うのか。いいえ、弟子たちよ。

76. このように私に語らせてくれ。なぜなら、私がそうする理由を知っているからだ。明日、私がもはやこの姿であなたたちに語らなくなったとき、あなたたちは私がなぜこのように語ったのかを知り、こう言うだろう。「師は、私たちがどれほどの弱さに苛まれるかを正確に知っておられた。師の英知から逃れるものなど何もない。」（252、26-27）

77. わたしは、あなたがたがもはやわたしの言葉を聞くことのない時へと備えさせている。その時には、人々はあなたがたを「神なき民」、すなわち「神殿なき民」と呼ぶだろう。なぜなら、あなたがたには、わたしを崇めるための壮麗な教会堂もなければ、厳粛な礼拝の儀式も行わず、また肖像画の中にわたしを求めることもないからだ。

78. しかし、わたしはあなたがたに遺言として一冊の本を残す

。それは試練におけるあなたがたの盾となり、あなたがたが歩みを向けるべき道となるであろう。今日、あなたがたが伝達者を通して聞いているこれらの言葉は、明日、書物から流れ出るであろう。そうしてあなたがたは再びそれらに励まされ、その時にやって来る人々の群れもまた、それらを聞くことになるのだ。（129, 24）

79. 今、私は人類に新しい書物、新しい遺言を遺す。それは「第三の時代」における私の言葉、第六の封印が解かれた際に人々に語りかけた神の声である。

80. あなたがたの名前や行いが歴史に名を残す必要はない。この書物において、わたしの言葉は、人間の心に永遠に語りかける、響き渡る明瞭な声となるだろう。そして、わたしの民は、この霊化の道における彼らの足跡を、後世に残すことになる。（102, 28-29）

81. 私の言葉が示された集いの場は増え続け、その一つ一つが真の知識の学校となっている。そこには、私の弟子たちを成す人々が集い、新しい教訓を学ぶために熱心にやって来る。

82. もしこれらの各共同体が、私の慈悲から受けたすべての恩恵について証しを立てるとしたら、その奇跡の証言に終わりはないだろう。そして、私が最初の言葉から最後の言葉に至るまで、すべての代弁者を通して語ったことをすべて一冊の本にまとめなければならないとしたら、それはあなたがたには成し遂げられない仕事となるだろう。

83. しかし、私は、私の民を通じて、人類に一冊の本を授けるつもりである。そこには、私の言葉の真髄と、私があなたがたの間で成し遂げた業の証しが記されている。この使命を引き受けることを恐れるな。なぜなら、私はあなたがたに霊感を与え、この本に不可欠な教えが記されるようにするからである。（152, 39 41）

84. この言葉の真髄は、私がダミアナ・オビエドを通してあなたがたに語りかけた当初から、一度も変わっていない。私の教えの真意は、常に同じであった。

85. しかし、その言葉の本質はどこにあるのか。それはどうなったのか。私の言葉があなたがたの間でこれほど豊かに広められたこの時代において、最初のものであったそれらの神聖なメッセージの書物は、隠されている。

86. 明日、あなたがたがこの啓示の始まりがどのようなものであったかを証しできるようになるためには、これらの教えが明るみに出る必要がある。 そうして、あなたがたは、私の最初の教えの日付、その内容、そして1950年―この啓示の時代が終わる定められた年―がもたらす最後の教えの内容を知るようになるだろう。（127, 14-15）

87. あなたがたは、私の言葉を隠し、私の教えを歪曲する者たちに語りかける必要がある。 彼らには、はっきりと語りなさい。あなたがたが彼らに対して自分の立場を主張できるよう、私はあなたがたを助ける。なぜなら、私の業に本来属さないものを付け加えたために、明日、私の業が非難され、私の律法が歪められる原因となっているのは、まさに彼ら人間だからである。（340, 39）

88. 私はこの言葉をあなた方に伝え、あなた方の言語で聞かせたが、後に他の言語に翻訳し、すべての人に知らしめるよう、あなた方に命じる。

89. このようにして、あなたがたは真の「イスラエルの塔」を築き始めることになる。それは、すべての民族を霊的に一つに結びつけ、すべての人々を、イエスが「互いに愛し合いなさい」と語った時に、この世であなたがたがイエスの口から聞いた、その神聖で不変かつ永遠の律法の下に結ぶものである。（34, 59-60）

霊的なイスラエルとユダヤ民族

90. 私が今、私の新しい啓示の周りに集めている民を「イスラエル」と呼んだのは、この「第三の時代」に召された者たち一人ひとりの内にどのような霊が宿っているかを、私ほどよく知っている者はいないからである。

91. 「イスラエル」には霊的な意味があり、あなたがたが神の民の一部であることを自覚できるよう、私はこの名を授ける。なぜなら、「イスラエル」とは地上の民ではなく、霊の世界を表すものだからである。

92. この名は、誤りのない、その真の意味、すなわち霊的な意味において、再び地上に知られるようになるであろう。

93. あなたがたはこの名の由来と意味を知らなければならない。あなたがたがその民の子であるという信仰は絶対的なものでなければならず、また、誰から、そしてなぜこの呼称を与えられたのかについて完全な認識を持たなければならない。そうしてこそ、明日、「イスラエル」という名に別の意味を与える者たちから向けられる攻撃に耐え抜くことができるのだ。（274, 47 50）

94. わたしはあなたがたに服従を求める。あなたがたが、信仰と霊性によって強められた民となることを望む。 なぜなら、ヤコブの子孫である世代を、その民を襲った大きな苦難にもかかわらず増殖させたのと同様に、霊においてその種を宿すあなたがたが、闘いの中で耐え抜くようにし、あなたがたの民が再び天の星のように、海の砂のように増え続けるようにするからである。

95. わたしは、あなたがたが霊的にあのイスラエルの民の一部であることを知らせた。それは、あなたがたが自らの使命についてより包括的な知識を持つためである。しかし同時に、人類が自らそれを見出すまでは、このことに関する預言を公に宣言してはならないと、わたしはあなたがたに勧めたのである。

96. なぜなら、地上にはまだイスラエルの民、すなわち肉によるユダヤ人が存在しており、彼らはこの名をあなた方から奪い、認めようとしないだろうからである。もっとも、これは争うに足る正当な理由ではないのだが。

97. 彼らはまだあなた方のことを何も知らないが、あなた方は彼らのことを多く知っている。私はあなた方に、地上をさまよい、霊的に平安のないこの民が、知らず知らずのうちに一歩一歩、十字架につけられた方へと向かっていることを明らかにした。彼らはその方を主として認め、その愛に対して示した自らの甚だしい恩知らずさと頑なさゆえに、 赦しを請うことになるだろう。

98. 私の体は十字架から降ろされたが、何世紀にもわたって私を否定してきた者たちにとっては、私は依然としてそこに釘付けられたままであり、私は彼らの目覚めと悔い改めの瞬間を待ち続け、私が彼らに差し出したが、彼らが受け入れようとしなかったすべてのものを彼らに与えるために待っている。（86, 11-13）

99. この時代において、伝統に縛られ、保守的で狂信的であったために、何世紀にもわたって待ち望んでいたメシアがもたらした天のパンを食べることができなかった「第二の時代」のユダヤ人のようになってはならない。その時が来たとき、彼らは彼を認識することができなかった。なぜなら、彼らの物質主義が、真理の光を見ることを妨げていたからである。（255, 19）

100. 遠い土地や国々から、霊の解放を渇望する兄弟たちがやって来るのを見るだろう。かつてイスラエルの部族が荒野を横断した時のように、あの古きパレスチナからも、彼らは群れをなしてやって来るだろう。

101. その国は、自らの王国を新たな遺産として差し出した方をその懐から追い出して以来、長く苦しい巡礼の旅を続けてきた。しかし、今やその国は、休息し、わが言葉を深く思索するオアシスに近づきつつある。そして、わが律法の認識によって強められ、長い間忘れ去られていたその発展への道を歩み続けることになるだろう。

102. その時、あなたがたは多くの人々が、あなたがたの国こそが新しい約束の地、新しいエルサレムであると語るのを耳にするだろう。しかし、あなたがたは彼らにこう告げなさい。あ

の約束の地はこの世の彼方にあり、そこに至るためには、この時代の試練という広大な荒野を通り抜けた後、霊においてそこへ至らなければならない、と。また、あなた方は彼らに、この国は砂漠のただ中にあるオアシスに過ぎないのだと告げるだろう。

103. しかし、民よ、そのオアシスは、疲れ果てた旅人たちに影を与えなければならないこと、そしてさらに、そこに避難を求める者たちの、渇きで乾ききった唇に、その透き通った新鮮な水を差し出さなければならないことを、あなたは理解しなければならない。

104. 私があなたがたに語っているその影と水とは何だろうか。それは、民よ、私の教え、すなわち愛の実践における私の神聖な教えである。そして、私はこの恵みと祝福の豊かさを誰に託したのか。それは、民よ、あなた自身である。そうして、あなたが自分の心をあらゆる利己心からますます解き放ち、あらゆる行いにおいて、それを清らかな鏡として示せるようにするためである。

105. もし、あなたがたの愛によって、その伝統に固執し、霊的に停滞しているあの民を、三位一体のマリア的霊の教えへと回心させることができたなら、あなたがたの霊と心は喜びで満たされないだろうか。 もし「古いイスラエル」が、 （聖霊）の仲介によって「新しいイスラエル」へと回心するならば、すなわち、前者が後者を通じて恵みを得るならば、あなた方の間に喜びが満ちるのではないだろうか？

106. これまで、ユダヤ民族を、道徳的・霊的な向上を達成するためには古い伝承を断ち切らなければならないと確信させるものは何一つなかった。彼らは、エホバとモーセの律法を遵守していると信じているが、実際には依然として金の子牛を崇拝し続けている民である。

107. この迷い、世界中に散らばった民が、もはや地上を見ず、天に目を向け、初めから彼らの救い主として約束されていた方、すなわち、彼らが悪と見なし、その中に何の善も見出せなかったために見捨て、殺してしまった方を探し求める時が近づいている。（35, 55, 58）

108. 私が他の民の中から一つの民を地上に選んだという事実を、特別に優遇されたこととして受け取ってはならない。私は、私のすべての子供たち、そして彼らが形成した諸民族を、等しく愛しているのだ。

109. どの民族も、地球に一つの使命を携えてやって来る。そして、「イスラエル」が携えてきた使命とは、人々の間で神の預言者となり、信仰の灯台となり、完全性への道となることである。

110. 私が太古の昔からあなた方に与えてきた預言や啓示は、人類がそれらを理解できる時がまだ来ていなかったため、正しく解釈されなかった。
111. かつて「イスラエル」は地上の民であった。今日、彼らは世界中に散らばっている。明日、神の民は、父と共に完全な調和の中で神の家族を形成するすべての魂から成るであろう。（221, 27-30）

弟子としての生き方と霊性

112. 互いに愛し合い、祝福し合い、赦し合い、優しく、愛情深く、善良で高潔であることを学びなさい。そして、もしそうしなければ、あなた方の人生には、師であるキリストの御業が、少しも反映されないことを理解しなさい。
113. 私はすべての人々に語りかけ、何世紀にもわたってあなた方の発展を妨げてきた過ちを正すよう、皆に呼びかける。（21, 22-23）
114. あなたがたの起源は私の愛にあることを忘れてはならない。 今日、あなた方の心は利己心によって硬くなっているが、一度でも再びあらゆる霊的な霊感を受け入れるようになれば、隣人への愛を感じ、他人の痛みをあたかも自分のことであるかのように共感するようになるだろう。そうすれば、あなた方は「互いに愛し合いなさい」という戒めを果たすことができるようになる。（80, 15）
115. この世界は、働くのにふさわしい畑である。そこには、痛み、病気、あらゆる形の罪、悪徳、不和、道を踏み外した若者、尊厳なき老い、悪用された科学、憎しみ、戦争、そして嘘がある。
116. これらが、あなたがたが働き、種を蒔くべき畑である。しかし、もし人間同士の間で待ち受けるその戦いが、あなた方に巨大なものに思えるとしても――まことに、私はあなた方に告げる。それは確かに大きな戦いではあるが、あなた方が自分自身と始めなければならない戦い、すなわち、魂と理性と精神が、肉の情欲、その自己愛、利己心、物質主義と戦う戦いとは比べものにならない。 しかし、あなたがたが自分自身に打ち勝つまでは――どうして、隣人に対する愛、従順、謙遜、そして霊性について、心から語ることができるだろうか。（73, 18 19）
117. 美徳は軽蔑され、有害あるいは無益なものとして扱われてきた。今こそ、美徳のみがあなた方に救いをもたらし、平安を感じさせ、満足感で満たしてくれることを理解すべき時が来た。しかし、美徳がすべての人の心に浸透するに至るまでには、依然として多くの障害や苦難に耐えなければならない。

118. それを守る兵士たちは、多大な努力と強い信仰をもって戦わなければならない。善と、実践的な隣人愛と、平和の兵士たちはどこにいるのか。あなたがたは、自分たちがそうだと信じているのか。

119. あなたがたは心の中で自らを省み、そうではないと私に答える。それゆえ、私はあなたがたに告げる。善意さえあれば、あなたがたは皆、その兵士たちの一員となり得るのだ。私がなぜあなたがたのところに来たと思うか。（64, 16）

120. 愛しなさい。話す必要がある時は話し、沈黙すべき時は沈黙し、あなたがたが私の選ばれた者であることを誰にも告げてはならない。お世辞を避け、あなたがたが行う善行を公にしてはならない。静かに働き、その愛の行いによって、私の教えの真実を証しなさい。

121. 愛することこそが、あなた方の使命である。愛しなさい。そうすれば、現世においても、また過去世においても、あなた方の汚れを洗い流すことができる。（113, 58-59）

122. お世辞を遠ざけなさい。それは、あなた方の高潔な感情を破壊する武器だからである。それは、私があなた方の心に灯した信仰を殺すことのできる剣である。

123. どうして、あなたがたは、自らの存在の最も奥底に持つ祭壇を、人々に破壊させてよいというのか。（106, 47-48）

124. 謙虚さを、粗末な服装と混同してはならない。また、自分の中に劣等感を抱き、そのために他者に仕え、彼らの前に頭を下げざるを得ない者を、謙虚な者だと思ってはならない。 言っておくが、真の謙虚さとは、自分が何者であるかを判断でき、ある程度の知見を持っていることを自覚しつつも、他者に身を低くして接する用意があり、自分が持っているものを彼らと分かち合うことに喜びを見出す者の中にあるのだ。

125. 世の中で尊敬されている人が、あなたに対して親しみや理解、 謙虚さを示してくれるのを見るとき、あなたはどれほど感謝の気持ちを抱くことか。あなたより身分の低い人々、あるいはそう感じている人々に対しても、同じ気持ちを伝えることができるのだ。

126. 身をかがめることを知り、優越感を抱くことなく手を差し伸べることを知り、思いやりを持つことを学べ。 私はあなたに告げる。こうした場合、愛情の証しや助け、慰めを受ける者だけが幸せなのではなく、それを与える者もまた幸せなのだ。なぜなら、その者は、自分よりも高いところに、自らに愛と謙虚さの証しを与えてくださった方がおられ、その方が自分の神であり主であることを知っているからである。（101、60、62）

127. 清く、謙虚に、質素に生きなさい。人間的な領域において正しいとされるすべてのことを、また、あなたの魂に関わるすべてのことを、果たしなさい。あなたの人生から、不必要なもの、作為的なもの、有害なものを排除し、その代わりに、あなたの存在の中にあるすべての善きものに心を癒やしなさい。（131, 51）

128. 誰をも敵と見なしてはならない。すべての人を兄弟姉妹と見なすこと、それがあなた方の使命である。もしあなた方が最後までこれに粘り強く従うならば、地上には正義と愛が勝利し、それによってあなた方が切に願う平和と安全がもたらされるだろう。（123、65）

129. あなたの心に自由を与え、他者の痛みに共感し始められるようにしなさい。あなたの心が、あなた自身に関わる事柄だけを感じようと、それにばかり忙殺され、努力し続けることのないようにしなさい。人類が経験している試練に対して、もはや無関心であってはならない。

130. いつになったら、あなたの愛は、血を分かち合い、肉と骨を同じくする者たちを愛するように、多くの同胞を包み込み、愛することができるほど大きくなるのだろうか。

131. あなたがたが、肉体よりも魂においてこそ兄弟姉妹であることを知れば、多くの者はそれを信じないだろう。しかし、わたしはあなたがたに言う。確かに、あなたがたは肉体という殻よりも、魂においてこそ兄弟姉妹である。なぜなら、魂は永遠に属するものであり、肉体は儚いものだからである。

132. それゆえ、この地上の家族は今日生まれ、明日にはまた消え去るものであるのに対し、霊的な家族は永遠に存在するという事実をよく心に留めなさい。（290, 39-41）

133. この言葉を聞くあなたがたは、私が、他の宗派を信奉する同胞たちに対して、あなたがたの心に嫌悪や悪意を植え付けることができると思うか。 決してそうではない、弟子たちよ。あなたがたこそ、同じ考えを共有する人々を見るのと同じ愛情をもって、すべての人を見守り、愛することで、兄弟愛と調和の模範を示すべきである。（297, 49）

134. 私は知っている。あなたがたの認識が深まるほど、私への愛も深まるのだ。私が「私を愛しなさい」と言うとき――その言葉が何を意味するのか、あなたがたは分かっているか。真理を愛し、善を愛し、光を愛し、互いに愛し合い、真の命を愛しなさい。（297, 57-58）

135. 弟子たちよ、あなたがたの闘いの目標は、もはやいかなる苦痛も及ばないような魂の状態にあることを知れ。そして、この目標は、功績、闘い、試練

、犠牲、そして放棄によって達成されるのである。

136. あなたがたが時折、周囲の人々のうちに見出す忍耐、信仰、謙遜、そして服従の事例に留意せよ。彼らは、人類の中に徳の模範を示すために、わたしが遣わした魂たちである。一見、これらの存在の運命は悲惨に見えるが、彼らは自らの信仰において、ある使命を果たすために来たことを知っている。

137. あなたがたは歴史の中で、わたしの使徒や弟子たちの偉大な模範を受け取ってきた――あなたがたに知られた名前の者たちである。しかし、それゆえに、あなたがたの人生の道で出会う小さな模範たちを見過ごしてはならない。（298, 30-32）

138. 預言者、先駆者、そして光の精霊たちが、イスラエルの民の中にのみ存在したとは考えないでほしい。私は他の民族の中にも彼らの一部を遣わしたが、人々は彼らを使者ではなく神々だと見なし、彼らの教えから宗教や崇拝を作り出したのである。（135, 15）

139. 弟子たちよ、まず自分の目にある「梁」を見よ。そうして初めて、兄弟の目にある「ちり」を見る権利が得られるのだ。

140. つまり、私は、あなたがたが私の教えを用いて、様々な宗派に属する同胞たちの行いを非難してはならない、と告げているのだ。

141. まことに、私はあなたがたに告げる。あらゆる道において、高潔で犠牲に満ちた生活を通じて私を求める心があるのだ。

142. それにもかかわらず、弟子たちは私に繰り返し問う。なぜ、時に矛盾し、対立を生み、人々の間に敵意を招くような、そうした世界観の多様性を許容するのかと。

143. これについて、師はこう告げる。それが許されているのは、まったく同じ理解、同じ光、同じ信仰を持つ二つの魂など存在しないからであり、さらに、あなたがたには自らの道を選ぶための自由意志が与えられているからである。 あなたがたは、決して律法の道を歩むよう強制されたのではなく、その道に招かれたのであり、それによって、真理を求める中で真の功徳を積む自由を保ってきたのである。（297, 23-24）

144. 私は、あなたがたが判断を下す際に軽率にならず、また第一印象に早々に左右されないことを学んでほしいと願っている。

145. 私がこの助言を与えるのは、あなたがたが私の言葉を解釈する際、また、教義、宗教、哲学、 教団、霊的啓示、あるいは科学について判断を下さなければならない際、あなたがたが知っていることが存在するすべてではないこと、そしてあなたがたが知っている真理は、ここ

ではある種の形で現れている絶対的真理のごく一部に過ぎず、しかし、あなたがたには知られていない他の多くの形で現れる可能性があることを認識できるように、この助言を与える。（266, 33）

146. 隣人の宗教的信念を尊重し、彼らの教会に入る際には、私があらゆる礼拝の場に臨在していることを知っているので、誠実な敬虔の念をもって頭を下げなさい。

147. わたしに従うためにこの世を否定してはならない。また、この世に果たすべき義務があるという口実で、わたしから離れてはならない。この二つの法則を一つに融合させることを学べ。（51, 53）

148. 私は、誰かを特別に優遇することなく、全人類を祝福しているではないか。その祝福という「マント」には、善良で柔和な者も、高慢な者や犯罪者も等しく包まれている。なぜ私を模範としないのか。他者の行いに嫌悪感を抱いているというのか。

149. あなたがたは人類の一部であることを忘れるな。人類を愛し、許すべきであり、拒絶してはならない。それは、あたかも自分自身に対して嫌悪感を抱くようなものだからだ。あなたがたが隣人に見るすべてのものは、多かれ少なかれ、あなた自身の中にもあるのだ。

150. それゆえ、私はあなたがたに、自らの内面を探求することを学び、自分の精神的・道徳的な姿を認識することを望む。そうしてこそ、あなたがたは自分自身を正しく評価できるようになり、他者を見極める権利も得られるのだ。

151. 隣人の過ちを探してはならない。自分自身の過ちだけで十分である。（286, 41-42）

152. あなたがたは、愛を利己的に自分の家族だけに限定して、互いに愛し合うという私の戒めを果たしていると思うのか。宗教団体は、自分たちの信者だけを認め、他の宗派に属する者を拒絶するだけで、その至高の戒めを果たしていると考えているのか。

153. 文明と進歩を誇りとする世界の偉大な諸民族よ――もし彼らの全努力が、同胞殺しの戦争への準備に費やされているだけであるならば、果たして彼らは、霊的に進歩を遂げ、イエスのその教えに従ったと主張できるだろうか？

154. ああ、人々よ、あなたがたは私の言葉の価値を一度も理解しようとはせず、主の食卓に腰を下ろそうともしなかった。主があまりにも質素に見えたからである！それでもなお、私の食卓は、あなたがたの魂のための命のパンとぶどう酒を携えて、今なおあなたがたを待っている。（98, 50-51）

155. わたしの業を重荷だと思わず、父と隣人を愛するという美しい務めを果たすことが、あなたの魂にとって重いことだと口にするな。真に重いのは、あなた自身や他者の悪という十字架であり、そのためにあなたは泣き、血を流し、さらには死ななければならないのだ。 感謝を知らない心、理解の欠如、利己心、そして中傷は、あなたがたがそれらを容認するならば、重荷となってのしかかるだろう。

156. 反抗的な者にとって、わたしの律法の履行は厳しく困難に思えるかもしれない。それは、律法が完全であり、悪も嘘も容認しないからである。しかし、従順な者にとって、律法は彼の防護壁であり、支えであり、救いである。（6, 16-17）

157. また、わたしはあなたがたに言う。人々は人を信じ、互いに信仰と信頼を持たなければならない。なぜなら、あなたがたは、この地上において、皆が互いに必要としているという確信に至らなければならないからだ。

158. あなたがたが「私を信じている」と言う一方で、私があなたがたが全世界を疑っていることを知っているという状況において、私がそれを喜んでいるなどと思ってはならない。 なぜなら、私があなたがたに期待しているのは、隣人に対して示す愛を通して私を愛し、自分を侮辱する者を赦すこと、最も貧しく、最も卑しく、最も弱い者を慈愛をもって支え、区別なく同胞を愛し、すべての行いに最大限の無私と誠実さを貫くことだからである。

159. わたしから学びなさい。わたしは決してあなた方を疑ったことはなく、あなた方の救いを信じ、あなた方が真の命に到達するために立ち上がることを信頼しているからである。（167, 5-7）

160. あなたがたの父を愛し、隣人に憐れみを持ち、あなたがたの人間生活や魂にとって有害なあらゆるものから離れなさい。これが私の教えである。そこに、どこに困難や不可能性があるというのか。

161. いいえ、愛する民よ、私の言葉に従うことは不可能ではない。難しいのはそれではなく、あなた方の改善、刷新、そして霊化である。なぜなら、あなた方には寛大な心と高邁な志が欠けているからだ。 しかし、私は、あなたがたのあらゆる疑い、無知、そして優柔不断さが消え去らなければならないことを知っている。だから、私はこれからもあなたがたを教え続ける。私にとって不可能なことなど何もないからだ。私は石を永遠の命のパンに変え、岩から水晶のように澄んだ水を湧き出させることができるのだ。（149, 63-64）

162. 私はあなたがたに、その律法を思い出させたい――それ

は、あなたがたの精神から消し去られることも、心から忘れ去られることも、また疑われることも許されないものである。なぜなら、それは、すべての人間が内面に、神へと導く光を宿すことができるようにと、賢明なる知性、すなわち普遍的な知性によって示されたものだからである。

163. 人生のあらゆる行いが真理と正義に基づいて行われるためには、律法に対する深い理解が必要である。律法を知らなければ、必然的に多くの過ちを犯すことになるだろう。 しかし、私は問う。あなたの霊は、かつてあなたを認識の光へと導いたことはなかったのか？まことに、私はあなたに告げる。霊は決して無為でも無関心でもなかった。内なる光を拒んでいるのは、あなたの心であり、またあなたの理性である。それは、外なる光、すなわち世の知識の輝きに魅了されているからだ。（306, 13-14）

164. 今日、私が教えについて詳しく解説するにあたり、魂や肉体を支配する法則の外で行われるすべてのことは、その両方に害を及ぼすということを、あなたがたに理解させなければならない。

165. 良心、直感、そして認識は、あなた方に安全な道を示し、転落を避けるように導く案内人である。これらの光は霊に属するものだが、それらを輝かせる必要がある。 その明晰さがあなた方一人ひとりの内に宿る時、あなた方はこう叫ぶだろう。「父よ、あなたの救いの種が私の存在の中で発芽し、あなたの言葉がついに私の人生の中で花開きました。」（256, 37-38）

166. わたしは、あなたがたの魂に偉大さを与えるために来た――それは、わたしの愛であるわたしの律法の成就に根ざした偉大さである。しかし、あなたがたは、師に従うという使命を果たすことによって、この偉大さにふさわしい者となる必要がある。（343, 29）

167. 私は常にこう言うだろう。この世界が与えてくれる喜びを享受せよ、しかし、私の律法の範囲内でそれを楽しみなさい。そうすれば、あなたがたは完全となるだろう。

168. あなたがたは、良心の呵責を繰り返し耳にする。それは、あなたがたが、私が与えた律法によって、肉体と魂を調和させていないからである。

169. あなたがたは、赦されないと思い込んで、しばしば罪を犯し続けている。これは誤った考えである。なぜなら、私の心は、悔い改める者に対して常に開かれている扉だからである。

170. あなた方の心の中には、より良い未来を望む勇気を与える希望が、もはや残っていないのか。憂鬱や絶望に囚われてはならない。 常にあなた方と共にあり続ける私の愛を思い起こし

なさい。あなたの疑いに対する答えを私の中に求めなさい。そうすれば、あなたはすぐに新たな啓示によって照らされたと感じるでしょう。信仰と希望の光が、あなたの魂の奥深くで輝き出すでしょう。そうすれば、あなたは弱き者たちの守り手となるのです。（155, 50-53）

171. あなた方を傷つけた人々を心から赦せるよう、常に霊的に目覚めた状態で生きなさい。他者を傷つける者は、ただ霊的な光に欠けているがゆえにそうしているのだと、あらかじめ心に留めておきなさい。しかし、私はあなた方に告げる。赦しこそが、その心に光をもたらす唯一の手段なのだと。恨みや復讐は闇を増大させ、苦しみを招く。（99, 53）

172. あなた方に完全な行いを求め、それを期待する良心は、あなたがたが隣人に真の赦しを与えるまで、決して安らぎを与えてはくれないだろう。

173. あなたがたを侮辱する者たちを、なぜ憎む必要があるのか。彼らは、あなたがたがわたしのもとへ至るための踏み石に過ぎないではないか。もしあなたがたが赦すならば、功徳を積むことになる。そして、あなたがたが天の御国に到ったとき、地上において、あなたがたの霊的な上昇を助けてくれた者たちをと認識するだろう。 その時、あなたがたは父に、彼らもまた自らを救い、主のもとへ至る道を見出せるよう祈るだろう。そして、あなたがたの執り成しによって、彼らはその恵みを得るようになる。（44, 44-45）

174. 絶望のあまり、わたしやあなた方を冒涜する者たちから背を向けてはならない。わたしは彼らのために、わたしの香油を一滴与える。

175. あなたがたにとって最も愛する者を傷つける者であっても、誰に対しても赦す用意を持て。まことに、あなたがたに告げる。こうした試練のたびに、あなたがたが誠実かつ真摯な赦しを与えるたび、それはあなたがたの魂の成長の道において、さらに一段階上へと到達することとなる。

176. それなのに、あなたがたは恨みを抱き、あなたがたが私に近づくのを助けてくれる者たちへの赦しを拒むつもりなのか。私を模範とするという霊的な喜びを捨て、あらゆる打撃に報復するために、暴力によって脳を暗く覆わせてしまうつもりなのか。

177. まことに、わたしはあなたがたに告げる。この人類は、まだ赦しの力と、それがもたらす奇跡を知らない。もし彼らがわたしの言葉を信じるようになれば、この真理を確信するようになるだろう。（111, 64-67）

178. 愛する民よ。兄弟たちと心を一つにしなさい。そうすれば、あなたがたがわたしと対話する時、わたしがあなたがたに

吹き込んだ愛によって、最もひどい侮辱でさえも自ら赦すことができるようになるだろう。 なぜ、自分が何をしているのか知らない者を赦さないのか。彼は、その悪を自らに与えていることに気づいていないから、知らないのだ。（359, 25）

179. どれほど侮辱されようとも、そのたびに赦しなさい。赦さなければならない回数の多さなど、気にする必要はない。あなた方の使命は極めて高きものであるから、道の途中のこうした落とし穴に引っかかってはならない。なぜなら、その先には非常に大きな任務が待っているからだ。

180. あなたがたは、より高い次元へと昇華できるよう、常に愛と理解と善を行う準備ができているべきである。

181. かつて多くの兄弟姉妹が、その行いによって「霊の永遠の書」に美しい一ページを記したように、あなた方も彼らの後を継ぎ、この歴史を綴り続けなさい。それは、これから地上にやって来る新しい世代にとっての模範となり、彼らの喜びとなるためである。（322, 52）

182. 平和を大切にし、愛し、至る所に広めなさい。人類は、どれほどそれを必要としていることか！

183. 人生の浮き沈みに動揺してはならない。そうしてこそ、常に強くあり、自分が持つものを与える準備ができているのだ。

184. すべての魂の遺伝的財産であるその平和は、この時代には失われ、戦争に取って代わられ、国家を苦しめ、制度を破壊し、魂を破滅させてしまった。

185. その理由は、悪が人間の心を支配してしまったからである。憎しみ、度を越した野心、抑制のきかない貪欲 が蔓延し、害をもたらしている。しかし、その支配も、もはや長くは続かないだろう。

186. あなたがたの喜びと安らぎのために、私は告げる。あなたがたの解放はすでに近づいている。多くの人々がこの目標のために尽力しており、彼らは兄弟愛と清らかさと健康の空気の中で息をすることを切望しているのだ。（335, 18）

187. あなたがたは、人生の歩みの全過程において、実践的な隣人愛を行わなければならない。これこそがあなたがたの使命である。あなたがたには、様々な形で無私の援助を行うための多くの才能が備わっている。もしあなたがたが準備の仕方を理解すれば、あなたがたが不可能と呼ぶことを成し遂げることができるだろう。

188. あなたがたが金銭を用いて行う愛の行為は――それもまた愛の行為ではあるが――やはり、より高次のものではないだろう。

189. 愛と赦しと平和を、あなたがたは隣人の心に届けなければならない。
190. 私は、もはや私の律法に守られたパリサイ人や偽善者など望まない。私は、隣人の痛みを共感できる弟子たちを望む。悔い改めて立ち上がる者すべてを、彼らがどの宗派や教会に属していようとも、私は赦し、彼らに真の道をはっきりと示してやる。（10, 104-107）
191. 私の言葉を聞きなさい。この世では謙虚であり、善を蒔きなさい。そうすれば、天国でその実を収穫することができる。悪を行う時に証人がいることを好まないのなら、なぜ善行を行う時に証人がいることを喜ぶのか。ただ義務を果たしただけなのに、何を誇れるというのか。
192. あなたがたはまだ未熟で人間的であるゆえに、称賛の言葉は魂を傷つけるものであることを理解せよ。
193. なぜ、善行を行った直後に、父がそれに対する報いを与えてくれると期待するのですか。そう考える者は、無私無欲に行動しているわけではなく、それゆえその慈善は偽りであり、その愛は真実とは程遠いものです。
194. あなたがたが善行を行っていることを世に示しなさい。しかし、それは称賛を受けるためではなく、ただ良い手本と教えを与え、わたしの真理を証しするためである。（139, 56-58）
195. もしあなたがたの魂が、「霊の谷」に赴き、地上の滞在と行いについて説明を求められるならば、私があなたがたに最も問うのは、あなたがたが同胞のために願い、行ってきたすべての事柄である。その時、あなたがたはこの日の私の言葉を思い出すだろう。（36, 17）
196. 「第二の時代」において、人類は私に木製の十字架を与え、人々は私をその十字架の殉教へと裁いた。しかし、私の霊においては、私は別の、より重く、より血にまみれた十字架を背負っていた。それは、あなた方の不完全さと、あなた方の恩知らずさによるものである。
197. もしあなたがたが、隣人のために愛と犠牲の十字架を肩に担ぎ、それによって私の御前に至ることができるだろうか。見よ、私はそのためにあなたがたを地上に遣わしたのだ。それゆえ、あなたがたが使命を全うして私の御前に立つとき、あなたがたの帰還は実現する。この十字架こそが、約束された王国の門を開く鍵となるのだ。（67, 17-18）
198. わたしは、あなたがたにすべてを捨て去ることを求めてはいない。それは、わたしが「第二の時代」にわたしに従った者たちに求めたこととは異なる。 彼らの中には、両親を捨てた者もいれば、伴侶を捨てた者も

いた。彼らは家、故郷、漁船、網を捨てた――イエスに従うために、これらすべてを置き去りにしたのである。同様に、この時代にあなたがたが血を流す必要があるとも、私は言わない。（80, 13）

199. あなたがたは、精神的にも肉体的にも変容しなければならないこと、そして、先祖から受け継いだ多くの習慣や伝承が、霊化のための道を切り開くために、あなたがたの生活から消え去らなければならないことを理解せよ。（63, 15）

200. 現在、あなたがたは皆、「霊化」が何を意味するのかを理解しておらず、また、なぜ私があなたがたにこの内面の高揚を得るよう求めているのかも理解していない。私が何を求めているのかさえ明らかでないのに、どうして私の戒めに喜んで従い、従順でいられるだろうか。

201. しかし、師が弟子たちに鼓舞する理想を理解する者もおり、彼らは師の示唆に従うことを急ぐだろう。（261, 38）

202. もしあなたがたが、真に霊化の達人になりたいと願うのであれば、粘り強く、忍耐強く、学ぶ意欲を持ち、注意深くあるべきである。そうすれば、その道のりにおいて、徐々に自らの行いの実りを収穫する機会が与えられ、それによって、光であり、真の生への悟りである経験を積み重ねることができるからである。（172, 9）

203. 私は新たな教訓をもたらす。それによって、あなたがたは地上で霊的に生きることを、すなわち、神によって人間に定められた真の生活とは何かを学ぶことになる。

204. 私はすでに、あなたがたに「霊化」とは、偽善でも、宗教的狂信でも、超自然的な実践でもないと告げた。 霊化とは、魂と身体の調和、神と人間の法則の遵守、生活における質素さと清らかさ、父への絶対的かつ深い信仰、隣人を通して神に仕えることへの信頼と喜び、そして道徳と魂の完成という理想を意味する。（279, 65-66）

205. あなたがたは、「天の梯子の七段階」がどのような意味を持つのかと問うが、あなたの師は断言してこう言う。数字の七は霊性を意味する。それは、私が選民であるイスラエルに見たいと願う霊性である。

206. あなたがたは、すべての美徳と開花した能力をもって、私のところに来なければならない。あなたがたの成長の第七の段階、すなわち第七の階段において、あなたがたは にて私の元へ辿り着き、天があなたがたを迎え入れるためにその門を開くのを見るだろう。（340, 6）

207. まず理解すべきは、人々が完全な霊化に達しない限り、物質的な教会を必要とし、私の臨在を実感させるために、彫像や絵を目の前に置くことになるということだ。

208. 人々の霊化の度合い、あるいは物質主義の度合いは、彼らの宗教的崇拝のあり方によって測ることができる。物質主義者は地上の物の中に私を求め、もし自分の望む通りに私を見ることができないならば、私を目の前にしているという感覚を得るために、何らかの形で私を表現するのだ。

209. わたしを霊として理解する者は、自分の中に、自分の外に、そして周囲のあらゆるものの中にわたしを感じる。なぜなら、その者はわたしの神殿そのものとなっているからである。（125, 49-51）

210. 私に霊的な崇拝を捧げなさい。金や宝石で覆われた教会や祭壇を築く者たちのようにはなってはならない。長い巡礼の旅に出かけ、粗暴で残酷な鞭打ちによって自らを懲らしめ、口先だけの祈りや連祷の中でひざまずきながらも、なお私に心を捧げることのできない者たちのようにはなってはならない。 わたしは良心を通してあなたがたに戒めてきた。それゆえ、こう言うのだ。自分の行いを語り、それを誇示する者は、天の父の御前において何の功績もない。（115, 9）

211. わたしの律法を全うするためには、祈り、常に自分の魂を父のもとへ向けなければならない。

212. あなたがたは祈るために、むしろ孤独と静寂を求めるのを見てきた。祈りを通して霊感を得ようとする時や、私に感謝したい時には、そうするのは良いことだ。 しかし、同時に、どのような状況にあっても祈るべきだとも告げる。そうすれば、人生で最も困難な瞬間においても、平静と自制心を失わず、私の臨在への信仰と自分自身への信頼を保ちつつ、私の助けを求めることができるようになるからだ。（40, 34-35）

213. 静寂の中で、あなたの苦しみを私に語り、あなたの切なる願いを私に託しなさい。私はすべてを知っているが、あなたがたが、自分の精神と父との完全な対話を成し遂げられるようになるまで、少しずつ、自分自身の祈りを形作ることを学んでほしいと願っている。（110, 31）

214. あなたがたは、祈りがもたらす効果に気づき、魂の苦難を回避するためであれ、物質的な窮状の解決を願うためであれ、祈りを捧げる際にそこに内在する計り知れない力を理解するようになった。

215. 「父」という言葉を口にするだけで、あなたの全存在が震え、その愛が与える慰めに心が満たされるのを感じるのに十分であったことが、しばしばあったことを思い出してください。

216. あなたがたの心が私を心から呼び求めるたびに、私の霊

も喜びで震えることを知ってください。
217. あなたがたが私を「父」と呼ぶとき、その名があなたがたの内から湧き出る時、その声は天に届き、あなたがたは神の知恵から何らかの秘義を引き出すのである。（166, 49-51）
218. あなたがたは、願い求め、待ち、受け取ることを学ぶ必要があり、また、私があなたがたに与えるものを決して忘れずに伝えることを忘れてはならない。そこが最大の功徳である。日々、戦いで命を落とす人々のために祈りなさい。 私は、純粋な心で祈る者たちに対し、1950年より前に戦争で戦死した者全員が、霊的に光へと復活することを許す。（84, 53）
219. 今日、あなたがたはまだ弟子であり、私の教えを常に理解できるとは限らない。しかし、まずは心と想いを込めて神に語りかけなさい。そうすれば、神はあなたがたの存在の最も奥底で答えてくださるだろう。あなたがたの魂に語りかける神のメッセージは、明瞭で、賢明で、愛に満ちた声であり、あなたがたはそれを徐々に発見し、やがてそれに慣れていくことになる。（205, 47）
220. 私が、諸君の宗教団体のあらゆる輝き、権力、そして華やかさは消え去らなければならない、そしてそれが起これば、愛と真理に飢えた人々の群れが養われる霊的な食卓はすでに整えられている、と告げても、驚いたり憤ったりしてはならない。
221. 多くの人々は、この言葉を聞くと、それが私の言葉であることを否定するだろう。しかし、その時、私は彼らに問うだろう。なぜ憤るのか、そして一体何を守ろうとしているのか、と。彼らの人生か？ それは私が守る。私の律法か？ それについても、私が守っているのだ。
222. 恐れることはない。私の大義を守るために死ぬ者は誰一人としていないからだ。死ぬのは悪のみである。善と真実と正義は永遠に続くからである。（125, 54-56）
223. この科学的で唯物論的な世界が、再び霊性への傾倒を感じるなどとは、信じがたいことだとお考えか。私は言う。私の力は無限であるゆえ、信じがたいことなど何一つないのだ。内なる高揚、信仰、光、そして善は、魂にとって、あなたがたの身体にとっての飲食や睡眠よりも、はるかに切実な必要である。
224. たとえ精神の賜物、能力、資質が長い間眠っていたとしても、私の呼びかけによってそれらは目覚め、人々に、あらゆる奇跡と啓示を伴う霊性への回帰をもたらすだろう。それらは過去の時代よりもさらに偉大なものとなる。なぜなら、今やあなた方はそれらを理解する能力

をより備えているからだ。（159, 7-8）

発展

225. あなたがたが人間の肉体が発達していくのを見るのと同様に、魂もまたその人の中で展開していく。しかし、肉体はその発達において限界にぶつかるが、魂は完全性を達成するために多くの肉体と永遠を必要とする。それが、あなたがたの輪廻転生の理由である。

226. あなた方は、父なる神と母なる神の創造の霊から、純粋で、素朴で、清らかな種のように生まれ出た。しかし、誤解してはならない。純粋で素朴であることと、偉大で完全であることとは、同じことではないからだ。

227. これは、生まれたばかりの赤ちゃんと、子供たちを指導する経験豊富な大人とを比べることに例えることができる。

228. これが、あなたの魂が発達した時点で、人生のあらゆる段階におけるあなたの使命となるでしょう。しかし、あなたの魂の進歩はなんと遅いことか！（212, 57-60）

229. よく学び、深く考えなさい。なぜなら、ある人々は、「もしあなたの魂が私の神性の断片であるならば、どうしてそれが苦しむことがあり得るのか」という考えに戸惑っているからだ。また、もし霊の光が聖霊の光の火花であるならば、どうしてそれが一時的に闇に包まれることがあるのか。

230. この発展の道は、神に対して十分な功徳を積むためのものであることを悟りなさい。それによって、あなたがたは自分の魂を、無知で未発達な魂から、父の右に座する偉大な光の霊へと変えることができるのだ。（231, 12）

231. わたしはあなたがたに善であることを望む。さらに、あなたがたが完全になることを願っている。なぜなら、あなたがたは一見取るに足らない存在に見えるかもしれないが、永遠の命を持ち、わたしの光の火花であるゆえに、物質的なものや世界よりも偉大だからである。

232. あなたがたは霊的存在である。私がなぜあなたがたを完全性への道へと招くのかを理解するためには、霊とは何かを認識しなければならない。（174, 60）

233. あなたがたは発展の法則に服している。これがあなたがたの転生の理由である。ただ、私の霊だけは発展する必要がない。私は不変だからである。

234. 初めから、私は、魂が私のもとへ至るために登らなければならない階段を示してきた。今日、あなたがたは自分がどの存在の次元にいるのかを知らない。しかし、肉体を脱ぎ捨てたとき、自分の発展の段階を悟ることになるだろう。立ち止まってはならない。そうすれば、後

続する者たちの妨げとなるからだ。

235. たとえ異なる次元に住んでいようとも、霊において一致しなさい。そうすれば、いつの日か、七番目の、すなわち最も高い次元において、あなたがたは一つとなり、わたしの愛を享受することになるだろう。（8, 25-27）

236. 私は、あなたがたがただ一度だけ地上に来たのではなく、魂がその発展と完成のために必要とされるだけ、何度も肉体という器をまとってきたと語った。今、私は付け加えなければならない。目標に到達するまでの時間が短くなるか長くなるかは、あなたがたの願い次第であり、それにはあなたがた自身にもかかっているのだ。（97, 61）

237. あなた方のうち、この生以前に存在していなかったと証明できる者がいるだろうか。転生を繰り返していると絶対的に確信している者たちのうち、父との清算が済んでおり、なお「プラス」の功徳を保有していると証明できる者がいるだろうか。

238. 自分がどの段階の完成度に達しているかを知っている者は誰もいない。それゆえ、最後まで戦い、愛し、粘り強くあり続けなさい。（46, 58-59）

239. 私がこの新たな啓示をあなた方に与えるために必要だったのは、私が人間として人類に現れた時から、この時代に霊として再び来るまでの間に、あなた方が地球上で多くの転生を経ることでした。そうしてこそ、私があなた方に過去の教訓を問うたとき、また私が新たな啓示を授けたとき、 それを理解できるようになるためである。（13, 52）

240. あなたがたが世界に伝えるメッセージが、ますます明瞭に現れるための肉体を持つために、いったい何度、地上に戻らなければならないのだろうか。

241. この人生において、あなたがたの魂がヒバリのようにその春を体験し、それを喜び、そしてその巡礼の旅の中で、わたしのもとへ戻るために必要な経験を見出せるようにしなさい。

242. 富める者たちが、あまりにも儚い宝を蓄える一方で、あなた方は経験、すなわち真の知識を蓄えるべきである。（142, 72）

243. この時代、あなたがたは、あらゆる分野において物質化しているにもかかわらず、過去の転生で得た経験によって、以前より残酷さが減り、より高度に発達した人類の無知と戦うことになる。

244. 今日、もしあなたが、大多数の人々のように神への崇拝を理解せず、表現しない人を知ったとしても――たとえそれがあなたにとって異質であり、不快に感じられたとしても――もはやその人を生きたまま焼き殺

せと叫ぶことはないだろう。（14, 21-22）

245. あなたは、魂の輪廻転生について周囲の人々と話すことを恐れているのか。その中に含まれる慈愛に満ちた正義を、あなたは確信していないというのか。

246. この贖罪の形式を、地獄の絶え間ない炎による永遠の罰という形式と比較してみよ――それは、人類が人々の魂を威嚇するために用いる概念である。これら二つの種類のうち、どちらが、神聖で完全かつ慈悲深い正義という概念をあなたに伝えるか、私に告げよ。

247. 一方は残酷さ、限りない恨み、復讐を露わにしている。他方は、赦し、父なる愛、そして永遠の命を得るという希望のみを含んでいる。誤った解釈によって、私の教えがどれほど歪められてしまったことか！

248. 私は、あなたがたが教えることのために、あなたがたが戦わなければならないことを知っているからこそ、その戦いに備えさせているのだ。 しかし、もし今この時、あなた方に敵対している人々が死の訪れに驚かされ、彼らが罪の中に死んだ時、私が彼らに問うたとしたら――彼らが信じている永遠の炎と、新たな人生において自らを清める機会と、どちらを望むかと――まことに、 言っておくが、彼らは後者の選択肢を選ぶだろう。たとえ彼らが、狂信に目がくらんで、生前はその選択肢と戦っていたとしても。（120, 15-17）

249. 私が私の言葉の中であなた方に語ったように、魂の輪廻転生が真実であることを知るだけで十分であり、そうすれば、あなた方の心には光が灯り、あなたは私の慈愛に満ちた正義をさらに深く称賛するようになるだろう。

250. 各宗派がこれらの教えに対して提示してきた諸説や様々な解釈を比較し、最も正義に満ち、最も理にかなっているものを選びなさい。

251. しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。これは、この偉大な真理に対する内なる認識が覚醒しつつあるこの時代において、人々の精神を最も奮い立たせる啓示の一つである。（63, 76）

252. あなたがたは、魂の輪廻転生こそが、人類が知り、信じるべき偉大な真理の一つであることを確認しなければならない。

253. ある人々は、人間に対する私の慈愛に満ちた正義において欠けることのできないものとして、直感からそれを予感し、受け入れ、信じている。しかし、あなた方を神を冒涜する者や嘘つきと呼ぶ者も大勢いるだろう。

254. 心配するな。イエスが教えたように、死からの復活を説いたとき、私の使徒たちにも同じ

ことが起きたのだ。司祭や裁判官たちは、彼らがそのような教えを説いたために、彼らを牢獄に投げ込んだ。

255. その後、世の人々はその啓示を受け入れたが、彼らがその教えの真の意味を完全に理解できていなかったことは、私が断言できる。それゆえ、今この時に私が来て、あなた方にこう教えなければならないのだ。「肉の復活」とは、魂の転生を指すに過ぎない。なぜなら、魂こそが生命の本質であり、その根源であり、真に永遠なるものだからである。 死んだ肉体は、魂の儚い衣に過ぎないのに、一体何のために再びよみがえる必要があるというのか？

256. 肉体は大地に沈み、大地と混ざり合う。そこで肉体は浄化され、変容し、絶えず新たな生命として甦る。一方、 な魂はさらに上へと発展し、完全性に向かって進み続ける。そして魂が地上に戻る時、それは魂にとって人間としての生活への復活であり、またその新しい肉体の鞘にとっても、魂と結びついた復活なのである。

257. しかし、物質的なものは不滅の性質を持つものではないが、霊的なものはそうである。それゆえ、私が求めているのは、私が教え、私のもとに置きたいと願っているのは、あなた方の魂であると、私は改めて告げる。（151, 56-58）

258. あなたがたの魂は、私があなたがたの完成の機会として与えたにもかかわらず、あなたがたが活用しなかった人生によって作り出された鎖を、苦労して引きずっている。それぞれの存在が鎖の一つの環を成している。しかし、もしあなたがたが私のお教えに従って人生を歩み、律法を守るならば、もはや苦しむためにこの世に戻ってくることはないだろう。

259. もしあなたがたが、私の言葉を学ばずに時を浪費するなら、時そのものである私が、あなたたちを驚かせるだろう。学びなさい。そうしてこそ、私の業において、あなたたちにふさわしい場所を占めることができるのだ。 私は時間を超越しており、あなたがたが魂の向上に役立てるよう、この宝を授ける。私は、あなたがたの一生を通じて教えを授ける師である。（168, 250）

260. わたしの神性に関する誤解や意見の相違に終止符を打ちたい。あなたがたは皆、ただひとりの神から生まれたのだということを理解しなさい。（181, 63-65）

261. 宇宙を見つめ、その完全さと美しさのすべてを称えなさい。それは、主の子供たちがそこから霊感を受け、その中で父の姿を見るために創造されたのだ。あなたがたがこのように創造を捉えるならば、あなたがた

の思考は私の神性へと高められるだろう。（169, 44）

262. この時代の光は、人々の精神を覆っていた暗いベールを引き裂き、彼らを縛りつけ、真の道へと至ることを妨げていた鎖を打ち砕く。

263. まことに、私はあなたに告げる。私の教えがあらゆる知識分野の探求を禁じているなどと考えてはならない。なぜなら、あなた方の関心、賞賛、そして好奇心を呼び覚ますのは、他ならぬ私だからである。そのために、私はあなた方に思考能力を与えたのだ。それは、その能力が望む方向へと、何ものにも妨げられることなく進むためである。

264. 私は、あなたがたが自分の道で見かけるものを理解できるよう、知性の光を授けた。それゆえ、私はあなたがたに言う。発見し、探求せよ。しかし、私の神秘に踏み込む際の態度が、敬意と謙虚さに満ちたものであるよう注意せよ。そうすれば、それは真に許されることになる。

265. 私は、人々が書いた書物を知ることを禁じてはいない。しかし、あなたがたは、 つまずいたり、誤りに陥ったりしないよう、訓練を受けなければならない。そうすれば、人間がいかにしてその人生と闘いを始め、どれほど遠くまで来たのかを知ることになるだろう。

266. そうして準備が整ったなら、あなたがたは私の教えと啓示の泉に向かわなければならない。そうしてこそ、私はあなたがたに、待ち受ける未来と目標を示すことができるのだ。（179, 22 23）

267. 私は保証する。もしあなたがたが、関心と愛を持ってこれらの教えの真意を深く探求しようと決意するなら、一歩一歩進むごとに、霊的な知恵、完全な愛、そして神聖な正義という真の奇跡を発見することになるだろう。しかし、もしあなたがたがこれらの啓示を無関心に見るならば、それらが内包するすべてのものを知ることはないだろう。

268. あなたがたの多くが人生を送っているように、私の啓示を素通りしてはならない。すなわち、見ているようで見ておらず、聞いているようで聞いておらず、考えているようで理解していない、というように。（333, 11-12）

269. 私は、あなたがたが私の霊、あるいは霊的なものを、あたかも物質的な物体であるかのように調査することを望まない。科学者のように私を研究することを望まない。そうすれば、あなたがたは甚大かつ嘆かわしい誤りに陥ることになるからだ。（276, 17）

270. 私の教えのすべては、あなた方の本質に含まれるすべてのものをあなた方に明らかにす

ることを目的としている。なぜなら、この知識から、永遠なるもの、完全なるもの、すなわち神へと至る道を見出すための光が生まれるからである。（262, 43）

浄化と完成

271. 今日、あなたがたは、私がそれを和らげるようにと、その苦しみを私の前に差し出している。そして、まことに、私はあなたがたに告げる。これこそが私の使命であり、私がこのために来たのである。なぜなら、私は神の医者だからである。

272. しかし、わが癒しの香油があなたがたの傷に効力を発揮する前に、わが愛撫があなたがたに届く前に、自分自身に集中し、その痛みを吟味し、探求しなさい。それには必要な時間をかけて、徹底的に考え抜くのだ。そうして、この考察から、この試練が内包する教訓を、またそこに隠されている、あなたがたが知るべき真理を、引き出せるようにするためである。 この気づきは経験となり、信仰となり、真実の顔を見つめることとなり、多くの者にとって理解しがたい試練や教訓に対する説明となるだろう。

273. 痛みを、あたかもそれが手に取れるものかのように探求しなさい。そうすれば、その中に経験という美しい種、すなわちあなた方の存在における偉大な教訓を発見するでしょう。なぜなら、痛みはあなた方の人生における師となったからです。

274. 痛みを師と見なし、再生、悔い改め、改善のために痛みが発する警告の声を柔和に聞き従う者は、やがて幸福感、平安、そして健康を知るようになるだろう。

275. 自分自身を注意深く見つめ直せば、そこからどれほどの益が得られるかを実感するだろう。あなたは自分の欠点や不完全さを認識し、それを正すことで、他人を裁くことをやめるようになる。（8, 50-53）

276. 私が望むだけで、あなた方はすでに清められているだろう。しかし、もし私があなた方を清める者であったなら、そこにどのような功徳があるだろうか。誰もが私の律法に対する違反を償わなければならない。これこそが功徳である。なぜなら、そうすれば、その痛みがあなた方を思い出させてくれるため、将来、転落や過ちを避ける術を知ることになるからだ。

277. 犯した過ちとその当然の結果との間に、誠実な悔い改めが介在するならば、その痛みはあなたたちに及ばない。なぜなら、その時には、あなたたちはすでに、試練を謙虚に耐え抜くだけの強さを備えているからである。

278. 世界は極めて苦い杯を飲み干している。しかし、私は世界を罰してはいない。だが、その苦痛の後に、世界は私のもと

へやって来るだろう。私は彼らを呼んでいるのだ。そうすれば、かつて恩知らずであった者たちも、自らの存在を恵みで満たしてくれた御方に感謝することを知るようになるだろう。（33, 30-31）

279. 自分の肉体への過度な愛を捨て、自分の魂に憐れみを持ち、魂が清められ、高められるよう助けなさい。これを成し遂げれば、魂も肉体もどれほど強くなるかを体験することになるだろう。

280. 心に留めておきなさい。もし魂が病んでいるなら、どうして心に平安があるだろうか。そして、もし魂に良心の呵責があるなら、果たして平安を享受できるだろうか。（91, 72-73）

281. もしこの地が、あなたがたが望むすべてのものを与えてくれ、そこに大きな魂の試練が存在しなかったとしたら――そのとき、あなたがたのうち、誰が私の王国に来たいと願うだろうか。

282. 痛みを冒涜したり、呪ったりしてはならない。なぜなら、その痛みはあなたがたの過ちによって生み出されたものだからだ。忍耐をもってそれを背負いなさい。そうすれば、それはあなたがたを清め、わたしに近づく助けとなるだろう。

283. あなたがたは、この世の栄華や快楽にどれほど深く根ざしているか、気づいているか。さて、そこから離れたいという渇望が、非常に激しくなる時が来るだろう。

284. 精神を高揚させることによって試練に打ち勝つことができる者は、その克服の中に平安を見出す。地上で天を見上げて歩む者は、つまずくこともなく、また、その贖罪の道の茨に足を傷つけることもない。（48, 53-55）

285. 汝らの使命を果たせ！ 私が示した道を歩み終える前に、私のもとへ戻りたいと願ってはならない。そうすれば、贖罪の道のりを最後まで歩み終えなかったために、まだ洗い流されていない魂の汚れを目の当たりにするという苦痛を味わうことになるだろう。

286. 転生はあなた方の身から過ぎ去ったが、あなた方の多くは、父がそれによってあなた方に授けてくださった無限の恵みと愛を、十分に感謝しなかった。

287. よく考えてみよ。機会の数が多いほど、あなたの責任は重くなる。そして、その機会が活用されなければ、その機会の一つひとつごとに、贖罪の重荷と均衡の正義は増大する。これが、多くの存在が理解できない耐え難い重荷であり、私の教えだけがあなたに明らかにできるものである。（67, 46）

288. 人々が直面している試練は、彼らが今収穫している果実であり、彼ら自身の蒔いた種の結果である。その収穫は、時に

は前年に蒔いた種の結果であり、またある場合には、それより何年も前、あるいは他の転生において蒔いたものの果実である。（178, 2）

289. 不従順の結果が即座に現れるとは考えないでほしい――そうではない。しかし、私があなた方に告げるのは、遅かれ早かれ、あなた方は自分の行いに対して責任を問われるということだ。たとえ、時が過ぎても私の正義が何の兆候も示さなかったため、あなた方の過ちには何の結末もなかったかのように思えたことがあったとしても。

290. しかし、あなたがたはすでにわたしの言葉によって、わたしが裁き主として容赦がないこと、そしてあなたがたの裁きの時が来れば、あなたがたは良心の光に目を向けることになることを知っている。（298, 48）

291. ああ、私の声を聞く魂たちよ、この世の生活の問題があなた方の心に痕跡を残すことを許してはならない。ましてや、それによって屈服することなどあってはならない。あらゆる試練の中に含まれる光を求めて、それがあなた方を強く、節度ある者とする助けとなるようにしなさい。

292. もし魂が肉体を服従させることができなければ、肉体は魂を屈服させ、支配するだろう。それゆえ、魂は弱くなり、肉と共に死ぬのだと信じるようになるのである。（89, 11-12）

293. あなた方は人生において、全身を支配し、良心や道徳、理性の声を聞くことさえ不可能にしてしまうような、肉欲的な情熱を経験したことはあるだろうか。

294. これは、肉体に宿る悪の獣の誘惑と力が魂を打ち負かし、魂が深く落ち込んだときに起こったことである。

295. そして、その情熱から解放され、その影響を克服したとき、あなたがたは深い幸福感と深い平安を経験したのではないだろうか？

296. この平安と喜びは、魂が肉体に対して勝ち取った勝利に由来する――それは計り知れない闘い、すなわち「血みどろの」内なる戦いを経て勝ち取られた勝利である。 しかし、魂が新たな力を汲み取り、良心の促しと導きによって立ち直っただけで十分だった。そうして魂は、肉の衝動を制し、さらに破滅へと引きずり込まれることから自らを解放したのだ。

297. この葛藤、この自己犠牲、この自己との戦いの中で、あなたは、自分の内側に宿っていたものの、自分の人生そのものではなかった何かが死ぬのを見た。それは、ただ無意味な情熱に過ぎなかったのだ。（186, 18-19）

298. あなたがたは、最も強力な敵が自分自身の内にあることを悟りなさい。もしあなたがたがそれを打ち負かしたなら、使

徒ヨハネが語った「七つの頭を持つ竜」が、あなたがたの足の下にあるのを見るだろう。そうして初めて、あなたがたは真にこう言うことができるのだ。「私は主の御顔を見上げ、こう申し上げることができる。『主よ、私はあなたに従います』」と。 なぜなら、その時は、口先だけでなく、霊がそう語っていることになるからだ。（73, 20）

299. 間もなく、あなた方は、人生が人間に対して残酷なのではなく、あなた方自身が自分自身に対して残酷であることに気づくでしょう。あなた方は、理解の欠如ゆえに苦しみ、周囲の人々をも苦しめています。孤独を感じ、誰も自分を愛していないと思い込み、利己的になり、心を硬くしてしまうのです。（272, 34）

300. あなたがたが生きているこの人生のあらゆる苦しみは、人間の過ちの結果であることを理解しなさい。なぜなら、あなたがたを愛する私が、これほど苦い杯を差し出すはずがないからである。

301. 私は、太古の昔から、あなたがたが転落や破滅、そして「死」から身を守ることができる道として、律法を啓示してきた。（215, 65）

302. 今日、あなたがたはまだ、試練の意味を理解することができない。 あなたがたは、それらを不必要で、不公正で、理不尽なものだと考えている。しかし、あなたがたが年老いた時には、また、あなたがたがこの世の境界を越えて霊的な領域に住むようになった時には、それらの試練の一つひとつにどれほどの正義と節度があったかを、私はまだあなたがたに告げるだろう。（301, 44）

303. もう一度言っておくが、私はあらゆる思いや願いを感知している。一方、「この世」は、私の霊感を受け取ることもできず、その心の中に私の神聖な思いが輝き出すよう準備もしておらず、私が彼らの呼びかけに答えても、私の声を聞くこともできない。

304. しかし、私はあなた方を信頼し、信じている。なぜなら、私はあなた方を創造し、私の一片である霊魂と、私の姿に似た霊を授けたからである。

305. もし私が、あなたがたが完全になることを期待していないと告げるとしたら、それはあたかも、私の神聖な意志から生まれた最大の業において私が失敗したと宣言するようなものであり、それはあり得ないことである。

306. 私は、あなたがたが、その道で遭遇するあらゆる試練を乗り越え、魂が勝利を収める時代を生きていることを知っている。その後、魂は光に満ちて、新たな存在として生まれ変わるだろう。（238, 52-54）

この世とあの世

307. 自分自身を磨いておきなさい。死が準備もできていないあなたを不意打ちにするのを待ってはいけない。霊的な生活へと戻るその瞬間に、あなたは何を準備しているのか？ まだ物質や情欲、地上の所有物に鎖で縛られたまま、不意を突かれることを望むのか？道を見出せずに、目を閉じたままあの世へと入り、この生における疲れを魂に刻み込んで持ち去ることを望むのか？準備をしておきなさい、弟子たちよ。そうすれば、肉体的な死の到来を恐れることはないだろう。

308. この地上の谷を去らなければならないからといって嘆いてはならない。たとえそこに奇跡や栄光が存在することを知っていたとしても、真実を言えば、それらは霊的な生活の美しさの単なる反映に過ぎないのだ。

309. もしあなたがたが目を覚まさないならば――未知の光に照らされた新たな道の入り口に立ったとき、いったいどうするつもりなのか。

310. 涙を流さず、愛する人々の心に痛みを残すことなく、この世を去りなさい。その時が来たら、この世から離れ、魂の解放を物語る平安の微笑みを、その顔に残しなさい。

311. 肉体の死は、あなたに託された存在たちからあなたを引き離すものではなく、また、あなたの両親、兄弟姉妹、あるいは子供たちに対してあなたが負っている精神的な責任からあなたを解放するものでもない。

312. 愛のため、義務のため、感情のため、一言で言えば、魂にとって死は存在しないことを理解しなさい。（70, 14-19）

313. 死が訪れ、あなたがたがこの生における肉体の目を閉じる時、魂が自らの力で高みへと昇り、その功績によって到達した安息の地へと至るよう、熱心に努力しなさい。

314. この業の弟子たちは、肉体の死を迎える時、魂と肉体を結びつける絆がいかに容易に断ち切られるかを体験するだろう。地上の安楽を離れなければならないからといって、魂に痛みは生じない。 魂は、光と愛と平和を渇望して、人々の間を影のようにさまよい、戸口から戸口へ、心から心へと叩き続けるようなことはしない。（133, 61-62）

315. あなたがたは、永遠なるもの、美しいもの、善きもののみを喜びとするよう、魂を高めなさい。 もしそうしなければ、あなたがたが送ってきた生活によって物質化してしまった魂は、肉体や残すものすべてから解き放たれるために多くの苦しみを味わい、浄化が達成されるまで、しばらくの間、混乱と な激しい苦痛の中で（霊的な）空間をさまようことになるだろう。

316. 私の律法に従って生きなさい。そうすれば、死を恐れる

必要はない。しかし、時期尚早に死を呼び求めたり、願ったりしてはならない。死は常に私の命令に従うのだから、来るがままに任せておきなさい。死が訪れる時に備えを整えておけば、あなたは光の子として霊界へと入ることができるだろう。（56, 43-44）

317. あなたがたの家庭で平和に生き、そこを聖域としなさい。そうすれば、「霊的な谷」を迷いながらさまよう目に見えない存在たちが侵入したとき、彼らはあなたがたの内に、彼らが求めている光と平和を見出し、来世へと昇っていくであろう。（41, 50）

318. 霊の中で生きながらも、依然として物質的な目標に執着しているあなた方に、私はこう言う。もはやあなた方に属さないものから背を向けなさい。なぜなら、もし地球が人間にとって永遠の故郷ではないのなら、魂にとってはなおさらそうではないからだ。 あの世の「霊的な谷」では、光に満ちた生活があなた方を待っている。善の道を歩むことで、一歩一歩、そこにたどり着くことになるのだ。

319. 人間として私に耳を傾ける者たちよ、私はこう告げる。あなたがたが、この地上の旅路を共にするこの肉体を持ち続ける限り、それを大切にし、最期の瞬間まで保たなければならない。なぜなら、それは魂が頼る杖であり、戦うための道具だからである。 魂はこの肉体の目を通してこの人生を見つめ、その口を通して語り、同胞に慰めを与えることができるのだ。（57, 3）

320. 今、師はあなた方に問う。あなた方の死者はどこにいるのか、そしてなぜ、愛する者たちの去りゆくことを嘆き悲しむのか。 まことに、私はあなたがたに告げる。私の目には、誰も死んではいない。なぜなら、私はすべての人に永遠の命を与えたからだ。彼らは皆生きている。あなたがたが失われたと思っていた者たちは、私のところにいる。あなたがたが死を見たと考えるその場所には命があり、終わりを目にするその場所には始まりがある。 あなたがたがすべてが神秘であり、測り知れない秘密であると思うところには、永遠の夜明けのように輝く光がある。あなたがたが無であると思うところには、すべてがあり、あなたがたが大きな沈黙を予想するところには、「コンサート」がある。（164, 6）

321. 死があなたの肉体という殻の存在を終えるたびに、それは魂にとって休息のようなものである。魂は再び転生する際、新たな力とより大きな光を携えて戻り、未完だったあの神聖な教訓の学びを続けるのである。このようにして、時代を経て、あなたの魂である小麦は成熟していくのである。

322. 私は霊的な生活に関して多くのことをあなた方に啓示してきたが、今、あなた方がすべてを知る必要はなく、永遠の故郷へ至るために不可欠な事柄だけを知ればよいと告げる。そこでは、あなた方が知るべきすべてのことを私が告げるだろう。（99, 32）

323. 霊的な生活へと帰還し、地上で父が定めた使命を果たした者の至福を、あなたがたは想像できるだろうか。その者の満足と平安は、魂が人間生活において得ることのできるあらゆる満足よりも、はるかに無限に大きい。

324. そして、私はこの機会をあなた方に与える。それは、あなたがたが、その王国に帰還する際に喜びを得る者たちの仲間となり、深い動揺や後悔の中で苦しみ、泣く者たちの一員とならないためである。（93, 31-32）

325. この啓示の終わりはすでに近づいている。そして、それは、私と共に住む高次の霊的存在たちが用いる、創造主との「霊から霊への対話」の始まりによって、より高次の形で再開されるのである。（157, 33）

326. 私があなたがたに私の霊界について語る時、私は、真の僕として、主の御心が命じることをのみ行う、従順な霊的存在たちの大軍を意味している。

327. 私は彼らを、すべての人々のための助言者、守護者、医師、そして真の兄弟姉妹となるよう、あなた方の元へ遣わした。 彼らは、内に平安を宿しているため、不平を言わない。彼らは、長い道のりにおける彼らの成長と経験の光が、人々の知性を照らす権利を彼らに与えているため、問いを投げかけたりはしない。彼らは、助けを求める声やあらゆる苦難に対して、進んで、そして謙虚に駆けつける。

328. 彼らに、あなたがたの中に現れ、その指示と証し、そして励ましを与えるよう命じたのは、私である。彼らはあなたがたの前を歩き、道を清め、あなたがたが勇気を失わないよう、その援助を与えるのである。

329. 明日には、あなた方もまた、この光の軍勢の一員となるだろう。彼らは、霊的存在たちの無限の世界において、ただ人間の兄弟姉妹への愛から働き、それによって父を賛美し、愛しているという自覚を持って活動している。

330. もしあなたがたが彼らに似たいと願うなら、その存在を善に捧げなさい。平和とパンを分かち合い、困窮する者を愛をもって迎え入れ、病人と囚人を訪ねなさい。 真の道を求め、手探りで歩む人々の道に光を照らしてください。高潔な思いで無限の世界を満たし、不在の人々のために祈りなさい。そうすれば、その祈りが彼らをあなたに近づけてくれるでしょう。

331. やがて死があなたの心臓の鼓動を止め、あなたの瞳の光が消え去るとき、あなたは、その調和と秩序と正義によって素晴らしい世界へと目覚めるでしょう。そこであなたは、神の愛が、あなたのすべての行い、試練、そして苦しみを償うことができるのだと理解し始めるでしょう。

332. ある魂がその安息の地に至るとき、その魂はますます強い無限の平安に満たされるのを感じる。 そして直ちに、その魂は、まだその至福から遠く離れて生きている人々（ ）を思い出し、愛する者たちもまたその神聖な賜物を得られるようという切なる願いと憧れから、地上の兄弟姉妹たちの救済、幸福、そして平和のために戦い、働く霊的な大軍に加わるのである。（170, 43-48）

333. あなた方を絶えず脅かしている、混乱した存在たちの侵入に対して、この光の軍団が繰り広げる戦いを、いったい誰が想像したことがあるだろうか。あなた方が気づくことなく、両者が絶え間なく互いに繰り広げているこの戦いを、人間の目で見抜いた者は一人もいない。（334, 77）

334. ここに、私の業の続きを見よ。聖書に記されている通り、私の大いなる天使の群れに囲まれて、「第三の時代」に慰めの霊として私が到来するのだ。

335. 私の従者であるこれらの霊的存在たちは、私があなた方に約束した慰めの一部を体現しており、彼らの有益な助言や徳の模範を通して、あなた方はすでに彼らの慈悲と平安の証を受け取っている。私は彼らを通してあなた方に恩恵を与え、彼らはあなた方と私の霊との間の仲介者となってきた。

336. あなたがたは、彼らに固有の恵みの賜物と謙虚さを目の当たりにしたとき、彼らがあなたがたの人生において成し遂げたのと同じような、清らかな行いをするよう促されたと感じた。彼らがあなたがたの家を訪れたとき、あなたがたは彼らの霊的な臨在によって光栄に感じた。

337. もしあなたがたが彼らの寛大さを認識したのなら、祝福あれ。しかし、師はこう告げる。彼らは最初から徳の高い存在だったとでも思っているのか？彼らの多くが地上に生きたこと、そして弱さや重大な過ちを知ったことを、あなたがたは知らないのか？

338. しかし、今、彼らを見てごらん。彼らにはもはや何の欠点もない。それは、彼らが良心の声に耳を傾け、愛に目覚め、かつての過ちを悔い改めたからである。あの試練の炉の中で、彼らは清められ、高みへと昇るにふさわしい者となり、今日、人類に奉仕することで、私に奉仕しているのだ。

339. 彼らの霊は、愛から、隣人を助けるという使命を引き受けました。それは、彼らが地上にいた時に果たせなかったことをすべて償うためであり、また、神からの贈り物として、かつて蒔かなかった種を蒔き、かつて行った不完全な行いをすべて取り除く機会を捉えたのです。

340. それゆえ、今、あなた方は彼らの謙虚さ、忍耐、そして柔和さに驚きを覚え、時折、彼らの償いのために彼らが苦しむのを見てきた。しかし、彼らが直面する障害よりも大きな彼らの愛と知恵は、すべてを乗り越え、彼らは自己犠牲に至るまで覚悟している。（354, 14-15）

341. あなたがたは、地上に来るために去った霊的な故郷を、少しは予感しているだろうか。「いいえ、師よ」とあなたがたは私に言う。「私たちは何も予感せず、何も覚えていません。」

342. そう、民よ、あなたがたが清らかさと無垢さから遠ざかってから、あまりにも長い時が経ってしまったため、あの平和な存在、あの幸福な状態を想像することさえできなくなってしまったのだ。

343. しかし今、あなたがたは霊の声を聞き、霊からの啓示を受け取るよう訓練されたのだから、わたしに向き合う者たちを約束の王国へと導く道は、あなたがたにとって手の届くところにある。

344. それは、「最初の人々」が去ったあの平和の楽園ではなく、霊の無限の世界、すなわち知恵の世界、真の霊的至福の楽園、愛と完全性の天国である。（287, 14-15）

神の啓示

345. すべての存在の父が、今この瞬間にあなた方に語りかけている。あなた方を創造した愛は、この言葉を聞く一人ひとりの内に感じられる。（102, 17）

346. あなたがたに語りかけているのは、唯一存在する神である。あなたがたは、神がシナイ山でその力を示し、律法を啓示されたとき、その神を「エホバ」と呼んだ。また、その神の中に私の言葉があったゆえに、あなたがたはイエスと呼んだ。そして今日、私が真理の霊であるゆえに、あなたがたは聖霊と呼んでいる。（51, 63）

347. 私が父としてあなた方に語りかける時、律法の書があなた方の前に開かれる。私が師としてあなた方に語りかける時、それは私が弟子たちに示す愛の書である。 私が聖霊としてあなた方に語りかける時、それは私の教えによってあなた方を照らす知恵の書である。これらは一つの教えを成す。なぜなら、それらは唯一の神から来ているからである。（141, 19）

348. 神は光であり、愛であり、正義である。その生涯においてこれらの特質を現す者は皆、

その主を体現し、主を称えることになる。（290，1）

349. イエスには常に病める者や悲しむ者たちが群がっていたからといって、私が貧しさや悲しみの神であるなどと言ってはならない。 確かに、私は病める者、悲しむ者、貧しい者たちを求めますが、それは彼らを喜び、健康、そして希望で満たすためなのです。なぜなら、私は喜び、命、平和、そして光の神だからです。（113，60）

350. そう、民よ、私はあなたがたの始まりであり終わりであり、アルファでありオメガである。とはいえ、私はまだ、あなたがたの霊のために用意しているすべての教えを、あるいは啓示を、あなたがたに伝えているわけではない。それらは、あなたがたがこの世からすでに遠く離れた後に初めて知ることになるのだ。

351. 私は今の時代に、多くの新しい教訓をあなた方に啓示するだろう。しかし、私は、あなた方が驕ることなく、また人々に対して高慢な優越感を抱いて振る舞うことなく、 、受け入れることができる範囲のものだけを与えるつもりだ。 あなたがたも知っている通り、自分の行いに誇りを持つ者は、まさにその誇りによってそれを破壊してしまう。それゆえ、私はあなたがたに、静かに働くよう教えたのである。そうしてこそ、あなたがたの行いは愛の実を結ぶのだ。（106，46）

352. あなたがたは、まだ多くの啓示を理解することができていない。それらは、あなたがたの知識の一部となるよう定められているものであり、人々は、その知識は神のみに属するものだと考えてきた。誰かがそれらを解釈したり、その奥義を探ろうとする意志を示した途端、その人は即座に神を冒涜する者と呼ばれたり、傲慢であると見なされたりするのだ。（165，10）

353. あなたがたは、私の霊感や呼びかけを受け入れられるようになるために、まだ多くを学ばなければならない。 あなたがたは、誰が呼びかけているのか理解できないまま、霊的な波動をどれほど頻繁に感じ取ってきたことか！その「言葉」は、あなたがたにとってあまりにも不可解なため、理解することができず、結局、霊的な現れを幻覚や物質的な原因のせいにしてしまうのである。（249，24）

354. 私がすべての被造物の主であるにもかかわらず、あなたがたの間に出現し、愛を求めていることを不思議に思うな。私は柔和と謙遜の神である。 私は自分の偉大さを誇示したりはせず、むしろ、あなたの心に近づくために、私の完全さと威光を隠しているのだ。もしあなたが私のすべての栄光を見たら――あなたは自分の過ちをどれほど嘆き泣くだろうか！（63，48）

355. わたしがあなたがたにとても近くにいることを感じてほしい。その証拠を、わたしはあなたがたの人生の困難な瞬間に与えている。あなたがたが心の中にわたしの住まいを備え、その中でわたしの臨在を感じられるようにすることが、わたしの願いであった。

356. 私があなた方の内におりながら、どうして私を感じることができないのか。ある者は自然の中に私を見出し、ある者は物質の彼方でのみ私を感じるが、まことに、私はあなた方に告げる。私は万物の中に、そして至る所にいるのだ。私があなた方の内にもいるというのに、なぜいつも自分たちの外で私を探そうとするのか。（1, 47-48）

357. たとえこの世に宗教が存在しなかったとしても、あなたがたは自らの存在の根源に意識を集中するだけで、内なる神殿において私の臨在を見出すことができるだろう。

358. また、私はあなたがたに告げる。人生が差し出すあらゆるものを観察するだけで十分であり、その中に、絶えず最も美しいページと最も深い教えを示してくれる「知恵の書」を見出すことができるのだ。

359. そうすれば、世界が心の中に正しい道を宿しているにもかかわらず迷い、また、これほど多くの光の中に生きながら無知の闇の中をさまよっていることが、いかに正しくないか、あなたがたは理解するだろう。（131, 31-32）

360. 今日、私の普遍的な言葉は、すべての人々の耳に届き、こう告げている。「私はあなた方一人ひとりの内にいるが、神は人間の中にのみ存在すると言う者はいないように。なぜなら、神の内に存在するものは、すべての存在と被造物そのものだからである。」

361. 私は主であり、あなたがたは私の被造物である。私はあなたがたを僕とは呼ばず、子と呼びたい。しかし、私が万物の上に立っていることを悟れ。私の意志を愛し、私の律法を守りなさい。私の定めには、いかなる不完全さも誤りもあり得ないことを自覚せよ。（136, 71-72）

362. わたしは、あなた方を愛し、また愛されていると感じられるために、あなた方を創造した。あなた方はわたしを必要としているのと同様に、わたしもあなた方を必要としている。わたしがあなた方を必要としていないと主張する者は、真実を語っていない。もしそうであったなら、わたしはあなた方を創造しなかっただろうし、大きな愛の証であるあの犠牲によってあなた方を救うために人間になることもなかっただろう。わたしはあなた方を滅びさせることもできたのだ。

363. しかし、あなたがたは、私の愛によって養われているな

らば、同じものをあなたがたの父に捧げるのが当然であることを認識しなければならない。なぜなら、私は繰り返しあなたがたにこう言っているからだ。「私は渇いている、私はあなたがたの愛を渇望している。」（146, 3）

364. どうして、より多く苦しむ者を、私がより愛していないなどと思えるのか。どうして、自分の痛みを、私があなた方を愛していないという証拠だと見なせるのか。私がまさにあなた方を愛しているからこそ来たのだということを、もし理解してくれたら！ 私は、義人はすでに救われており、健康な者は医者を必要としない、とあなた方に言わなかったか。もしあなたがたが病んでいると感じ、良心の光の中で自己点検を行い、自分たちが罪人であると認めるならば、私が探し求めて来たのは、まさにあなた方であることを確信しなさい。

365. もしあなたがたが、神が時折涙を流されたと信じるなら、それは確かに、天の御国を喜んでいる人々のためではなく、迷い、あるいは泣いている人々のためであったに違いない。（100, 50-51）

366. わたしの父の家は、あなたがたのために整えられている。あなたがたがそこに来れば、真にそれを喜ぶことになるだろう。自分の子供たちが、まるで物乞いのように自分の家の門の前に立っていることを知っていながら、どうして父が王宮の部屋に住み、ご馳走を味わうことができようか。（73, 37）

367. 律法を学び、善を愛し、愛と慈悲を行動に移し、あなたの霊が故郷へと昇るための聖なる自由を与えなさい。そうすれば、あなたはわたしを愛するようになる。

368. わたしのもとへ至るために、どのように行動し、どのような在り方であるべきか、その完全な模範を求めますか。イエスを模範とし、イエスの中にわたしを愛し、イエスを通してわたしを求め、イエスの神聖な足跡をたどって、わたしのもとに来なさい。

369. しかし、あなたがたは、イエスの肉体的な姿や像を愛してはならないし、ましてや、儀式や外的な形式によってイエスの教えの実践に代えてはならない。そうしなければ、あなたがたは永遠に、互いの相違や敵意、そして狂信の中に留まり続けることになるからだ。

370. イエスの中に、しかしその霊と教えの中に、わたしを愛しなさい。そうすれば、あなたがたは永遠の律法を成就することになる。なぜなら、キリストの中には、正義と愛、そして （知恵）が一体となって結ばれており、それによってわたしは人類に、その霊の存在と全能を明らかにしたからである。（1, 71-72）

人間とその使命

371. あなたがたは、すでに長い間、わたしにすがっていません。あなたがたは、自分たちが本来何者であるかを忘れてしまいました。それは、あなたがたが、創造主があなたがたの中に授けた多くの資質、能力、そして賜物が、自分たちの内面で眠ったまま活用されないままにしておくことを許してしまったからです。 あなたがたは魂と精神に関して眠っている。しかし、まさにその精神的な資質の中にこそ、人間の真の偉大さがあるのだ。あなたがたは、この世に生まれ、この世で滅びる存在のように生きている。（85, 57）

372. 師は、愛する弟子たちよ、あなた方に問う。この世において、あなた方のものは何なのか。あなた方が所有するすべてのものは、父が与えたものであり、あなた方の心臓が鼓動する限り、この地上を歩む間、それを用いるためである。 あなたがたの霊は私の神性から生まれ、天の父の息吹であり、私の霊の一粒の具現である。また、あなたがたの肉体も私の法則に従って形作られ、私がそれをあなたがたの霊の道具として託したのである。それゆえ、愛しき子らよ、あなたがたに属するものは何もない。 すべての被造物は父のものであり、父は一時的にあなた方をその所有者としたのである。あなた方の物質的な人生は、永遠の中の一歩に過ぎず、無限の中の一筋の光に過ぎないことを思い出せ。それゆえ、あなた方は永遠であり、決して死なないもの、すなわち魂に注意を払わなければならない。（147, 8）

373. 霊が理性を導くべきであり、人間的な偉大さを求める心によってのみ導かれる理性は、あなた方の人生を支配してはならない。

374. よく考えてみよ。もしあなたがたが、脳が命じることに支配されようとするならば、脳に過度の負担をかけ、その微力な能力が許す範囲を超えることはできないだろう。

375. 言っておく。なぜ善を行うようにと感化されたのか、なぜあなたの心が隣人愛に燃え上がるのかを知りたいのなら、あなたの心と理性の力を霊に導かせてみよ。そうすれば、あなたは父の力の前において驚嘆することになるだろう。（286, 7）

376. 正しいのは、御霊が人間の知性に知恵を啓示することであり、知性が御霊に「光」を与えることではない。

377. 多くの者は、私がここで語っていることを理解できないだろう。それは、あなたがたが長い間、人生の秩序を逆転させてきたからである。（295, 48）

378. 弟子たちよ、霊化によって良心がより明瞭に現れるようになることを知れ。そして、こ

の賢明な声を聞く者は、惑わされることはない。

379. 良心と親しくなりなさい。それは友好的なる声であり、主がご自身の光を透かして輝かせる光である――父としてであれ、師としてであれ、あるいは裁き主としてであれ。（293, 73-74）

380. 私の言葉を繰り返し読むことに、たゆまぬ努力を注ぎなさい。それは、目に見えない彫刻刀のように、あなたがたの人格の鋭い角を滑らかにする役割を果たし、あなたがたが、周囲の人々の最も困難な問題に自ら取り組む準備が整うまで、その働きを続けるでしょう。

381. あなたがたは、彼らの中に、その原因が実に様々であるかもしれない苦しみ、贖罪の義務、償いの義務を見出すことになるだろう。その起源が特に理解しにくいものはない者もいるが、一方で、あなたがたが直感や啓示、透視によってのみ解明し、同胞を重い重荷から解放できる者もいるだろう。

382. これらの霊的賜物は、それを行使する者が隣人への愛に導かれている場合にのみ、その奇跡をもたらすのである。（149, 88）

383. 私と私の業においてはすべてが自然なことであるにもかかわらず、なぜ人々は「超自然的」などと言うのか。むしろ、人間の邪悪で不完全な行いこそが「超自然的」なのではないか。なぜなら、彼らが何から生まれ、どのような性質を持ち、その内に宿しているかを考えれば、彼らが常に善行を行うことこそが自然なはずだからである。 私においては、すべてに単純かつ深い説明があり、何も闇の中に残されることはない。

384. あなたがたは、理解できないものや、謎に包まれていると見なすものをすべて「超自然的」と呼んでいる。しかし、あなたがたの魂が功徳によって高みへと達し、以前は見ることができなかったものを見、発見するようになれば、創造のすべてが自然であることを悟るだろう。

385. もし数世紀前に、現代の人類が成し遂げるであろう進歩や発見を人々に告げていたなら、科学者たちでさえ疑い、そのような驚異を「超自然的」なものとして見なしただろう。しかし今日、あなたがたは成長し、人類の科学の進歩を段階を追って追ってきたため、たとえそれらを称賛するとしても、自然の営みとして捉えている。（198, 11 12）

386. 私はあなた方に言わなければならない。魂が発展するために、必ずしも人間の肉体やこの世での生活が必要だとは考えないでほしい。しかし、魂がこの世で受ける教訓は、その完成にとって大いに有益である。

387. 肉体は、魂の発達、経験、贖罪、そして闘いにおいて魂

を助ける。これこそが肉体に課せられた役割であり、私が人間の脳を借りて、私のメッセージを伝えるための受信機として用いている、この私の神性の顕現において、あなたがたはそれを確認することができる。 理解せよ、 、霊的なものに向いているのは魂だけではない、物質界における最も小さなものでさえ、霊的な目的のために創造されたのだということを。

388. 私は、あなた方の魂に対し、思考のきっかけと呼びかけを送る。それは、魂が、自らを支配している物質的なものの影響を乗り越え、直感という賜物を使って、その光を心と理性へと届けるためである。

389. この私の光は、あなたの魂にとって解放への道であり、この私の教えは、人間的な生活を超越し、すべての行いの舵取りとなり、感情の主人となり、低俗な情欲の奴隷でも、弱さや苦難の犠牲者でもないようになるための手段をあなたに提供するものである。（78, 12-15）

390. 私以外に、魂を支配し、その運命を決定できる者がいるだろうか。誰もいない。それゆえ、支配への欲望から主の座を奪おうとした者は、自らの気まぐれ、気性、権力欲、虚栄心に見合った王国を自ら築くことになる――それは物質、低俗な情欲、そして卑しい感情の王国である。

391. 良心を抑圧することはできない。なぜなら、そこには完全な正義があるからだ。魂においては、高貴な感情を支配するのは清らかさだけであり、それらを動かすのも善だけである。一言で言えば、魂は真実と善によってのみ養われるのである。（184, 49-50）

392. 私は、人間を喜ばせるために地上のすべての被造物を造ったのだから、それを常に自分の益のために用いなさい。しかし、自然が提供するすべてのものを、どの範囲内で利用してよいのかを示す声が、あなた方の内にあることを忘れてはならない。そして、この内なる声に従わなければならない。

393. あなたがたが、自らの存在をより快適にするために、身体のために住まい、保護、糧、そして満足を求めているのと同様に、魂にとっても、その幸福と向上に必要なものを与えなければならない。

394. もし魂が、その真の故郷がある高次の領域へと惹かれるならば、それを昇華させてやりなさい。魂を閉じ込めてはならない。なぜなら、魂は養いを受け、力を得るために、わたしを求めているのだから。 私はあなたに告げる。あなたがそのように魂を解放するたびに、魂は幸せに肉体の殻へと戻ってくるだろう。（125, 30）

395. 魂は生きたいと願っている。不死を求めており、自らを清

め、浄化したいと望んでいる。知識への飢えと、愛への渇きを抱いているのだ。彼女に考え、感じ、行動させるがよい。あなたがたが持つ時間の一部を、彼女自身のために使うことを許しなさい。そうして、彼女が自己を表現し、その自由の中で活力を得ることができるように。

396. あなたがたがこの世で持っているすべてのものの中で、この人生の後、残るのは魂だけである。魂が美徳と功績を積み重ね、それらを自らの内に と守り抜けるようにさせよ。そうすれば、解放の時が来たとき、魂が約束の地の門の前で貧しい魂として立ち尽くすことのないように。（111, 74-75）

397. わたしは、もはやあなたがたに贖罪や苦痛を望まない。わたしのすべての子供たちの魂が、星々が大空を美しく飾るように、その光でわたしの王国を照らし、あなたがたの父の心を喜びで満たすことを望む。（171, 67）

398. 私の言葉は、長い間両者の間に敵意が存在してきたため、魂と肉体を和解させるであろう。そうして、あなたがたが、魂の成長の道の妨げであり誘惑であると見なしてきたその肉体が、地上での任務を果たすための最良の道具となり得ることを悟らせるためである。（138, 51）

399. あなたがたが私の指示を容易に果たせるよう、魂と肉体の間に調和が保たれるようにしなさい。愛をもって肉体を従順にし、必要であれば厳しさも用いなさい。しかし、その過程で肉体に残酷な仕打ちをしないよう、狂信によって目が曇らないよう注意しなさい。あなたがたの存在を、一つの意志へと統合しなさい。（57, 65）

400. 私は、あなたがたに魂を清めるだけでなく、身体も強めるよう告げている。そうすれば、あなたがたから生まれる新しい世代は健康であり、その魂は困難な使命を果たすことができるからだ。（51, 59）

401. 私は、あなたがたが唯一の神を信じる家庭を築くことを望む――愛と忍耐と自己犠牲を実践する、神殿のような家庭を。

402. そこでは、あなたがたは子供たちの教師となり、彼らを慈しみと理解をもって包み込み、彼らの歩みの一つひとつを慈愛を持って見守らなければならない。

403. 美しさに恵まれた者にも、一見醜いと思われる者にも、等しく愛を注ぎなさい。美しい顔は、必ずしも同様に美しい魂の反映であるとは限らない。それに対し、一見醜いと思われる者たちの背後には、あなたがたが高く評価すべき、美徳に満ちた魂が隠されているかもしれない。（142, 73）

404. あなた方の後に続く世代、すなわちあなた方の子供たち

のことを真剣に考えてください。あなたがたが彼らに肉体を与えたのと同様に、信仰、徳、そして霊性という精神的な命を与える義務もまた、あなた方にはあるのです。（138, 61）

405. 家族の徳と家庭の平和を守りなさい。最も貧しい人々でさえ、この宝を所有し得ることを見なさい。

406. 人間の家族は霊的な家族の具現化であることを悟りなさい。その中で、男性は父となり、それによって天の父と真に似通うようになる。母性的な心とな優しさに満ちた女性は、神聖な母の愛の写しであり、二人が共に築く家族は、創造主の霊的な家族の具現化である。

407. 家庭は、両親が自らを磨く用意があるならば、あなたがたが私の律法を履行することを最もよく学べる神殿である。

408. 親と子の運命は、私の中にある。しかし、双方とも、互いの使命と贖罪の義務において、互いに助け合うことが求められる。

409. もしすべての親と子が互いに愛し合えば、十字架はどれほど軽くなり、存在はどれほど耐えやすいものになるだろうか！最も厳しい試練も、愛と理解によって和らげられるだろう。神の御心に対する彼らの服従は、平安という報いを受けることになるだろう。（199, 72-74）

410. あなた方を囲む魂たち、そしてあなた方の人生の道で交差する魂たちを観察しなさい。そうすれば、彼らの美徳を評価し、彼らがあなた方に伝えるメッセージを受け入れ、あるいは彼らがあなた方から受けるべきものを彼らに与えることができるようになるだろう。

411. なぜ、運命があなたの道に置いた隣人たちを軽んじたのか。あなたは、彼らがあなたに伝えるはずだった教えを学ぶことなく、心の扉を彼らに閉ざしてしまったのだ。

412. しばしば、あなたがたは、まさに自分の魂に平和と慰めのメッセージをもたらす者を遠ざけておきながら、自分の杯を苦しみで満たしてしまったと嘆くのである。

413. 人生には予期せぬ変化や驚きが伴う。もし明日、今日あなたが傲慢にも追い払ったその人を、切実に探し求めなければならないとしたら、あなたはどうするつもりか。

414. 今日拒絶し、軽蔑した者を、明日、切望して探し求めなければならない可能性があることを心に留めなさい。しかし、その時にはすでに手遅れになっていることが往々にしてあるのだ。（11, 26-30）

415. 宇宙は、なんと美しい調和の模範をあなた方に示していることか！生命に満ちて宇宙空間を揺らめく輝く天体、その周囲を他の天体が周回している。私は、魂に生命と温もりを与える、輝く神聖な天体である。し

かし、定められた軌道上を動く者はいかに少なく、その軌道から遠く離れて周回する者はいかに多いことか！

416. あなたがたは、物質的な星々には自由意志がない、一方で、まさにその自由意志こそが人間を道から迷わせたのだ、と私に言うかもしれない。それゆえ、私はあなたがたに言う。自由意志という賜物があるにもかかわらず、創造主との調和の法則に従うことを知っていた魂にとって、その闘いはどれほど称賛に値するものとなるだろうか。（84, 58）

417. この霊的な教えの弟子と自称する者は、物質的な生活において貧しく、他者が豊かに享受している多くの快適さを欠いていること、あるいは な欠乏や苦難に苦しんでいることについて、父に不平を言ってはならない。これらの嘆きは、あなたがたも知っているように、ただ一つの存在しか持たない物質的な性質から生じているのだ。

418. あなたの魂には、父にそのような言葉を口にする権利も、不満を示す権利も、自らの運命に抗う権利もない。なぜなら、すべての魂は、地上における長い発展の道のりにおいて、経験、喜び、そして人間的な満足というあらゆる段階をすでに経てきたからである。

419. 魂の霊化は、すでに長い間始まっている。その助けとなるのが、あなたがたの心が耐えることを拒み、苦しむことを嫌がる、あの痛みと貧困である。あらゆる精神的・物質的財産には意味があり、あなたがたはそれを認識しなければならない。そうして初めて、どちらの価値も否定することなく、正しく受け入れることができるのだ。（87, 26 27）

420. すべての人間、すべての被造物には、放棄してはならない定められた場所がある。しかし、同様に、自分にふさわしくない場所を占めてはならない。（109, 22）

421. なぜ未来を恐れるのか。過去において魂が積み重ねてきたすべての経験を、無駄にしてしまいたいのか。収穫もせずに、種を放置しておきたいのか。いいえ、弟子たちよ。 誰も自分の運命を変えることはできないが、勝利の時を遅らせたり、どの道を進もうとも避けられない苦難を増大させたりすることはできるのだ、と心に留めておきなさい。（267, 14）

422. 父の御国はすべての子供たちの相続地であり、この恵みは魂の偉大な功績によってのみ得られるものである。私は、あなたがたが、私により近づけるその恵みを獲得することが不可能だとは考えないことを望む。

423. 私の言葉の中で、あなたがたが「約束の地」に到達するには多大な努力と苦労が必要であると聞かされても、悲しむことはない。喜びなさい。なぜな

ら、その目標に向かって人生を歩む者は、失望することもなければ、裏切られたと感じることもないからだ。 その人は、世の栄光を追い求め、多くの苦労の末にそれを得られない多くの人々や、あるいはそれを得たものの、やがてそれが消え去り、何も残らなくなるのを見て苦しむ人々のような運命をたどることはない。（100, 42-43）

424. わたしは、あなたがたの永遠の至福への扉を開く鍵を授ける。その鍵とは、愛であり、そこから慈悲、赦し、理解、謙遜、そして平和が湧き出る。あなたがたは、これらをもって人生を歩むべきである。

425. 精神が物質を支配し、聖霊の光に喜びを見出すとき、その精神の幸福はなんと大きなものであろうか！（340, 56-57）

426. この地球は、これまで常に、病み、疲れ、動揺し、混乱した魂、あるいは成熟度の低い魂をあの世へと送り出してきたが、まもなく、私の愛にふさわしい実を私に捧げてくれるだろう。

427. あなたがたが健全で高揚した生活を送るならば、病気や痛みはますますあなたがたの人生から遠ざかっていく。そうして死が訪れたとき、死はあなたがたが霊的な故郷への旅の準備を整えているのを見出すだろう。（117, 24-25）

428. ああ、私が特にこの言葉を向けている魂たちよ、落胆してはならない。私の道を粘り強く歩み続ければ、あなたがたは平安を知るようになる。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは皆、至福を体験するよう定められているのだ。もしあなたがたが、私と共に天の国を分かち合うために創造されていなければ、私はあなたがたの父ではないだろう。

429. しかし、忘れてはならない。あなたがたの至福が完全なものとなるためには、あなたがたの魂がその神聖な報いに値すると感じられるよう、一歩一歩、功徳を積み重ねていくことが必要である。

430. 私があなた方に寄り添い、その道のり全体を通して共に歩んでいることを悟りなさい。私の使命はあなた方の使命と一つであり、私の運命はあなた方の運命と一つであることを自覚し、私を完全に信頼しなさい！（272, 61）

悪徳、過ち、迷い

431. 人生においてこれ以上過ちを犯さないよう、私の教えを理解しなさい。なぜなら、言葉であれ行いであれ、あなたがたが隣人に与えるあらゆる傷は、あなたがたの良心の中に消えることのない記憶として残り、容赦なく非難し続けることになるからだ。

432. 神の計画が成就し、人間たちの間に広がるこの甚大な精神的苦しみが終わりを迎えるた

めには、あなたがた一人ひとりが必要とされているのだと、私は改めて告げる。

433. 利己心が存在する限り、苦しみもまた存在する。あなたがたの無関心、利己心、そして軽蔑を、愛と憐れみに変えなさい。そうすれば、いかに早く平和があなたがたのもとに訪れるかを体験することになるだろう。（11, 38-40）

434. 人間としての生活の中で進歩を求めなさい。しかし、過度な野心に支配されてはならない。そうすれば、自由を失い、物質主義に奴隷にされてしまうからだ。（51, 52）

435. わたしはあなたがたの過ちを赦すが、同時に、あなたがたの心から利己心を追い出すよう、あなたがたを正す。なぜなら、それは魂を最も深く引きずり下ろす弱点の一つだからである。

436. 私は良心を通じてあなた方に呼びかけ、兄弟姉妹としての義務を思い出し、私が「第二の時代」に教えたように、その道のりに愛の行いと赦しを蒔くように促す。（300, 29）

437. 今日、物質の力と世の影響が、あなた方を利己主義者に変えてしまった。しかし、物質は永遠ではなく、世とその影響もまた永遠ではない。そして、私は忍耐強い審判者であり、その正義は、生と な時の主である。私を否定する者たちを裁いてはならない。そうすれば、私はあなた方を彼らよりも有罪と見なすことになるからだ。

438. 私が声を高らかにして、私を処刑した者たちを非難したことがあっただろうか？私は彼らを愛と優しさをもって祝福しなかったか？もしあなたがたが、この過ちのために一時的にこの世で迷い込んだ者たちの多くが、今日では清められて霊界にいるということを理解してくれたらよいのだが！（54, 47-48）

439. また、隣人の隠された感情を暴こうともしないでほしい。なぜなら、あらゆる存在の中には、私だけが知ることを許された秘密が存在するからだ。しかし、もしあなたがたが、兄弟にのみ属するものであり、あなたがたにとって神聖であるべきものを発見したとしても、それを公にしたり、そのベールを引き裂いたりしてはならない。むしろ、そのベールをより厚くすべきである。

440. 私は、人々が兄弟の心に侵入し、その道徳的あるいは精神的な弱点を見つけ出し、それを楽しんだ挙句、すぐにそれを公にしてしまうのを、何度見てきたことか。

441. 他人の私生活をこのように冒涜した者は、誰かが自分の人生の道で自分をさらしものにし、嘲笑しても、驚くべきではない。その者は、自分を測っているのは正義の物差しだなどと言ってはならない。なぜなら、その者が他人を測っていたのは

、不正の物差しだったからである。

442. 他者を尊重し、慈悲の外套でさらけ出された者たちを覆い、人々の噂好きの風潮から弱い者を守りなさい。（44, 46-48）

443. 「通りや路地を歩き回り」、過ぎ去った時代の出来事を語り、預言を解釈し、あるいは啓示を解説する者たちのすべてが、私の使者であるわけではない。なぜなら、多くの者が、虚栄心や恨み、あるいは人間の利己心から、それらのメッセージを悪用し、侮辱し、裁き、屈辱を与え、傷つけ、さらには「殺す」ことさえしてきたからである。（116, 21）

444. 立ち上がれ、人類よ、道を見出し、生きる理由を見出せ！ 民族よ、互いに団結し、すべての人を愛せよ！ ある家と別の家を隔てる壁はなんと薄いことか。それなのに――その住人たちは互いにどれほど遠く離れていることか！ そして、諸国の国境において――外国人を通すために、どれほどの条件が課されていることか！ もしあなたがたが、同じ人類の兄弟同士の間でさえこれを行うのなら――他の人生を歩む者たちに対しては、一体何をしてきたというのか？ あなたがたは、彼らと自分たちの間に幕を下ろした――たとえ忘却の幕でなくとも、濃霧のような無知の幕を。(167, 31)

445. 過度の権力欲を満たすためだけに生き、その過程で隣人の命を軽んじ、私、すなわち彼らの創造主が彼らに与えた権利を尊重しない人々を見よ。彼らの行いが、いかに （不快な）ものであり、ただ嫉妬、憎しみ、そして強欲を物語っているか、お分かりだろうか？ それゆえ、あなたがたは、光をそれほど必要としていない他の人々よりも、むしろ彼らのために、より多く祈らなければならない。

446. これらの人々があなたに与えるすべての痛みを赦し、あなたの清らかな思いをもって、彼らが正気に戻るよう助けてあげなさい。 彼らを取り巻く霧を、さらに濃くしてはいけない。なぜなら、彼らがいつか自らの行いに責任を問われる時、私は、彼らのために祈る代わりに、邪悪な思いで闇を送り続けた者たちをも、責任を問うことになるからだ。（113, 30）

447. 律法において、「わたしのほかに神々を置いてはならない」と告げられたことを思い出せ。それにもかかわらず、人間の野心が生み出した多くの神々が存在し、人々はそれらを崇拝し、貢ぎ物を捧げ、さらには命を捧げさえしている。

448. わたしの律法は時代遅れではないこと、そしてあなたがたが気づかないうちに、良心を通じて絶えず語りかけていることを理解せよ。しかし、人々は

依然として異教徒であり、偶像崇拝者である。

449. 彼らは自分の肉体を愛し、虚栄心をくすぐり、弱さに屈する。彼らは地上の宝を愛し、そのために自らの平安と霊的な未来を犠牲にしている。彼らは肉体にひれ伏し、時には退廃に至ることもあれば、快楽への渇望のあまり死に至るさえある。

450. あなたがたは、この世のものを、あなたがたの父よりも愛してきたのだと、自らを省みよ。いつ、あなたがたは、隣人の中に私を愛し、私に仕えることによって、私のために自分を犠牲にしたことがあったか。 いつ、あなたがたは、助けの手を差し伸べ、同胞を苦しめる苦痛を和らげるために、睡眠を犠牲にしたり、健康を危険にさらしたりしただろうか。そして、いつ、あなたがたは、私の教えが鼓舞する高潔な理想の一つために、死の淵まで行っただろうか。

451. あなたがたが物質的な生活に対して捧げている崇拝が、霊的な生活の崇拝よりも優先されていることを悟りなさい。それこそが、あなたがたには他の神々があり、あなたがたは真の神よりもそれらを崇拝し、それらに仕えていると、私が言った理由である。（118, 24-26）

452. あなたがたは罪にあまりにも慣れきっているため、自分の人生が最も自然で、最も普通で、最も許容されるもののように思える。それにもかかわらず、ソドムとゴモラ、バビロンとローマが、そのすべての堕落と罪をこの人類に押し付けたかのように見える。（275, 49）

453. あなたがたは今日、精神が混乱した時代に生きている。そこでは、悪を善と呼び、闇がある場所に光を見出していると信じ、本質的なものよりも不必要なものを好んでいる。 しかし、常に備え、助けとなる私の慈悲は、時宜を得て介入し、あなた方を救い、真理の光に満ちた道――あなた方が離れてしまったその道――を示すだろう。（358, 30）

454. あらゆる試練に打ち勝つために、師が教えたことを行いなさい。目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、あなたの目は常に警戒し、誘惑に打ち負かされることはないでしょう。 悪は、あなた方を試み、陥れ、打ち負かし、その弱さを利用するために、鋭い嗅覚を持っていることを心に留めなさい。悪が待ち伏せている時、それを見抜けるよう、鋭敏であれ。（327, 10）

455. まことに、わたしはあなたがたに告げる。人類はこの闇の中から光への道を見出すであろう。しかし、その歩みはゆっくりと進む。もし人々が、自分たちが引き起こしたすべての悪を一瞬にして理解してしまったら、どうなるだろうか。ある者は正気を失い、ある者は自ら命を絶つであろう。（61, 52）

人類の浄化と霊化

456. あなたがたは律法を忘れ、自然の力が私の正義を思い出させてくれるのを待っていた。ハリケーン、氾濫する河川、地震、干ばつ、洪水は、あなたがたを目覚めさせ、私の正義について語りかける呼びかけである。

457. この時代、人類が私に捧げることのできる実とは、不和と物質主義以外に何があるだろうか。長年にわたり私の教えを聞いてきたこの民でさえ、私に喜ばれる収穫を捧げることはできない。（69, 54-55）

458. 正義の叫びが聞こえないのか。 自然の力が、次々と土地を襲っているのを見ないのか？もしあなたがたが徳のある生活を送っていたなら、私の正義がこのように顕現する必要があっただろうか？まことに、あなたがたに告げる。もし私があなたがたを清い者と見なしていたなら、あなたがたを清める理由などなかっただろう。（69, 11）

459. 現時点では、人類に平和をもたらすことは不可能に思えるかもしれないが、私はあなたがたに告げる。平和は訪れる。それどころか、人間は霊化の中で生きるようになるのだ。

460. この時代が到来するまでに、世界は多くの災難に見舞われるだろう。しかし、それらの苦難は、地上的にも霊的にも、人類の益となるものである。それは、人々の悪行、利己心、快楽追求の奔放な奔走に対して、「ここまでで、これ以上は許さない」という一線となるだろう。

461. こうして均衡がもたらされる。なぜなら、悪の力はもはや善の力を打ち負かすことができなくなるからである。

462. この浄化は、常に最も繊細で愛すべきものに関わるため、罰であるかのように見えるが、実際にはそうではない。なぜなら、それは道から逸れたり、道を見失ったりした魂を救うための手段だからである。

463. 世俗的な判断をする者は、苦痛の中に何の益も見出せないだろう。しかし、自分が永遠に生きる魂を持っていることを心に留める者は、その同じ苦痛から、光と不屈の精神、そして再生を得るのだ。

464. もしあなたがたが霊的に考えるならば――愛そのものである神から来る苦痛が、どうして人類にとって悪であると言えるだろうか。

465. 時は過ぎ、やがてあの大きな試練が現れ始め、世界から平和の最後の残滓さえも消え去る時が来る。それは、人類が私の律法の道を見出し、絶えず「神は生きておられる！神はあなた方の中におられる！神を認識し、神を感じ、神と和解せよ！」と告げる内なる声に耳を傾けるようになるまで、決して戻ってはこない。

466. そうすれば、あなた方の生き方は変わるだろう。利己心は消え去り、誰もが互いに役立つようになる。人々は、私の正義に感化され、新しい法律を制定し、愛をもって諸国民を統治するようになる。（232, 43, 47）

467. 物質的な面においても、同様に変容を経験することになるだろう。川は豊かな水に満ち、不毛の土地は肥沃になり、自然の力は本来の軌道に戻るだろう。なぜなら、人と神の間、人と神の御業の間、人と生命の創造主が定めた法則との間に、調和が支配するようになるからだ。（352, 65）

468. 愛する証人たちよ、心配するな。 私は、長い間、触れるもの、目に見えるもの、限られた知性で理解できるもの、そして科学によって証明されたものだけを信じてきたこの物質主義的な人類が、霊的になり、霊的な眼差しで私を見、真理を求めることができるようになることを、あなた方に告げます。（307, 56）

469. もしあなたがたが霊的に準備ができていれば、無限の彼方に、霊的存在の群れを見ることができるだろう。それはあなたがたの目には、計り知れないほど巨大な白い雲のように映るだろう。そして、その中から使者や使節たちが飛び出してきたとき、あなたがたは、彼らが光の火花のように自分たちに向かってくるのを見るだろう。

470. あなた方の霊的な視力はまだ鋭くない。それゆえ、私はあなた方にあの世について、あなた方がまだ見ることのできないすべてのものについて語らなければならない。 しかし、私はあなたに告げる。やがて、あなた方全員が「見る者」となり、今は自分から遠く離れていると感じているあの素晴らしい生命を、心ゆくまで楽しむ時が来るだろう。その生命は、実際にはあなた方のすぐ近くで振動し、あなた方を包み込み、照らし、インスピレーションを与え、絶えずあなた方の扉を叩いているのだ。（71, 37-38）

471. 感受性、予感、啓示、預言、霊感、予見、賜物、内なる言葉――これらすべて、そしてその他の賜物は、 霊から湧き出るものであり、それを通して人々は、人類にとって新しい時代が到来したことを確認するだろう。

472. 今日、あなたがたは、世間の目を恐れてそれらを隠している人々がいるため、こうした霊的な賜物があることを疑っている。しかし明日には、それらを持つことが最も自然で美しいこととなるだろう。

473. 私がこの「第三の時代」にあなたがたの元へやって来るのは、あなたがたが肉体も魂も病んでいるからだ。健康な者は医者を必要とせず、正しい者は

清めを必要としない。（80, 5-6）

474. 今日、あなた方はまだ聖職者、裁判官、教師を必要としている。しかし、あなた方の精神的・道徳的な状態が一旦高次なものとなれば、もはやこれらの支えも、これらの声も必要としなくなるだろう。すべての人の中に、裁判官、牧師、教師、そして祭壇が存在するようになるのだ。（208, 41）

XVI. 預言とたとえ、慰めと約束

第64章 - 預言

新旧の預言の成就

1. 預言者たちが告げたことは、この時代に成就する。わたしの新しい言葉は哲学者や神学者たちの耳に届くであろう。多くの者はそれを嘲笑し、また他の者は憤慨するだろう。しかし、そうしたことが起きている最中、彼らの驚きの眼差しは、わたしが今あなたがたに告げた預言の成就を目撃することになる。（151, 75）

2. 過ぎ去った時代のそれらの預言者たちは、地上でいかなる法的権限や授権も与えられてはいなかった。彼らはいかなる権威にも服従することを強いられることはなく、ただ、選ばれた者たちの口に御言葉を置かれた主の命令に従うことだけに専心していた。

3. 信仰と勇気に満ちて、彼らは、民に私の律法を教え、司祭たちの無関心や誤りを自覚させることによって、民を宗教的狂信から遠ざけるという使命を、何ものにも妨げられることなく果たした。（162, 7-8）

4. 人類よ、今この時代にあなたたちを包み込む苦痛、悲惨、そして混沌は、予期せぬもののように思えるだろうか？

5. もしあなたがたが驚いているとすれば、それは、あなたがたが私の預言に関心を寄せず、準備をしていなかったからである。

6. すべては予見され、すべては予告されていたが、あなた方には信仰が欠けていた。その結果、今、あなた方は非常に苦い杯を飲み干しているのだ。

7. 今日もなお、私は人間の理解力を通じて預言している。ある預言はまもなく成就し、他の預言は遠い未来になって初めて成就する。

8. これらを聞くこの民には、それらを人類に知らせるという大きな責任がある。なぜなら、そこには、人々が生きる現実を理解させ、深淵へと向かって猛スピードで突き進む足を止めるようにするための光が含まれているからである。（276, 41 42）

9. 私がこの時代にあなたがたに語ったことの多くは、ある時は近い将来に、ある時は遠い未来に言及する預言である。それゆえ、多くの人々は、この神聖なメッセージに何の意味も見出そうとしない。

10. しかし、この言葉は、来るべき時代の人々の間で、光に満ちて蘇るであろう。彼らはこの言葉の中に、その正確さと完全さが科学者たちを驚嘆させるような、偉大な啓示を認識し、発見するであろう。（216, 13）

1945年1月10日、第二次世界大戦終結間近における大いなる諸国民への預言

11. この瞬間、私は地上の諸国民に語りかける。すべての者は私の光を持っている。その光をもって、彼らは、あたかも生命の所有者であるかのように、それを自由に処分しようとしたことを深く省みるべきである。

12. まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたの破滅と苦しみは、多くの人々に深い悔い改めをもたらし、わたしを求め、呼び求める何百万人もの人々を光へと目覚めさせた。そして彼らからは、わたしに向かって「父よ、1945年の戦争は果たして終わらないのでしょうか。あなたは私たちの涙をぬぐい、平和をもたらしてくださるのでしょうか」と問う嘆きの叫びが天へと昇っている。

13. 見よ、わたしは今、あなたがたの間におる。おお、七つの国よ！ 808 第64章 世の中でわたしの前で首を高く掲げた七つの頭よ！

14. イングランドよ。わたしはあなたを啓発する。わたしの正義は、なおもあなたを厳しく罰するであろう。しかし、わたしはあなたに力を与え、あなたの心に触れ、こう告げる。「あなたの権力への野望は崩れ去り、あなたの富は奪われ、それは誰にも与えられないであろう。」

15. ドイツよ。今この瞬間、私は汝の誇りを懲らしめ、こう告げる。備えよ、汝の子孫は滅びないからだ。汝は新たな土地を求めたが、人々は私の高き御計画に干渉した。私は汝の首を屈め、こう告げる。私の力を受け入れ、私が汝を救うと信じよ。

16. しかし、もしあなたがわたしを信頼せず、その誇りに身を委ねるならば、あなたは孤独となり、世界の奴隷となるだろう。だが、これはわたしの望みではない。今こそ、わたしが支配者たちを倒し、奴隷や囚人たちを解放する時だからだ。わたしの光を受け入れ、再び立ち上がれ。

17. ロシアよ。わが霊はすべてを見通している。世界はあなたのものにはならない。あなたがたすべてを治めるのは、私である。 お前は私の名を消し去ることはできない。なぜなら、お前に語りかけるキリストが、すべ

ての人々を支配するからだ。物質主義から解き放たれ、新しい人生に備えよ。そうしなければ、私はお前の高慢を打ち砕く。私はお前に私の光を与える。

18. イタリア：お前はかつてのように主ではなくなった。今日、嘲笑と隷属と戦争がお前を破滅させた。堕落の結果、お前は大きな浄化を経験している。しかし、私は言う。自らを刷新し、狂信と偶像崇拝を捨て、私を至高の主として認めよ。私は新たな霊感と光を、お前に注ぎ出す。 わが癒しの香油を受け取り、互いに赦し合いなさい。

19. フランスよ。汝は汝の苦痛をわが前に持ち出している。汝の嘆きはわが高き玉座にまで届いている。わが、汝を受け入れる。かつて汝は自らを主と称したが、今や汝がわが前に示すのは、自ら引きずっている鎖だけである。

20. あなたは、見張りもせず、祈りもせず、肉の快楽に身を委ねた。それゆえ、竜はあなたを獲物として捕らえた。

21. しかし、私はあなたを救う。あなたの妻たちの嘆きと子供たちの泣き声が、私の元へと届いているからだ。あなたは救われたいと願っている。だから私はあなたに手を差し伸べる。しかし、まことに、あなたに告げる。目を覚まし、祈り、そして赦しなさい！

22. アメリカ合衆国よ。今この瞬間、わたしはお前をも受け入れる。お前の心を見つめる――それは石ではなく、金属、すなわち金でできている。金属でできたお前の脳は、硬く固まっている。お前に愛は見当たらず、霊性も見出せない。見えるのは、誇大妄想、野心、そして強欲だけだ。

23. 「そのまま続けなさい」と。しかし、私は問う。いつ、私の種があなたの中で深く根を下ろすのか。いつ、あなたは「黄金の子牛」と「バベルの塔」を打ち倒し、その代わりに主の真の神殿を築き上げるのか。

24. 私は、最初の人から最後の人まで、あなたがたの良心に触れ、あなたがたを赦す。私はあなたがたを啓発する。そうすれば、試練が頂点に達する最も困難な時にも、あなたがたの心は曇ることなく、明晰に考え、私があなたがたの上に立っていることを思い出すことができるだろう。

25. わたしはあなたに光と力と権威を与える。わたしの高き御計画に干渉してはならない。もしあなたがわたしの指示に従わず、あるいはわたしが引く境界線を越えるならば、痛み、破壊、火、疫病、そして死があなたの上に降りかかるだろう。

26. 日本よ。私はあなたを受け入れ、語りかける。私はあなたの聖所に入り、すべてを見渡した。あなたは最後になりたくない、常に最初でありたいと願ってきた。しかし、まことに、私

はあなたに告げる。この種は、私の目にかなうものではない。
27. あなたの心が清められるためには、あなたが苦難の杯を空にする必要がある。あなたの「言葉」*が他の「言葉」と混ざり合うことが求められる。世界があなたに近づくことが必要である。世界が準備され、清められたとき、世界は私がそこに授ける種をあなたにもたらすだろう。なぜなら、私は準備ができている者を誰一人として見出さないからだ。 私は、あなたの中に私の神性の霊的な種を見出さない。しかし、私は道を切り開く。* これは、言語によって影響を受け、決定づけられる思考様式や観念世界を意味している。
28. まもなく、全世界で世界観の混乱、科学や理論の混乱が生じるだろう。しかし、この混乱の後、光があなたのもとへ届く。私はあなた方すべてを準備し、赦し、正しい道を歩むよう導く。
29. その時が来て、諸国に平和が訪れるならば、反抗してはならない。わたしの高き御計画に干渉したり、わたしの御心に逆らったりしてはならない。諸国が平和を結びましたら、あなたがたは彼らを裏切ってはならない。そうすれば、わたしはあなたがたに裁きを下すことになるからだ。
30. 七つの国よ！七つの頭よ！父はあなた方を迎え入れた。あなた方の前に、あなた方の支配の下に、世界が広がっている。あなた方は、彼らのために私に対して責任を負っているのだ！
31. 「七つの封印の書」の光がすべての国々に臨み、人々がわたしの御心に従って備えをするように。わたしの平安があなたがたと共にありますように！（127, 50-65）

戦争と自然災害 - 天のしるし

32. あなたがたが現在住んでいるこの世界は、長い間、戦場であった。しかし、先祖から受け継いだ膨大な経験は、人間にとって十分ではなかった。それは、良心によって開かれた書物のように、現代の人々の前に横たわっている、苦く痛ましい経験である。
33. しかし、人々の心は硬すぎて、光の遺産のようなその経験の果実を受け入れることができない。彼らが先祖から受け継いだ唯一のものは、血を通じて受け継がれた憎しみ、誇り、恨み、貪欲、傲慢、そして復讐であった。（271, 65）
34. 裁きの時が来ていることを心に留めよ。まことに、わたしはあなたがたに告げる。あらゆる罪は償われることになる。地球そのものが、人間が地球とその自然界を悪用したことに対して、責任を問うことになるのだ。
35. 破壊されたすべてのものが、あなた方を問いただし、それによって人々に、彼らが創造主

によって愛の意図をもって に創造されたこと、そして、彼らを滅ぼすことさえできるその唯一の意志こそが、彼らを慈しみ、守り、祝福していることを悟らせるであろう。（180, 67）

36. 私はこのメッセージをあなた方に託す。あなた方はこれを海を越えて伝えなければならない。私の言葉は旧大陸を横断し、わずかな土地をめぐって兄弟殺しの争いに身を投じ、自らの魂の悲惨さに気づかぬままにあるイスラエルの人々のもとにも届くであろう。

37. 世界が経験しようとしている試練を、あなたがたは想像することさえできない。誰もが平和を待ち望んでいるが、それは自然の力が私について証しをした後に初めて実現する。（243, 52）

38. わたしの自然の力は解き放たれ、広大な地域を荒廃させるだろう。科学者たちは新しい惑星を発見し、「星の雨」*があなた方の世界を照らすだろう。しかし、これは人類に災いをもたらすものではない。それはただ、新しい時代の到来を人々に告げるに過ぎない。（182, 38）

＊ 福音書では、この裁きのしるしは「『星』が天から落ちてくる」という言葉で予告されている。しかし、これは明らかに、地球に降り注ぐ大規模な隕石の雨のことである。

39. わたしはすでに、わたしの民が全地球に散らばっていること、すなわち、霊的な種が全地球に蒔かれていることを、あなたがたに明らかにした。

40. 今日、あなたがたは不和であり、些細なことで互いに軽んじ合っている。しかし、物質主義的な教えがあなたがたすべてを圧倒しようとしているとき、霊によって考え、感じるあなたがたは、ついに一つとなるだろう。その時が来れば、あなたがたが互いを認識できるよう、私がしるしを与える――あなたがた全員が同じように見聞きできるものを。 その時、互いにその証しを語り合うと、あなたは驚き、「主が私たちを訪ねてくださったのだ」と言うだろう。（156, 35-36）

メキシコの教会分裂に関する預言

41. さあ、民よ、よく私の言葉に耳を傾け、私の言葉を尊く、誠実に守るよう努めなさい。

42. あなたがたは、この大勢の人々が皆、私があなたがたの魂に書き記した律法に従うわけではないと予感しているため、心に悲しみを抱いているのを見る。しかし、私はあなたがたに告げる。今日、かつての「最初の時代」と同様に、民は分裂するであろう。

43. わたしはあなたがたに多くを語り、すべての人々のために

ただ一つの道を示してきた。それゆえ、わたしはあなたがたに告げる。もしわたしの子供たちの一部がわたしに背くならば、あなたがたの父の御心によって定められた、この啓示を終わらせる日が来たとき、この民に対する裁きの宣告が下されるであろう。

44. 私はこの時代、解放者としてあなたがたのところに来、荒野を通る道、すなわち解放と救いのための闘いという霊的な「日々の業」を示し、その果てに、霊にとっての平和、光、そして至福である新しい約束の地を約束した。

45. 解放と霊化を渇望して、この旅に踏み出し、わたしに従う者たちは幸いである。なぜなら、広大な砂漠がもたらす試練の中で、彼らは決して見捨てられたり、弱さを感じたりすることはないからである。

46. それに対して、信仰に背き、霊的なものよりも世のものを愛する者たち、すなわち、依然として偶像や伝統に固執する者たちには、災いがある。彼らは、わたしに仕えていると思い込んでいるが、実は「ファラオ」、すなわち「肉」、物質主義、偶像崇拝の隷属者となるのである。

47. 約束の地、すなわち霊の故郷へと至りたいと願う者は、この世を歩む中で、善の足跡を残さなければならない。

48. この道を進み、恐れることはない。なぜなら、あなたがたが私に希望を置くならば、迷うことはあり得ないからだ。もしあなたがたが恐れを抱いたり、信頼を持てなかったりするなら、その信仰は絶対的なものではない。そして私は言う、私に従おうとする者は、私の真理を確信していなければならないと。（269, 50-51）

第65章 - たとえ話、慰め、そして約束

悪い家政係のたとえ

1. 慈悲を求め、飢えた者、病める者、裸の者たちからなる群衆が一軒の家に近づいた。

2. その家の管理人たちは、通りすがりの人々を食卓でもてなすため、絶え間なく準備を進めていた。

3. その土地の所有者であり主である地主が、祝宴の席に着くためにやって来た。

4. 時が経つにつれ、困窮している人々は、その家で常に食事と宿を見つけることができた。

5. ある日、その主人は、食卓の水が濁り、料理が健康的で美味しくなく、テーブルクロスが汚れているのを見た。

6. そこで彼は、食卓の準備を任されていた者たちを呼び寄せ、こう言った。「お前たちは、

そのリネン布を見たか。料理を味わったか。そして、その水を飲んだか？」
7. 「はい、ご主人様」と彼らは答えた。
8. 「それなら、この空腹な人々に食事を与える前に、まず自分の子供たちに食べさせてみよ。もし子供たちがその料理を気に入れば、それから客たちに与えよ。」
9. 子供たちはパンや果物、そして食卓に並んでいたものを口にしたが、その味は不快であり、不満と騒動が起こり、彼らは激しく文句を言った。
10. そこで、地主は、まだ待っていた者たちに言った。「木の下に来なさい。私の庭の果物と、美味しい料理を振る舞ってあげよう。」
11. しかし、使用人たちに彼はこう言った。「汚れたものを清め、あなたがたが失望させた者たちの唇から、その嫌な味を消し去りなさい。 私はあなたたちを好ましく思わない。私は、飢え渇く者たちすべてを迎え入れ、彼らに最上の食事と清らかな水を提供するよう命じたのに、あなたたちはそれに従わなかった。あなたたちの働きは、私の心に適わない。」
12. そこで、その土地の主人は自ら祝宴を準備した。パンは栄養豊富で、果実は健康的で熟しており、水は新鮮で爽やかだった。そして、それを待ちわびていた者たち――物乞いや病人、ハンセン病患者――を招き入れた。皆は満腹になり、その喜びは大きかった。 やがて彼らは健康を取り戻し、苦しみから解放され、その農園に留まることを決めた。
13. 彼らは畑を耕し始め、農夫となったが、彼らは弱く、その主人の指示に従うことができなかった。彼らは異なる種類の種を混ぜてしまい、収穫物は変質し、小麦は雑草に覆い尽くされてしまった。
14. 収穫の時が来ると、地主がやって来て彼らに言った。「私は客人を迎えるために家の管理を任せただけなのに、お前たちは一体何をしているのか。お前たちが蒔いた種は良くない。畑を耕すのは他の者たちの役目だ。行って、その土地からアザミや雑草を取り除き、それからまた家の管理に戻れ。 井戸は干上がり、パンは力を与えず、果実は苦い。通りすがりの人々に、私があなたたちにしたのと同じことをしなさい。もし、あなたたちに助けを求める人々を養い、癒し、隣人の痛みを取り除いたなら、私はあなたたちを私の家で休ませてあげよう。」（196, 47-49）

砂漠の横断から大都市へのたとえ

15. 二人の旅人が、広い砂漠をゆっくりと歩いていた。熱い砂で足は痛んでいた。彼らは遠く

の町を目指して進んでいたが、目的地にたどり着けるという希望だけが、この過酷な道のりで彼らを奮い立たせていた。というのも、パンも水も次第に底をつきかけていたからだ。 二人の中で年下の者は疲れ果て、力尽きてしまったため、旅を一人で続けてほしいと仲間に頼んだ。

16. 年配の旅人は、もうすぐオアシスに出くわし、そこで失った力を取り戻せるかもしれないと語りかけ、若者に新たな勇気を奮い立たせようとした。しかし、若者は気力を取り戻すことはなかった。

17. 年配の男は、あの荒野で彼を見捨てるつもりはなかった。自分も疲れていたが、力尽きた旅人を背負い上げ、苦労しながらも歩き続けた。

18. 若者は休息をとった後、自分を背負ってくれた相手にどれほどの負担をかけているかを思いやり、彼の首から身を離して手を握り、二人はそうして再び歩き出した。

19. 老いた旅人の心には計り知れない信仰が宿っており、それが彼に疲れを乗り越える力を与えていた。

20. 彼が予感していた通り、地平線にオアシスが姿を現し、その木陰には泉の涼しさが待っていた。ついに彼らはそこにたどり着き、その清涼な水を、喉が潤うまで飲み干した。

21. 彼らは安らかな眠りに落ち、目覚めると、疲れが消え去っているのを感じた。また、空腹も喉の渇きもなかった。彼らは心に平安を感じ、探していた町へとたどり着く力を得ていた。

22. 彼らは本当はあの場所を離れたくなかったが、旅を続けなければならなかった。彼らは水筒にその水晶のように澄んだ清らかな水を満たし、再び道へと向かった。

23. 若者の支えとなっていた年老いた旅人は言った。「我々が携えている水は、節度を持って使うようにしよう。道中で、疲れ果てて喉が渇いている、あるいは病気の巡礼者に出会うかもしれない。その時には、我々が携えているものを彼らに差し出す必要があるだろう。」

24. 若者はこれに異議を唱え、自分たち自身にも足りなくなるかもしれないものを与えるのは不合理だと述べた。また、そのような貴重な水を手にいれるのに多大な労力を費やしたのだから、その場合は好きな値段で売ればよいのだと主張した。

25. 老人はその答えに納得せず、心の平安を得たいのなら、苦しんでいる人々と水を分かち合わなければならないと返した。

26. 若者は不機嫌そうに、道中で出会う誰かと分かち合うくらいなら、自分の水筒の水を一人で飲み干すほうがましだと言った。

27. 再び老人の予感は的中した。彼らの目の前には、砂漠で道に迷い、死の淵に立たされてい

る男女や子供たちからなる一行が見えたのである。
28. 善良な老人は急いでその人々のところへ行き、彼らに水を飲ませた。疲れ果てていた者たちはたちまち元気を取り戻し、病人は目を覚ましてその旅人に感謝し、子供たちは喉の渇きで泣くのをやめた。キャラバンは立ち上がり、旅を続けた。
29. 気高い旅人の心には安らぎがあったが、もう一人は自分の水瓶が空になったのを見て、心配そうに仲間に、引き返して泉を探し、使い果たした水を補充すべきだと告げた。
30. 「戻ってはならない」と善良な旅人は言った。「信仰さえあれば、先には新たなオアシスがあるはずだ。」
31. しかし、若者は疑念を抱き、恐れを感じ、その場で旅の仲間に別れを告げ、泉を求めて引き返すことを選んだ。 かつて苦難を共にした二人は、別れた。一人は目的地への信念に突き動かされ、道を歩み続けたが、もう一人は砂漠で命を落とすかもしれないという思いに駆られ、死への強迫観念を胸に、泉へと走っていった。
32. ついに彼は、息を切らし、疲れ果てて到着した。しかし、満足して水を飲み干すと、一人で行かせた仲間のこと、そして自ら諦めた町のことさえも忘れ、これからは砂漠で暮らそうと決心した。
33. ほどなくして、疲れ果て、喉の渇いた男たちや女たちからなるキャラバンが近くを通りかかった。彼らはその泉の水を飲もうと、貪るように近づいてきた。
34. しかし突然、一人の男が現れ、その恩恵の代価を支払わなければ、水を飲んだり休んだりすることを禁じると告げた。それは、オアシスを占拠し、自らを砂漠の支配者とした若い旅人であった。
35. 人々は悲しげに彼の言葉を聞いた。彼らは貧しく、喉の渇きを癒やすその貴重な宝を買うことができなかったからだ。結局、彼らは持ち合わせのわずかな財産を手放し、燃えるような渇きを和らげるために少しの水を買い、旅を続けた。
36. やがて、その男は「主」から「王」へと変貌した。そこを通るのは必ずしも貧しい人々ばかりではなかったからだ。一杯の水のために大金を払えるような権力者たちもいたのだ。
37. その男は、砂漠の向こうにある町のことなどもう覚えていなかったし、ましてや、彼を肩に担ぎ、あの不毛の地で死の淵から救ってくれた兄弟のような旅仲間のことなど、なおさら覚えていなかった。
38. ある日、彼は、大都市へとまっすぐ向かうキャラバンがやってくるのを見た。しかし、彼は驚いて、その男たち、女たち、子供たちが、力と喜びに満ち

て歩みを進め、その間、賛美の歌を歌っているのを見つめた。
39. 男は目の前の光景が理解できず、さらに驚いたのは、キャラバンの先頭を行くのが、かつての旅の仲間であることに気づいたときだった。
40. キャラバンはオアシスの前で立ち止まり、二人の男は向かい合って、驚きながら互いを見つめ合った。ついに、オアシスの住人はかつての旅の仲間だった男に尋ねた。「教えてくれ、どうして喉の渇きも疲れも感じることなく、この砂漠を横断できる人間がいるというのか？」
41. 彼がそう尋ねたのは、もう誰も水や宿を求めてやって来なくなるその日から、自分はどうなってしまうのかと、心の中で考えていたからである。
42. 善良な旅人は、その仲間にこう言った。「私はあの大都市にたどり着いたが、一人ではなかった。道中、病める者、渇く者、道に迷った者、疲れ果てた者たちに出会い、私を駆り立てる信仰によって彼ら全員に新たな勇気を与えた。そうして私たちはオアシスからオアシスへと進み、ある日、ついに大都市の門前にたどり着いたのだ。」
43. そこで私は、その王国の主の前に召された。主は、私が砂漠を知り、旅人たちに憐れみを抱いているのを見て、苦難に満ちた砂漠横断において、旅人たちの導き手であり助言者となるよう、戻るよう命じられたのだ。
44. 「そして今、君が見ているように、私はまた別のキャラバンを率いて、大都市へと導かねばならない。――ところで君は？ここで何をしているんだ？」と、彼はオアシスに残っていた者に尋ねた。――その男は恥じ入って黙り込んだ。
45. そこで、善良な旅人は彼に言った。「お前がこのオアシスを私物化し、水を売り、日陰に代金を要求していることは知っている。これらの恵みはお前のものではない。それらは、必要とする者が利用できるよう、神の力によって砂漠に置かれたのだ。
46. あの大勢の人々が見えるか？彼らは渇きも疲れも感じないから、オアシスを必要としない。大いなる都の主が、私を通じて彼らに送るメッセージを私が伝えるだけで十分だ。そうすれば、彼らはすぐに出発し、あの王国に到達するという崇高な目標のおかげで、一歩ごとに新たな力を得ていくのだ。
47. その泉を渇く者たちに委ねよ。そうすれば、彼らはそこで清涼を見出し、砂漠の過酷さに苦しむ者たちは渇きを癒やすことができるだろう。
48. あなたの誇りと利己心が、あなたの目を曇らせてしまった。しかし、この荒れ野に住み、私たちが共に目指していたあの大都市を知る機会を自ら奪って

しまった今、この小さなオアシスの主であることに、いったい何の益があったというのか？私たち二人が抱いていたあの崇高な目標を、あなたはすでに忘れてしまったのか？」

49. かつて忠実で無私の旅の仲間であったその男の言葉を黙って聞いていた男は、自らの過ちを悔やみ、涙を流した。彼は偽りの華やかな衣装を身から引き剥がし、砂漠が始まる地点にある出発点へと向かい、大都市へと続く道を進み始めた。 しかし今、彼は新たな光、すなわち信仰と隣人への愛の光に照らされて、その道を歩み始めた。たとえ話の終わり

50. 私は大いなる都の主であり、私のたとえ話に登場する老いたエリヤである。 彼は「荒野で叫ぶ者の声」であり、タボル山での変容の際に私が与えた啓示を成就するために、再びあなたがたの中に現れる者である。彼が「第三の時代」において、私があなたがたを待ち受け、私の愛の永遠の報いを与えるためにいる大いなる都へと、あなたがたを導くのである。

51. 愛する民よ、エリヤに従いなさい。そうすれば、あなた方の生活、神への崇拝、そして理想において、すべてが変わり、すべてが変容するであろう。

52. あなたがたは、その不完全な信仰の実践が永遠に続くものだと信じていたのか？ いや、私の弟子たちよ。明日、あなたがたの霊が地平線上に大いなる都を目にしたとき、その霊は主のようにこう言うだろう。「わたしの国はこの世のものではない。」（28, 18-40）

王の寛大さを描いた寓話

53. 昔、ある王が、臣下に囲まれて、反乱を起こした民を打ち負かし、彼らを臣下とした勝利を祝っていた。

54. 王と臣下たちは勝利の賛歌を歌った。そして王は民に向かってこう語った。「わが腕の力が勝利を収め、わが王国を拡大させた。しかし、敗れた者たちをも、あなた方と同じように愛そう。わが領地から畑を与え、ぶどうの木を育てさせよう。そして、あなた方も、私が彼らを愛するように、彼らを愛してほしいと願う。」

55. 時が経ち、その王の愛と正義によって心をつかまれた民の中に、主君に反旗を翻し、眠っている間に彼を殺そうとした男が現れたが、結局、彼を傷つけるにとどまった。

56. 自分の犯した罪を悟り、その男は恐怖に駆られて、最も深い森の中に身を隠すために逃げ去った。一方、王は、その家臣の恩知らずな振る舞いと不在を嘆いた。王の心は彼を深く愛していたからである。

57. その男は逃亡の途中で、王に敵対する一族に捕らえられた。彼らが認めない支配者の臣下であると告発されると、男は恐

怖のあまり声を張り上げて叫んだ。「私は王を殺したばかりだから逃亡しているのだ」と。 しかし、彼らは彼の言葉を信じず、拷問の末、火刑に処す判決を下した。
58. 彼がすでに血を流し、火の中に投げ込まれようとしていたその時、反逆者を探していた王とその家来たちがそこを通りかかり、そこで起きている事態を目にした王は、腕を掲げて家来たちに言った。「何をしているのだ、反逆者どもよ？」 王の威厳に満ちた威厳ある声に、反逆者たちは王の前にひれ伏した。
59. 依然として火のそばに縛られたまま、ただ判決の執行を待っていたその恩知らずの臣下は、王が死んでおらず、一歩一歩自分に近づいてきて、その縄を解いてくれるのを見て、驚き、動揺した。
60. 王は彼を火のそばから連れ出し、その傷の手当てをした。それから、彼にワインを飲ませ、新しい白い衣を着せ、額に口づけをした後、こう言った。「わが臣よ、なぜ私から逃げたのか？ なぜ私を傷つけたのか？言葉で答える必要はない。ただ、私があなたを愛していることを知ってほしい。そして今、こう言おう。『さあ、私について来なさい』」
61. この慈悲の光景を目の当たりにした民衆は、驚き、心の中で改心し、「ホサナ、ホサナ！」と叫んだ。 彼らはその王の従順な臣下であることを公言し、主から恵みだけを受け取った。かつて反逆したその臣下は、王のこれほどまでの愛に圧倒され、主の完全なる行いに心を打たれ、限りない愛情の証しに応えるべく、主を永遠に愛し、崇める決意を固めた。
たとえ話の終わり
62. 見よ、民よ、わが言葉がいかに明瞭であるか！ しかし、人々はわたしに抗い、わたしとの友情を失っている。
63. 私が人々にどのような害を与えたというのか。私の教えと律法が、彼らにどのような不利益をもたらすというのか。64. 知れ。あなたがたが私を傷つけることが何度あろうと、そのたびにあなたがたは赦される。しかし、それならば、あなたがたもまた、敵があなたがたを侮辱するたびに、彼らを赦さなければならない。
65. わたしはあなた方を愛している。もしあなた方がわたしから一歩離れるなら、わたしもまた、あなた方に近づくために同じ一歩を踏み出す。もしあなた方が神殿の門をわたしに閉ざすなら、あなた方が開けてわたしが入れるようになるまで、わたしはそれを叩き続けるだろう。（100, 61-70）

八福と祝福

66. 苦難を忍耐をもって耐え忍ぶ者は幸いである。なぜなら、その柔和さの中にこそ、成長の

道において十字架を背負い続ける力を見出すからである。

67. 屈辱を謙遜に耐え、自分を侮辱した者たちを赦すことができる者は幸いである。なぜなら、私はその者を義と認めるからである。しかし、他者の行いを裁く者たちには災いがある。彼ら自身もまた裁かれることになるからだ！

68. 律法の第一の戒めを守り、すべての被造物よりも私を愛する者は、祝福される。

69. 自分の正しい事柄であれ不正な事柄であれ、わたしに裁かせようとする者は、祝福される。（44、52-55）

70. 地上で自らを低くする者は幸いである。なぜなら、わたしは彼を赦すからである。中傷される者は幸いである。なぜなら、わたしは彼の無実を証しするからである。わたしについて証しする者は幸いである。なぜなら、わたしは彼を祝福するからである。そして、わたしの教えを実践したために誤解される者、その者をわたしは認める。（8, 30）

71. 倒れても再び立ち上がる者、泣きながらわたしを祝福する者、自分の兄弟たちに傷つけられながらも心の奥底でわたしを信頼する者、彼らは幸いである。これらの小さな者、悲しむ者、嘲笑される者、しかし柔和であり、それゆえに霊において強い者たちは、まことにわたしの弟子である。（22, 30）

72. 主の御心を祝福する者は幸いである。自らの苦しみを祝福する者は幸いである。それは、その苦しみが自分の汚点を洗い流してくれることを知っているからである。なぜなら、その者は霊の山に登るために、自分の歩みに足場を築くからである。（308, 10）

73. すべての人が、新しい日の光、すなわち、より良い時代の始まりとなるべき平和の夜明けを待ち望んでいる。抑圧された人々は解放の日を待ち、病人は、健康と力、そして生きる喜びを取り戻してくれる治療法を望んでいる。

74. 最後の瞬間まで待つことを知る者たちは幸いである。なぜなら、彼らが失ったものは、利子付きで返されるからである。この期待を、私は祝福する。それは、私への信仰の証だからである。（286, 59-60）

75. 忠実な者たちは幸いである。試練の終わりまで揺るぎなく立ち続ける者たちに祝福あれ。わが教えによって与えられた力を無駄にしなかった者たちは祝福される。なぜなら、彼らは来るべき苦難の時代に、力と光に満ちて人生の浮き沈みを乗り越えるからである。（311, 10）

76. 創造の祭壇の上でわたしを賛美し、自らの過ちの結果を、それを神の罰のせいにすることなく、謙虚に受け入れることを知る者たちよ、祝福あれ。

77. わたしの御心に従うことを知り、謙虚に試練を受け入れる者たちは、祝福されよ。彼らすべてが、わたしを愛するようになるであろう。（325, 7-8）

向上への励まし

78. 謙虚さと信仰をもって、自らの魂の昇華を私に求める者たちは祝福される。彼らは、父に願うものを授かるからである。

79. 待つことを知る者たちは祝福される。なぜなら、私の慈悲深い助けは、適切な時に彼らの手に届くからである。

80. 私の愛の意志から何一つ見落とされることはないことを知り、願い、また待つことを学べ。私の意志が、あなたがたのあらゆる必要と試練の中に現れていることを信じなさい。（35, 1-3）

81. 平和と調和の楽園を夢見る者たちは、祝福される。

82. 人間に何の益ももたらさず、ましてやその魂にはなおさら益のない、些細な事柄や虚栄、情熱を軽蔑し、それらを無関心に見つめてきた者たちは幸いである。

83. 何の成果ももたらさない狂信的な儀式を廃し、古く誤った信仰観念を捨て去り、絶対的かつ裸の、純粋な真理を掴み取った者たちよ、祝福あれ。

84. 私は、外的なものを拒絶し、その代わりに精神的な瞑想、愛、そして内なる平安に身を委ねる者たちを祝福する。彼らは、この世界が平安をもたらさないこと、そしてその平安は自分自身の内に見出すことができることを、ますます深く悟っているからである。

85. 真理に恐れを抱かず、それに憤りもしなかったあなたがたのうちの人々は、祝福される。まことに、わたしはあなたがたに告げる。光は滝のようにあなたがたの魂に降り注ぎ、光への渇きを永遠に満たすであろう。（263, 2-6）

86. わたしの教えに耳を傾け、それを自分のものとし、それに従う者は幸いである。なぜなら、その者はこの世で生きることを知り、この世から死んでいくことを知り、その時が来れば、永遠の中に復活するからである。

87. わたしの言葉に深く入り込む者は祝福される。なぜなら、その者は苦痛の理由、償いと贖罪の意味を理解するようになったからである。そして、絶望したり冒涜したりして自らの苦しみを増大させる代わりに、信仰と希望に満ちて立ち上がり、自らの罪の重荷が日々軽くなり、苦難の杯がより甘くなるよう、闘うのである。

88. 喜びと平安は、信仰を持つ人々、すなわち父の御心に同意する者たちに固有のものである。（283, 45-47）

89. あなたがたの進歩、すなわち上向きの成長は、霊的な世界においても、またわたしのあら

ゆる御業においても、わたしの真理を発見し、わたしの神聖な臨在を感知することを可能にするだろう。その時、わたしはあなたがたにこう告げるだろう。「どこにでもわたしを見出すことができる者は幸いである。なぜなら、彼らこそが真にわたしを愛している者だからである。魂をもって、さらには肉体をもってさえも、わたしを感じ取ることができる者は幸いである。なぜなら、彼らは自らの全存在に繊細さを与え、真に霊化された者たちだからである。」（305、61-62）

90. あなたがたは、私が「高き御座」から、宇宙全体を私の平安と祝福で包んでいることを知っている。

91. すべてのものは、毎時、あらゆる瞬間に、私によって祝福されている。

92. わが子らに対するいかなる呪いも、いかなる破滅も、私から来ることはなく、また決して来ることはない。それゆえ、私は、義人であろうと罪人であろうと区別することなく、すべての人々に私の祝福、愛の口づけ、そして私の平和を降り注ぐのである。（319、49-50）

私の平和があなた方と共にありますように

神の呼びかけ

現代の人々への呼びかけ：

「人々よ、人々よ、立ち上がれ。時は迫っている。もしこの『日』にそうしなければ、この地上の生において二度と目覚めることはないだろう。私のメッセージにもかかわらず、眠り続けたいのか？ 肉体の死によって目覚めたいのか――物質を持たない魂の、悔恨の燃え盛る炎と共に？ 誠実になりなさい。霊的な生の中に身を置き、真実の御前に立つと想像しなさい。そこでは、何ものもあなたの物質主義を弁解することはできず、あなたは本当に、魂がまとう衣服として、汚れ、汚れて、破れたぼろ布を身にまとっている自分を見るのです。 まことに、私はあなたに告げる。そこでは、自らの惨めさを目の当たりにし、計り知れないほどの恥を感じたとき、あなたは最も深い悔恨の水で身を清めたいという限りない渇望を抱くであろう。なぜなら、清らかな者だけが御霊の祝宴へと赴くことができると知っているからだ。 人間の利己主義とそのあらゆる欠陥――それらが今、あなたがたの誇りであり、満足の源となっているもの――の向こう側を見据え、人々の痛みを共に感じてきたか、女性たちのすすり泣きや子供たちの泣き声が、あなたがたの心に響き渡っているか、私に告げなさい。だから私に言いなさい。あなたがたは人々にとって何であったのか？ あなたがたは、彼らに

とって「命」であったのか？」（228，62-63）

知識人への呼びかけ：

「死を厭い、心に失望を抱く知識人たちよ、わたしのもとに来なさい。混乱し、愛する代わりに憎んできた者たちよ、わたしのもとに来なさい。 私はあなた方に安らぎを与え、私の戒めに従順な精神は決して疲れることがないことを理解させてあげよう。私は、知性を決して混乱させない学問へとあなた方を導いてあげよう。」（282，54）

労苦し、重荷を負う者たちへの呼びかけ：

「悲しみ、孤独、病に苦しむ人々よ、わたしのもとに来なさい。罪の鎖を引きずっている者たち、屈辱を受けた者たち、正義を渇望し、それを切に求めている者たちよ、わたしのもとに来なさい。わたしの御前にいるとき、あなたがたの多くの苦しみは消え去り、重荷が軽くなるのを感じるだろう。 もしあなたがたが霊的な恵みを望むなら、私はそれを与えよう。もしあなたがたが、それを善用するために地上の恵みを私に求めるなら、あなたの願いは高潔で正しいものであるから、私も同様にそれを与える。 そうすれば、あなたがたは良き管理者となり、私はその恵みを増やして与え、あなたがたがそれを隣人と分かち合えるようにする。」（144，80-81）

霊的イスラエルへの呼びかけ：

「イスラエルよ、人類の導き手となりなさい。彼らにこの永遠の命のパンを与え、この霊的な働きを示しなさい。そうすれば、様々な宗教が私の教えの中で霊化され、そのようにして神の王国がすべての人々に訪れるようになる。」（249，66）

「愛するイスラエルよ、私の声を聞きなさい！ 霊的な目を開き、あなたがたの父の栄光を見なさい。良心を通して私の声を聞き、霊的な耳で天の旋律を聞きなさい。そうすれば、あなたがたの心と霊は喜び、平安を感じるでしょう。なぜなら、私は平和そのものであり、あなたがたをその中に生きるよう招いているからです。 私は、私がいつの時代も人類に対して抱いてきた愛を、あなた方に明らかにする。それが、イエスが『第二の時代』において、あなた方を罪から贖い、愛を教え、あなた方の霊と心に真の教えを刻み込むために、その最も尊い血を流した理由である。」（283，71）

「道を見失ったときは、私に向けなさい。今日、私のもとに来なさい。私に向かって思いを巡らせ、子供がお父さんに話すように、友人に打ち明けるように

、私と話してください。」（280, 31）

「わたしの教えのもとで自らを変え、新しい人間として生き、わたしの徳を実践しなさい。そうすれば、あなたの魂はますます明るくなり、キリストがあなたの道に現れるでしょう。」（228, 60）

「民よ、人々のところへ行き、キリストがあなた方に語ったのと同じように――同じ思いやり、同じ確信と希望をもって――彼らに語りかけなさい。物質的な富が与えるものよりも、より大きな満足をもたらす、高みへと向かう発展の道があることを彼らに悟らせなさい。 目に見え、感じられるものを超えて、信じ、希望を抱かせる信仰があることを彼らに悟らせてください。彼らの魂は永遠に生き続けるのだから、その永遠の至福に与ることができるよう、準備をしなければならないと彼らに伝えてください。」（359, 94-95）

参考文献

ライヒル出版社、D-56329 ザンクト・ゴア、電話：+49 (0)6741 1720
『真の生命の書』第I巻、第II巻、第III巻、第IV巻、第V巻、第VI巻
『第三の聖書』（スペイン語、英語、フランス語版も刊行）
『メキシコの神の啓示』（概要）
人生に関する神の啓示
第三の時代への予言

『生への書』販売部、マンフレッド・ベーゼ、Kirchweg 5、D-88521 エルティンゲン
電話：+49 (0)7371 929 66 42、Eメール：manfredbaese@gmx.de

神の愛、すなわち私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的
El Amor Divino - Origen, esencia y fin de nuestra vida y de todo ser
『真の生命の書』第VII、VIII、IX、X、XI巻

第三の聖書

ユニコン財団、D-88709 メースブルク
電話: +49 (0)7532 808162, Eメール: info@unicon-stiftung.de
『真の生命の書』入門（無料）

アソシアシオン・デ・エストゥディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ベルデラ A.C.
Orinoco N° 54 Interior 5, Col. Zacahuitzco, 03550 メキシコシティ
『真の生命の書』、第I巻～第XII巻
『第三の聖書』
およびメキシコのこれらの神の啓示に関するその他の書籍

ウェブサイト
www.reichl-verlag.de

www.das-dritte-testament.com（スペイン語、ドイツ語、英語、フランス語）
www.unicon-stiftung.de
www.drittes-testament.de
www.drittetestament.wordpress.com（多言語対応）
www.tercera-era.net（スペイン語）
www.144000.net（多言語）
www.dritte-zeit.net